上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ

牛頸本堂遺跡群Ⅶ

～第７次調査～

大野城市文化財調査報告書　第 81 集

２００８

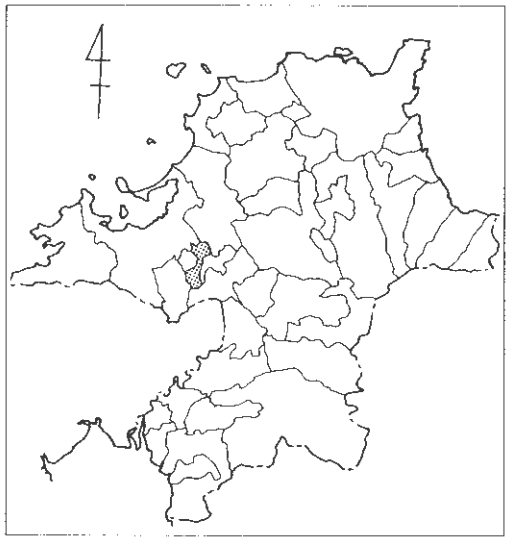
大野城市教育委員会

上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ

牛頸本堂遺跡群Ⅶ

～第７次調査～

大野城市文化財調査報告書　第 81 集



２００８

大野城市教育委員会

（1）谷部C区出土ヘラ書き須恵器

（2）ヘラ書き部分拡大「大神部見乃官」

（1）谷部出土遺物（古墳時代）

（2）谷部出土遺物（奈良時代、墨書土器）

（1）谷部出土遺物（平安時代、墨書土器内面）

（2）同上（外面）

谷部A・B区出土木簡

序

牛頸本堂遺跡第７次調査は、大野城市大字上大利に位置し南ヶ丘から下大利に向かうバス通りに面しています。現在、調査地周辺は店舗や住宅・医院などが建ち並ぶ街の中ですが、元々ここは牛頸山から北へのびる丘陵部にあたります。調査地は、丘陵谷部と緩やかな斜面にあたり、谷部からはたくさんの遺物が見つかりました。遺物には、「大神部見乃官」と書かれた７世紀前半代の大甕があり、牛頸窯跡群の工人氏族名を知る上で極めて貴重な資料です。また、蓋の両面に花や葉の模様を墨で描いた土器や内面に「大日如来」と墨書された土器は仏教施設の存在を如実に表しており、明治初期に編纂された『福岡県地理全誌』にみえる「本堂寺」の存在を明らかにすることができました。今後さらに調査を進め、今まで知られていなかった地域の実態を明らかにしていき、その成果を研究者だけではなく広く市民に知らせる事で地域の歴史の素晴らしさを再確認し、地域愛護につないでいきたいと思います。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。大野城市では、この残された埋蔵文化財に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心から願うとともに、今後とも文化財行政に対し、尚一層ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成20年９月30日

大野城市教育委員会

教育長　古賀　宮太

例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の本堂遺跡第７次発掘調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸本堂遺跡群』とした。

2．発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。

3．遺構写真は、石木秀啓・早瀬賢・北川貴洋・久住（旧姓井上）愛子（現小郡市教育委員会）・一瀬智（現福岡県教育委員会）が撮影した。

4．遺物写真は、㈲文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。

5．遺構実測図は、石木・早瀬・北川・久住・一瀬が作成した。また、地形測量図は㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。また上大利地区旧地形図は、㈱写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。

6．遺構実測図中の方位は磁北を表し、地形測量図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。

7．遺構の製図は、遠藤茜・大里弥生・渡部美香が作成した。

8．遺物実測・拓本・製図・観察表作成は、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部は遠藤・大里・中島圭がおこなった。

9．灰原から出土した炭化材や木製品の樹種同定および出土種子の同定については、㈱パリノ・サーヴェイに委託した。自然科学分析の結果については、『牛頸梅頭・本堂遺跡群－自然科学分析編－』大野城市文化財調査報告書第87集に掲載予定である。

10．本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1／25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。

11．遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。

12．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

13．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。

14．本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は石木がおこなった。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　１．平成17年度の調査経過 …… １～７
　２．調査体制…… ７～８

Ⅱ．調査の結果
　１．調査概要…… ９・10
　２．遺構と遺物……10 ～ 176

Ⅲ．まとめ
　１．遺構の時期…… 247 ～ 248
　２．ヘラ書き須恵器について…… 248 ～ 254
　３．牛頸塚原遺跡群出土のヘラ書き須恵器…… 254 ～ 255
　４．墨画土器について…… 256 ～ 258
　５．祭祀遺物とその内容…… 258 ～ 263
　６．福岡県内における製鉄・鍛冶の様相…… 263 ～ 274
　７．牛頸窯跡群と鉄生産…… 274 ～ 288

図　版　目　次

図版１　（１）７次調査地調査前（上空より）（平成11年撮影）
　　（２）調査後の現況（南東から）
図版２　（１）調査地全景（北西から）
　　（２）調査地全景（上空から）
図版３　（１）ＳＢ01全景（北西から）
　　（２）ＳＢ01（ＳＰ20）遺物出土状況（南東から）
　　（３）ＳＢ01（ＳＰ08）土層（南西から）
　　（４）ＳＢ01（ＳＰ20）土層（南から）
　　（５）ＳＢ01（ＳＰ32）土層（南から）
図版４　（１）ＳＢ02全景（南から）
　　（２）ＳＢ02（ＳＰ25）土層（南西から）
　　（３）ＳＢ02（ＳＰ26）土層（南西から）
　　（４）ＳＢ02（ＳＰ38）土層（南東から）
図版５　（１）ＳＣ01全景（南東から）
　　（２）ＳＤ01・02全景（北西から）
図版６　（１）ＳＤ03・04全景（北東から）
　　（２）ＳＤ06・09全景（北西から）
図版７　（１）ＳＸ01土層（北から）

（２）ＳＸ06土層（東から）
（３）ＳＸ09土層（西から）
図版８　（１）ＳＸ10土層（北西から）
（２）ＳＸ11全景（北東から）
（３）ＳＸ11土層（北から）
図版９　（１）ＳＸ12全景（北東から）
（２）ＳＸ12北東小口部側板組合せ状況（北東から）
（３）ＳＸ12北西小口部側板組合せ状況（北西から）
（４）ＳＸ15遺物出土状況（北東から）
（５）ＳＸ15土層（南東から）
図版10（１）ＳＸ17全景（北東から）
（２）ＳＸ18全景（北東から）
（３）柱穴列全景（東から）
図版11（１）灰原１検出状況（南西から）
（２）灰原１横断面土層（南から）
（３）灰原２検出状況（南から）
図版12（１）谷部Ａ・Ｂ区間土層（東から）
（２）谷部Ｂ・Ｃ区間土層（東から）
図版13（１）谷部Ｃ・Ｄ区間土層（東から）
（２）谷部Ｄ・Ｅ区間土層（東から）
図版14（１）谷部Ｅ・Ｆ区間土層（西から）
（２）谷部２層完掘状況（西から）
図版15（１）谷部２層完掘状況（東から）
（２）谷部Ａ・Ｂ区２層完掘状況（北東から）
図版16（１）谷部Ｄ区ＳＫ01完掘状況（北から）
（２）同上
図版17（１）谷部Ｄ区完掘状況（北西から）
（２）谷部Ｅ・Ｆ区完掘状況（西から）
図版18（１）灰原１多孔瓶出土状況（東から）
（２）灰原１土師器等一括出土状況（南東から）
（３）谷部Ａ区えぶり出土状況（東から）
図版19（１）谷部Ｂ区伐採木出土状況（北東から）
（２）谷部Ｃ区墨画土器出土状況（北東から）
（３）谷部Ｄ・Ｅ区ベルト銅製鈴出土状況（東から）
図版20（１）谷部出土大甕（729）口縁部補修状況
（２）谷部出土大甕（1005）粘土帯積上げ状況
図版21　ＳＣ・ＳＤ・ＳＸ出土遺物
図版22　ＳＸ12出土遺物①
図版23　ＳＸ12出土遺物②、灰原１上層出土遺物①
図版24　灰原１上層出土遺物②

図版25　灰原１中層出土遺物①
図版26　灰原１下層出土遺物、灰原１出土一括遺物
図版27　灰原２出土遺物、谷部Ａ区出土遺物①（１層・２層）
図版28　谷部Ａ区出土遺物②（２層・３層）
図版29　谷部Ａ区出土遺物③（４層）
図版30　谷部Ａ区出土遺物④（４層・５層）
図版31　谷部Ａ区出土遺物⑤（５層）
図版32　谷部Ａ区出土遺物⑥（５層）
図版33　谷部Ａ区出土遺物⑦（５層）
図版34　谷部Ａ区出土遺物⑧（５層）
図版35　谷部Ａ区出土遺物⑨（５層）
図版36　谷部Ｂ区出土遺物①（１層・２層）
図版37　谷部Ｂ区出土遺物②（２層・３層）
図版38　谷部Ｂ区出土遺物③（３層）
図版39　谷部Ｂ区出土遺物④（４層・５層）
図版40　谷部Ｂ区出土遺物⑤（５層）
図版41　谷部Ｂ区出土遺物⑥（５層）
図版42　谷部Ｂ区出土遺物⑦（５層）
図版43　谷部Ｂ区出土遺物⑧（５層）
図版44　谷部Ｂ区出土遺物⑨（５層）
図版45　谷部Ｂ区出土遺物⑩（５層）
図版46　谷部Ｂ区出土遺物⑪（５層）
図版47　谷部Ｂ区出土遺物⑫（５層）
図版48　谷部Ｂ区出土遺物⑬（５層）
図版49　谷部Ｂ区出土遺物⑭（５層）
図版50　谷部Ｂ区出土遺物⑮（６層、７･８層）
図版51　谷部Ｂ区出土遺物⑯（７･８層、９層、10層）
図版52　谷部Ｂ区出土遺物⑰（10層）、谷部Ｃ区出土遺物①（２層）
図版53　谷部Ｃ区出土遺物②（２層）
図版54　谷部Ｃ区出土遺物③（２層・４層）
図版55　谷部Ｃ区出土遺物④（４層）
図版56　谷部Ｃ区出土遺物⑤（４層）
図版57　谷部Ｃ区出土遺物⑥（４層）
図版58　谷部Ｃ区出土遺物⑦（４層）
図版59　谷部Ｃ区出土遺物⑧（４層）
図版60　谷部Ｃ区出土遺物⑨（４層）
図版61　谷部Ｃ区出土遺物⑩（４層）
図版62　谷部Ｃ区出土遺物⑪（４層）
図版63　谷部Ｃ区出土遺物⑫（４層・５層）
図版64　谷部Ｃ区出土遺物⑬（５層）

図版65　谷部Ｃ区出土遺物⑭（５層・６層）
図版66　谷部Ｃ区出土遺物⑮（６層、７･８層、10層、層位不明）、谷部Ｄ区出土遺物①（１層）
図版67　谷部Ｄ区出土遺物②（１層）
図版68　谷部Ｄ区出土遺物③（１層）
図版69　谷部Ｄ区出土遺物④（１層・２層）
図版70　谷部Ｄ区出土遺物⑤（２層）
図版71　谷部Ｄ区出土遺物⑥（２層）
図版72　谷部Ｄ区出土遺物⑦（２層）
図版73　谷部Ｄ区出土遺物⑧（２層）
図版74　谷部Ｄ区出土遺物⑨（２層）
図版75　谷部Ｄ区出土遺物⑩（２層）
図版76　谷部Ｄ区出土遺物⑪（２層）
図版77　谷部Ｄ区出土遺物⑫（２層）
図版78　谷部Ｄ区出土遺物⑬（２層）
図版79　谷部Ｄ区出土遺物⑭（２層・４層）
図版80　谷部Ｄ区出土遺物⑮（４層・６層・７層）
図版81　谷部Ｄ区出土遺物⑯（７層・８層）
図版82　谷部Ｄ区ＳＫ01出土遺物①
図版83　谷部Ｄ区ＳＫ01出土遺物②
図版84　谷部Ｄ区ＳＫ01出土遺物③
図版85　谷部Ｄ区ＳＫ01出土遺物④
図版86　谷部Ｄ区ＳＫ01出土遺物⑤、谷部Ｅ区出土遺物①（１層）
図版87　谷部Ｅ区出土遺物②（１層）
図版88　谷部Ｅ区出土遺物③（２層・３層）
図版89　谷部Ｅ区出土遺物④（３層・４層）
図版90　谷部Ｅ区出土遺物⑤（４層）
図版91　谷部Ｅ区出土遺物⑥（４層・５層）
図版92　谷部Ｅ区出土遺物⑦（５層、層位不明）、谷部Ｆ区出土遺物①（１～３層）
図版93　谷部Ｆ区出土遺物②（３層・５層）
図版94　谷部Ｆ区出土遺物③（５層、層位不明）、谷部層位不明出土遺物
図版95　ヘラ記号①
図版96　ヘラ記号②
図版97　ヘラ記号③
図版98　ヘラ記号④
図版99　ヘラ記号⑤
図版100　ヘラ記号⑥
図版101　ヘラ記号⑦
図版102　ヘラ記号⑧

挿　図　目　次

第１図　平成17年度上大利北土地区画整理地内調査区および本堂遺跡7次調査地位置図（１／5,000）…… 2
第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（１／5,000）…… 3
第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図…… 4
第４図　周辺遺跡分布図（１／50,000）…… ５～６
第５図　７次ＳＢ01実測図（１／60）…… 11
第６図　７次ＳＢ・ＳＣ出土遺物実測図（10・11は１／２、他は１／３）…… 12
第７図　７次ＳＢ02実測図（１／60）…… 13
第８図　７次ＳＣ01実測図（１／40）…… 14
第９図　７次ＳＤ02・06・07土層実測図（１／40）…… 14
第10図　７次ＳＤ01出土遺物実測図（１／３）…… 15
第11図　７次ＳＤ02出土遺物実測図（１／３）…… 15
第12図　7次ＳＤ03・04出土遺物実測図（１／３）…… 16
第13図　７次ＳＤ05出土遺物実測図（１／３）…… 16
第14図　７次ＳＤ07出土遺物実測図（41・43は１／２、他は１／３）…… 17
第15図　７次ＳＤ08出土遺物実測図（１／３）…… 18
第16図　７次SX01・06・11・15実測図（ＳＸ15は１／20、他は１／40）…… 20
第17図　７次SX・畝状遺溝出土遺物実測図（63･64は１／２、他は１／３）…… 21
第18図　７次SX12・13実測図（１／30）…… 23
第19図　７次SX12出土遺物実測図①（１／６）…… 24
第20図　７次SX12出土遺物実測図②・ＳＸ13出土遺物実測図（67・68・72は１／６、69は１／４、他は１／３）…… 25
第21図　７次SX17・18実測図（１／40）…… 26
第22図　７次柱穴列実測図（１／60）…… 27
第23図　７次灰原１上層出土遺物実測図①（85は１／６、他は１／３）…… 29
第24図　７次灰原１上層出土遺物実測図②（１／３）…… 30
第25図　７次灰原１上層出土遺物実測図③（１／３）…… 31
第26図　７次灰原１上層出土遺物実測図④（１／３）…… 32
第27図　７次灰原１上層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 33
第28図　７次灰原１上層出土遺物実測図⑥（１／３）…… 34
第29図　７次灰原１中層出土遺物実測図①（１／３）…… 35
第30図　７次灰原１中層出土遺物実測図②（１／３）…… 36
第31図　７次灰原１中層出土遺物実測図③（176は１／２、他は１／３）…… 37
第32図　７次灰原１下層出土遺物実測図（１／３）…… 38
第33図　７次灰原１出土一括遺物実測図（１／３）…… 39
第34図　７次灰原１検出時出土遺物実測図（１／３）…… 40
第35図　７次灰原２出土遺物実測図（１／３）…… 41
第36図　７次灰原３出土遺物実測図（１／３）…… 42

第37図　７次谷部２層完掘時地形測量図（１／300）…… 43
第38図　７次谷部２層完掘時実測図（１／300）…… 43
第39図　７次谷部Ａ･Ｂ区間土層実測図（１／70）…… 44
第40図　７次谷部Ａ区１・２層出土遺物実測図①（１／３）…… 46
第41図　７次谷部Ａ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 47
第42図　７次谷部Ａ区２層出土遺物実測図③（１／３）…… 48
第43図　７次谷部Ａ区２層出土遺物実測図④（１／３）…… 49
第44図　７次谷部Ａ区３・４層出土遺物実測図①（１／３）…… 50
第45図　７次谷部Ａ区４層出土遺物実測図②（１／３）…… 51
第46図　７次谷部Ａ区４層出土遺物実測図③（１／３）…… 52
第47図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図①（１／３）…… 53
第48図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図②（１／３）…… 54
第49図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図③（１／３）…… 55
第50図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図④（１／３）…… 56
第51図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 57
第52図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図⑥（483・484は１／４、他は１／３）…… 58
第53図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図⑦（１／６）…… 59
第54図　７次谷部Ａ区５層出土遺物実測図⑧（503は１／６、他は１／３）…… 60
第55図　７次谷部Ｂ区１層出土遺物実測図（１／３）…… 62
第56図　７次谷部Ｂ区２層出土遺物実測図①（１／３）…… 63
第57図　７次谷部Ｂ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 64
第58図　７次谷部Ａ･Ｂ区２層出土木簡実測図（１／２）…… 65
第59図　７次谷部Ｂ区３層出土遺物実測図（１／３）…… 66
第60図　７次谷部Ｂ区４層出土遺物実測図①（１／３）…… 67
第61図　７次谷部Ｂ区４層出土遺物実測図②（604は１／４、他は１／３）…… 68
第62図　７次谷部Ｂ区２・４層出土遺物実測図（１／３）…… 69
第63図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図①（１／３）…… 70
第64図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図②（１／３）…… 71
第65図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図③（１／３）…… 72
第66図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図④（１／３）…… 73
第67図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 74
第68図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑥（１／３）…… 75
第69図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑦（１／３）…… 76
第70図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑧（１／３）…… 77
第71図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑨（１／３）…… 78
第72図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑩（１／６）…… 79
第73図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑪（１／６）…… 80
第74図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑫（１／６）…… 81
第75図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑬（１／６）…… 82
第76図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑭（750は１／６、他は１／３）…… 83

第77図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑮（１／３）…… 84
第78図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑯（１／３）…… 85
第79図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑰（１／３）…… 87 ～ 88
第80図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑱（１／３）…… 89
第81図　７次谷部Ｂ区５層出土遺物実測図⑲（１／３）…… 90
第82図　７次谷部Ｂ区６層出土遺物実測図（796 ～ 798は１／６、他は１／３）…… 91
第83図　７次谷部Ｂ区７・８層出土遺物実測図（１／３）…… 92
第84図　７次谷部Ｂ区９層出土遺物実測図（815は１／６、他は１／３）…… 93
第85図　７次谷部Ｂ区10層出土遺物実測図①（821は１／６、他は１／３）…… 94
第86図　７次谷部Ｂ区10層出土遺物実測図②（822は１／６、他は１／３）…… 95
第87図　７次谷部Ｂ・Ｃ区間土層実測図（１／70）…… 96
第88図　７次谷部Ｃ区１・２層出土遺物実測図①（825は１／２、他は１／３）…… 97
第89図　７次谷部Ｃ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 98
第90図　７次谷部Ｃ区２層出土遺物実測図③（864は１／２、他は１／３）…… 99
第91図　７次谷部Ｃ区４層出土遺物実測図①（876は１／６、他は１／３）…… 100
第92図　７次谷部Ｃ区４層出土遺物実測図②（１／３）…… 101
第93図　７次谷部Ｃ区４層出土遺物実測図③（１／３）…… 102
第94図　７次谷部Ｃ区４層出土遺物実測図④（１／３）…… 103
第95図　７次谷部Ｃ区４層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 104
第96図　７次谷部Ｃ区４層出土一括遺物実測図①（１／３）…… 105
第97図　７次谷部Ｃ区４層出土一括遺物実測図②（１／３）…… 106
第98図　７次谷部Ｃ区４層出土墨画土器実測図（１／２）…… 107
第99図　７次谷部Ｃ区５層出土遺物実測図①（１／３）…… 108
第100図　７次谷部Ｃ区５層出土遺物実測図②（1003・1004は１／６、他は１／３）…… 109
第101図　７次谷部Ｃ区５層出土遺物実測図③（1005は１／６、他は１／３）…… 110
第102図　７次谷部Ｃ区５層出土遺物実測図④（1025は１／２、他は１／３）…… 111
第103図　７次谷部Ｃ区５層出土ヘラ書き須恵器実測図（１／３）…… 112
第104図　７次谷部Ｃ区６層出土遺物実測図（1036は１／６、他は１／３）…… 113
第105図　７次谷部Ｃ区７～ 10層出土遺物実測図（1053は１／６、他は１／３）…… 114
第106図　７次谷部Ｃ区出土遺物実測図（層位不明）（１／３）…… 115
第107図　７次谷部Ｃ･Ｄ区間ベルト土層実測図（１／70）…… 116
第108図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01実測図（１／ 150）…… 117
第109図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図①（１／３）…… 118
第110図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図②（１／３）…… 119
第111図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図③（１／３）…… 120
第112図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図④（１／３）…… 121
第113図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図⑤（1150は１／８、他は１／３）…… 122
第114図　７次谷部Ｄ区１層出土遺物実測図⑥（１／３）…… 123
第115図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図①（１／３）…… 124
第116図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 125

第117図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図③（１／３）…… 126
第118図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図④（１／３）…… 127
第119図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 128
第120図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑥（１／３）…… 129
第121図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑦（１／３）…… 130
第122図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑧（１／３）…… 131
第123図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑨（１／３）…… 132
第124図　７次谷部Ｄ区２層出土遺物実測図⑩（１／３）…… 133
第125図　７次谷部Ｄ区２・４層間層、４層出土遺物実測図①（１／３）…… 134
第126図　７次谷部Ｄ区４層出土遺物実測図②（１／３）…… 135
第127図　７次谷部Ｄ区５層出土遺物実測図（１／３）…… 136
第128図　７次谷部Ｄ区６層出土遺物実測図（１／３）…… 137
第129図　７次谷部Ｄ区７･８層出土遺物実測図（1436は１／２、他は１／３）…… 138
第130図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01 １層出土遺物実測図（１／３）…… 139
第131図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図①（1459は１／６、他は１／３）…… 140
第132図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図②（１／３）…… 141
第133図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図③（１／３）…… 142
第134図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図④（１／３）…… 143
第135図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図⑤（１／３）…… 144
第136図　７次谷部Ｄ区ＳＫ01下層出土遺物実測図⑥（1530は１／２、他は１／３）…… 145
第137図　７次谷部Ｄ・Ｅ区間、Ｅ・Ｆ区間ベルト土層実測図（１／70）…… 147 ～ 148
第138図　７次谷部Ｅ区１層出土遺物実測図①（１／３）…… 149
第139図　７次谷部Ｅ区１層出土遺物実測図②（１／３）…… 150
第140図　７次谷部Ｅ区１層出土遺物実測図③（1589は１／２、他は１／３）…… 151
第141図　７次谷部Ｅ区１層出土遺物実測図④（１／３）…… 152
第142図　７次谷部Ｅ区２層出土遺物実測図①（１／３）…… 153
第143図　７次谷部Ｅ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 154
第144図　７次谷部Ｅ区３層出土遺物実測図①（１／３）…… 155
第145図　７次谷部Ｅ区３層出土遺物実測図②（１／３）…… 156
第146図　７次谷部Ｅ区３層出土遺物実測図③（１／３）…… 157
第147図　７次谷部Ｅ区４層出土遺物実測図①（１／３）…… 158
第148図　７次谷部Ｅ区４層出土遺物実測図②（１／３）…… 159
第149図　７次谷部Ｅ区４層出土遺物実測図③（1676は１／２、他は１／３）…… 160
第150図　７次谷部Ｅ区５層出土遺物実測図①（１／３）…… 161
第151図　７次谷部Ｅ区５層出土遺物実測図②・層位不明遺物実測図
（1695・1696は１／６、他は１／３）…… 162
第152図　７次谷部Ｆ区１層出土遺物実測図①（１／３）…… 163
第153図　７次谷部Ｆ区１層出土遺物実測図②（1728は１／２、他は１／３）…… 164
第154図　７次谷部Ｆ区１層出土遺物実測図③（１／３）…… 165
第155図　７次谷部Ｆ区２層出土遺物実測図①（1745・1746は１／２、他は１／３）…… 166

第156図　７次谷部Ｆ区２層出土遺物実測図②（１／３）…… 166
第157図　７次谷部Ｆ区３層出土遺物実測図①（１／３）…… 168
第158図　７次谷部Ｆ区３層出土遺物実測図②（１／３）…… 169
第159図　７次谷部Ｆ区３層出土遺物実測図③（１／３）…… 170
第160図　７次谷部Ｆ区３層出土遺物実測図④（１／３）…… 170
第161図　７次谷部Ｆ区４層出土遺物実測図（１／３）…… 171
第162図　７次谷部Ｆ区５層出土遺物実測図①（１／３）…… 172
第163図　７次谷部Ｆ区５層出土遺物実測図②（１／３）…… 173
第164図　７次谷部Ｆ区５層出土遺物実測図③（１／３）…… 174
第165図　７次谷部Ｆ区５層出土遺物実測図④、層位不明出土遺物実測図①
（1840は１／２、他は１／３）… 175
第166図　７次谷部Ｆ区層位不明出土遺物実測図（1845は１／２、他は１／３）…… 176
第167図　上大利北土地区画整理地内試掘調査出土遺物実測図（１／３）…… 177
第168図　ヘラ書き須恵器筆順図（１／２）…… 249
第169図　牛頸ハセムシ12地区出土ヘラ書き須恵器（１／４）…… 250
第170図　窯構造の類似（牛頸梅頭１次１号窯跡と陶邑MT5－Ⅲ号窯跡）…… 252
第171図　牛頸塚原遺跡群出土ヘラ書き須恵器実測図（９は１／６、他は１／３）…… 255
第172図　７次調査谷部出土祭祀遺物と建物群（８世紀後半～末）…… 259
第173図　７次調査谷部出土祭祀遺物と建物群（11世紀後半～ 12世紀前半）…… 261
第174図　牛頸窯跡群内横口式炭窯（１／ 100）…… 275
第175図　牛頸窯跡群平窯タイプ炭窯（１／ 100）…… 276

表　目　次

表１～ 69　本堂遺跡７次調査出土遺物観察表①～㊾ …… 178 ～ 246
表70　製鉄・鍛冶関連遺跡並行関係表 ……264・265
表71 ～ 79　製鉄・鍛冶関連遺物出土地名表①～⑨ …… 280 ～ 288

巻頭図版目次

巻頭図版１（１）谷部Ｃ区出土ヘラ書き須恵器
（２）ヘラ書き部分拡大「大神部見乃官」
巻頭図版２（１）谷部出土遺物（古墳時代）
（２）谷部出土遺物（奈良時代、墨書土器）
巻頭図版３（１）谷部出土遺物（平安時代、墨書土器内面）
（２）同上（外面）
巻頭図版４　谷部Ａ・Ｂ区出土木簡

付　　図

付図1　本堂遺跡7次調査地遺構配置図（1 ／ 200）
付図2　梅頭・本堂遺跡群全体図（1 ／ 1000）

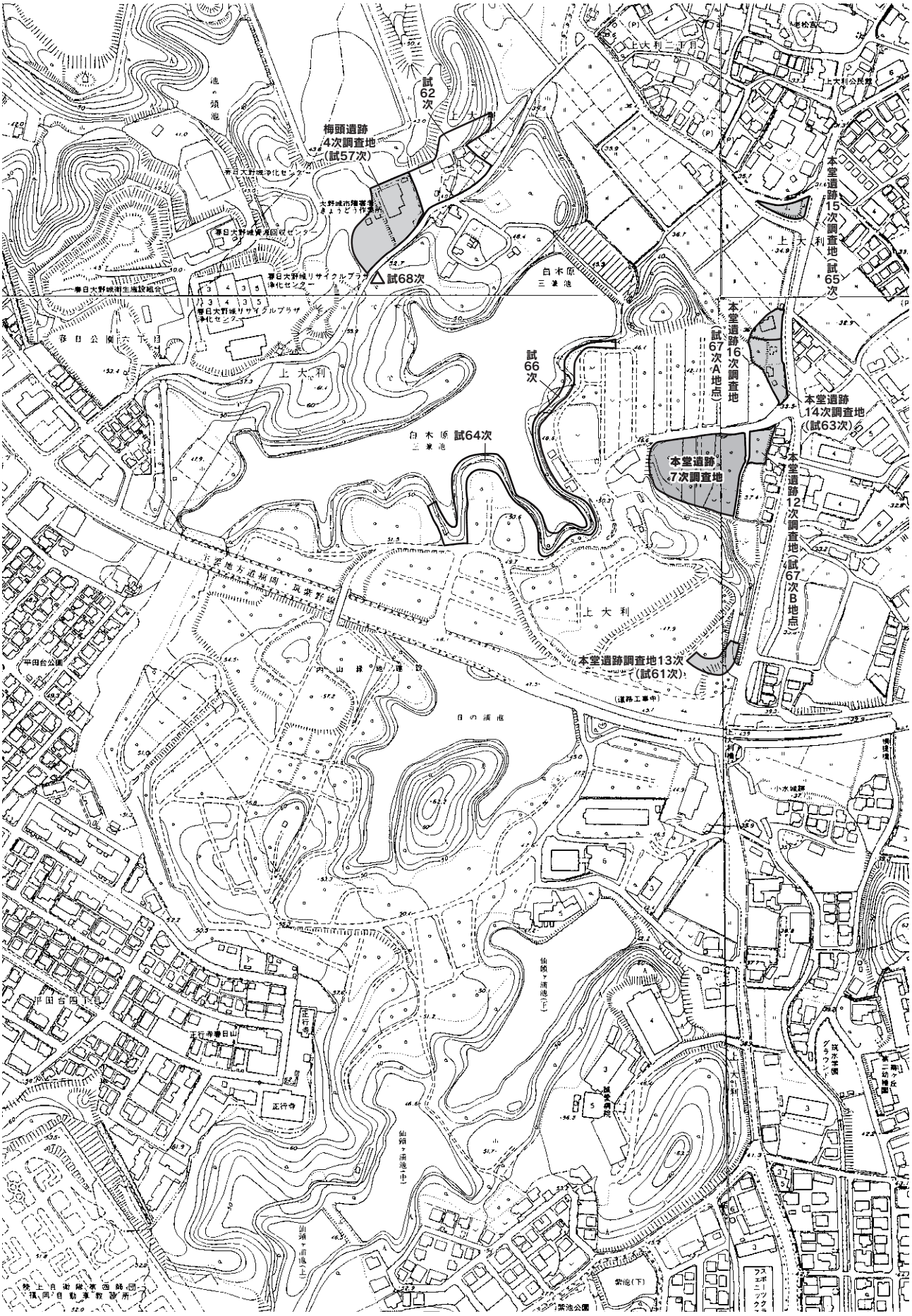
Ⅰ．はじめに

1．平成17年度の調査経過

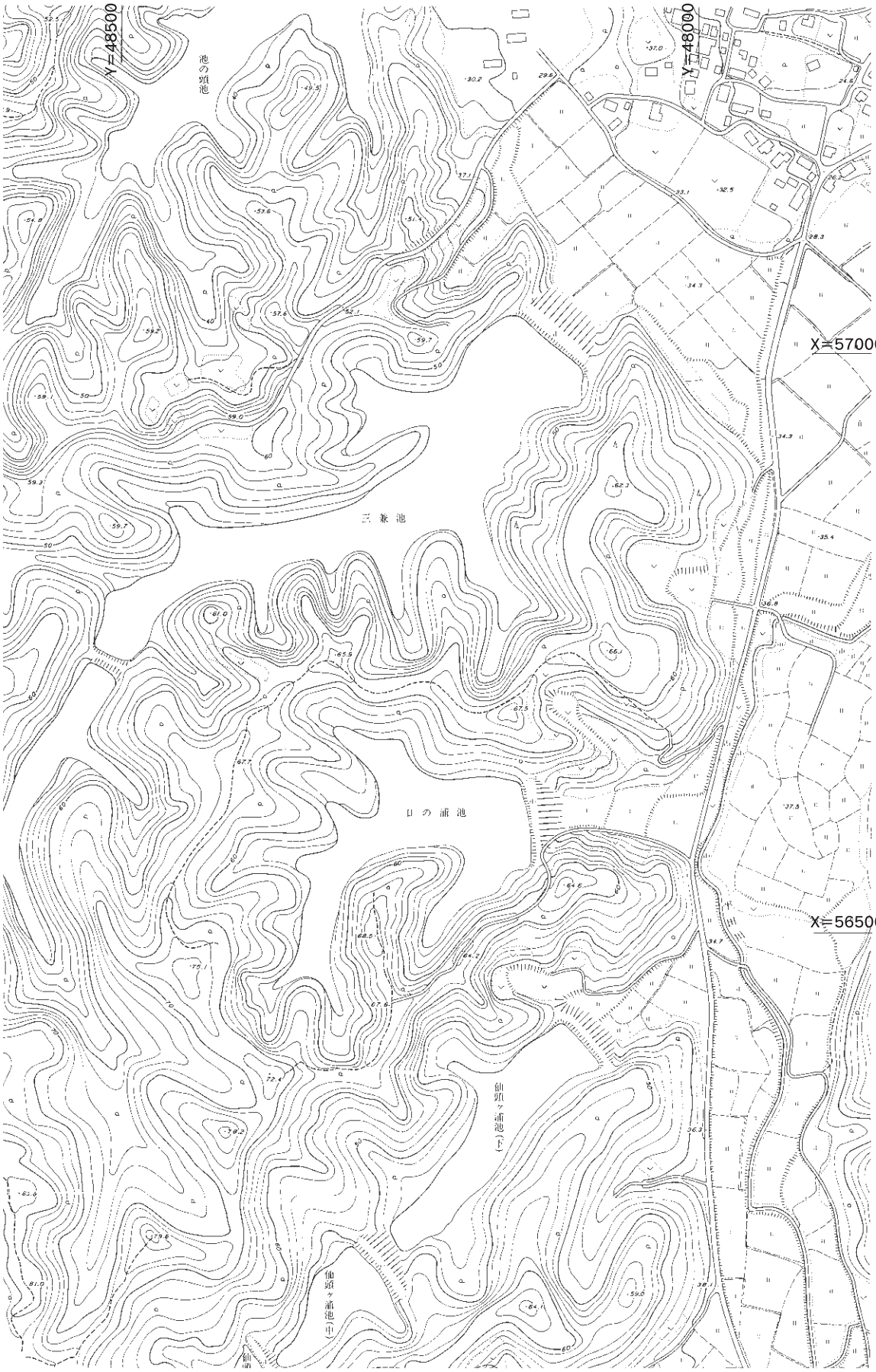
上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第60集）に詳述しているため、以下では平成17年度の埋蔵文化財調査についてまとめておきたい。

平成17年度、上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財調査としては、試掘調査を９ヶ所（57・61 ～ 68次）実施した。試掘調査の方法は、一部トレンチ調査により遺構の有無や削平状況を確認した場所もあるが、基本的には対象となった試掘調査地全体を重機により表土剥ぎを実施している。以下に、試掘調査の概要について記す。

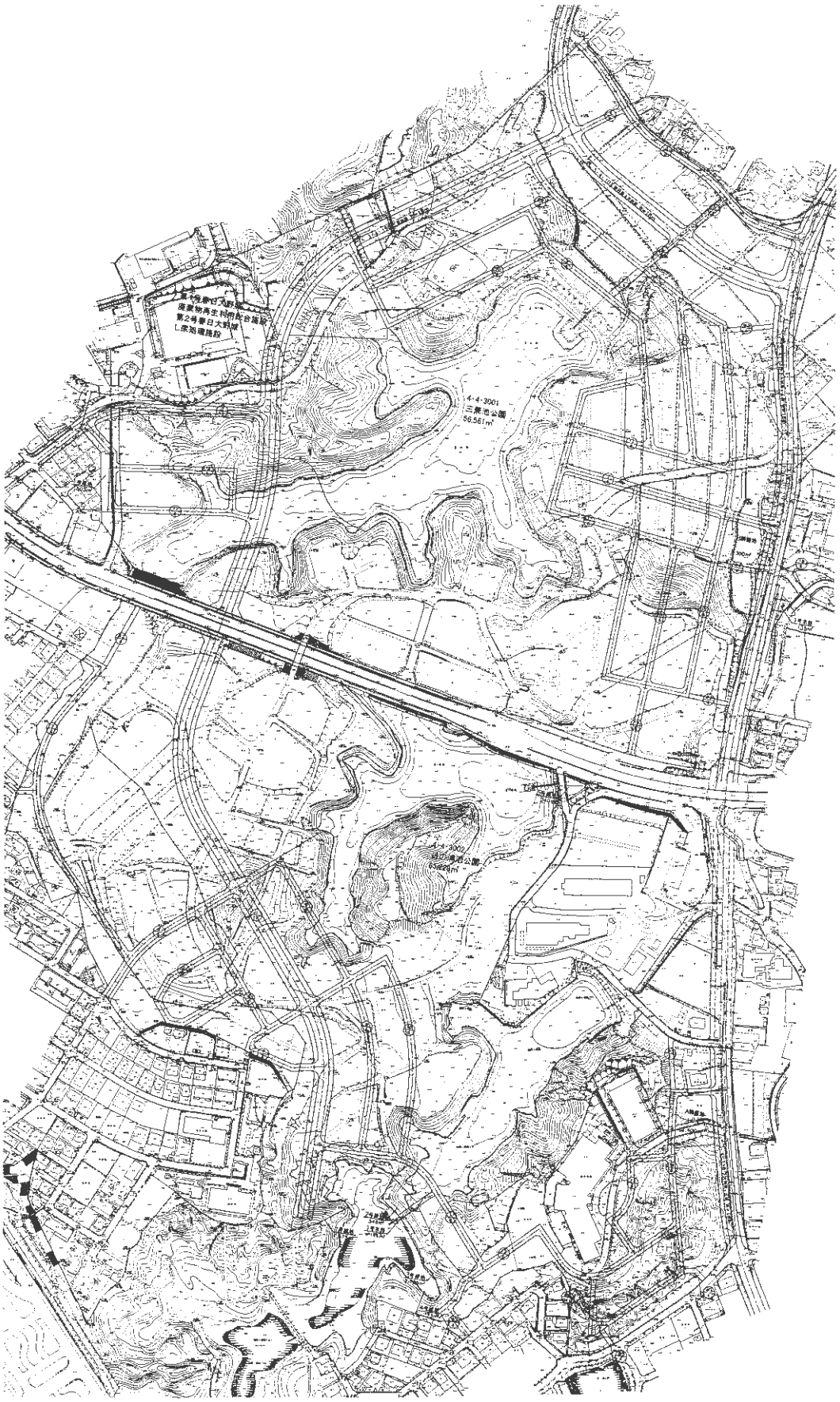
57次試掘調査は、春日大野城リサイクルプラザの東側にあたる。平成16年12月から実施した試掘調査地で、検出された谷部が広く深かったため掘り下げを一時中断していたが、平成17年４月29日から再開した。掘り下げた深さは10m近くにおよび、谷部埋土には産業廃棄物がおびただしく、かつ谷底部は滲水のため掘り下げは困難であった。調査の結果、窯跡１基を確認した。61次調査は、本堂遺跡５次調査地東側にあたる。平成17年２月22日から実施している試掘調査地で、年度替わりのため一時中断していたものである。本堂遺跡５次調査地から北側へ回り込む斜面が確認され、斜面には須恵器窯跡などが検出された。62次試掘調査地は57次試掘調査地の東隣にあたる宅地部分と、北側に接する丘陵斜面部である。宅地部分は丘陵を削平したもので、何らの遺構も確認できなかった。また、丘陵斜面部は頂部に長方形の土坑が確認されたが、出土遺物はなく、埋土も新しいものであった。性格は不明であるが、第二次大戦末期に周辺で本土決戦準備の陣地構築がおこなわれていたことを考えると、歩兵壕などであった可能性も考えられようか？ 63次試掘調査は、下大利・南ヶ丘線に面し、本堂遺跡８次調査地の東側にあたる。元々調査地は本堂遺跡８次調査地から東側へ下る丘陵斜面裾部にあたるが、すでに大きく削平され、一時は釣堀として利用されていた。しかし、この周辺では過去にⅢＡ期にあたる須恵器が採集され（註１）、平成11年７月に実施した分布調査においても遺物の散布が認められた。このことから、窯跡が存在する可能性が高いと考え調査を実施し、窯体を確認することはできなかったが、斜面下方において灰原を確認した。灰原は相当の撹乱を受けるが、広く確認でき、採取できた遺物から牛頸窯跡群では最古段階にあたることが判明した。64次試掘調査は、三兼池南東部の丘陵斜面にあたる。本堂遺跡11次調査地の西側に隣接し、斜面上に遺構が確認されると考えたが、遺構・遺物は確認できなかった。65次試掘調査は、本堂遺跡２次調査地の北側にあたる。三角形状の小さな区画にあたり、表土剥ぎの結果、土坑などが確認された。66次試掘調査は、三兼池東側の丘陵斜面部にあたり、本堂遺跡11次調査地の北側に位置する。斜面下方は池面であり、これまでおこなってきたような丘陵斜面をすべて表土剥ぎする方法がとれなかったため、斜面にトレンチをできる限り設定し、遺構・遺物の確認をおこなったが、まったく確認できなかった。67次試掘調査は下大利・南ヶ丘線に面する。調



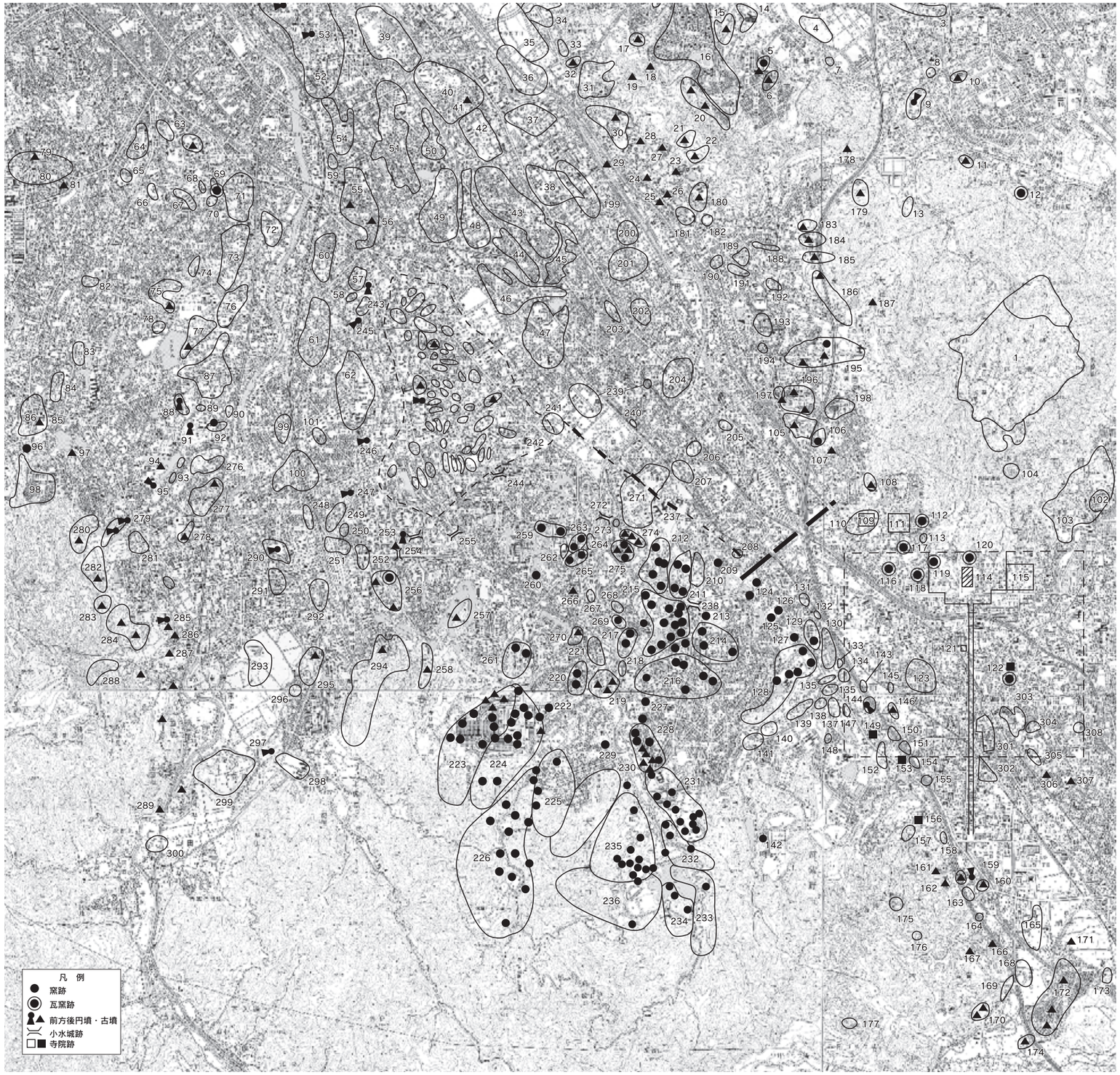
第１図　平成17年度上大利北土地区画整理地内調査区および本堂遺跡７次調査地位置図（１／5,000）



第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（1／5,000）



第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図



第４図　周辺遺跡分布図（1／50,000）

1．大野城跡
2．水城跡

宇美町

3．神領・浦尻古墳群
4．川原田・供田遺跡群
5．岩長浦古墳群
6．観音浦古墳群
7．ウソフキ古墳
8．宇美中学校遺跡
9．正麓古墳群
10．湯沸古墳群
11．花ノ木古墳群
12．寺浦窯跡
13．内野谷古墳群

志免町

14．松ヶ上・松ヶ下遺跡
15．松ノ尾古墳群
16．桜ヶ丘古墳群

福岡市

17．熊野古墳群
18．七曲古墳群
19．金剛山古墳群
20．持田ヶ浦古墳群A群
21．持田ヶ浦古墳群B群
22．持田ヶ浦古墳群C群
23．持田ヶ浦古墳群D群
24．持田ヶ浦古墳群E群
25．持田ヶ浦古墳群F群
26．今里不動古墳
27．堤ヶ浦古墳群
28．影ヶ浦古墳群
29．丸山古墳
30．金隈遺跡群
31．立花寺遺跡群
32．文殊谷古墳群
33．上月隈B遺跡
34．上月隈遺跡群
35．下月隈C遺跡群
36．立花寺B遺跡群
37．井相田D遺跡群
38．井相田C遺跡
39．那珂君休遺跡群
40．板付遺跡
41．板付八幡古墳
42．高畑遺跡
43．麦野A遺跡
44．麦野B遺跡
45．麦野C遺跡
46．南八幡遺跡群
47．雑餉隈遺跡群
48．三筑遺跡
49．笹原遺跡群
50．諸岡B遺跡
51．諸岡A遺跡
52．比恵・那珂遺跡群
53．那珂八幡古墳
54．五十川遺跡群
55．井尻B遺跡
56．井尻B－1号古墳
57．寺島遺跡
58．笠抜遺跡
59．井尻A遺跡
60．横手遺跡群
61．日佐遺跡群
62．弥永原遺跡群
63．野間A・B遺跡
64．中村町遺跡
65．若久A遺跡
66．若久B遺跡
67．大橋B遺跡
68．大橋C遺跡
69．大橋D遺跡・三宅瓦窯跡
70．三宅A遺跡・三宅廃寺
71．大橋E遺跡
72．三宅C遺跡
73．三宅B遺跡
74．和田A遺跡群
75．和田B遺跡群
76．野多目A遺跡
77．野多目B遺跡・古墳群
78．野多目浦ノ池遺跡
79．穴観音古墳
80．寺塚A古墳群
81．寺塚B古墳群
82．屋形原遺跡
83．花畑C遺跡群
84．花畑B遺跡群
85．花畑A遺跡群
86．三十田古墳
87．野多目C遺跡群
88．卵内尺古墳・古墳群
89．老司A遺跡
90．老司B遺跡
91．老司古墳
92．老松神社古墳群
93．老司池A・B遺跡群
94．中尾古墳
95．浦ノ田古墳群
96．中島窯跡
97．箱池古墳
98．四十塚・大牟田古墳群
99．警弥郷A遺跡
100．警弥郷B遺跡
101．弥永遺跡群

太宰府市

102．浦城跡
103．原遺跡
104．岩屋城跡
105．成屋形古墳群
106．裏ノ田遺跡
107．裏ノ田古墳
108．陣の尾古墳群・遺跡群
109．筑前国分尼寺跡
110．国分松本遺跡
111．筑前国分寺跡
112．国分瓦窯跡
113．御笠団印出土地
114．大宰府政庁跡
115．観世音寺
116．松倉瓦窯跡
117．坂本瓦窯跡
118．来木古墳群・瓦窯跡
119．来木北瓦窯跡
120．都府楼北瓦窯跡
121．榎寺
122．般若寺・瓦窯跡
123．市ノ上遺跡
124．神ノ前窯跡群
125．篠振遺跡・窯跡
126．専田窯跡
127．長浦窯跡
128．宮ノ本遺跡群・窯跡群
129．日焼遺跡群・窯跡群
130．前田遺跡
131．原口遺跡
132．久郎利遺跡
133．上川久保遺跡
134．雛川遺跡
135．フケ遺跡
136．尾崎遺跡
137．脇道遺跡
138．殿城戸遺跡
139．京ノ尾遺跡
140．カヤノ遺跡
141．長ヶ坪遺跡
142．野口窯跡

筑紫野市

143．井ノ尻遺跡・古墳
144．剣塚遺跡・古墳群・瓦窯跡
145．杉塚大坪遺跡
146．埴安神社古墳
147．和久堂城跡
148．杉塚山の谷遺跡
149．杉塚廃寺
150．唐人塚遺跡・古墳群
151．前田遺跡
152．脇田遺跡
153．塔原廃寺
154．塔原遺跡
155．樋田山遺跡
156．武蔵寺跡
157．武蔵寺経塚群
158．道場山遺跡
159．原口古墳・古墳群
160．鷺田山遺跡・古墳群
161．八隈裏山古墳
162．八隈古墳群
163．畑添遺跡
164．山の口遺跡
165．立明寺地区遺跡
166．扇祇古墳群
167．江永浦古墳
168．貝元遺跡
169．トドキ遺跡
170．古賀古墳群
171．厳島神社古墳
172．上の山古墳群
173．大牟田西遺跡
174．萩原古墳群
175．天判山城
176．飯盛城跡
177．博多見城跡
301．二日市宿跡
302．堀池遺跡
303．峯畑遺跡
304．修理田遺跡
305．通り浦遺跡
306．五穀神古墳
307．カケ塚古墳
308．米噛城

大野城市

178．唐山古墳群
179．乙金北古墳群
180．御陵古墳群
181．塚口遺跡
182．御陵前の榛遺跡
183．善一田古墳群
184．王城山古墳群
185．古野古墳群
186．原口古墳群
187．此岡古墳群
188．松葉園遺跡
189．森園遺跡
190．ヒケシマ遺跡
191．中・寺尾遺跡
192．薬師の森遺跡
193．銀山遺跡
194．原門遺跡
195．雉子ヶ尾遺跡・窯跡
196．釜蓋原古墳群
197．金山遺跡
198．釜蓋原遺跡
199．仲島遺跡
200．川原遺跡
201．御笠の森遺跡
202．村下遺跡
203．雑餉隈遺跡
204．石勺遺跡
205．原ノ畑遺跡
206．後原遺跡
207．御供田遺跡
208．谷川遺跡
209．出口窯跡・遺跡
210．上園遺跡
211．本堂遺跡群
212．梅頭遺跡群
213．谷蟹窯跡
214．大浦窯跡群
215．野添遺跡群
216．平田窯跡群
217．華無尾遺跡群
218．屏風田遺跡
219．塚原遺跡群
220．畑ヶ坂遺跡群
221．日ノ浦遺跡群
222．月ノ浦１号窯跡
223．後田遺跡群
224．小田浦遺跡群
225．大谷窯跡群
226．石坂窯跡群
227．東浦窯跡
228．中通遺跡群・古墳群
229．城ノ山窯跡群
230．原窯跡・原浦窯跡群
231．ハセムシ窯跡群
232．道ノ下窯跡群
233．長者原窯跡群
234．笹原窯跡群
235．井手窯跡群
236．足洗川窯跡群
237．池田・池の上遺跡
238．上大利水城跡

春日市

239．駿河遺跡
240．原ノ口遺跡
241．立石遺跡
242．須玖・岡本遺跡群
243．御陵遺跡群・古墳
244．小倉水城跡
245．野藤１号墳
246．下白水大塚古墳
247．日拝塚古墳
248．柏田遺跡
249．辻田遺跡
250．上白水西遺跡
251．門田遺跡
252．天神の木遺跡
253．天神山古墳
254．天神山水城跡
255．大土居水城跡
256．ウトグチ遺跡群
257．白水池古墳群
258．西浦古墳群
259．惣利窯跡群
260．大牟田窯跡
261．浦ノ原窯跡群
262．惣利西遺跡
263．惣利遺跡
264．惣利北遺跡
265．惣利東遺跡
266．惣利古墳
267．円入遺跡
268．春日平田遺跡群
269．春日平田西遺跡
270．塚原古墳群
271．九州大学筑紫キャンパス遺跡群
272．春日水城跡
273．向谷北遺跡
274．向谷古墳群
275．春日平田北遺跡

那珂川町

276．野口遺跡群
277．観音堂遺跡群
278．井河古墳群
279．小丸古墳群
280．浦ノ原古墳群
281．井河遺跡群
282．丸ノ口古墳群
283．白石古墳群
284．荒平池古墳群
285．妙法寺古墳
286．油田古墳群
287．大万寺前古墳
288．国太子古墳群
289．松尾古墳群
290．今光宗石遺跡群・貝徳寺古墳
291．松ノ木遺跡群
292．中原・塔ノ元遺跡群
293．仲遺跡群
294．観音山古墳群・深原遺跡
295．エゲ古墳・カクチガ浦古墳群
296．炭焼古墳群
297．安徳大塚古墳
298．平蔵遺跡群
299．安徳台遺跡群
300．山田西遺跡群

査地は南北２ヶ所に分かれていたため、北をＡ地点、南をＢ地点として調査を実施した。その結果、いずれもピット等の遺構が確認された。68次試掘調査は、梅頭遺跡３次調査地の続きにあたる。調査時は道路があったため、調査区外にのびる遺構の調査をおこなえず、道路付け替え後に表土剥ぎを実施し、遺構・遺物の確認に努めた。その結果、遺物は多量に出土したものの、遺構は確認することができなかった。梅頭遺跡３次調査で確認されていた遺構は斜面上にある浅い土坑であったため、検出に失敗した可能性もある。以上のように、平成17年度実施した９ヵ所の試掘調査地のうち、57・61・63・65・67次調査において遺構が確認できた。

平成17年度の発掘調査は、平成16年度からの引き続きとして本堂遺跡12次調査を実施しており、調査の進行に応じて調査個所を増やしていった。57次試掘調査を梅頭遺跡４次調査、61次試掘調査を本堂遺跡13次調査、63次試掘調査を本堂遺跡14次調査、65次試掘調査を本堂遺跡15次調査、67次調査のうち、Ａ地点を本堂遺跡16次調査とした。調査期間・面積等については下の表のとおりである。

	遺跡名	試掘調査次数	試掘調査期間	発掘調査期間	調査面積(㎡)	担当
平成17年度発掘調査	本堂遺跡 12次調査	59次	平成17年１月27日 ～２月21日	平成17年３月２日 ～６月27日	500	井上
	本堂遺跡 13次調査	61次	平成17年２月22日 ～４月28日	平成17年５月９日 ～７月31日	1500	早瀬
	本堂遺跡 14次調査	63次	平成17年６月22日 ～７月29日	平成17年８月３日 ～11月30日	1300	早瀬
	本堂遺跡 15次調査	65次	平成17年９月28日 ～10月７日	平成17年12月７日 ～12月22日	400	早瀬
	本堂遺跡 16次調査	67次Ａ地点	平成18年２月10日 ～３月４日	平成18年３月８日 ～４月21日	548	北川
	梅頭遺跡 ４次調査	57次	平成16年12月21日 ～平成17年１月10日 平成17年４月29日 ～６月11日	平成17年６月22日 ～11月14日	3000	石木

なお、平成17年度に発掘調査を実施できなかった67次試掘調査Ｂ地点は本堂遺跡17次調査として平成18年度に調査を実施した。

2．調査体制

平成14 ～ 20年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、整理作業は平成20年度に完了した。

[大野城市教育委員会]

教育長　　堀内貞夫（～ 15年６月）　古賀宮太（15年6月～）
教育部長　　鬼塚春光（14年3月～ 17年3月）　小嶋　健（17年４月～）
社会教育課長　　秋吉正一（14年4月～ 17年3月）　水野邦夫（17年4月～ 18年3月）
ふるさと文化財課長　舟山良一（18年4月～）
文化財担当係長　　舟山良一（～ 18年3月）　中山　宏（18年4月～）

主　　査　　徳本洋一　石木秀啓　緒方一幹（16年4月～ 18年3月）　丸尾博恵
主任主事　　大道和貴（～ 16年3月）
主任技師　　林　潤也　早瀬　賢（16年４月～）
技　　師　　上田龍児（平成19年４月～）
嘱　　託
平島義孝（～ 16年3月）　上田　恵（14年4月～ 15年4月）　島田　拓（14年4月～ 15年6月）
岸見泰宏（14年4月～ 16年3月）　一瀬　智（15年11月～ 17年7月）
西堂将夫（15年4月～ 18年3月）　井上愛子（16年4月～ 20年３月）
北川貴洋（16年4月～ 19年3月）　城門義廣（18年4月～ 19年８月）
岡田裕之（18年5月～ 19年3月）　田尻義了（19年4月～６月）　遠藤　茜（19年4月～）
石川　健（19年７月～）大里弥生（19年10月～）　甲斐康大（20年４月～）
中島　圭（20年４月～）　粟津剛史（16年4月～ 18年6月）　能塚由紀（18年8月～）
整理作業員
松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　　城真奈美
橋本悦子　渡辺直美　仲村美幸
発掘作業員
原田敬子　大海雅子　高木幸子　満富スエコ　吉嗣波津子　岩切ふえ　前田チエ子　西田幸子
那波幸子　高木冴子　藤田和子　三原ひろみ　吉田香織　岡本妙子　馬場孝子　田中照子
寺垣みゆき　中垣　親　松山洋子　日野律子　小林敏子　坂本泰子　渡辺久美子　小林久美子
西村清子　貞包由起子　広渡隆子　穴井和子　立石律子　船越桃子　樋之口浩一　深野人美
大薗英美　仲前冨美子　井口るみ子　倉富倫子　釣屋種利　飯田三治　溝口　忍　金澤好子
田浦秀子　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　團野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子
中山文子　牧野和美　川村真樹子　村岡真由美　槙坂陽子　原口美奈子　山口文代
大島五津子　大浦旗江　清成健悟　高木由佳　木村奈津子　織田　徹　松田和美　戸渡京子
野崎美智子　倉住孝枝　稲富久子　山田賢治　松尾純子　末永　勝　安達はるみ　西本福雄
田中悦子　田野和代　吉村秀子　宮原ゆかり　尾ノ口英晴　碓井ふき子　木室友希　川岸昌子
[上大利北土地区画整理組合]
理事長　　伊藤雅都
副理事長　　樋口敬記　林　尚司
事務局長　　平川松丸
技術職　　吉次俊二（～ 19年3月）　林　圭一（～ 18年3月）　山下　健（16年4月～）
濱本泰司（18年4月～ 20年３月）
事務職　　伊藤衆子

註1　三島肇1969「上大利住居址調査報告」『都久志』第３号　福岡県立筑紫中央高等学校歴史部
なお、太宰府市教育委員会山村信榮氏からは文献の提供や調査の概要について極めて有益なご教示を賜った。記して感謝申し上げたい。

Ⅱ．調査の結果

１．調査概要（付図、図版２）

第７次調査地は、三兼池の東側に位置する。大野城市大字上大利651－1外にあたり、調査面積は5,000㎡である。調査はまず30次試掘調査として、当時内山緑地事務所東側の丘陵斜面から表土剥ぎを実施した。表土剥ぎの結果、丘陵斜面には洞穴壕と思われる落ち込みを確認した他、遺構は確認されなかった。次いで44次試掘調査として30次試掘調査を実施したが、調査前、調査地は丘陵斜面を利用して造成された植林地が階段状に残っていた。このことと南側の30次試掘調査の状況から、丘陵部はほとんど失われているものと考え、トレンチ調査から開始したところ、30次試掘調査地にむかって下る谷部の存在を確認した。谷部は調査地東側に接する本堂遺跡１次調査地においても確認しており、これと一連のものと判断されたことから谷部の掘り下げをおこなうとともに造成部分も合わせて全面表土剥ぎをおこなった。その結果、植林地として利用されていた谷部上の平坦面からも遺構が検出された。また谷部北側斜面には、窯体はすでに失われていたが灰原が確認された。なお、試掘調査は平成15年６月24日から一時中断を挟みながら平成16年１月17日の間実施した。

発掘調査は、表土剥ぎ終了後、平成16年２月17日から実施した。調査開始時点では、本堂遺跡１次調査地側にむかってのびる大きな谷部があることは認識できたが、斜面上に確認された遺構は灰原のみであり、調査期間も15年度中に終了するくらいのものと考えていた。また灰原は、検出段階では灰層は薄い黒色を呈しており、灰原本体は流されたものと考え、灰層もあまり厚いものではないとの予測であった。しかし灰原の範囲実測後、掘り下げをいざ開始してみると、灰層は思いの外厚く、谷底へもぐりこんでいくことが確認できた。さらに、灰層上には奈良・平安時代の遺物層が堆積する事が判明し、谷部全体に及ぶことが推測できた。谷部の幅は10ｍ以上、検出された長さは80ｍ近くあり、深さはどの程度あるのかまったく見当もつかなかった。このため、調査区西側から谷部埋土をすべて掘り切るものと調査方針を変更し、掘削にあたってもスコップを用いて土を上げ、傍らで掘り上げた土を砕いて遺物を回収し、土はベルトコンベアで搬出することとした。それでも掘削に時間がかかると判断した場所については、一部重機で掘り下げをおこない、手掘りの場合と同じように遺物の回収をおこなった。このように、かなり粗い掘り下げにならざるをえず、特に土師器丸底杯・小皿などの完形品の土器が大量に投棄されている状況は確認できたが、掘り下げによりかなりの個体が破損してしまった。また木製品も同様であり、全形が不明となってしまった遺物も少なくない。さらに、非常に急いだ調査であったため、相当の遺物が見落とされてベルコンに乗せられて去っていった可能性も高い。どのような調査方法がよかったのか今でも考えるが、少なくとも遺物が破損しないことと、微細遺物も取り上げできるような方策が選択できていたらと思う。発掘調査は11月16日までの間実施し、平成15年度は岸見、平成16年度は石木が担当した。

調査の結果、パンケース500箱を越える遺物が出土した。内容は、①６世紀後半から７世紀前半代、②８世紀後半代、③11 ～ 12世紀代の大きく３つに分かれ、おびただしい須恵器・土師器とともにヘラ書き須恵器・墨書土器・木製品など特殊な遺物も出土した。谷部上の平坦面からは、掘立柱建物・竪穴住居・溝などが確認され、本堂遺跡１次調査の遺構に連続する。（石木）

２．遺構と遺物

（１）調査区および層位について（付図・図版２）

７次調査地は東西に長く、検出された谷部も長いものであった。谷部の北側と南側には平坦面があり、遺構が存在する。記述の関係上、これらを北側平坦面・南側平坦面として便宜的に分けておく。平坦面は、表土を除去するとすぐに遺構面が現れた。また、谷部の掘り下げにあたっては、西側からＡ～Ｆの６区に分けて掘り下げを実施し、遺物取り上げをおこなった。取り上げにあたっては区ごとにおこない、区が異なるものについても堆積土の観察から同じ土色・土質のものを同一層と認識したが、谷部が斜面上方から下方へ向かって下り、区が異なると層が欠落するものもあった。谷部の層位については、後述する。（石木）

（２）掘立柱建物

ＳＢ01（第５図・図版３）

北側平坦面に位置する。２×２間の規模を有する側柱建物である。桁行2.93 ～ 2.95m、梁行2.6 ～ 2.8m。柱穴はＳＤ06・ＳＸ09に切られる。主軸方向は、Ｎ－31°－Ｅにとる。この主軸方向は、6.7m離れたＳＢ02と同じで、さらに本堂１次ＳＢ01とも軒を揃えている。これら３棟の掘立柱建物はほぼ同一規模であり、何らかの規格性を感じる。柱はいずれも方形もしくは略円形に近い隅丸方形プラン、最も小さいＳＰ31で一辺70㎝、最も大きなＳＰ08は一辺1.03 ～ 1.23mである。検出面からの深さは0.6 ～１m。底面の標高を測ると、ＳＤ06に切られるＳＰ15が最も高く、南側にむかって順次低くなる。このことから、谷部上の平坦面は谷部へむかってゆるやかに下る緩傾斜面であったと考えることができよう。各柱穴からは、須恵器・土師器のほか、ＳＰ08・18・19・20・31から焼土塊、ＳＰ18から鉄釘が出土しているが、新しい遺物は混じっている可能性が高い。（石木）

出土遺物（第６図）

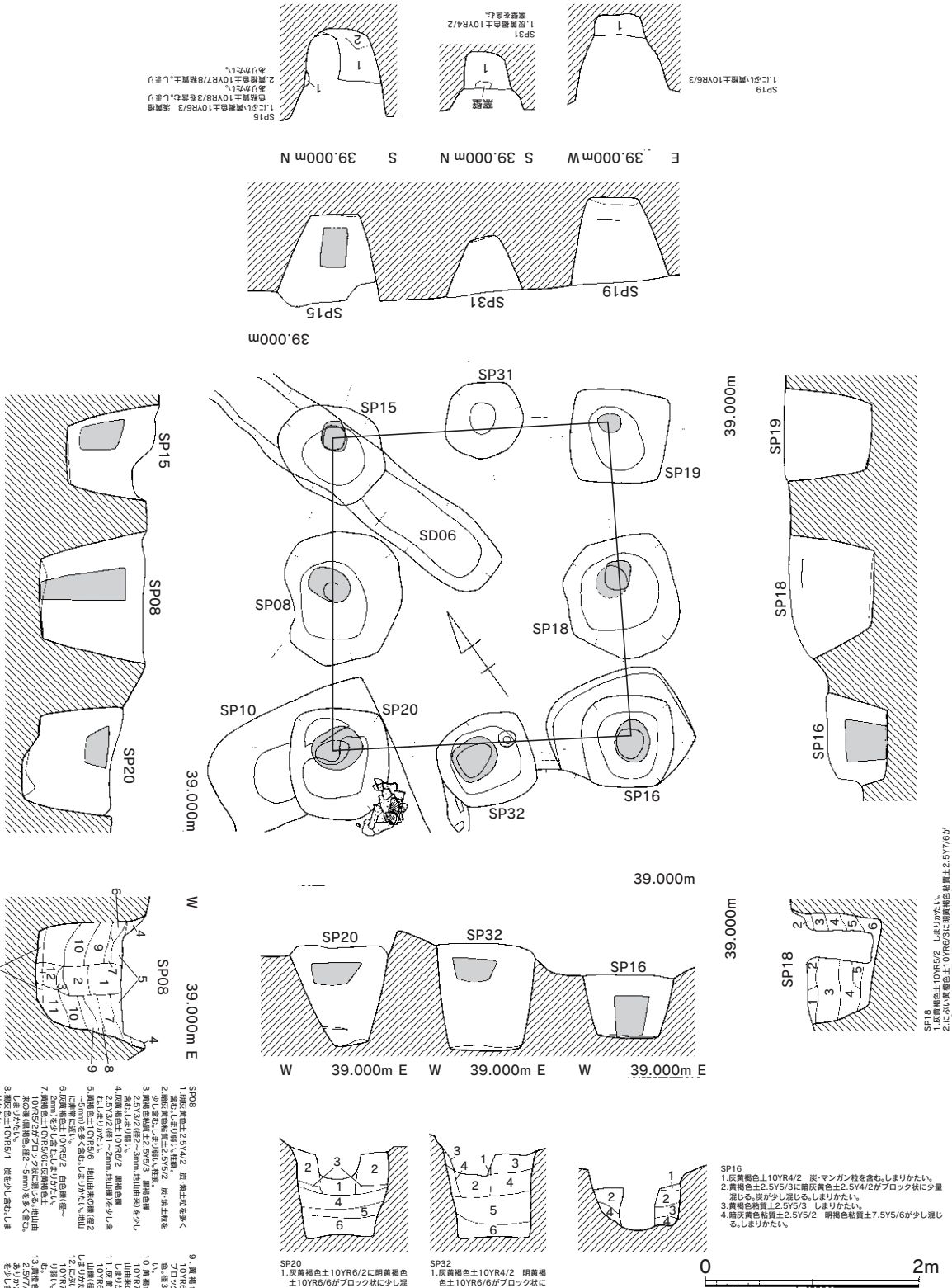
須恵器（1） 杯Ｈ身。底部外面にヘラ記号を施す。

土師器（2） 丸底杯。底部外面はヘラ切りをおこなう。

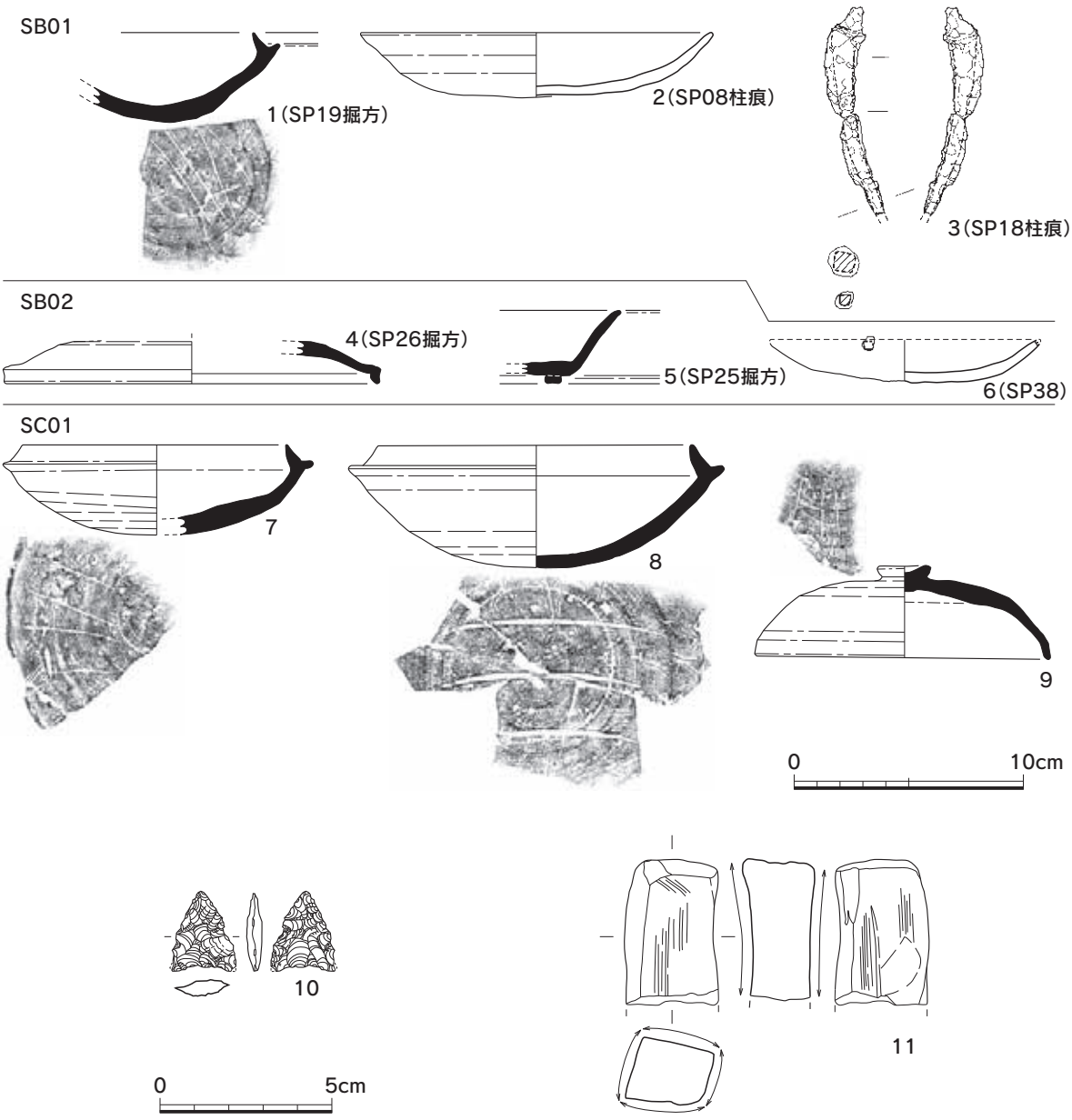
鉄製品（3） 鉄釘。頭部の元来の形状は不明である。体部は僅かに彎曲している。（大里）

ＳＢ02（第７図・図版４）

北側平坦面に位置する。大半は調査区外にのびるが、ＳＢ01と同じく２×２間の側柱建物であったと考えられる。一辺は2.85m、柱は判明するものはいずれも方形プランで、0.65 ～ 0.85mとＳＢ01に比べてやや小さい。検出面からの深さは0.75 ～ 0.9m。底面の標高は南側へむかって下がっており、ＳＢ01と同様に建物は緩傾斜面に立地していたと考えられる。各柱穴からは、須恵器・土師器が出土している。（石木）



第５図　７次SB01実測図（１／60）



第６図　７次SB・SC出土遺物実測図（10・11は1／2、他は1／3）

出土遺物（第６図）

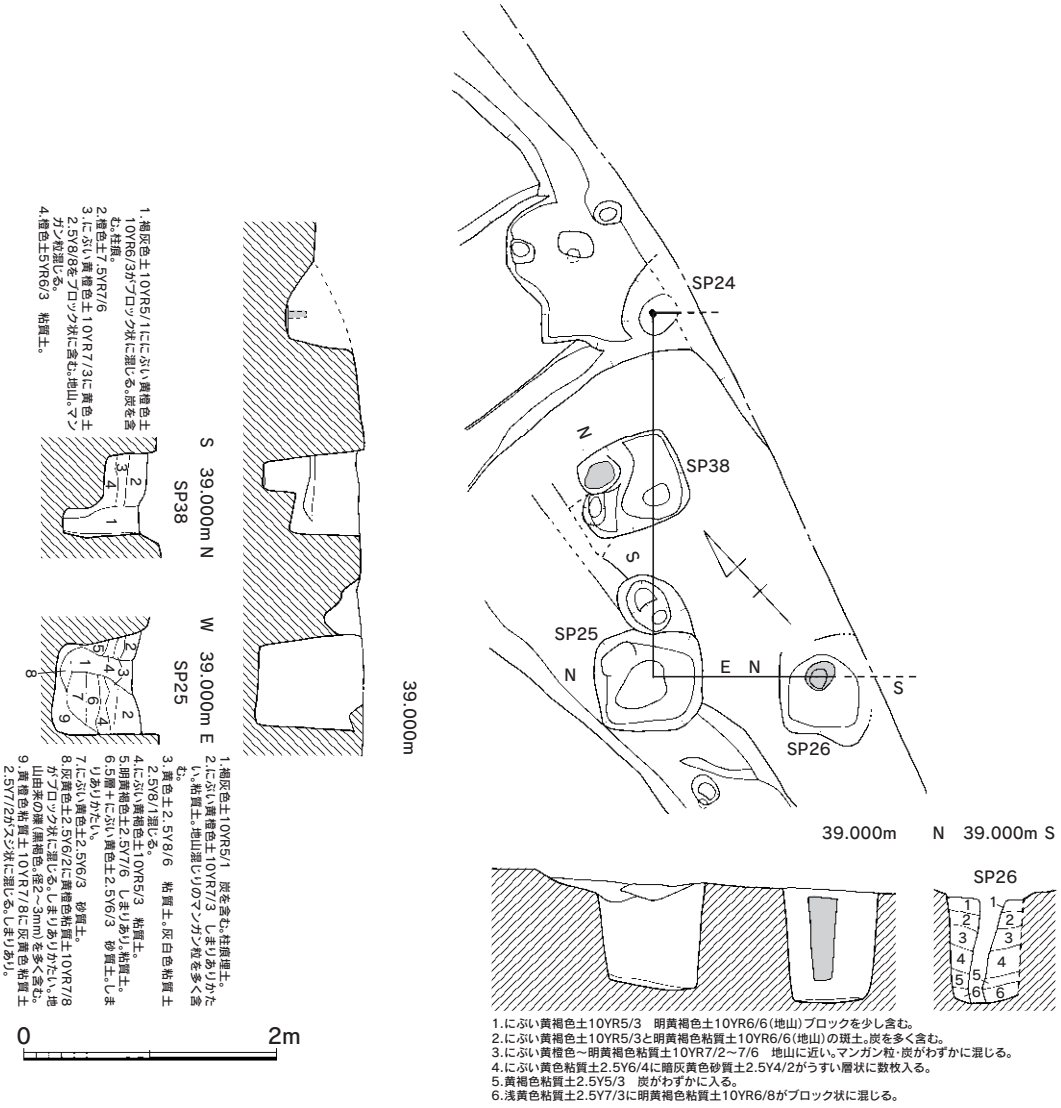
須恵器（4･5）　4は杯Ｂ蓋。口縁部は直立する。ＳＰ26掘方内。5は杯Ｂ身。高台は低く、底部端につく。

土師器（6）　小皿。底部外面に板状圧痕がみられる。ＳＰ38。　（大里）

（３）竪穴住居跡

ＳＣ01（第８図・図版５）

北側平坦面に位置する。ＳＢ01に隣接しており、柱穴に近いが、埋土は浅く、切り合いは確認できなかった。検出できたのは、隅丸方形を呈するコーナー部分のみであり、最大2.3ｍが確認された。最も深いところでも７㎝しかなく、削平が相当の規模であったことがうかがえる。主柱穴は確認できなかった。西壁の中央部には焼土が認められ、袖などの確認はできなかったが、おそらく



第７図　７次SB02実測図（１／60）

カマドがあったものと考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器のほか焼土塊が含まれており、須恵器も焼けの悪いものを含む。また、検出時には白磁が出土している。（石木）

出土遺物（第６図・図版21）

須恵器（７～９）　7･8は杯Ｈ身である。天井部外面に回転ヘラケズリを行う。9は高杯の蓋。天井部外面は回転ヘラケズリをおこなう。すべて外面にヘラ記号を施す。

石製品（10･11）　10は黒曜石製石鏃。11は砥石。4面を使用する。（大里）

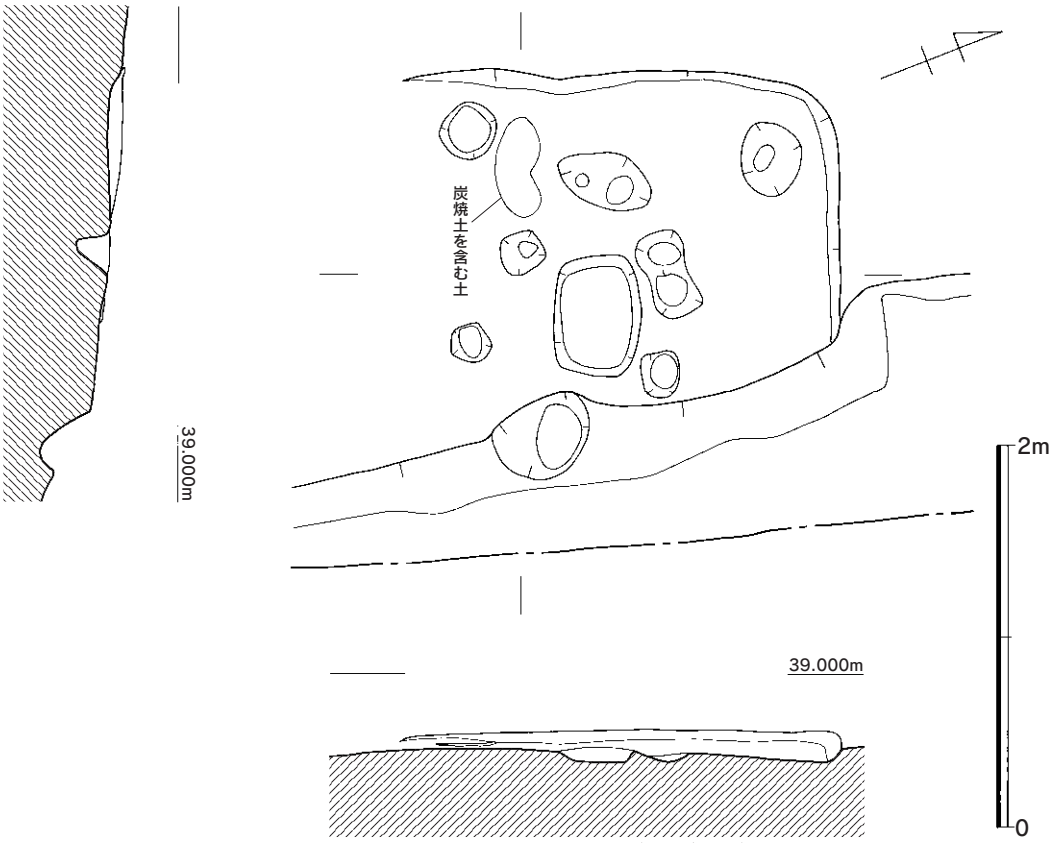
（４）溝

ＳＤ01（付図・図版５）

南側平坦面に位置する。長さ2.65m、幅最大0.32m、深さ３～15㎝の極めて浅い溝である。略東西方向にのび、東側へ向かって下がる。出土遺物は、須恵器・土師器のほか鉄滓を含む。（石木）

出土遺物（第10図）

鉄滓（12･13）　同一個体の可能性があるが、接点がない。いずれも強い着磁が認められる。（大里）



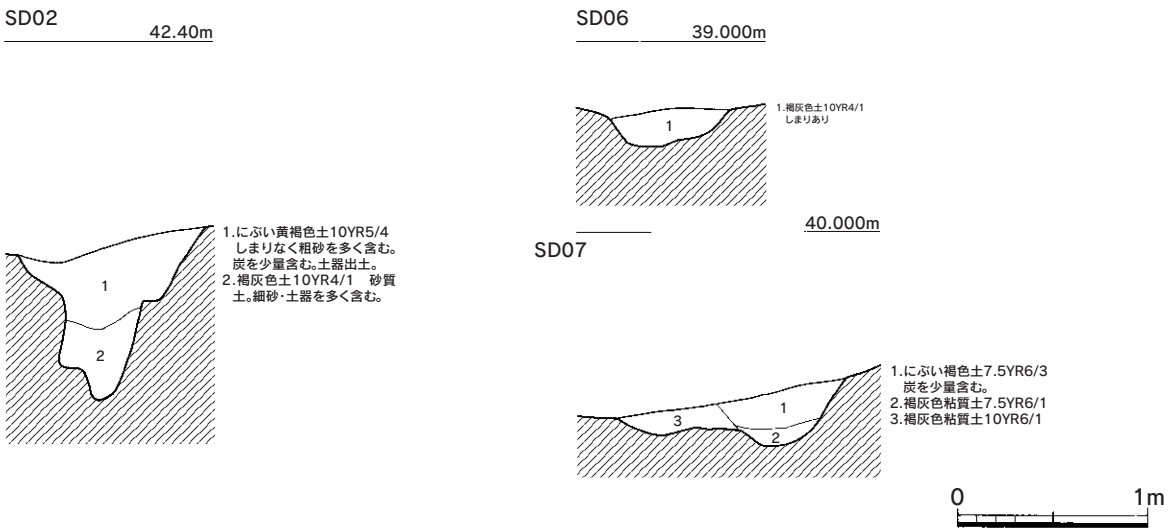
第８図　7次SC01実測図（1／40）

ＳＤ02（第９図・図版５）

南側平坦面で検出され、ＳＤ01に平行する。長さ約４ｍ、幅0.2 ～ 0.52ｍ、深さ約20 ～ 30㎝で、溝底は凹凸が著しく、東側へむかって下がる。ＳＤ03に切られる。溝の埋土は粗砂を多く含み、溝底の状況からも流路である可能性が高い。出土遺物は、須恵器・土師器のほか、瓦器・白磁・石鍋など種類が多い。（石木）

出土遺物（第11図）

土師器（14 ～ 17）　14は小皿。ヘラ切り。15･16は丸底杯。15は口縁部が外反し、体部に稜を

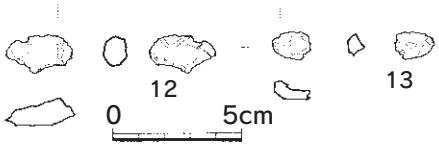


第９図　7次SD02・06・07土層実測図（1／40）

持つ。17は鉢。内面に煤が付着する。

瓦器（18） 椀。底部外面は回転ヘラ切りを行う。

磁器（19･20） どちらも白磁椀。19は口縁部を小さく折って玉縁風にする。太宰府分類椀Ｖ－3類。20は内面見込みには段があり、高台内に目跡がつく。太宰府分類椀Ⅳ類か。



第10図　7次SD01出土遺物実測図（1／3）

土製品（21） 棒状土製品である。折り重ねた後に方形に整形する。（大里）

ＳＤ03（付図・図版６）

南側平坦面で検出され、ＳＤ04を切り、Ｌ字状にのびる。幅0.34 ～ 0.44m、深さ30㎝程度で溝の断面は浅い鍋底状を呈する。埋土は褐灰色土。出土遺物は、須恵器・土師器・陶磁器があり、溝が北側へのびた延長線上は造成面につながるようであり、新しい時期の遺構と考えられる。（石木）

出土遺物（第12図・図版21）

瓦質土器（22） 火鉢。突帯の間に梅花弁のスタンプがみられる。

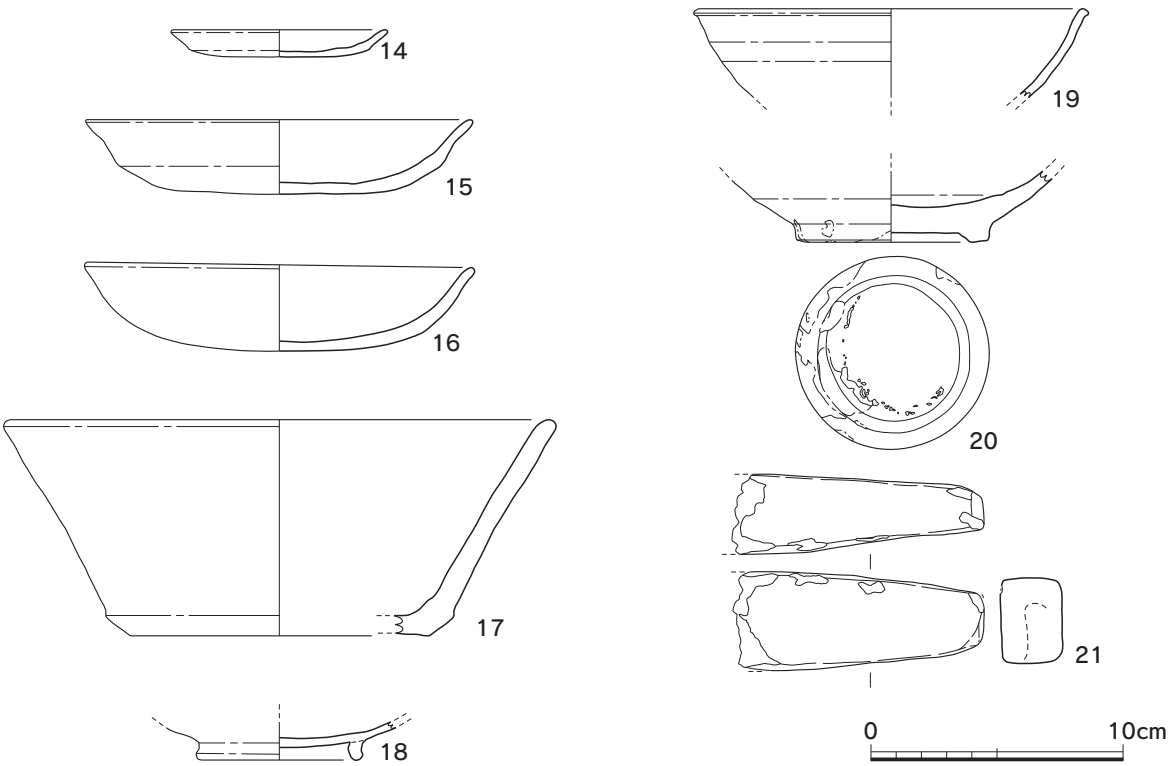
陶器（23） 肥前系擂鉢。口縁部は折り返し、内面は口縁直下より擂目をつける。

磁器（24） 白磁紅皿。外面は蛸唐草文を型押しする。

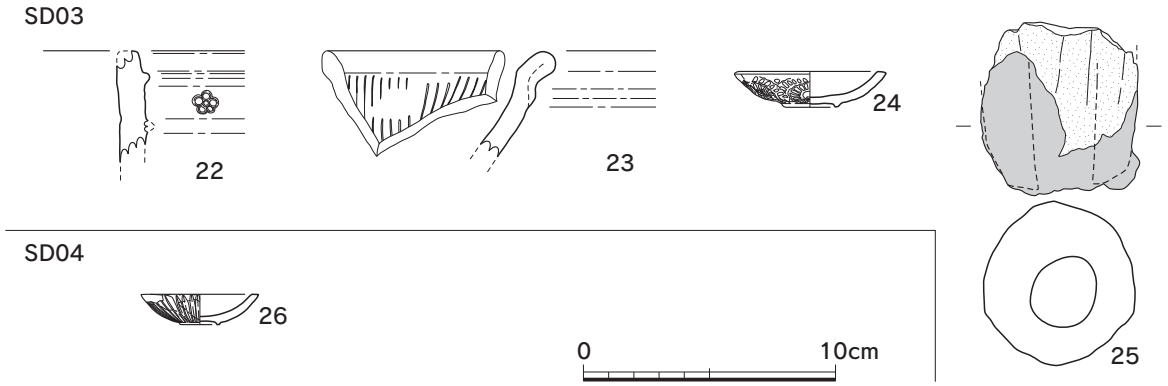
土製品（25） 羽口である。端部は還元する。（大里）

ＳＤ04（付図・図版６）

南側平坦面で検出され、ＳＤ03に切られる。斜面をＬ字にカットし、長さ４ｍあまり、最大幅1.5ｍで直線的にのびる。溝底の平坦面には木杭が打ち込まれていた。出土遺物は、須恵器・土師器・磁器がある。（石木）



第11図　7次SD02出土遺物実測図（1／3）



第12図　7次SD03・04出土遺物実測図（1／3）

出土遺物（第12図）

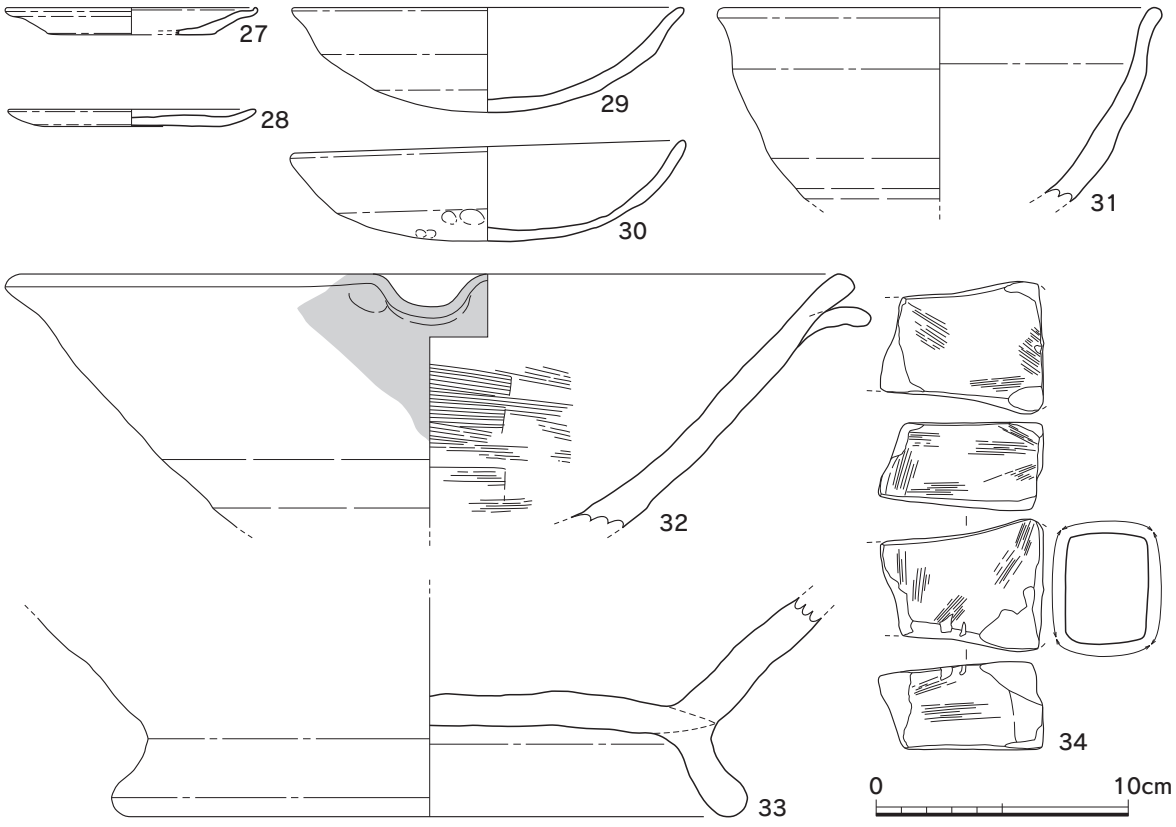
磁器（26） 紅皿。細弁の蓮弁が外面に施される。（大里）

ＳＤ05（付図）

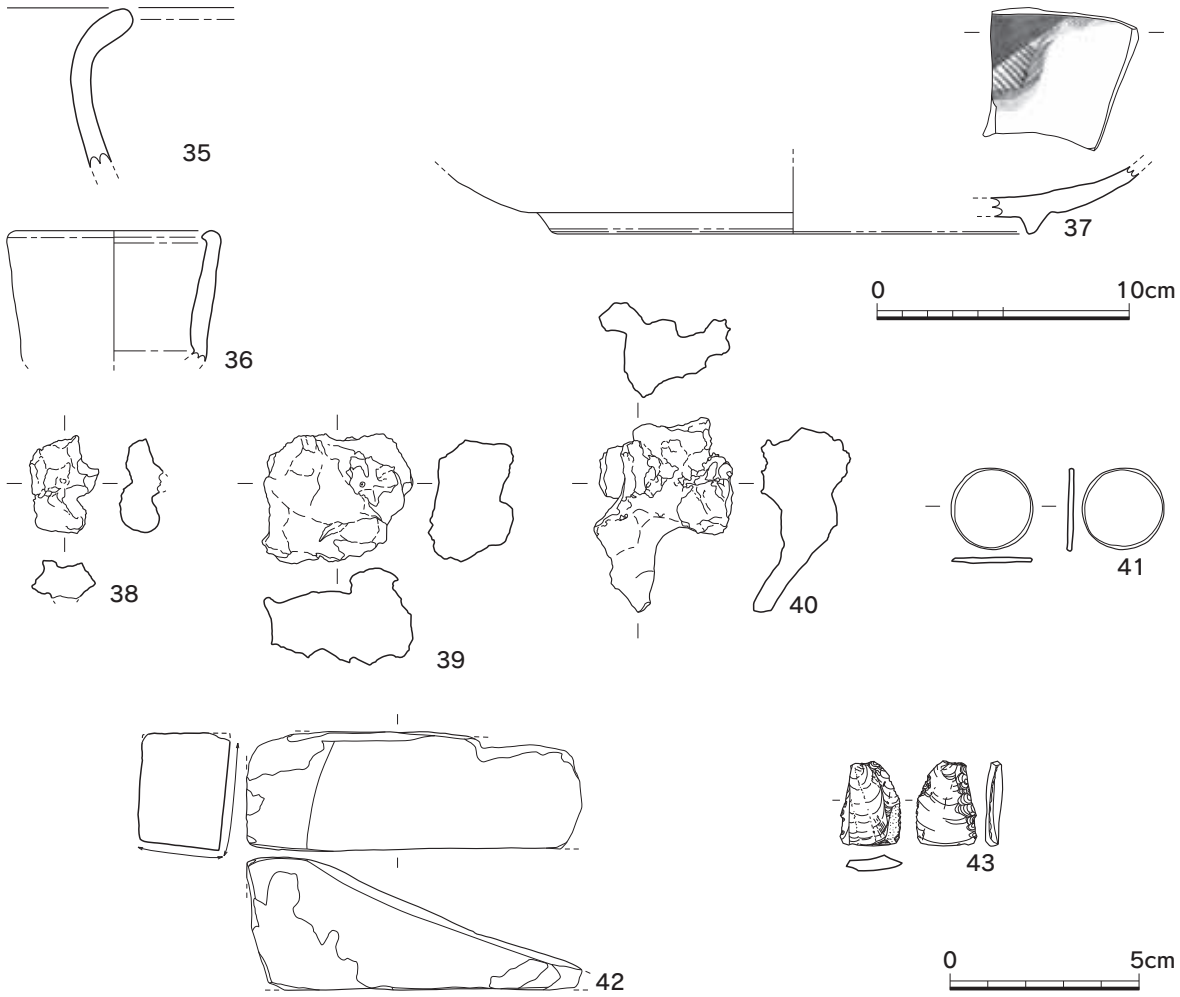
谷部Ｅ区南側斜面上に位置する。南側平坦面より流れ込む流路と考えたため、図化をおこなわなったが、出土遺物は、須恵器・土師器をはじめ黒色土器・磁器など量が多い。　（石木）

出土遺物（第13図）

土師器（27～31） 27・28は小皿。いずれもヘラ切り。27は口縁部が外反し、丸みのある「て」の字状口縁を呈する。29・30は丸底杯。いずれも体部に稜を持つ。29は口縁部が外反する。31



第13図　7次SD05出土遺物実測図（1／3）



第14図　7次SD07出土遺物実測図（41・43は1／2、他は1／3）

は鉢。体部下方は回転ヘラケズリを行う。口縁部は外反する。

土師質土器（32･33）　32は片口鉢。内面はハケメを施し、片口の外面は黒変している。33は高台径約24cmを測る。壺もしくは鉢の底部か。

石製品（34）　砥石である。4面を使用している。（大里）

ＳＤ06（付図・図版６）

北側平坦面上に位置する。長さ4.75ｍ、幅0.6ｍ、深さ10 ～ 17㎝で、溝の断面形は浅い鍋底状を呈する。溝底は南側へ向かって下り、ＳＰ15を切る。埋土は褐灰色土。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器などがあるが、図化できるものはなかった。（石木）

ＳＤ07（第９図）

北側平坦面上の北側に位置する。東西方向に直線的にのびる。幅0.5 ～ 1.5ｍ、深さ10 ～ 40㎝程度。溝掘方の検出面は、北側が南側に比べて15㎝ほど高く、これより北側に遺構が確認できない事から、掘立柱建物・竪穴住居跡の立地する緩傾斜面はここまでと推量される。埋土中には、炭を若干含む。ＳＸ07に切られる。出土遺物には、須恵器・土師器のほか染付など新しい遺物を含み、畑周囲に巡らされた溝と考えられる。（石木）

出土遺物（第14図・図版21）

土師器（35） 甕。口縁部が外反する。

磁器（36・37） 36は口縁端部が僅かに内側に折れる。香炉もしくは火入れと思われる。近世の所産か？ 37は染付皿で、内面見込みに絵付し、外面は白濁の釉を全面に施釉するが高台付近で釉切れがみられる。

鉄滓（38～40） いずれも着磁は認められない。

銅製品（41） 銅銭である。径2.2㎝、厚さ0.15㎝を測る。

石製品（42・43） 42は砥石。2面を使用する。43は黒曜石製の二次加工剥片。（大里）

ＳＤ08（付図）

北側平坦面東側に位置し、調査区境にある。ＳＤ07に切られ、幅0.5～1.35ｍの溝状を呈するが、東側へいくと掘方が判然としなかった。確認できなかったが、溝の上面に包含層が残存していた可能性が高い。出土遺物は、須恵器・土師器のほか、黒色土器・焼土塊などがある。（石木）

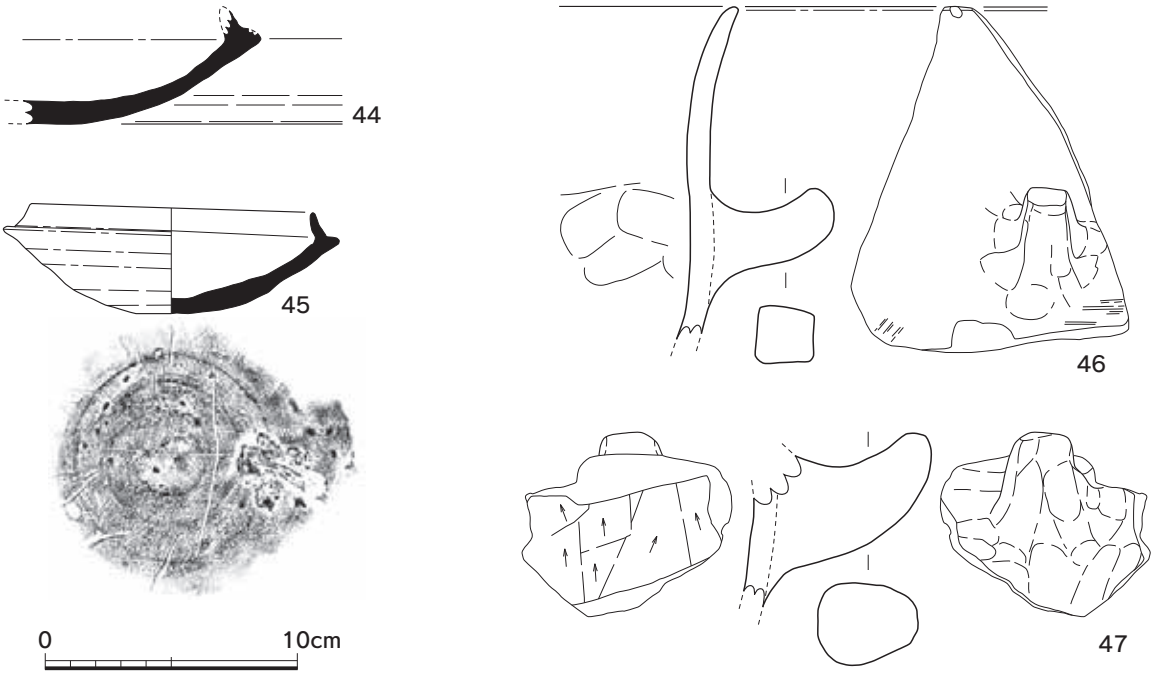
出土遺物（第15図・図版21）

須恵器（44・45） いずれも杯Ｈ身。44は受部が短い。45は底部外面にヘラ記号を施す。

土師器（46・47） いずれも甑。46の把手は断面方形である。47は把手。内面はヘラケズリを行う。（大里）

ＳＤ09（付図・図版６）

北側平坦面上に位置し、長さ10.5ｍあまり、幅0.48～0.9ｍの直線的な溝で、溝底は南側へ向かって下り、谷部までのびる。谷部との切り合い関係は不明であるが、谷部を切ると考えられ、畝状遺構に切られる。出土遺物は、須恵器・土師器・縄文土器などがあるが、図化できなかった。（石木）



第15図　7次SD08出土遺物実測図（1／3）

（5）土坑

ＳＸ01（第16図・図版７）

南側平坦面から、やや斜面上方に上がった所にある。一辺0.75ｍの方形プランを呈し、北側の壁面は焼けている。埋土中には、焼土・炭が多量に含まれているが、床面は被熱しない。出土遺物は、炭化材のほかはまったく確認できなかった。（石木）

ＳＸ02（付図）

南側平坦面上で確認され、ＳＤ02先端を切る撹乱である。出土遺物は、須恵器・土師器・瓦質土器がある。（石木）

出土遺物（第17図）

瓦質土器（48） 火鉢の脚部。外面に弧状の沈線を有する。

土師器（49） 小皿。底部はヘラ切りを行い、煤が付着する。（大里）

ＳＸ05

谷部Ｅ区南側斜面にある。Ｄ・Ｅ間ベルト際にあり、取り上げ層位で２層とした11 ～ 12世紀代の堆積層を切り込む。遺構の図化はおこなっていない。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器などがある。（石木）

出土遺物（第17図・図版21）

土師器（50 ～ 53） 50・51は小皿。底部ヘラ切り、板状圧痕がみられる。52・53は椀である。52の底部はヘラ切りを行う。53は摩滅のため調整が不明瞭だが、内面一部にミガキが残る。

黒色土器（54・55） A類の椀である。いずれも口縁部が外反し、内面はミガキを行う。（大里）

ＳＸ06（第16図・図版７）

北側平坦面西側にある。径0.9ｍの円形プランを呈し、深さ25 ～ 46㎝。床面はほぼ平らで、埋土は谷部Ｅ区埋土と近似する。出土遺物は、土師器・焼土塊があるが、図化できなかった。（石木）

ＳＸ09（付図・図版７）

北側平端面東側にある。ＳＰ16を切り、谷部埋土に切られる。一辺1.3ｍほどの隅丸方形プランを呈し、深さは20㎝程度。埋土は灰黄褐色粘質土で、ＳＰ16のものと異なっている。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器がある。（石木）

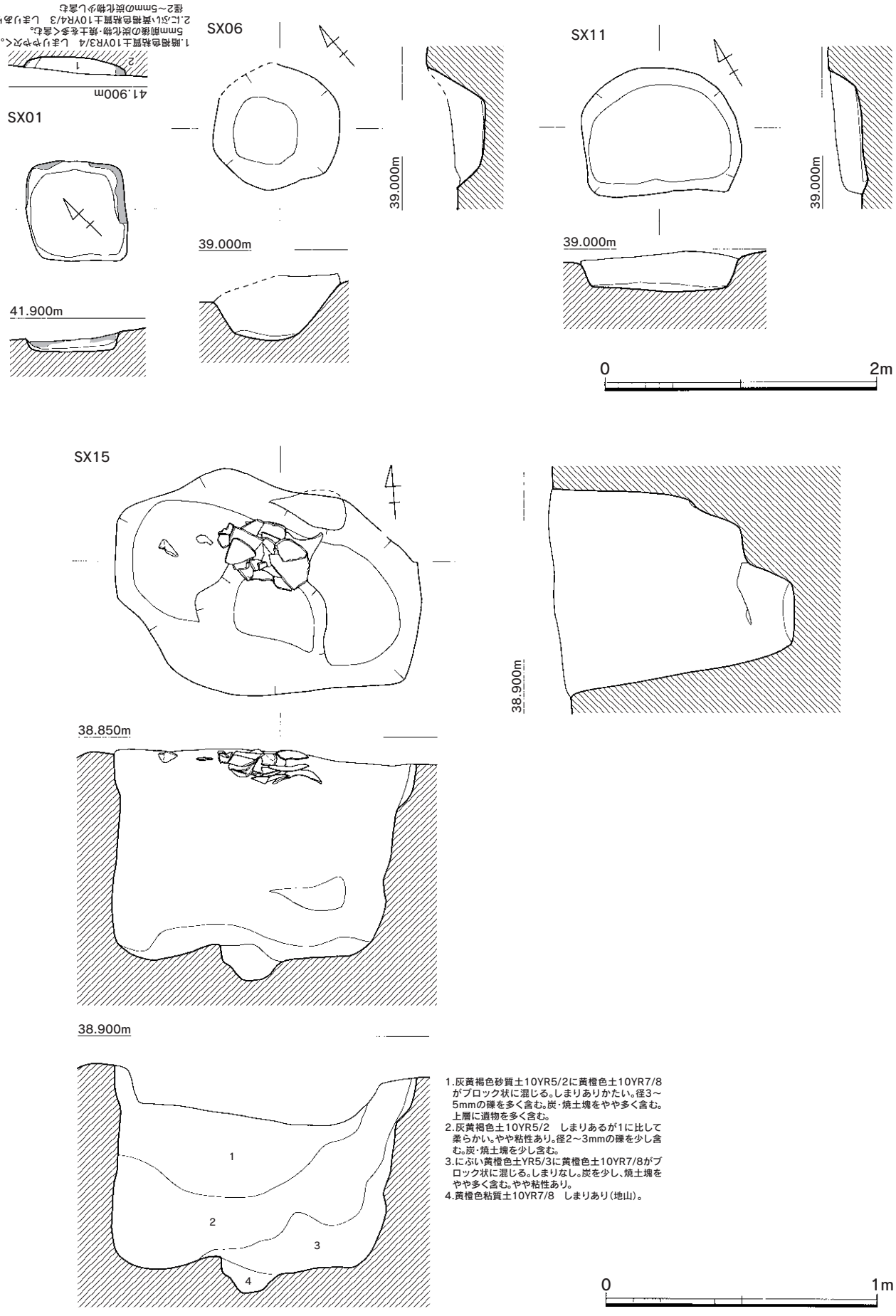
出土遺物（第17図・図版21）

土師器（56 ～ 58） 56は小皿。内面に黒斑があり、底部はヘラ切り、板状圧痕がみられる。57・58は脚部。どちらも先端をつまみだす。椀もしくは皿につくものか？

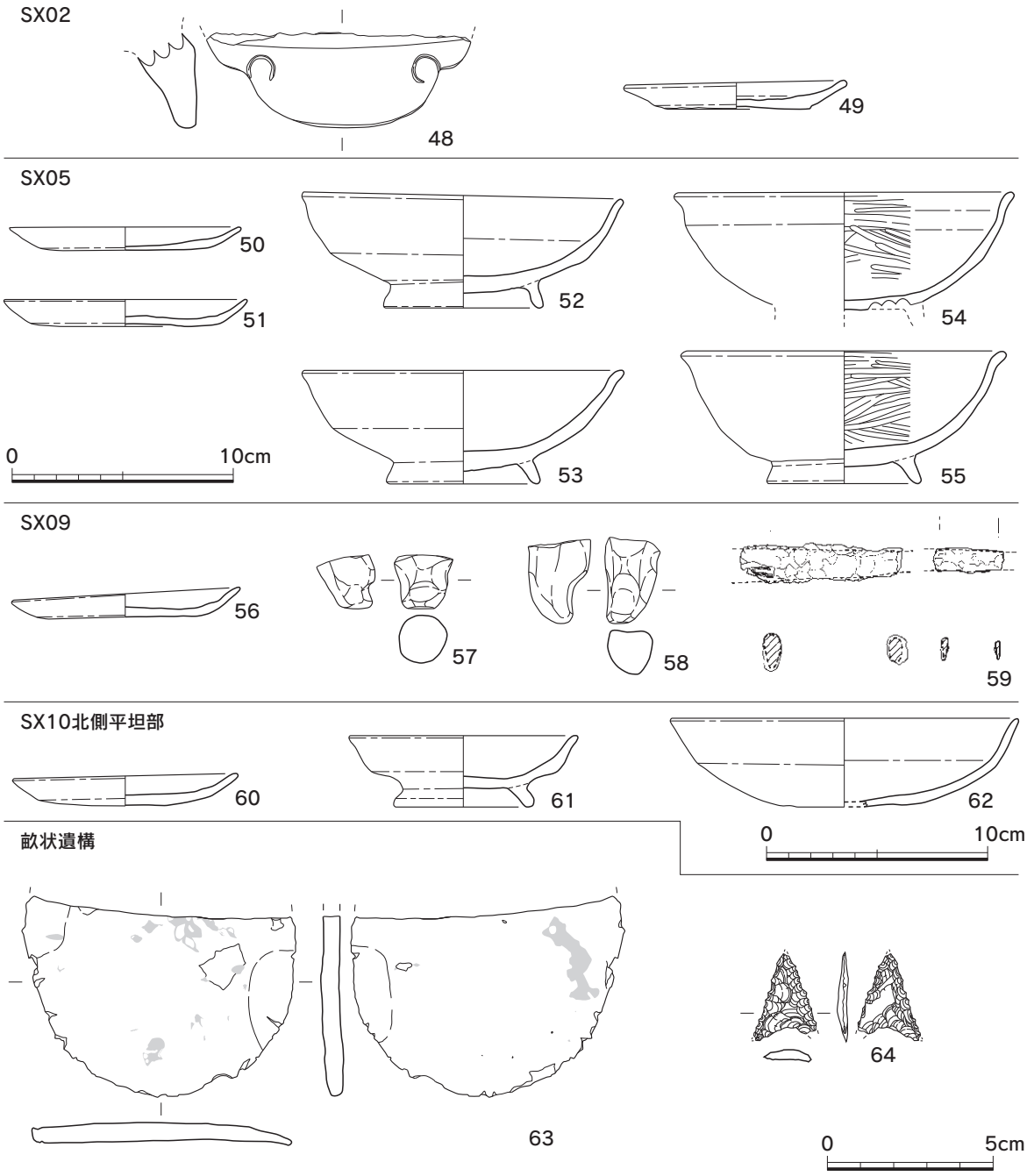
鉄製品（59） 刀子である。木質と思われる痕跡がみられる。（大里）

ＳＸ10（第５図・図版８）

北側平坦面上にあり、ＳＰ20と切りあい、現場では前後関係がよく分からなかったが、ＳＰ20を切るものと思われる。一辺1.7ｍほどで、南西部からは須恵器甕片がまとまって出土した。甕片はＳＰ20掘方上まで及び、体部の一部がそのまま置かれたような状況であった。ただし口縁部片は確認できない。出土遺物は、須恵器･土師器があり、北側から土師器がまとまって出土している。（石木）



第16図　7次SX01・06・11・15実測図（SX15は1／20、他は1／40）



第17図　7次SX・畝状遺構出土遺物実測図（63・64は1／2、他は1／3）

出土遺物（第17図）

土師器（60～62）　60は小皿で、内外面に黒斑がみられる。61は高台付の皿。底部内面に煤が付着している。62は丸底杯。体部に稜を持ち、底部外面に板状圧痕が見られる。　（大里）

ＳＸ11（第16図・図版８）

北側平坦面に位置し、谷部Ｆ区斜面上方にある。長さ0.91ｍ、幅1.15ｍ、深さ20cmほどのカマボコ状の平面プランを呈し、床面は平らに近い。埋土は黄橙色土を中心とし、しまりがある。出土遺物は、土師器・焼土塊があるが、図化できるものはなかった。　（石木）

ＳＸ12（第18図・図版９）

谷部Ｆ区の谷底で、谷部の掘り下げにともなって確認された。井戸である。掘方は確認できなかったが、方形であったと考えられ、谷部埋土中から切り込まれていたようである。井戸枠は方形を呈し、長さ1.32 ～ 1.38m、幅15 ～ 20㎝、厚さ４～５㎝の枠材を横位に組み合わせている。土坑床面には大半を失ったが、厚さ10cmほどの石敷きが確認され、裏込めにも石を用いて枠組みの安定を図ったものと考えられる。部材は東西に配した後に、もう一段刳り込みを切って組み上げている。２段目の枠材上面にも刳り込みが認められ、さらに上に組み上げられていたと考えられるが確認できなかった。出土遺物は、枠材のほか、須恵器・土師器・瓦がある。（石木）

出土遺物（第19・20図・図版22・23）

木製品（65 ～ 69） 65 ～ 68は井戸枠。手斧等により加工。69は杭。大まかに削って先端を鋭利にしている。

須恵器（70） 皿。口縁部は外反し、底部はやや丸みを持ち、外面ヘラ切りを行う。（大里）

ＳＸ13（第18図）

ＳＸ12の斜面上方で確認され、ＳＸ12埋土を切る。一辺1.8m程度の不整方形の掘り込みが確認できる。土坑床面からは0.4mほどの木が出土した。また、井戸枠材の一部も出土したが、ＳＸ12の枠材の破片である。ＳＸ12と重複して掘られることから、井戸である可能性も考えられるが、この場合素掘りの井戸となり、ＳＸ12と異なる。また、ＳＸ12の井戸枠材の一部も出土したことから、枠材を取り上げるための土坑とも考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器がある。（石木）

出土遺物（第20図）

土師器（71） 丸底杯。摩滅のため調整不明である。

木製品（72） 井戸枠材。側面に枘穴をつくる。67と同一個体。

須恵器（73） 杯Ｂ身。高台は低く、底部はヘラ切りを行う。（大里）

ＳＸ15（第19図・図版９）

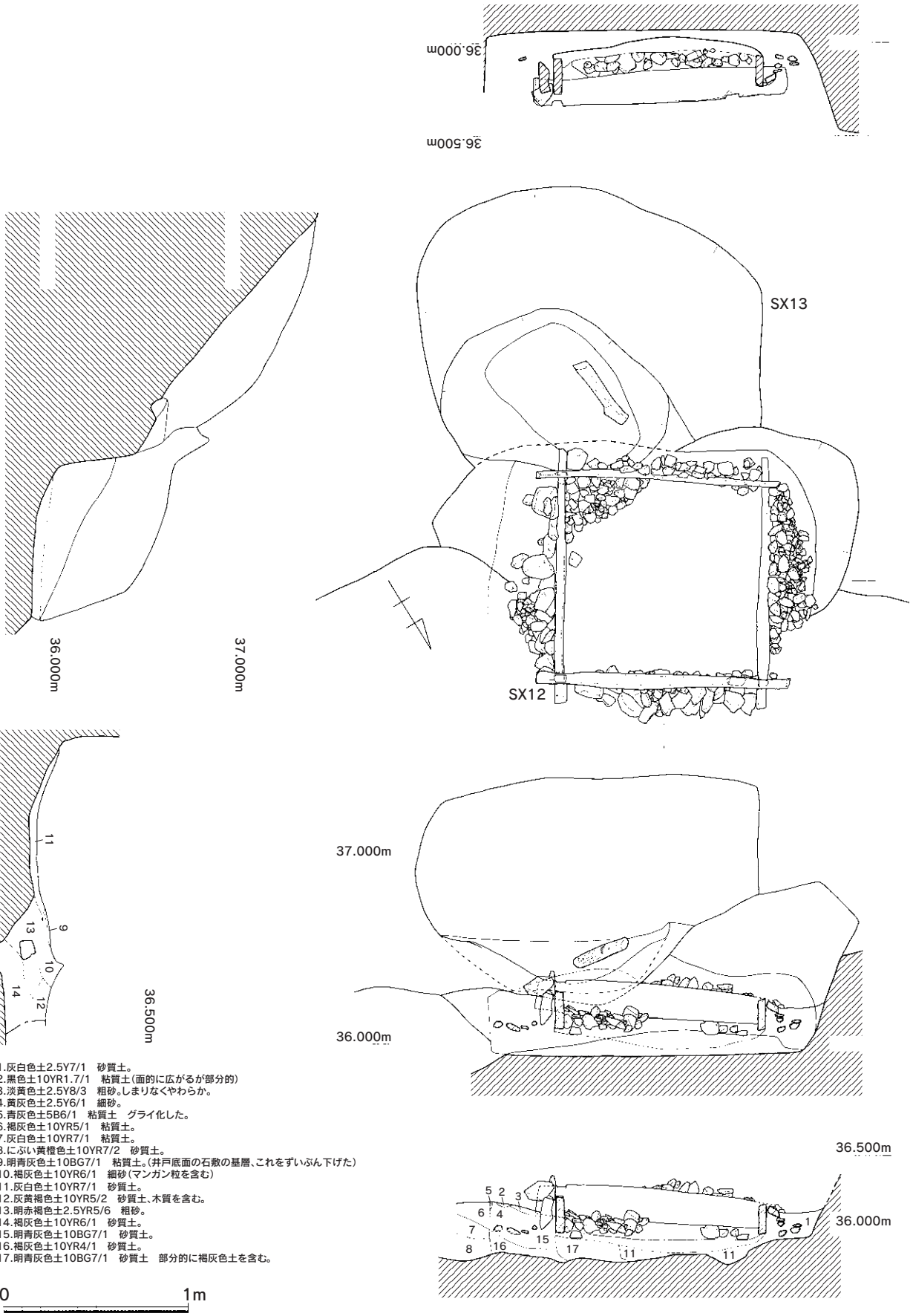
北側平坦面に位置し、ＳＤ09の西側に隣接する。長さ1.16m、幅0.78m。床面は長さ1.02m、幅0.42m、中央に0.43mの穴がある。深さは床面まで0.76m、中央の穴まで0.91m。埋土上層には土坑の中央部に須恵器の集積が認められ、遺物は上層から多く出土した。埋土は、灰黄褐色土を中心とし、特に上層に多く炭・焼土が含まれていた。出土遺物は、須恵器・土師器がある。選別時に須恵器では杯Ｈ蓋・横瓶・甕、土師器では杯・小皿が確認されている。このうち、土師器小皿は遺構検出段階のものと考えられるが、いずれも図化できなかった。（石木）

ＳＸ17（第21図・図版10）

Ｆ区南側斜面上で検出された。長さ1.35m、幅1.12mの長方形プランを呈し、深さ1.62mで床面は平らである。埋土は中層で褐色粘質土、下層は暗褐色砂質土。出土遺物は、須恵器甕があるが図化できなかった。（石木）

ＳＸ18（第21図・図版10）

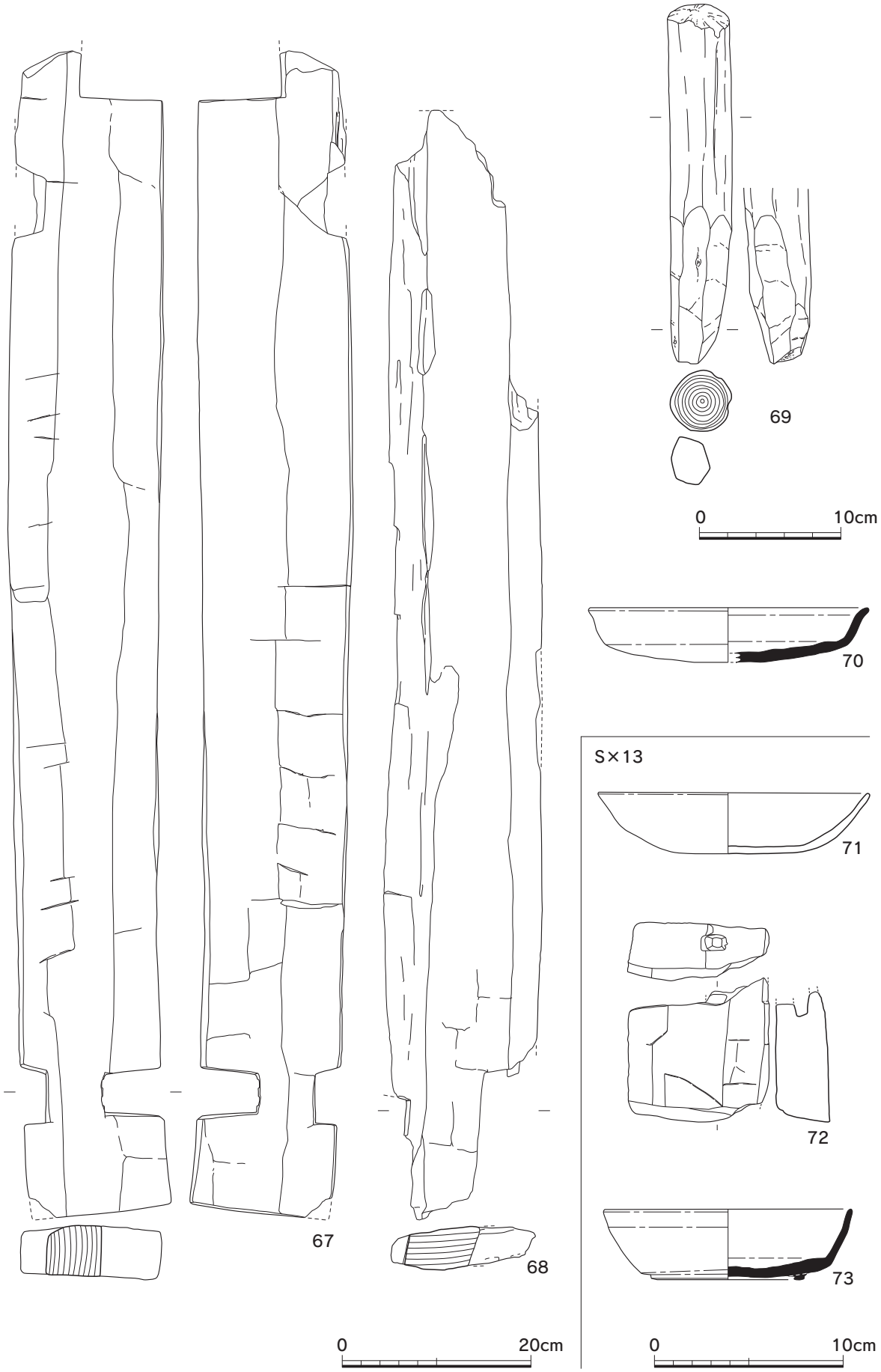
Ｆ区南側斜面上で検出され、ＳＸ17よりもやや下方に位置する。2.45 ～ 2.65mの方形に近い



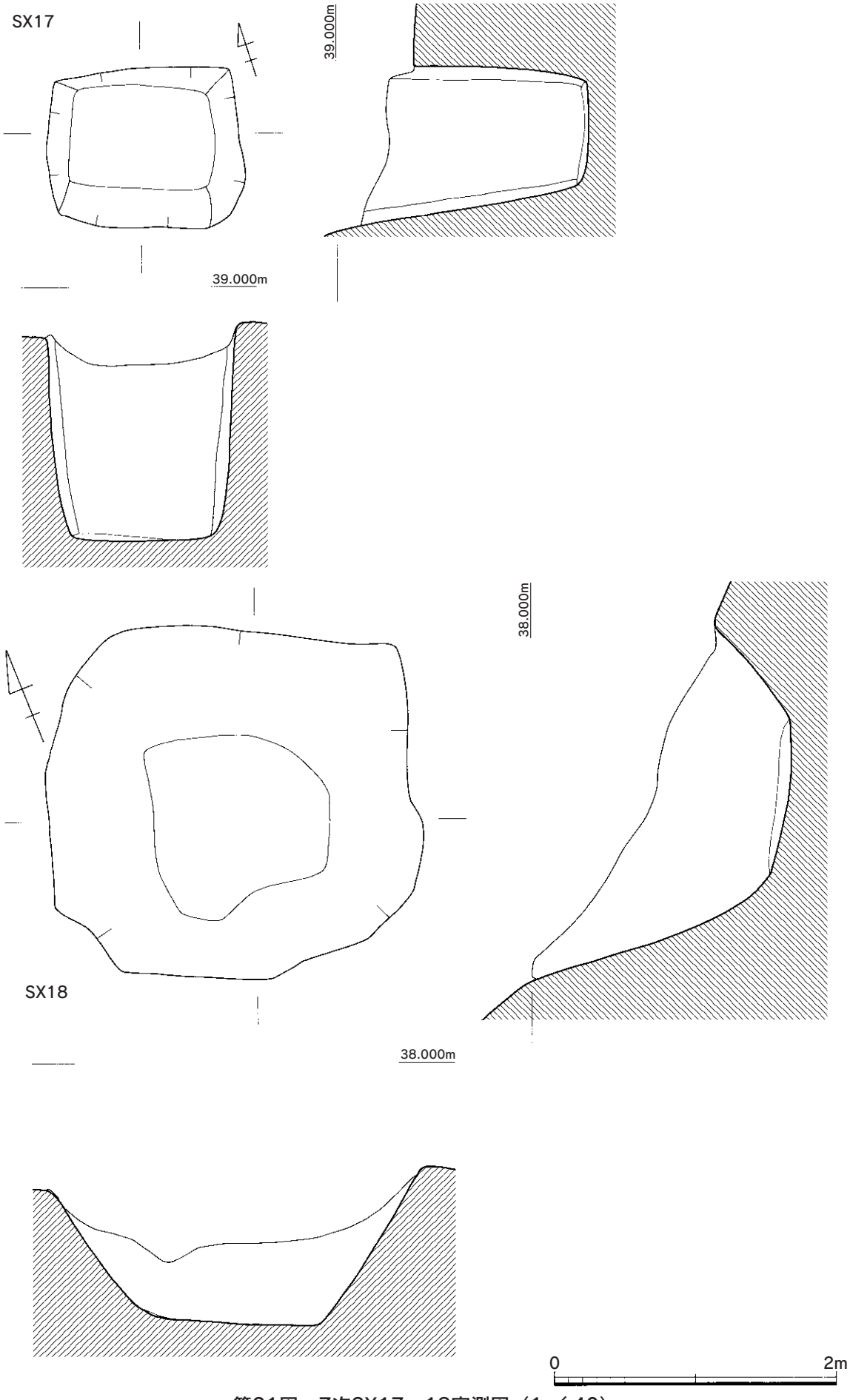
1.灰白色土2.5Y7/1　砂質土。
2.黒色土10YR1.7/1　粘質土(面的に広がるが部分的)
3.淡黄色土2.5Y8/3　粗砂。しまりなくやわらか。
4.黄灰色土2.5Y6/1　細砂。
5.青灰色土5B6/1　粘質土　グライ化した。
6.褐灰色土10YR5/1　粘質土。
7.灰白色土10YR7/1　粘質土。
8.にぶい黄橙色土10YR7/2　砂質土。
9.明青灰色土10BG7/1　粘質土。(井戸底面の石敷の基層、これをずいぶん下げた)
10.褐灰色土10YR6/1　細砂(マンガン粒を含む)
11.灰白色土10YR7/1　砂質土。
12.灰黄褐色土10YR5/2　砂質土、木質を含む。
13.明赤褐色土2.5YR5/6　粗砂。
14.褐灰色土10YR6/1　砂質土。
15.明青灰色土10BG7/1　砂質土。
16.褐灰色土10YR4/1　砂質土。
17.明青灰色土10BG7/1　砂質土　部分的に褐灰色土を含む。

第18図　7次SX12・13実測図（1／30）

第19図　7次SX12出土遺物実測図①（1／6）



第20図　7次SX12出土遺物実測図②・SX13出土遺物実測図（67・68・72は1／6、69は1／4、他は1／3）



第21図　7次SX17・18実測図（1／40）

プランを呈し、深さは1.84ｍで床面は平らである。ＳＸ17とともに、谷部完掘後に遺構の存在に気がついたため、前後関係は不明である。出土遺物はなかった。（石木）

畝状遺溝（付図）

北側平坦面に位置し、ＳＤ09を切る。南北方向にのびる一群と東西方向にのびる一群がある。形状から、これらを一括して畝状遺構とした。埋土は灰褐色土で、平坦面造成時の耕作痕と考えられる。（石木）

出土遺物（第17図・図版21）

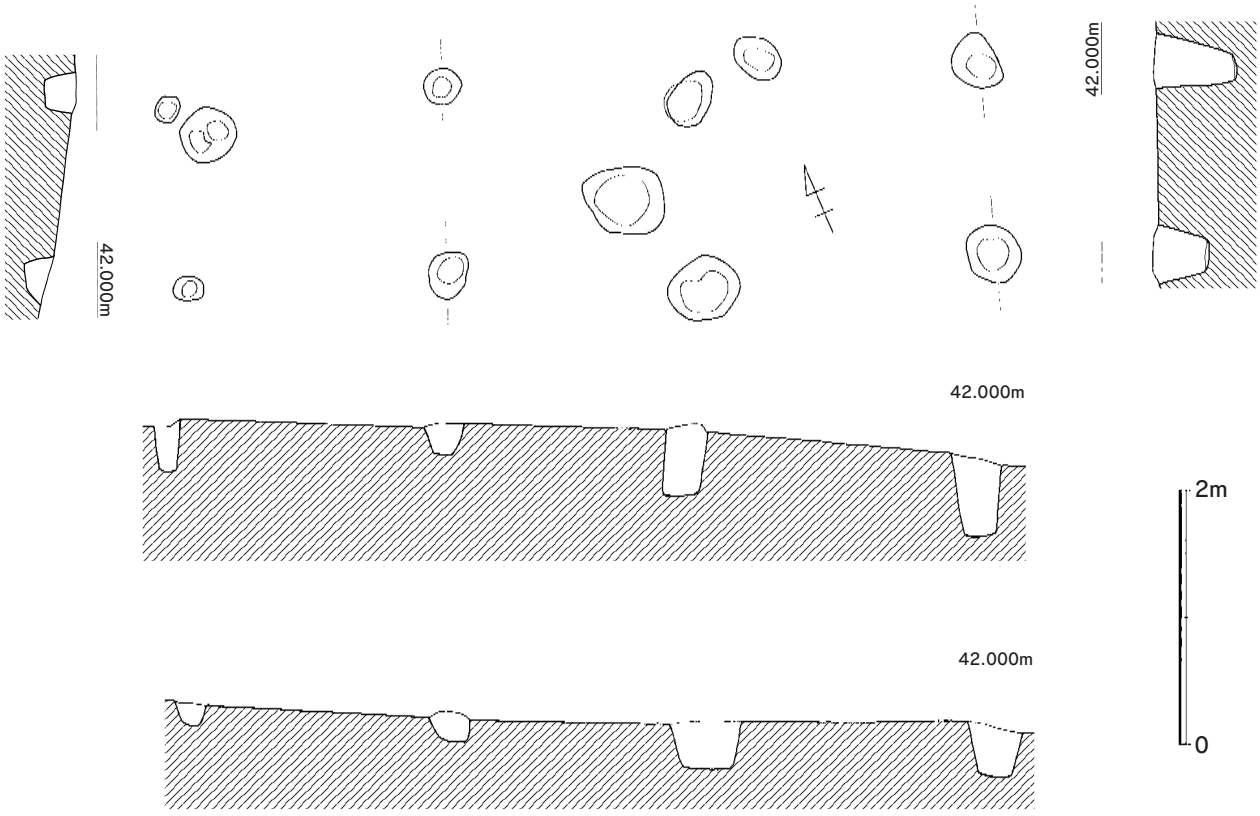
石製品（63・64） 63は厚さ0.6㎝程の扁平な製品で、黒い付着物がみられる。用途不明。64は黒曜石製の石鏃である。側縁に丁寧な調整を行う。（大里）

（6）柱穴列（第22図・図版10）

灰原１の北側で確認された。周囲は完全に削平を受けていたが、埋土は新しいものではなく、掘方もしっかりしていたため遺構として認識した。柱穴はまとまりを見せ、おおむね２列が確認される。柱穴の間隔は２～2.5ｍで、列間の間隔は1.5ｍ前後とほぼ揃っている。各柱穴からは、須恵器・土師器・黒色土器がある。また、図化できなかったが、土師器は杯・小皿・丸底杯を含み、柱穴列とした遺構は11～12世紀の掘立柱建物であった可能性が高いが、削平の度合いが著しく、規模等は不明である。（石木）

（7）灰原

試掘調査で検出し、調査開始当初に灰原として認識したものとして灰原１・２がある。先述のよ



第22図　7次柱穴列実測図（1／60）

うに掘り下げを開始した所、灰層上に奈良・平安時代の堆積層が確認された。このため、調査対象を灰原から谷部全体に切り替えて掘り下げをおこなった。遺物の取り上げは、当初は灰原１・２として層ごとに取り上げをおこなっていたが、谷部全体の掘り上げに取り掛かってからは灰層を含めて全体の層序に合わせ取り上げをおこなっている。以下では、灰原１・２の検出時から掘り下げと遺物取り上げまでの状況を明らかにしておく。また、整理作業時の混乱を避けるため灰原として取り上げた遺物と谷部で取り上げた遺物に分けて報告し、相互の層序の対応関係について記しておく。なお、灰原３としたものは谷部Ｅ区北側斜面にわずかに炭層の広がりを確認したものである。範囲は狭く、境がはっきりしなかったため、平面・土層の実測はおこなえなかった。　（石木）

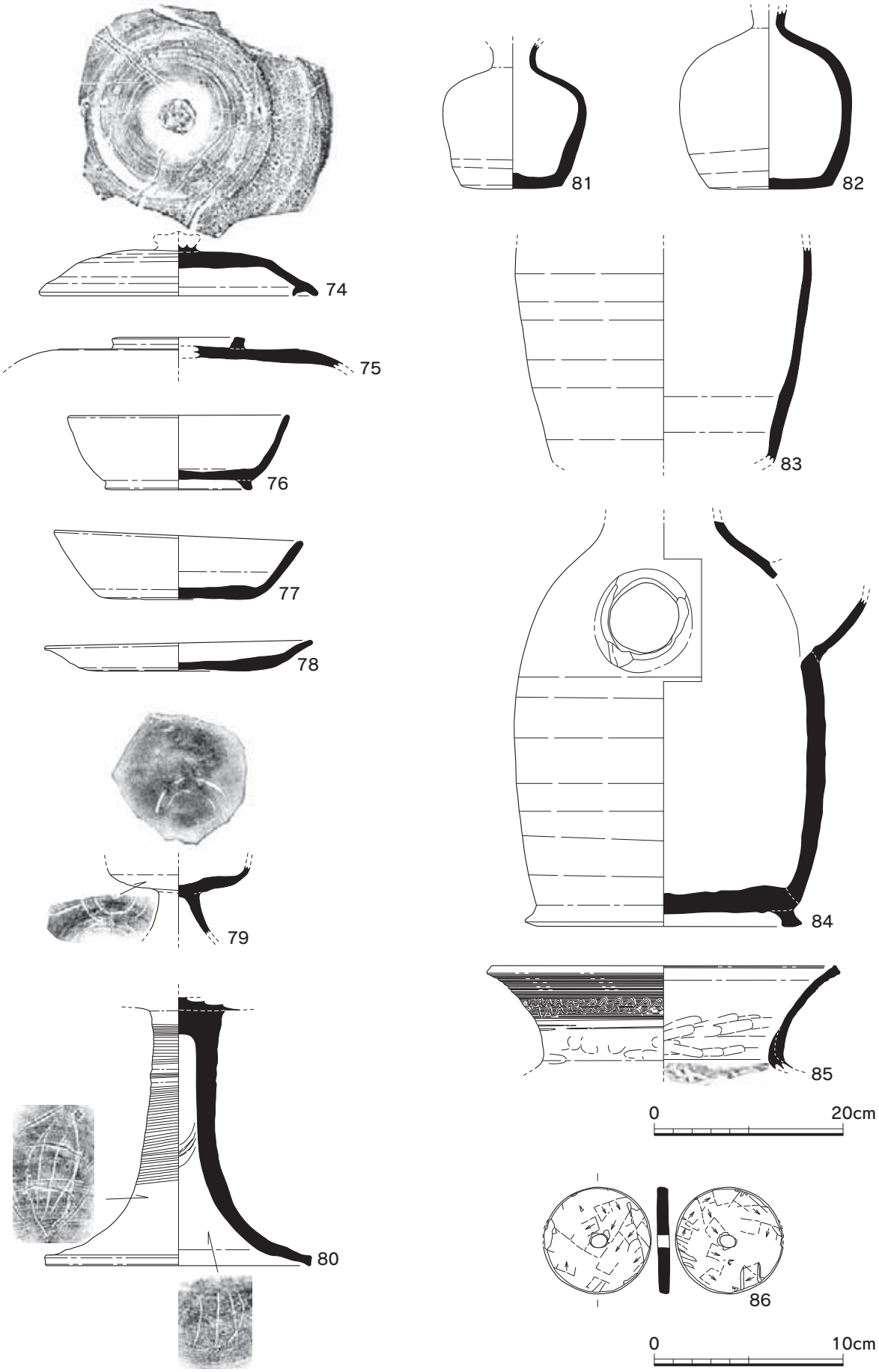
灰原１（付図・図版11）

灰原１は、柱穴列の南側に広がる。調査当初、検出された灰層を４区に分割し掘り下げを開始したところ、奈良・平安時代の堆積層を確認した。このため、灰原横断土層を除去し、当初設定した灰原縦断土層を谷部Ｂ・Ｃ区間土層として谷部Ｂ・Ｃ区の掘り下げをおこなっている。掘り下げの結果、灰原１の範囲は長さ12.0ｍ、幅17.5ｍの範囲で、谷底を埋めている状況が明らかとなった。また、灰層上に窯体の痕跡は一切見られなかったが、前庭部状の浅い落ち込みも確認している。遺物は大量に出土しているが、特に灰原１－１区とした範囲からは大量の土師器がまとまって出土しており、一括して取り上げをおこなった。図は、灰原１出土一括遺物と谷部Ｃ区４層出土一括遺物と分けたが、本来同一のものである。遺物の取り上げは、上層（褐灰色土）、中層（黒色土、灰層）、下層（青灰色土混じりの黒色土）に分けている。谷部の層序と合わせると、上層は１～４層、中・下層は５層と対応する。　（石木）

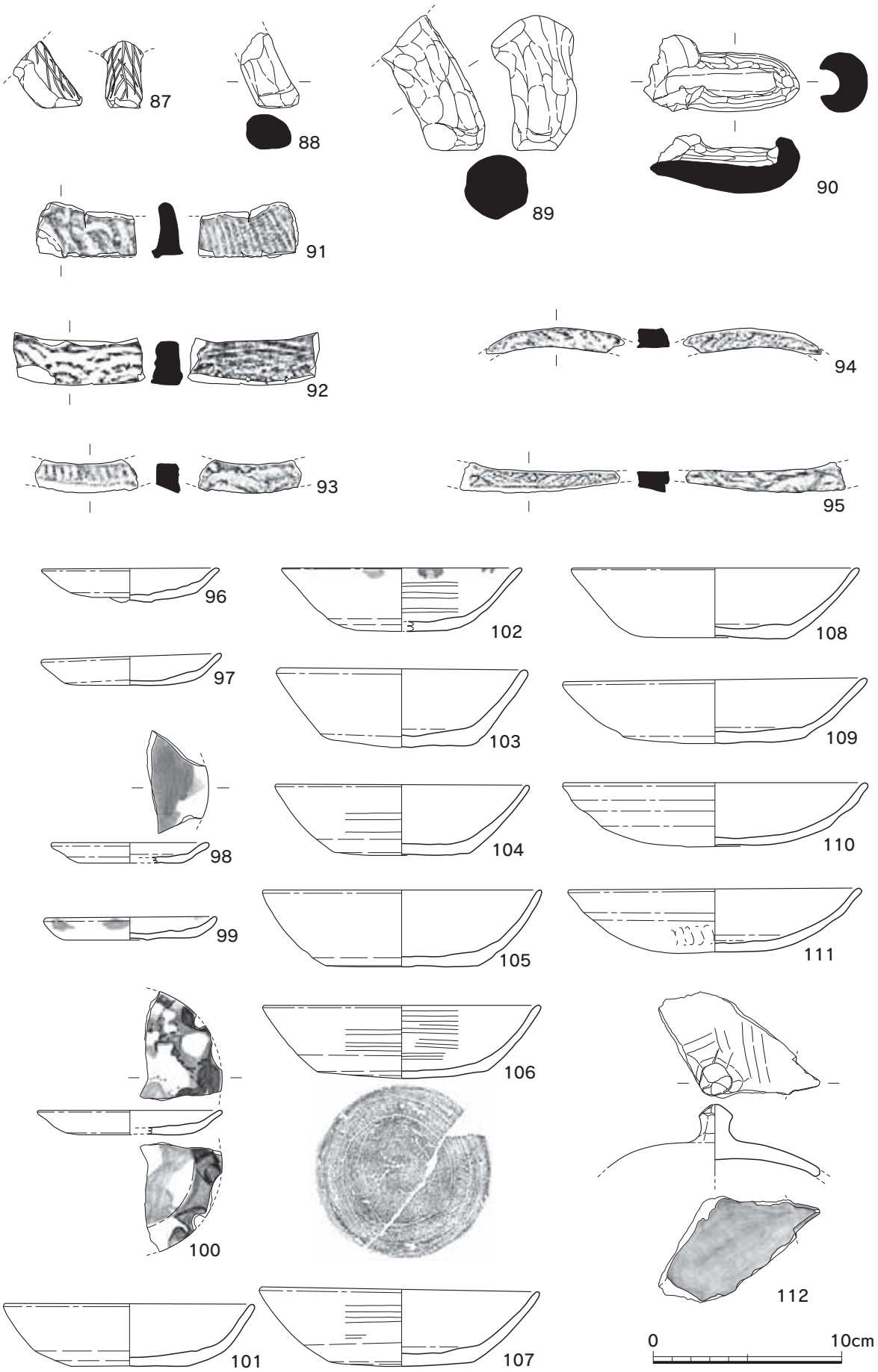
灰原１上層出土遺物（第23 ～ 28図・図版23 ～ 25）

須恵器（74 ～ 95）　74・75は杯Ｂ蓋。74は外面にヘラ記号を施し、75は輪状のつまみを有する。76は杯Ｂ身。高台はハの字に広がり、底部端につく。77は杯である。内外面に煤が付着している。78は皿。体部は外反する。79・80は高杯。79は杯部内外面に半円弧状のヘラ記号を施す。80は脚部外面にカキメを施し、内外面にヘラ記号を施す。81・82は壺。体部下位から回転ヘラケズリを行う。83は体部のみ残存する。壺か。84は多孔瓶。3カ所に径約3.5㎝の孔をもち、１カ所のみ注口の一部が残る。85は甕である。口縁部外面に波状文、体部内面は当て具痕がみられる。86は陶製紡錘車である。厚さ約0.6㎝で、両面静止ヘラケズリをおこなう。87 ～ 89は脚部である。87は表面に線刻が見られる。硯か？ 88・89は土馬。90は中空硯の把手である。91 ～ 95は甕の切削物である。

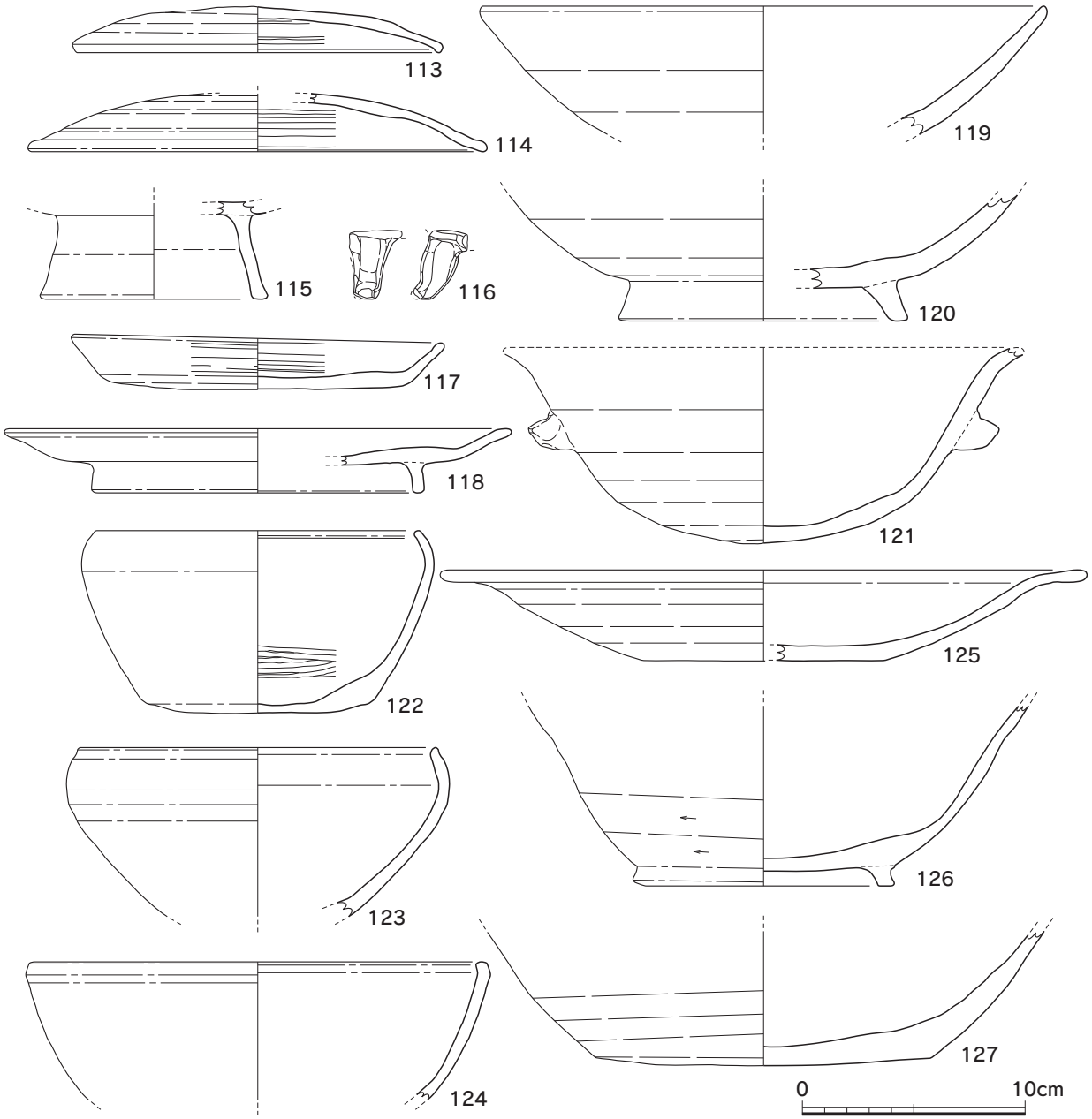
土師器（96 ～ 133）　96 ～ 100は小皿。98は内面に墨痕がみられ、99・100は煤が付着する。いずれも灯明具である。101 ～ 109は杯。102は灯明具で、口縁部に煤が付着。106は底部外面にはヘラ記号とも思われる線刻がある。102は内面、104・107は外面、106は内外面に回転ヘラミガキを行う。110・111は丸底杯である。111は底部に黒斑が見られる。112 ～ 114は蓋。すべて内外面にヘラミガキを施す。112は香炉の蓋である。穿孔を持ち、つまみは工具等で整形されたようである。内面には油煙が付着する。平安後期。115は脚付椀の高台か。高台高は約3.8㎝を測る。116は脚部のみ。埦につくものか？ 117は皿。内外面ともに回転ヘラミガキを施す。118は



第23図　7次灰原1上層出土遺物実測図①（85は1／6、他は1／3）



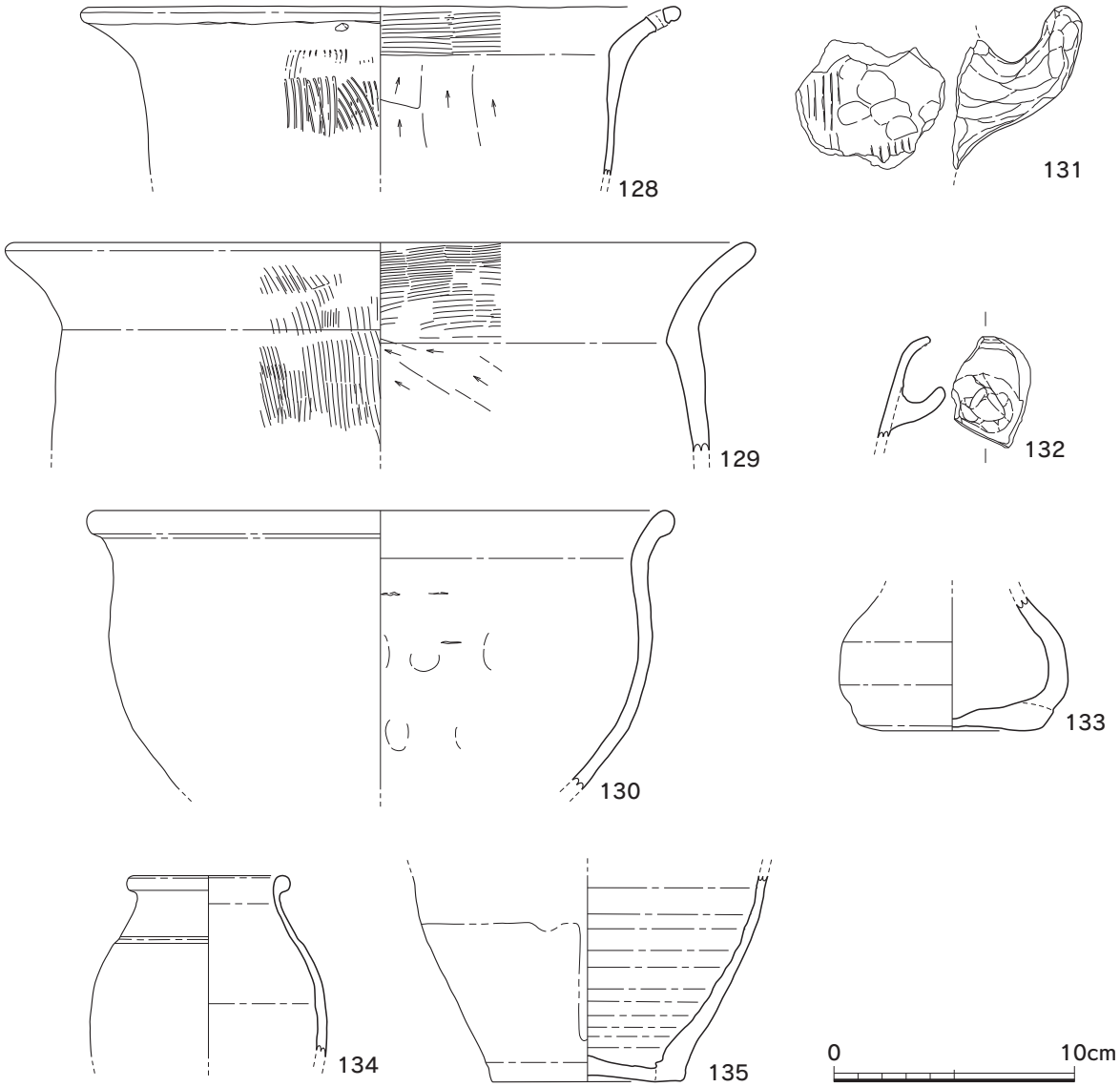
第24図　7次灰原1上層出土遺物実測図②（1／3）



第25図　7次灰原1上層出土遺物実測図③（1 ／ 3）

高台付皿である。119・120は椀で、同一個体と思われる。121 ～ 124は鉢である。121は体部に回転ヘラケズリを行う。121は把手付き。口縁部は外反する。122 ～ 124は鉄鉢形。122は体部内面下方にヘラミガキを行う。125は大皿？口縁部が大きく外反し、上部で平坦面を作る。126は口縁部が大きく外反するタイプの鉢。127は平底に近い。128・129は甕。口縁部に穿孔する。128・129は外面と口縁部内面にハケメ、体部にヘラケズリを行う。125は大皿？ 128 ～ 130は甕である。131は甑把手である。内面一部にハケメがみられる。132は鉢の把手で、器壁が薄い。口縁部が外反する。133は壺である。体部最大径を中位にもつ。

陶磁器（134･135）　いずれも中国産陶器壺。134は内外面施釉。口縁部は玉縁状で厚みがある。135は体部外面中位まで施釉。内面無釉。底部は僅かに上げ底になる。



第26図　7次灰原1上層出土遺物実測図④（1／3）

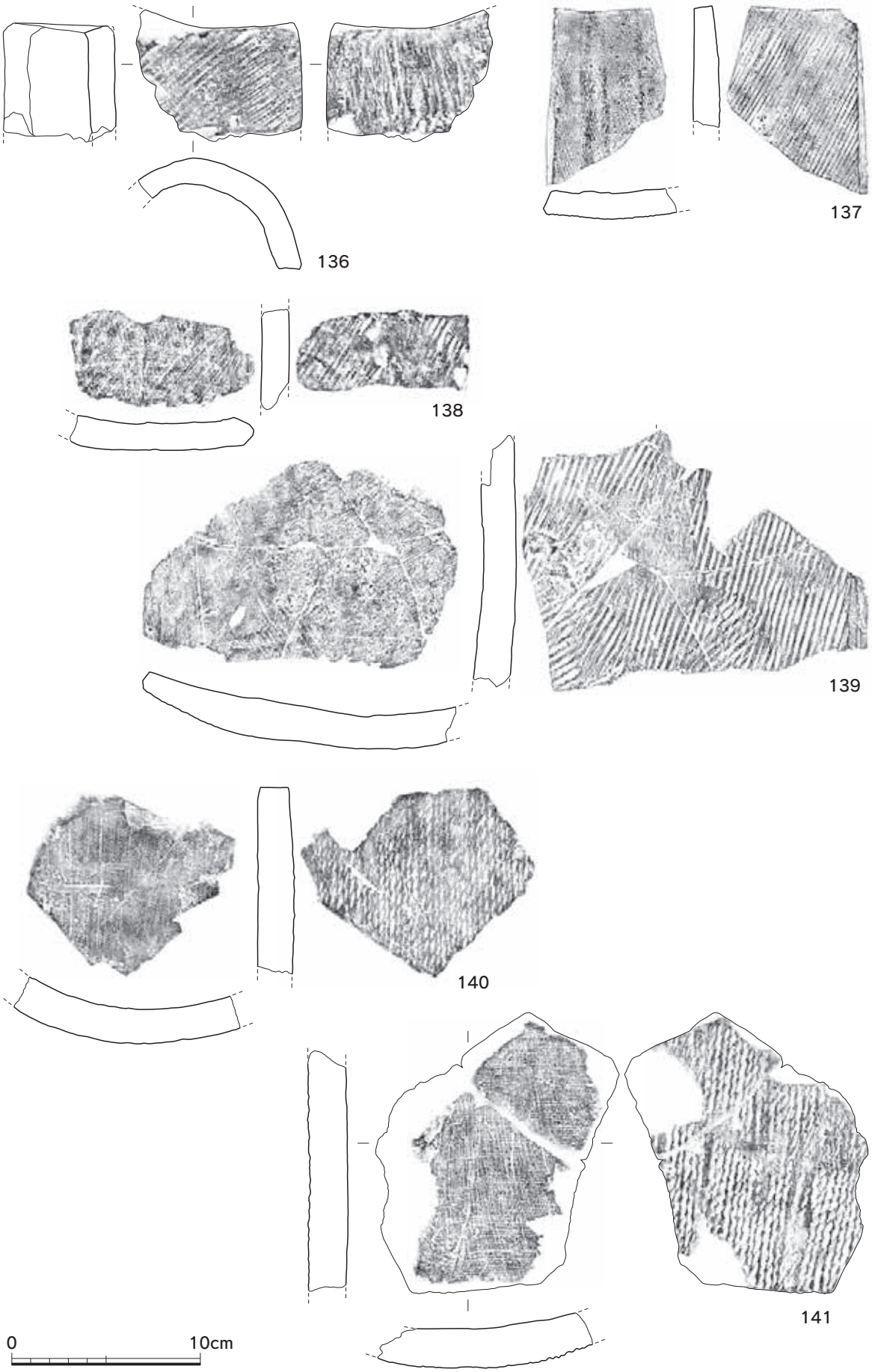
瓦（136 ～ 141）　136は丸瓦。凸面は平行タタキ、側縁をヘラ切りする。137 ～ 141は平瓦。137 ～ 139の凸面は平行タタキ。137・138は凹面に模骨痕が認められる。139の凸面は平行タタキ、凹面は布目痕がつく。140・141は凸面に縄目タタキ、凹面に布目痕がみられる。

石製品（142・143）　142は滑石製石鍋の転用品である。143は砥石。4面を使用。一部欠損後に再度利用している。

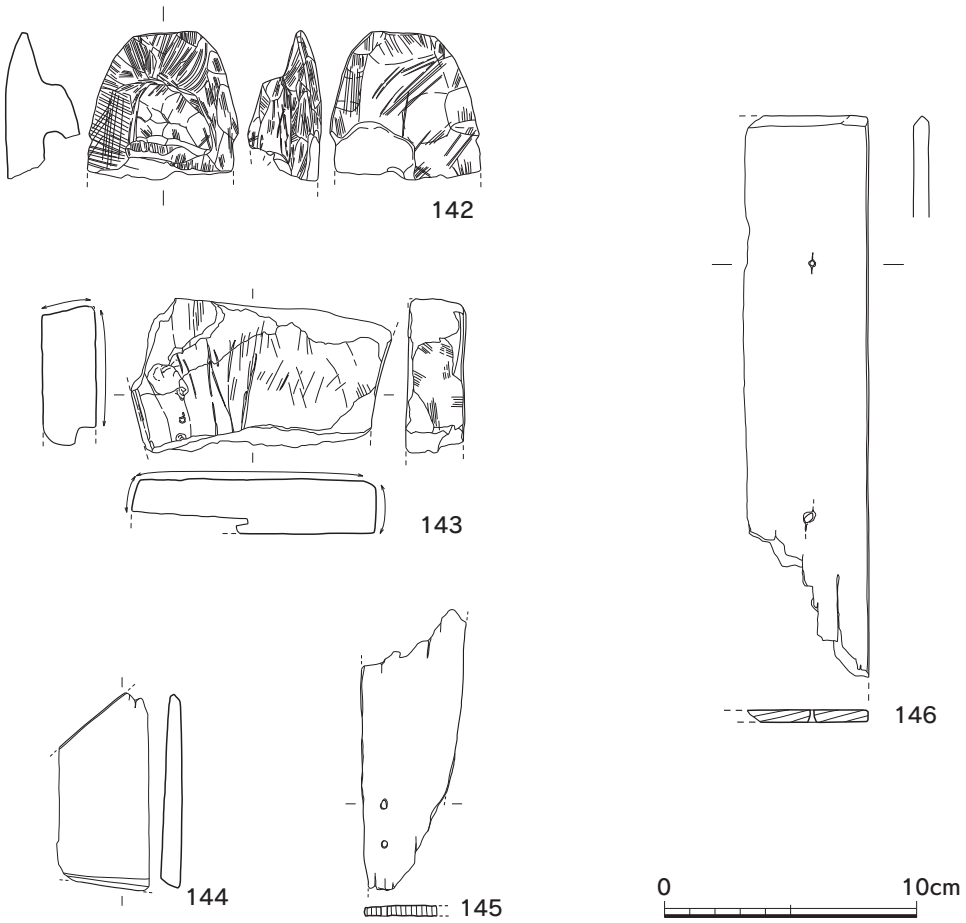
木製品（144 ～ 146）　いずれも用途不明。145・146は下方に2つの穿孔がある。

灰原1中層出土遺物（第29 ～ 31図・図版25）

須恵器（147 ～ 171）　147 ～ 155は杯蓋である。147 ～ 153は杯H蓋。147 ～ 151・153は天井部外面にヘラ記号を施す。149の天井部はヘラ切りを行う。154・155は杯G蓋である。155の天井部外面は静止ヘラケズリを行う。156 ～ 164は杯H身である。157の底部は回転ヘラケズリ、164は静止ヘラケズリを行う。159・161 ～ 164は底部外面にヘラ記号がみられる。165 ～



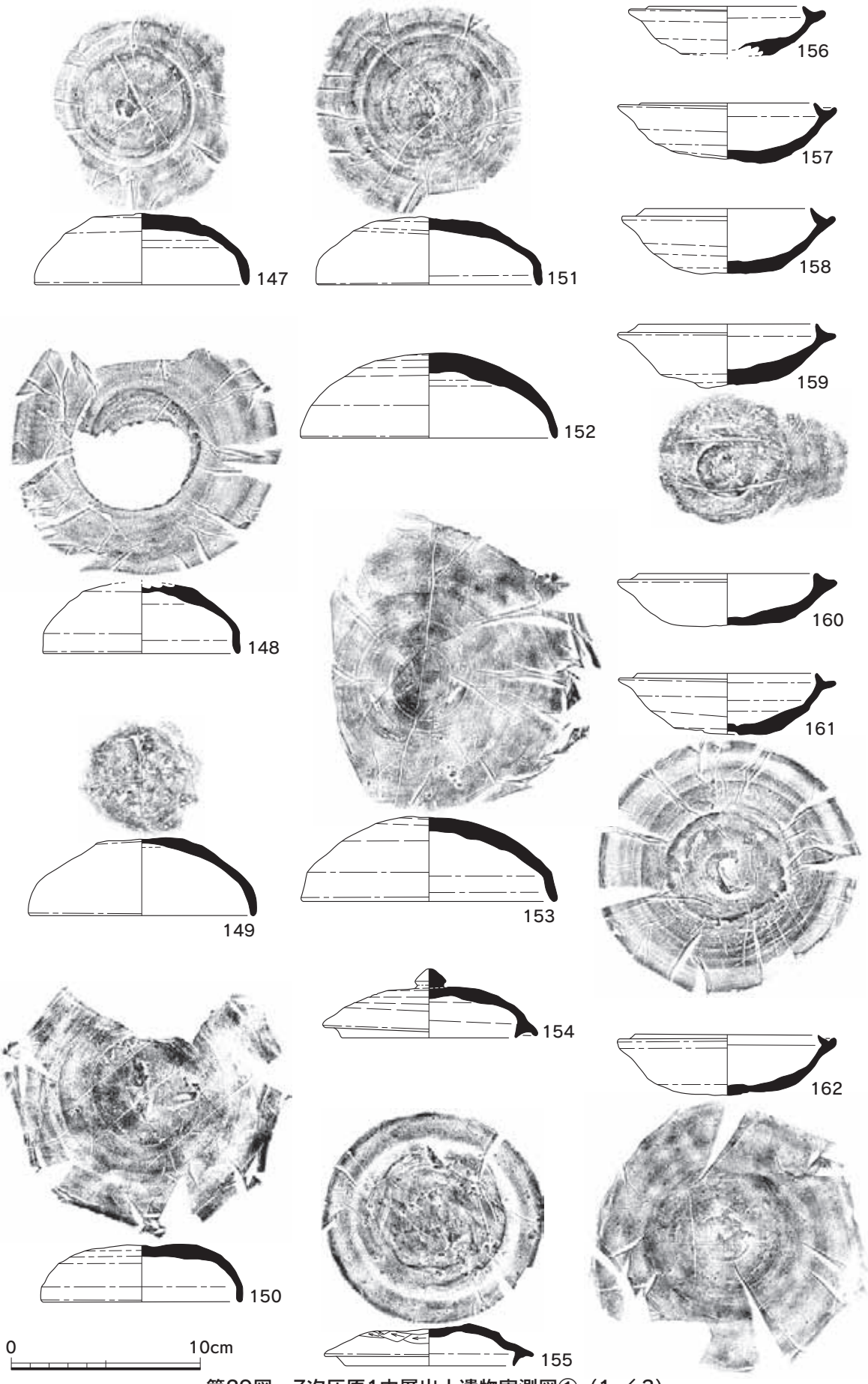
第27図　7次灰原1上層出土遺物実測図⑤（1／3）



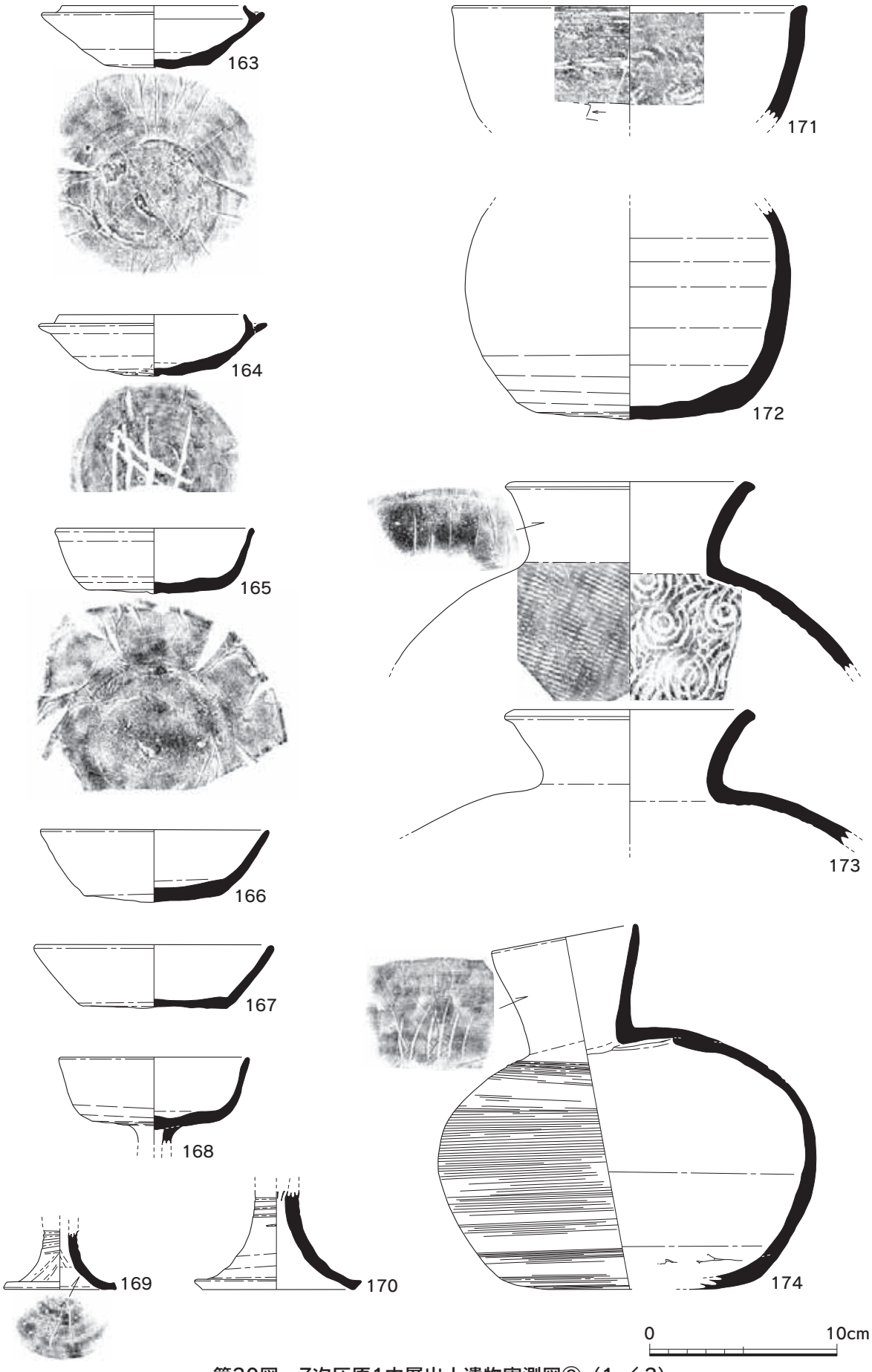
第28図　7次灰原1上層出土遺物実測図⑥（1／3）

167は杯である。165は底部外面にヘラ記号を施す。168 ～ 170は高杯である。168は杯部で、杯部下方から底部にかけて回転ヘラケズリを行う。169・170は脚部。沈線が3重にめぐる。169は裾部内面にヘラ記号を施している。170は裾端部が跳ね上がる。171は鉢である。体部外面タタキ、内面当て具痕が残る。体部外面は静止ヘラケズリを行っている。172は壺か。体部下方から底部は回転ヘラケズリを行い、体部最大径はほぼ中位にある。173は横瓶である。口縁部外面にヘラ記号を施す。174は平瓶で、体部にカキメ、口縁部外面にヘラ記号を施す。175は甕。沈線間に斜線文を施し、ボタン状の浮文をつける。176は大甕。復元口径44.5㎝を測る。沈線間に斜線文を施す。177は、硬質に焼成されることから須恵器とした。手づくね整形を施し、多くの凹凸が認められる。用途不明であるが、余った粘土を焼成したものか？

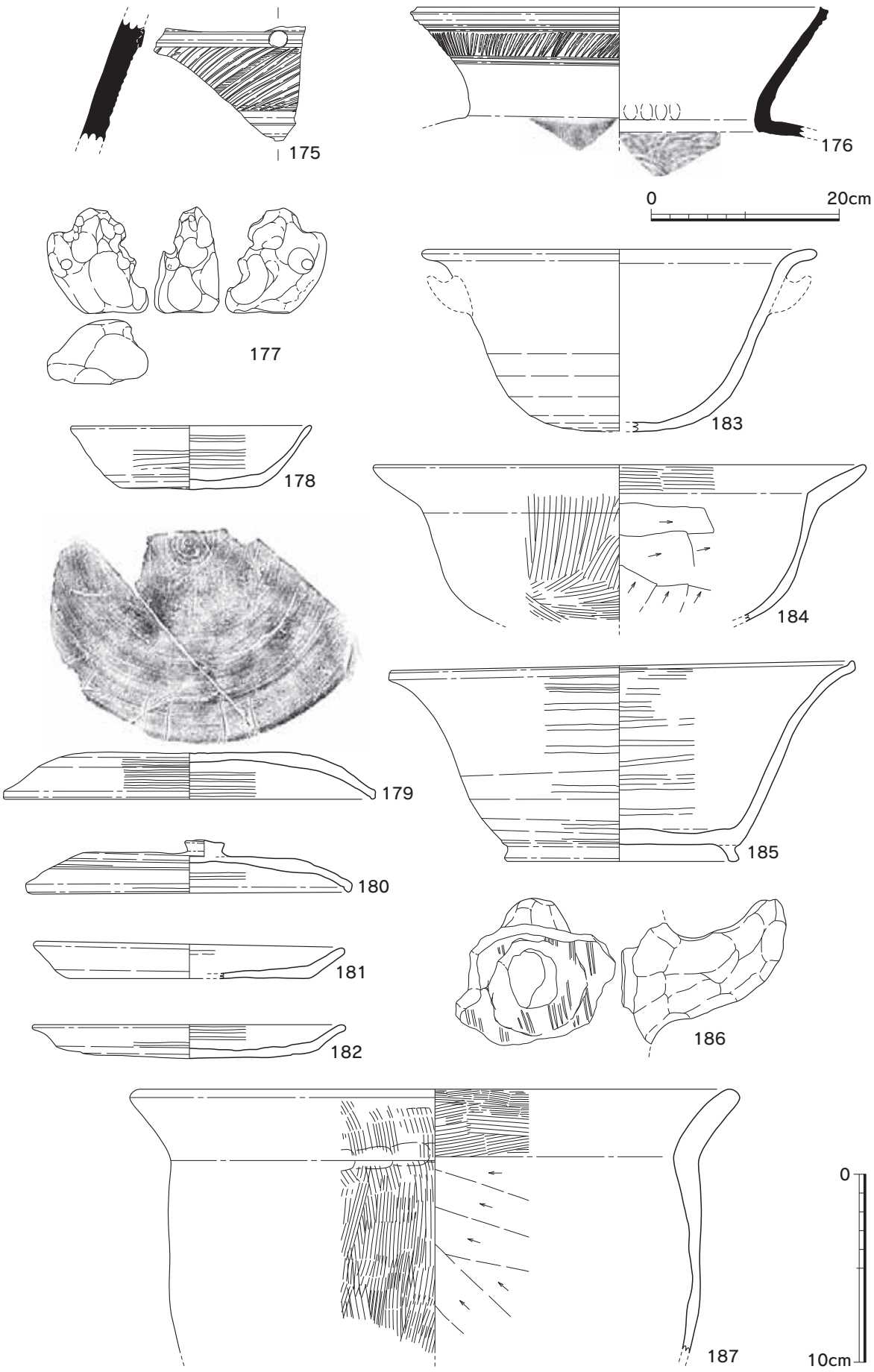
土師器（178 ～ 187）　178は杯。内外面ともヘラミガキを施し、体部外面下方から底部にかけて回転ヘラケズリを行う。179・180は蓋。天井部外面に回転ヘラケズリを行い、内外面ともに回転ヘラミガキを行う。179はつまみを失うが、天頂部に接合痕がみられる。181・182は皿。181は内面の一部にヘラミガキが残る。182は内外面ともヘラミガキを施し、体部が外反している。183 ～ 185は鉢。183の口縁部は外反し、体部上位にとっての痕跡がみられる。184は口縁部が外方へ傾く。185の内面は黒色で、内外面ともにヘラミガキを施す。体部は外反し、口縁部は短く立ち上がる。186は差込式の甑把手。187は甕である。口縁部は外反しており、表面は煤が付着している。



第29図　7次灰原1中層出土遺物実測図①（1／3）



第30図　7次灰原1中層出土遺物実測図②（1／3）



第31図　7次灰原1中層出土遺物実測図③（176は1／6、他は1／3）

灰原１下層出土遺物（第32図・図版26）

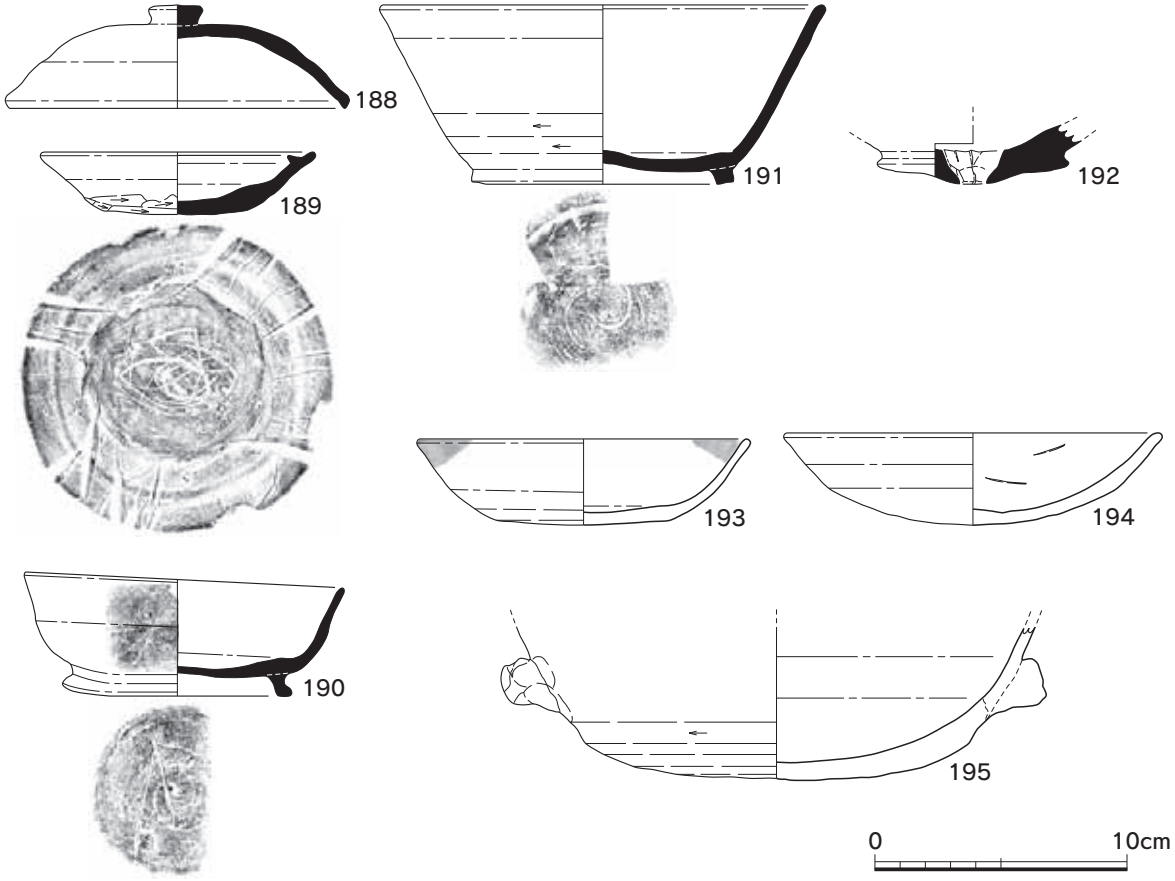
須恵器（188 ～ 192） 188は杯B蓋。天井部は丸みがあり、高い。189は杯H身。底部外面静止ヘラケズリを行う。190・191は杯B身。190は体部と底部にヘラ記号を施す。191は高台が底部端につき、内端部で接地。底部外面にヘラ記号を施す。192は底部内面から穿孔する。器種不明。

土師器（193 ～ 195） 193は杯。体部外面下方から回転ヘラケズリを行う。口縁部に煤が付着する。194は丸底杯。内面は摩滅のため調整不明である。195は鉢か。把手は低位置につく。

灰原１一括出土遺物（第33図・図版26）

須恵器（196 ～ 198） 196は杯Ｂ身。高台は低く、底部端につく。197は皿。転用硯で、内面に墨痕がみられる。198は壺。体部最大径を中位に持つ。

土師器（199 ～ 217） 199 ～ 209は杯。205・207を除いて体部外面下方から回転ヘラケズリを行う。199・201は両面に回転ヘラミガキを施し、202 ～ 204・206・208は内面のみに回転ヘラミガキを施す。208・209は灯明具で、口縁部等に油煙が付着している。210は蓋。全体的に丁寧な調整で体部中央から回転ヘラケズリを行う。211は椀。内外面に回転ヘラミガキを施す。212 ～ 216は皿である。口縁径は16㎝程度で、体部下方から回転ヘラケズリを行う。また212は内面のみ、213・214は内外面に回転ヘラミガキを施す。217は鉢。口縁は外反する。体部中央から回転ヘラケズリを行う。



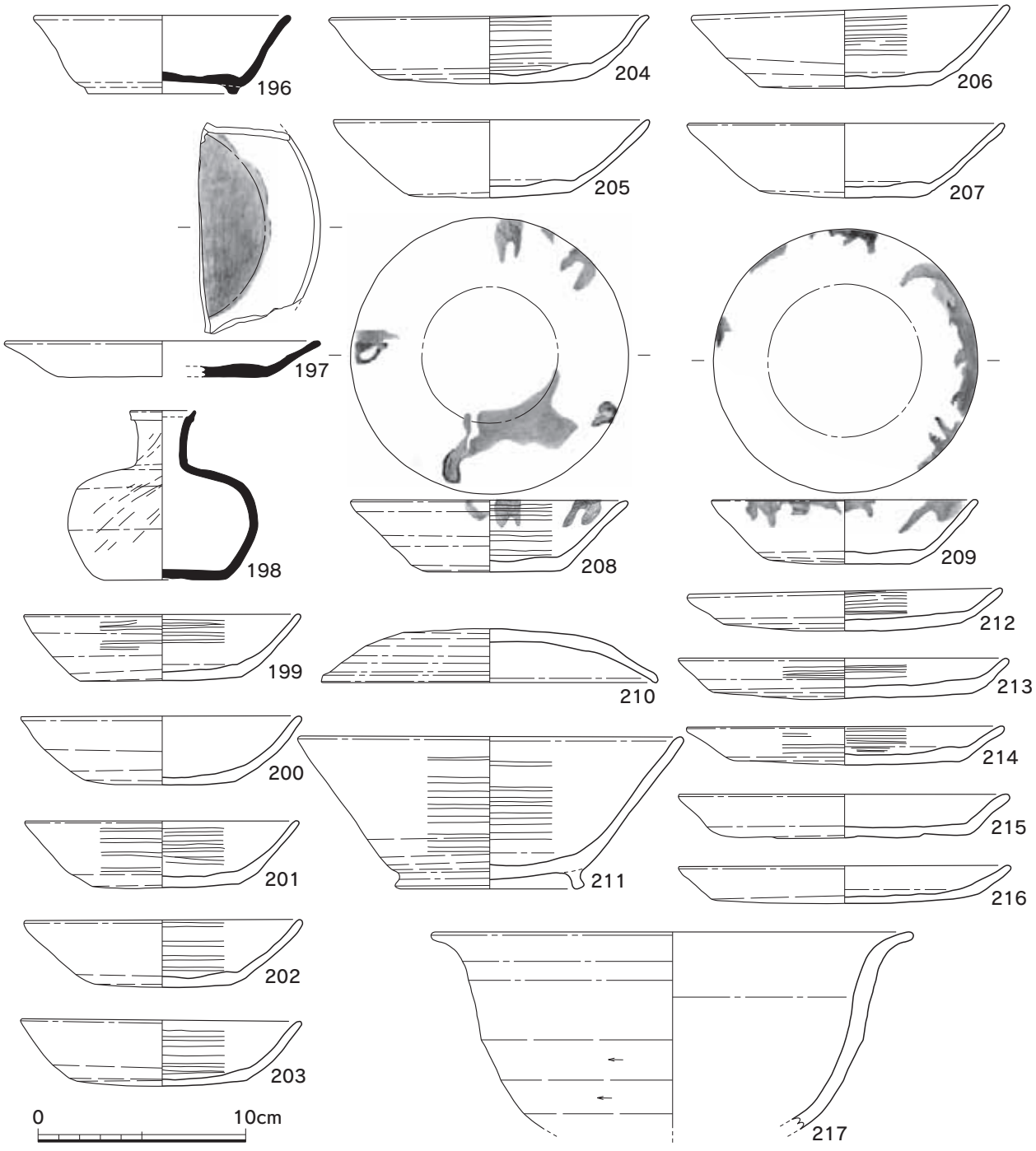
第32図　7次灰原1下層出土遺物実測図（1 ／ 3）

灰原１検出時出土遺物（第34図・図版27）

土師器（218 ～ 220） いずれも丸底杯。底部外面には板状圧痕が見られる。219・220は底部ヘラ切りを行う。

磁器（221 ～ 224） 221・222は白磁椀。221は肉厚な玉縁口縁をもつ。太宰府分類椀Ⅳ類か。222は直口縁で、底部付近で丸みを持つ。太宰府分類Ⅴ－1類か。223は椀で、内面見込みにトチン痕がつく。体部は丸みがある。224は染付。内面見込みと外面高台付近に圏線がみられる。

陶器（225） 甕。口縁部は直立し、口唇部は平らである。産地不明。 （大里）



第33図　7次灰原1出土一括遺物実測図（1 ／ 3）

灰原２（付図・図版11）

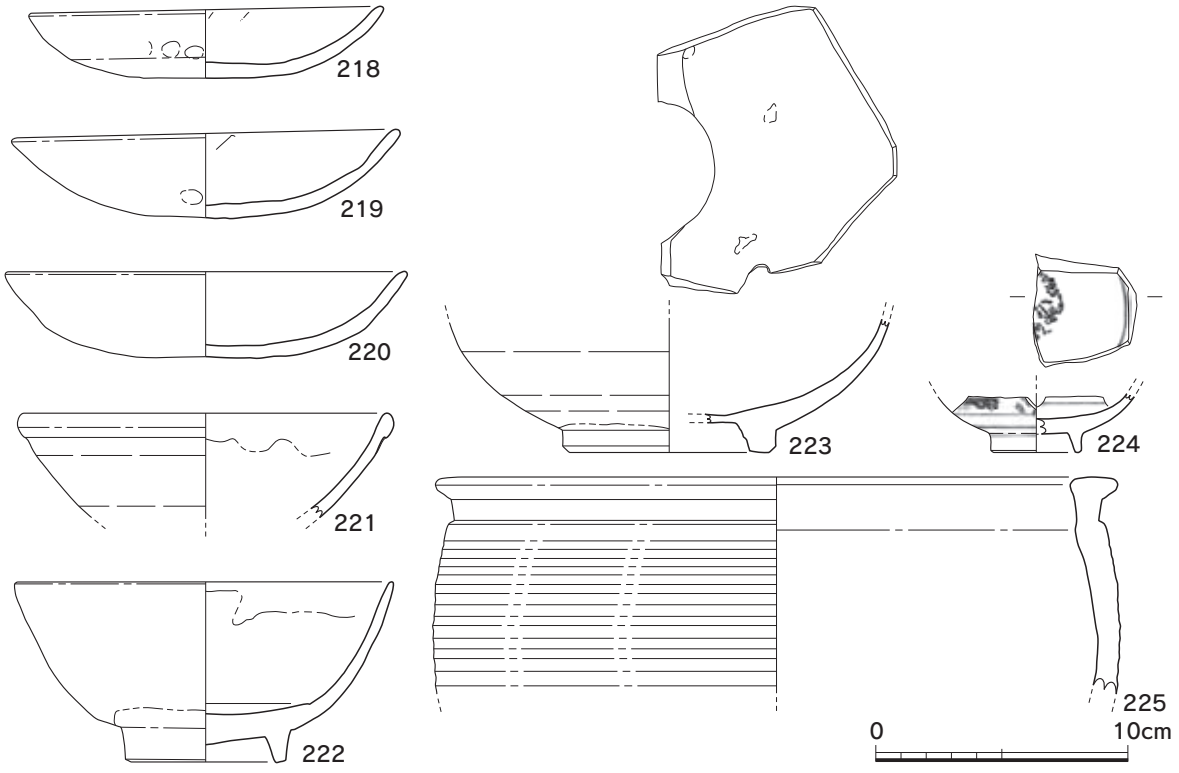
灰原２は、谷部A区北側に広がる。検出時には、谷部A区北側の凹地に３～４ｍの不整形の黒色土の広がりが２ヵ所認められたことから灰原と認識して掘り下げを開始した。掘り下げの結果、土色は灰原１検出の灰層とは異なり、谷部への流入土であると現場段階では判断した。しかし、整理作業の段階で改めて写真を確認すると、谷部A区でも西側に黒色土が谷部斜面に沿って確認できる。斜面上方は完全に削平されており、窯体も確認できなかったが、灰原２が灰原の流れた土である可能性は否定できない。したがって、灰原２とした部分は灰原の可能性があり、上方に窯が存在した可能性を残している。そして、灰原１と合わせて、谷部A～C区北側斜面には複数の窯が存在した可能性もあると思われる。遺物の取り上げは、上・下層に分けておこなった。谷部の層序と合わせると、２～４層にあたるようである。（石木）

灰原２出土遺物（第35図・図版27）

須恵器（226） 杯H蓋である。天井部外面ヘラ切り後、ナデる。

土師器（227 ～ 242） 227 ～ 229は小皿である。底部外面には板状圧痕が見られる。230は杯。底部はヘラ切りを行い、小孔を穿つ。231 ～ 237は丸底杯。232の底部外面には板状圧痕、231・234・236は内面にコテ当てがみられる。238は椀。内外面ともに丁寧なヘラミガキを行う。239・240は椀もしくは杯の脚部。240は内面ヘラミガキを行う。241は椀で、体部内面はヘラミガキを行っている。242は壺。体部全体にナデ、底部に回転ヘラケズリを行う。

磁器（243） 白磁椀である。小さな玉縁口縁を持つ。太宰府分類Ⅱ類か。



第34図　7次灰原1検出時出土遺物実測図（1 ／ 3）

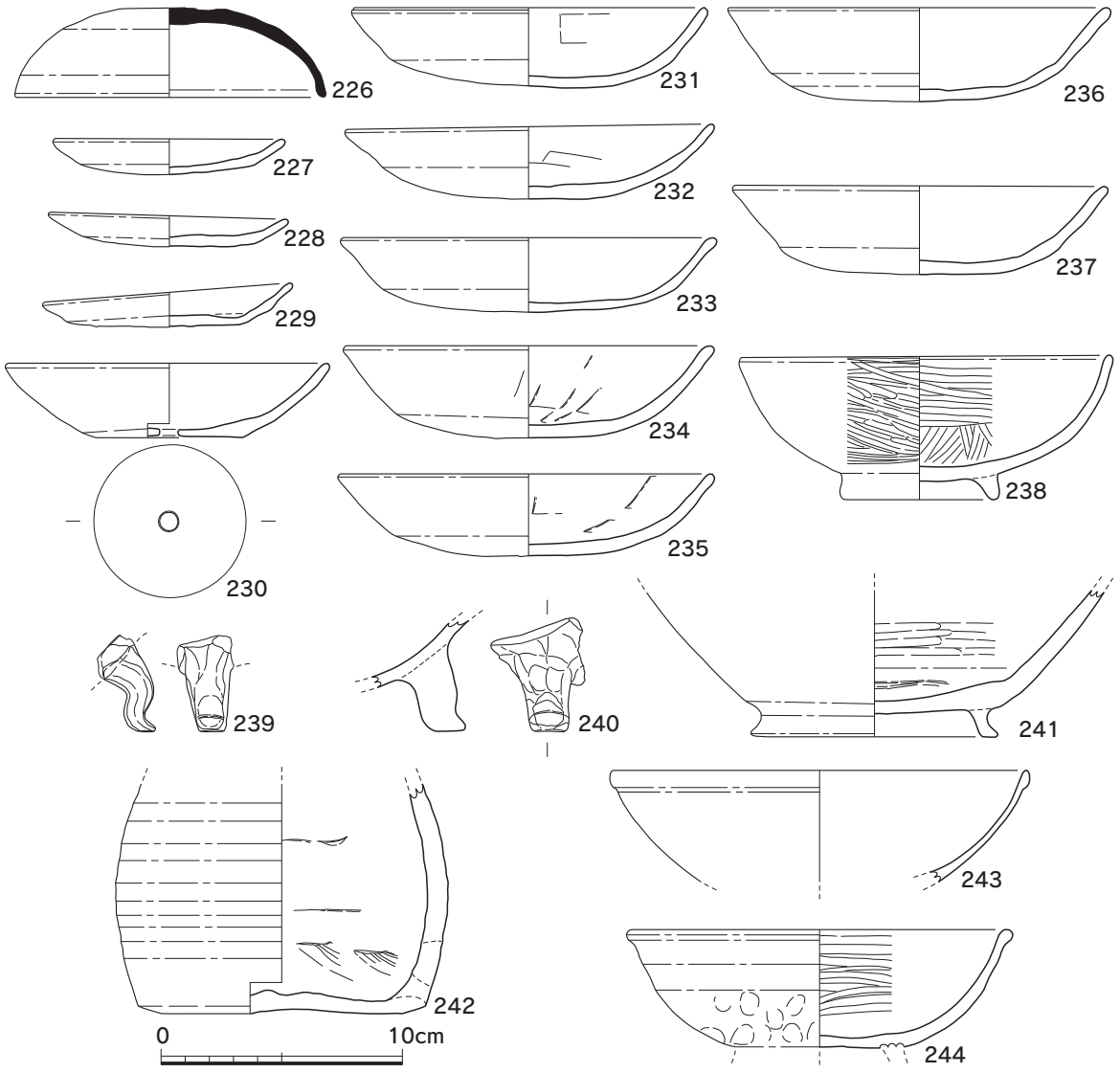
黒色土器（244） A類の椀。口縁部は小さく外反し、内面はヘラミガキを施す。底部外面には板状圧痕がみられる。

灰原３出土遺物（第36図）

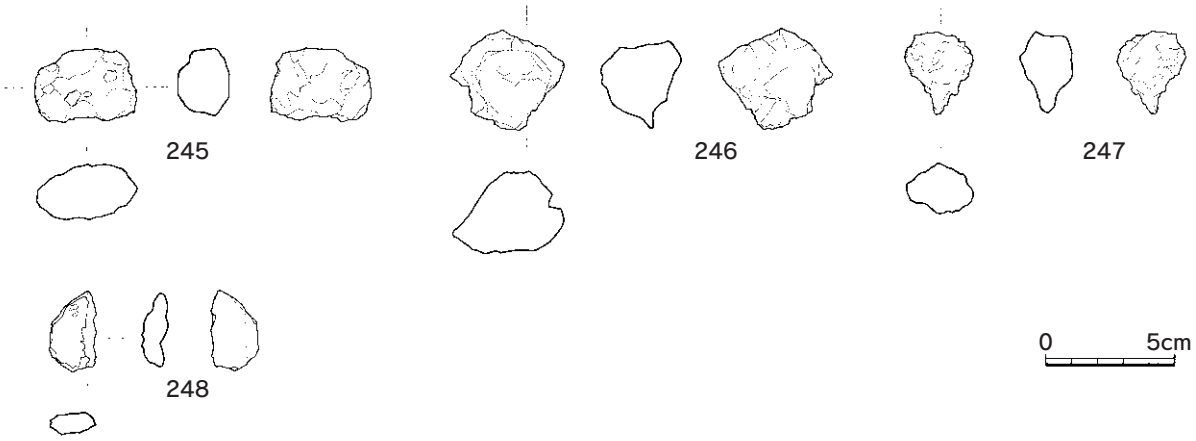
鉄滓（245 ～ 248） 245は強い着磁がみられる。246・248は着磁はみられず、一部に石英粒が付着する。247の球形部は強い着磁がみられるが、突起部はごく僅かである。（大里）

（8）谷部

調査概要で述べたように、谷部は幅10mあまり、長さ80m近く確認された。これを西側からA～Fの６区に分けて掘り下げをおこなっている。掘り下げは、まず西側のA区からとりかかり、西側から順番におこなっていった。遺物は、A区で確認された層位をベースに土質や土色から同一層と判断できるものは異なる区においても同じ取り上げ層名を用いた。また、B～F区で新たに確認された層については、A区で確認された層序との前後関係を確認の上、新たな層名を用いて取り上げをおこなった。さらに、A～F区間のベルトについては、土層実測の結果つけられた土層名と取り



第35図　7次灰原2出土遺物実測図（1／3）



第36図　7次灰原3出土遺物実測図（1／3）

上げ層名を併記した。このように、土層の確認には十分注意を払って掘り下げをおこなったが、調査が東側に移るにつれて層の連続性が確認しづらい部分があった。

このような掘り下げをおこなっていたところ、２・３層間に明確な層界を確認した。２層は木質を多く含む粘質土層であり、３層以下の砂質土とは明らかに異なっていた。また、２層中から木簡の出土があり、内容から何らかの祭祀がおこなわれた可能性が高いことが判明した。このことから、２層は一時的な滞水が確認できる層であり、層の形成にあたっては祭祀行為を伴い、埋没環境はそれ以前と大きな変化があったと考え、A～D区まで確認できた２層を先に掘り上げて、３層上面の地形測量をおこなった。

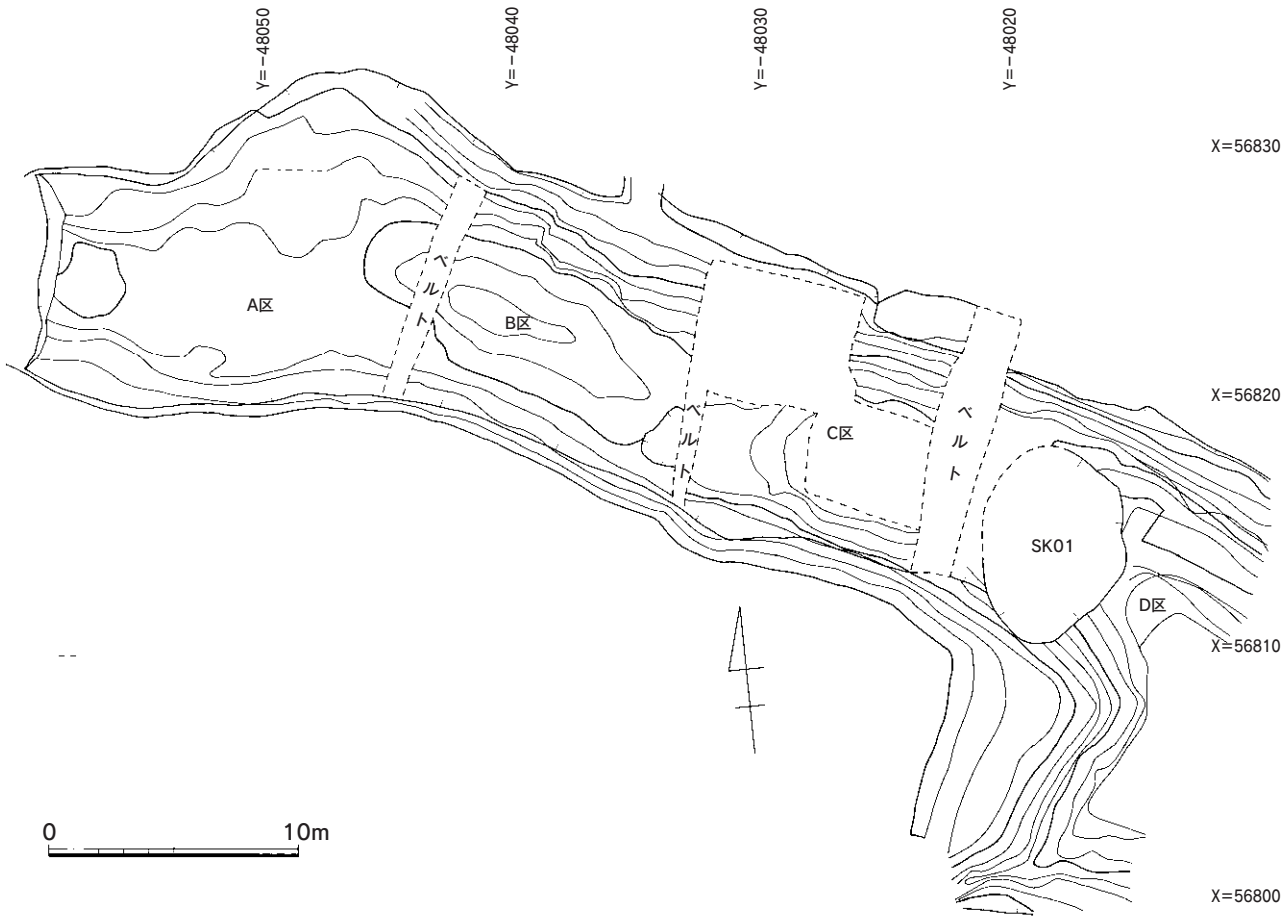
測量の結果、３層上面ではB区を中心として緩やかで浅い溜まりがあり、一旦上がった後にD区へむかって下がることが確認された。さらにD区では、３層上面で径７m超の大きな土坑が確認された。土坑内の埋土は２層と同じであり、大量の土師器小皿・杯と木製品が出土した。このことから、２層形成前に谷部に浅い溜まりがあり、溜まりから下がった所に大きな土坑が掘り込まれていることが明らかになった。土坑は整理段階でＳＫ01とした。完掘した結果、径7.2m前後の略円形プランを呈し、検出面からの深さでも５m近い極めて規模の大きなものであった。土坑床面はほぼ平らであり、掘方は直立に近く、完掘するととても一人では上がれない。２層を掘り下げ測量できたのはＡ～Ｄ区の谷部西半部に止まるが、東半部へは緩やかに下っていくようである。

２層以下を掘り下げると、灰層が確認された。灰層はＡ～Ｃ区までの広い範囲で主として確認され、さらにＦ区まで流れ下っており、これを５層とした。２・５層間には３・４層が確認され、多量の墨書・墨画土器が出土した。３・４層の内、安定して広がるのは４層であり、３層は一部途切れる。５層以下は流滞水が激しく、灰層と粘質土・砂質土が互層に堆積していたことから分層をおこない、遺物を取り上げている。

このように、谷部内は主として２層（粘質土）と灰層（５層）を鍵層として掘り下げをおこなった。以下では、各区の土層堆積状況と谷底部の形状を述べた上で、遺物について層位ごとに報告していき、区ごとの遺物出土傾向の違いを明らかにしてゆきたい。（石木）

谷部Ａ区（第39図・付図・図版12）

Ａ区は最も西側にあたる。谷部はさらに西側へと続き、最終的には本堂遺跡10次調査地までの



第37図　7次谷部2層完掘時地形測量図（1 ／ 300）

第38図　7次谷部2層完掘時実測図（1 ／ 300）

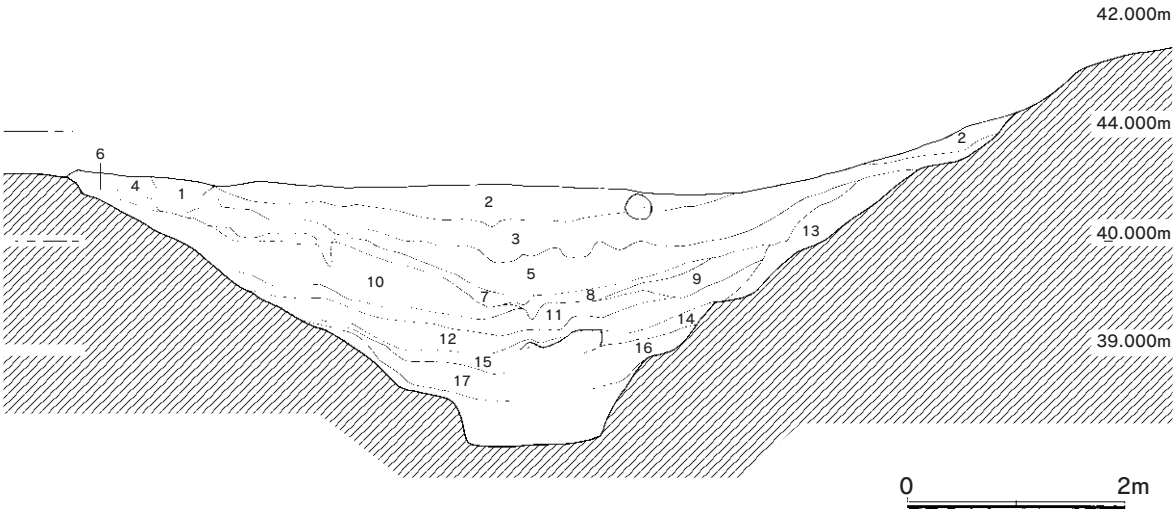
びるが、調査時には石垣が残り、全体を明らかにすることはできなかった。Ａ区は石垣側から１～４区に分けて掘り下げをおこなった。谷部斜面は30°程度と急傾斜であるが、谷底部は平らに近くやや広い。谷の堆積土は灰色砂質土と黒褐色粘質土が互層となり、特に２層とした黒褐色粘質土が厚く堆積している。また粘質土中には、植物遺体も多く含まれていた。Ａ区東側では最下層に灰層が確認され、灰層内から直径が１ｍ近い大木が出土した。樹種はアカガシであり、両端および枝も伐採され、長さ12ｍ以上が確認された。木の下半は丸木の状態で残るが、上半は表皮から芯近くまで失われ平らになっていた。現地での観察では手斧の跡などは観察できなかったが、自然に腐ったものとは考えにくく、その理由については明らかにできなかった。出土遺物には、須恵器・土師器を中心とし、陶磁器も出土した。中でも土師器灯明皿の出土が目立ち、香炉の蓋も出土している。また、木製品ではえぶりを含み、周辺の地形から不似合いな感を受ける。一方、人物を描く呪符木簡が出土しており、祭祀性の強い遺物が目立っている。（石木）

谷部Ａ区１層出土遺物（第40図）

土師器（249） 椀である。高台は低く、ハの字型に広がる。体部に稜をもつ。

谷部Ａ区２層出土遺物（第40・43図・図版27・28）

須恵器（250 ～ 255） 250は杯Ｈ蓋、251は杯Ｇ蓋である。どちらも天井部外面に回転ヘラケズ



1.オリーブ黄色粗砂7.5Y6/3　しまり欠く。灰オリーブシルト7.5Y6/2がうすく層状に入る。粗砂は白色砂（地山由来）が目立つ。（細い溝の埋土）
2.白色粘質土7.5Y5/1、オリーブ黄色5Y6/3の互層　酸化鉄（斑鉄）が目立つ。
3.黄灰色砂質土2.5Y4/1　しまりあり。径1～5mmの白色粒子（地山由来）を多く含む。植物遺体（枝・樹皮など）を少し含む。
4.黄灰色砂質土2.5Y4/1　しまりあり。径1～5mmの白色粒子（地山由来）を多く含む。植物遺体（枝・樹皮など）を少し含む。（つながりは取れないが3層と同層と考えられる）3層より若干砂質が強い。
5.黒褐色粘質土10YR2/2　しまりあり。径1～5mmの白色粒子（地山由来）を少し含む。植物遺体（枝・樹皮など）を多く含む。
6.黒褐色粘質土10YR2/2　しまりあり。径1～5mmの白色粒子を多く含む。植物遺体（枝・樹皮など）を多く含む。5層より若干砂質が強い。（つながりは取れないが5層と同層と考えられる）
7.灰オリーブ色砂質土5Y6/2　しまり若干弱い。径1～5mmの白色粒子を多く含む。上位に黒褐色土10YR2/2が小さなブロック状に少し入る。酸化鉄が入る。
8.オリーブ灰色粘質土2.5GY6/1　しまり弱い。炭化物を少し含む。酸化鉄が発達。
9.灰色砂質土10Y4/1　しまりあり。径1～5mmの白色粒子を多く含む。植物遺体（樹枝）を含む。炭化物を少し含む。酸化鉄が入る。（斜面上からの流入土）
10.灰色砂質土10Y4/1　しまりあり。径1～5mmの白色粒子を多く含む。酸化鉄が入る。下位1/3にオリーブ灰色粘土2.5GY6/1が途切れながら帯状　に少し入る。その上面に植物遺体（樹皮・葉）が乗る。須恵器含む。層の下位1/3で1度堆積が止まり、植物（落葉など）が積もったと考えられる。
11.オリーブ黒色粘質土10Y3/1　しまりあり。径1～3mmの白色粒子を少し含む。炭化物を少し含む。
12.灰色粘質土10Y4/1　しまりやや欠く。径1～3mmの白色粒子・砂粒を多く含む。遺物（須恵器）を含む。安定して上位から土の流入がある滞水状態。
13.灰色砂質土10Y5/1　しまりやや欠く。径1～5mmの白色粒子を多く含む。植物遺体をわずかに含む。酸化鉄が少し入る（斜面上からの流入土）
14.灰色砂質土7.5Y5/1　粘性ややあり。炭化物を多く含む。灰色砂質土7.5Y6/1を上位にブロック状に少し含む。灰色砂質土が15層と推測される。
15.にぶい黄色砂2.5Y6/3　しまり欠く。明黄灰色シルト5BG7/1がうすく（5mm）互層で入る。
16.黒褐色粘土10YR2/2　しまり弱い。木片を多く含む。炭化物を少し含む。褐灰色砂10YR4/1を下位に含む。青灰色砂質土5BG6/1をラミナ状に少し含む。
17.黒褐色粘土10YR2/2　しまり弱い。木片を多く含む。炭化物を少し含む。褐灰～灰黄褐色土10YR4/1～4/2を下位に含む。

第39図　7次谷部A・B区間土層実測図（1 ／ 70）

リを施し、ヘラ記号を施す。252は杯G身。底部と体部の境は丸みがあり、底部が厚い。253は壺か。体部最大径がやや下位に位置する。底部外面にヘラ記号を施す。254・255は切削物である。

土師器（256 ～ 326） 256 ～ 273は小皿。口径約9.3 ～ 10.4㎝程度。258・259・261・262・264・265・268・269は底部外面に板状圧痕が見られる。270は口縁部が外反し、内面に段を有し、「て」の字状を呈する。271 ～ 273は内面に煤が付着している。274 ～ 283は杯。279は体部外面、280・282は内外面に回転ヘラミガキを施す。282は口縁の一部を打ち欠いている。283はやや小型。内面には煤が付着する。284 ～ 311は丸底杯。303・304・309を除いて、内面にコテ当てが見られる。284は底部外面に方形の墨痕がみられる。311は底部内面に墨痕と思われる痕がある。312は蓋の小片。２カ所に小孔がみられ、内面と孔内に煤が付着。香炉蓋か。313 ～ 316は椀。高台はハの字型を呈する。313は高台が低く、体部内外面ともにヘラミガキを施す。316は高台内に線状の墨書がみられる。317 ～ 319は皿。317は内外面ともにヘラミガキを施す。320は鉢。口縁部は短く立ち上がる。体部には内外面ともにヘラミガキを施す。321・322は甕。321は外面に煤が付着している。322の口縁部は屈曲し、外面全体と口縁部内面に煤が付着する。323は鉢。口縁部は外へ広がるようにのびている。内面はヘラミガキを行うか。324・325は甑把手。326は壺。底部外面は回転ヘラケズリ。

黒色土器（327 ～ 336） 327・328はA類の椀。どちらも高台がハの字に広がる。329 ～ 336はB類の椀。329は肉厚で丸い高台を持つ。330は口唇部まで丁寧にヘラミガキを行う。332は内外面に不正方向のヘラミガキを行う。

瓦器（337） 椀。内外面ともにヘラミガキ、体部は丸みがある。

瓦（338） 平瓦である。凸面には平行タタキ、凹面には布目痕がみられる。

石製品（339 ～ 341） 339は砂岩製砥石。４面を使用。340は長さ5.6㎝、幅2.9㎝の長楕円形を呈し、表面は滑らかである。341は滑石製石鍋の底部。

土製品（342） 末広がりに粘土を巻き、ほぼ二等辺三角形を呈している。荒い手捏ねで整形。

木製品（343 ～ 346） 343・344は不明板材。いずれも細かな切込みを入れる。343は一端を細く作りだす。345は刀子の柄。木釘が２カ所にみられる。346は曲げ物の側板である。

木簡（556・557） 556は2号木簡。縦11.7㎝、幅5.4㎝、厚さ0.5㎝。女性かと思われる髪の長い人物像に、「鬼　鬼　急々如津（律）令」と墨書される。557は3号木簡。縦11.3㎝、幅4.75㎝、厚さ0.65㎝。男性かと思われる人物像に603と同じ文言が墨書される。どちらも表面は平滑に仕上げられている。

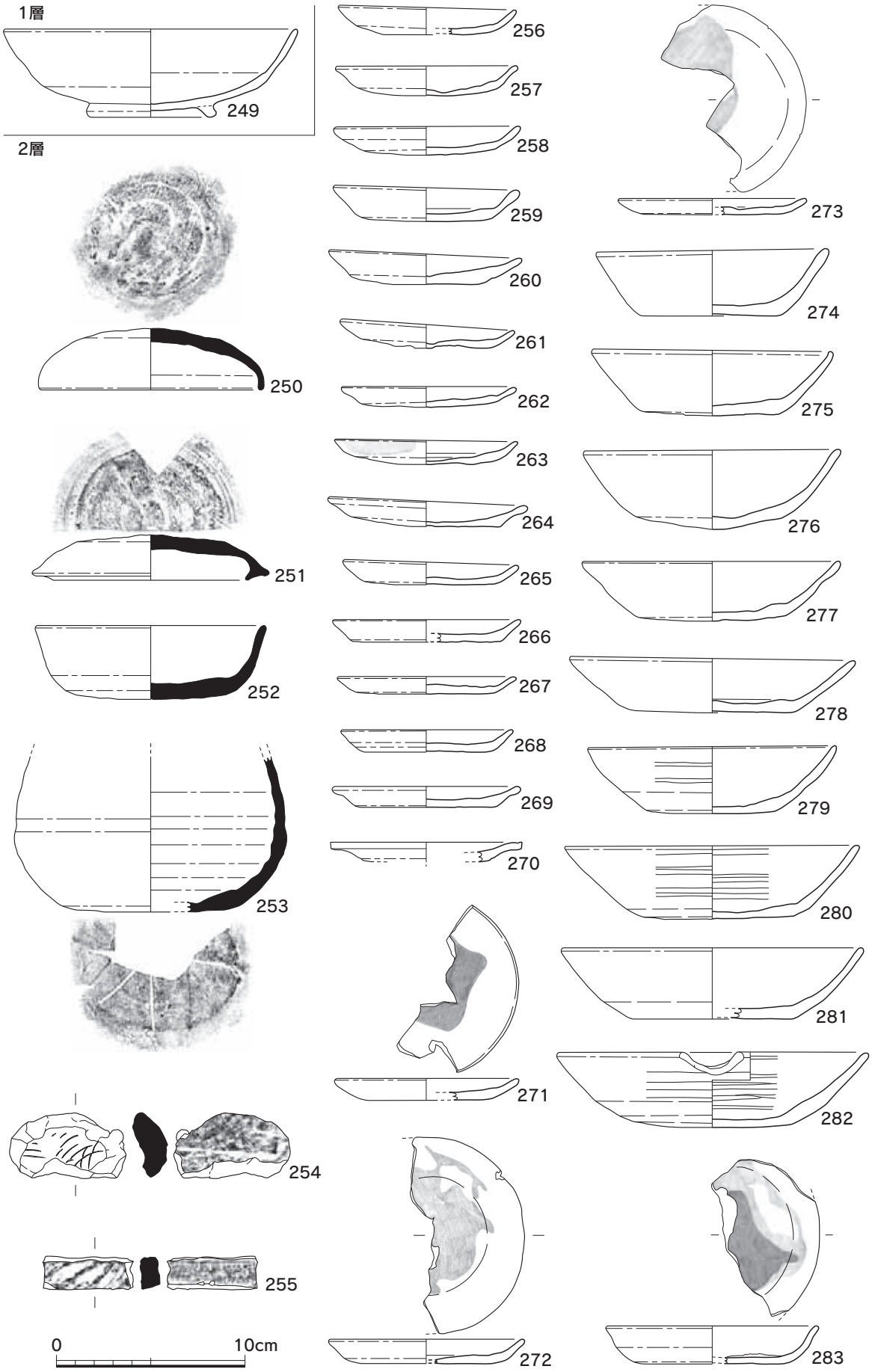
谷部Ａ区3層出土遺物（第44図・図版28）

須恵器（347・348） 347は杯Ｂ身。高台はややハの字に開き、底部端につく。348は壺。底部は静止ヘラケズリを行う。

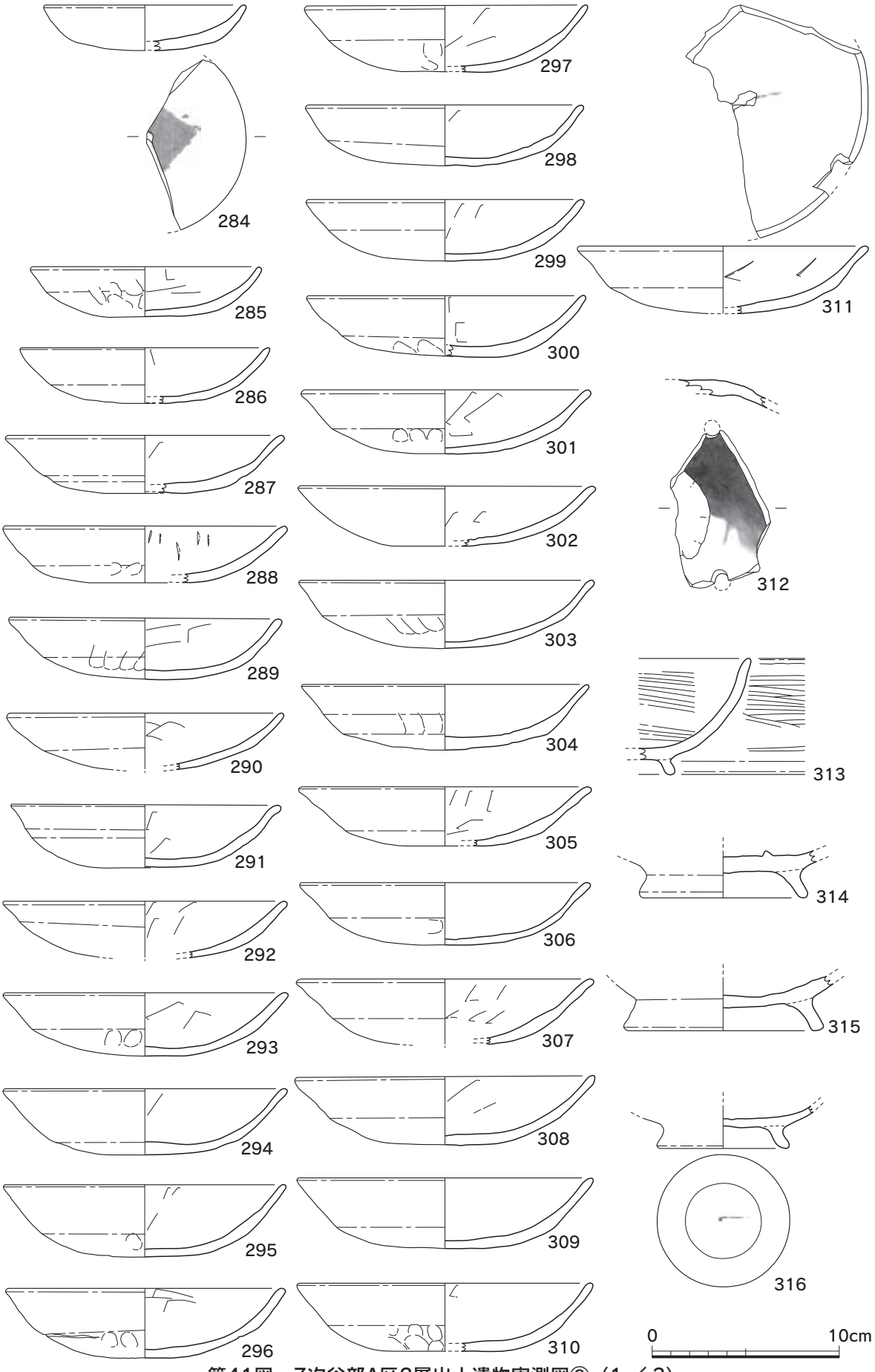
木製品（349） 杭である。先端部は両側を大まかに削って鋭利にする。

谷部A区4層出土遺物（第44 ～ 46図・図版29・30）

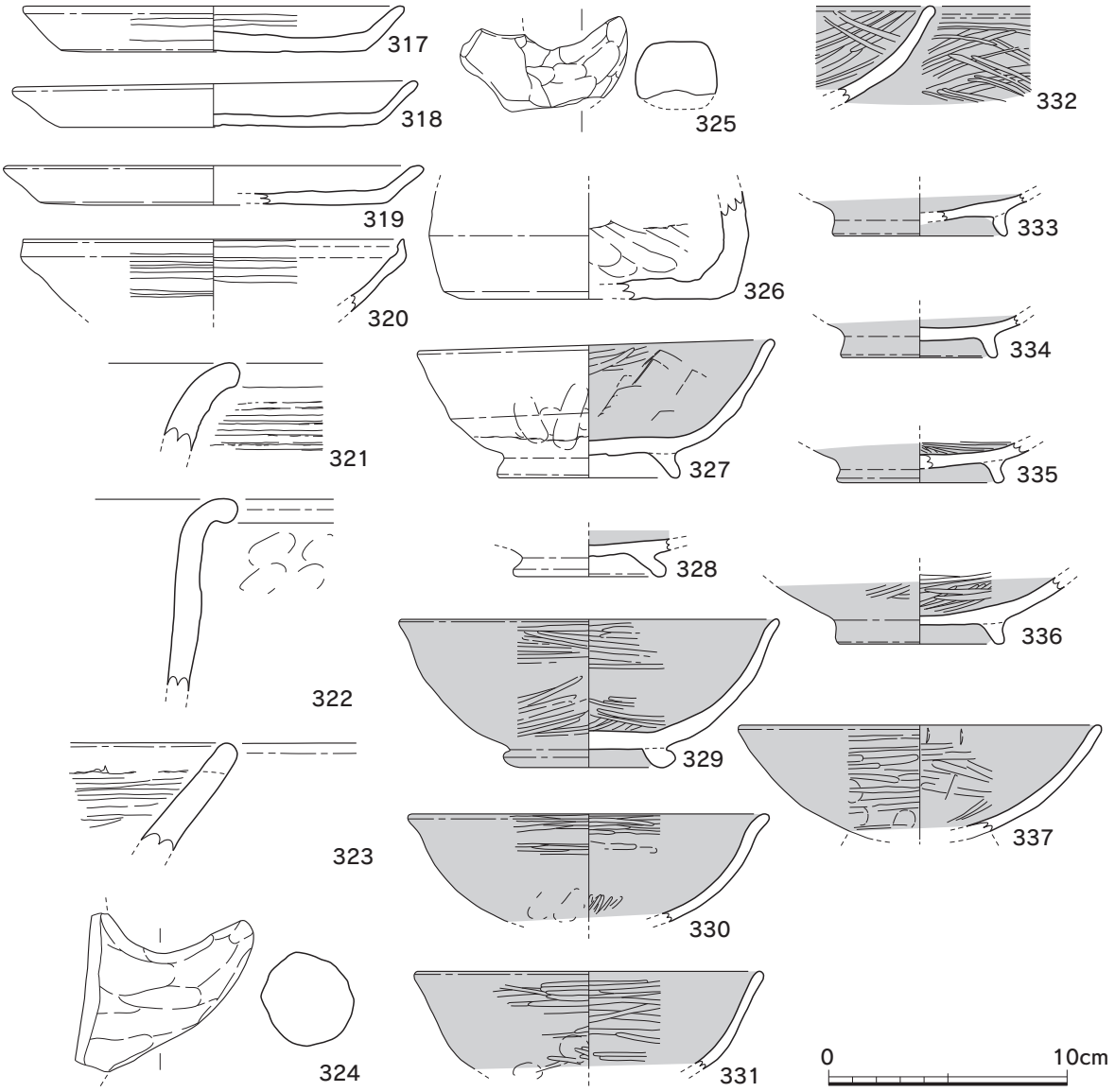
須恵器（350 ～ 366） 350 ～ 360は杯蓋。350 ～ 357は杯Ｈ蓋。352・354 ～ 357は外面にヘラ記号を施す。350は口縁部が外反する。354は口縁部が内傾する。358・359は杯Ｇ



第40図　7次谷部A区1・2層出土遺物実測図①（1／3）



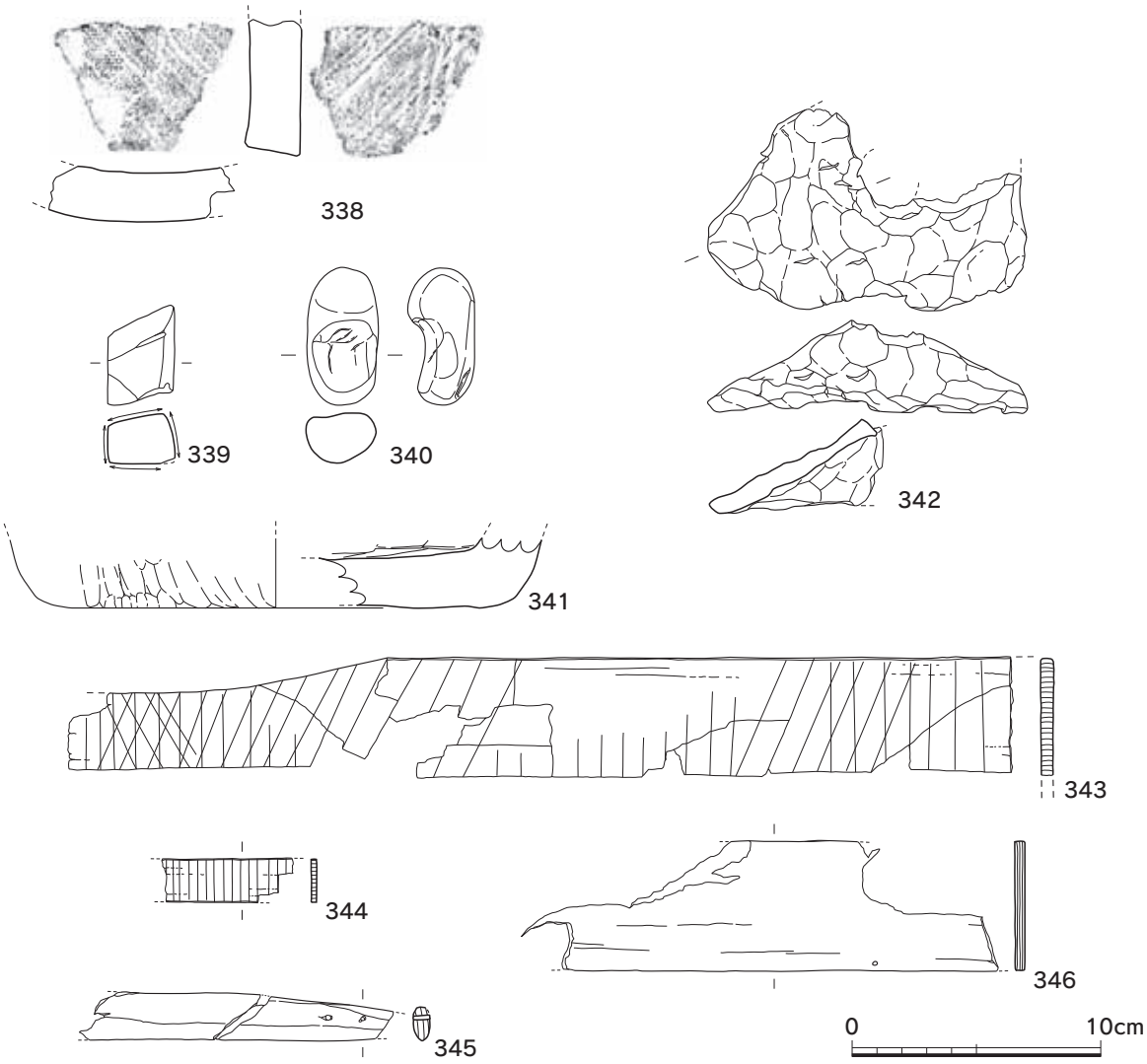
第41図　7次谷部A区2層出土遺物実測図②（1／3）



第42図　7次谷部A区2層出土遺物実測図③（1／3）

蓋。359はつまみがつかない。いずれもヘラ記号を施す。360は外面に煤が付着。361 ～ 363は杯身。361・362は杯H身。いずれもヘラ記号を施す。363は高台が低く、内端部で接地する。364・365は杯。364は表面が摩滅しているため調整が不明瞭である。365は底部内面に「口」の墨書がみられる。366は高杯。杯部外面に回転ヘラケズリを行う。

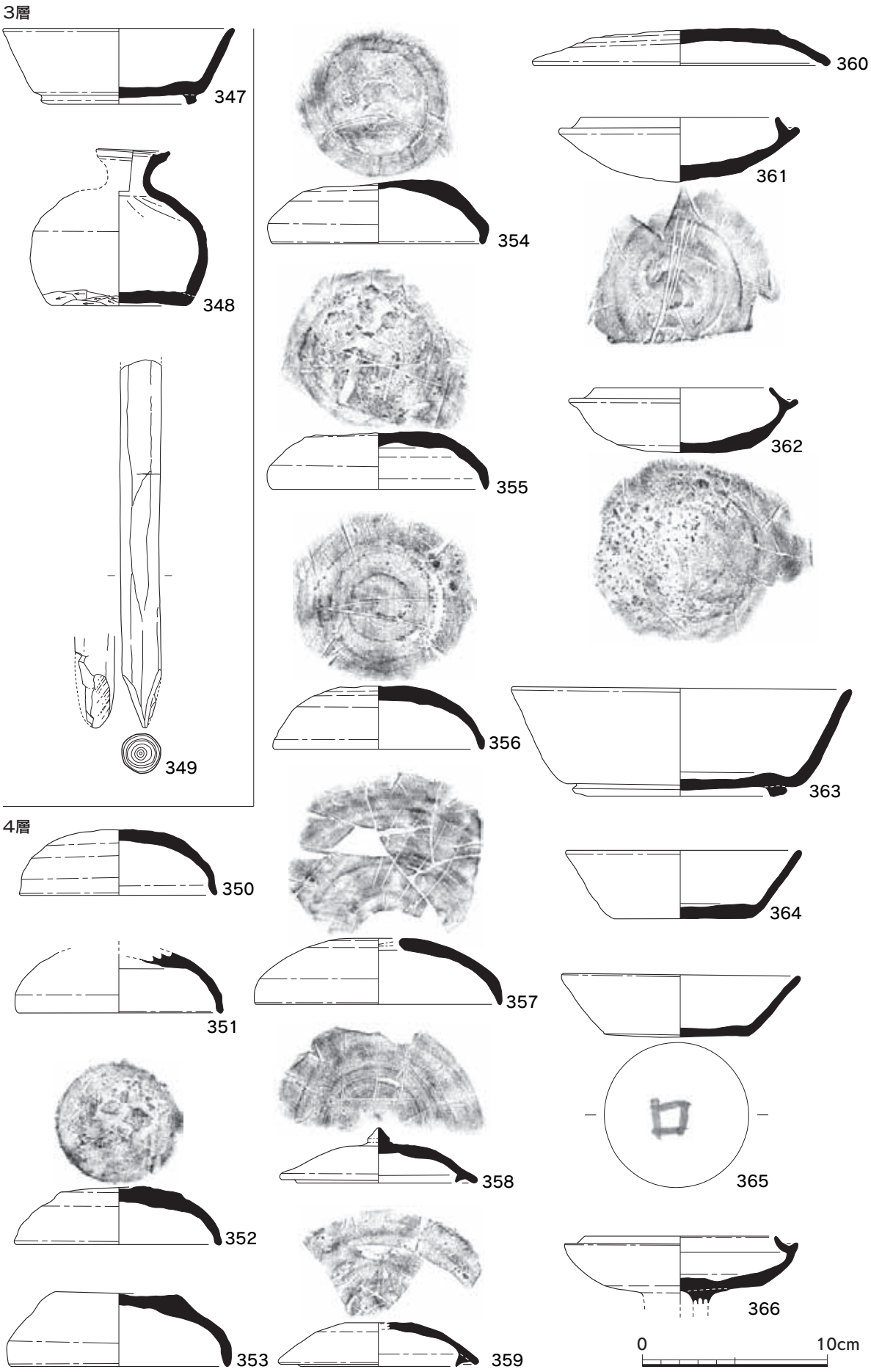
土師器（367 ～ 401）　367 ～ 382は杯。377は内面、377・378・380 ～ 382を除いては内外面回転ヘラミガキを施す。また382は内面に煤が付着している。383 ～ 385は蓋。383･384は口縁部が短く立ち上がり、端部は丸い。385は香炉蓋で、天井部外面に三重の相輪状のつまみを持ち、天井部内面には煤が付着する。体部外面はヘラミガキが施される。386は椀。低く、丸い高台がつく。387 ～ 395は皿。391・395は両面、392 ～ 394は内面にヘラミガキを行う。396 ～ 399は甕。396・397は体部外面にハケメ、体部内面にヘラケズリを行う。400・401は甑で、同一固体と思われる。口縁部は内側に傾斜する。



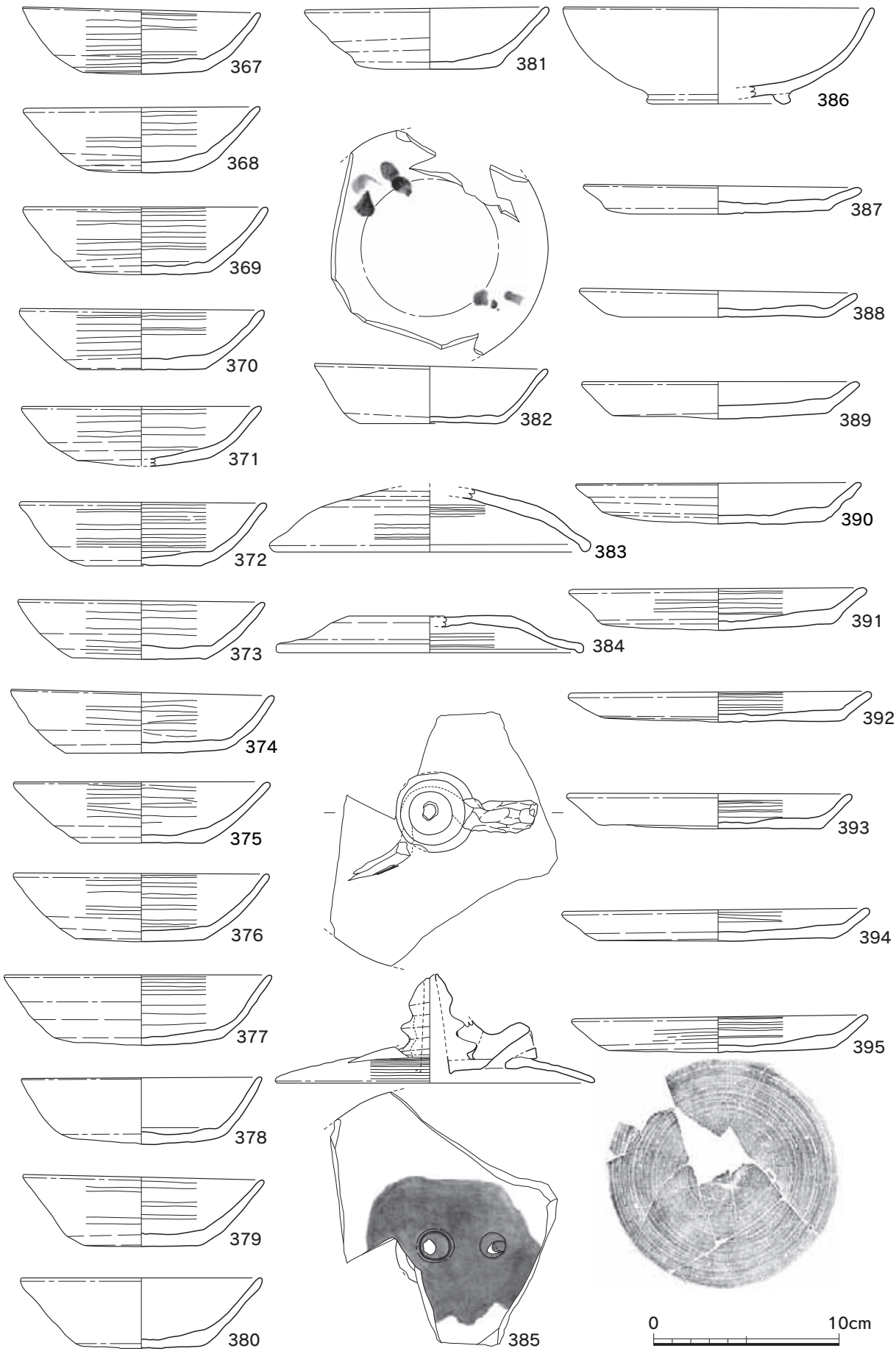
第43図　7次谷部A区2層出土遺物実測図④（1 ／ 3）

谷部A区5層出土遺物（第47 ～ 54図・図版30 ～ 35）

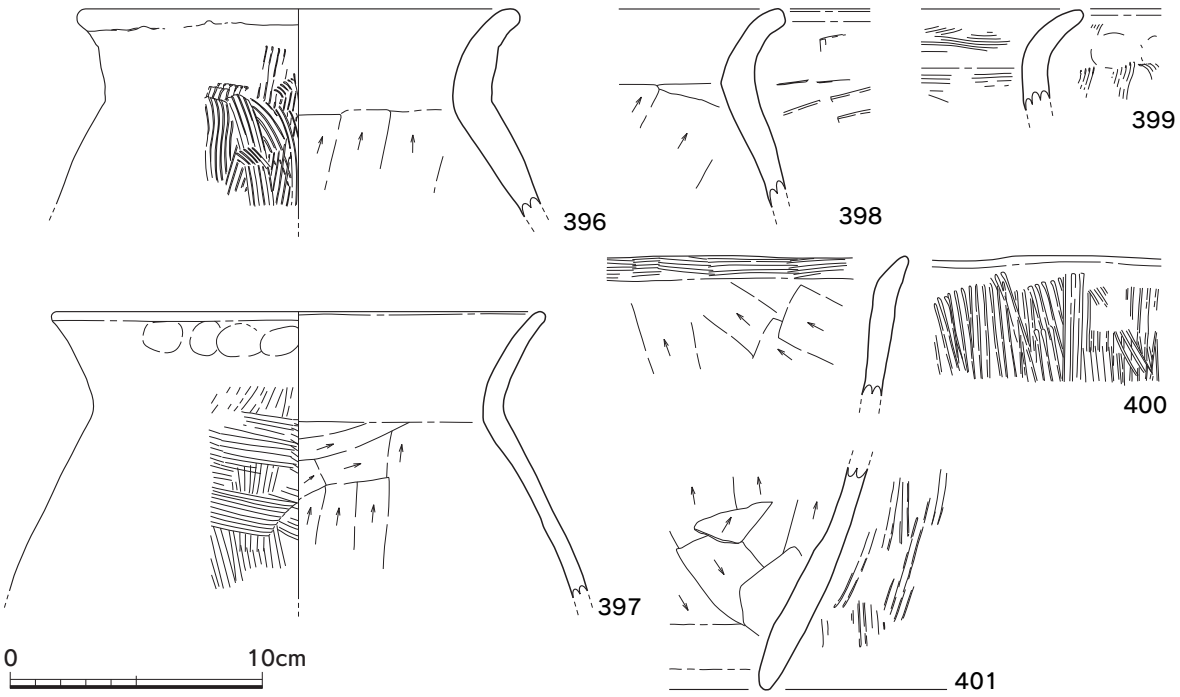
須恵器（402 ～ 488）　402 ～ 433は杯蓋。402 ～ 421は杯H蓋。402 ～ 410・413・415・416・418 ～ 420は外面にヘラ記号を施す。408は外面に別固体が釉着する。421は体部に段をもち、内面に当て具痕がつく。422は杯Hと蓋Hが釉着している。天井部と底部にヘラ記号がみられる。423 ～ 431は杯G蓋。423はかえりが長い。424は天井部にカキメを施す。425 ～ 431はつまみを伴わない。434は蓋。口縁部は短く立ち上がる。435 ～ 465は杯身。436 ～ 443・445・447・449・450・456・458・459・462は外面にヘラ記号を施す。435 ～ 453は杯H身。436は体部が外反するように伸びている。439は底部外面に他個体が釉着している。452･453は底部を焼成前に穿孔する。455は体部と底部の境に沈線が入る。457・458・460・461は体部に沈線が巡る。459は底部外面に煤が付着する。462は底部の平坦面が広く、浅い。463 ～ 465は杯B身。463は高台が高く、底部端につく。464は丸みがあり、高台がハの字に広がる。465は高台が低く、底部端につく。466は皿である。内面に重ね焼きの痕跡がみられる。467・468は椀である。いずれも丸底。467は体部上方でわずかに外反する。468は底部にヘラ記号を施す。469・470は



第44図　7次谷部A区3・4層出土遺物実測図①（1／3）



第45図　7次谷部A区4層出土遺物実測図②（1 ／ 3）



第46図　7次谷部A区4層出土遺物実測図③（1 ／ 3）

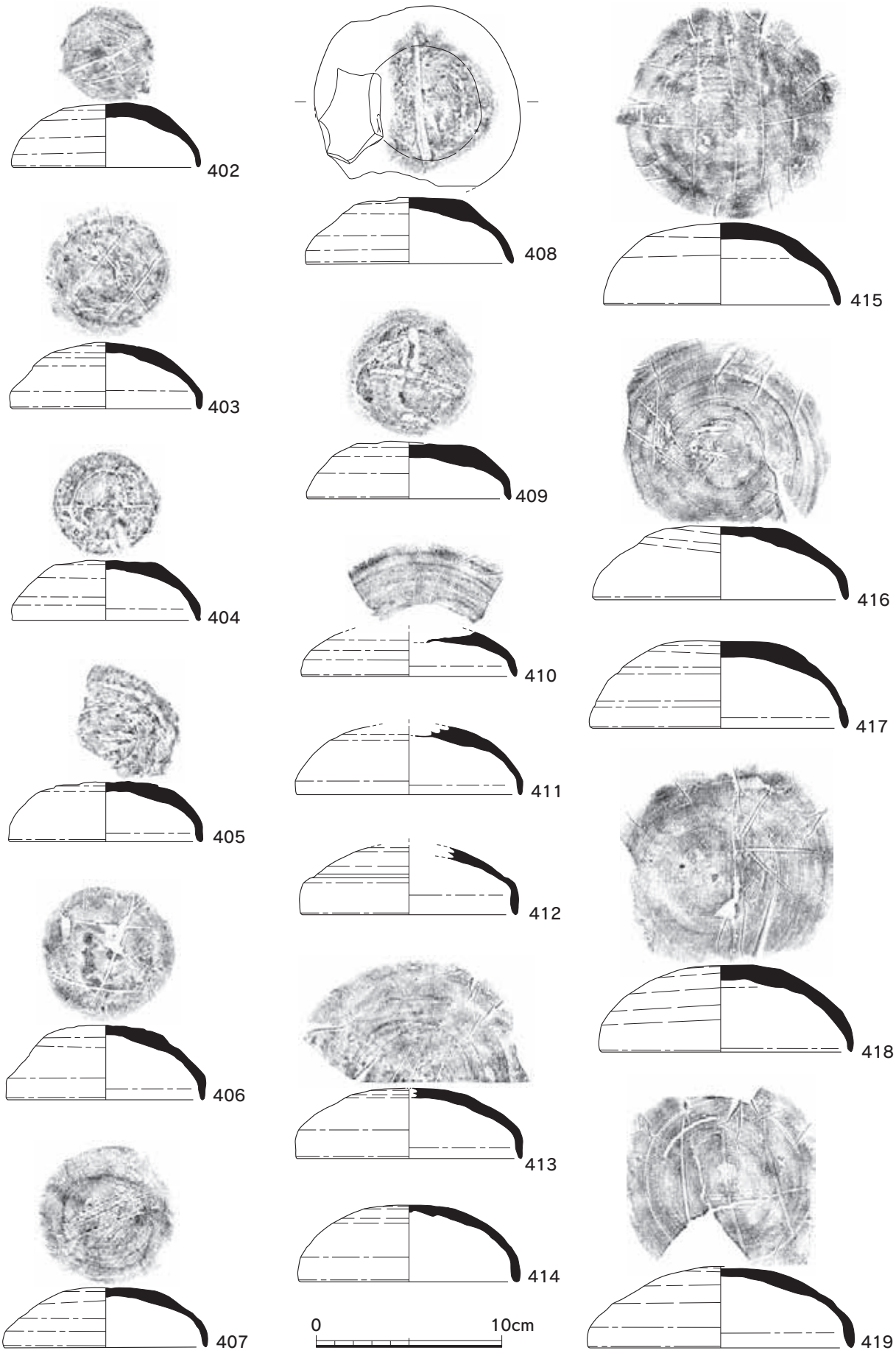
高台付椀である。469は底部欠損する。広口で深い。470は体部下方に沈線を持ち、口縁部へ丸みを持って伸びる。471・472は高杯である。471は体部に沈線を持つ。472は脚部で、裾端部は短く立ち上がる。内面に絞り痕がみられる。473は盤。口唇部は平らで、内面に傾く。474は碗である。沈線上方にヘラ記号を施す。475は一応碗とする。全体にカキメを施した後、沈線間に斜線文を施す。476 ～ 480は平瓶である。いずれも外面にはカキメが施される。477は肩部に鍵状の突起がつく。478は口縁部が内湾する。体部および頸部にヘラ記号を施す。479は口縁部で段を持ち、体部に張りを持つ。また、カキメの幅が細い。480は体部が丸く、底部外面にヘラ記号を持つ。481は環状提瓶である。体部径約13㎝、中心径約2㎝を測る。482 ～ 484は横瓶。483は口縁部にヘラ記号を施す。485は壺。底部はヘラミガキを施す。486 ～ 488は甕である。486・488の外面は擬格子タタキ、他は平行タタキを行い、いずれも内面に同心円文の当て具痕がみられる。

土師器（489 ～ 502）　489 ～ 494は杯。489・439は内外面ともに、492は内面のみ回転ヘラミガキを行う。494は口縁部に煤が付着している。495は丸底杯。底部外面に煤が付着する。496は蓋。内外面とも回転ヘラミガキを施す。497は皿である。内外面にヘラミガキを施し、内面に煤が付着している。498 ～ 500は鉢である。498は鉄鉢型で、外面に回転ヘラミガキを行う。499は内外面に回転ヘラミガキを行うが、外面は一部のみ残る。500は口縁部が外反し、端部がわずかに内湾する。501･502は甕。501は口縁部が外反する。502は口縁部がくの字型に屈曲する。

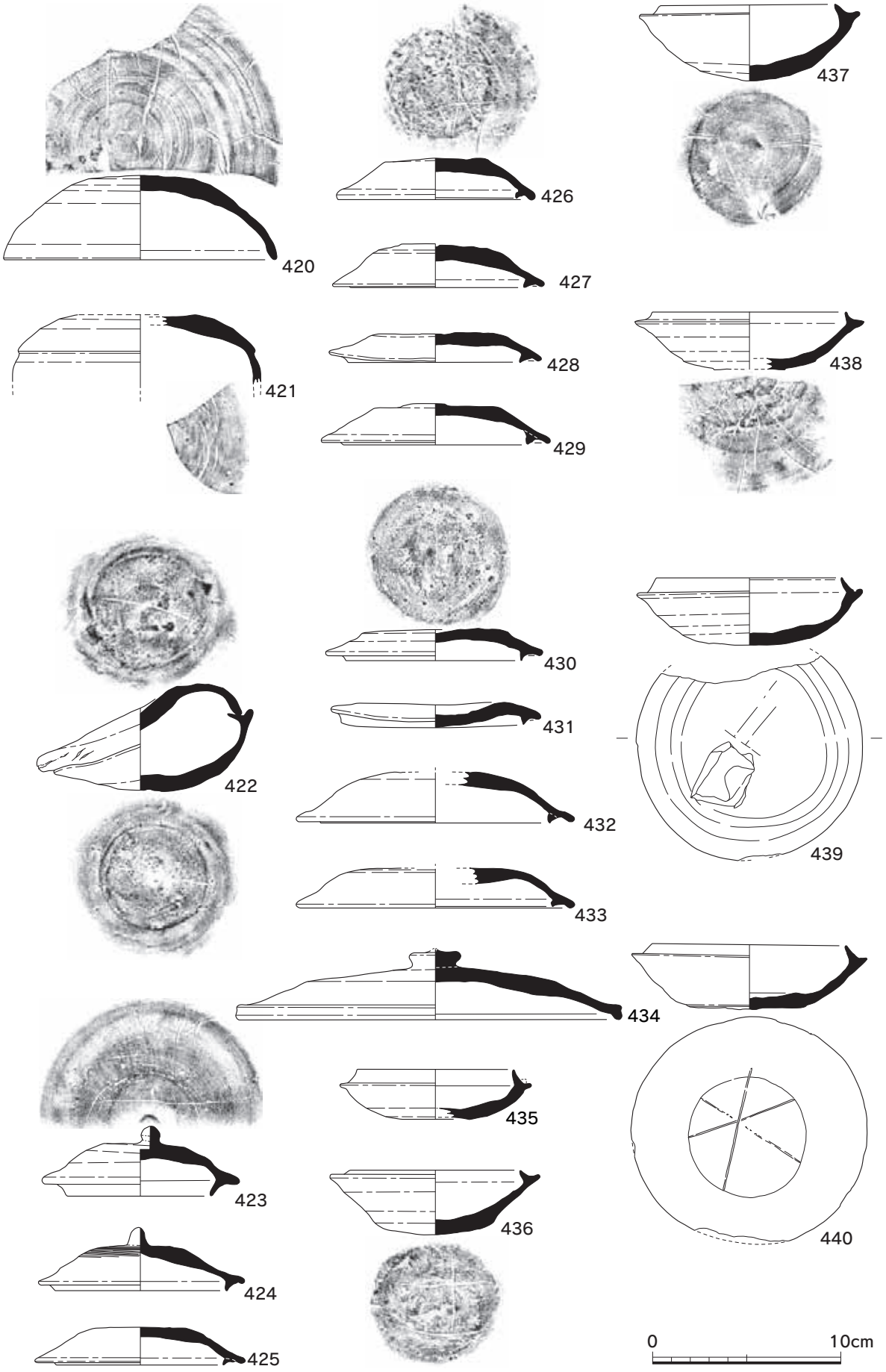
木製品（503･504）　503はえぶり。柄が作られ、表面は手斧等による削り痕がみられる。504は用途不明の板材。（大里）

谷部Ｂ区（第39図・付図・図版12）

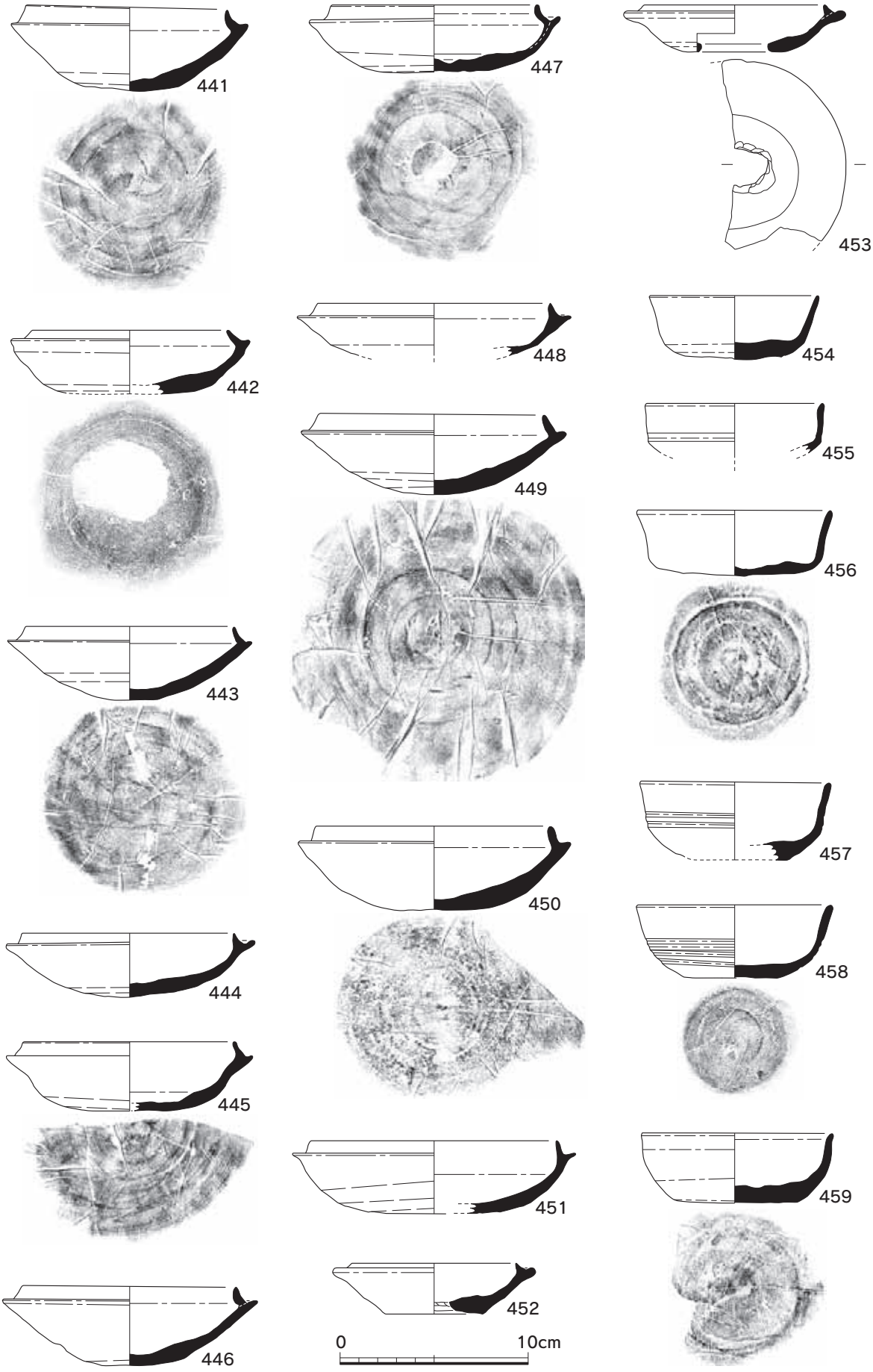
谷部Ｂ区はＡ区東隣にあたり、Ａ区と同じような傾斜角度をもつ。谷底は狭くなりはじめ、Ａ区



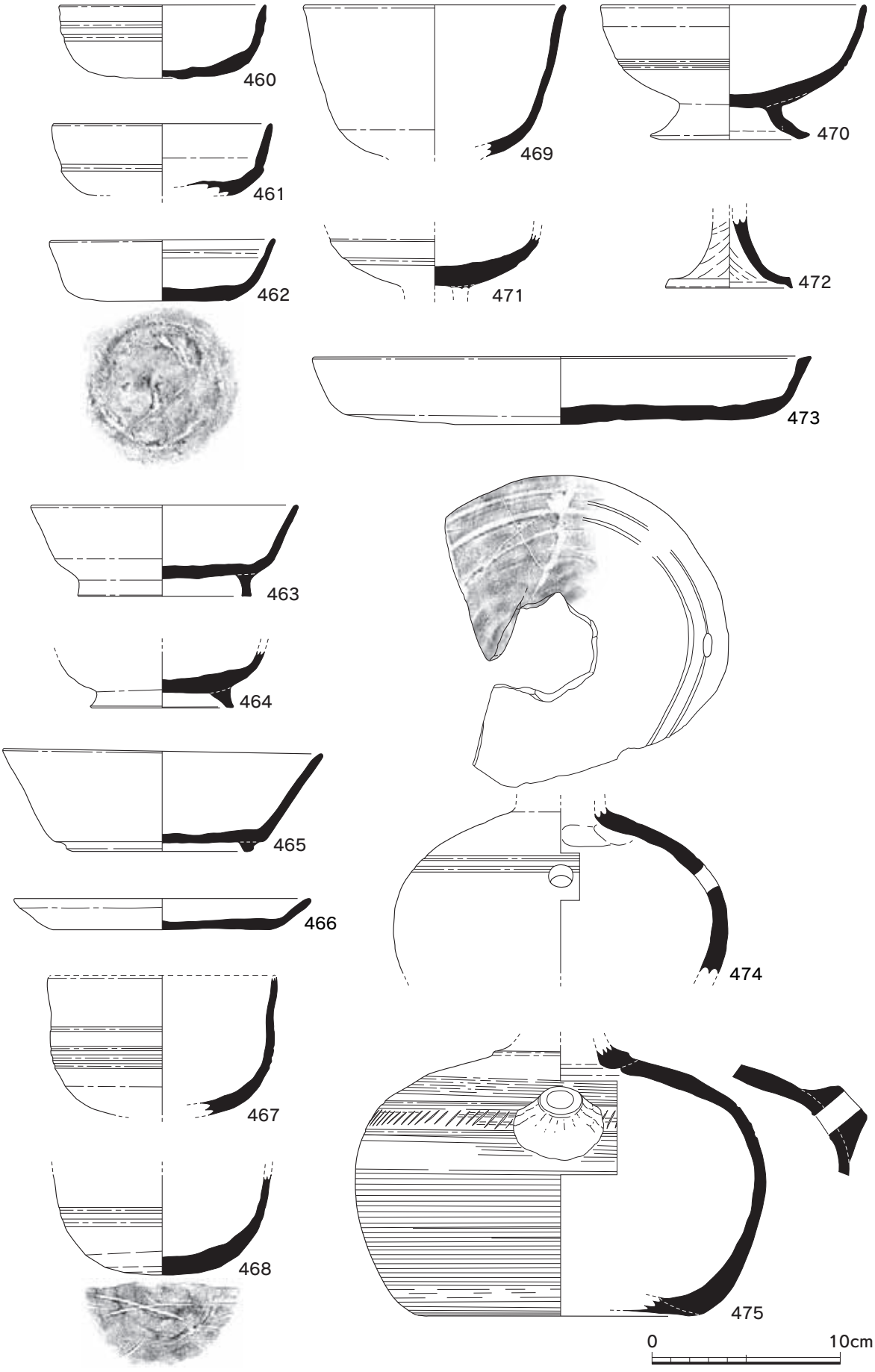
第47図　7次谷部A区5層出土遺物実測図①（1／3）



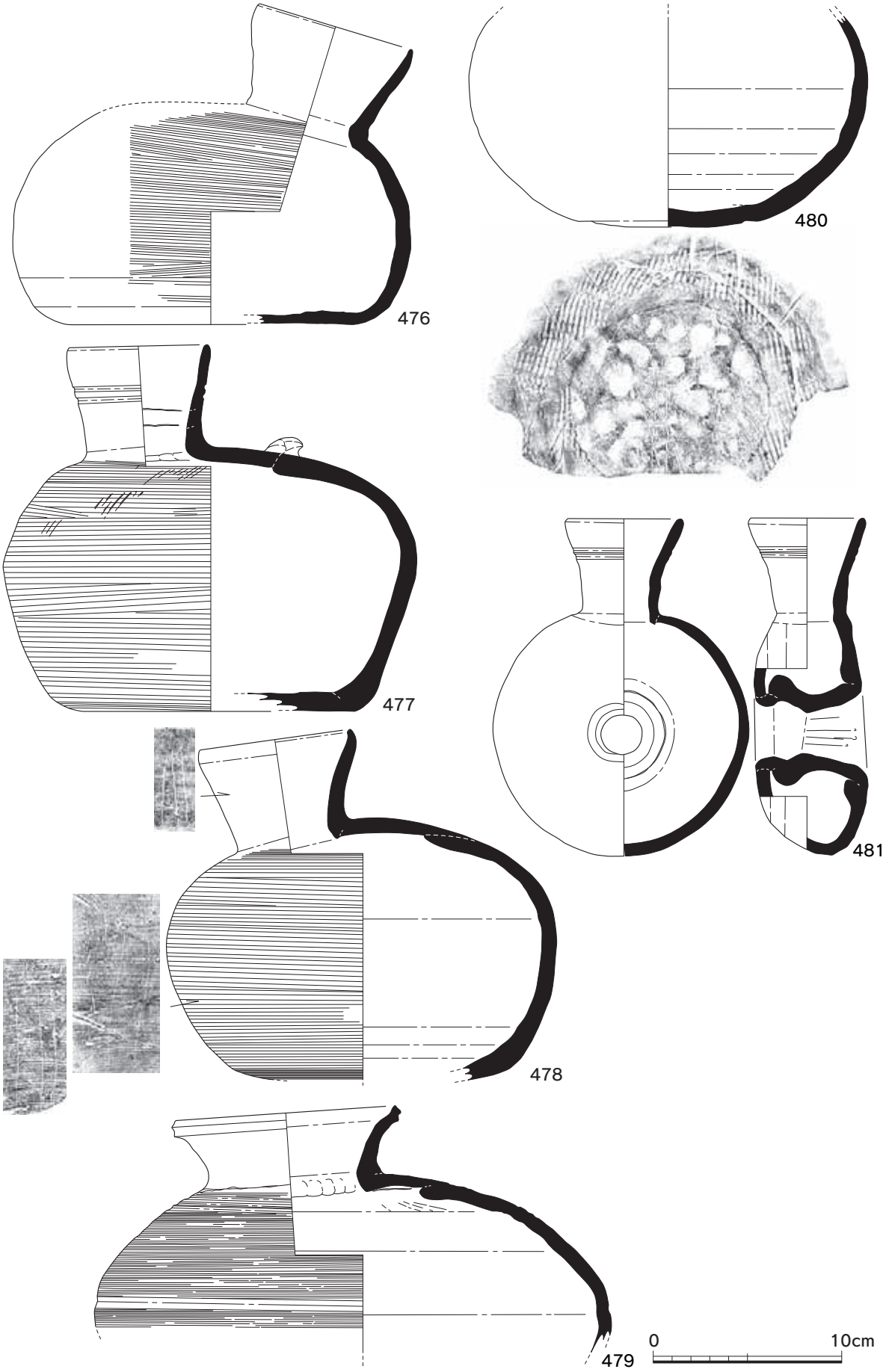
第48図　7次谷部A区5層出土遺物実測図②（1／3）



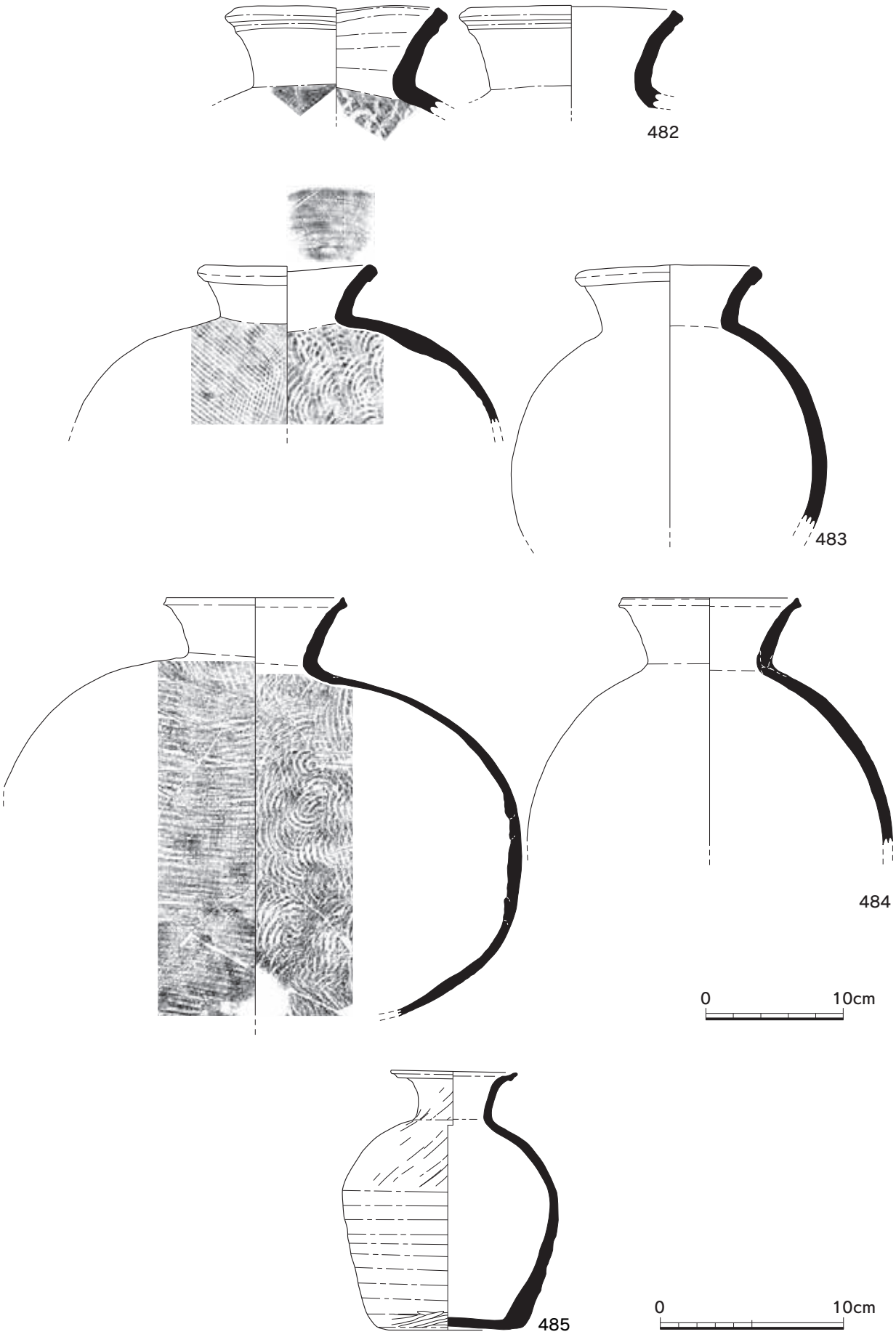
第49図　7次谷部A区5層出土遺物実測図③（1／3）



第50図　7次谷部A区5層出土遺物実測図④（1／3）

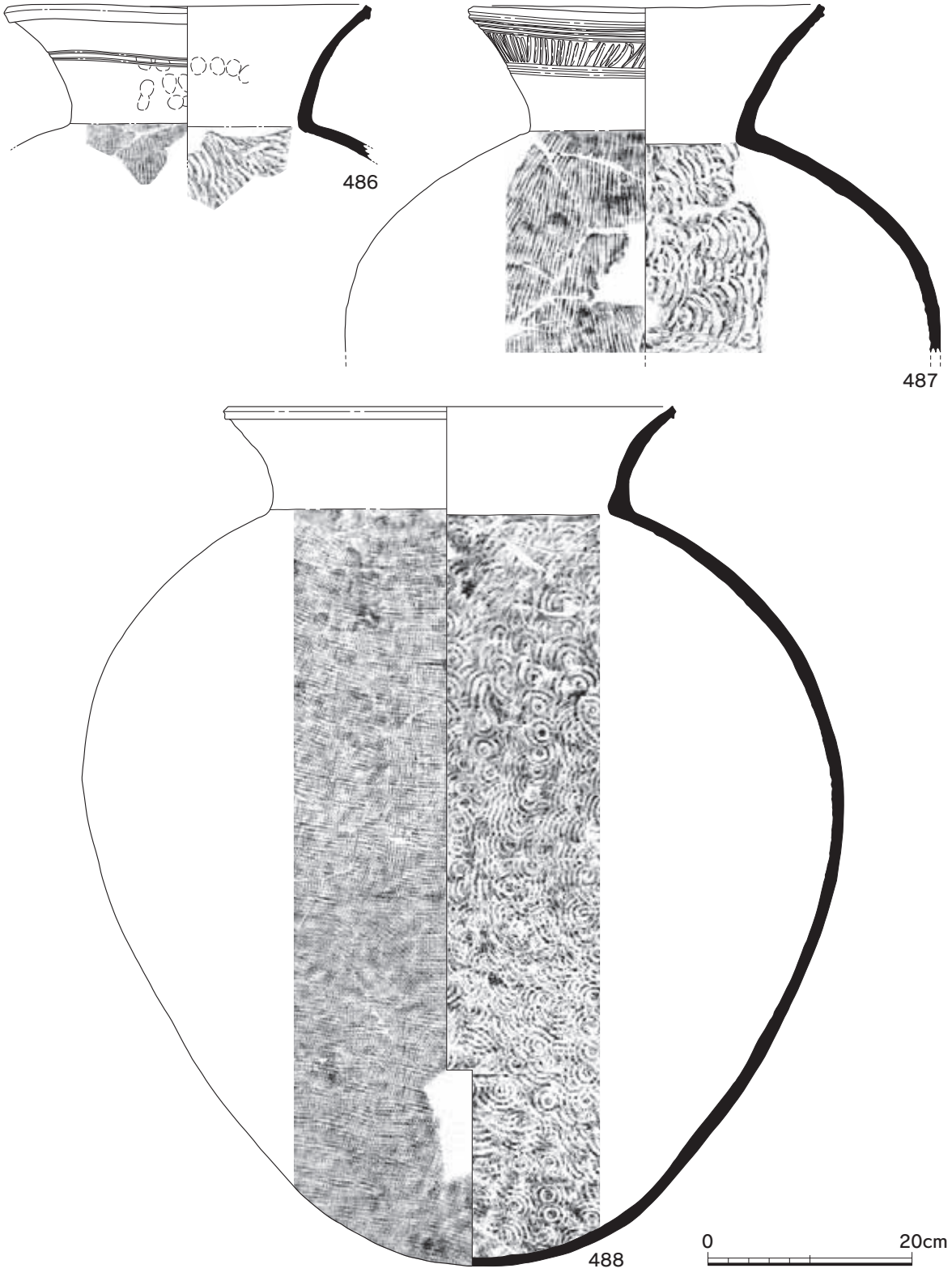


第51図　7次谷部A区5層出土遺物実測図⑤（1／3）

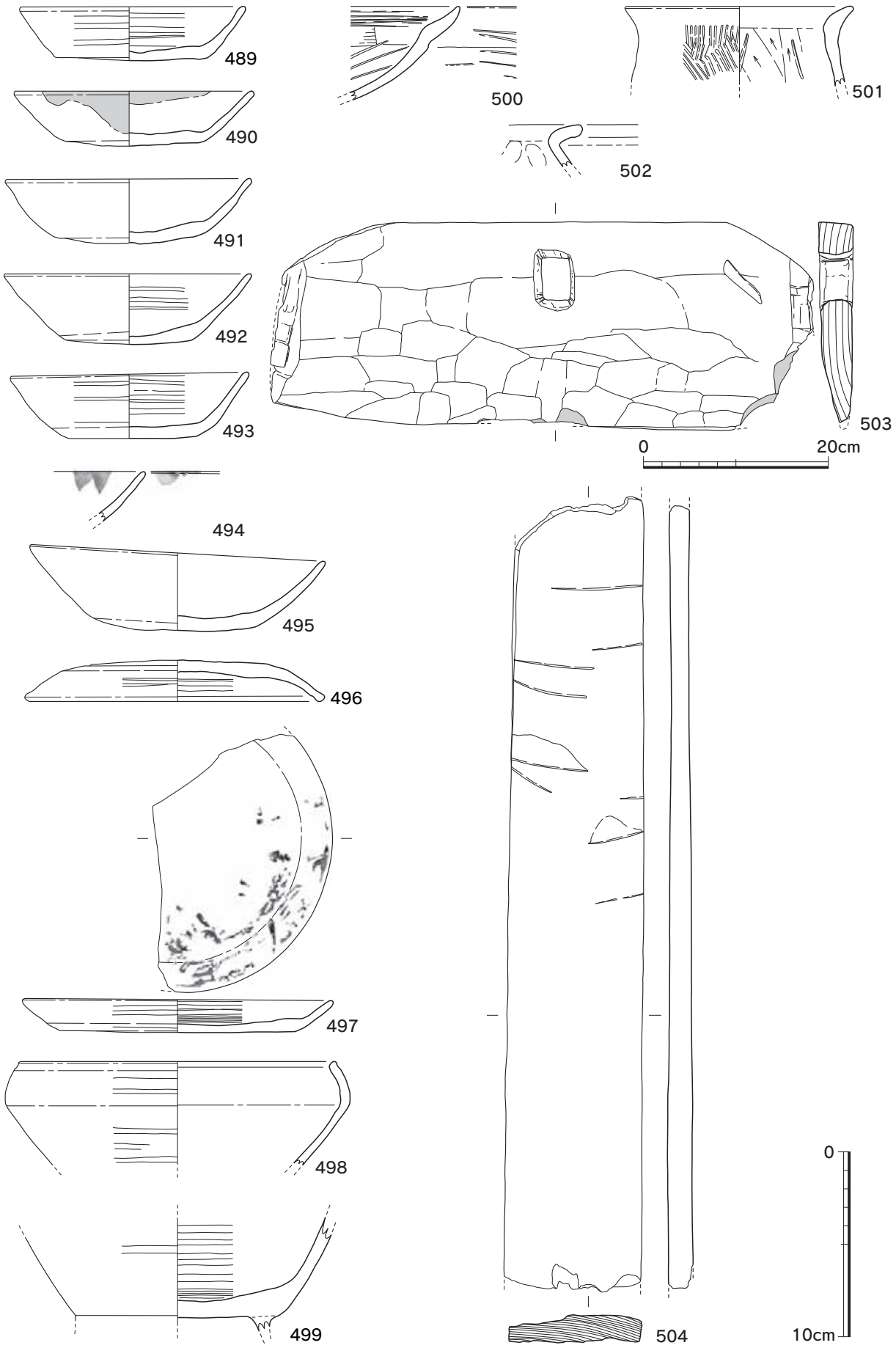


第52図　7次谷部A区5層出土遺物実測図⑥（483・484は1／4、他は1／3）

でも確認された大木が横たわっていた。掘り下げは西側から１～３区に分けておこなった。堆積土は、Ａ区で確認された２層とされる黒褐色粘質土が明瞭に残り、掘り上げると浅いくぼみ状となった。Ｂ・Ｃ区間土層断面で見ると、粘質土層を切って掘り込みが認められ、中世以降何らかの遺構



第53図　7次谷部A区5層出土遺物実測図⑦（1／6）



第54図　7次谷部A区5層出土遺物実測図⑧（503は1／6、他は1／3）

があった可能性が考えられる。粘質土下にはＡ区と同じく砂質土が堆積し、粘質土と砂質土の細かな互層が認められ、激しい流滞水があったことがうかがえ、流滞水層下には北側斜面から下る厚い灰層がのびている。灰層の最も厚い所は１ｍを超え、夥しい須恵器が含まれていた。灰層は先の大木を包含しており、須恵器窯操業段階にこのような巨木が周囲に存在したことを髣髴とさせるものであった。灰層下には地山由来と考えられる黄橙色土があり、その下層にまた灰層が確認できる。このことは、谷部Ｂ区斜面上に複数の時期の異なる窯が存在したものと考え、分層をおこない遺物の取り上げをおこなった。出土遺物は、須恵器窯に関する灰層から大量の須恵器が出土し、瓦片を含むことから瓦陶兼業窯であったことが分かる。また、墨書土器・相輪形のつまみをもつ蓋や、呪符木簡と考えられる数字を書いた木簡など点数は少ないが祭祀性の強い遺物が出土している。（石木）

谷部B区1層出土遺物（第55図・図版36）

須恵器（505 ～ 507） 505は杯Ｂ蓋。天井部に径1.2cmの孔をもつ。赤焼けである。506は杯Ｈ身。体部上位から回転ヘラケズリを行う。かえりは短い。507は鉢。体部に一条の沈線を持つ。

土師器（508 ～ 512） 508は器種不明。杯・椀か？内面に墨痕がみられるが、判読できない。509・510は甑である。いずれも把手。510は差込式である。511は甕。内面ヘラケズリ、外面はハケメを行う。512は壺。底部に穿孔がみられる。

瓦（513） 丸瓦である。摩滅のため調整不明。

木製品（514） 曲げ物の底板である。側板との結合のための穿孔がみられる。

谷部B区2層出土遺物

須恵器（515 ～ 525） 515 ～ 519は杯蓋。515 ～ 517は杯Ｈ蓋。515・516は天井部外面にヘラ記号を施す。518・519は杯Ｂ蓋。518は断面菱形のつまみを持ち、天井部は回転ヘラケズリを行う。519は天井部が低く、平らである。520は杯Ｈ身。受部に杯蓋片が付着している。底部外面にヘラ記号を施す。521は鉢。底部ヘラ切りを行う。522は高杯。脚端部は短く折り曲げる。523は横瓶で、頸部内面に同心円文当て具痕がみられる。524は端部が短く外反し、平坦部をつくる。上部に穿孔がみられる。脚部か。525は甕の切削物である。外面には平行タタキがみられる。

土師器（526 ～ 548） 526 ～ 532は小皿。528を除いて底部ヘラ切りを行う。531・532は灯明具で、内面に煤が付着する。533 ～ 535は杯。533は内外面に回転ヘラミガキを行う。536 ～ 539は丸底杯である。539は板状圧痕が格子状にみられる。540・541・543 ～ 547は椀である。540・541はヘラミガキおよびコテ当てがみられる。540・544はやや細い高台をもつ。545・546は高台端部が平らである。542は鉢。口縁部は外反し、内外面にヘラミガキを施す。548は甕。口縁部は外反し、体部内面はヘラケズリを行う。

黒色土器（549・550） いずれもA類の椀。内面ヘラミガキ。高台は高く、口縁部は外反する。

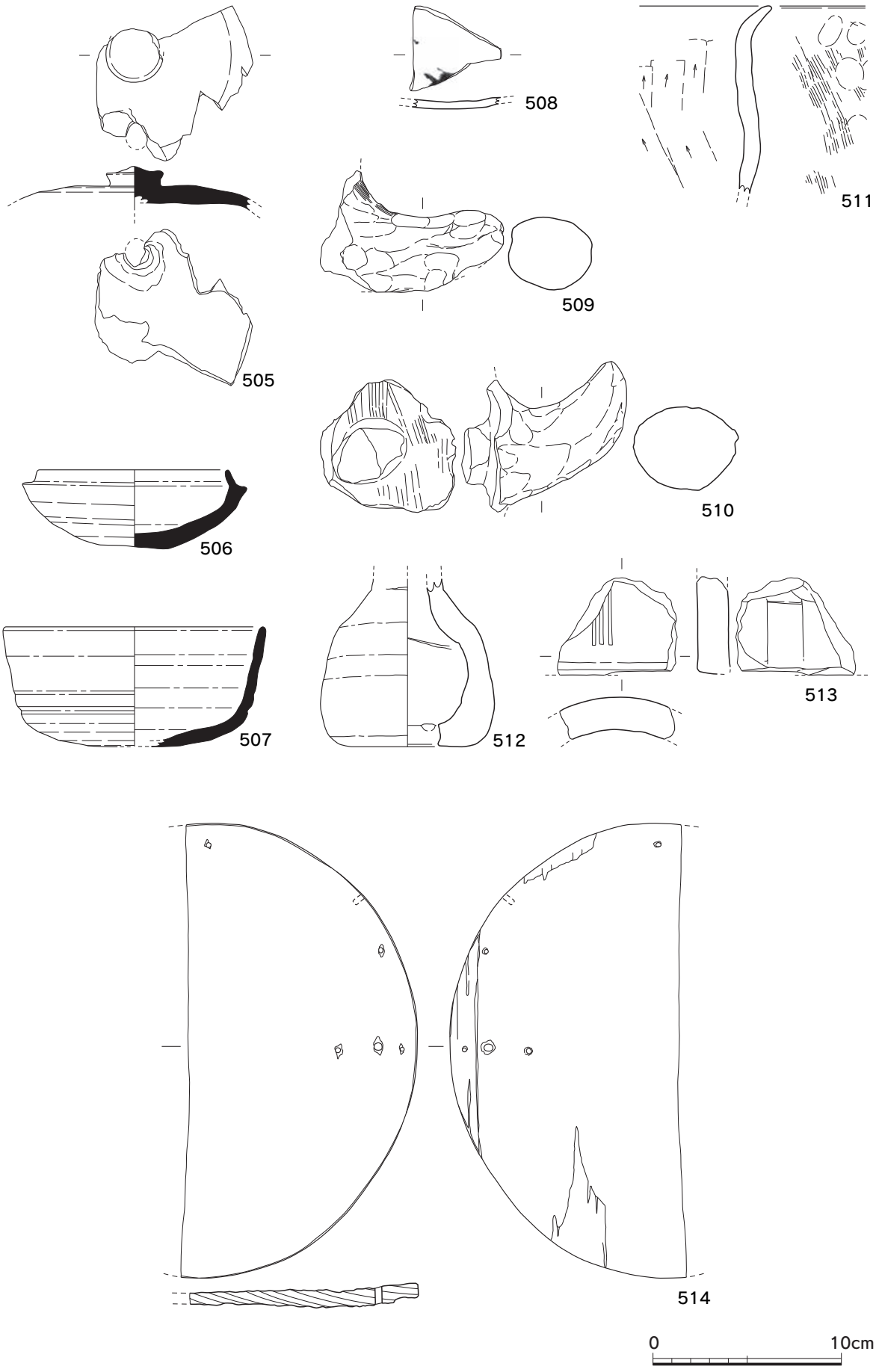
磁器（551） 白磁の椀。口縁部は折り返して玉縁状にする。

瓦（552） 平瓦。凸面は格子タタキ、凹面は布目痕がみられる。

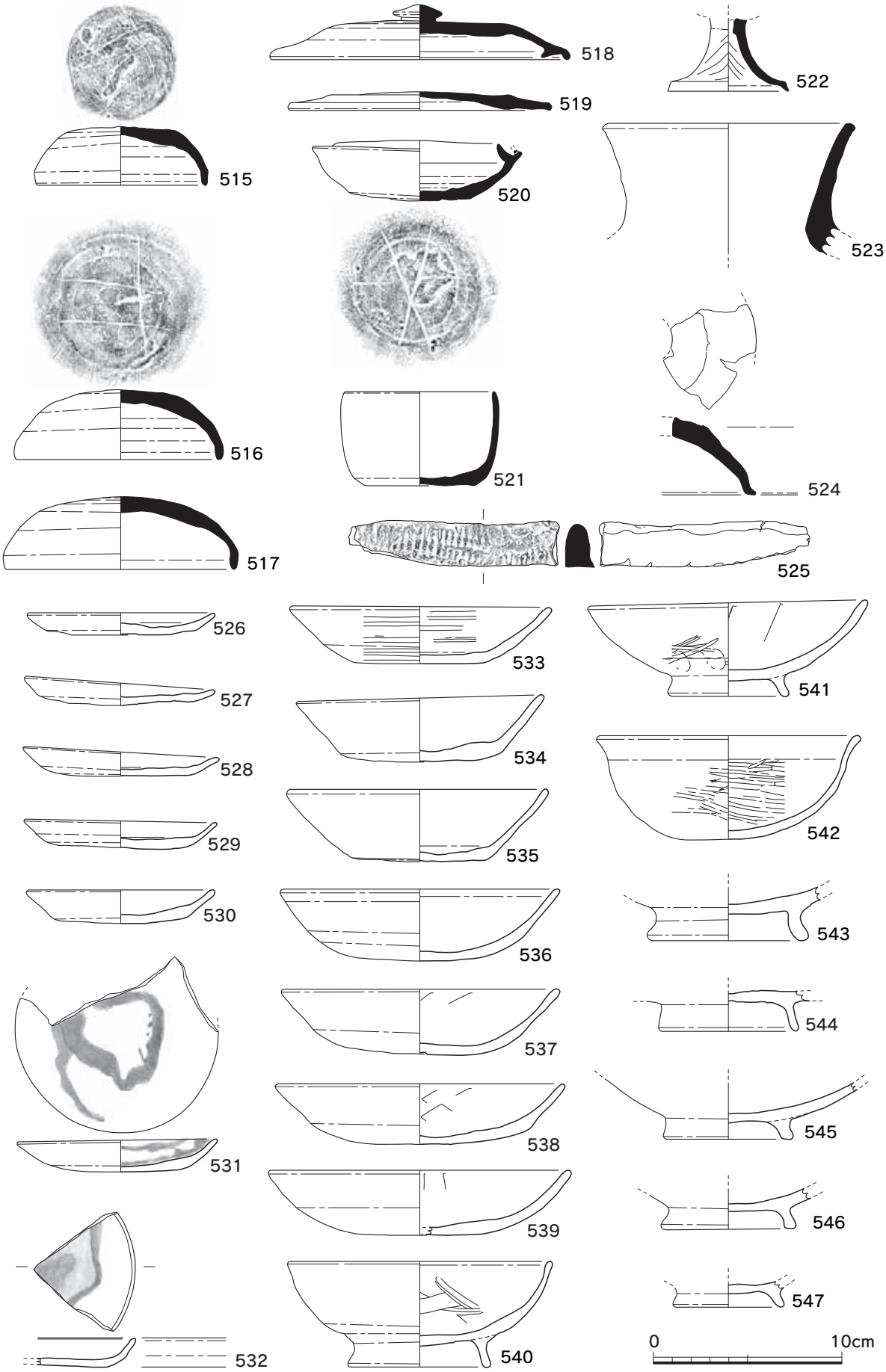
土製品（553） 厚さ0.6㎝程度。手捏ね成形。

石製品（554・555） 554は円盤状を呈する。敲打により周囲を整形。555は砥石。3面を使用。

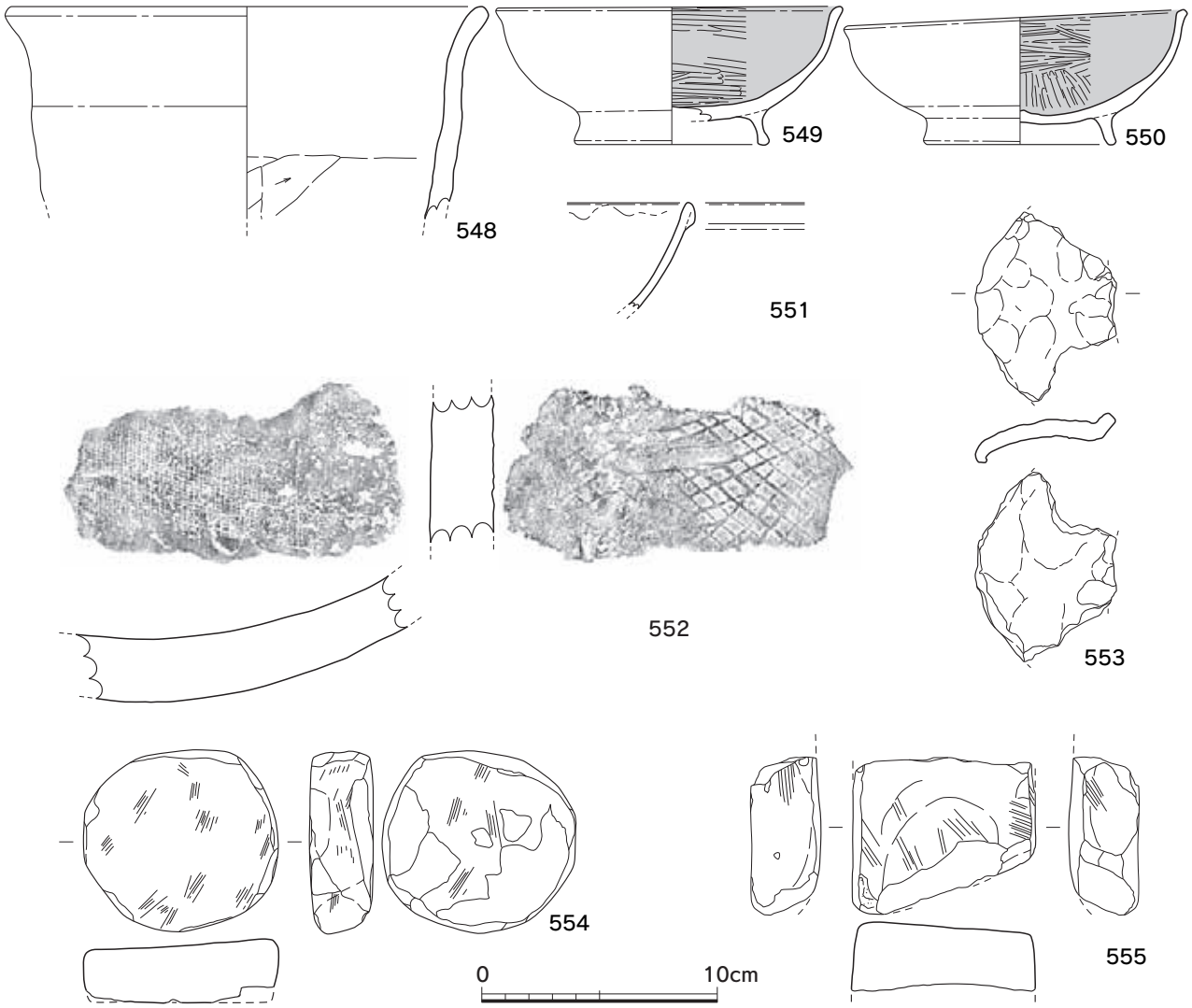
木簡（558・559） 両者は別々に出土したが、同一の木簡であり、「＊」状の切込みを入れ、折



第55図　7次谷部B区1層出土遺物実測図（1 ／ 3）



第56図　7次谷部B区2層出土遺物実測図①（1／3）



第57図　7次谷部B区2層出土遺物実測図②（1／3）

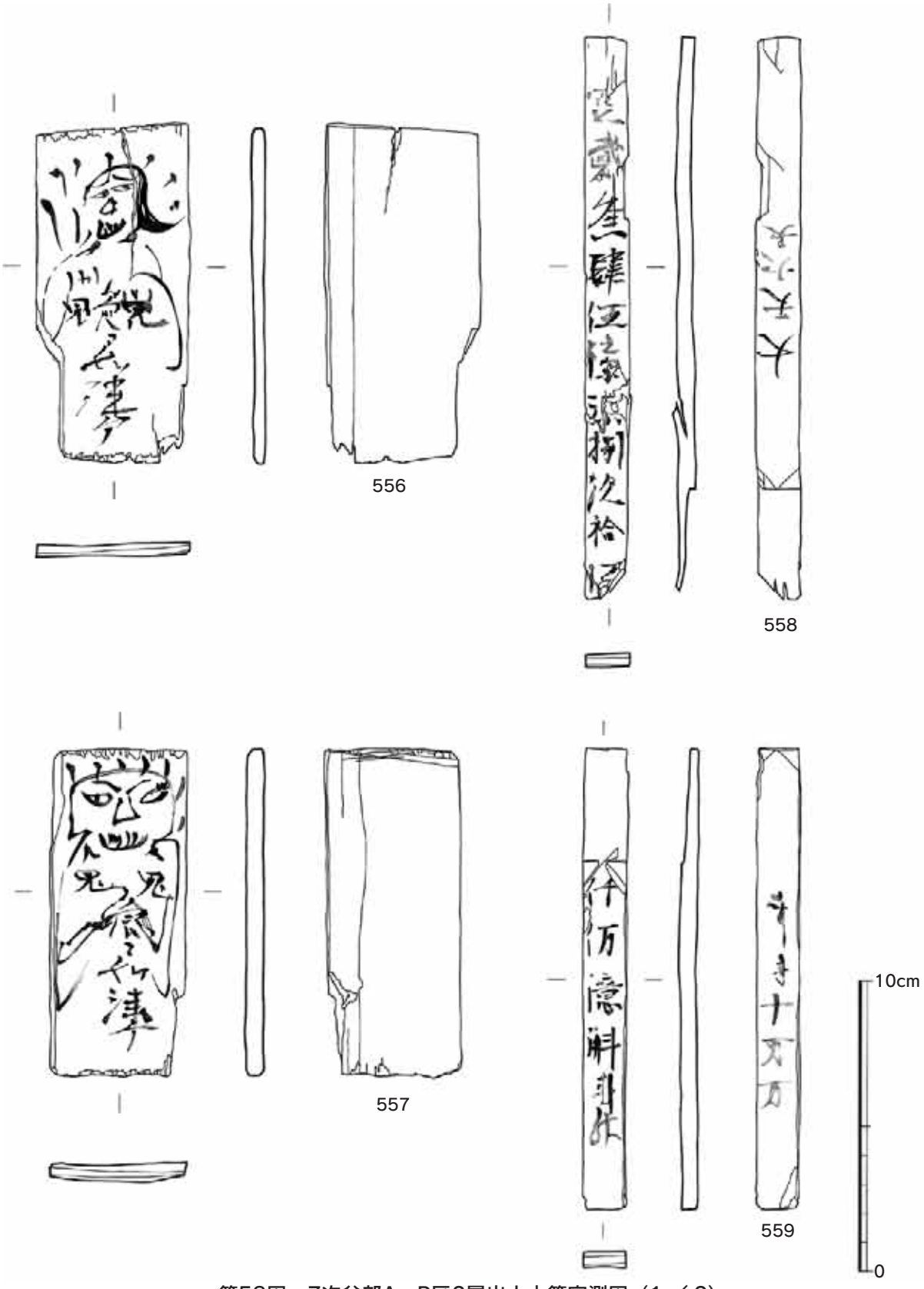
り切り手法により切断される。両面に墨書がなされ、A面「壱弐参肆伍陸柒捌玖拾佰仟仿億斛斗升」
B面「　　天□天大　　□十□□　」と判読できる。558は長さ19.4㎝、幅1.55㎝、厚さ0.6㎝。559は長さ15.9㎝、幅1.5㎝、厚さ0.6㎝。（註1）

谷部B区3層出土遺物（第590図・図版37・38）

須恵器（560 ～ 564）　560・561は杯G蓋である。560は受部が大きく跳ね上がる。どちらも天井部外面にヘラ記号を施す。562は杯B蓋。断面方形のつまみを有する。563は皿。底部に板状圧痕がみられる。564は甕の体部片。内外面に墨痕らしいものがみられる。

土師器（565 ～ 573）　565は小皿。底部に板状圧痕がみられる。566は蓋。輪状のつまみをもつ。内外面に回転ヘラミガキを施す。567・568は椀である。567は口縁部は外反し、高台はハの字を呈する。底部外面に板状圧痕がみられる。568は内面にコテ当てがみられる。口縁部は外反する。569・570は皿。570は口縁部に煤が付着する。571は高杯脚部である。裾端部は僅かに立ち上がる。572は甑把手。573は三重の相輪状のつまみをもつ。蓋と思われるが、接合しない。

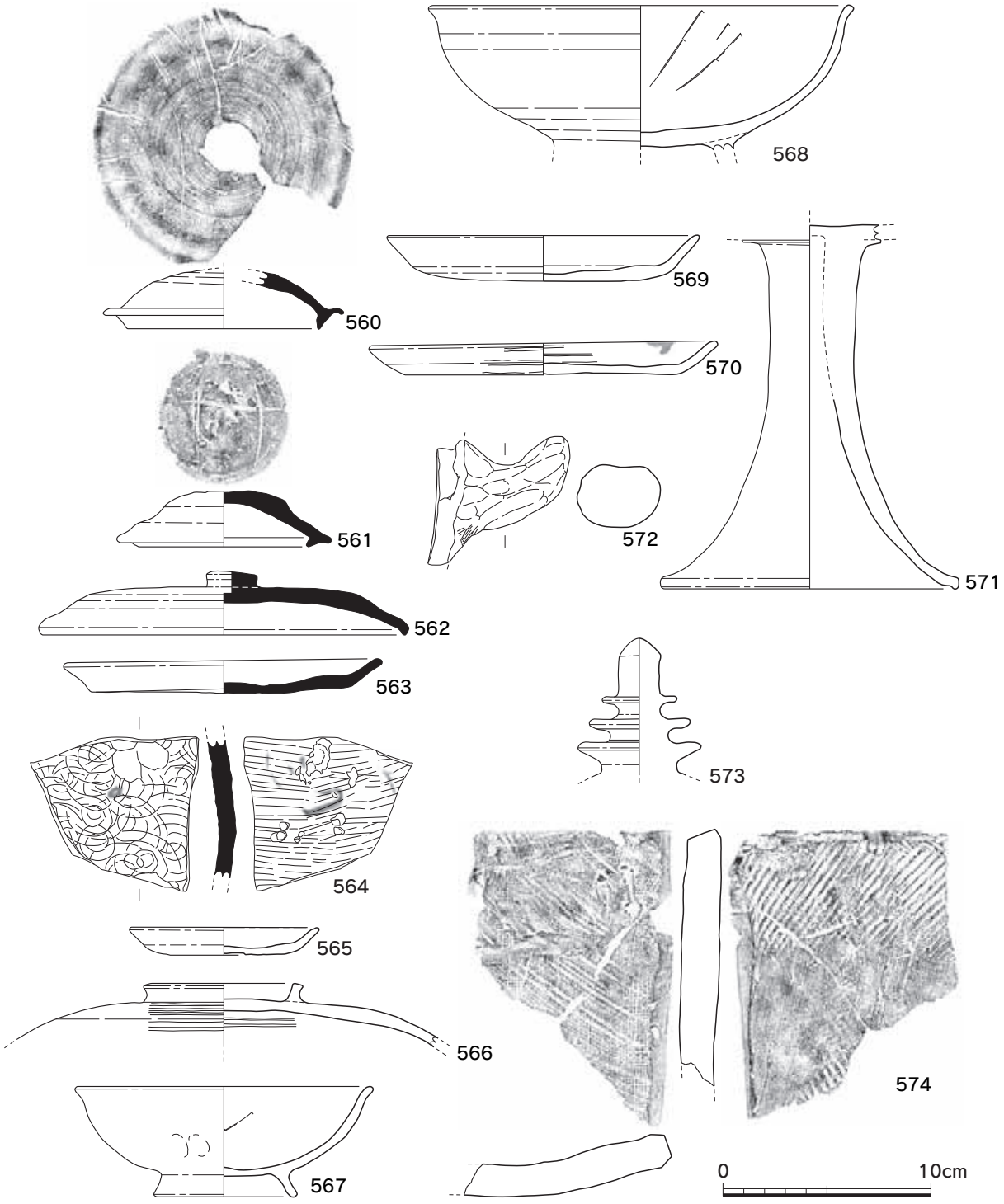
瓦（574）　平瓦である。凸面は平行タタキ、凹面は布目痕がみられる。



第58図　7次谷部A・B区2層出土木簡実測図（1 ／ 2）

谷部B区4層出土遺物（第60・61図・図版39）

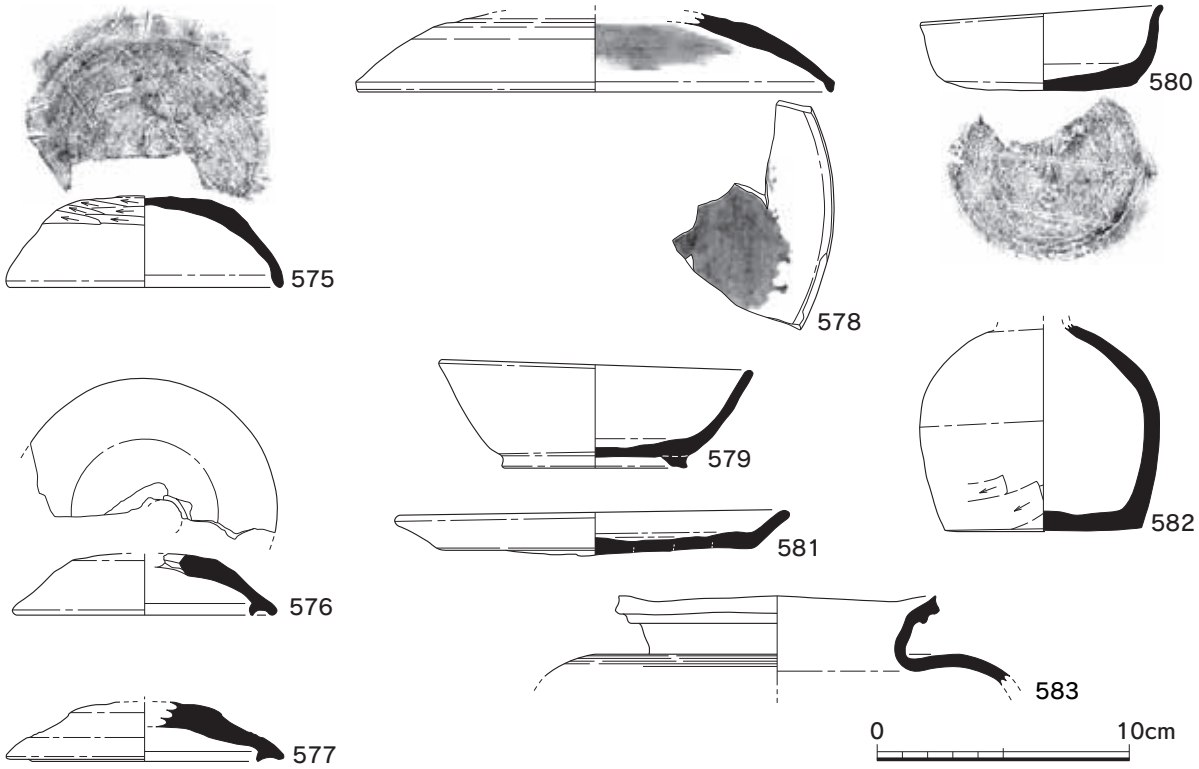
須恵器（575 ～ 583） 575は杯H蓋。天井部外面に丁寧な静止ヘラケズリを行い、ヘラ記号を施す。576･577は杯G蓋である。576は焼成前に天井部を穿孔する。578は杯B蓋。転用硯で、内



第59図　7次谷部B区3層出土遺物実測図（1 ／ 3）

面に墨痕がみられる。579・580は杯身。579は杯Ｂ身。高台は低く、底部端につく。580は杯Ｇ身か？口縁部が外反し、底部はヘラ切りを行う。底部外面にヘラ記号を施す。581は皿。底部外面に板状圧痕がみられる。582は壺である。外面下部はヘラケズリを行う。583は甕。頸部は短く、焼き歪んでいる。

土師器（584 ～ 603）　584は形状が小皿に似るが、底部が盛り上がり、底部内面煤が付着する。585 ～ 596は杯。いずれも内外面に回転ヘラミガキを施す。588は底部外面にヘラ記号を施す。



第60図　7次谷部B区4層出土遺物実測図①（1 ／ 3）

594は底部に外面から穿孔する。597・598は蓋。どちらも外面上部は回転ヘラケズリを行う、内面にはヘラミガキを施している。599は皿。内外面ともにヘラミガキを施している。600は皿。墨書がみられるが、判読できない。601・602は鉢である。内外面にヘラミガキを施す。601は口縁端部が直立する。603も鉢と考える。体部外面に「飯□」の墨書が施される。

石製品（604）　砂岩製砥石。3面を使用する。

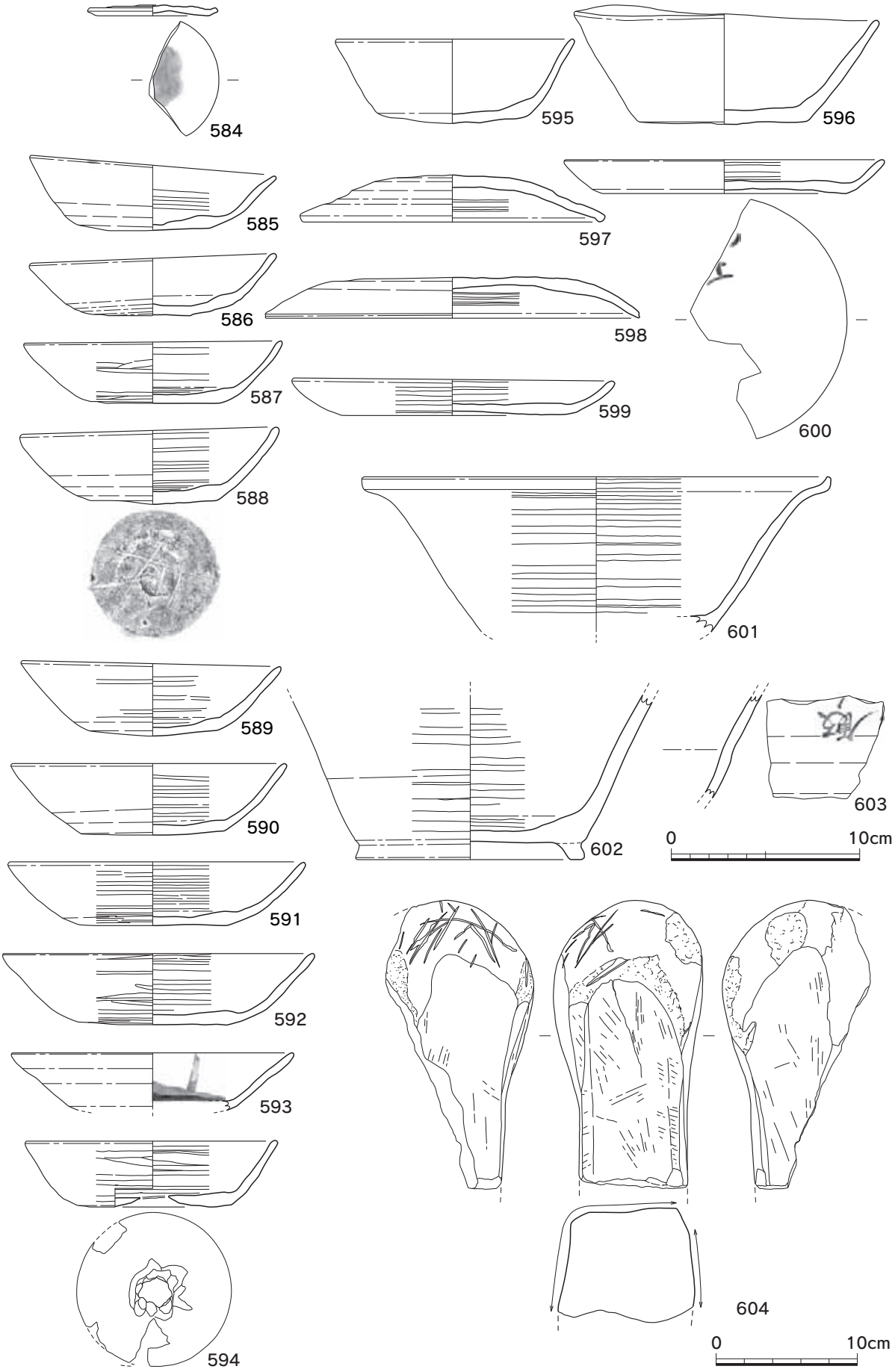
谷部Ｂ区2・4層間出土遺物（第62図）

鉄製品（605）　最大厚3㎜程度の薄い板状である。表面に石英粒が付着する。脆い。

鉄滓（606）　塊状を呈する。下部は欠損していると思われる。

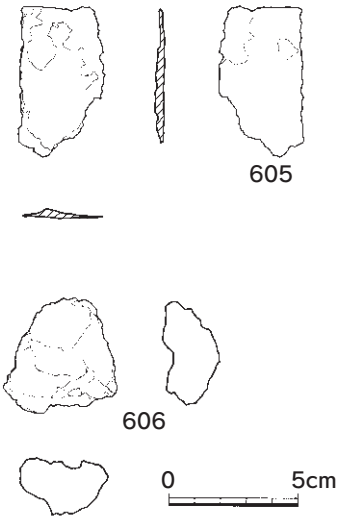
谷部B区5層出土遺物（第63 ～ 81図・図版39 ～ 49）

須恵器（607 ～ 761・783）　607 ～ 651は杯蓋である。608 ～ 612・615 ～ 628・630・631・633・634・636・637・643 ～ 645・647・648はヘラ記号が施される。607 ～ 633は杯Ｈ蓋。607は天井部内面に当て具痕がつく。618は口縁部に剥離痕がみられる。634 ～ 642は杯Ｇ。639 ～ 642は蓋と杯が釉着する。640・641は蓋杯の釉着資料である。蓋はつまみの中央がくぼむが、この類も杯Ｇ蓋と考えられよう。643 ～ 651は杯B蓋。651は輪状のつまみをもつ。650・651は転用硯で、内面に墨痕がみられる。650は578と同一個体である。652 ～ 685は杯身。652・653・655 ～ 674・676・680・685は外面にヘラ記号を施す。652 ～ 672は杯Ｈ身。655は体部外面に鋸歯状のヘラ書きを施す。671・672は底部に焼成前穿孔する。673 ～ 681は杯Ｇ身。底の丸いものと、平らなものがある。673は底部外面に静止ヘラケズリを行う。675は外面に降灰し、焼き歪む。682 ～ 685は杯Ｂ身。682・684は口縁部が外反し、高台はハの字に



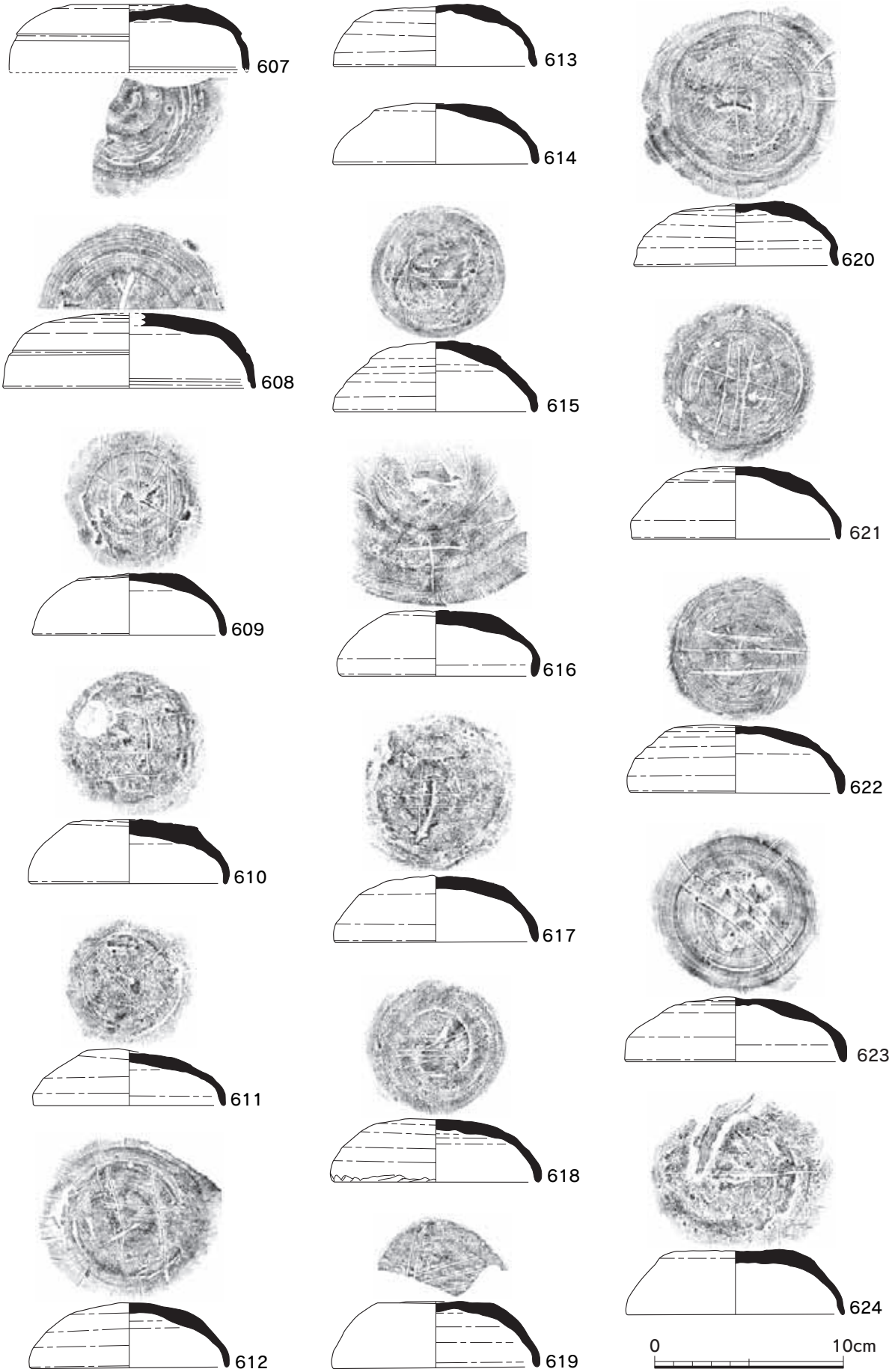
第61図　7次谷部B区4層出土遺物実測図②（604は1／4、他は1／3）

広がる。683は高台が底部端につき、直立する。686は椀である。底部外面にヘラ記号を施す。687は鉢。底部外面にヘラ記号を施す。688は蓋。口縁部は僅かに外反する。689は脚部。椀につくものか？690 ～ 701は高杯。690・691は蓋で、天井部外面にカキメを施している。また、691はヘラ記号を有する。692 ～ 696は低脚。693は口縁部が僅かに外反し、裾端部は短く立ち上がる。694は脚部に２条の沈線を持つ。695・696は脚端部をわずかに折り曲げる。699・700は長脚。699はスカシなし。700は下半に２条沈線を巡らし、間に長方形のスカシを穿つ。701 ～ 703は盤。701は底部内面中央から押し出す。底部外面にヘラ記号を施す。702・703は盤。702は底部外面にヘラ記号を施すが、「瓦」と書くようにも見え、文字をヘラ書きした可能性もある。703は内面に当て具痕がつく。704・705は鉢。どちらも底部外面にヘラ記号を施している。706 ～ 708は短頸壺。706はやや歪む。707は底部外面にヘラ記号を施す。709 ～ 715は平瓶である。709は口縁部で内湾する。710・712は頸部および体部にカキメを施す。710は口縁部内外面、714は体部外面にヘラ記号を施し、口縁部は外方に折り曲げられる。713・714は体部外面下位にタタキをともなう。715は頸部が短い。716 ～ 718は横瓶である。いずれも内面に同心円文当て具痕、外面に擬格子タタキを行う。718は閉塞部は弱いタタキを行う。719 ～ 724は甕である。いずれも内面は同心円文当て具痕、外面は擬格子タタキ。719 ～ 722はタタキ後カキメを施す。725 ～ 744は大甕である。725 ～ 729は頸部上半に２～３段の沈線を巡らし、間に雑な波状文を施す。730 ～ 740は斜線文を施している。745・746は中空硯である。746は把手部分。上面に２㎝程度の孔を持つ。747 ～ 749は土馬である。747は脚部。748は鞍は粘土で表現されるが欠損する。また、胴部を貫くように穿孔があり、尾付近にも孔が認められ、製作時の心棒の跡と考えられる。喉元には胴部と同様の穴が開く。749は体部上面に沈線が施され、手綱などを表現したものか？750は土管。外面平行タタキ、内面同心円文当て具を施す部分もあるが、大半はナデて仕上げる。751は土錘である。紡錘形を呈し、中央に孔があく。752は棒状製品である。表面ヘラケズリにより整形している。把手か？753は鐘のような形状を呈する。器高9.4㎝、底径9.1㎝。底部には文様が刻まれるが、意味する所は不明である。また３分の１程度は焼成中に割れたためか、焼成状態が異なる。754 ～ 761は甕の切削物である。762は須恵質の粘土塊である。一部布目が見られる。性格不明。783は須恵器甕片を用いた転用硯で、凸面は擬格子タタキ、凹面は同心円文当て具後にハケメを施す。

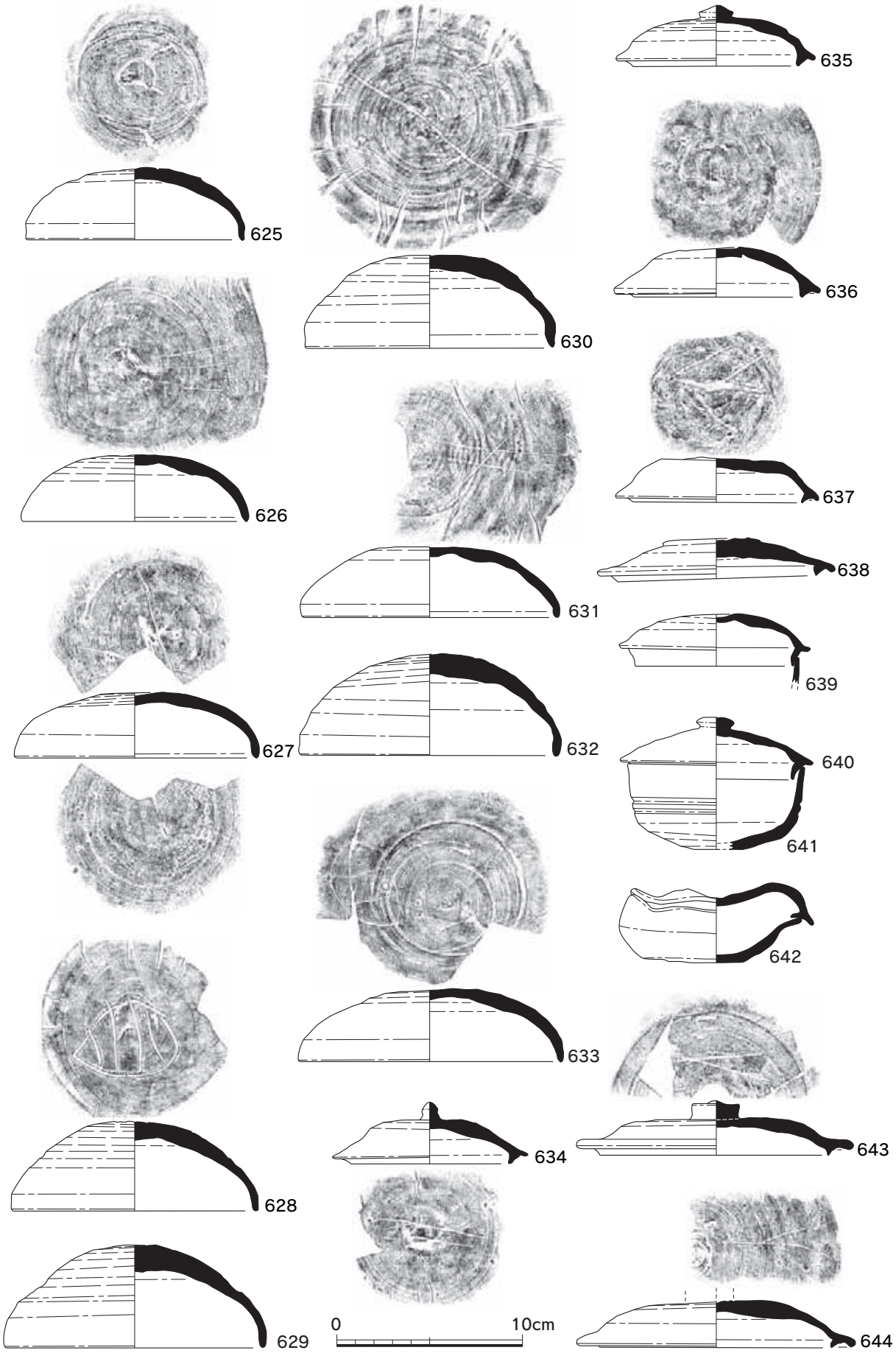


第62図　7次谷部B区2・4層出土遺物実測図（1／3）

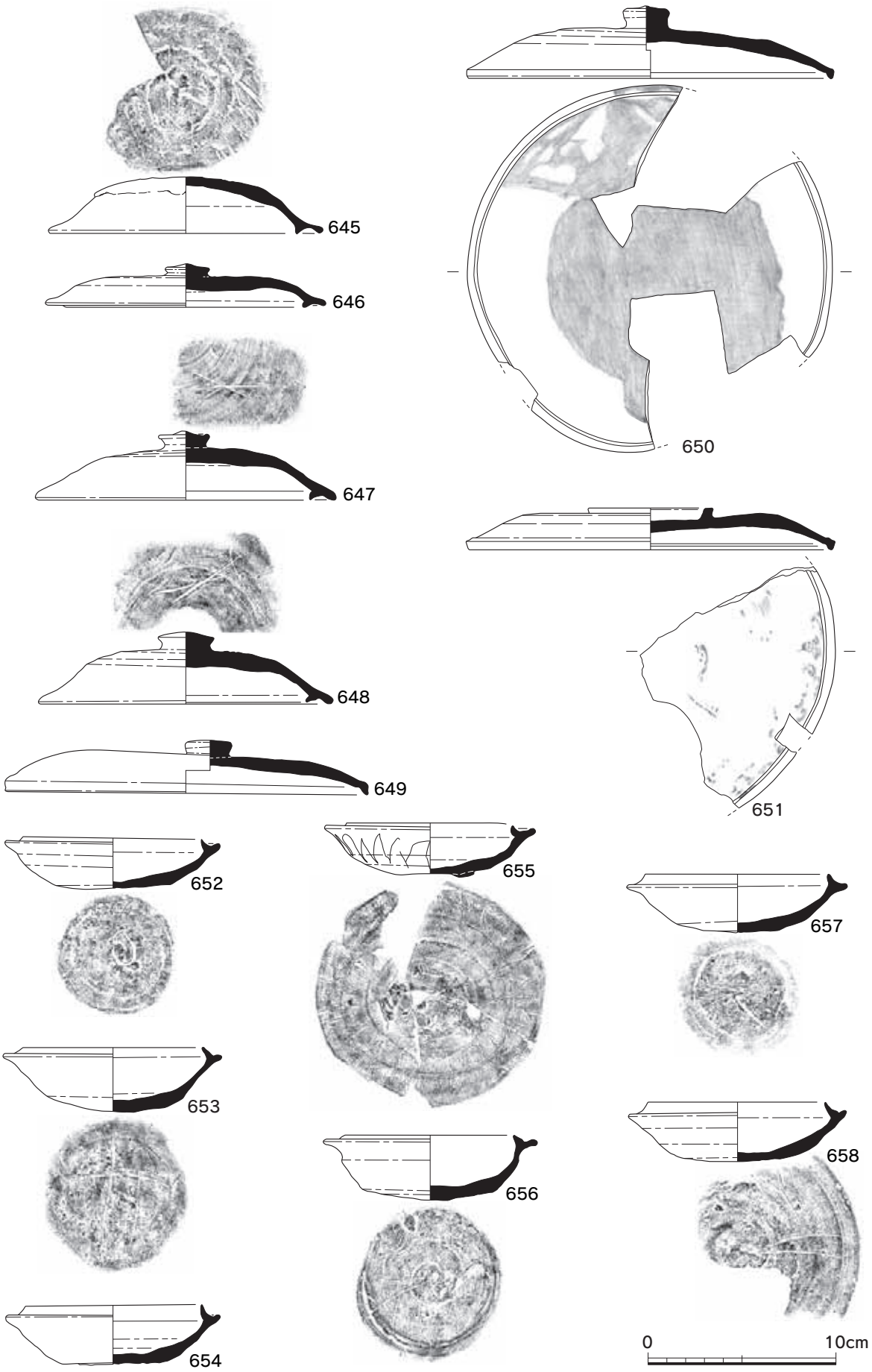
土師器（763 ～ 777）　763 ～ 771は杯である。765・770・771外は回転ヘラミガキを施す。768・770・771の底部はヘラ切り後ナデを行い、他は回転ヘラケズリを行う。また、770は板状圧痕がみられる。763・767は口縁部に煤、771は内面に墨痕が残る。772・773は蓋。772は口縁端部がわずかに立ち上がり、天井部外面回転ヘラケズリ、後に内外面にヘラミガキを施す。773は全形が不明であるが、環状つまみをもつ蓋と考えた。774・775は椀。どちらも内外面にヘ



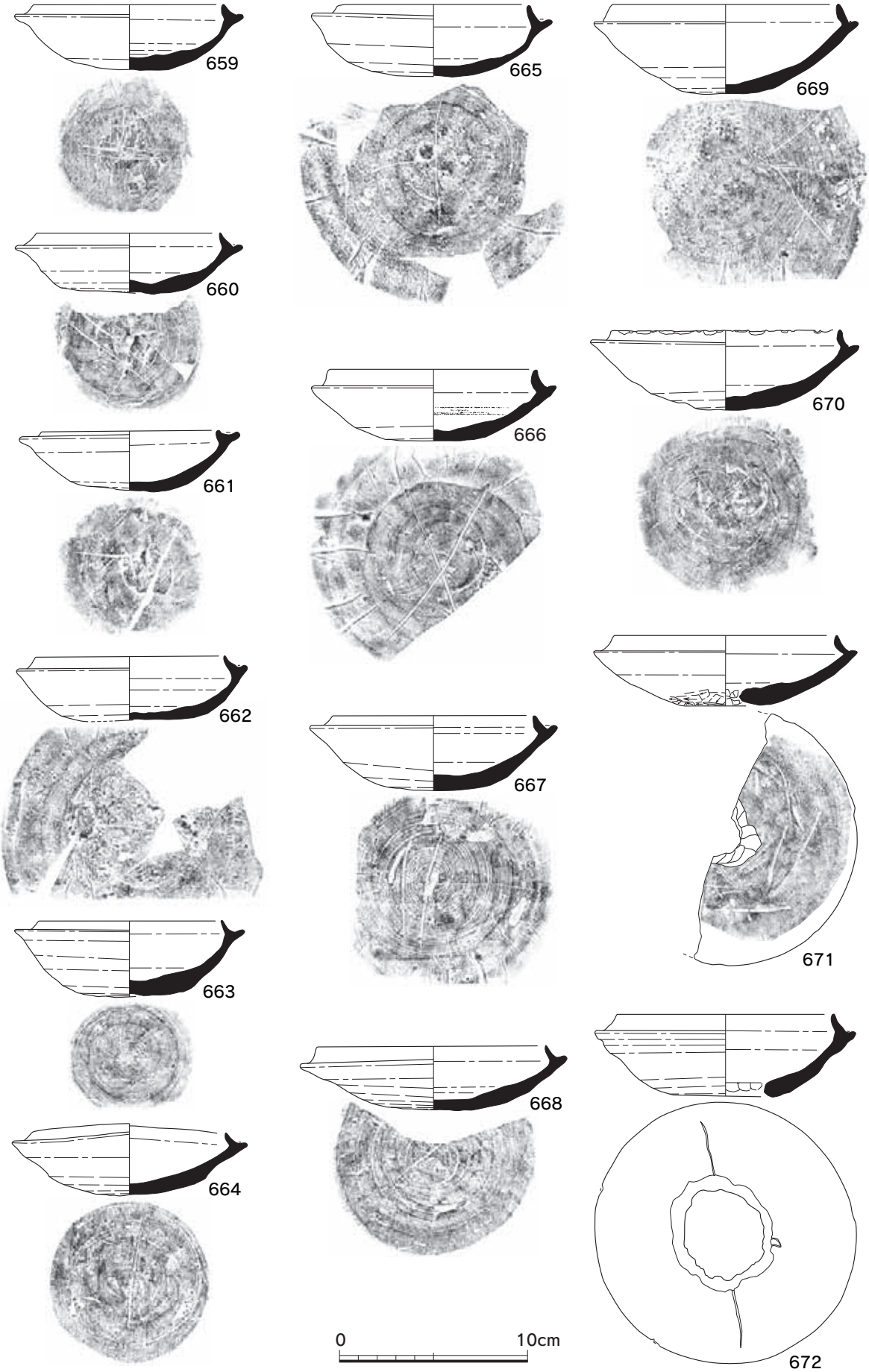
第63図　7次谷部B区5層出土遺物実測図①（1／3）



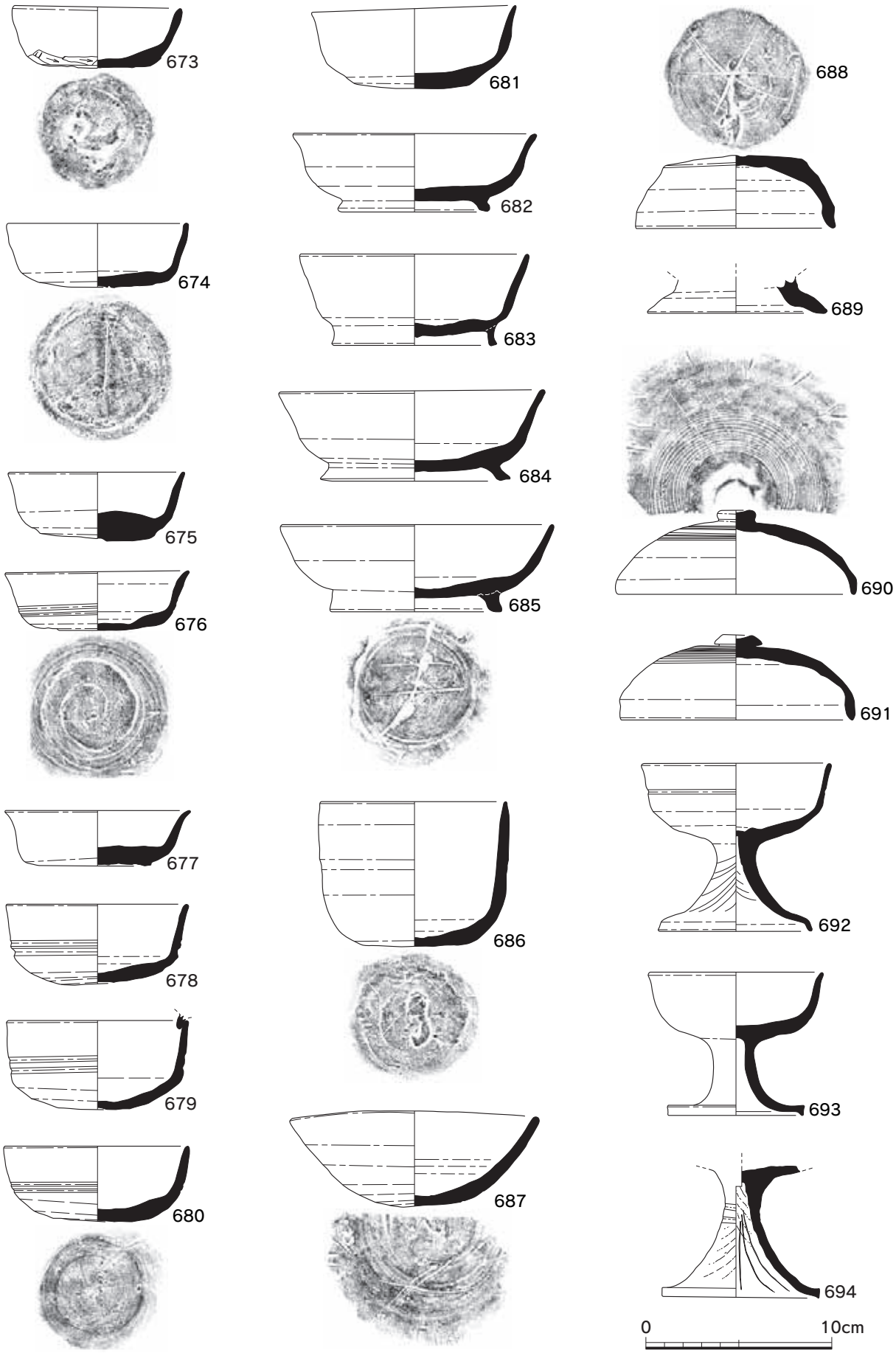
第64図　7次谷部B区5層出土遺物実測図②（1／3）



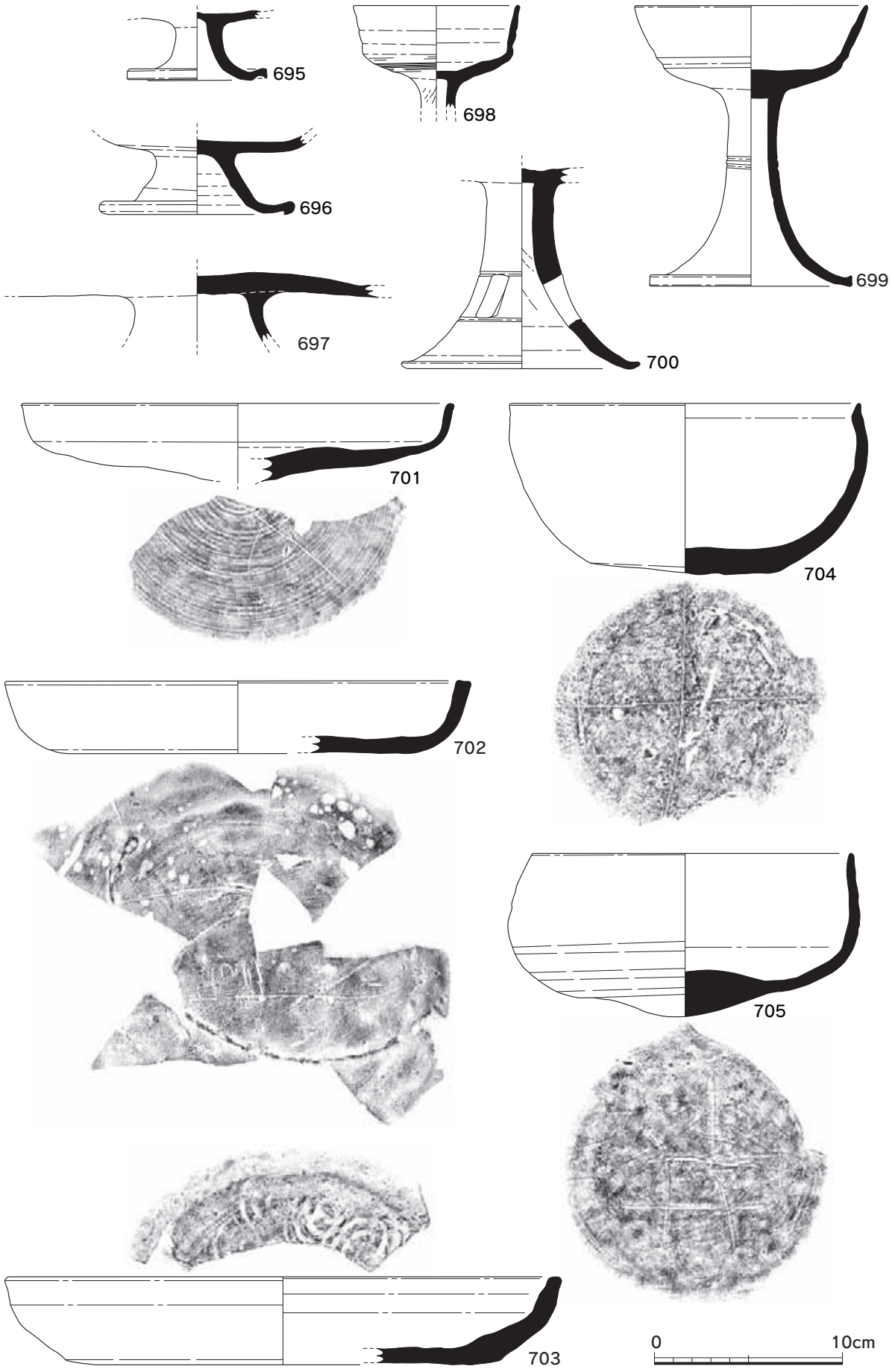
第65図　7次谷部B区5層出土遺物実測図③（1／3）



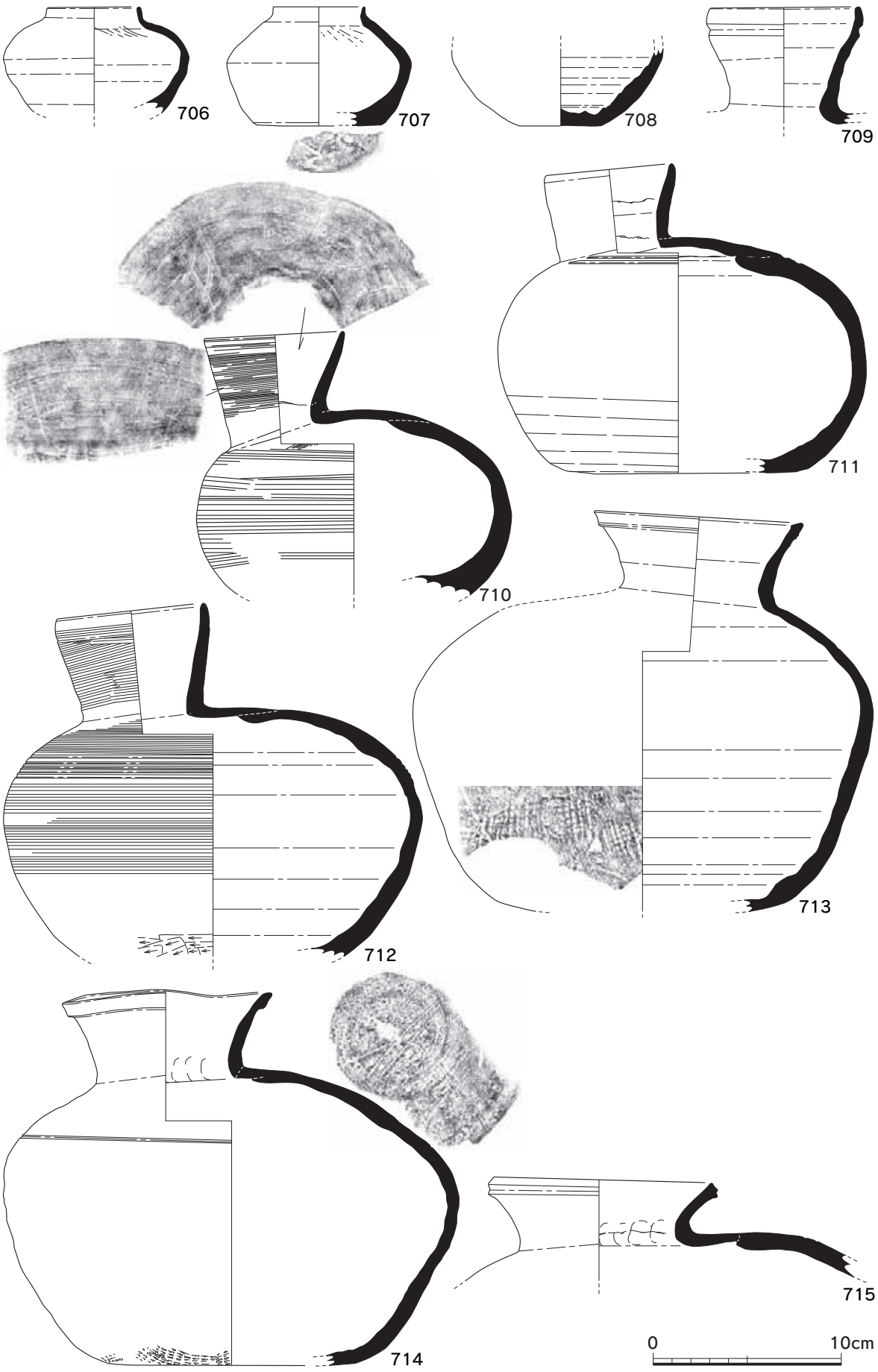
第66図　7次谷部B区5層出土遺物実測図④（1／3）



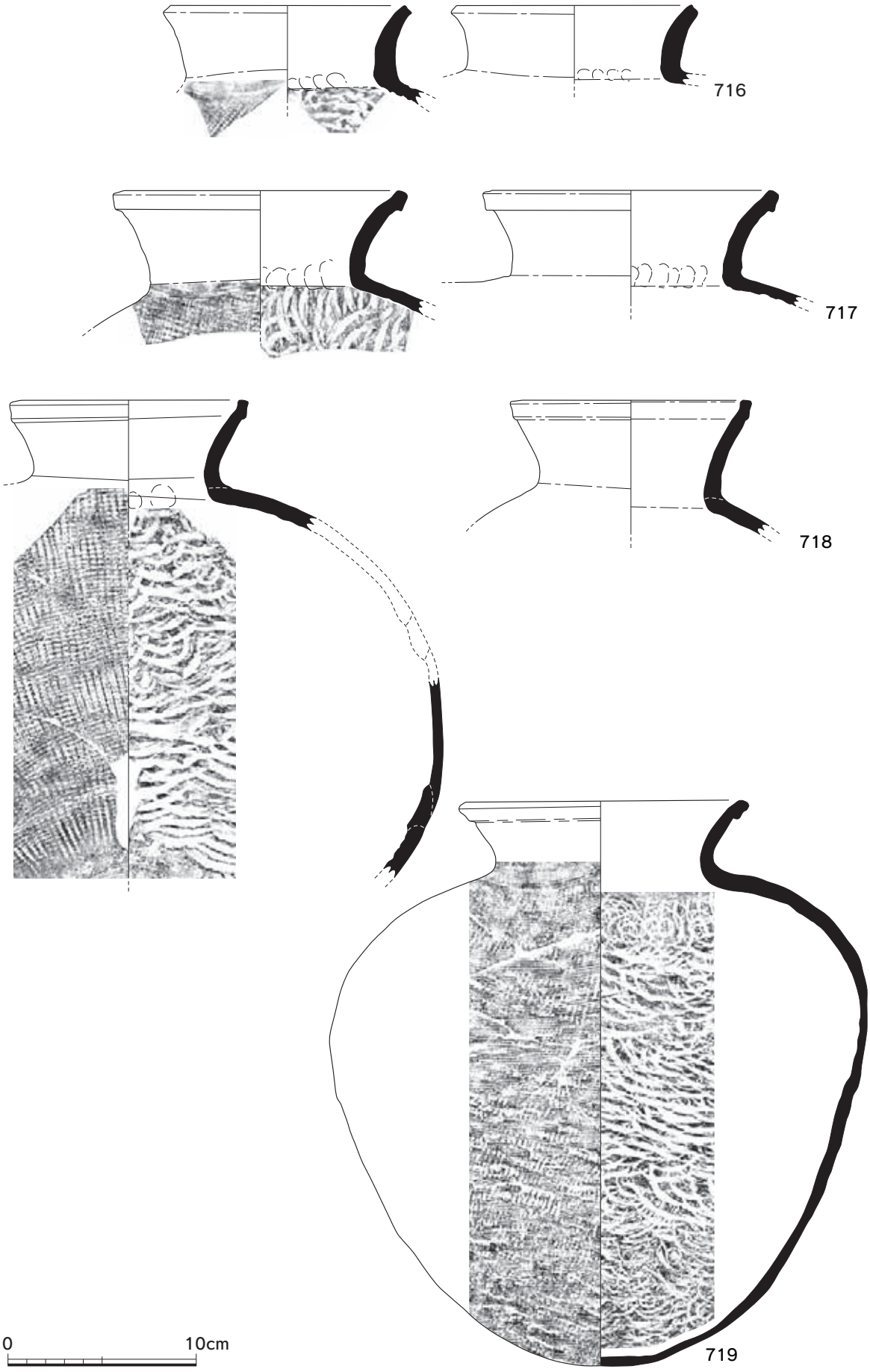
第67図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑤（1／3）



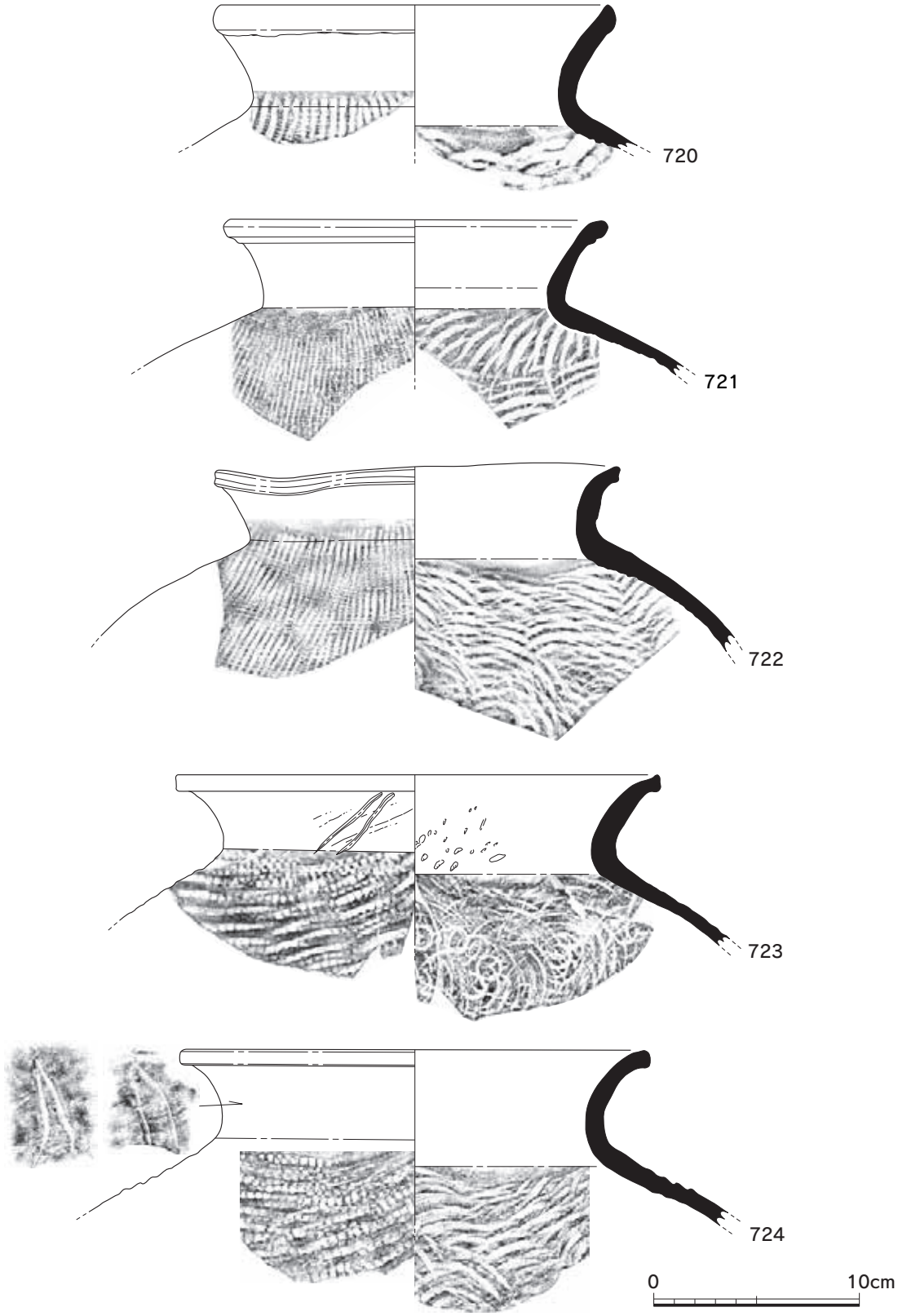
第68図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑥（1 ／ 3）



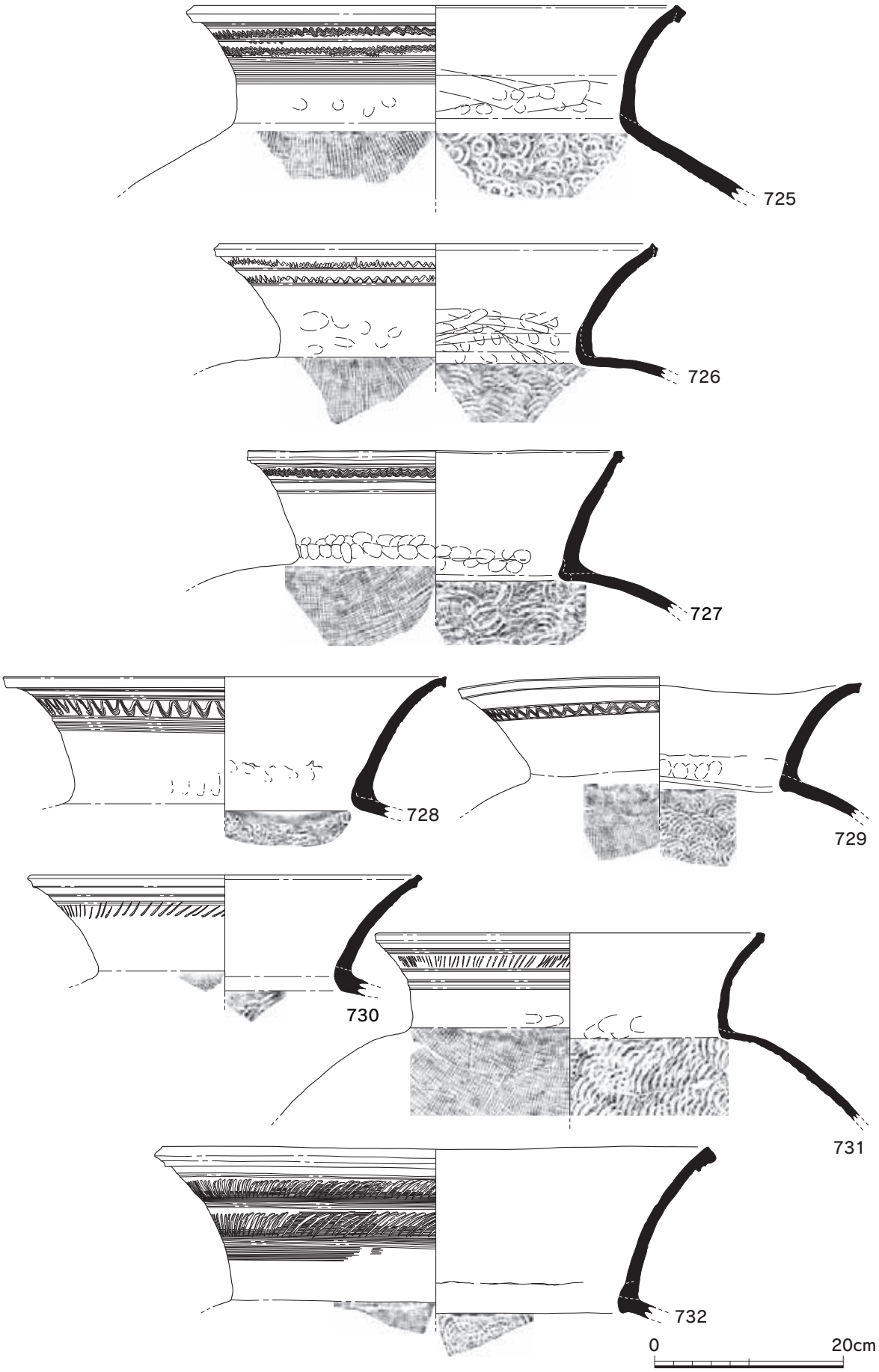
第69図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑦（1／3）



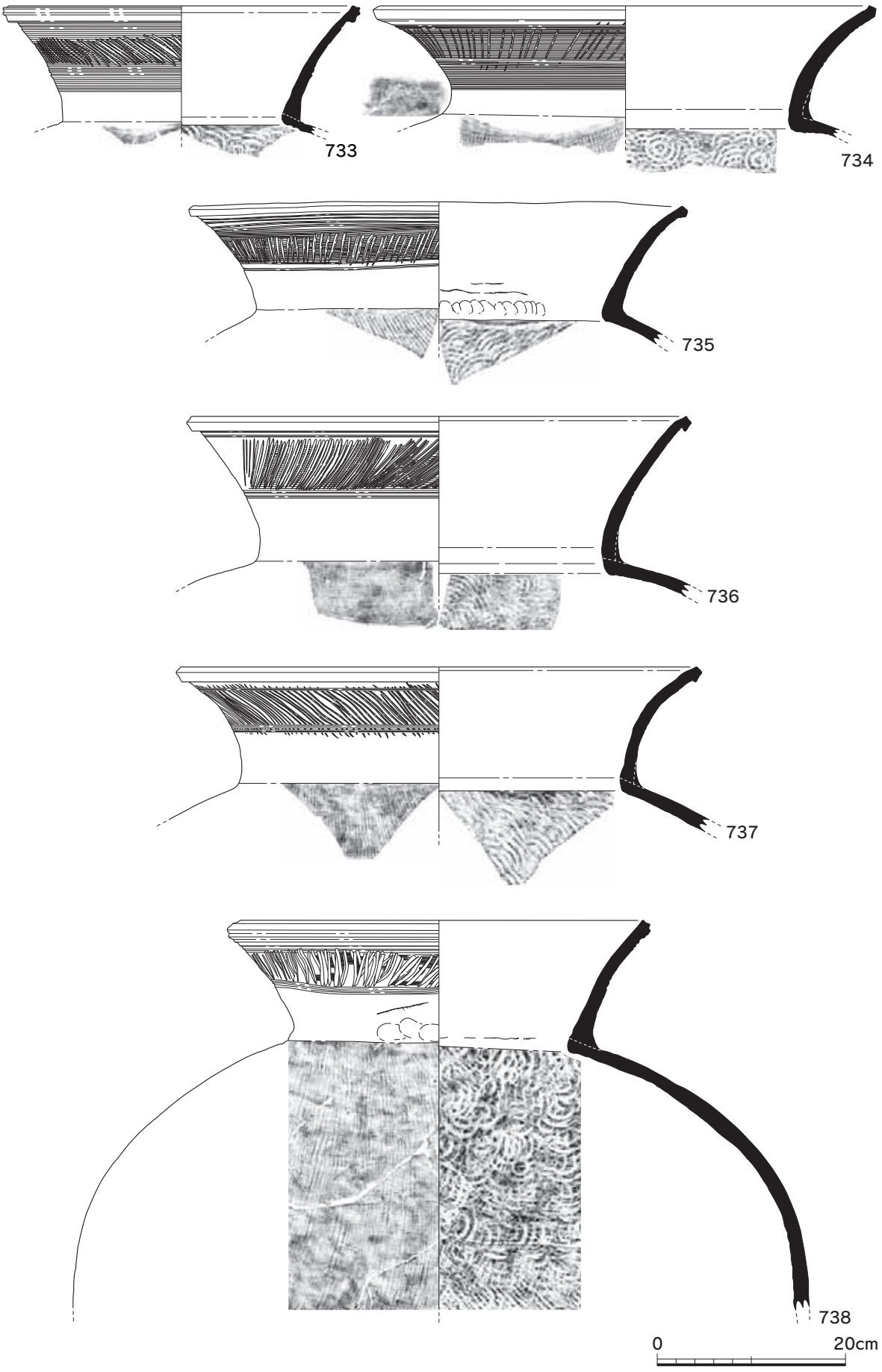
第70図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑧（1／3）



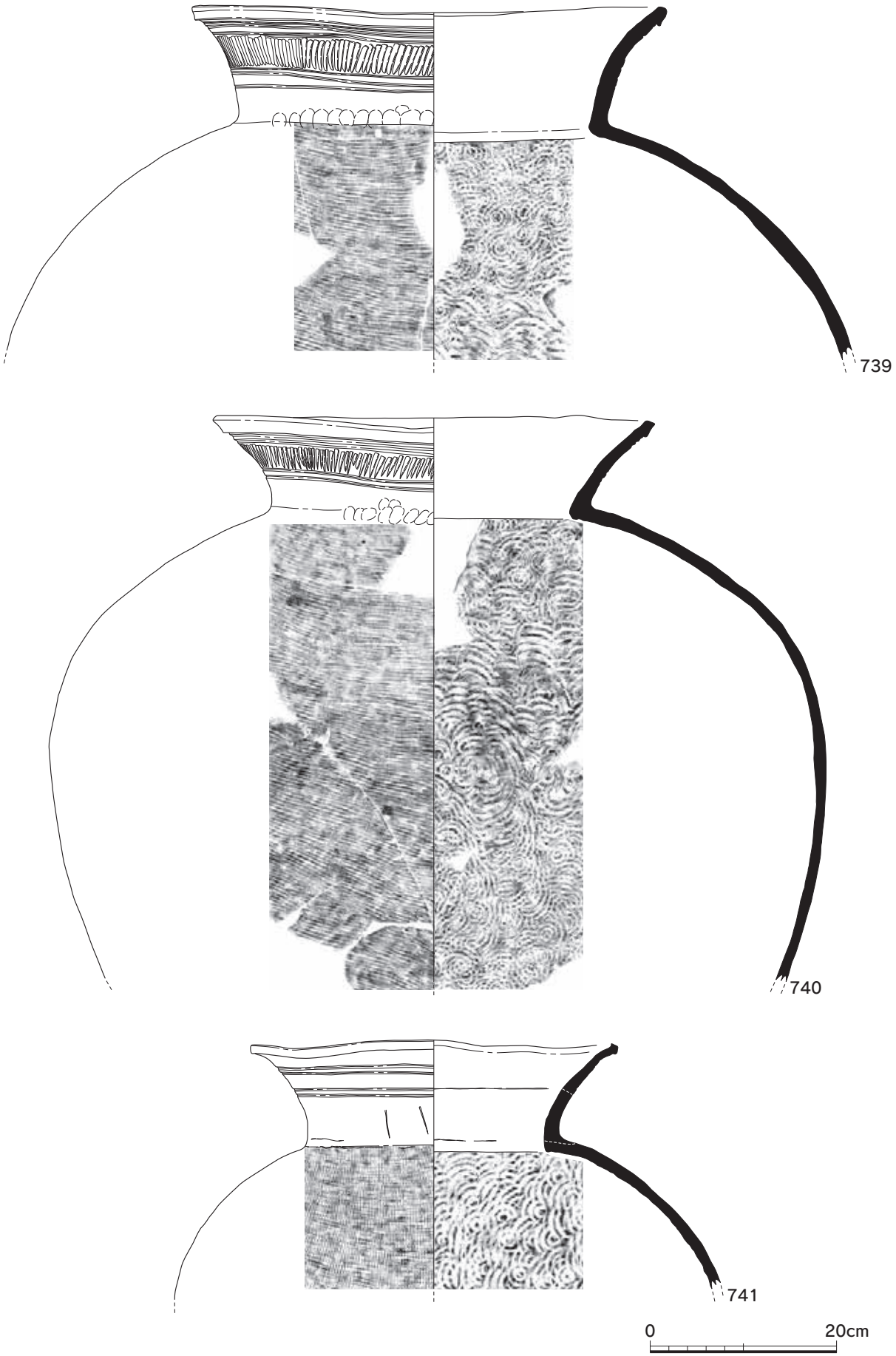
第71図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑨（1／3）



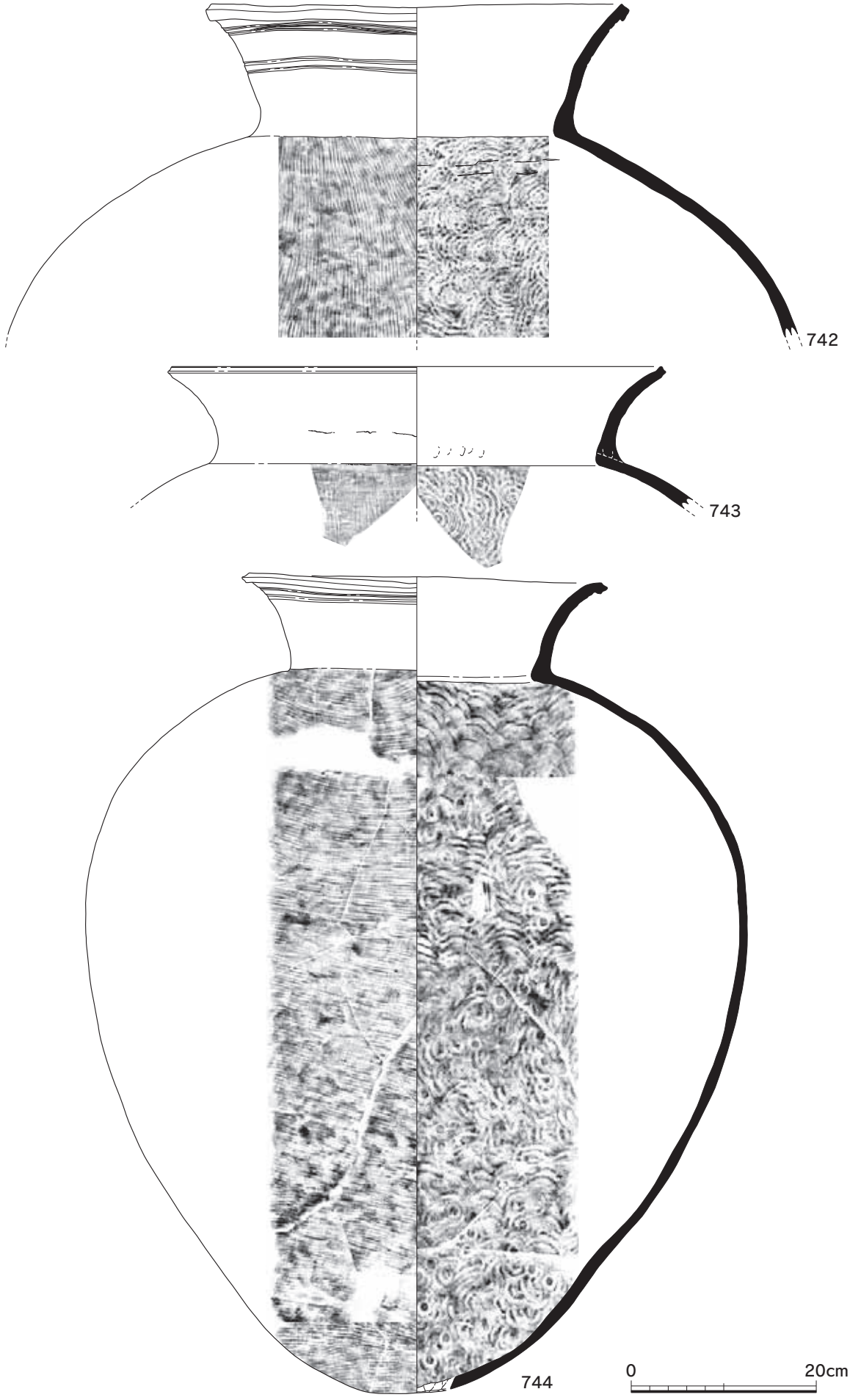
第72図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑩（1／6）



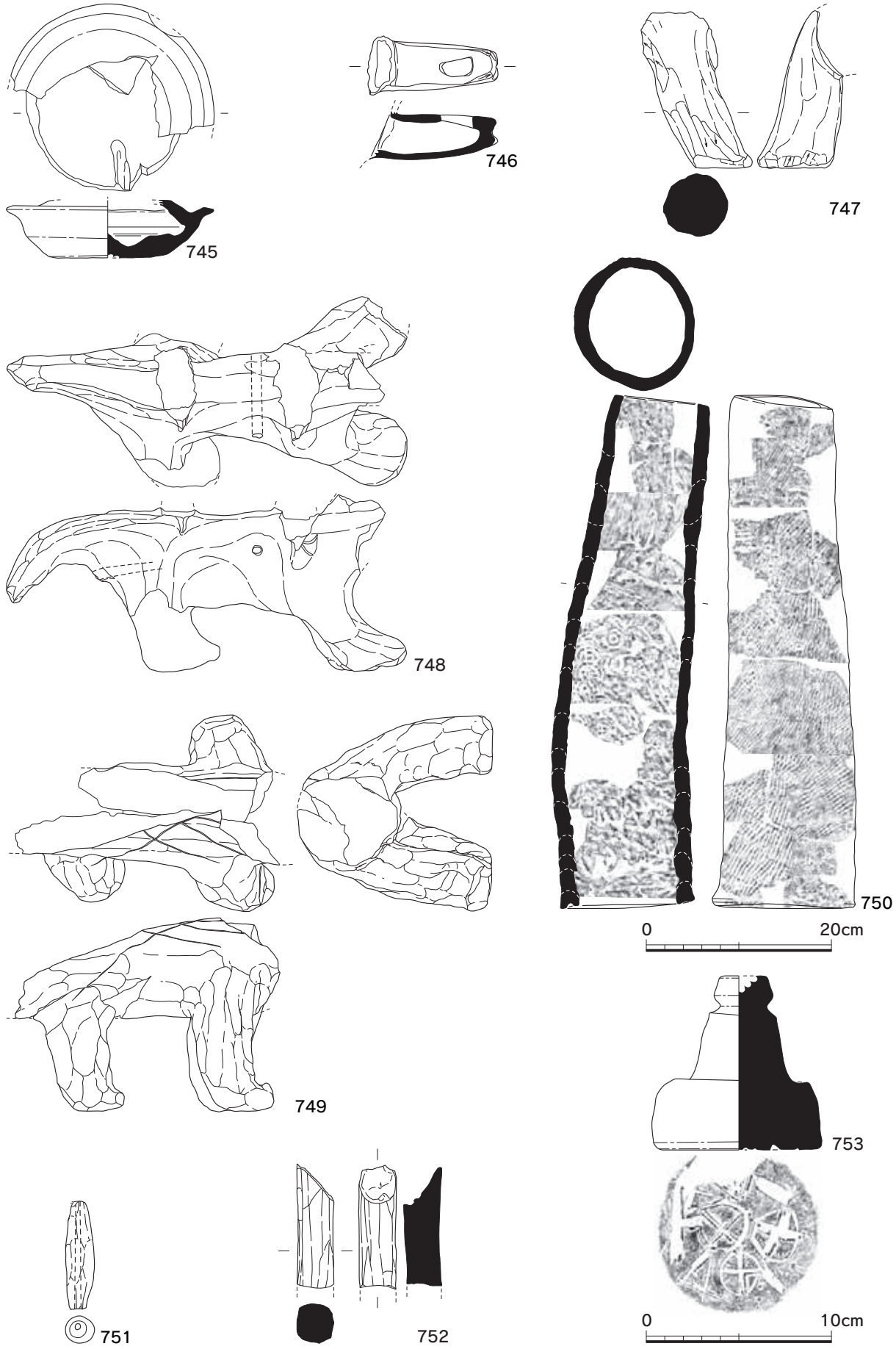
第73図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑪（1／6）



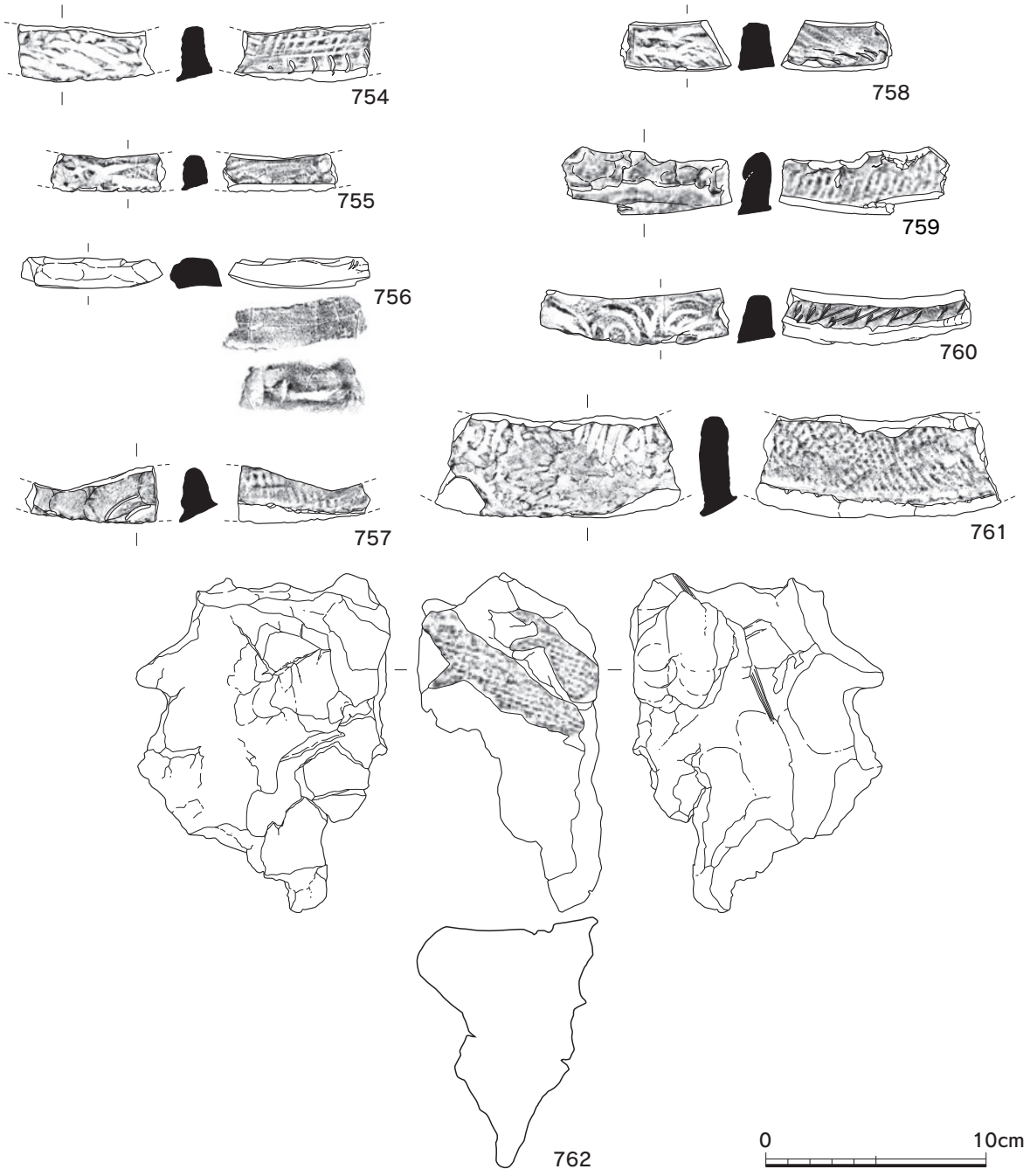
第74図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑫（1／6）



第75図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑬（1／6）



第76図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑭（750は1／6、他は1／3）



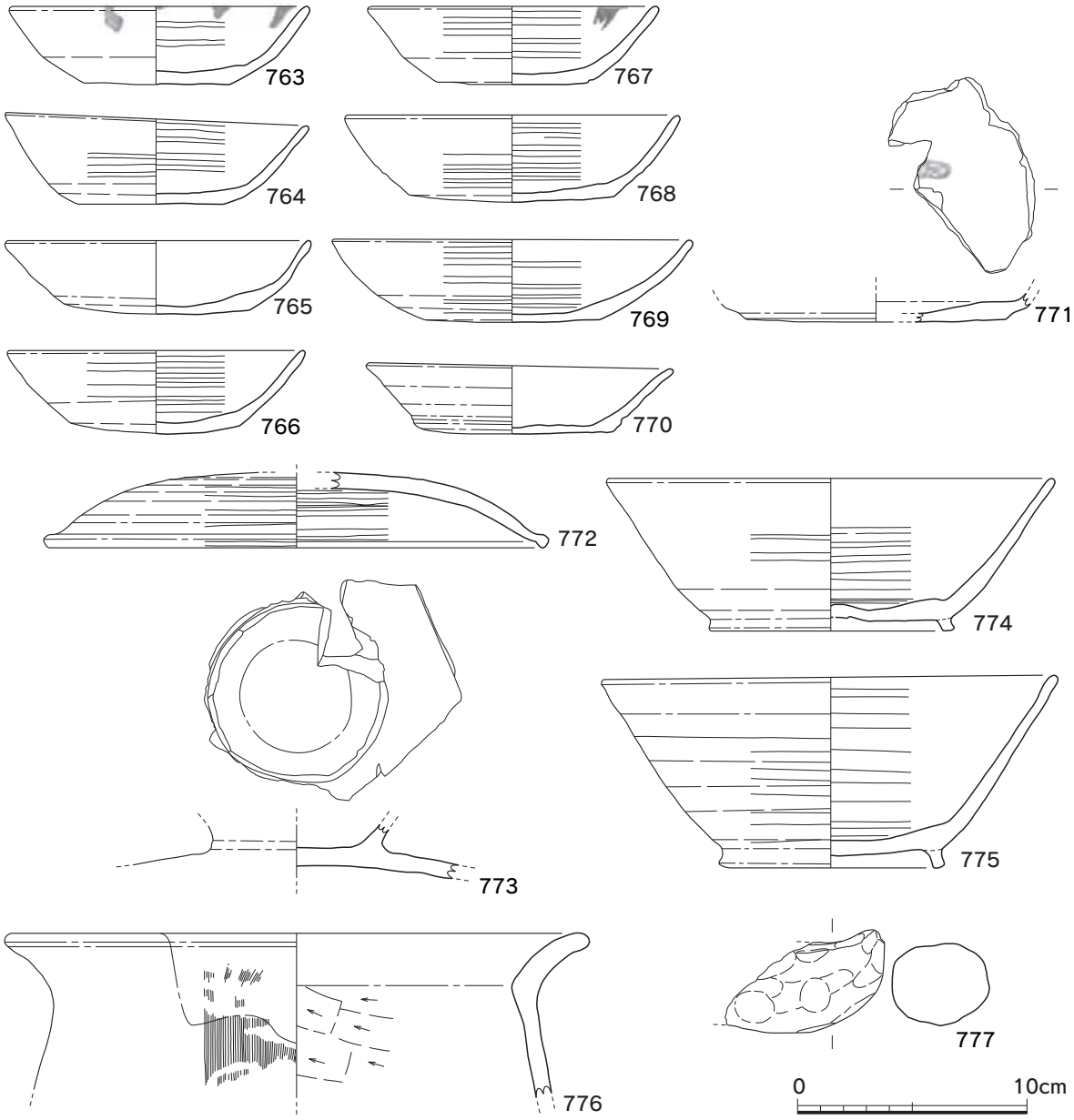
第77図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑮（1／3）

ラミガキを施す。776は甕である。外面はハケメ、内面はヘラケズリを行い、口縁部は外反する。777は甑把手。

瓦（778 ～ 782）　778・779は丸瓦。いずれも凸面に平行タタキ、凹面に布目痕がみられる。780 ～ 782は平瓦。780は凹面に当て具痕と見られる円形の圧痕がつく。781は凸面に平行タタキを行うが、上半は一部重なるようにタタキを行っている箇所がある。凹面は布目痕上にナデを行う。782は凸面平行タタキ、凹面は当て具痕と思われる半円形の圧痕がまばらにみられる。

土製品（784）　二つ折り後ナデ整形し、側面をつまみ出している。被熱し、煤が付着している。

石製品（785 ～ 787）　いずれも砂岩製砥石。785は３面を使用する。786は２面を使用している。



第78図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑯（1 ／ 3）

787は剥落などで器表面がやや粗くなっており、使用痕は一部に残る。

谷部B区6層出土遺物（第82図・図版50）

須恵器（788 ～ 798）　788・789は杯H・G蓋。ともに天井部外面にヘラ記号を施す。790は杯H身。底部外面にヘラ記号を施す。791は盤。底部は押し出されている。底部外面にヘラ記号を施す。792はすり鉢である。体部外面および底部外面にヘラ記号、底部内面にハケメを施す。793は短頸壺。底部外面回転ヘラケズリ後ヘラ記号を施す。794 ～ 798は大甕である。795は体部の残存がわずかであるため調整が判然としないが、その他は外面に擬格子目のタタキ、内面に同心円文当て具痕がつく。いずれも頸部外面に２～３段の沈線を巡らし、794は波状文を施す。795 ～ 798は連続斜線文が施される。797はカキメ後に連続斜線文を施し、その後沈線を巡らせている。

土師器（799）　甑の底部片である。底端部付近に穿孔する。内面はヘラケズリ、外面はハケメを

施している。

谷部B区7･8層出土遺物（第93図・図版51）

須恵器（800 ～ 806） 800は杯H蓋。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、竹管文を付す。801は杯H身である。受部に杯蓋片が釉着。802・803は短頸壺。底部外面に手持ちヘラケズリを行い、体部中位に2条の沈線を持つ。どちらも外面にヘラ記号を施す。804は一応瓶とする。全体にカキメを施した後に斜線文を施す。その後、注口をなでて貼り付ける。体部最大径が上位にもつ。805・806は甕である。805は口縁部にヘラ記号を施している。外面は擬格子タタキ、内面は比較的大きい同心円文当て具痕がみられる。806は肩部に張りがない。外面は横方向の平行タタキ、内面は同心円文当て具痕がみられる。

土師器（807） 甑である。体部外面は縦方向のハケメ、内面は強いナデ。把手がつき、ナデは入念におこなわれる。

石製品（808） 紡錘車である。直径5.0㎝、孔径0.7㎝、最大厚0.6㎝を測る。

谷部B区9層出土遺物（第84図・図版51）

須恵器（809 ～ 815） 809は杯H蓋。809は天井部外面にヘラ記号を施している。810は杯G蓋。つまみがつかない。811・812は杯H身である。811は底部外面にヘラ記号、体部外面にヘラミガキ状の痕跡が認められる。また、受部は浅く、立ち上がりが短い。812は体部外面下半は回転ヘラケズリを行う。立ち上がりが高く、直立に近い。813は高杯。低脚。脚端部は内側につまみ出す。杯部は外面に三条の沈線をもち、底部内面にヘラ記号を施す。814は杯。口縁部は短く外反し、口唇部は平らになっている。短頸壺の蓋の可能性もある。815は大甕である。口径は48.8㎝を測る。体部外面に擬格子目タタキ、内面に同心円文当て具痕がみられる。

谷部B区10層出土遺物（第85図・図版51・52）

須恵器（816 ～ 823） 816は杯H蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリを行った後、ヘラ記号を施す。817・818は杯H身。818は体部外面の下方から回転ヘラケズリを行う。819は短頸壺蓋。口唇部は平らである。820 ～ 822は甕である。829は擬格子タタキ後にカキメを施し、内面同心円文当て具痕。821は頸部にカキメ後斜線文を二段施す。また体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。822は外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕。口縁部には波状文を施す。823は切り抜き円盤。最大径9.7㎝、最大厚1.1㎝。外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。（大里）

谷部Ｃ区

谷部Ｃ区も谷部斜面はＡ･Ｂ区と同じような傾斜角度をもつが、北側斜面は階段状を呈している。これが人為的なものであるか、自然下でおこったものかは不明であるが、須恵器窯などの遺構が存在したと考えられる斜面に確認できることは興味深い。Ｂ区と同じように、谷底部は狭くなる。堆積土は、２層とした黒褐色粘質土は明瞭である。２層下は粘質土と砂質土が互層になり、グライ化した青灰色粘質土が確認された。灰層は東へむかうに従い次第に標高を減じ、純粋な灰層ではなく流れているようである。出土遺物は、２層下の粘質土・砂質土の互層から多量の土師器・須恵器が出土したほか土師器内外面に宝相華などを描いた墨画土器が出土している。また、灰層と考えられ

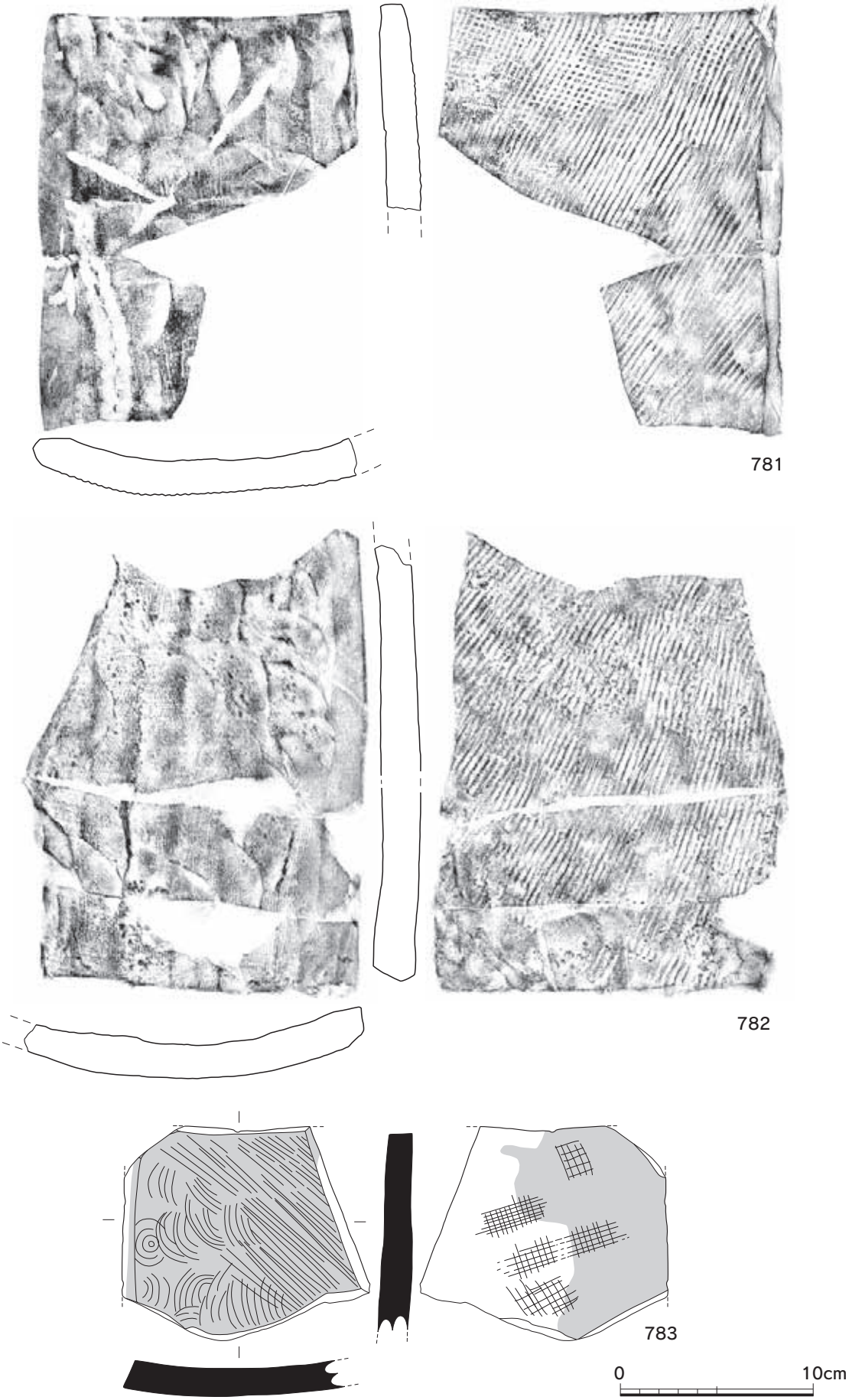
778

779

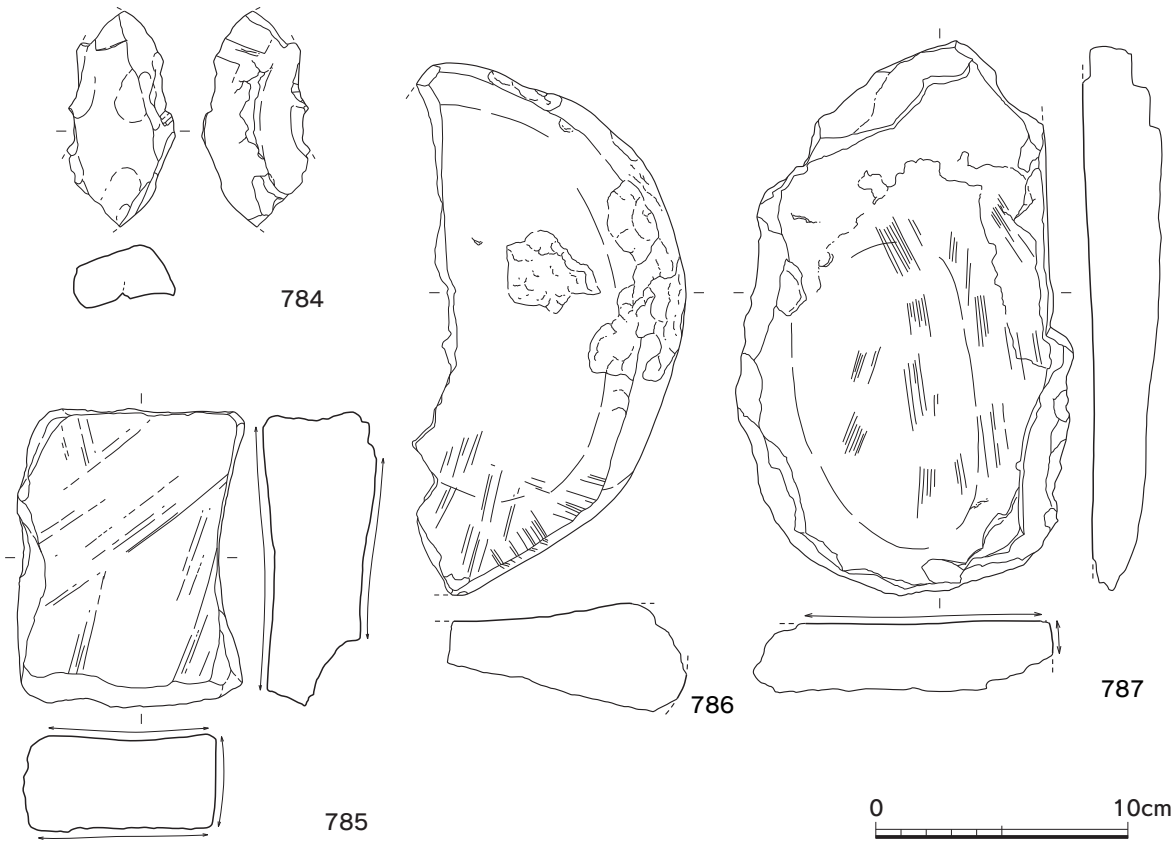
780

0 10cm

第79図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑰（1／3）



第80図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑱（1 ／ 3）



第81図　7次谷部B区5層出土遺物実測図⑲（1 ／ 3）

る層からは、須恵器甕頸部に「大神部見乃官」とヘラ書きしたものが出土しており、祭祀性の強い遺物とともに、牛頸窯跡群の工人および部民制について考える上で極めて重要な遺物である。（石木）

谷部C区1層出土遺物（第88図）

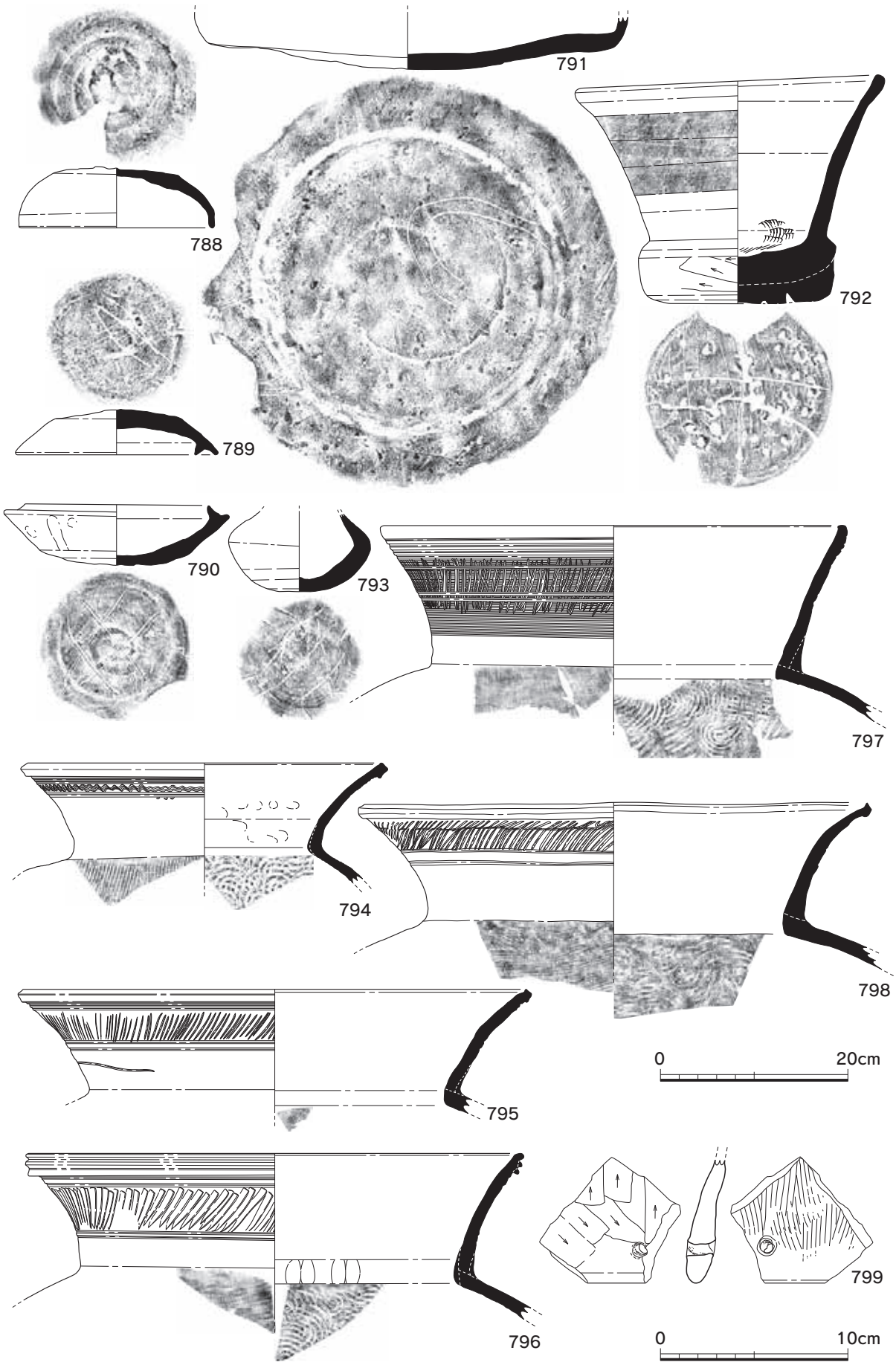
土師器（824） 小皿である。口径9.2㎝。ヘラ切りか？

石製品（825） 滑石製品。両面より穿孔しようとした痕跡がみられる。

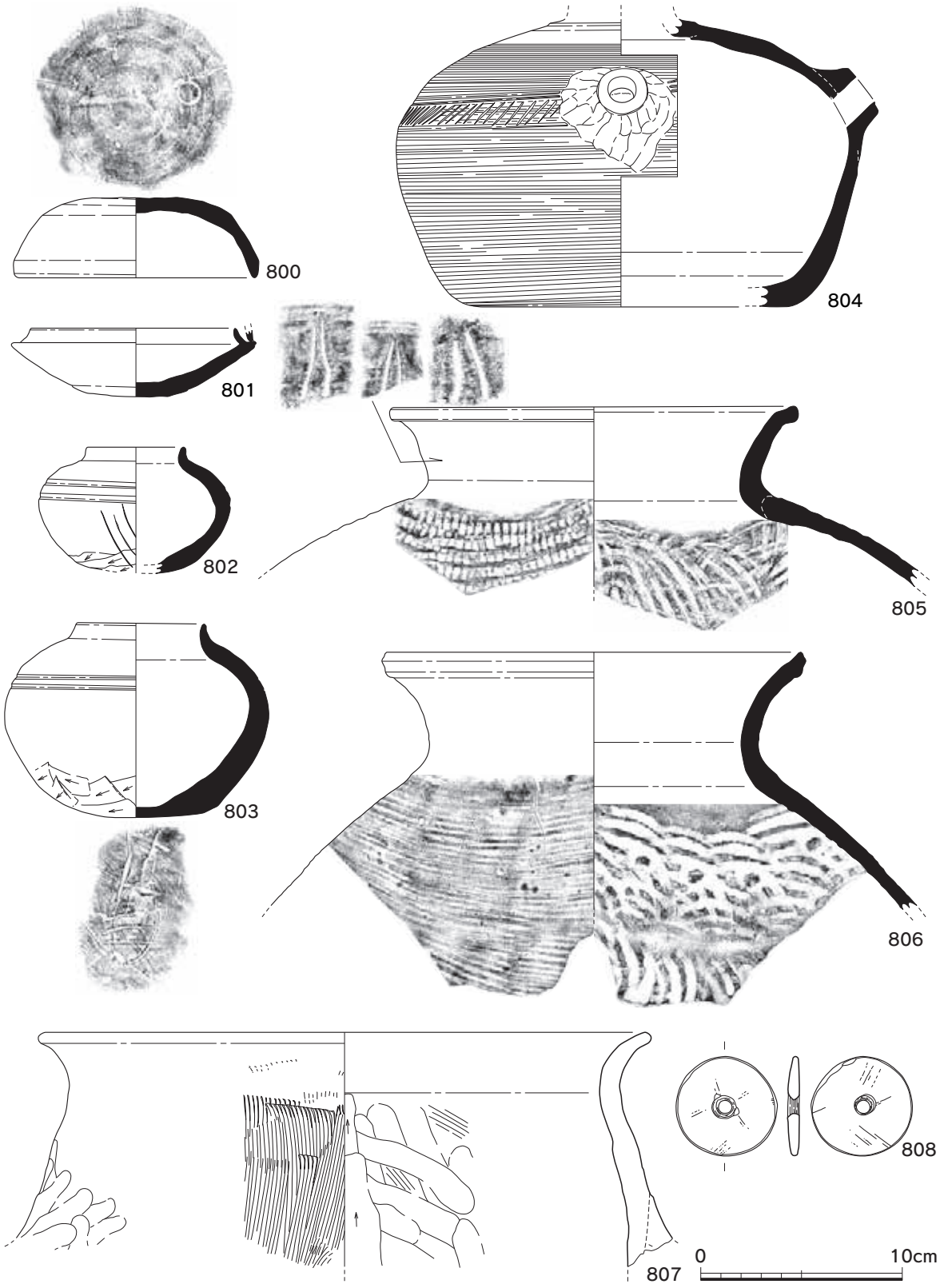
谷部C区2層出土遺物（第88 ～ 90図・図版52 ～ 54）

須恵器（826 ～ 832） 826 ～ 829は杯蓋。826 ～ 828は杯G蓋。826は体部外面中央から回転ヘラケズリを行う。827の天井部はヘラ切り後ナデを行い、ヘラ記号を施す。828は天井部外面にカキメを施す。829は杯B蓋。内面黒く塗られる。830は杯。底部はヘラ切りを行う。830は壺。外面は底部付近からナデ上げている。831は甕の切削物である。

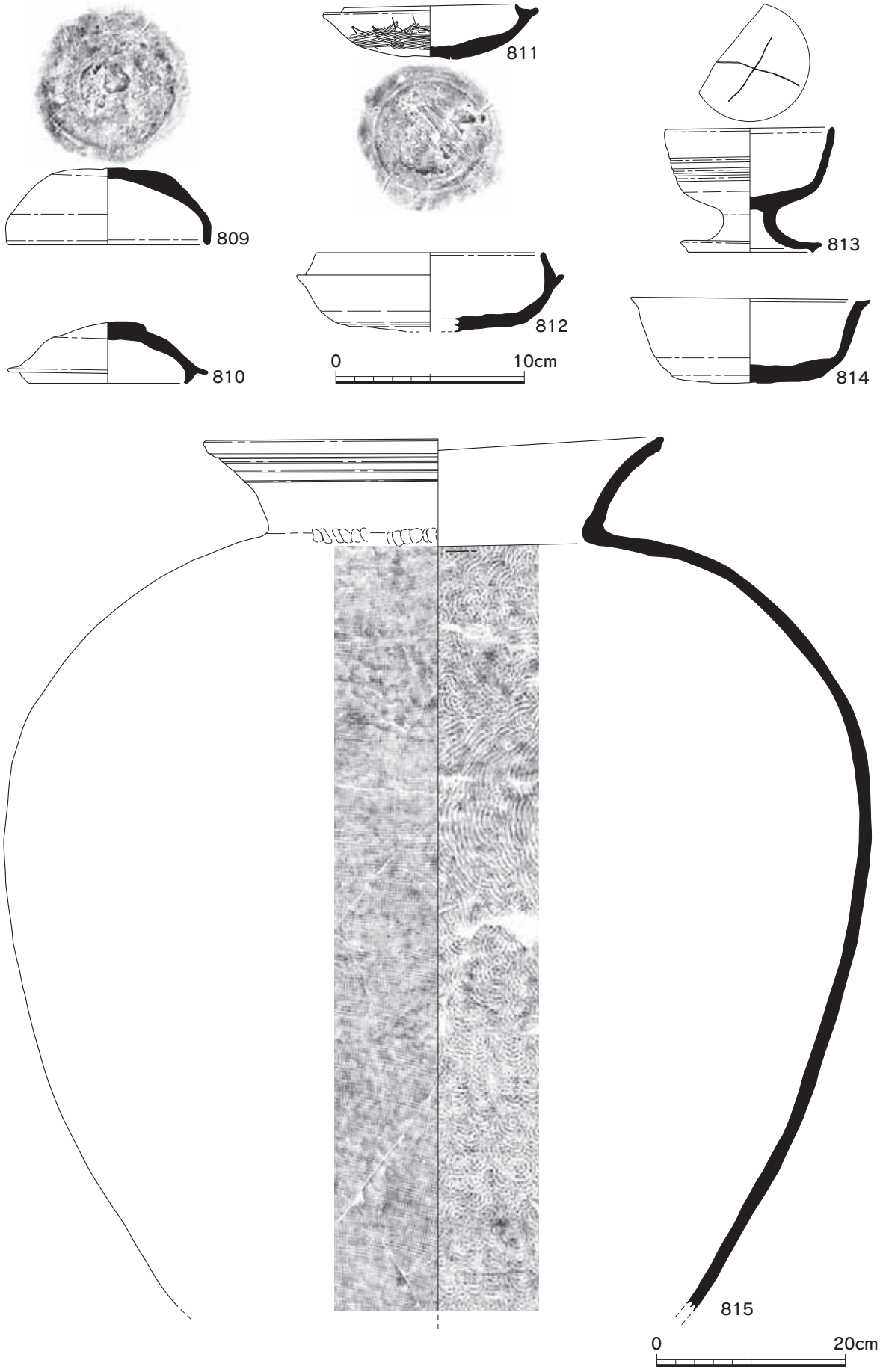
土師器（833 ～ 857） 833 ～ 838は小皿。口径8.9 ～ 10.6㎝を測る。いずれも底部はヘラ切り。836は体部が外反し、口縁端部内面にわずかに段をつけ、「て」の字状口縁部に似る。839 ～ 848は杯である。841は内面に煤が付着しており、灯明具と思われる。844は外面の一部、845は内外面にヘラミガキを施す。848は内外面に煤の付着がみられ、灯明具と思われる。849は椀である。内外面にヘラミガキを施し、体部下方は回転ヘラケズリを行う。底部に2×0.6㎝程度の長方形の孔をあける。850 ～ 852は皿。851は体部下方から回転ヘラケズリを行う。853は杯。体部外面中位から回転ヘラケズリ。口縁部内端面はくぼむ。また、内外面ともヘラミガキを施す。畿内産土



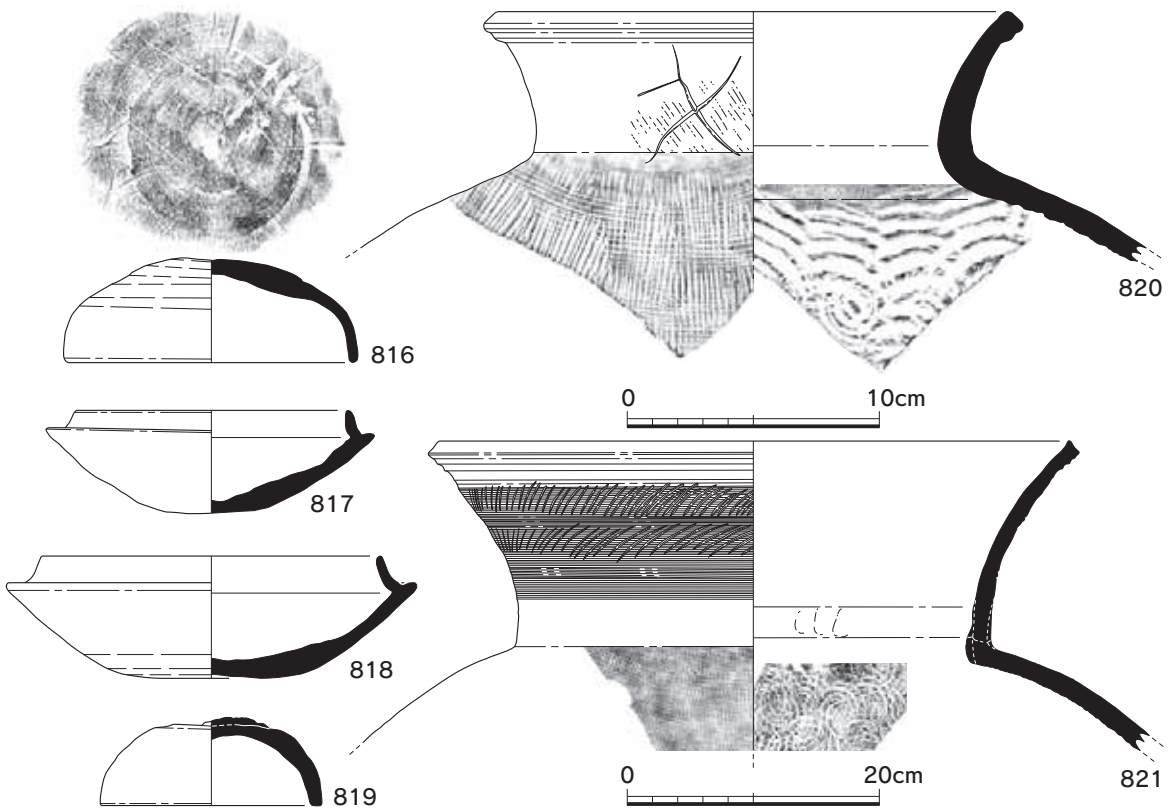
第82図　7次谷部B区6層出土遺物実測図（794 ～ 798は1 ／ 6、他は1 ／ 3）



第83図　7次谷部B区7・8層出土遺物実測図（1／3）



第84図　7次谷部B区9層出土遺物実測図（815は1／6、他は1／3）



第85図　7次谷部B区10層出土遺物実測図①（821は1／6、他は1／3）

師器を模倣したものか？ 854は鉢。鉄鉢型。体部外面中央から回転ヘラケズリ。855は器台である。外面に指頭圧痕がみられる。856は甕。口縁部内面および体部外面から底部にかけて縦方向のハケメ、体部内面はヘラケズリ。口縁部はくの字に外反する。外面煤が著しい。

黒色土器（857 ～ 860） 857はＡ類の杯。体部外面ヘラケズリ、内面にはヘラミガキを施す。858はA類の椀。内面ヘラミガキを施す。859・860はB類の椀である。859は高台を丸く折っている。内外面ともにヘラミガキを施し、高台内にはヘラ記号を施す。860は托状椀で、内外面にヘラミガキを施している。

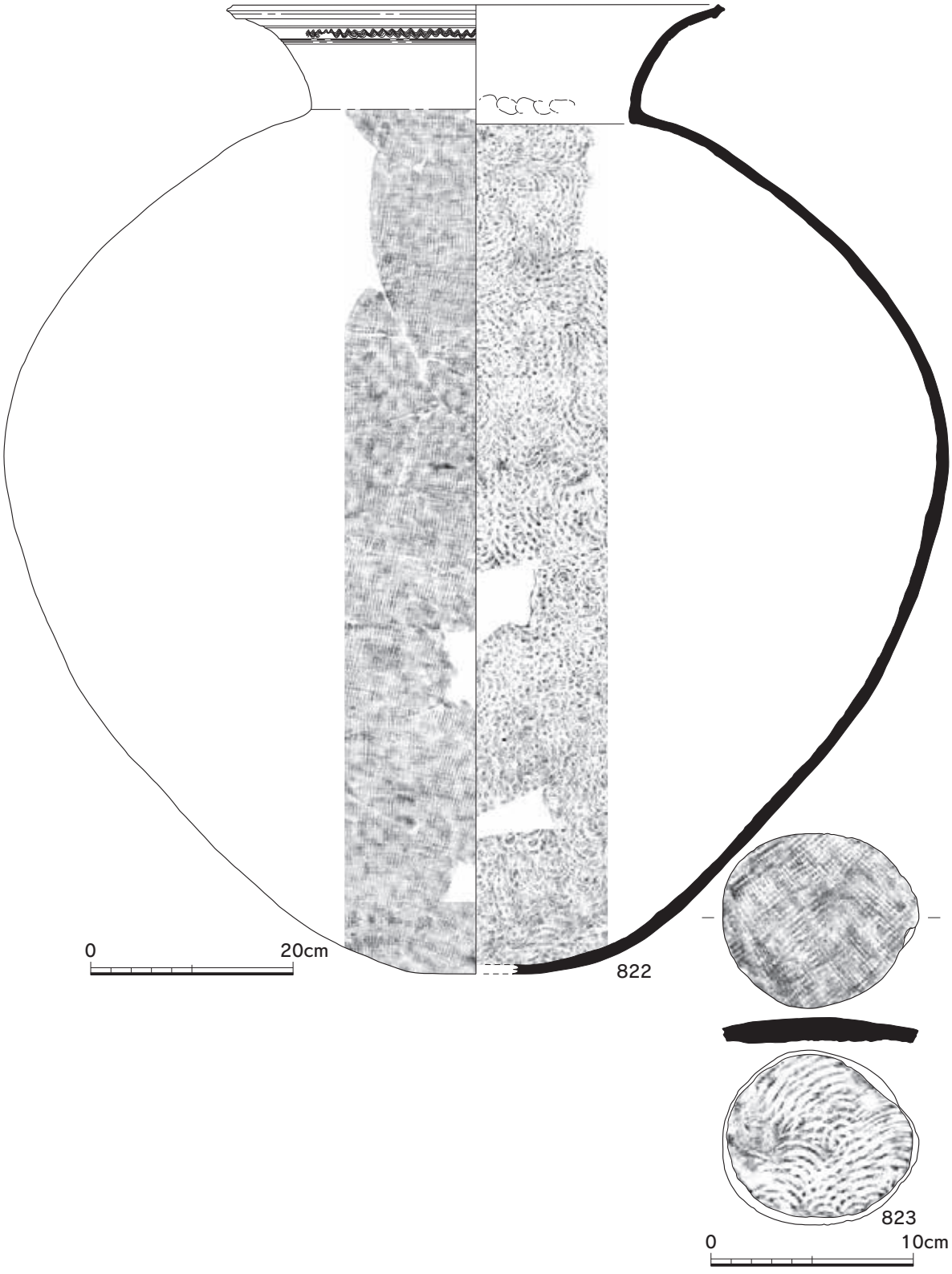
土製品（861・862） 861は脚。全体にナデ調整を行う。862は棒状製品である。

石製品（863・864） 863は砂岩製の砥石である。欠損部も使用。864は両面中央に方形状に溝を作っている。全面を使用しているが、機能は分からない。

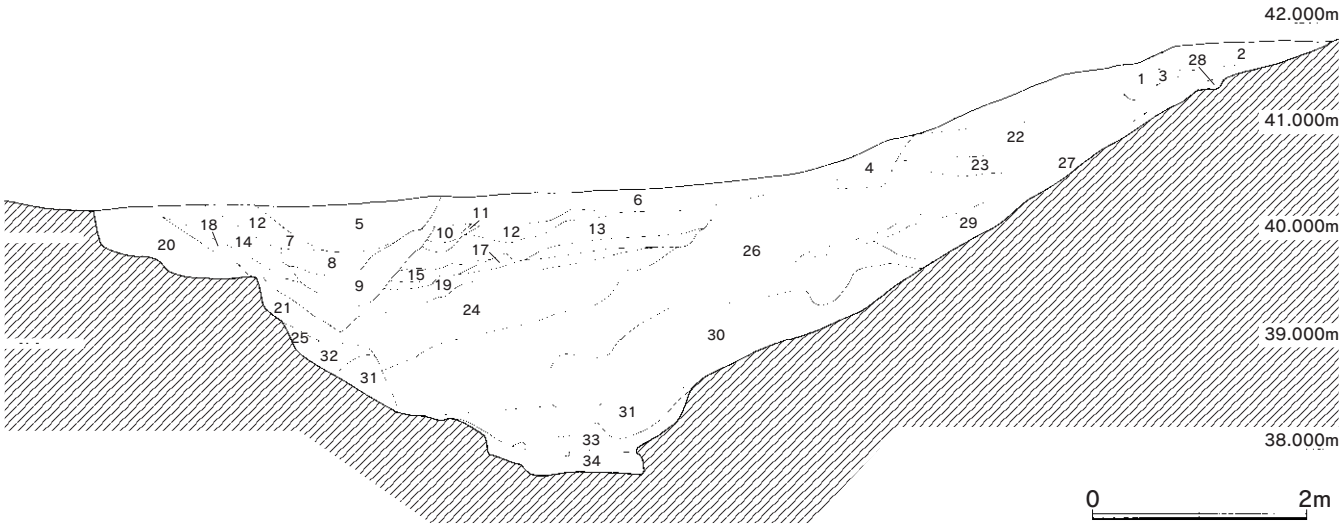
木製品（865・866） 865は皿。刳物。底径は約13㎝。薄く、浅く仕上げられる。866は斎串。側面と先端を削っている。

谷部C区4層出土遺物（第91 ～ 95図・図版54 ～ 59）

須恵器（867 ～ 878） 867は杯G蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリを行う。868は杯Ｂ蓋である。天井部内面に煤が付着する。869・870は杯Ｂ身。869は高台が低く、底端部につき、ハの字に広がる。871・872は杯である。いずれも転用硯で、内面には墨痕が著しい。873は盤である。底部はわずかに押し出され、ヘラ切りを行う。874は皿。内面墨痕が見られる。また、外面に墨書と思われるものもみられる。875は壺である。底部外面の中央に径2㎝ほどの窪みがある。



第86図　7次谷部B区10層出土遺物実測図②（822は1／6、他は1／3）

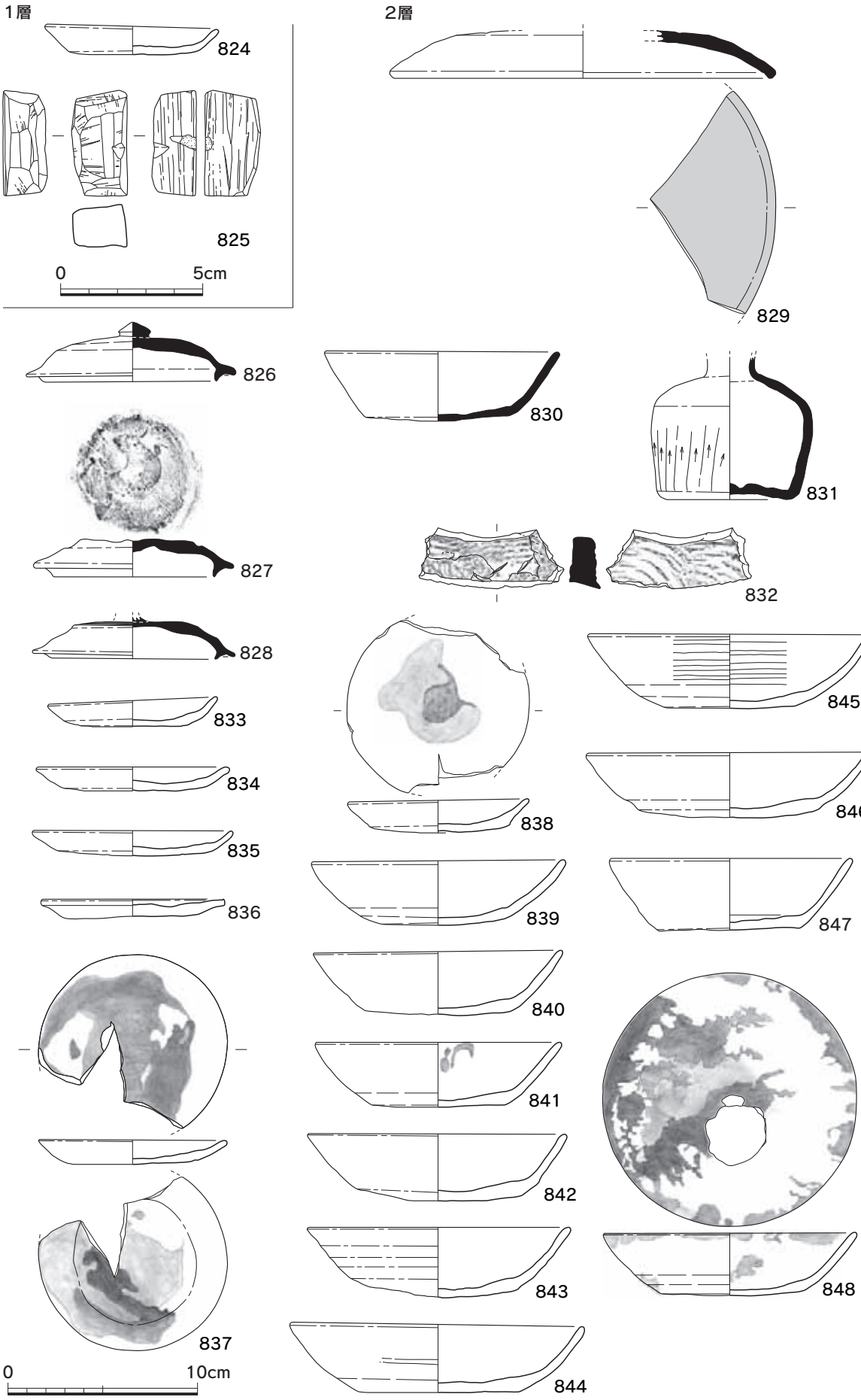


1.明黄褐色土10YR6/6　しまり弱い。黒褐色土10YR3/1をブロック状に含む(約4割)。径5mm大の炭を多く含む。
2.にぶい黄褐色土10YR5/4　砂質土・黒褐色土10YR3/1粘質土の斑土。径2～5mmの砂粒・炭を多く含む。
3.灰黄褐色土10YR5/2　粘質土。径2～10mmの砂粒を多量含む。炭を多く含む。
4.褐灰色土10YR5/1　粘質土。炭・焼土粒を下位を中心に多く含む。径2～10mmの砂粒を少し含む。
5.にぶい黄色土2.5Y6/4　砂質土。褐灰色粘質土10YR5/1を径2～5cmのブロック状に少し含む。
6.褐灰色土10YR4/1　粘質土。径2～5mmの砂粒を少し含む。須恵器・土師器含む遺物包含層。
7.にぶい黄～明黄褐色土2.5Y6/4～6/6　砂質土。黒褐色土10YR3/1がうすい層状に少し入る。
8.にぶい黄色土2.5Y6/3　砂質土。炭がわずかに入る。暗灰黄色粘質土2.5Y5/2をブロック状に少し含む。
9.にぶい黄色土2.5Y6/4　砂質土、黒褐色土10YR3/1　粘質土　混土。炭をわずかに含む。左上層に黄灰色粘土2.5Y5/1、にぶい黄色砂質土2.5Y6/3がうすく互層で入る。
10.灰黄色土2.5Y6/2　砂質土。
11.黄灰色土2.5Y4/1　砂質土。炭・焼土粒を少し含む。
12.黄灰色土2.5Y4/1　砂質土、灰黄色土5Y6/2　砂質土混土。黄灰色土主体6割。炭・焼土粒(径2～3mm)を少し含む。
13.オリーブ黄色土5Y6/3　粘質土、オリーブ黒色土5Y3/1　砂質土　互層。炭を少し含む。径2～5mmの白色砂が目立つ。
14.灰オリーブ色土5Y5/2　砂質土。粘性あり。炭をわずかに含む。地山に由来する白色砂粒を多く含む。
15.黄灰色土2.5Y4/1　粗砂。炭・焼き粒を多く含む。しまり欠く。
16.黄灰色土2.5Y4/1　粗砂。黒褐色土2.5Y3/4　粘土の互層。
17.黒褐色土10YR3/1　砂質土。灰層、粘性ややあり、焼土粒を少量含む。
18.暗灰黄色土2.5Y5/2　砂質土。粘性あり。
19.灰オリーブ色土5Y5/2～5/3　粘性土。しまりあり。径2～5mmの砂粒を多く含む。
20.灰オリーブ色土5Y5/2　砂質土。しまりあり。
21.灰色土5Y5/1　粘質土。しまりあり。下位がより粘土化。
22.褐灰色土10YR4/1　砂質土。しまりあり。径5～15mmの炭・焼土粒を非常に多く含む。
23.明黄褐色土10YR6/6　砂質土。しまりあり。炭がうすく互層状に入る。
24.黒褐色土10YR3/1　砂質土。灰層　しまり弱い。焼土粒を少し含む。須恵器がまばらに入る。
25.灰色土5Y5/1　粘土。灰色土5Y6/1砂が層状に少し入る。
26.黒色土10YR2/1　灰層　砂質土。しまり弱い。右上位に炭化物・焼土粒集中している。下層に炭の塊が少し入る。中層以下に須恵器多量に入る。
27.明黄褐色土10YR6/6　粘質土。ブロック状に黒色土10YR22/1が入る。しまり弱い。炭多く含む。
28.にぶい黄橙色土10YR6/4　砂質土。しまりあり。
29.明黄褐色土10YR6/6　砂質土。しまり強い。うすい縞状に褐灰色砂質土10YR6/1が入る。
30.明黄褐色土2.5Y6/6　粘質土。しまり強い。径2～5mmの砂粒を少し含む。均質・下位にいくに従いグライ化。
31.灰オリーブ色土5Y5/2　粘質土。しまり強い。縞状に灰色粘質土5Y5/1が入る。
32.灰色土5Y5/1　粘土、粗砂互層。炭を少し含む。須恵器片多量に含む。
33.黒色土10YR2/1　灰層。しまり弱い。焼土粒を上位に少し含む。(5層灰層とは、9層間層を挟み時期差がある)
34.灰色土5Y5/1～4/1　粗砂～砂。炭を少し含む。流木が入る。(間窯に伴う開発以前の自然堆積層。D区側7・8層との整合性は取れていない)

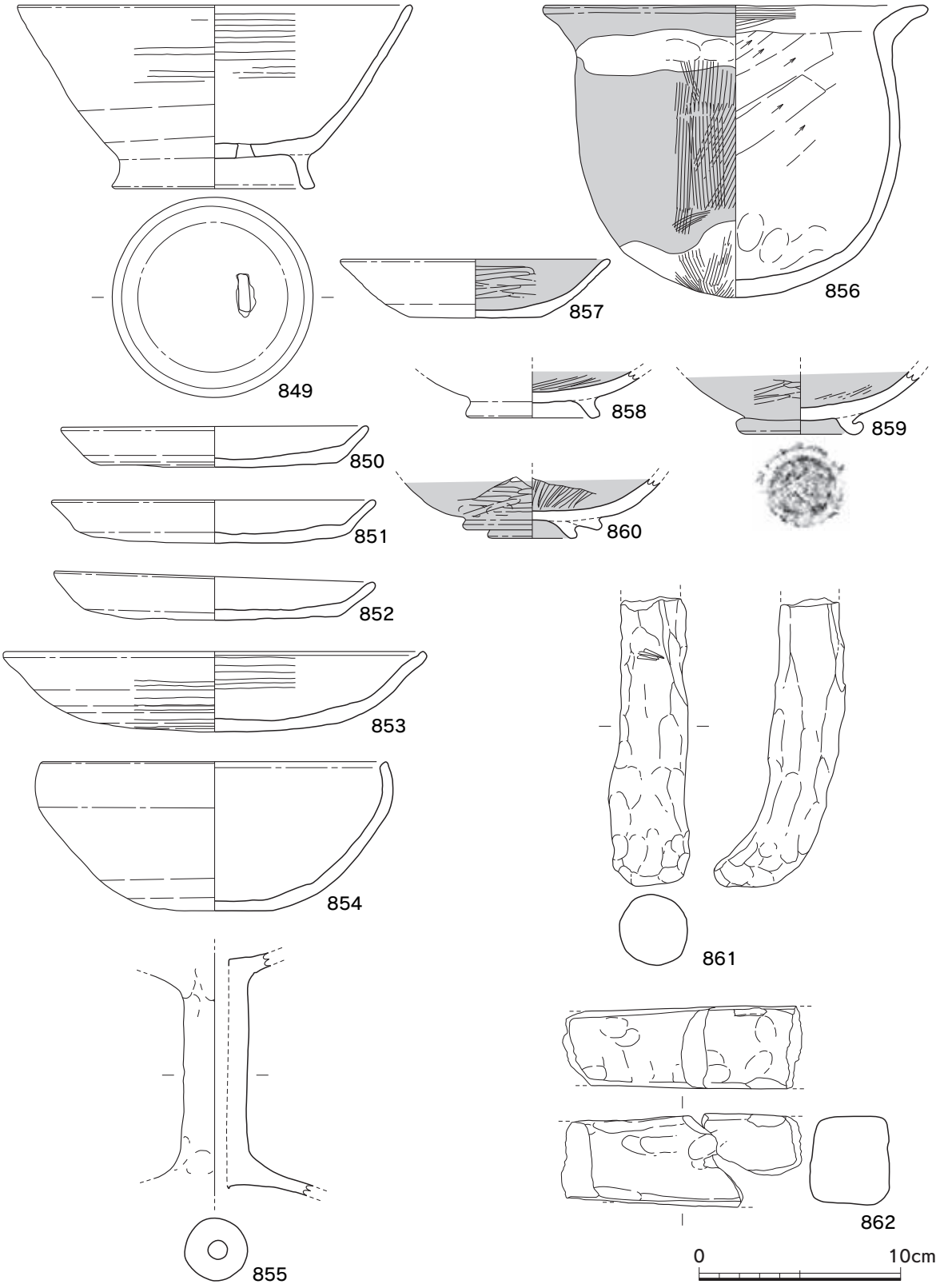
第87図　7次谷部B・C区間土層実測図（1／70）

876は甕である。頸部外面に波状文を2段施す。体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕がみられるが、一部格子状の当て具痕もみられる。口縁部が玉縁状である。877は須恵質の土製品。断面五角形を呈し、頂部には穿孔された痕跡がある。878は甕の切削物である。

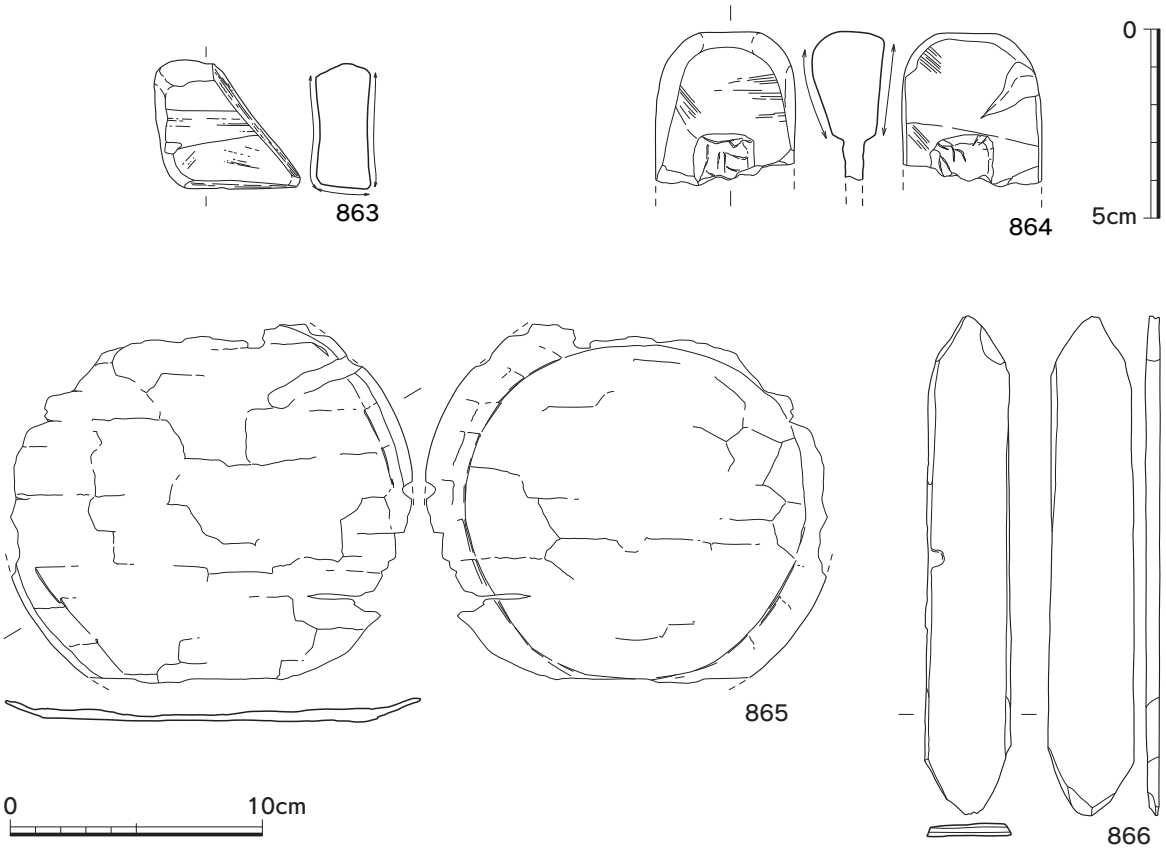
土師器（879～935）　879～900は杯。口径約12.5～16.4㎝を測る。886・888・890・896を除いては回転ヘラミガキを施しているが、895・897は内面のみである。895～898は煤が付着しており、灯明具と思われる。899は底部外面に記号状の墨書がみられる。900は一応杯とした。両面に墨書がみられる。901～903は蓋である。901・902は内外面にヘラミガキを施し、全体は丸い。902は天井部に穿孔がある。903は天井部は平らで、口縁部へむかって大きく開き、口縁部が短く折り曲げる。904～909は椀である。すべて回転ヘラミガキを施すが、904・909は内面、908は外面のみに施す。910・911は鉢である。910は口縁部が外反するが、911は屈



第88図　7次谷部C区1・2層出土遺物実測図①（825は1／2、他は1／3）



第89図　7次谷部C区2層出土遺物実測図②（1 ／ 3）



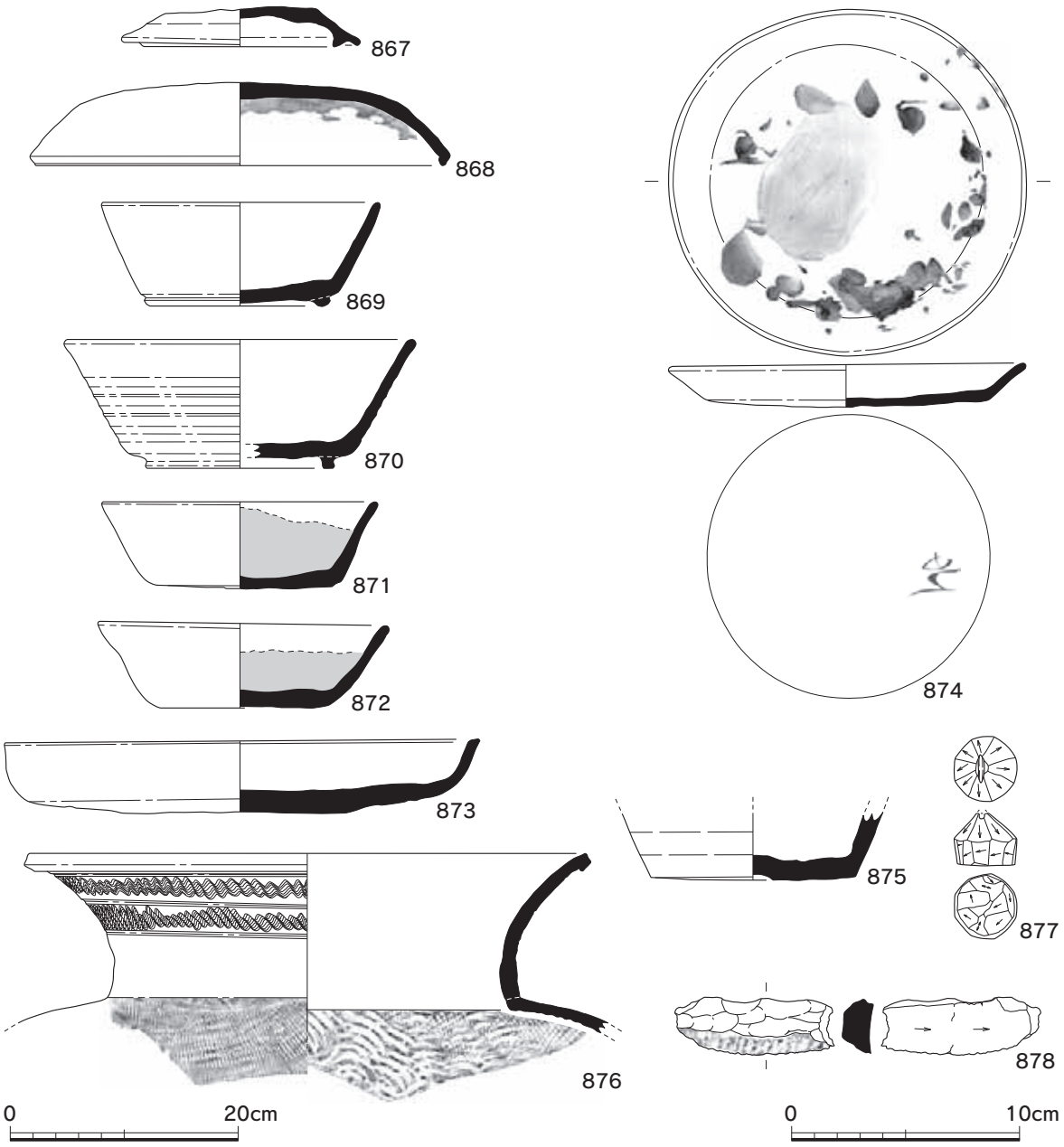
第90図　7次谷部C区2層出土遺物実測図③（864は1／2、他は1／3）

曲し、口縁部に平坦面を作る。912 ～ 920は皿である。912は体部がやや外反し、底部はヘラ切り後ナデを行う。913も底部はヘラ切り後ナデを行う。912・918を除いてはヘラミガキを行う。918は口縁部内外面に煤が付着し、灯明具と思われる。919は底部外面に墨書が見られ、四葉にそれぞれ「川上」と書かれる。920は両面に墨書がみられる。底部内面は「七、一服、者、月、得、是、早」、外面は「有、是、右、役」などの文字が確認できるが、判読できない文字も多い。内容から習書と思われる。（註２）921 ～ 924は高台付皿である。921は体部外面にヘラケズリを施し、口縁部は外方へのびる。922･923は内外面にヘラミガキを施し、高台はハの字に広がる。924は脚部のみ。内外面ともにナデを行う。925 ～ 933は鉢である。925・926は把手付で口縁部が外反する。体部中位から回転ヘラケズリを行う。926は丸底である。927 ～ 931は高台付である。927 ～ 929は「て」の字状口縁を持ち、929は体部が湾曲し、丸みがある。932は平底であるが、一応鉢とする。内外面回転ヘラミガキが施され、底部外面にはミガキ痕か渦巻状の線が入る。933は墨書がみられるが、器表面摩滅のため判読できない。934は甕である。外面に煤が付着している。体部外面は縦方向にハケメを施している。935は甑把手である。表面ナデ整形し、体部内面のハケメが一部見られる。

木製品（936 ～ 941）　936は斎串。両側端を削って先端を鋭利に作り出す。937 ～ 940は不明木製品。いずれも四面を丁寧に削り出し、一方の先端が焦げている。941は火鑽臼。

谷部C区4層一括出土遺物（第96・97図・図版59 ～ 62）

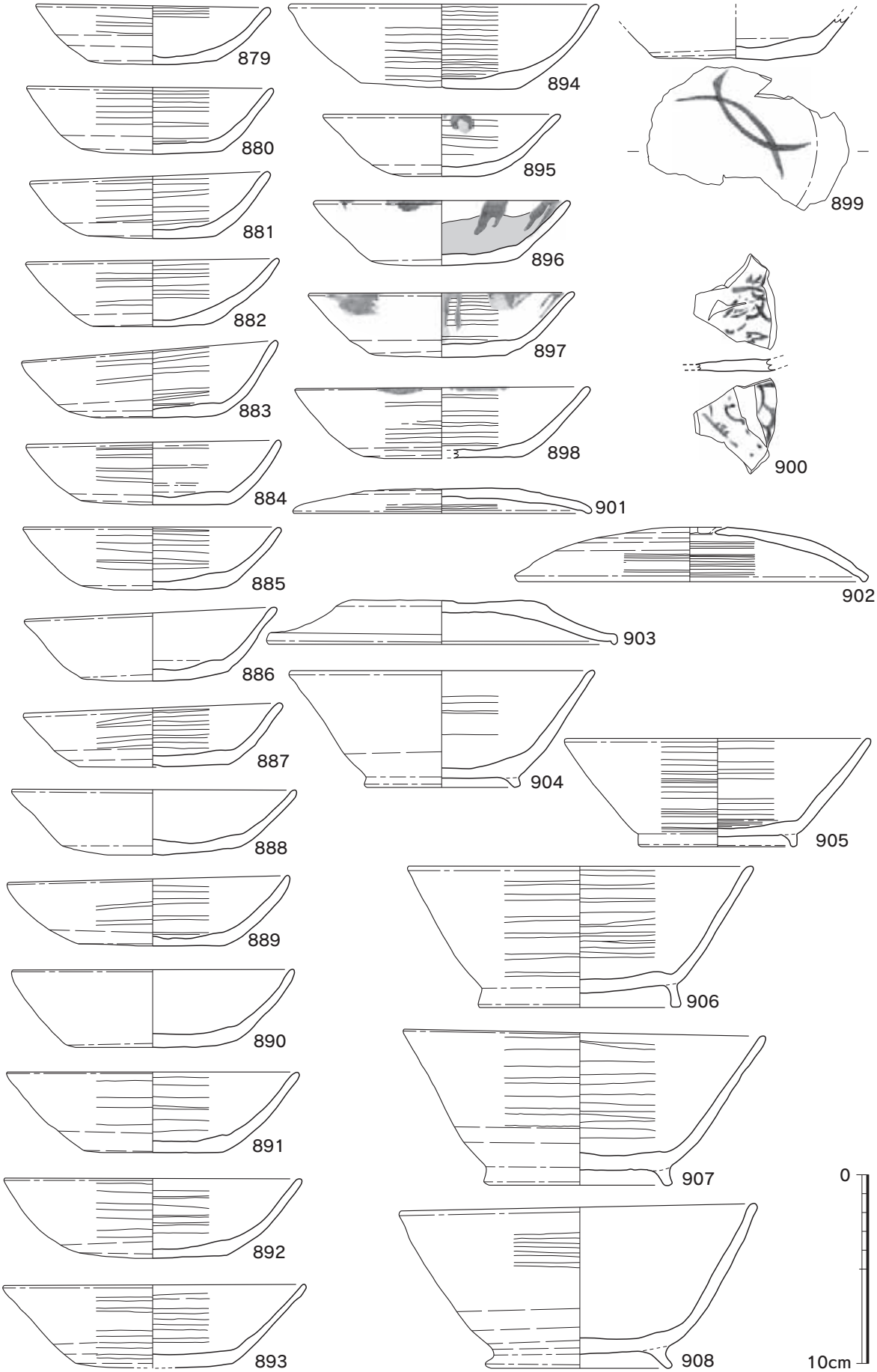
須恵器（942・943）　942は杯。943は皿。 どちらも転用硯で、内面に墨痕がみられる。942は



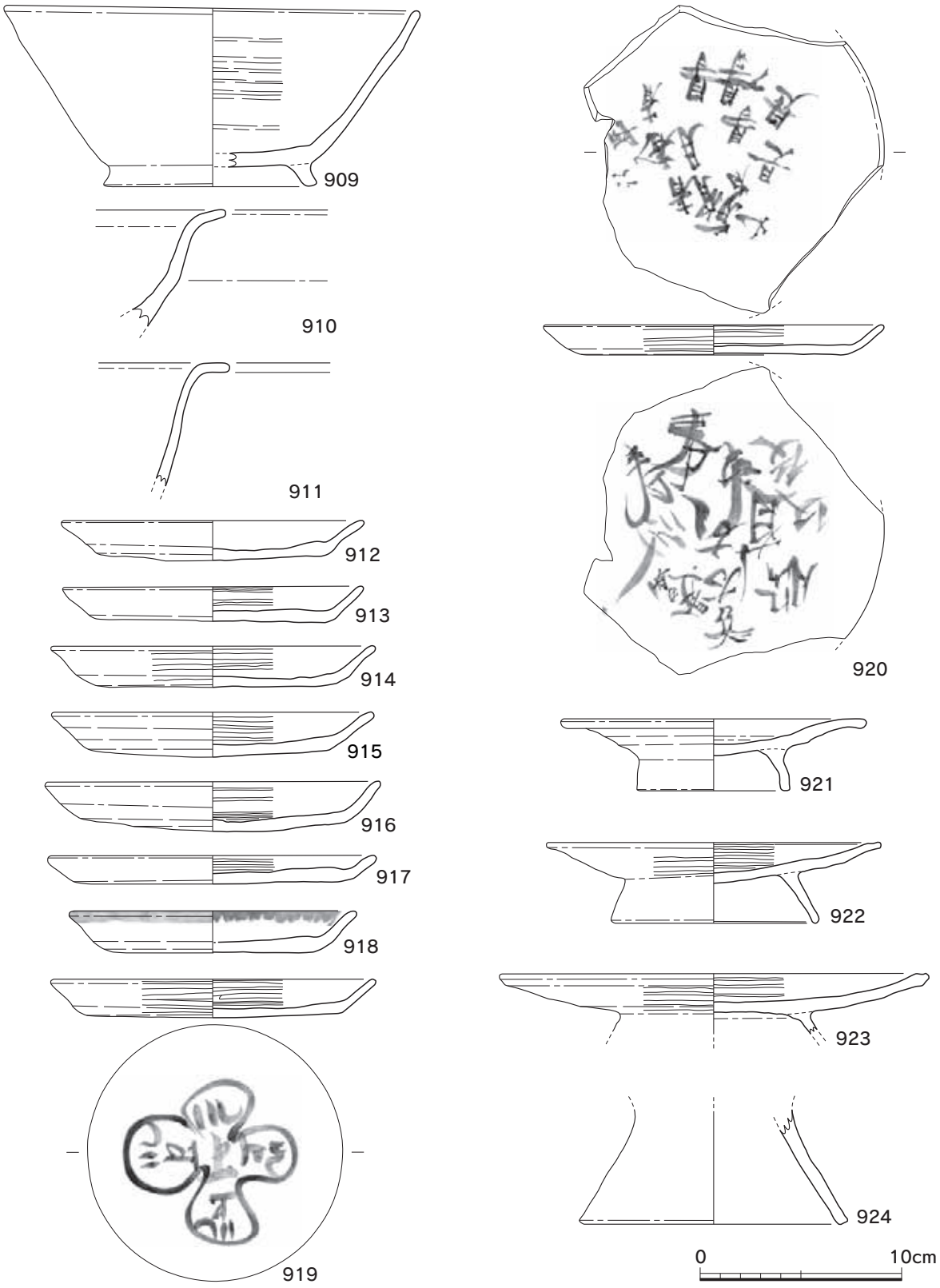
第91図　7次谷部C区4層出土遺物実測図①（876は1／6、他は1／3）

底部外面に「千万」の墨書がみられる。943は197と接合する。

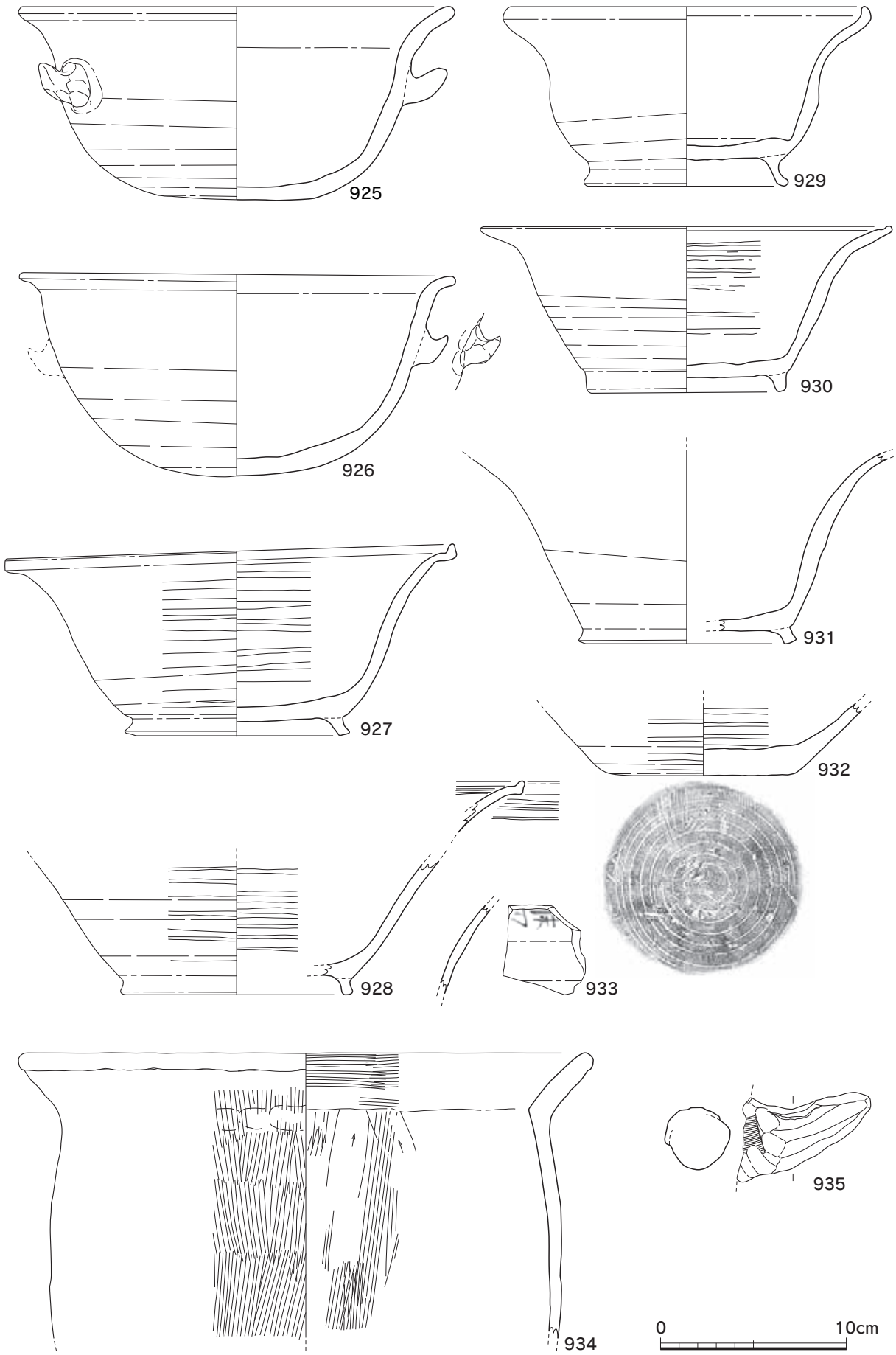
土師器（944～978）　944～962は杯である。また947・952・958は内面、959は外面にヘラミガキを施し、948・954・957は内外面にヘラミガキを施す。960は底部に板状圧痕がみられる。960・961は灯明具で、内面に煤が付着する。962は底部に黒斑がみられる。963は蓋。964は椀。体部下方から高台付近まで回転ヘラケズリを施す。965～972は皿である。968・969・971・972は体部外面に回転ヘラケズリを行う。また973は回転ヘラケズリ後、ハケ状工具でナデる。973～975は高台付皿である。973は杯部は浅い。974は体部内外面にヘラミガキを施し、口縁部は短く外方へのびる。975は口縁部は外方へのび、短部を上につまみ上げる。杯部内面にはヘラミガキが施され、外面は回転ヘラケズリを行う。高台内外に煤の付着がみられる。976・977



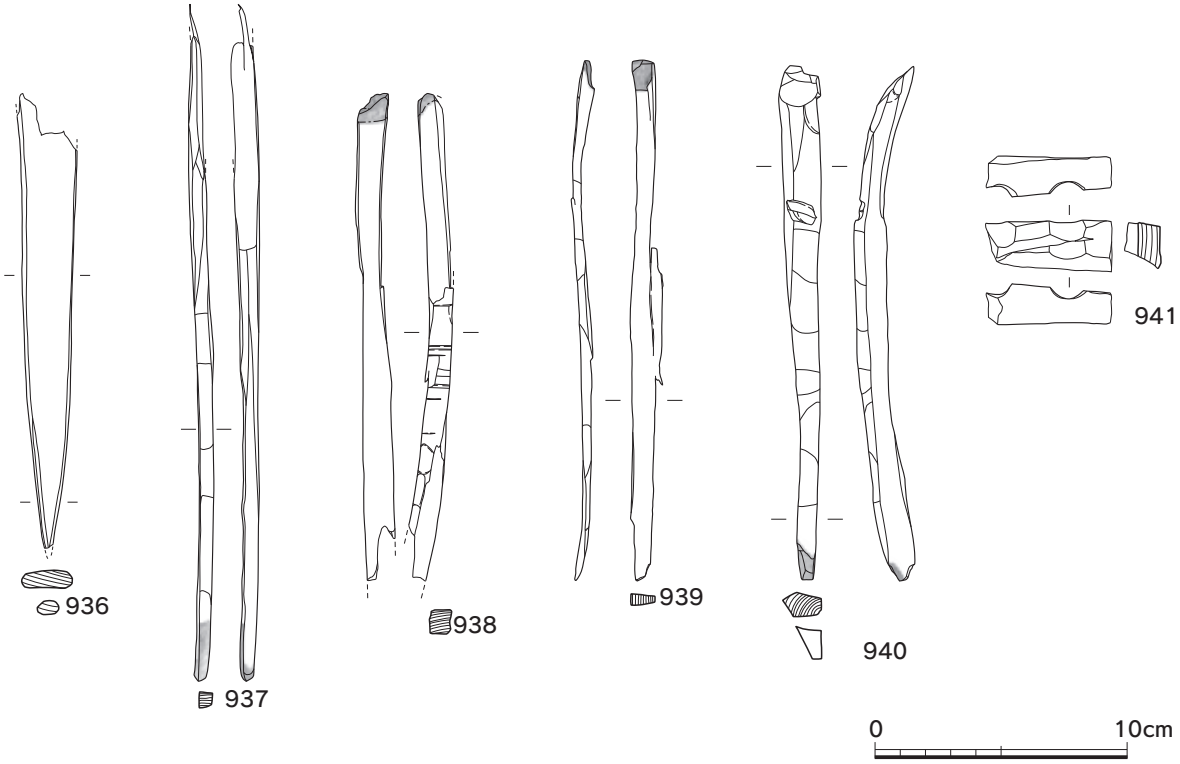
第92図　7次谷部C区4層出土遺物実測図②（1／3）



第93図　7次谷部C区4層出土遺物実測図③（1 ／ 3）



第94図　7次谷部C区4層出土遺物実測図④（1／3）



第95図　7次谷部C区4層出土遺物実測図⑤（1 ／ 3）

は耳皿である。976は体部を鋭角に折る。978は鉢。鉄鉢形で、体部中央より回転ヘラケズリを行い、内外面には回転ヘラミガキを施す。

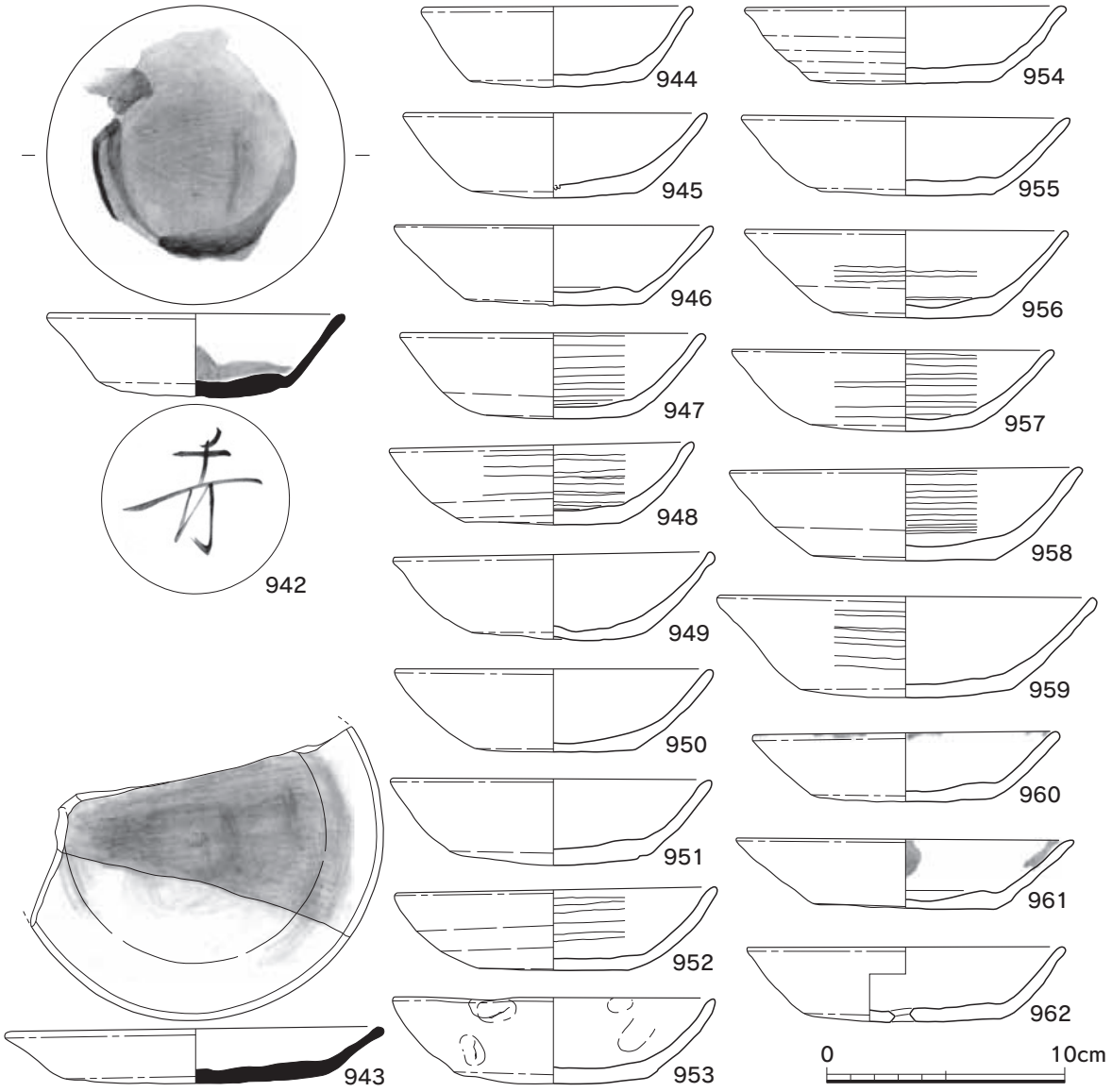
黒色土器（979）　A類の椀である。高台は低く、体部は外方へ伸びる。内面は回転ヘラミガキを施す。

墨画土器（980）　蓋である。内外面ともに回転ヘラミガキを施した後、墨で絵を描く。外面はつまみを中心に五弁花を描き、放射状に四枚の葉を配し、外方にも花文を施す。墨は文様の輪郭線を濃墨で描き、内側を薄墨で縁取る。つまみにも五弁花がみえる。内面は、中心部に五弁花、これを中心に葉先を翻した葉を３枚描き、葉からのばした蔓先に五弁花、葉と葉の間に雲文を配置する。

墨書土器（1846）　土師器の鉢と考えられる体部内面に「・・罪依・・」と墨書される。文字の両側にも字が認められることから、一連の文章が土器の内面に書かれていた可能性がある。墨画土器の近くから出土したが、整理中に行方不明となってしまった。このため、写真（図版94）と文字の釈読のみ掲載する。

谷部C区5層出土遺物（第99 ～ 103図・図版63 ～ 65）

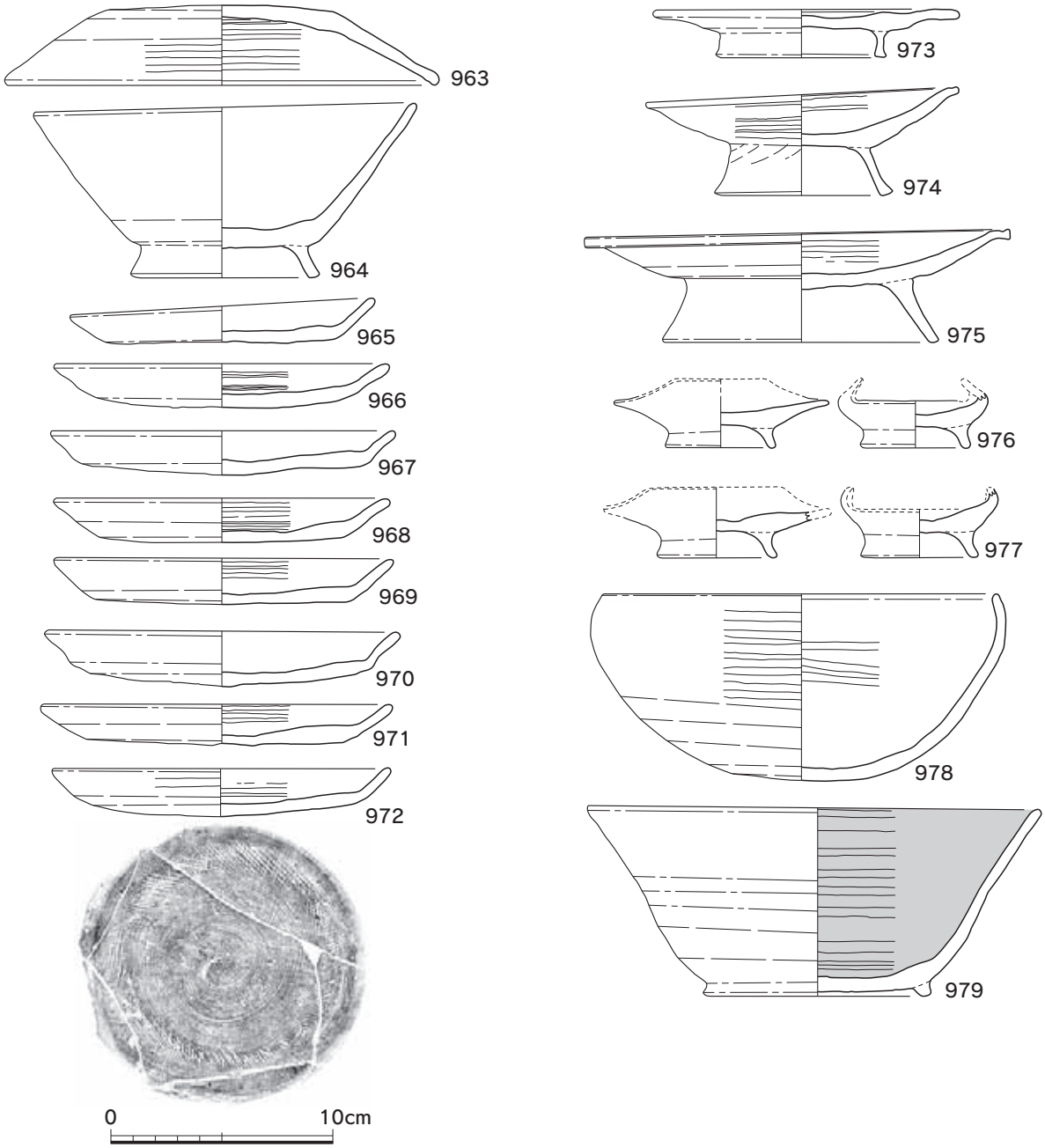
須恵器（981 ～ 1011）　981 ～ 992は杯蓋。981 ～ 983は杯Ｈ蓋。いずれもヘラ記号を施す。984 ～ 987は杯Ｇ蓋。984のみつまみを持つ。986以外はヘラ記号を記す。988 ～ 992は杯Ｂ蓋。989は外面ヘラ記号を施す。993・994は杯Ｇ身。いずれも底部外面にヘラ記号を施すが、994は体部外面にさらに波状の文様を施す。995は盤。口縁部は外反し、口唇部は平坦である。996・997は椀。いずれも体部外面にヘラ記号を施す。998・999は脚のみ残存。椀につくものであろうか？ 998は裾部端が跳ね上がる。1000･1001は平瓶である。1001は体部全体にカキメが施され、



第96図　7次谷部C区4層出土一括遺物実測図①（1 ／ 3）

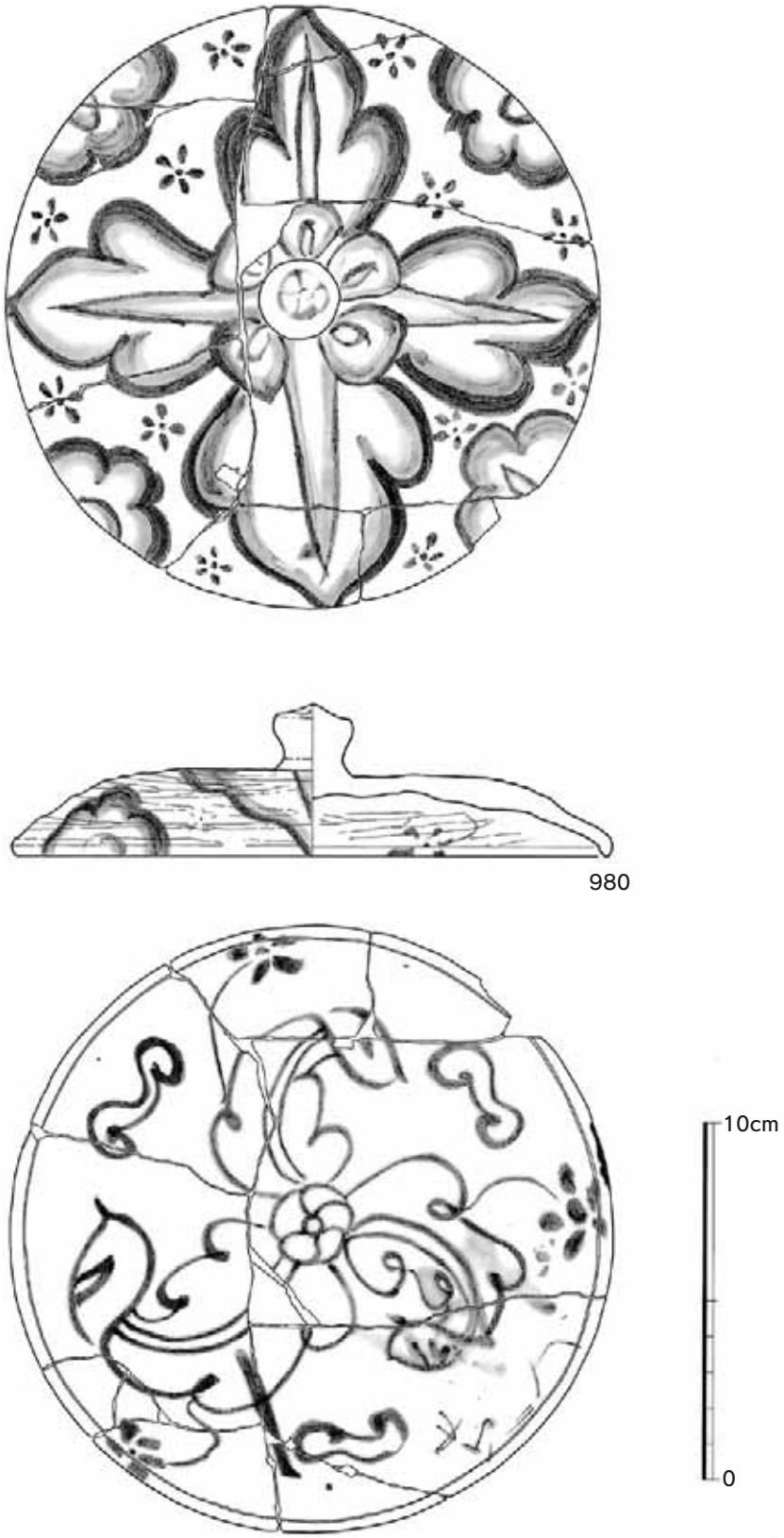
底部外面は手持ちヘラケズリを行う。1002は壺である。口縁部は外反し、丸い。1003 ～ 1005は大甕である。1003は口縁部にカキメ後斜線文を記し、その下にヘラ記号を施している。1004は大雑把な斜線文がみられる。1003・1004は体部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕を持つ。1005は体部外面に平行タタキ、内面に同心円文当て具痕がみられる。1006は把手。甑か？付け根部分にヘラケズリを行い、他はナデを行う。須恵質に焼成される。1007・1008は小皿状を呈する。どちらも口径約8㎝を測り、焼成不良である。1007の底部は焼成前に穿孔し、体部に段を持つ。1008は底部外面にヘラ記号を施す。1009は土錘で、表面はナデを行う。1010・1011は切削物である。

土師器（1012 ～ 1024）　1012 ～ 1014は杯。1012は底部外面回転ヘラケズリ、内外面にヘラミガキを施す。1013・1014は口縁部に煤が付着している。また1014は底部外面回転ヘラケ

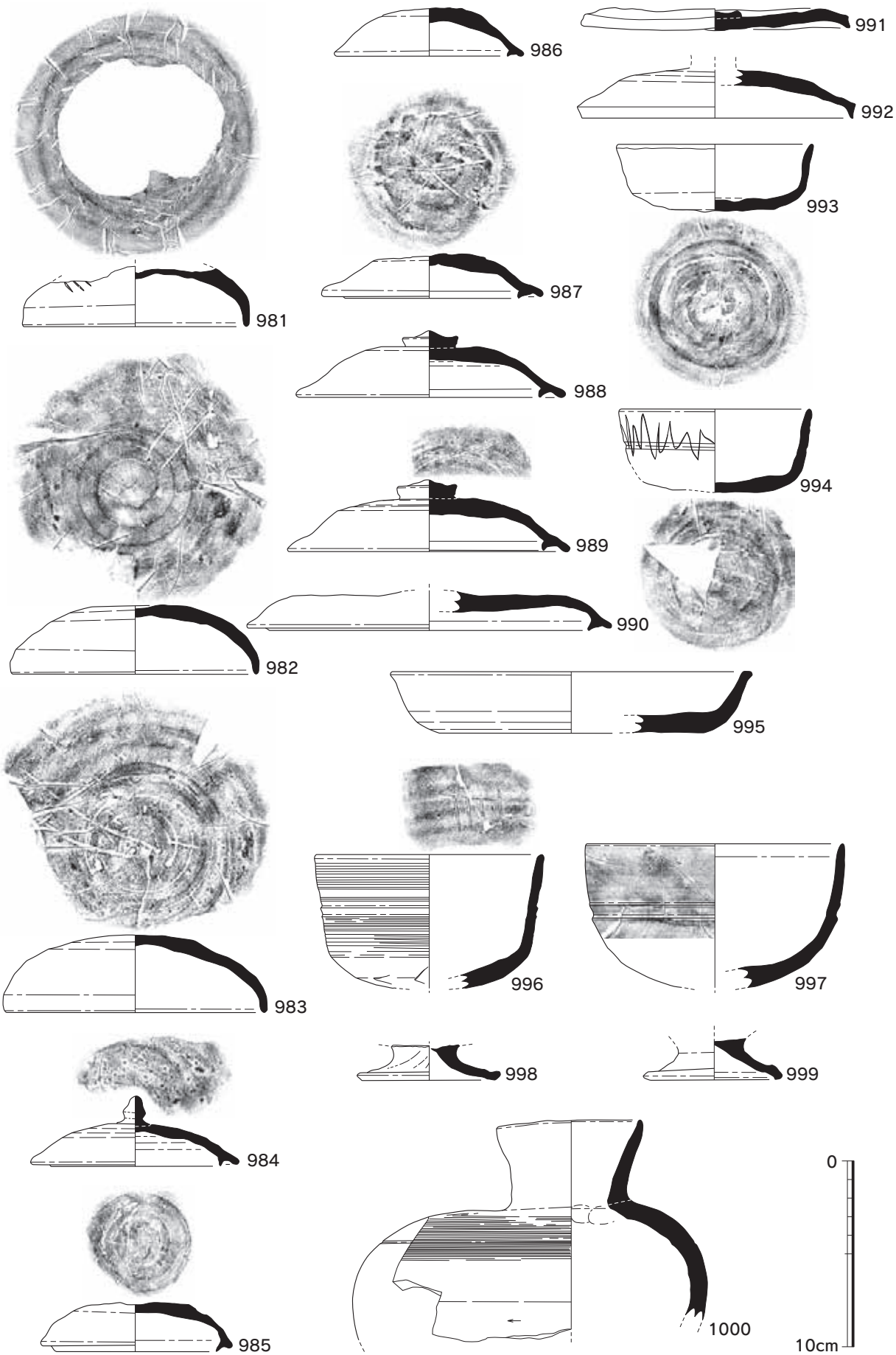


第97図　7次谷部C区4層出土一括遺物実測図②(1 ／ 3)

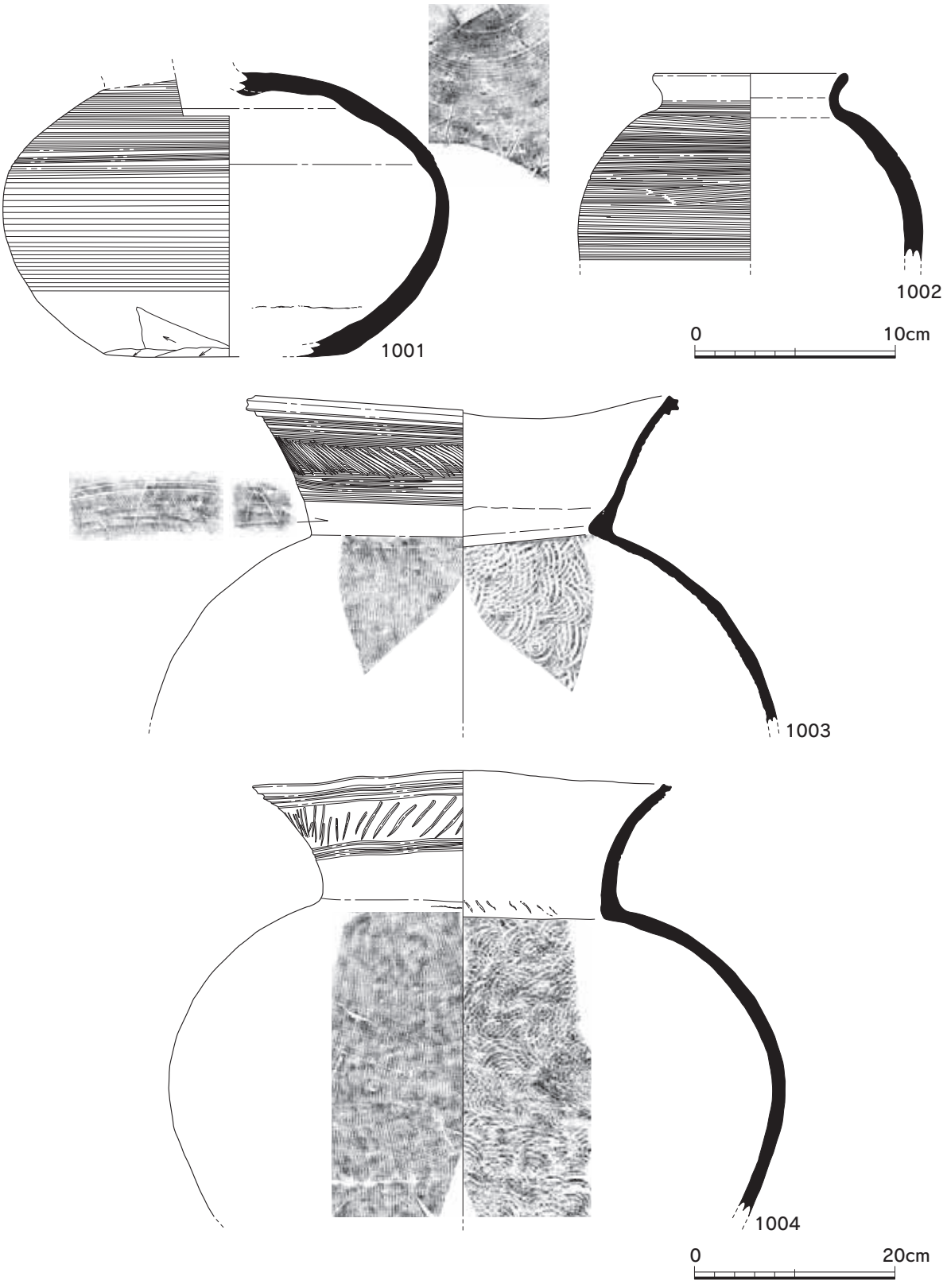
ズリ、内面にヘラミガキを施す。底部にはヘラ記号のような線が見られるが、浅く明瞭ではない。1015 ～ 1018は蓋である。1016 ～ 1018は内外面ともに回転ヘラミガキを施している。1015は体部に回転ヘラケズリを行う。1017は口縁部を跳ね上げる。1018は天井部外面につまみを囲むように弧状の線が描かれ、その周囲に墨書がみられる。1019は椀である。体部外面は上部から回転ヘラケズリを行い、内外面にヘラミガキを施している。高台外面に「山門」の墨書がみられる。1020は皿。底部は回転ヘラケズリを行い、内外面にヘラミガキを行う。1021・1022は鉢である。1021は底部は丸く、体部外面は回転ヘラケズリを施す。口縁部内外面に黒斑がみられる。1022は体部が外反し、口縁部は「て」の字を呈する。内面はヘラミガキを行う。1023は甕。口縁部は外反する。体部外面･口縁部内面はハケメを行う。全体的に丸みがある。1024は径約6㎝、器高約



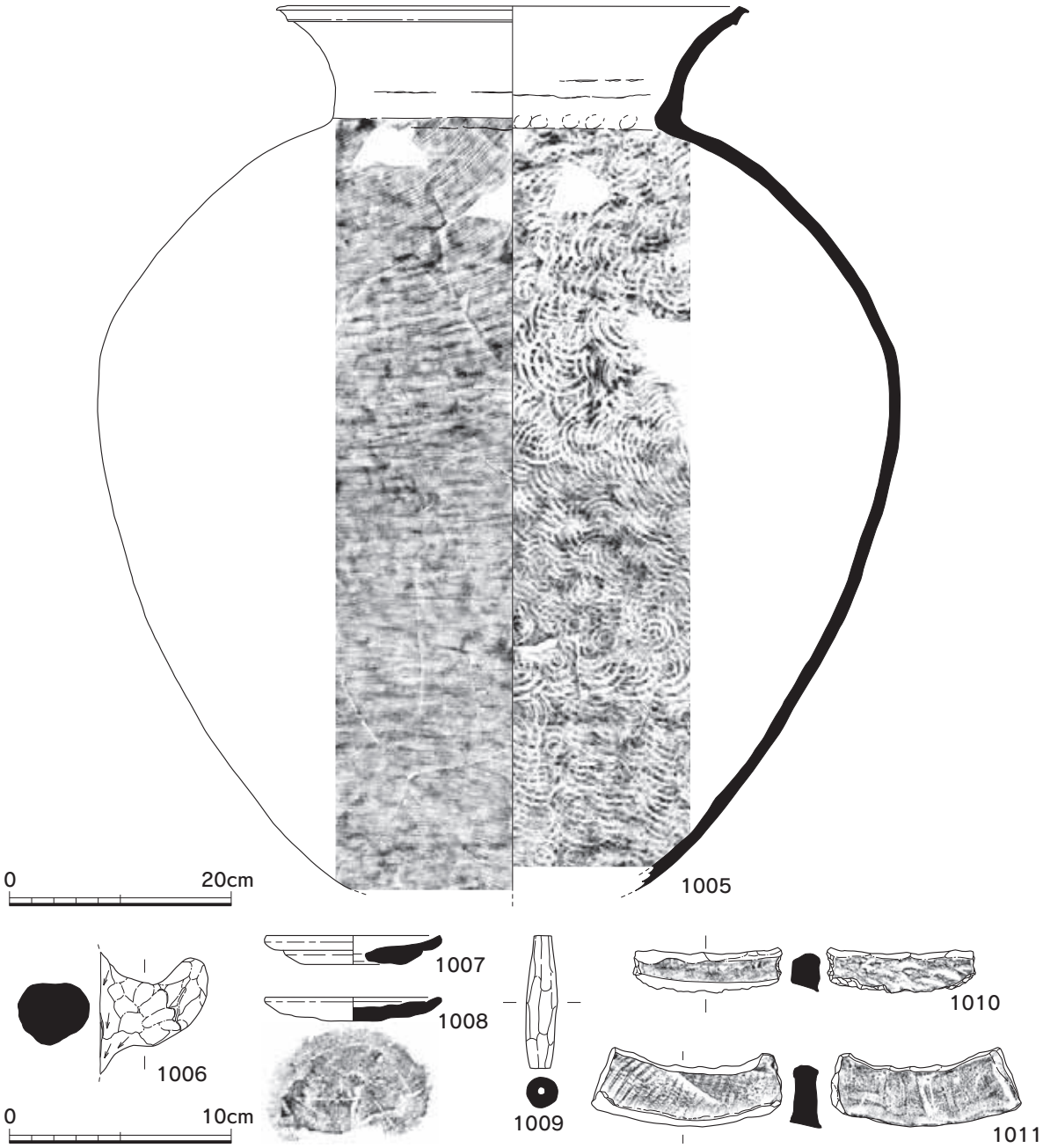
第98図　7次谷部C区4層出土墨画土器実測図（1／2）



第99図　7次谷部C区5層出土遺物実測図①（1／3）



第100図　7次谷部C区5層出土遺物実測図②（1003・1004は1／6、他は1／3）



第101図　7次谷部C区5層出土遺物実測図③（1005は1／6、他は1／3）

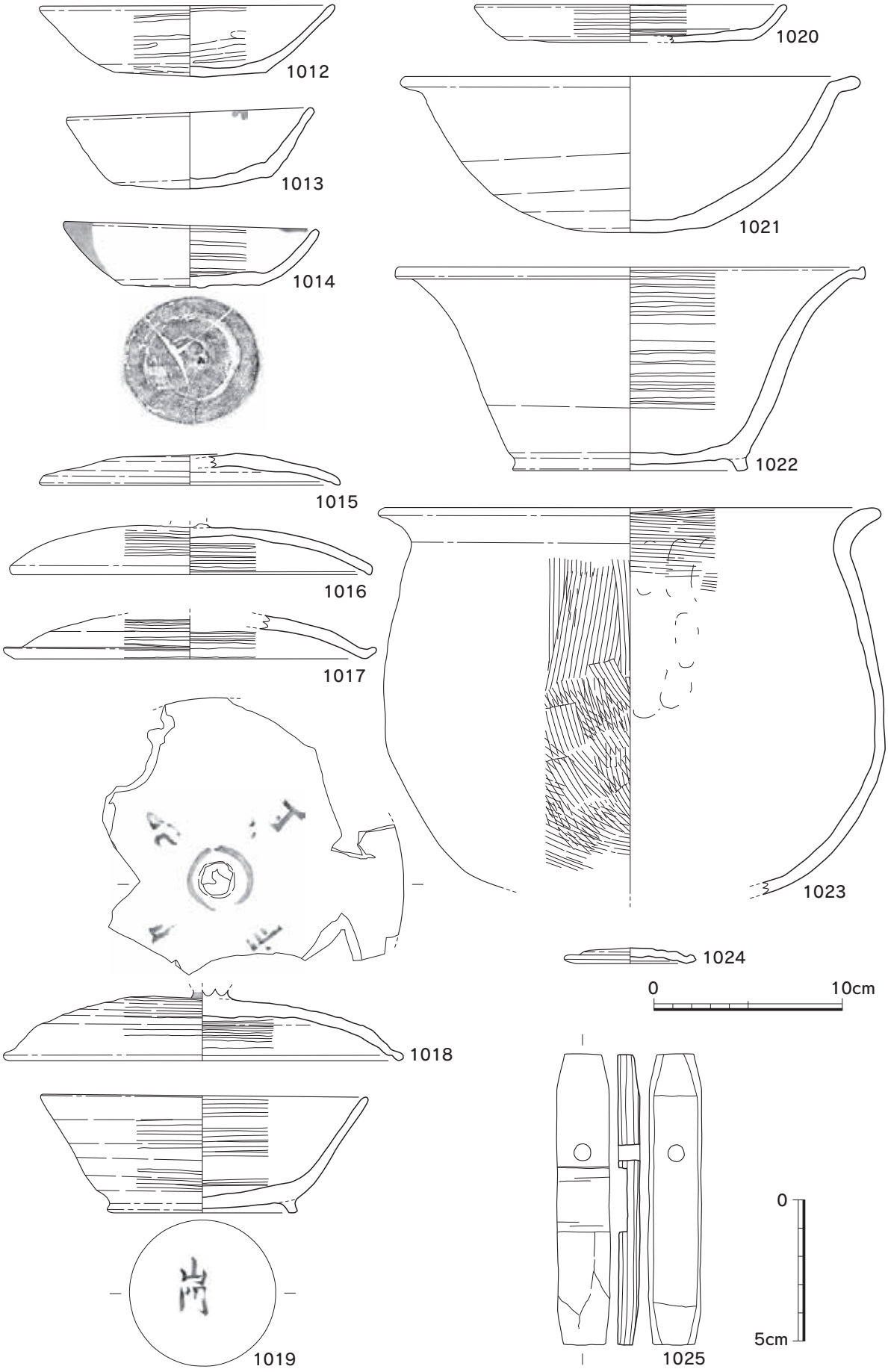
1㎝。ナデて仕上げる。蓋か。口縁端部は上方に反り返る。

木製品（1025）　長さ10.3㎝。四隅と上面を斜めに削る。中央に長さ3.4㎝、深さ5㎜程度の繰り込みを施し、穿孔をおこなう。何らかの部材と考えられるが、用途は不明である。

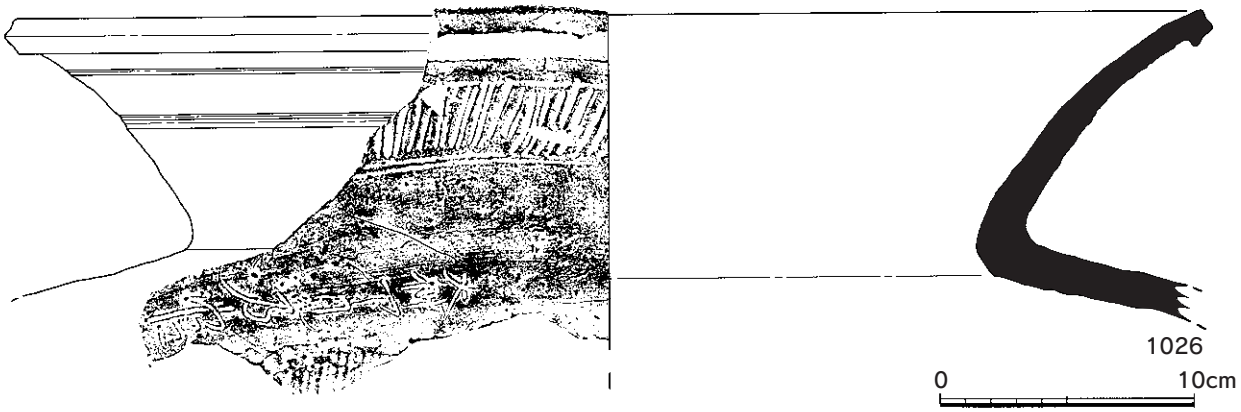
ヘラ書き須恵器（1026）　甕である。頸部外面に２段に沈線を施し、間に連続斜線文を施す。体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。頸部基部外面に、右から左へ「大神部見乃官」のヘラ書きが施される。

谷部Ｃ区6層出土遺物（第104図・図版65・66）

須恵器（1027 ～ 1039）　1027 ～ 1029は杯蓋である。1027・1028は杯Ｈ蓋、天井部外面回



第102図　7次谷部C区5層出土遺物実測図④（1025は1／2、他は1／3）



第103図　7次谷部C区5層出土ヘラ書き須恵器実測図（1／3）

転ヘラケズリ。1029は杯G蓋。断面菱形の擬宝珠つまみを持つ。かえりは短い。1030は杯H身である。立ち上がりが長いが、内傾し、杯部は浅い。1031は杯。口縁部が外反し、底部外面にヘラ記号を施している。1032は高杯。脚部はあまり開かず、脚部内面にヘラ記号が施されている。1033・1034はすり鉢。いずれも刺突文があるが、1034は貫通する。1035は長頸壺か。肩部に2条の沈線、体部には等間隔に数本ずつのカキメを施す。1036は甕である。口縁部下に波状文が施されるが、粗い。また体部内面は同心円文当て具痕、外面は擬格子タタキを施す。1037は甕か。内面は同心円文当て具痕、底部外面にはヘラ記号を施す。底部平底。1038は蓋。口縁部は折り曲げられる。杯蓋よりも壺にともなうものか。1039は横瓶の切り抜き円盤。内面同心円文当て具痕、外面擬格子タタキ。

谷部C区7･8層出土遺物（第105図・図版66）

須恵器（1040 ～ 1043） 1040・1041は杯H蓋。1041は天井部外面にヘラ記号を施す。1042は杯H身。体部外面にヘラ記号を施す。1043は壺である。体部外面は平行タタキ、内面は同心円文当て具痕がみられる。口縁部外面にはヘラ記号が施される。

弥生土器（1044・1045） 1044は広口壺。口縁部片で、外反している。1045はひさご形壺か。突帯が残る。

谷部C区9層出土遺物（第105図）

須恵器（1046・1047） 1046は杯H身。立ち上がりは内傾し低い。1047は高杯である。杯部外面にカキメを施し、外面にヘラ記号が施されている。

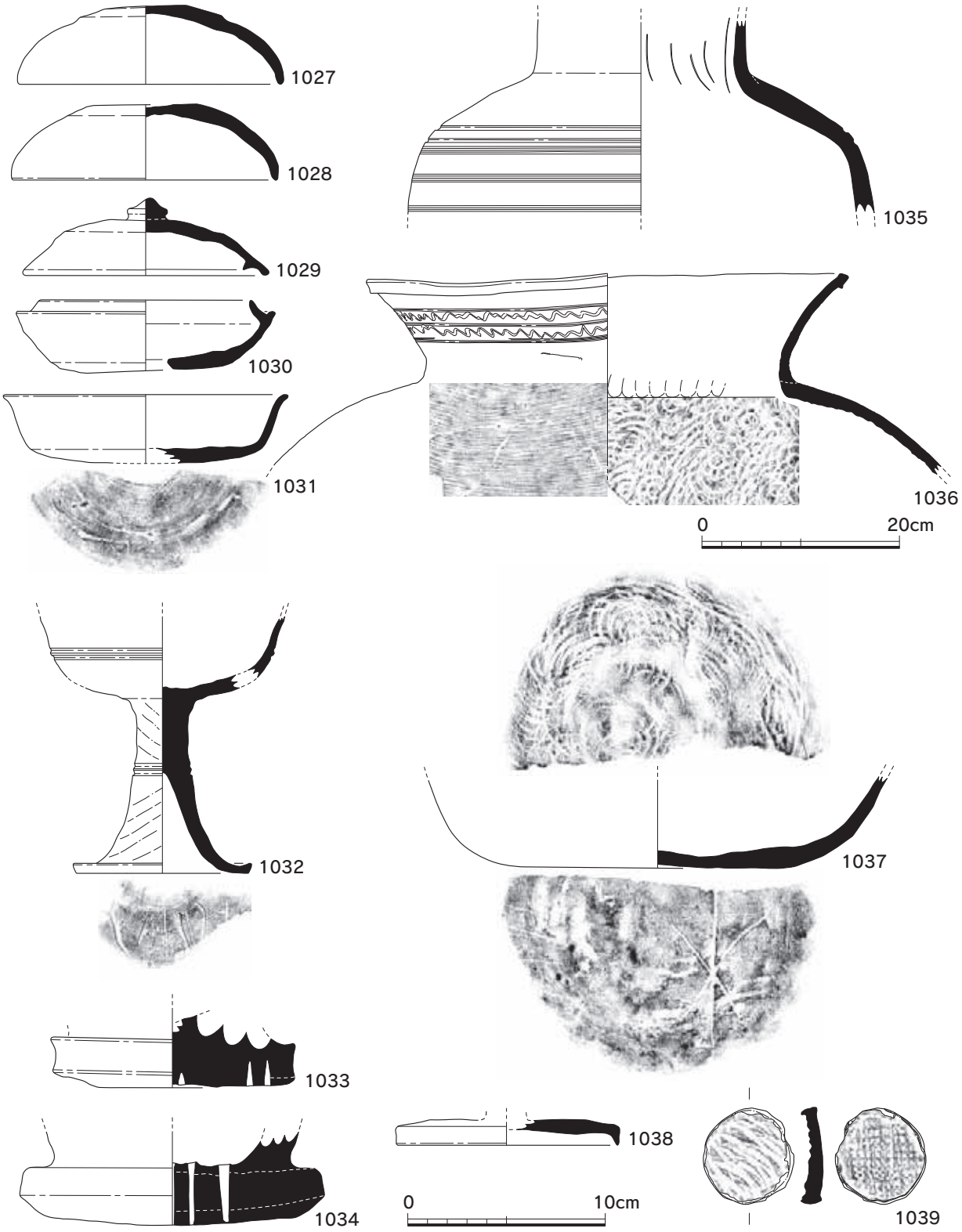
谷部C区10層出土遺物（第105図・図版66）

須恵器（1048 ～ 1052） 1048は杯H身。底部外面回転ヘラケズリを行う。1049は壺。口縁部内面にヘラ記号を持つ。1050は平瓶である。口縁部内面にはヘラ記号を記し、外面にはカキメが施される。底部外面には擬格子タタキがみられる。1051は横瓶である。体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。1052は蓋か。天井部は焼成後に穿孔する。口縁部は外反している。

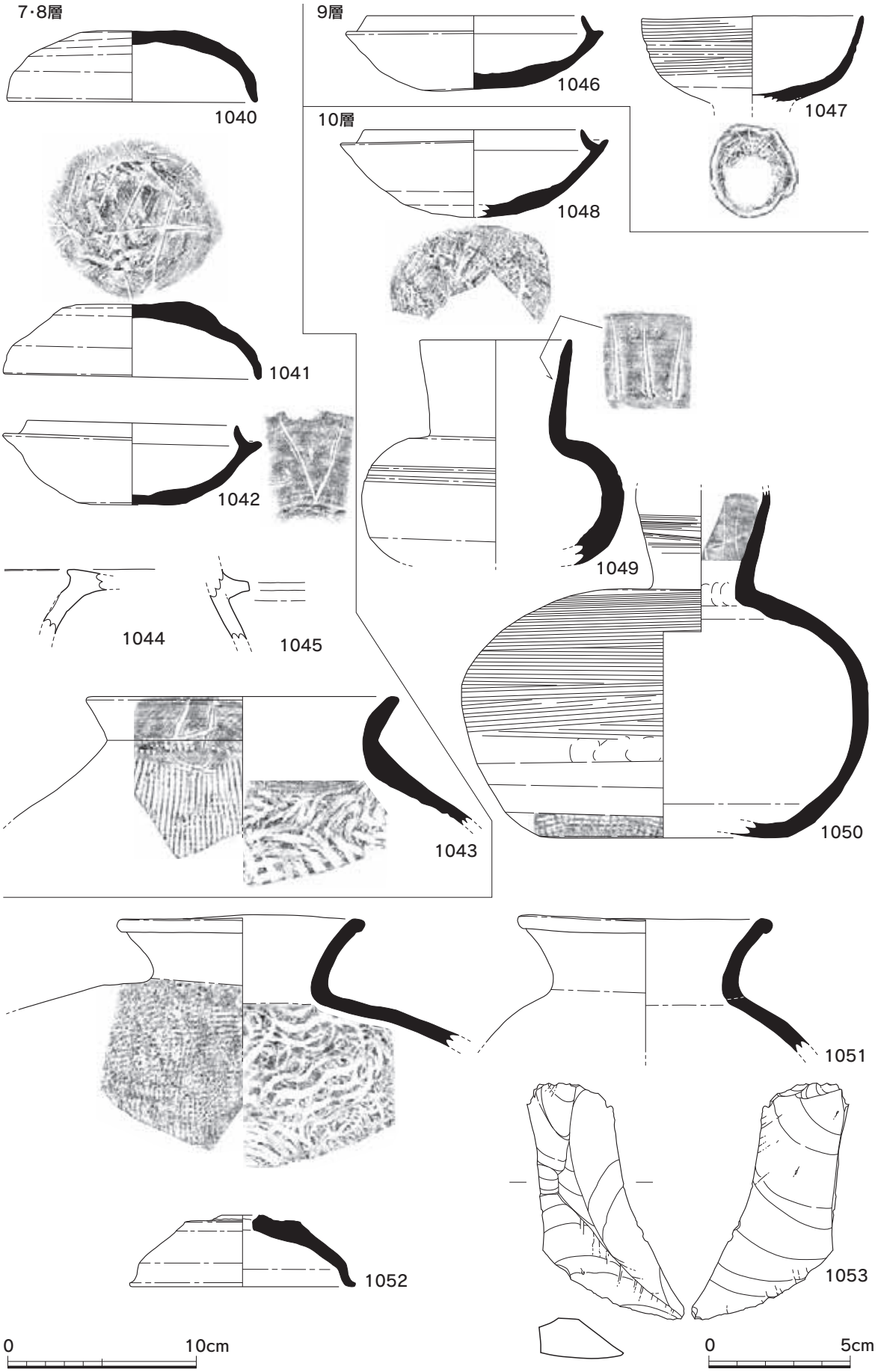
石製品（1053） サヌカイトの剥片。

谷部C区層位不明出土遺物（第106図・図版66）

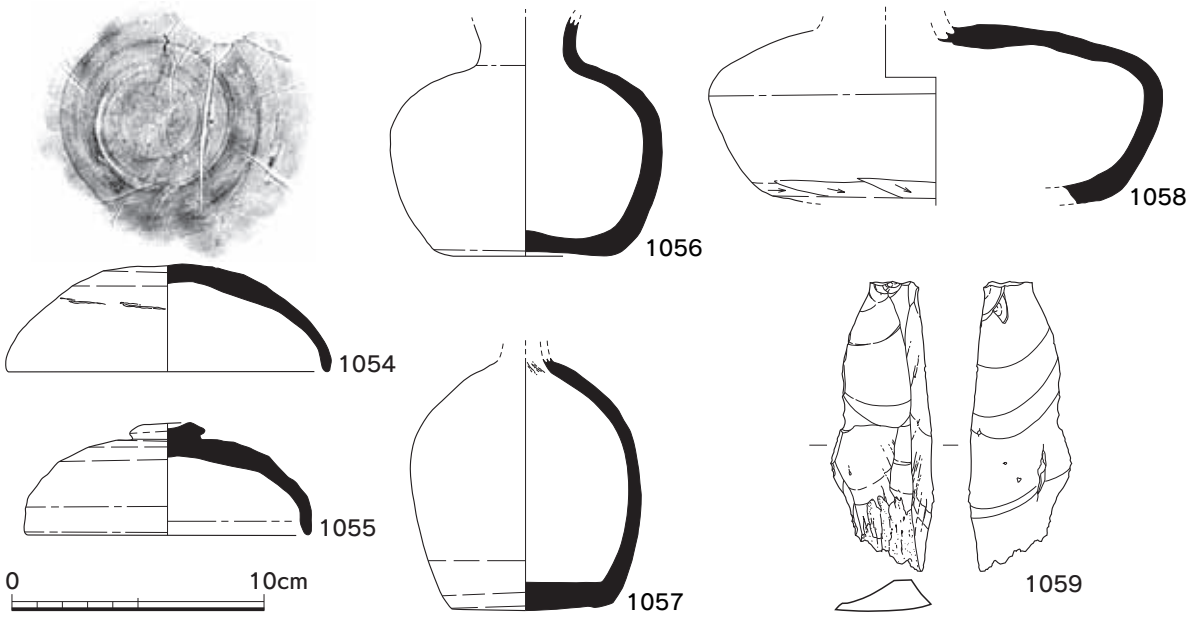
須恵器（1054 ～ 1055） 1054は杯H蓋。天井部外面にヘラ記号を施す。1055は高杯蓋。



第104図　7次谷部C区6層出土遺物実測図（1036は1／6、他は1／3）



第105図　7次谷部C区7 ～ 10層出土遺物実測図（1053は1 ／ 6、他は1 ／ 3）



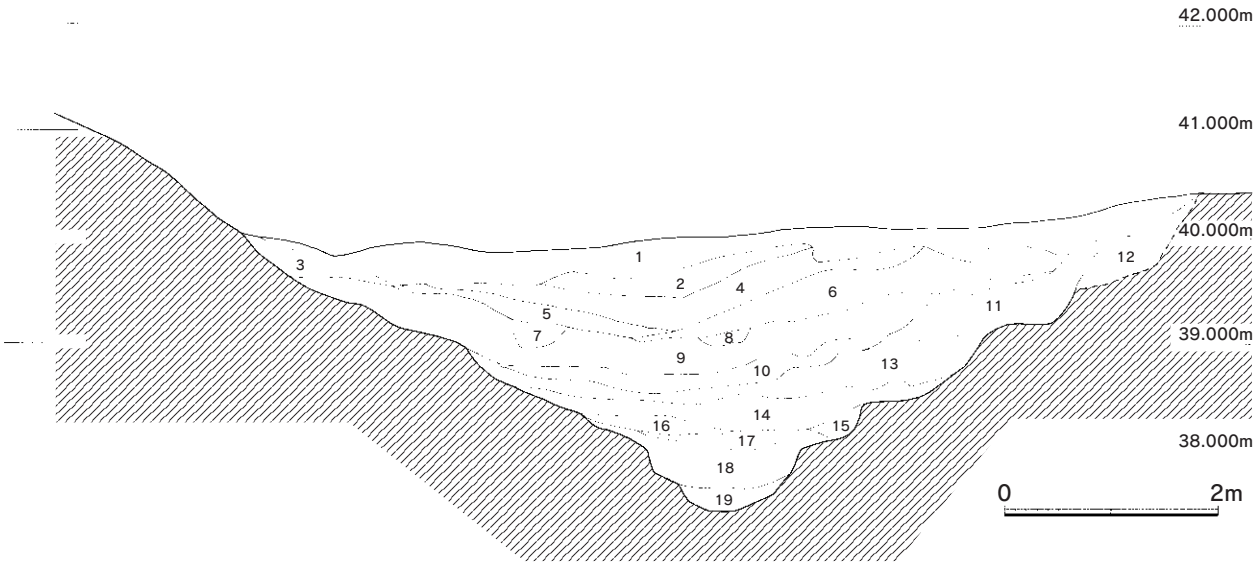
第106図　7次谷部C区出土遺物実測図（層位不明）（1／3）

1056・1057は壺。1057は体部外面下方から底部にかけて回転ヘラケズリを行う。1058は平瓶。底部外面は静止ヘラケズリを行う。

石製品（1059）　安山岩の剥片である。一側縁のみ打ち欠いている。　（大里）

谷部D区

D区はA区より続く谷部に南側から小谷が入り込む。このため、谷底部はA区から幅の狭い状態で続くものが、谷の合流部でやや広くなる。このためか、谷部斜面の傾斜角度はA～C区に比べてやや緩やかになる。谷の堆積土に関しては、2層とした粘質土は明瞭である。また、D区西側ではSK01とした巨大な土坑が確認された。D区は谷部表土剥ぎ後、1層とした黄橙色土を重機で除去した。その後、手掘りで掘り下げをおこなっている段階で堆積土を切り込む大きな円形土坑が確認された。土坑は1層を除去すると青灰色土粘質土が確認され、次に草本類を多量に含む層が薄いが一面に確認でき、さらに下層はシルト、砂質土と粘質土が互層となっていた。これらはいずれもレンズ状堆積を示し、A区から連続して確認された2層と考えた。堆積土は特に粘性が高く、掘り下げは難渋を極めたため、重機で一部掘り下げた。しかしそれでも底面につかず、結局手掘りで底面まで掘り下げた。SK01は検出面で径約7.2m、深さ約4.8m、底面は径約2.2mでほぼ平らである。掘り方は、北側斜面側は掘り込み角度が緩やかであったが、南側は直立に近くとても一人では上がれなかった。この2層とした粘質土は東側でも確認されるが、A～D区SK01あたりまでレンズ状堆積を示していたものが、ほぼ水平方向の堆積層に変わる。この堆積状況の変化は2層下でも同様である。堆積状況が変わるのがどこからかは明示できないが、先に上げた谷の合流部あたりからと考えられる。2層下は砂質土と粘質土が互層に堆積し、灰層が流れた層も確認できるが、わずか40㎝程度であり、2層と灰層間の堆積層が厚くなる。出土遺物は、1・2層から大量の完形品の土師器や木製品が出土した。これらはSK01と2層に集中しており、足の踏み場もないほどであった。また、粘質土中からの出土で、遺物の取り上げを個々に短時間でおこなうことは不可



1.にぶい黄橙色～明黄褐色砂質土10YR6/4～6/8　しまり強い。径2～5mmの白色粒子（地山バイラン土由来）を多く含む。炭化物を少し含む。下層との境界付近に酸化鉄が発達。
2.褐灰色土10YR5/1　しまり強い。やや粘質。径2～5mmの白色粒子（地山バイラン土由来）を多く含む。炭化物を少し含む。酸化鉄がまばらに入る。
3.にぶい黄橙色土10YR6/4　しまり強い。径2～5mmの白色粒子を少し含む。下半部に灰黄褐色粘土10YR6/2が帯状に入る。粘土部分に酸化鉄が入る。
4.黄灰色砂質土2Y4/1　しまり強い。径2～5mmの白色粒子・炭化物を多く含む。褐灰色土10YR5/1をブロック状に多く含む。灰黄褐色粘土10YR6//2をブロック状に少し含む。中世遺物多含か？
5.灰色粘土5Y6/1混じり黄灰色砂質土2Y4/1　しまりあり。炭化物を多く含む。酸化鉄が入る。
6.にぶい黄褐色土10YR5/4　しまりあり、粘性あり。径2～5mmの白色粒子を多く含む。酸化鉄が多く入る。（北側斜面上からの流入土。人為的なもの）
7.灰色粘土5Y4/1　しまりあり。炭化物少し含む。灰オリーブ色粘土SY6/2が5mm程の厚さで互層状に入る。（小流路）
8.青灰色粘土5BG6/1　しまりやや弱い。径2～5mmの白色粒子を多く含む。（小流路？）
9.黄灰色粘質土2.5Y4/1　しまり強い。径2～5mmの白色粒子を多く含む。炭化物を多く含む。酸化マンガン斑が少し入る。中世遺物を多く含む。
10.灰色シルト5Y4/1　しまり強い。径2～5mmの白色粒子をわずかに含む。裾部分ににぶい黄褐色土10YR6/4を径5～灰10cmのブロック状に含む。
11.黄灰色砂質土2.5Y5/1　しまり強い。径2～5mmの白色粒子を多く含む。中世遺物を多く含む。
12.にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　しまり若干弱い。にぶい黄色粘土2.5Y6/3が厚さ5mm程で互層で入る。
13.黄灰色砂質土2.5Y5/1、黒褐色粘土2.5Y3/1互層。径2～5mmの白色粒子非常に多く含む。炭化物少し含む。酸化鉄少し入る。
14.黄灰色砂質土2.5Y5/1　しまり弱い。径2～5mmの白色粒子を非常に多く含む。炭化物を少し含む。酸化鉄わずかに入る。同色粘土がラミナ状に少し入る。
15.灰色粘質土5Y5/1　しまりあり。径2～5mmの白色粒子を少し含む。酸化鉄わずかに入る。
16.黒褐色砂質土2.5Y3/1　しまり弱い。径2～5mmの白色粒子を含む。炭化物を非常に多く含む。須恵器含む。
17.灰色砂質土5Y4/1　しまり弱い。黒褐色砂質土（灰層）が互層状に少し入る。須恵器含む。
18.灰オリーブ砂7.5Y6/2　しまり欠く。中位以上に黒褐色粘質土7.5Y3/1が互層状に入る。炭化物少し含む。植物遺体（木片など）を少し含む。
19.灰色粘土7.5Y4/1　しまり欠く。植物遺体（木片・枝など）、木材が多く入る。

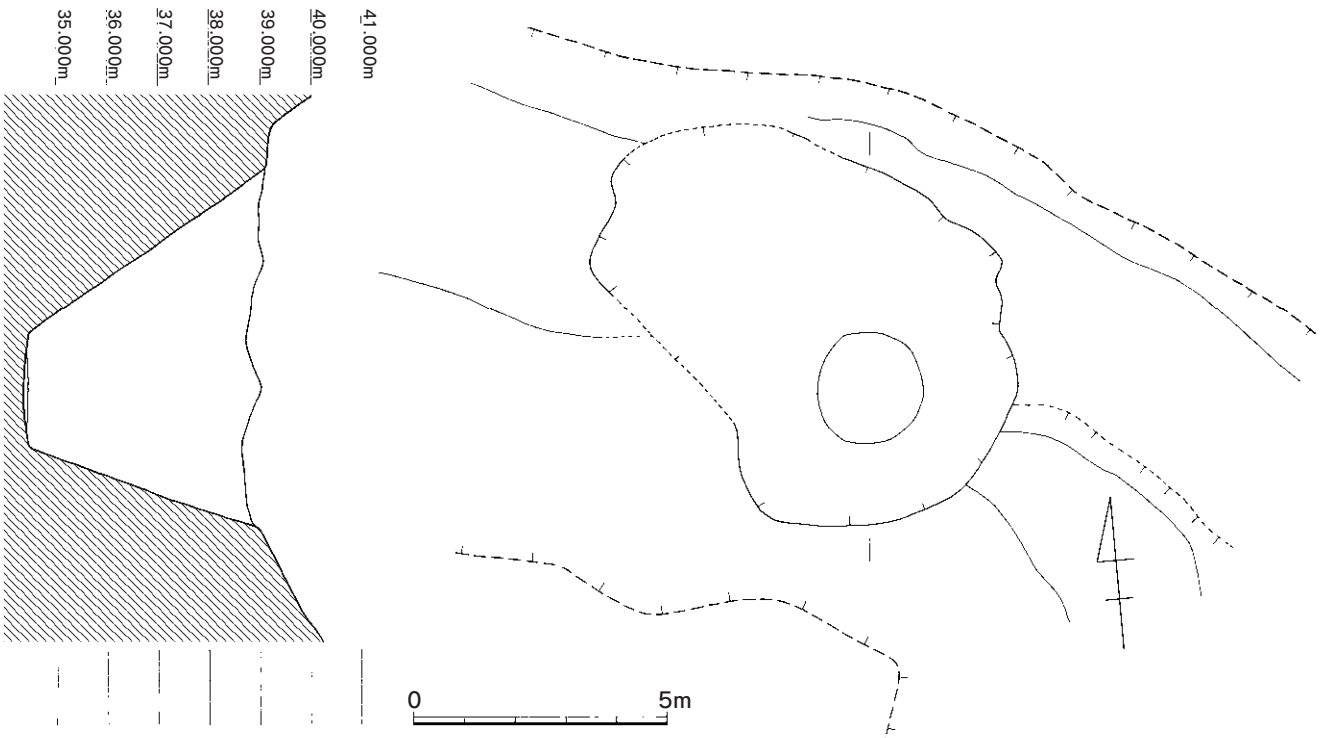
第107図　7次谷部C・D間ベルト土層実測図（1／70）

能であったため、土を大きく掘り上げて遺物を取り出すことにしたが、破損する度合いが大きく、調査の大きな失敗点である。土師器に対して須恵器は灰原から離れたためか量が少なくなるが、須恵器窯で焼成された以外の遺物が混じるようである。遺物の内容は、墨書土器や木製品から祭祀性の強い遺物が混じっており、「大日如来」と書いた墨書土器はその性格を髣髴とさせる。　（石木）

谷部D区1層出土遺物（第109 ～ 114図・図版66 ～ 69）

須恵器（1060 ～ 1062）　1060は杯Ｂ蓋。口縁部は短く折り曲げる。転用硯であり、内面に墨痕が認められる。1061は甕。口径18.6㎝。1062は平瓶で、断面方形の把手と体部のみ残存。

土師器（1603 ～ 1113）　1063 ～ 1076は小皿である。1070 ～ 1076は底部外面ヘラ切り、1066・1067以外は板状圧痕がみられる。1076は灯明具で、油煙が付着している。1077・1078は高台付小皿である。1077の畳付には板状圧痕がみられる。1078は口縁部に径0.4㎝の孔がみられる。1079 ～ 1092は丸底杯。1091は内外面に墨書があり、内面は「大日如来」、外面は「醫、醫王、乳院、之坏、黄世、いわう」と書かれる。1092は灯明具で、内外面に油煙が付着している。1079・1083・1087・1088以外は底部に板状圧痕がみられる。1093 ～ 1096は椀。1094・1095は高台がハの字に開き、口縁部が外反している。1096は体部外面にヘラミガキを施す。高



第108図　7次谷部D区SK01実測図（1／150）

台は低い。1097は底部に穿孔する。底部内面は煤が付着している。1098・1099は鉢である。1099は底部端に脚部が３点つけられる。1100は器台で、柱状部は断面六角形を呈する。1101 ～ 1109は壺である。1101・1102・1103は頸部内面にシボリ痕がみられる。1109は内面に粘土接合痕がみられる。1110 ～ 1113は鉢か。1110・1112は口縁部が外反する。1112は体部外面に横方向のハケメを施す。1111・1113の口縁部は端部を短く折り返している。

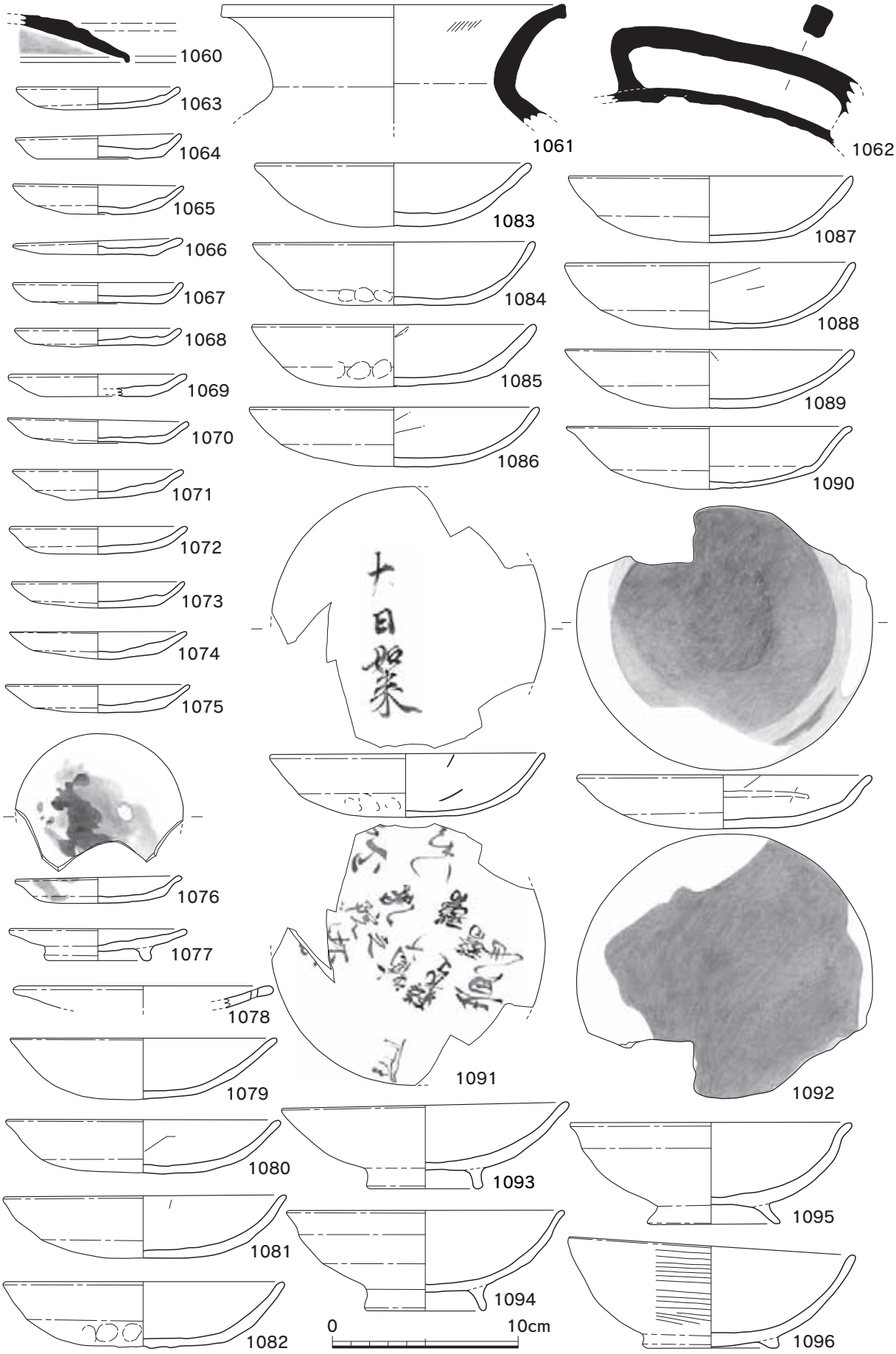
黒色土器（1114 ～ 1117）　1114はA類の椀。高台はハの字型に広がり、口縁部は外反する。内面はヘラミガキを施す。1115 ～ 1117はB類である。1115は小椀である。高台は外反するようにハの字に開き、内外面ともにヘラミガキを施す。1116は托上椀である。内面はヘラミガキを行う。1117は椀である。内外面ともに丁寧なヘラミガキを施している。口縁部外面に段をもつ。

瓦器（1118）　椀。焼け歪んでいる。体部の稜が明瞭で、高台はハの字に広がる。

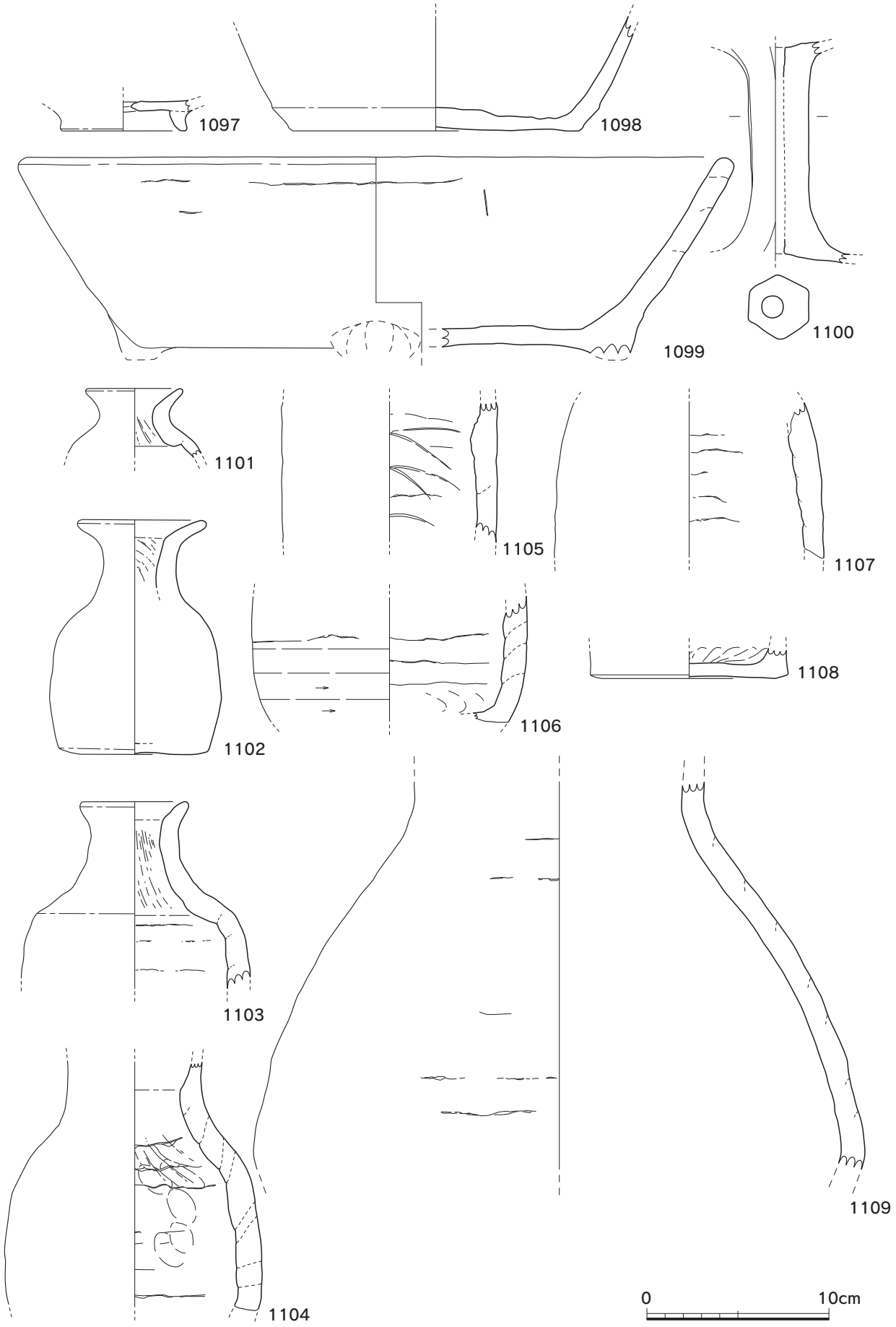
土師質土器（1119）　擂鉢である。全体をナデた後に擂目を入れる。口唇部は平らに整形する。

磁器（1120 ～ 1131）　1120 ～ 1126は白磁椀である。1120 ～ 1122は肉厚な玉縁口縁を持つ。1120・1121は残存部は全面施釉されるが、1122は体部外面下方に施釉しない。太宰府分類Ⅳ類。1123は直口縁で、内面見込みに段を持つ。太宰府分類Ⅱ－4類。1124は釉は剥落が顕著である。1125は内面見込みに沈線を持つ。1126は高台内に墨書がみられる。1127・1128は白磁皿である。1127は直口縁で、底部は僅かに削る。太宰府分類皿Ⅵ類か。1128は体部内面下方に段を持つ。太宰府分類皿Ⅱ類か。1129は中国産青白磁皿、口縁部が外へ屈曲し、平坦面を持っている。1130は白磁小皿。内面に施釉する。1131は同安窯系青磁椀である。口縁部は短く折れ、外面には櫛目文が施される。

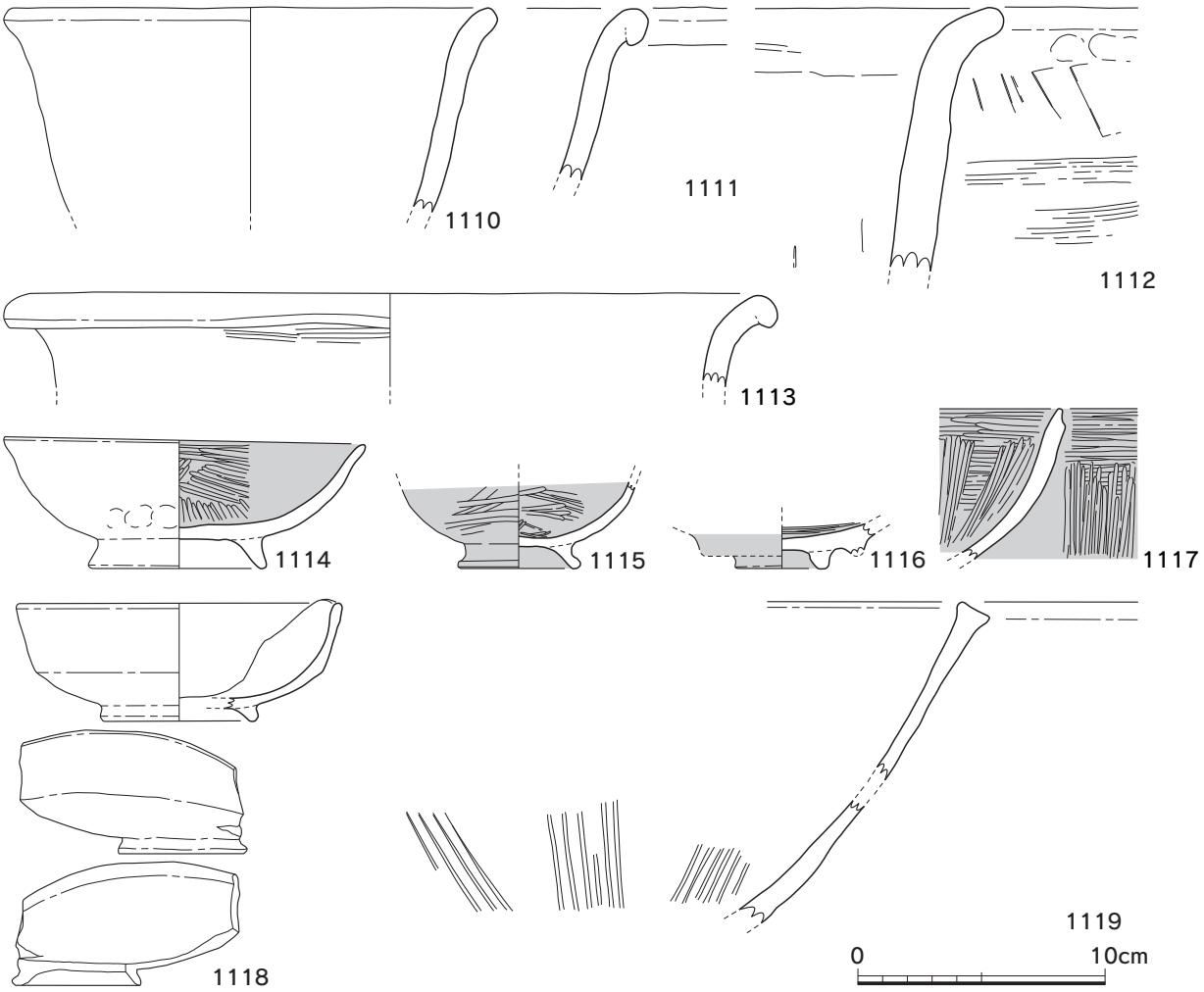
陶器（1132 ～ 1135）　1132は椀で、内面見込みは蛇の目釉剥ぎする。高台はほぼ直立する。



第109図　7次谷部D区1層出土遺物実測図①（1／3）



第110図　7次谷部D区1層出土遺物実測図②（1／3）



第111図　7次谷部D区1層出土遺物実測図③（1／3）

1133は越州窯系褐釉磁器。内面のみ施釉。1134は粉青沙器。外面に象嵌が施されている。1135は水注か。二重口縁をもち、口縁部下で段を持ち、頸部は細い。鉄釉をかける。

瓦（1136）　丸瓦か？摩滅が著しく、調整不明。

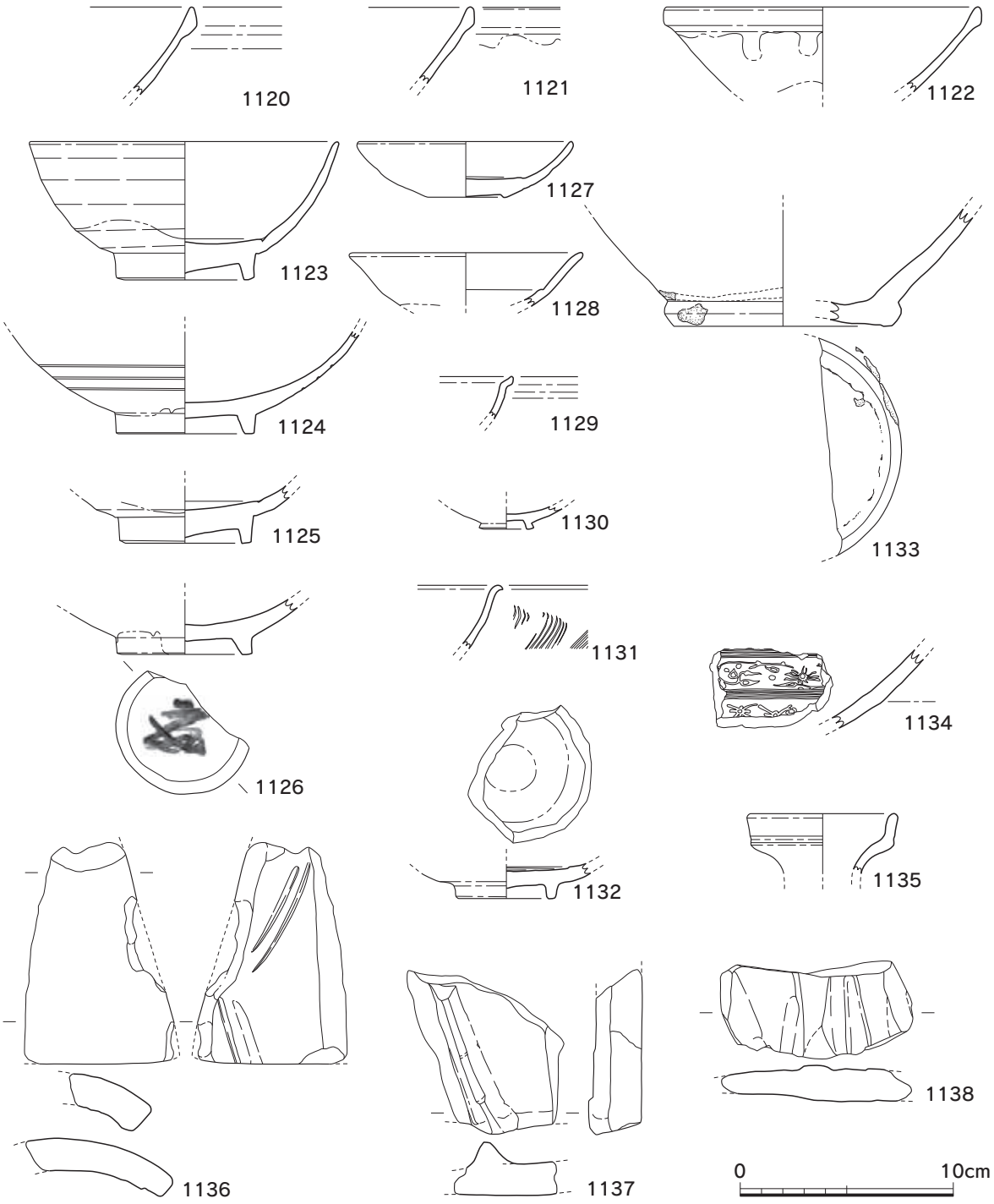
瓦塔（1137･1138）　いずれも屋蓋部の破片、摩滅が著しい。外面のみ丸瓦列の表現が確認できる。

土製品（1139 ～ 1141）　1139は鞴羽口。1140は棒状土製品。1141は土師質、表面は摩滅。一部に煤が付着。孔は貫通しない。

石製品（1142 ～ 1145）　1142は滑石製石鍋の転用品。バレン状を呈する。1143は滑石製臼である。1144は滑石製石鍋転用品である。1145は軽石で用途不明である。

木製品（1146 ～ 1150）　1146は船形木製品。1147は五重の相輪を持ち、頂端部には断面方形の釘が打ち込まれている。下部は何かに差し込めるように、枘がつく。1148は箸と思われ、断面五角形を呈している。1149は用途不明。3カ所に穿孔され、先端は片面を斜めに削っている。1150は長さ133㎝、厚さ2㎜ほどの板材である。

鉄製品（1151 ～ 1153）　1151は頭部がT字を呈し、体部は彎曲する。釘か？。1152・1153は鉄釘。1153は断面方形で、中空である。

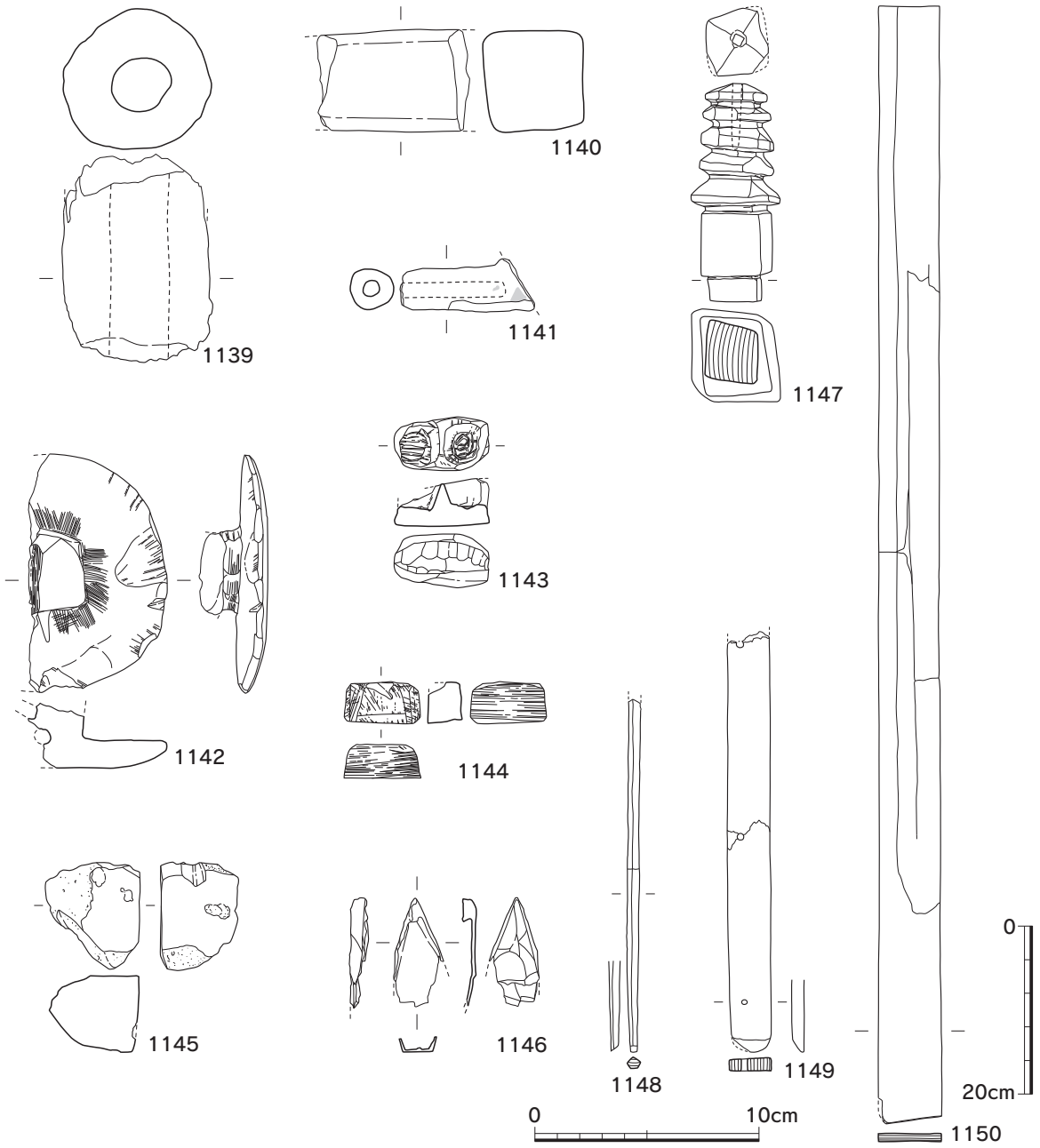


第112図　7次谷部D区1層出土遺物実測図④（1／3）

鉄滓（1154 ～ 1166）　1155 ～ 1158は着磁がみられない。1158の表面はメタル質で、ほぼ直角な角を持つ。1159は着磁がみられ、上部を欠損する。1160 ～ 1165は着磁がみられるが、1162は僅かである。また、1161・1164・1165はごく僅かに炭が付着する。1166は、塊状を呈し着磁しない。

谷部D区2層出土遺物（第115 ～ 124図・図版69 ～ 79）

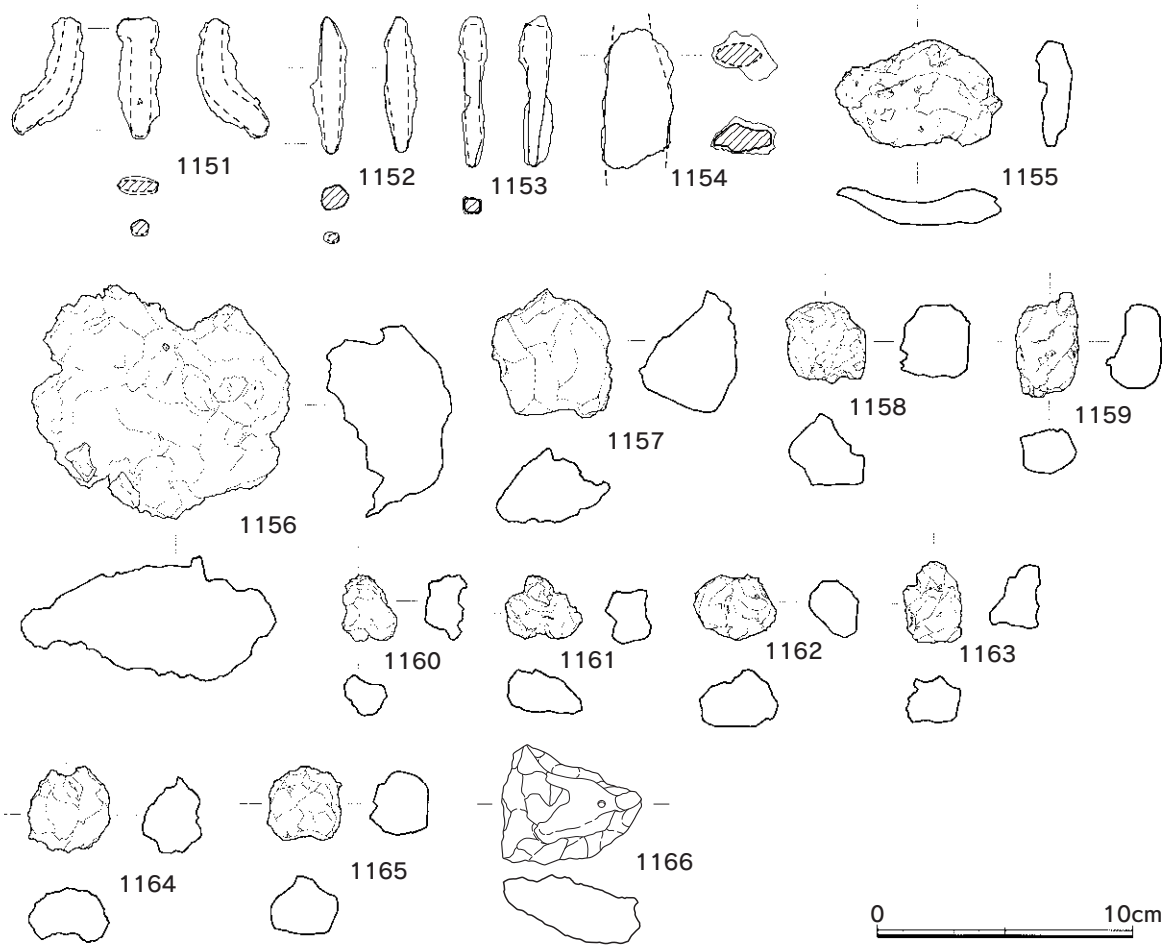
須恵器（1167・1168）　1167は杯。底部外面に「日」の墨書が見られる。1168は杯Ｂ身か。



第113図　7次谷部D区1層出土遺物実測図⑤（1150は1／8、他は1／3）

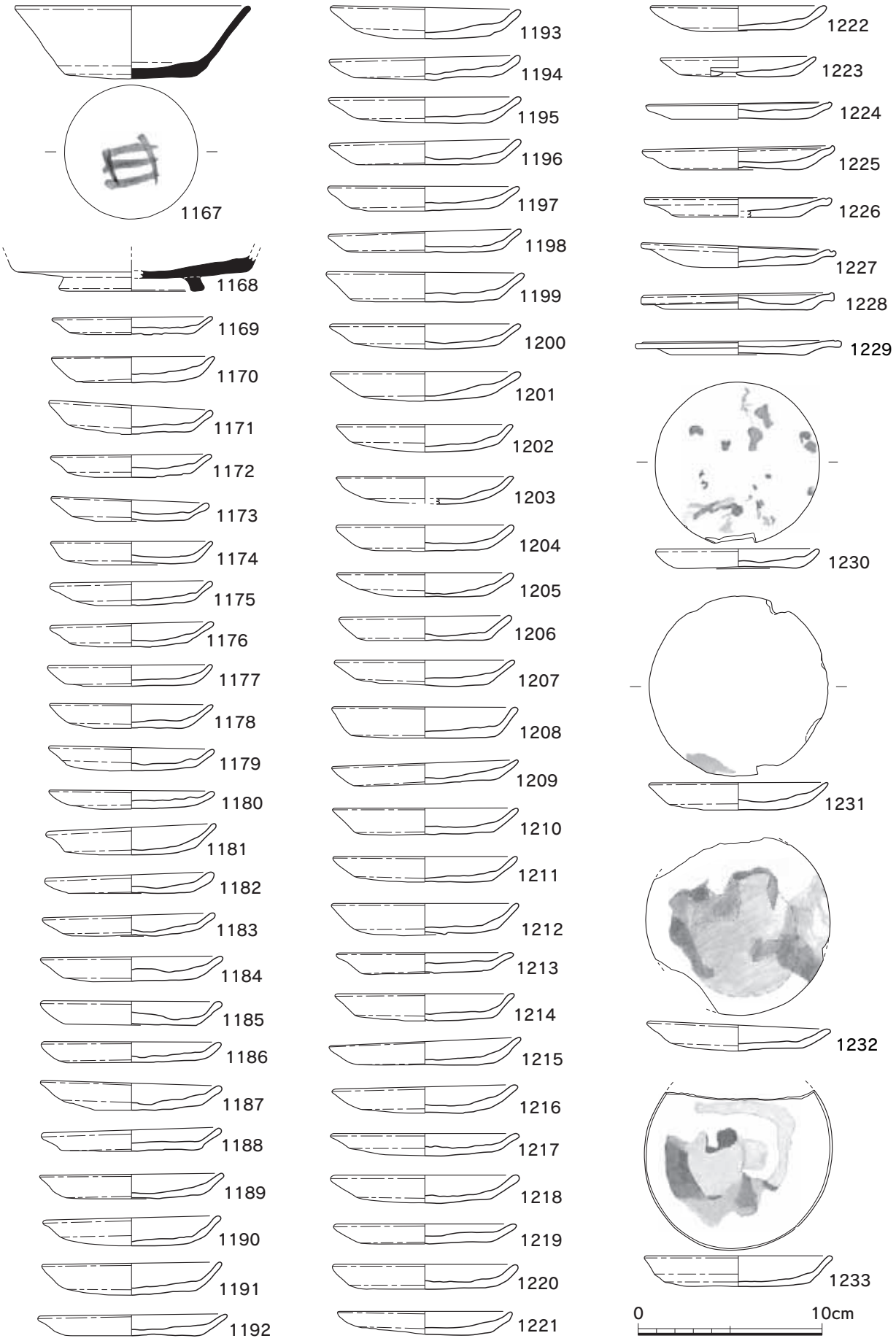
高台径に対して杯部径が大きい。

土師器（1169～1324）　1169～1235は小皿。口径約8.65～11.2㎝を測る。1190・1197・1198・1223・1230を除いてはすべて底部ヘラ切りを行う。また大半の底部外面に板状圧痕がみられる。1225～1229は「て」の字状口縁部をもつ。1230～1236は灯明具で、内面に煤が付着している。1236は外面底部にも煤が付着する。1237～1241は高台付小皿で、口径約12～13㎝である。1242・1243は三脚付皿。1242は摩滅のため調整不明である。1243の脚部は痕跡のみ残る。1244・1245は小杯である。1245は底部外面に板状圧痕がみられる。1246は杯。底部外面板状圧痕が残る。1247は皿。摩滅のため調整不明。1248・1249は高台付皿である。1248は灯明具で、口縁部に油煙が付着している。1250～1281は丸底杯。1253は口縁部の一部

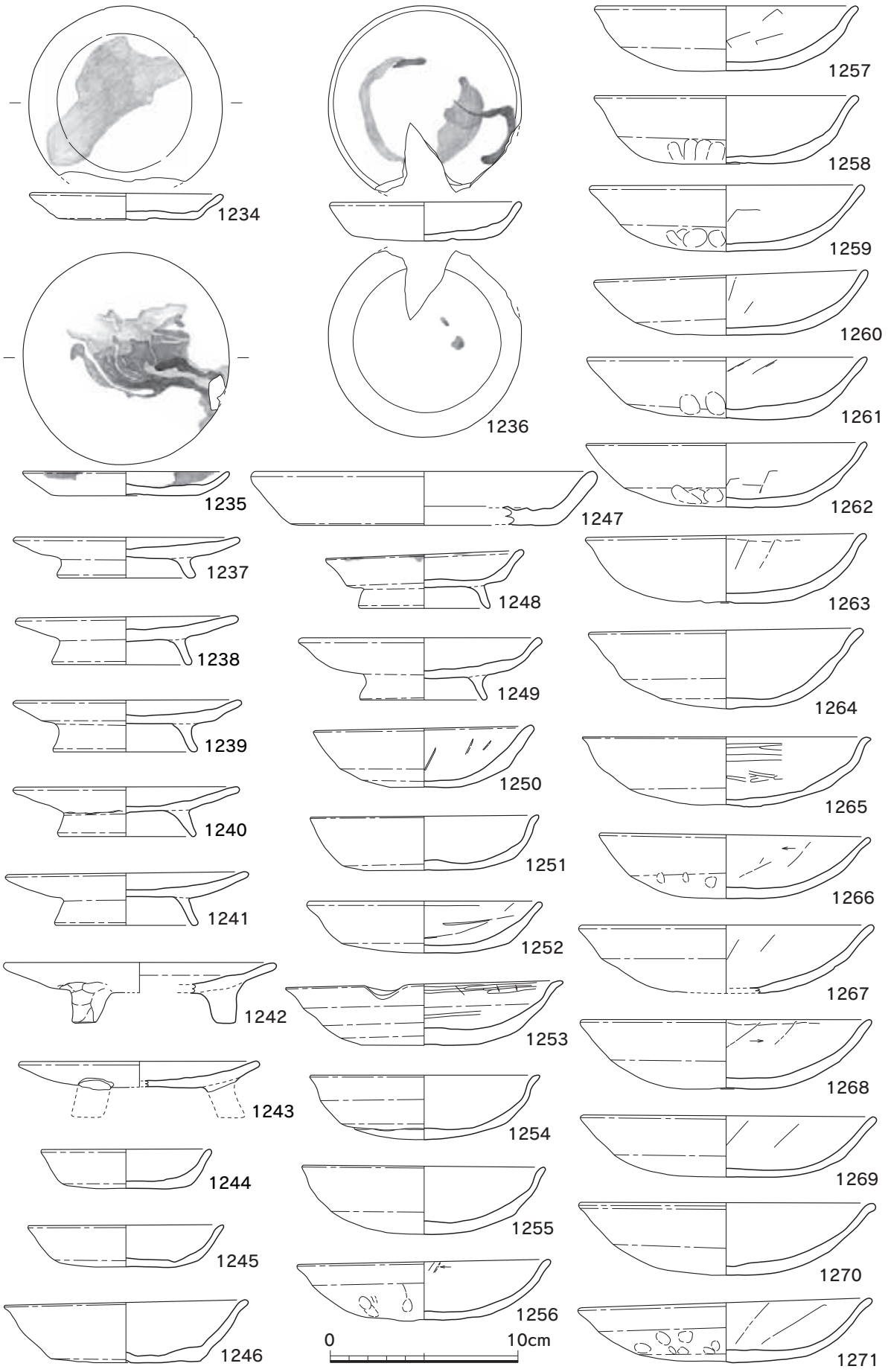


第114図　7次谷部D区1層出土遺物実測図⑥（1／3）

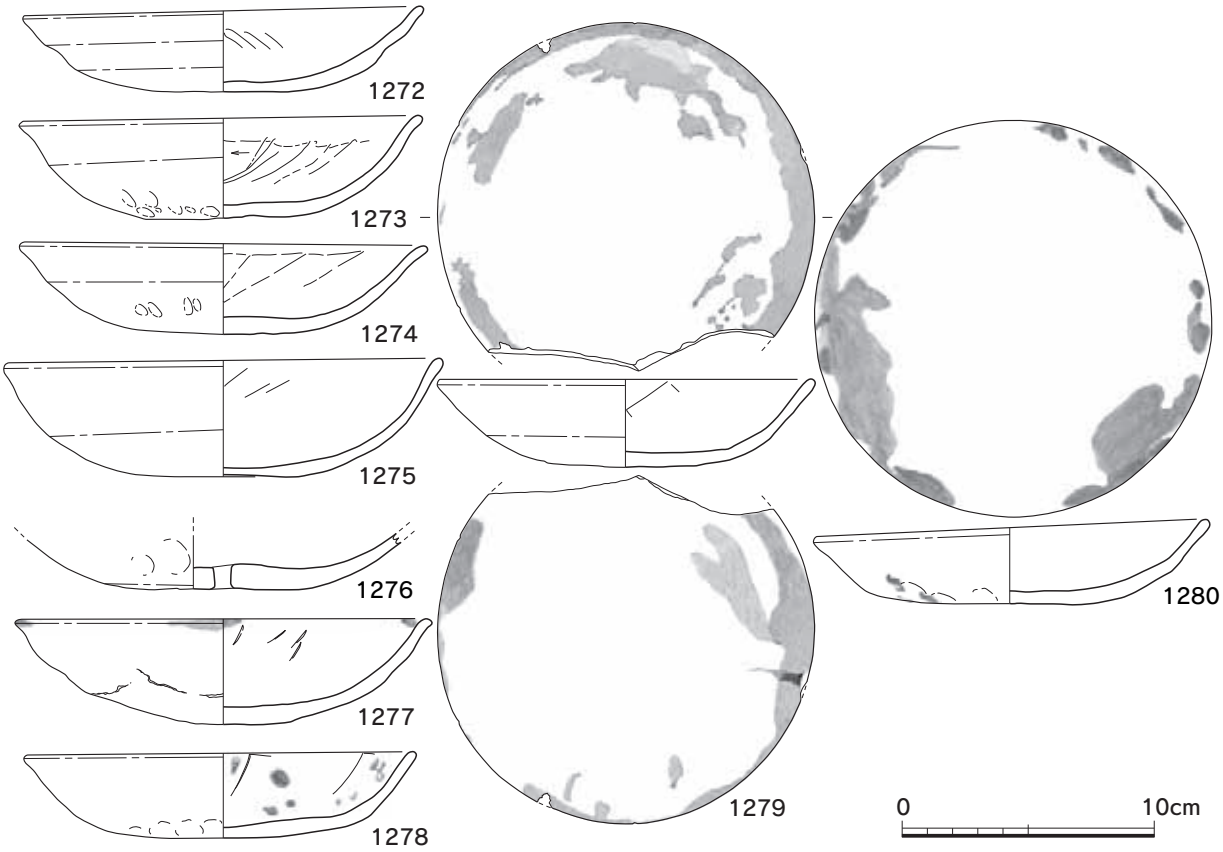
が押し広げられ、注口をつくるようになっている。口縁部内面と体部内面の一部にヘラミガキを施す。1254は口縁部下から外反し、口縁部で平坦面を持つ。1265は口縁端部をつまみ出し、内面にヘラミガキを施している。1270も口縁端部をつまみ出しているが、先端丸みをもつ。1276は底部に小孔を穿つ。1277 ～ 1281は口縁部や内外面に煤が付着している。灯明具と考えられる。1282 ～ 1286は小椀。1282は内外面ともに丁寧にヘラミガキを施している。1283 ～ 1286は口縁部がわずかに外反する。1286は内面に墨痕が見られる。1287 ～ 1310は椀である。1287 ～ 1307は1296・1297を除いて高台がハの字に開く。1292は灯明具か。口縁部の一部分に煤が付着している。1293は体部に強めに回転ナデを行っている。口縁部が外反している。1294は高台が外反している。1296は内外面にヘラミガキ。高台に煤が付着している。1297は内外面に丁寧なヘラミガキを行っている。1296・1297は高台が低く、1297は丸底である。瓦器の焼成不良品であろうか。1304は内外面に煤が付着。1307は底部は焼成後に穿孔すると思われる。1308は小片だが、内面に墨書が見られる。1309は脚付椀の脚部である。1310は底部である。無高台で、底部が厚い。在地産ではない可能性が高い。1311は椀形を呈する。底部は丸く、口縁部は内湾する。古墳時代のもののように見えるが、胎土は丸底杯などに類似する。1312 ～ 1315は鉢である。1313は体部が口縁部へほぼまっすぐ伸び、体部外面に煤が付着している。1316は器台か。柱状部を手づくね整形される。1317 ～ 1319は壺。1318は体部外面が摩滅のため判然としない



第115図　7次谷部D区2層出土遺物実測図①（1／3）



第116図　7次谷部D区2層出土遺物実測図②（1／3）



第117図　7次谷部D区2層出土遺物実測図③（1 ／ 3）

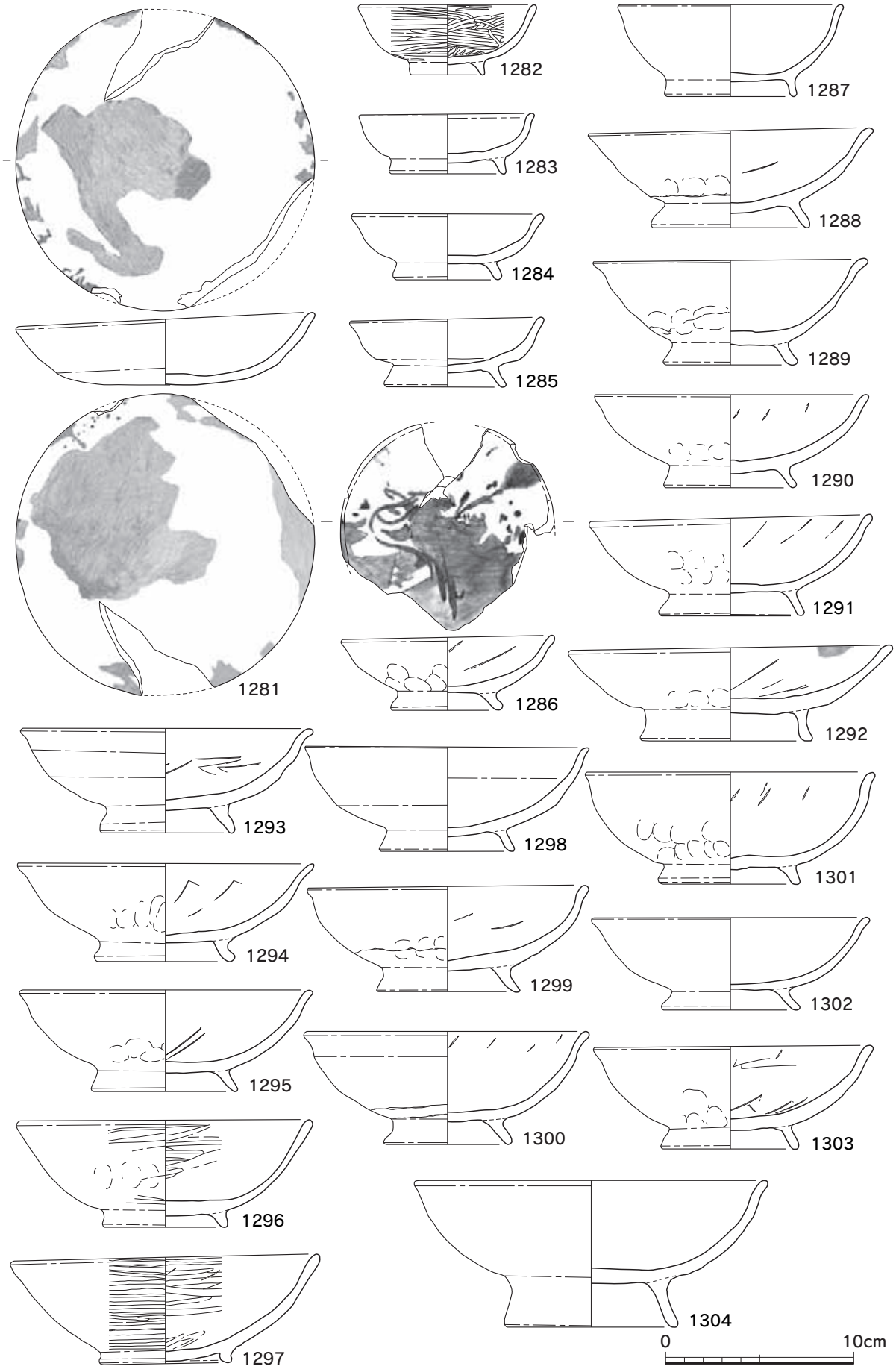
が、回転ヘラケズリを行うか。底部外面に黒斑がみられる。1319は底部内面に指ナデ痕。1320・1321は甕で、体部外面は縦方向のハケメを施す。1321は口縁部が丸く折り曲げらる。1322 ～ 1324は移動式竈である。いずれも表面はナデ調整である。1323は接地部分で、底部には煤が付着している。1322・1324は庇と思われる。端部は面取りをしている。

黒色土器（1325 ～ 1332）　1325・1326はA類の椀である。内面は丁寧なヘラミガキを施し、口縁部は外反している。1326の外面は剥落や摩滅のため調整不明である。1327 ～ 1332はB類の椀である。1327・1328は小椀で、1327は体部内面、口縁部外面にヘラミガキを施している。1328は内外面にヘラミガキを施している。また体部は口縁部へ広がるように伸びている。1329 ～ 1332は内外面ともにヘラミガキを施す。1332は器壁が厚く、ヘラミガキは丁寧である。鉢と思われる。

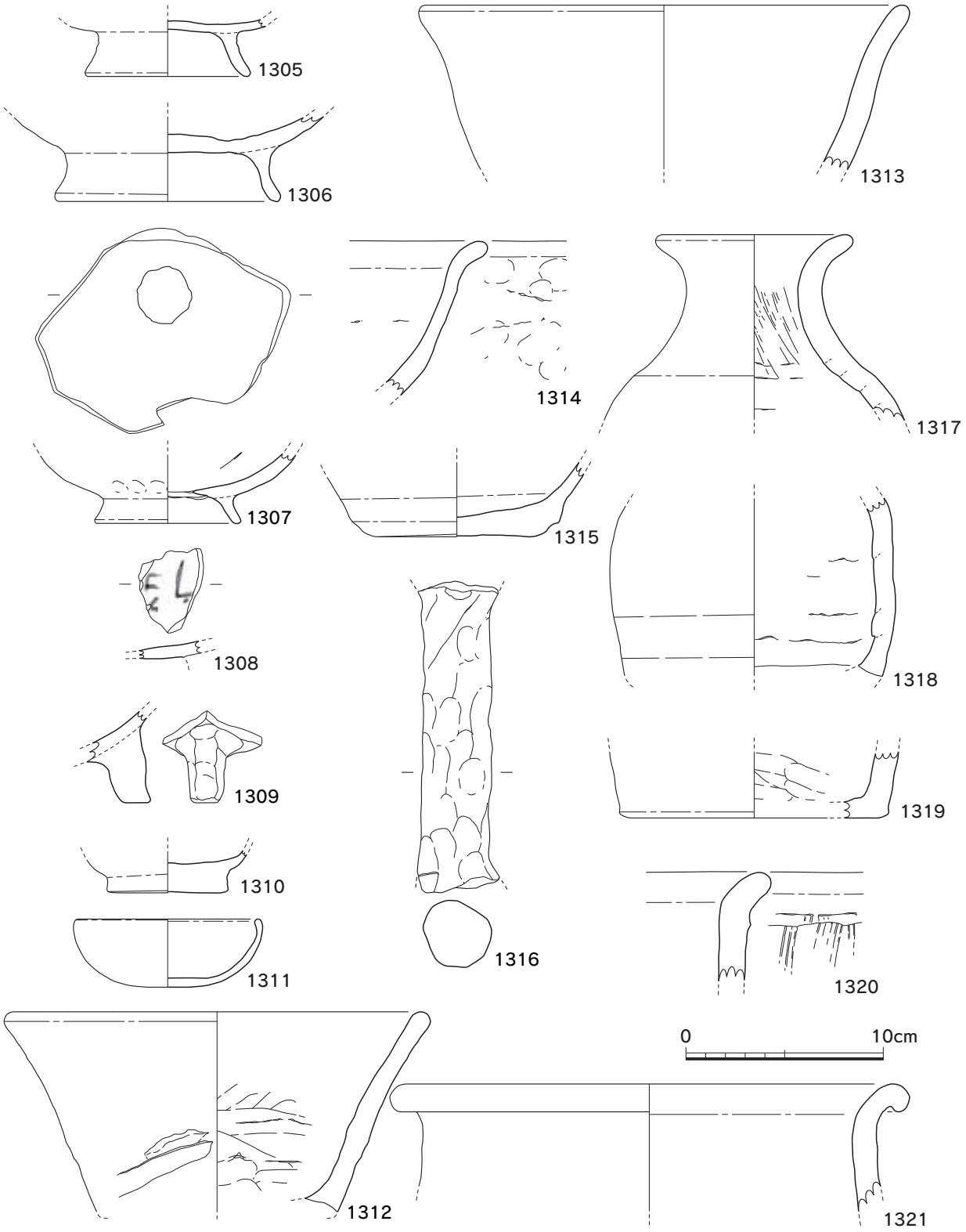
瓦器（1333）　椀。高台は低く、内外面ともにヘラミガキを施している。

磁器（1334 ～ 1337）　1334・1335は白磁椀。1334肉厚な玉縁口縁をもつ。体部外面は回転ヘラケズリを行う。1335も玉縁口縁をもつが、口縁部を折り曲げた後の調整は見られない。どちらも太宰府分類Ⅳ類である。1336は皿。体部が若干内湾ぎみである。見込みに一条沈線が入る。太宰府分類皿Ⅶ類か。1337は皿。青白磁。体部は丸味をもち、口縁部は屈曲し外上方へのびる。口縁端部に輪花をもつ。1129と同一個体。

土製品（1338 ～ 1340）　1338は鞴羽口。器表面は還元し、端部に粘土が付着。1339は棒状製品である。1340は土玉である。直径1.7㎝程度。



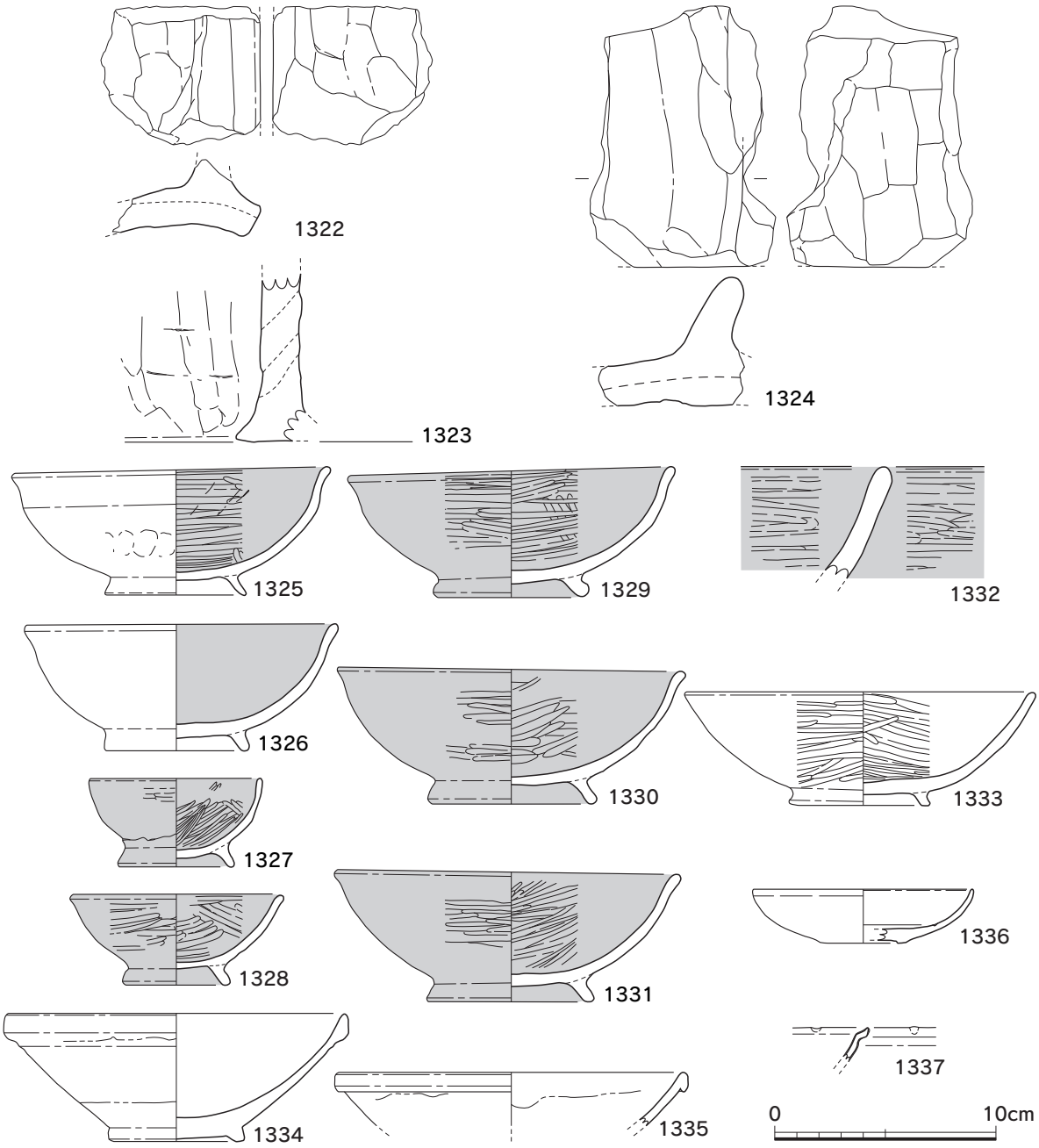
第118図　7次谷部D区2層出土遺物実測図④（1／3）



第119図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑤（1／3）

銅製品（1341）　銅製の鈴。土圧のためかゆがみ、一部銅地が裂ける。幅約2.6㎝、高さ3.6㎝。中の小玉は約0.6㎝を測る。

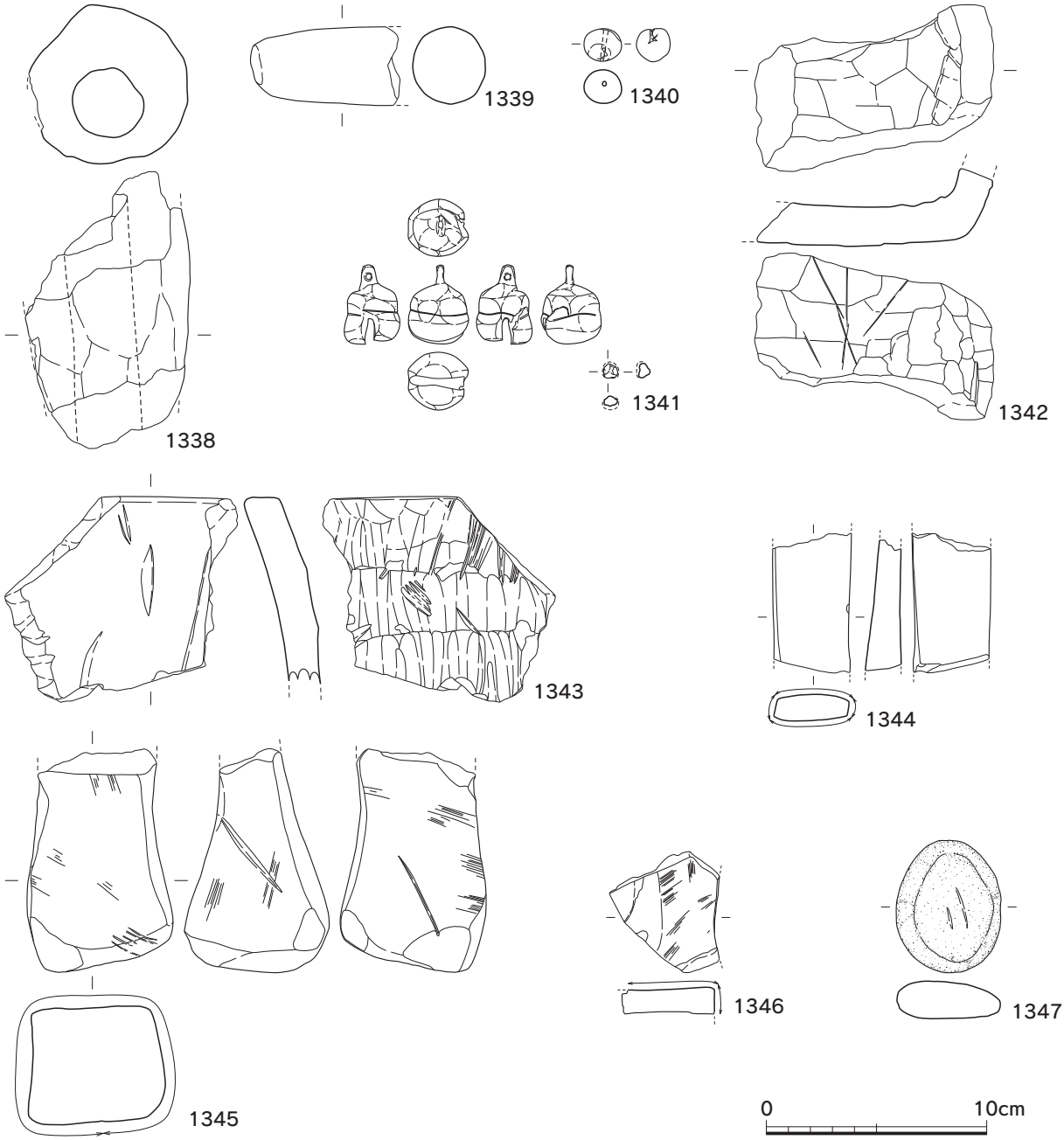
石製品（1342 ～ 1347）　1342・1343は滑石製石鍋。1342は底部片で、煤が付着している。1343は口縁部片である。外面は縦方向にケズリを行う。1344 ～ 1346は砂岩製の砥石。1343・



第120図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑥（1／3）

1345は4面使用する。1346は欠損部以外の2面を砥面として利用している。1347は磨石である。

木製品（1348 ～ 1377）　1348 ～ 1351は折敷。1348は側板が一辺に残る。1349は側板である。1350は側板が一部のみ残る。底板に２穴一対でを穿孔し、植物質のもので結束する。1352 ～ 1357は箸である。おおむね両端を細くし、1352・1353は五角形、1354 ～ 1356は六角形に面取りをする。1358 ～ 1366は部材。1358・1359は枘をつくる。1360は表面を削って整形した後、両端は表裏を削り、穿孔している。1361は断面が長方形を呈し、先端は鋭利に作りだしている。1362は残存部中央を抉って溝をつくる。1363は断面方形で、先端を片方から鋭利に削っている。1364の両端は円弧状をしている。上端部を欠損し、全形は不明である。1365はヘラ状。1366は上方で僅かに段をつくり、穿孔する。1367は題箋軸。両側縁を面取りし、下端部で約0.6

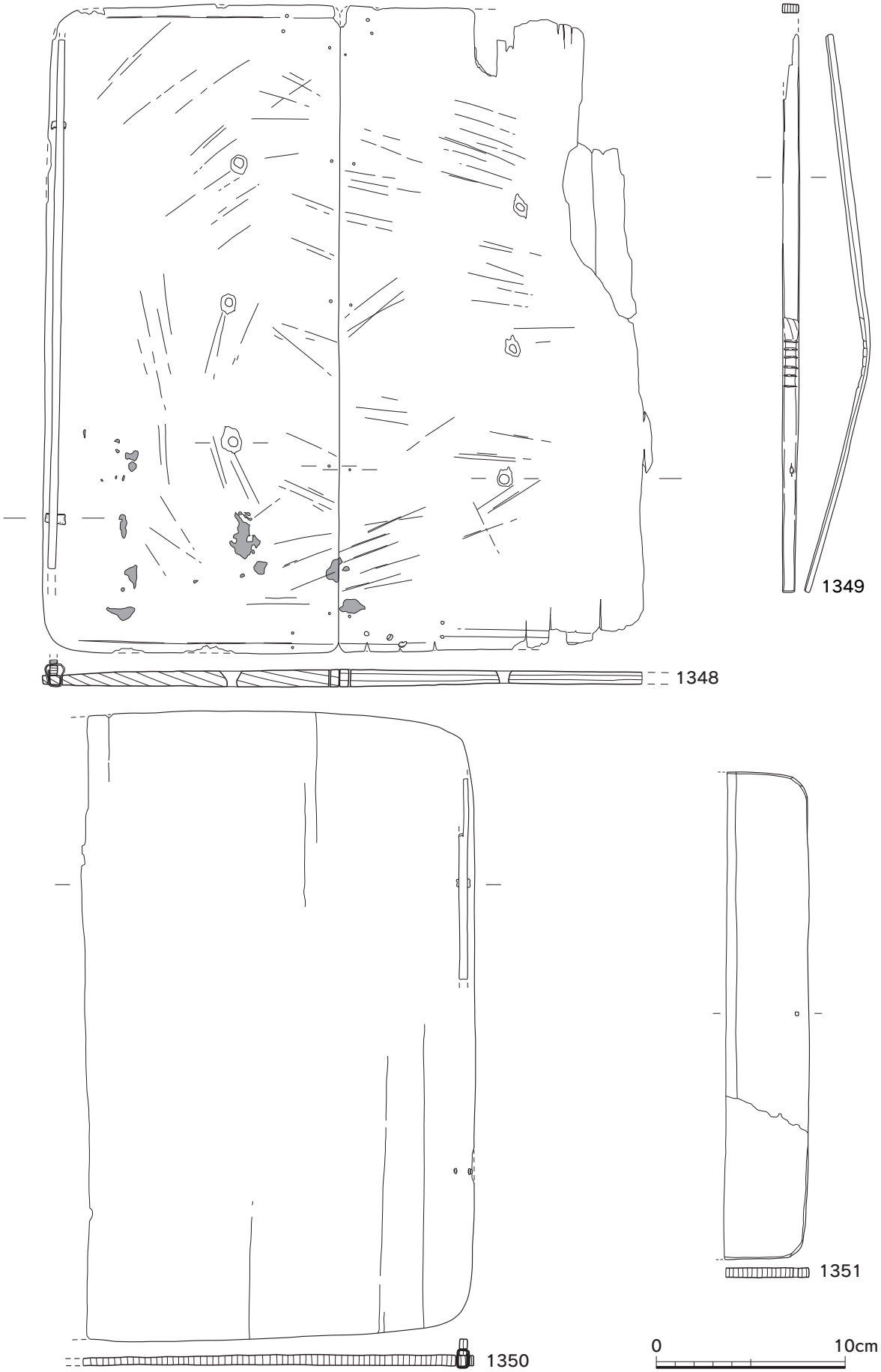


第121図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑦（1／3）

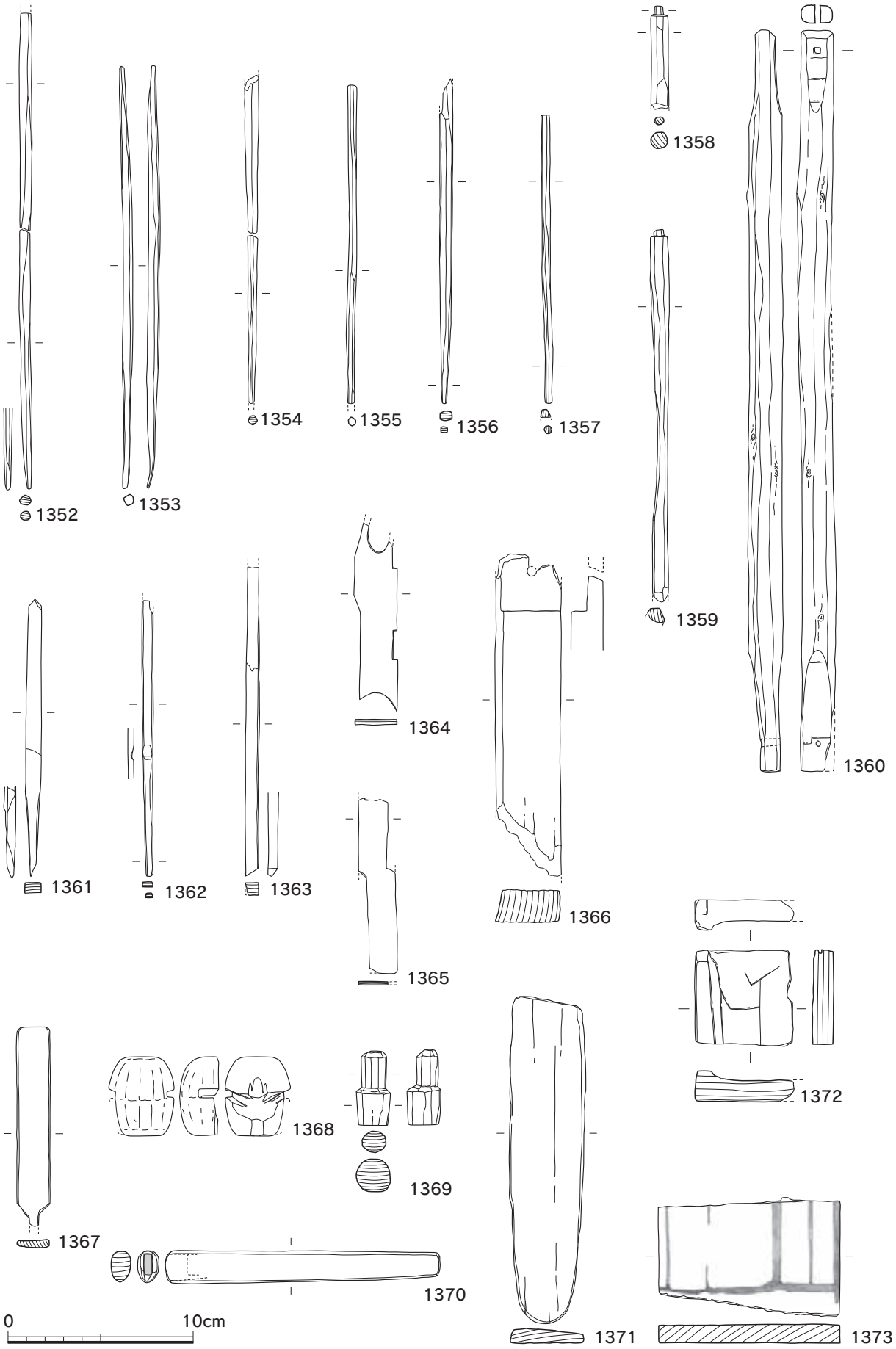
cmの突起を作る。1368は鳴鏑である。矢をつける穴に対し、斜め上から穴が開けられる。1369は栓。ほぼ円形である。上端部は大まかに面取りしている。1370は刀子の柄である。1371～1373は用途不明。1371は笏のような形状である。面取りをしている。1372は縁を作るように表面を削っている。1373は板材に墨書が見られる。1374は丁寧に面取りし、中央に穿孔する。側面の一辺のみ整形され、なんらかの部材か？ 1375・1376は曲物の底板か。木釘痕がみられる。1377は先端を削っている。木杭か。

獣骨（1378～1382）　いずれも馬の臼歯である。

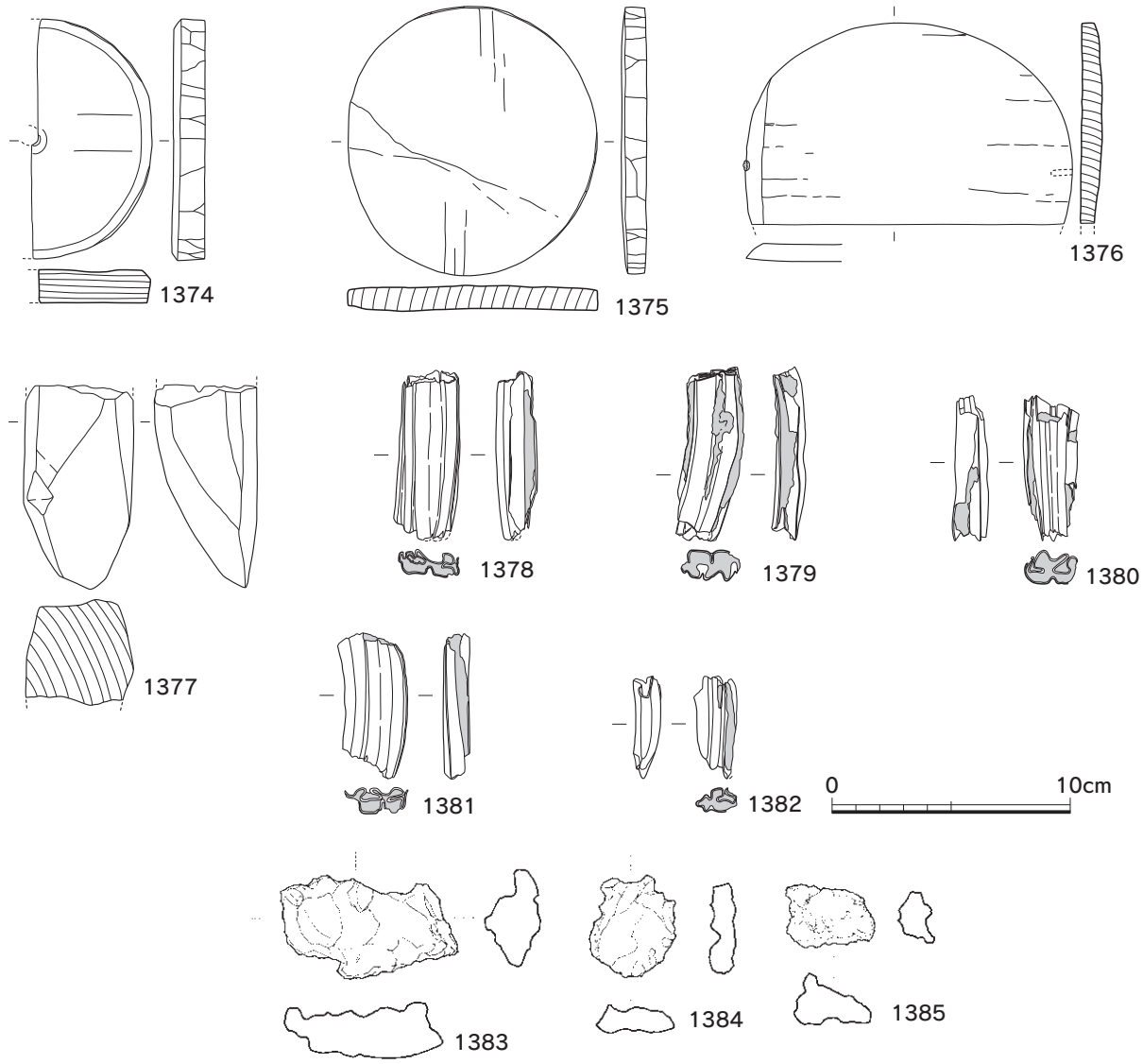
鉄滓（1383～1385）　いずれも着磁がみられる。1383は炭化物が付着する。1385は部分的に着磁度が異なる。



第122図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑧（1／3）



第123図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑨（1／3）



第124図　7次谷部D区2層出土遺物実測図⑩（1 ／ 3）

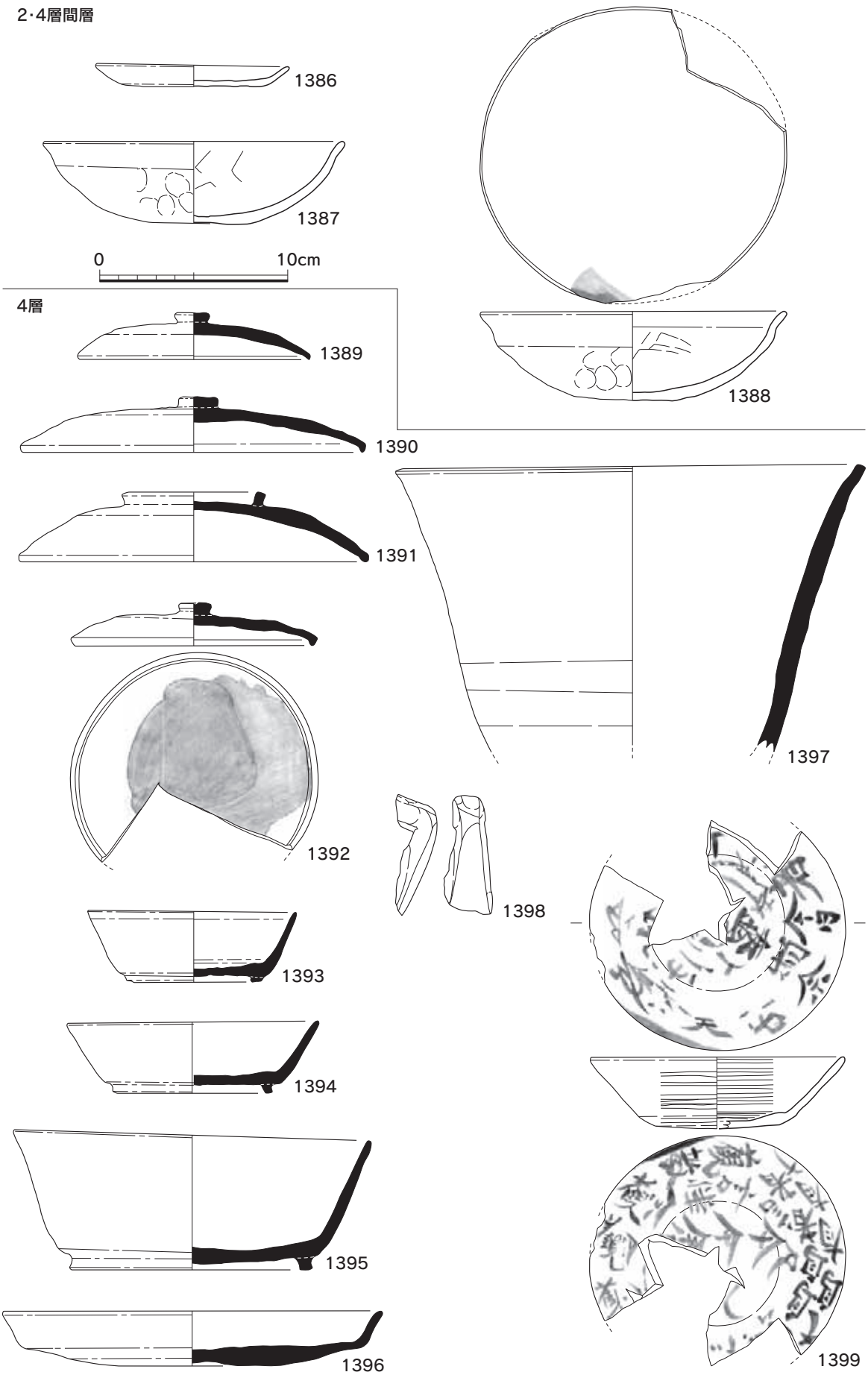
谷部D区2･4層間層出土遺物（第125図）

土師器（1386 ～ 1388）　1386は小皿。摩滅のため調整は不明。1387・1388は丸底杯。1388は口縁部に煤が付着している。

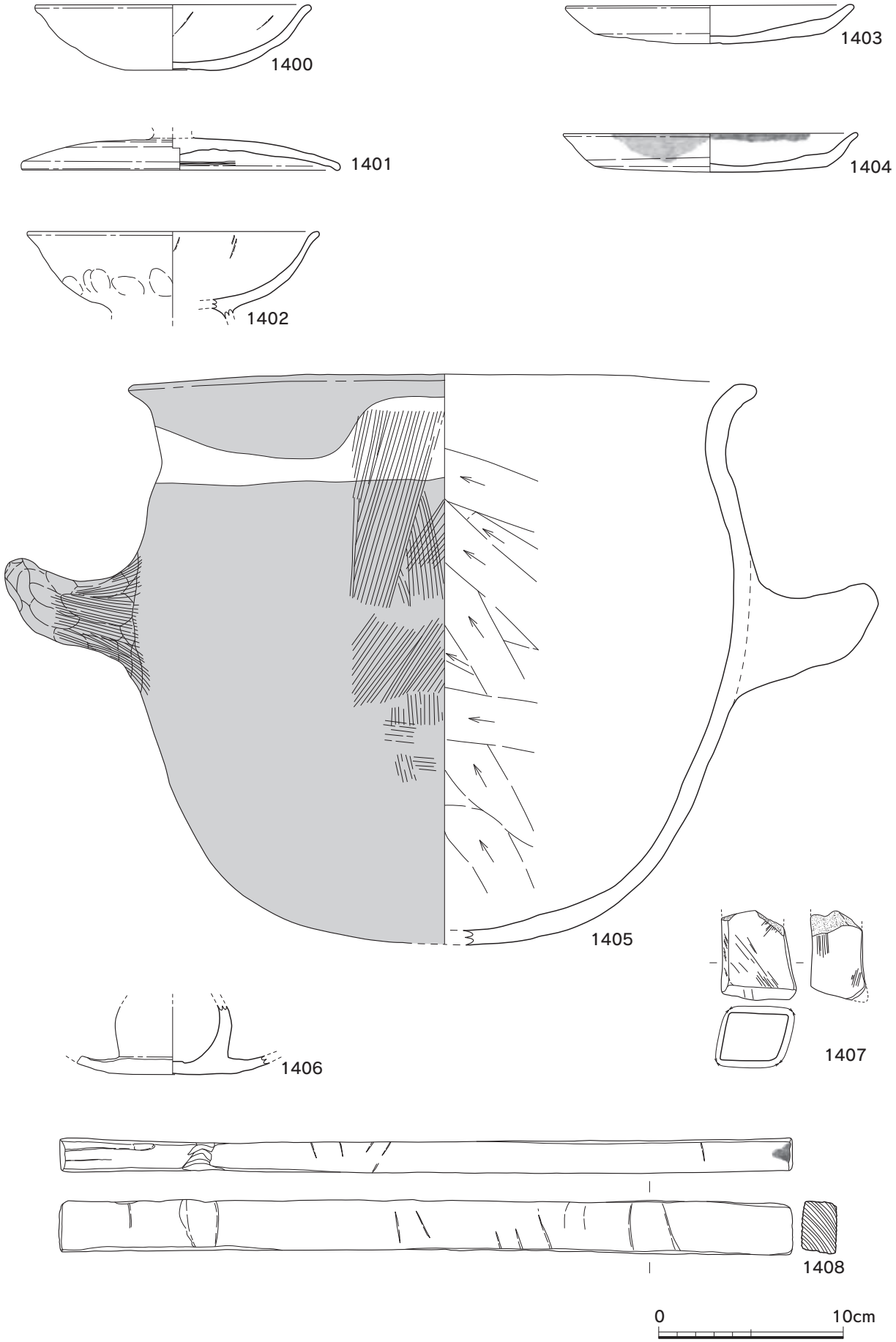
谷部D区4層出土遺物（第125・126図・図版79・80）

須恵器（1389 ～ 1398）　1389 ～ 1392は杯Ｂ蓋。いずれも口縁端部の折り曲げは、ほとんどないかわずかに認められる程度である。1391は輪状のつまみをもち、重ね焼きの痕跡がある。1392は転用硯。1393 ～ 1395は杯Ｂ身である。いずれも高台は低くふんばる。1396は皿。底部はヘラ切りを行い、外面に火襷がみられる。1397は鉢で、体部外面中位以下に回転ヘラケズリを行う。口唇部は平らである。1398は壺の把手である。

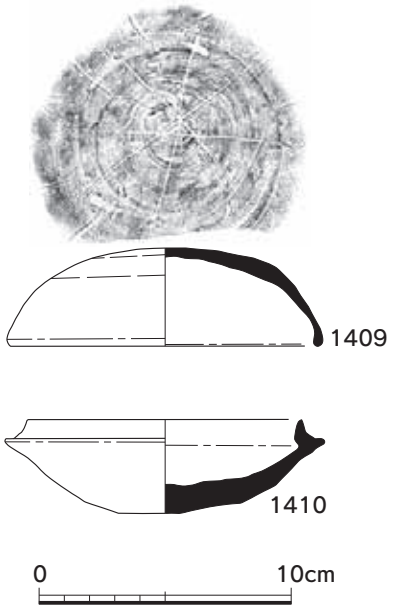
土師器（1399 ～ 1406）　1399は杯で、内外面に回転ヘラミガキを施す。また、両面に墨書を記している。外面は体部は反時計回りに一部３列、底部は一定方向に文字を書く。体部は外側から「大鳥有有有観教観観観」「鳥鳥鳥者者」「言言」、底部は「凡今今余」。内面は「天、地、料、余、今日、



第125図　7次谷部D区2・4層間層、4層出土遺物実測図①（1／3）



第126図　7次谷部D区4層出土遺物実測図②（1／3）



第127図　7次谷部D区5層出土遺物実測図（1/3）

者」の他、模様のようなものが描かれる。1400は丸底杯。底部はヘラ切り後ナデを行う。1401は蓋である。天井部に回転ヘラケズリを行う。1402は椀。口縁部が外反する。1403・1404は皿。1404は体部外面回転ヘラケズリを行う。内外面に煤が付着。1405は甕。把手付。体部内面にはヘラケズリ、体部外面はハケメを施している。把手接合部はハケメを施す。1406は杯状の器形に丸みを持った立ち上がりがつく。托か？

石製品（1407）　砂岩製の砥石。5面を使用している。

木製品（1408）　厚さ約1㎝の板である。用途は不明である。

谷部D区5層出土遺物（第127図）

須恵器（1409・1410）　1409は杯H蓋で、天井部外面は上方から回転ヘラケズリを行う。天井部外面にヘラ記号を施している。1410は杯H身。外面全体に厚く降灰しており、調整は不明瞭である。

谷部D区6層出土遺物（第128図・図版80）

須恵器（1411 ～ 1422）　1411・1412は杯H蓋。どちらも天井部外面にヘラ記号を施す。1413 ～ 1416は杯H身。いずれも天井部外面にヘラ記号を施す。1414・1415は口縁部に剥離痕がみられる。使用痕か。1417は高杯蓋。中央部はくぼむ。1418は杯形を呈する。底部は丸く、口縁部は外反する。底部外面にヘラ記号をもつ。1419は短頸壺。体部最大径は上位にあり、肩部の沈線間に2段の竹管文を施す。1420は壺。肩部の沈線間に斜線文を施している。丸みがあり、器壁は厚い。1421は壺。頸部より下にカキメを施す。1422は平瓶。体部外面はカキメ、底部は回転ヘラケズリを行う。肩部外面にボタン状突起を持つ。

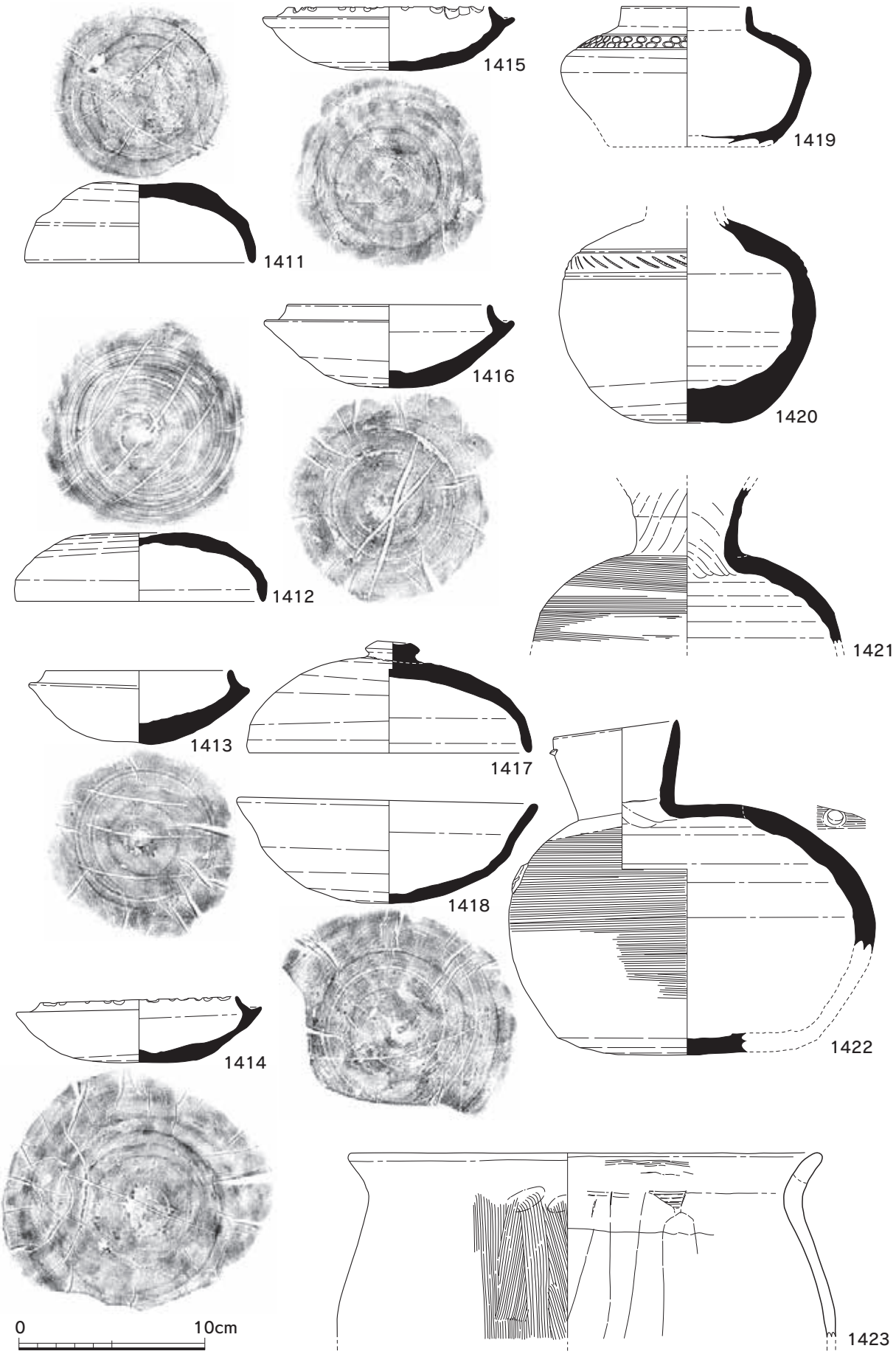
土師器（1423）　甕である。体部外面にハケメ、内面はヘラケズリを施す。口縁部は外反する。

谷部D区7･8層出土遺物（第129図・図版80・81）

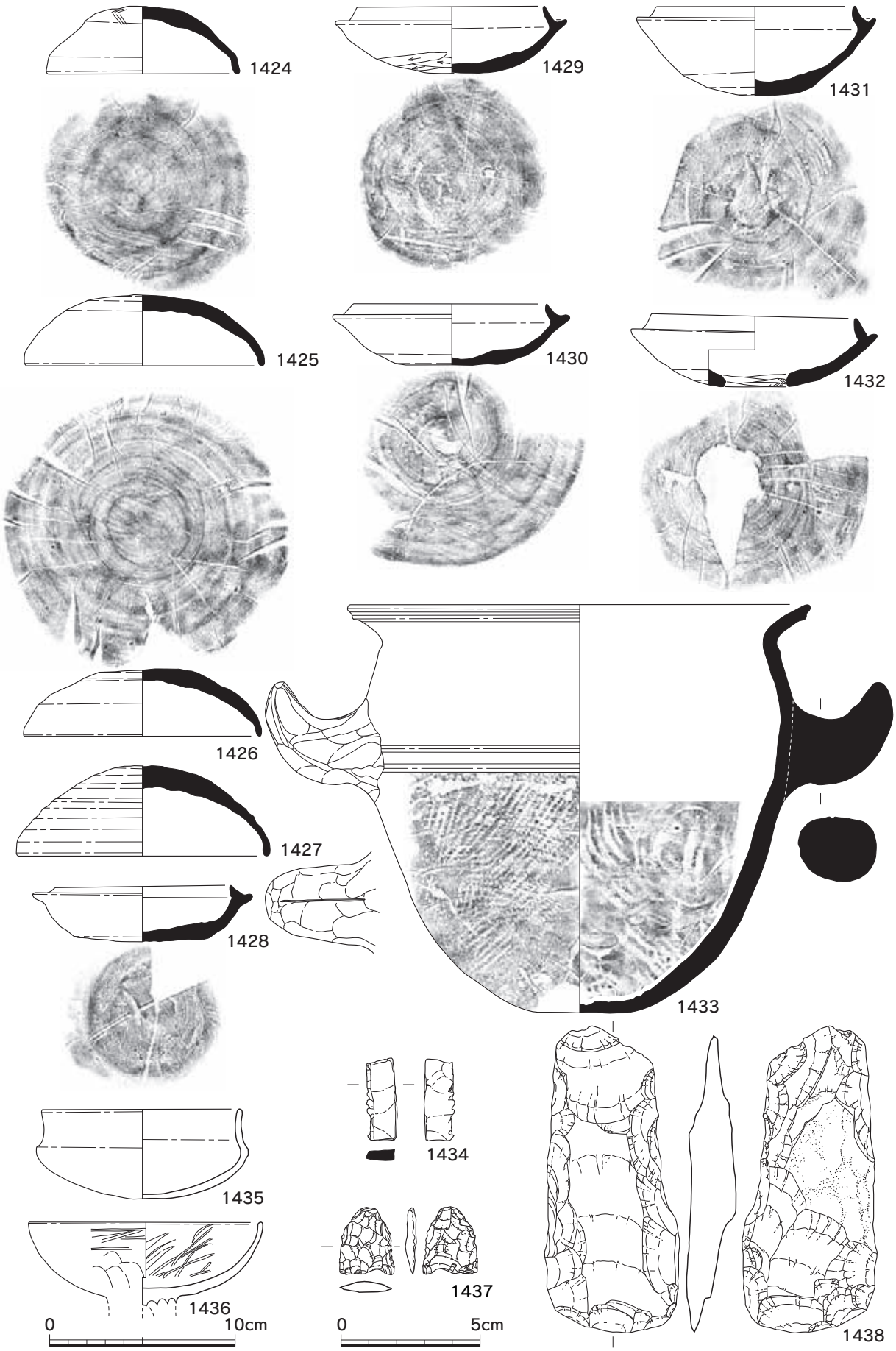
須恵器（1424 ～ 1434）　1424 ～ 1427は杯H蓋である。1424は天井部ヘラ切りを行う。1425は天井部回転ヘラケズリを行い、外面にヘラ記号を施している。1426は外面に2種のヘラ記号を施している。1427は丸みがあり、天井は高い。天井部外面回転ヘラケズリを行う。1428 ～ 1432は杯H身である。すべての外面にヘラ記号を施している。1429は底部外面に手持ちヘラケズリを行う。1430 ～ 1432は底部外面回転ヘラケズリを行っている。1432は底部を焼成前に穿孔する。1433は把手付の甕である。底部は外面擬格子タタキ、内面粗い同心円文当て具痕。体部はゆるく張り、口縁部は屈曲し外上方へ大きく広がる。体部中位には2条の沈線を持ち、施文後把手がつけられる。把手は、左右とも上面に浅い沈線を入れる。焼成は瓦質に近く、完形に復元され、外面には煤がつく。半島系のものと考えられる。1434は甕製作時の切削物である。

土師器（1435・1436）　1435は模倣杯。底部は丸底、ナデて仕上げる。体部は屈曲部をもち、口縁部は直立する。1436は高杯。杯部椀形。内面と体部口縁部はヘラミガキを施す。

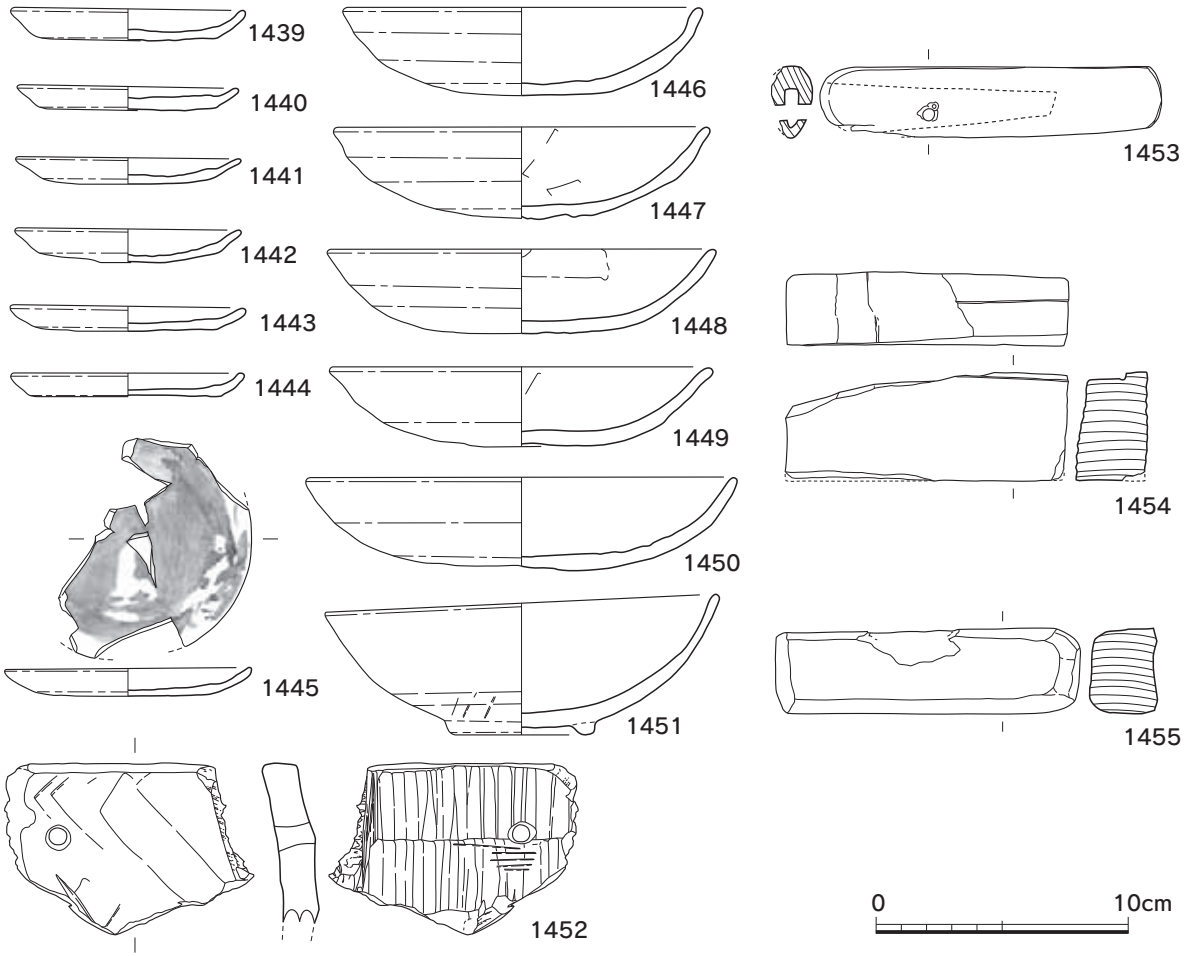
石製品（1437・1438）　1437は石鏃で、抉りは浅い。側縁部に細かい調整を行う。1438は



第128図　7次谷部D区6層出土遺物実測図（1 ／ 3）



第129図　7次谷部D区7・8層出土遺物実測図（1436は1／2、他は1／3）



第130図　7次谷部D区SK01　1層出土遺物実測図（1 ／ 3）

石斧。表面がやや風化しているようである。

谷部D区SK01 1層出土遺物（第130図・図版82）

土師器（1439 ～ 1451） 1439 ～ 1445は小皿である。1441は摩滅のため調整不明であるが、他はヘラ切り後板状圧痕がみられる。1445は内面に墨痕がみられる。1446 ～ 1450は丸底杯。1448・1450は底部外面に黒斑があり、これら以外は板状圧痕がみられる。1451は椀。高台は低く、体部外面下方は回転ヘラケズリを行っている。瓦器か。

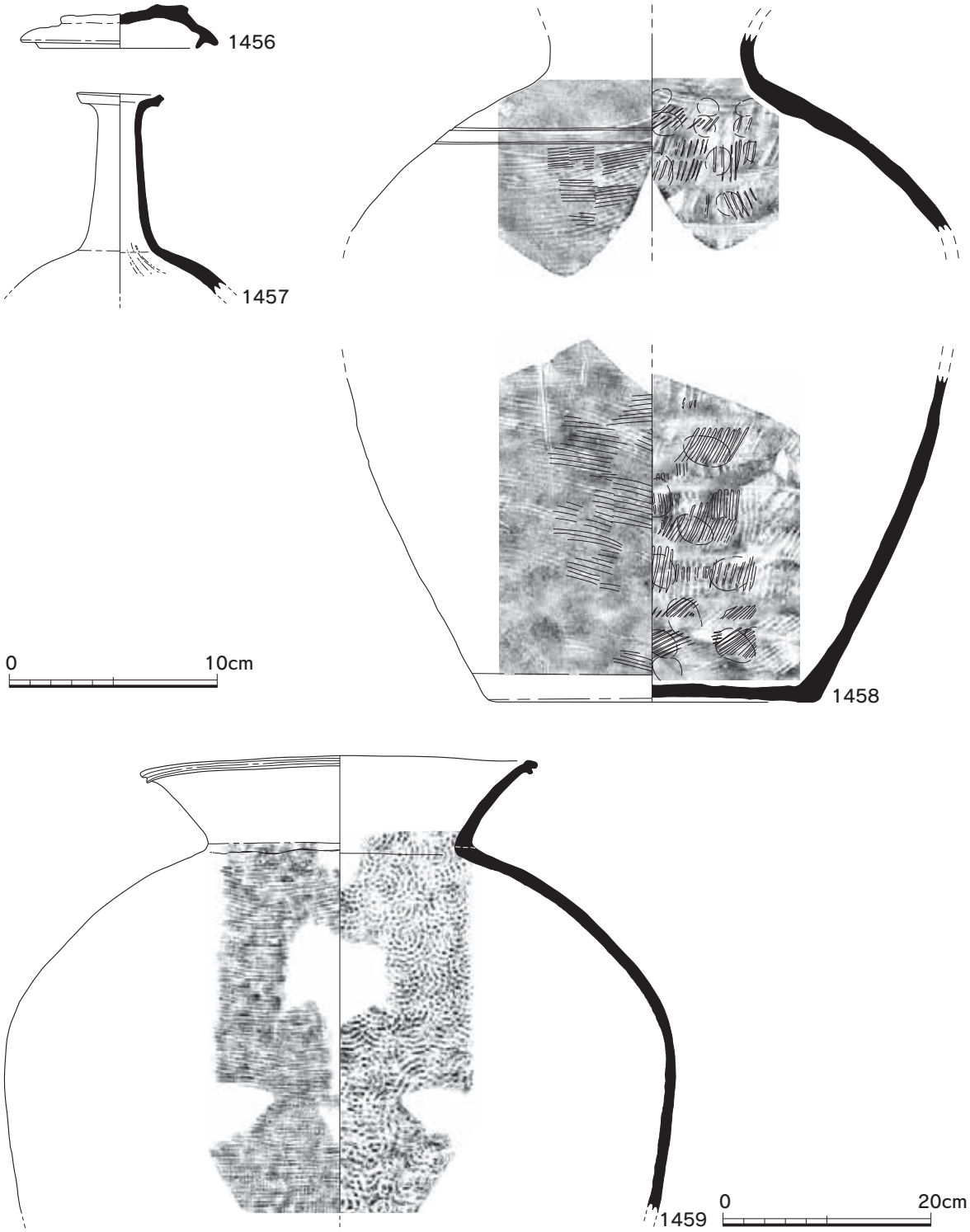
石製品（1452） 滑石製石鍋。外面は縦方向、内面は斜めにケズる。孔を穿ち、転用品であろう。

木製品（1453 ～ 1455） 1453は刀子の柄。中央に目釘穴を穿孔する。1454は上方を削って段をつけている。1455は側面および先端は面取りを行っている。どちらも用途不明。

谷部D区SK01下層出土遺物（第131 ～ 136図・図版82 ～ 86）

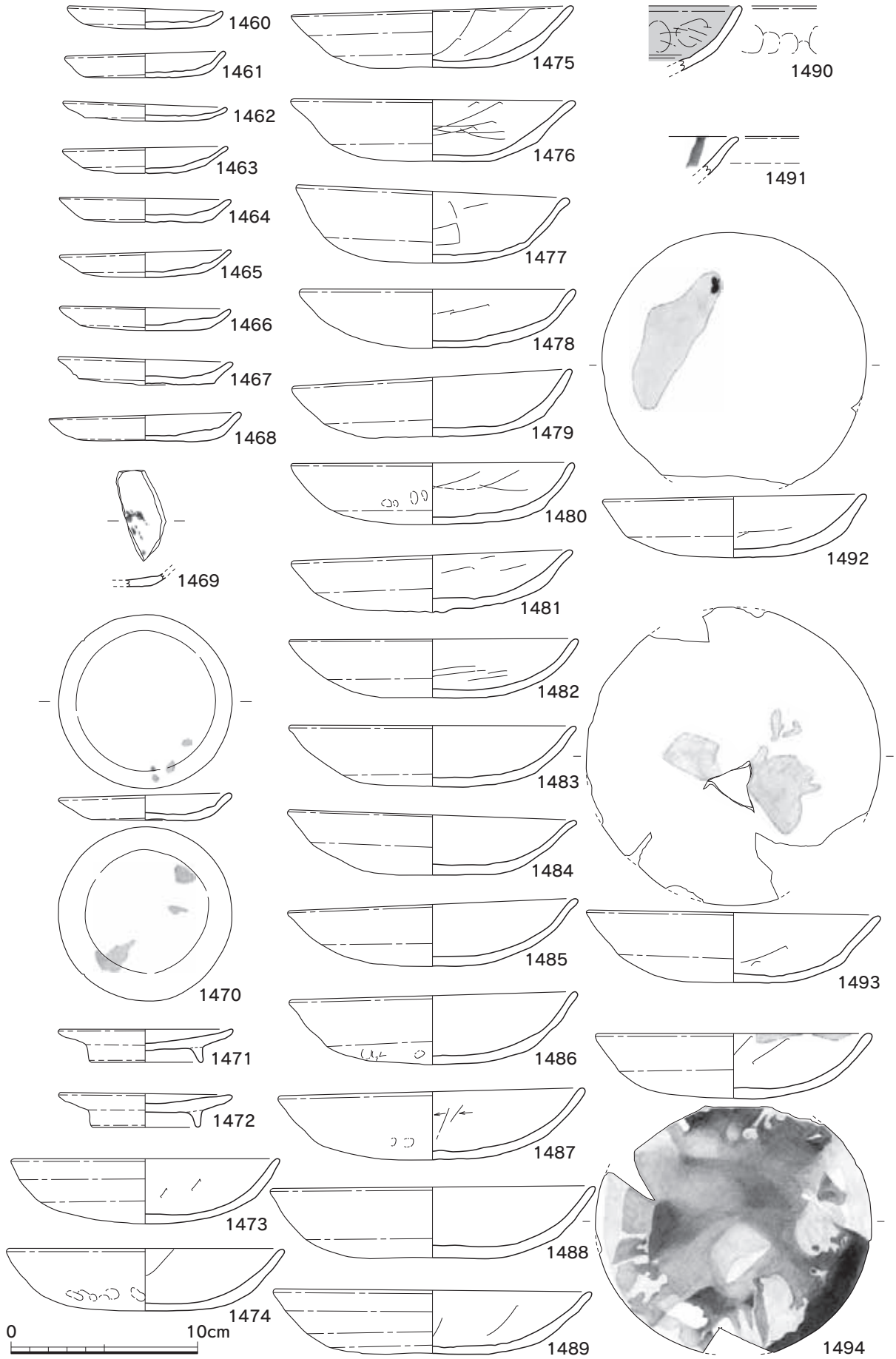
須恵器（1456 ～ 1459） 1456は杯Ｇ蓋。天井部外面は未調整、つまみはない。焼け歪む。1457は水瓶で、口縁部は大きく開き、端部が短く立ち上がる。1458は壺。体部外面に平行タタキ、内面は平行当て具痕後回転ナデが施される。体部最大径は上位にあり、頸基部はしまり、大きく外反し、肩には2条の沈線がある。底部平底。産地不明。1459は大甕。口唇部は平ら。体部外面は平行タタキを行うが、下半は擬格子タタキ。内面は同心円文当て具痕がみられる。

土師器（1460 ～ 1508） 1460 ～ 1470は小皿。底部はヘラ切りを行い、板状圧痕がみられる。

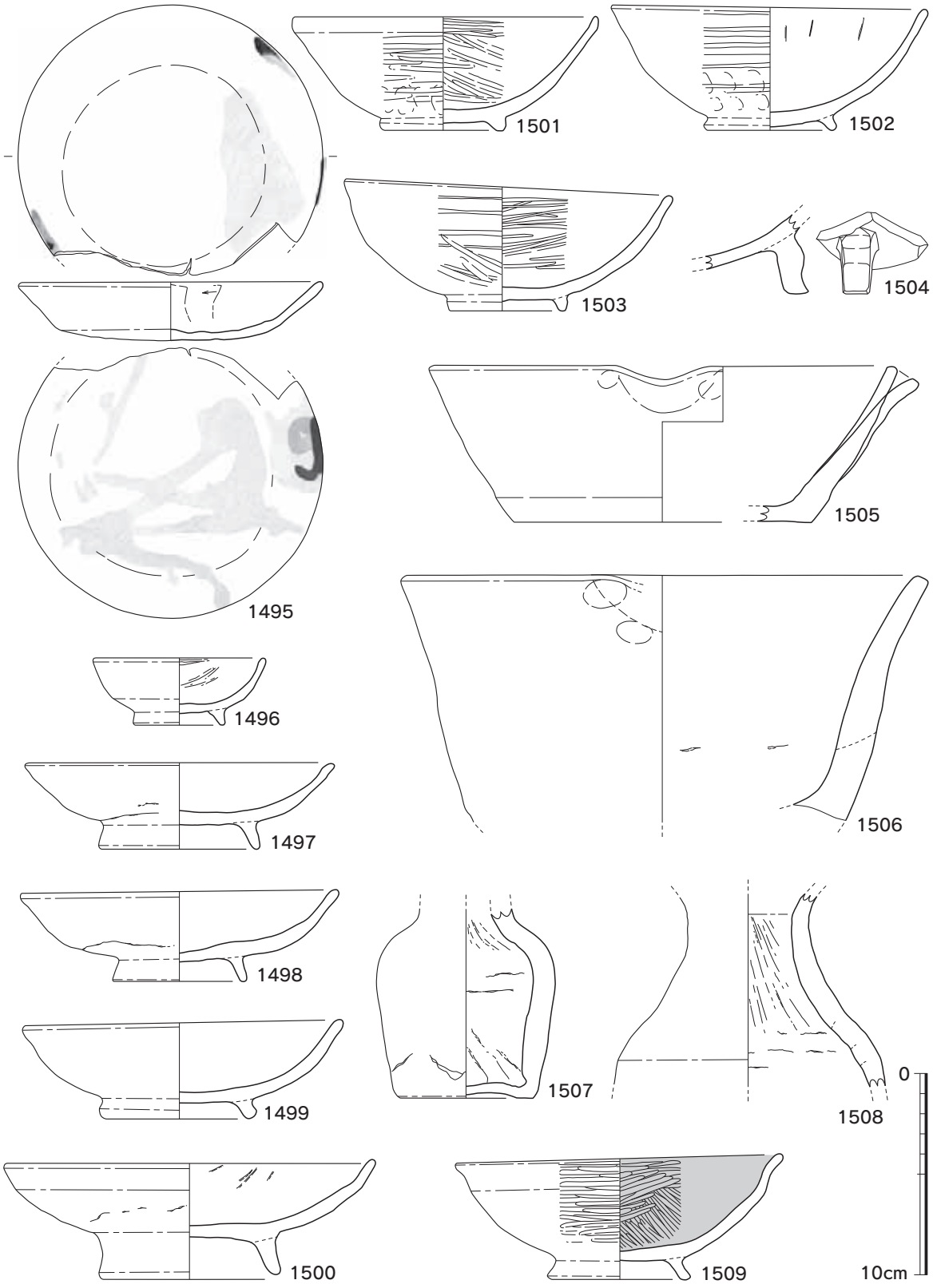


第131図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図①（1459は1／6、他は1／3）

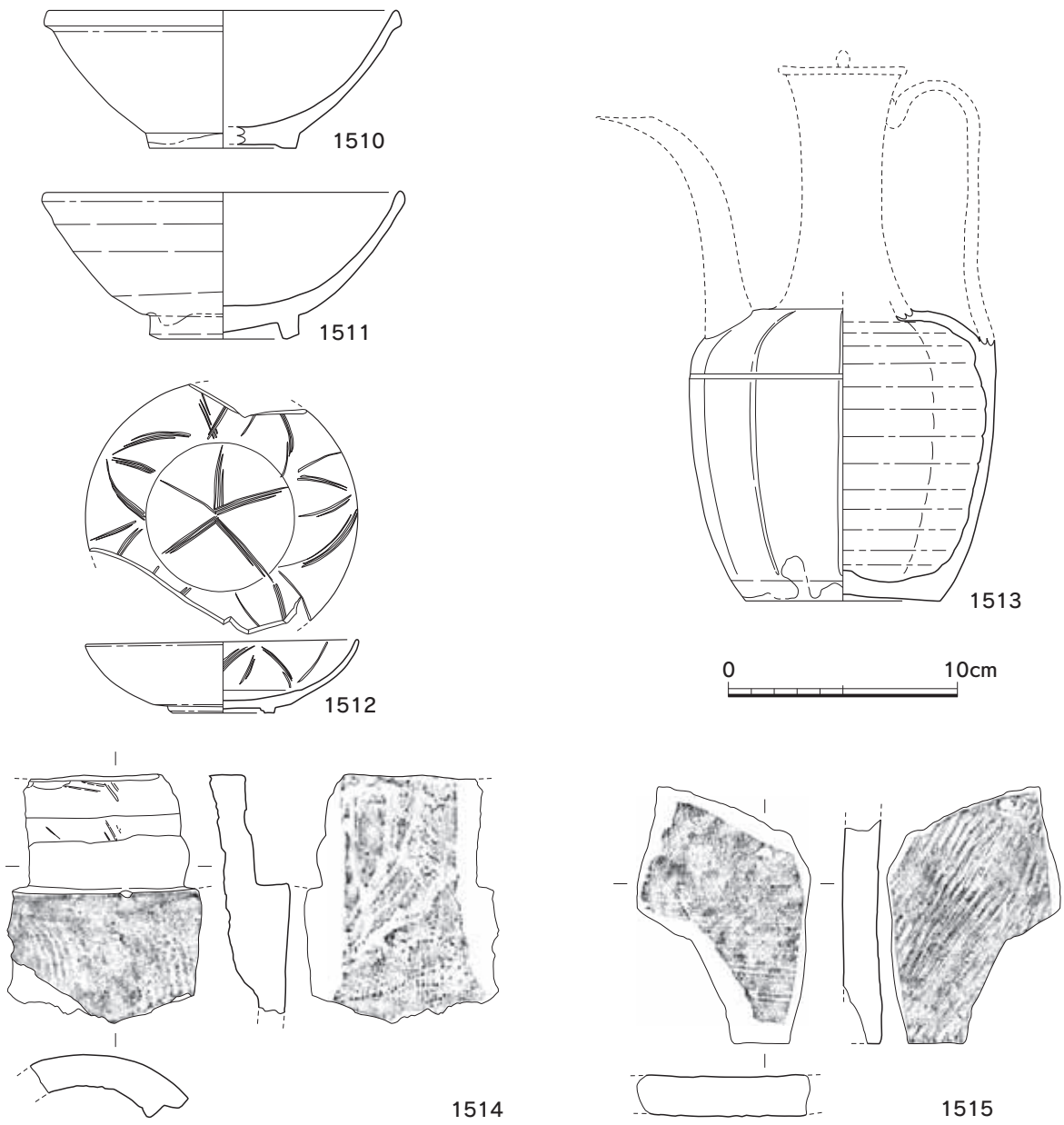
1469は小片で、内面に墨痕が見られる。1470は内外面に煤が付着する。1471・1472は高台付小皿。1471の底部はヘラ切りを行う。1473 ～ 1495は丸底杯。1491は口縁部の小片で煤が付着している。1492･1493は内面に煤が付着している。1494は体部外面に煤が著しく、口縁部側から垂れたような痕跡がある。1495は口縁部内外面に煤が付着している。1496は小椀。体部内面にヘラミガキを行う。1497 ～ 1503は椀。1497 ～ 1500は丸底杯に高台をつけたような形態で



第132図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図②（1／3）



第133図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図③（1／3）

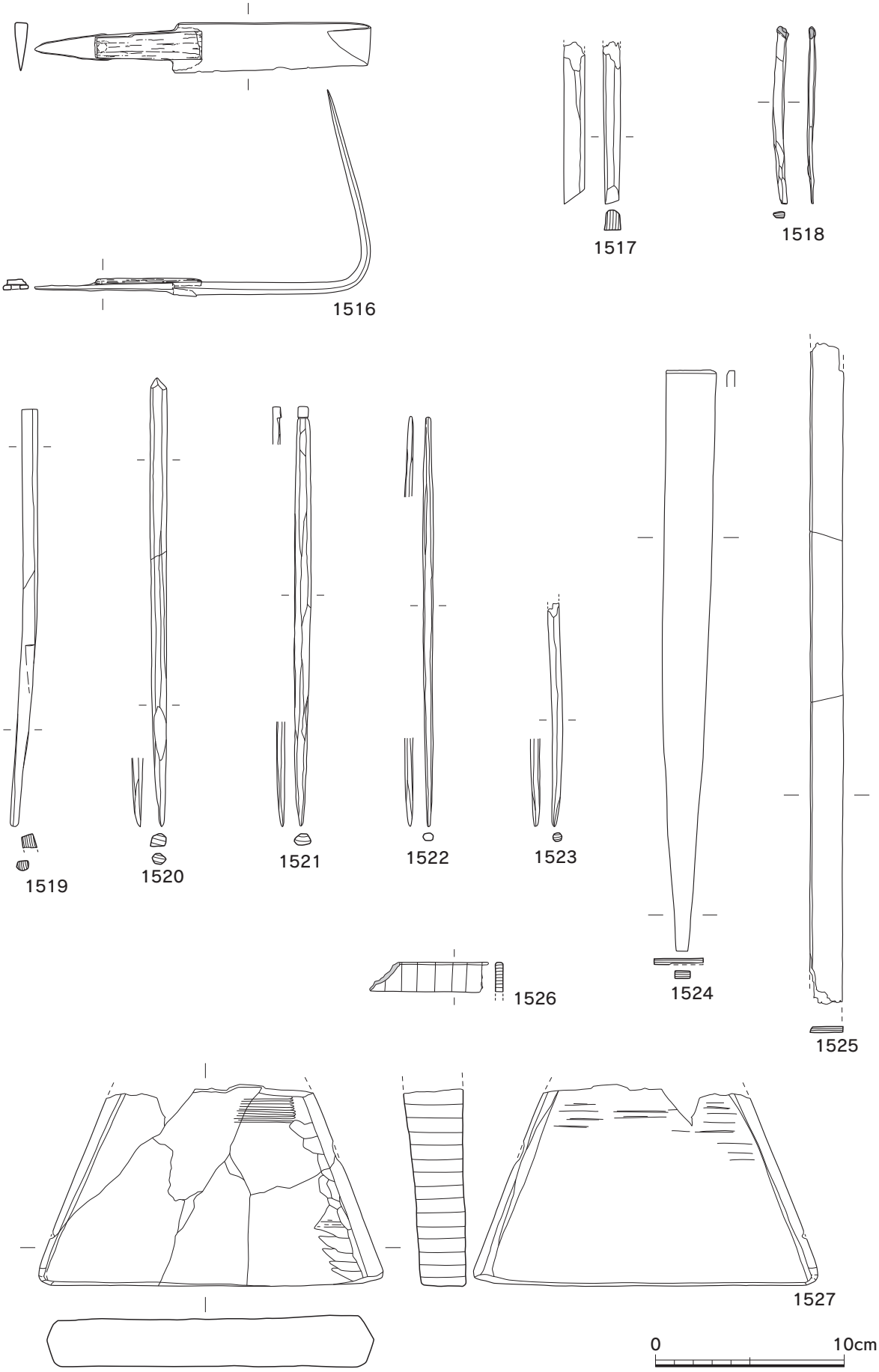


第134図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図④（1／3）

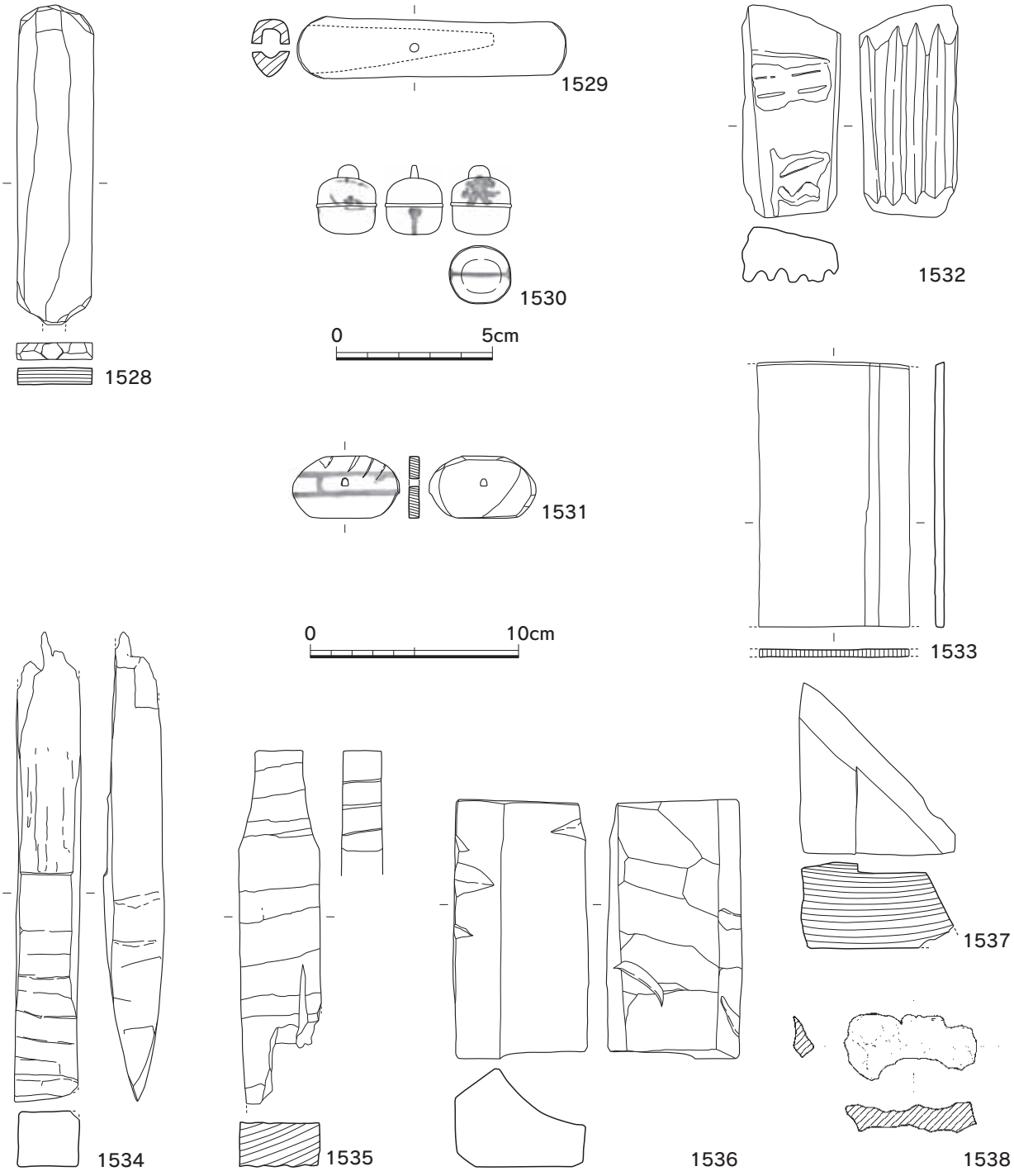
浅い。高台はハの字形を呈する。1501 ～ 1503は高台は低く丸みをおびる。1501・1503は内外面、1502は内面のみにヘラミガキ。1504は残部がわずかであるため全体が判然としないが、三脚付椀か。脚部は断面四角。1505・1506は片口鉢である。1506は片口部は欠損し、わずかに残る。また底部は粘土接合部で欠損している。1507・1508は壺である。1508は頸部内面にシボリ痕･粘土接合痕がみられる。

黒色土器（1509）　A類の椀である。内外面ともに丁寧なヘラミガキを行う。高台はハの字に広がり、口縁部は外反する。

磁器（1510 ～ 1513）　1510・1511は白磁椀である。1510は肉厚な玉縁口縁をもつ。高台のケズリは浅く、わずかに段をつける程度である。太宰府分類椀Ⅳ類。1511は体部外面に回転ヘラケズリ。1512は白磁皿。内面見込みに花文状の櫛描きを施す。太宰府分類皿Ⅶ類。1513は景徳



第135図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図⑤（1／3）



第136図　7次谷部D区SK01下層出土遺物実測図⑥（1530は1／2、他は1／3）

鎮窯青白磁の瓜形水注である。頸部上部を欠損している。

瓦（1514・1515）　1514は玉縁式丸瓦。凸面は縄目タタキ、凹面は布目痕。1515は平瓦。凸面は平行タタキ、凹面は布目痕と弓切り痕がみられる。

鉄器（1516）　刀子。柄の木質が残存している。ほぼ中央部から折り曲げられる。

木製品（1517 ～ 1537）　1517・1518は先端を尖らせる。1518は先端部が炭化している。1519 ～ 1523は箸。1524は斎串か。1525は板材。1526は厚さ0.4㎝の板材に刻みを入れる。1527は下駄の歯。側面は面取りし、一側縁には鑿などの整形痕が残る。1528は題箋軸。下方を

削りによって作出するが、欠損している。1529は刀子の柄。中央部に穿孔を持つ。1530は木製の鈴。ケズリにより合わせ口を表現し、墨書により鰐口を表現する。つまみもケズリ出されており、文字かと思われる墨書も認められる。1531は周囲を削って楕円形に作り出し、中央に穿孔する。表面に墨書がみられる。1532は人面と思われる模様が刻まれる。裏面には溝を彫っている。髪を表現したものか。1533は厚さ0.3㎝程度の板である。折敷の一部か。1534は下半を手斧等で横方向に削っている。先端は2面から大きく削り、鋭利になっている。1535は上部を細く作る。1536は断面が五角形に近い形をしている。手斧などで表面を削った痕がのこる。1537は低い段を作出する。

鉄製品（1538） 不明製品。赤錆が大部分を占める。強い着磁がみられる。（大里）

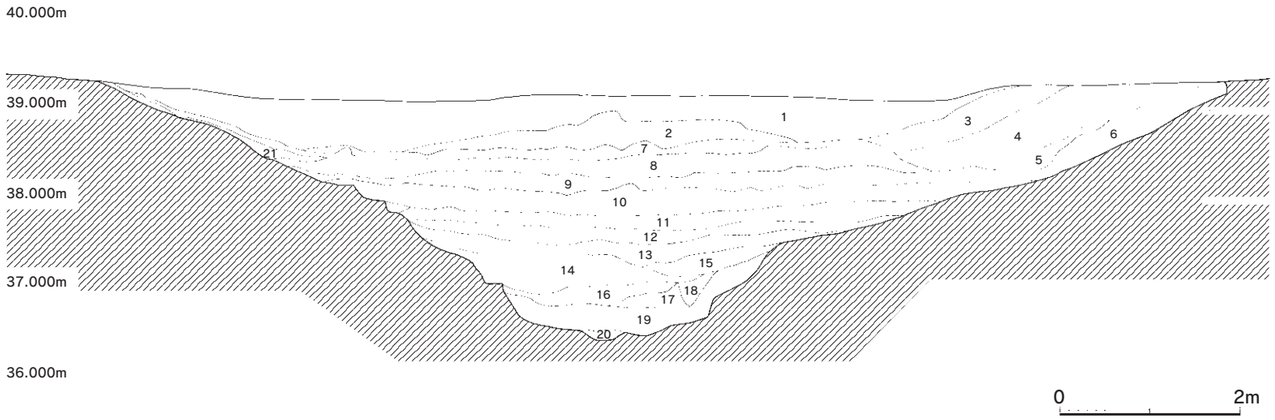
谷部Ｅ区

谷部Ｅ区は、Ｄ区で認められた谷の合流部から続く。谷底部はＤ区と同じくやや広いが、谷部斜面の傾斜角度は急になっている。調査開始時はここが谷となることは想定できず、１層とした黄褐色土が認められた。Ａ～Ｄ区の掘り下げの結果、谷部の存在を確認し、表土剥ぎをおこなった。表土剥ぎは重機でおこない、１層とした黄褐色土までを除去した。その後は手掘りで掘り下げをおこなっている。１層とした黄褐色土は、Ａ～Ｄ区と比べて非常に厚く堆積していた。また、Ａ～Ｄ区で顕著に認められた２層とした粘質土がＥ区東側で実測した土層（Ｅ・Ｆ間ベルト土層図）では確認できなくなる。地元の人によれば、第２次大戦末期に本土防衛のためにこの地に陣地構築をおこなっていた陸軍が谷を埋めたという。たしかに、調査区の南側斜面では、完掘していないが野添遺跡６次調査で確認された洞穴壕と同じ平面プラン・掘り方のものが確認され、壕の掘削にともなう土砂の廃棄場を考えると厚く堆積する１層黄褐色土の一部はそうした埋土と考えられ、Ｅ・Ｆ間土層の１層がこれに該当しよう。したがって、これ以下が本来の谷の堆積層と考えられる。しかし、安定した堆積状況を示した２層粘質土が確認されないことは、ここがＡ～Ｄ区２層堆積時にはくぼみ状ではなく水が流れ下るような状況であったことを示すと考えられる。合わせて鍵層を失ったことで、Ｅ区およびＦ区ではＡ～Ｄ区と同じ基準での取り上げが難しかった。一方で、下層の堆積土には流滞水の激しい層が確認され、これが4層以下にあたる。須恵器窯の灰層はほとんど確認されないが、便宜的に最下層を５層とした。以上から、Ｅ区遺物は１～５層に分けて報告をするが、１層には後世の埋土の遺物が混じり、２・３層はやや便宜的である。出土遺物は、須恵器・土師器のほか、鉄滓を含むが、１層中には新しい遺物をふくみ、注意が必要である。（石木）

須恵器（1539） 壺の把手。側面はヘラ切りをし、上方に穿孔する。

土師器（1540～1552） 1540～1542は小皿。1541は灯明具で、内面に油煙が付着している。1542は回転糸切りを行う。1543・1544は丸底杯。いずれも体部に稜がみられる。1545は鉢の底部。底径は18.2㎝を測る。1546は三脚付鉢。内外面ともに指頭圧痕がみられる。1547は底径18.7㎝と大型で、高台は底部端につく。底部は平らである。1548は支脚。1549は器台の裾部。1550は底部となる土台に体部を貼り付けている。底端部は器壁が厚くなっている。1551は小型の壺であるが、歪みがみられる。1552は甕。体部内面に細いハケメが部分的に残り、口縁部は外反する。

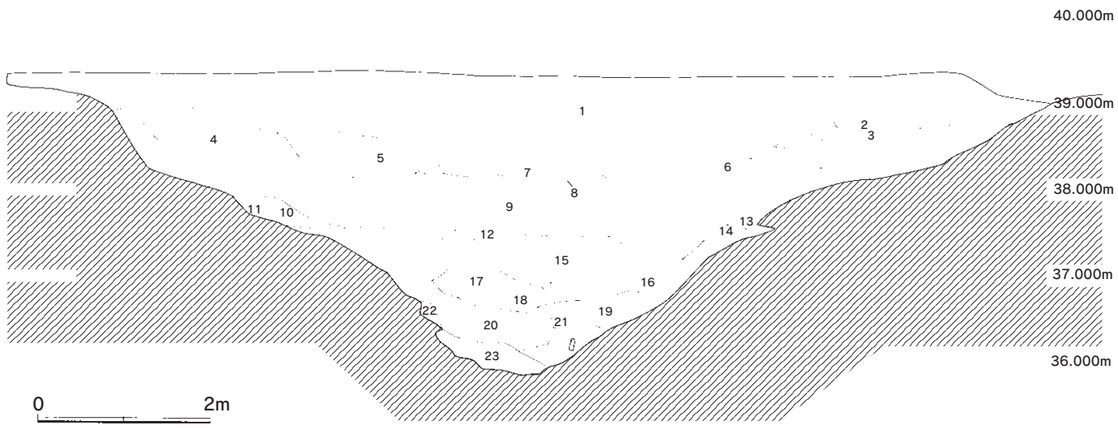
D・E間



D・E間

1.浅黄橙色土10YR8/3　流土か、兵隊のうめた土（伊藤　九州男談）
2.灰色土5Y6/1　粘質土。粗砂を多く含む。
3.灰白色土10YR7/1　粘質土。にぶい黄橙色土10YR7/3　砂質土を含む。土器多い。
4.にぶい黄橙色土10YR7/3　砂質土。筋状に流れこんだ様であるが間層を含まず。
5.褐灰色土10YR6/1　粘質土。にぶい黄橙色土10YR7/3　砂質土をブロック状に含む。
6.灰黄褐色土10YR5/2　粘質土。
7.明青灰色土10BG7/1　粘質土。マンガン粒多い。水田の床土などか？
8.黒色土10YR2/1　粘質土。マンガン粒を含む。
9.黒褐色土10YR3/1　粘質土。粘性高く下層は腐植土化。
10.黄灰色土2.5Y4/1　砂質が強い。握るとやや感じのちがう土。
11.黄灰色土2.5Y4/1　炭をわずかに含む粘質土。
12.黄灰色土2.5Y6/1　炭はわずかに含まれる。
13.褐灰色土10YR4/1　粘質土。明オリーブ灰色土2.5GY7/1　粗砂を樹枝状に含む。
14.明オリーブ灰色土2.5GY7/1　粗砂。褐灰色土10YR5/1をブロック状に含む。
15.黄灰色土2.5Y6/1　明緑灰色土10GY7/1　粘質土をブロックで含む。
16.黄灰色土2.5Y6/1　明緑灰色土10GY7/1　粘質土を帯状に含む。炭を少量含む。
17.褐灰色土10YR5/1　粗砂。一部わずかに粘質土（褐灰色10YR4/1）を含み、炭を少量含む。
18.黒色土10YR1.7/1　粘質土。
19.灰白色土N7/　粗砂＋灰色土N4/　粘質土＋灰黄色土2.5Y7/2　粗砂が筋状に堆積、流、滞水の跡で土層に灰色土N4/が多いが分層が容易ではない。粘質土中には炭を少量含む。
20.灰色土N6/　粗砂のみで構成。流水による堆積。
21.灰黄褐色土10YR6/2　砂質土。

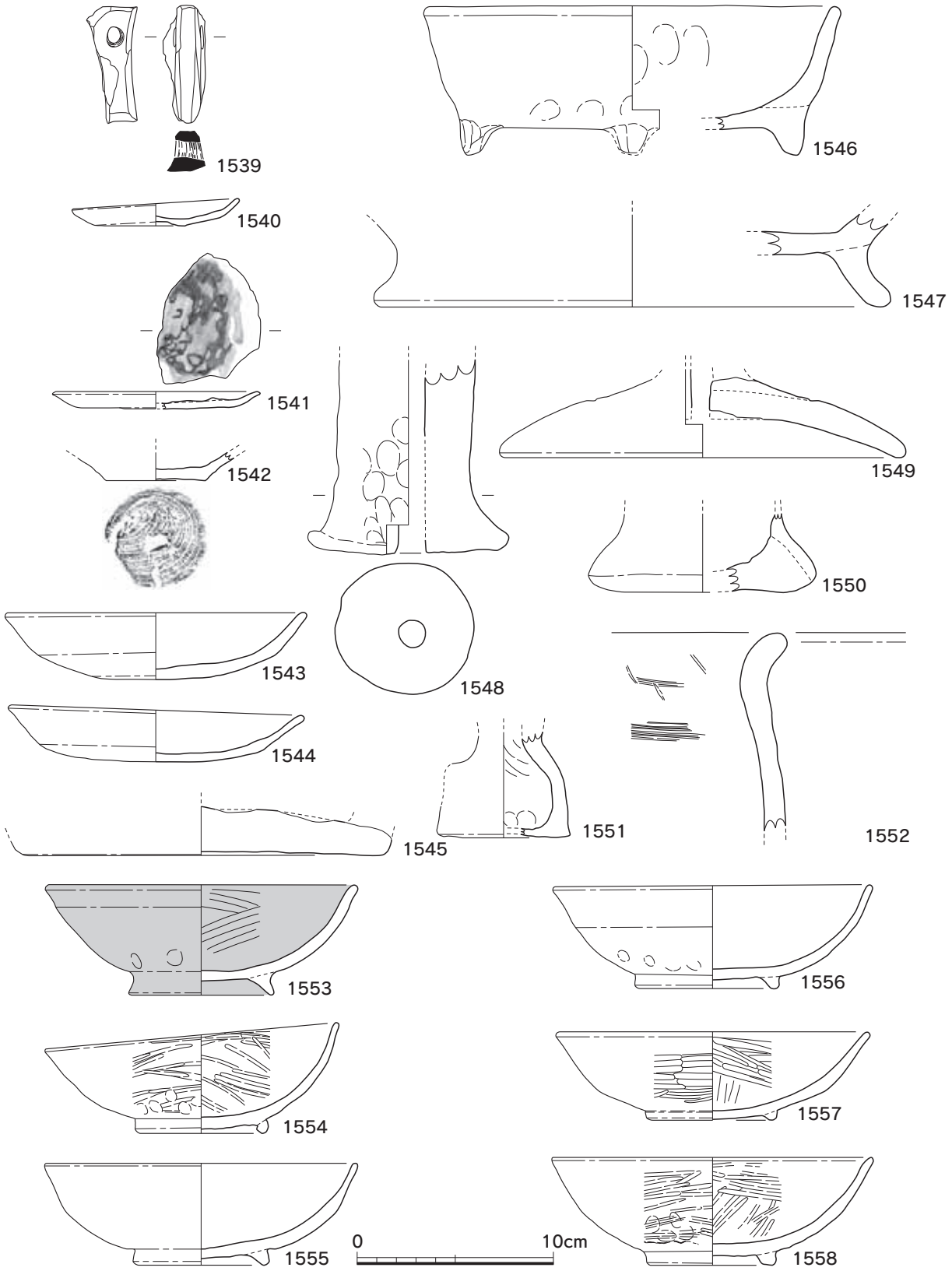
E・F間



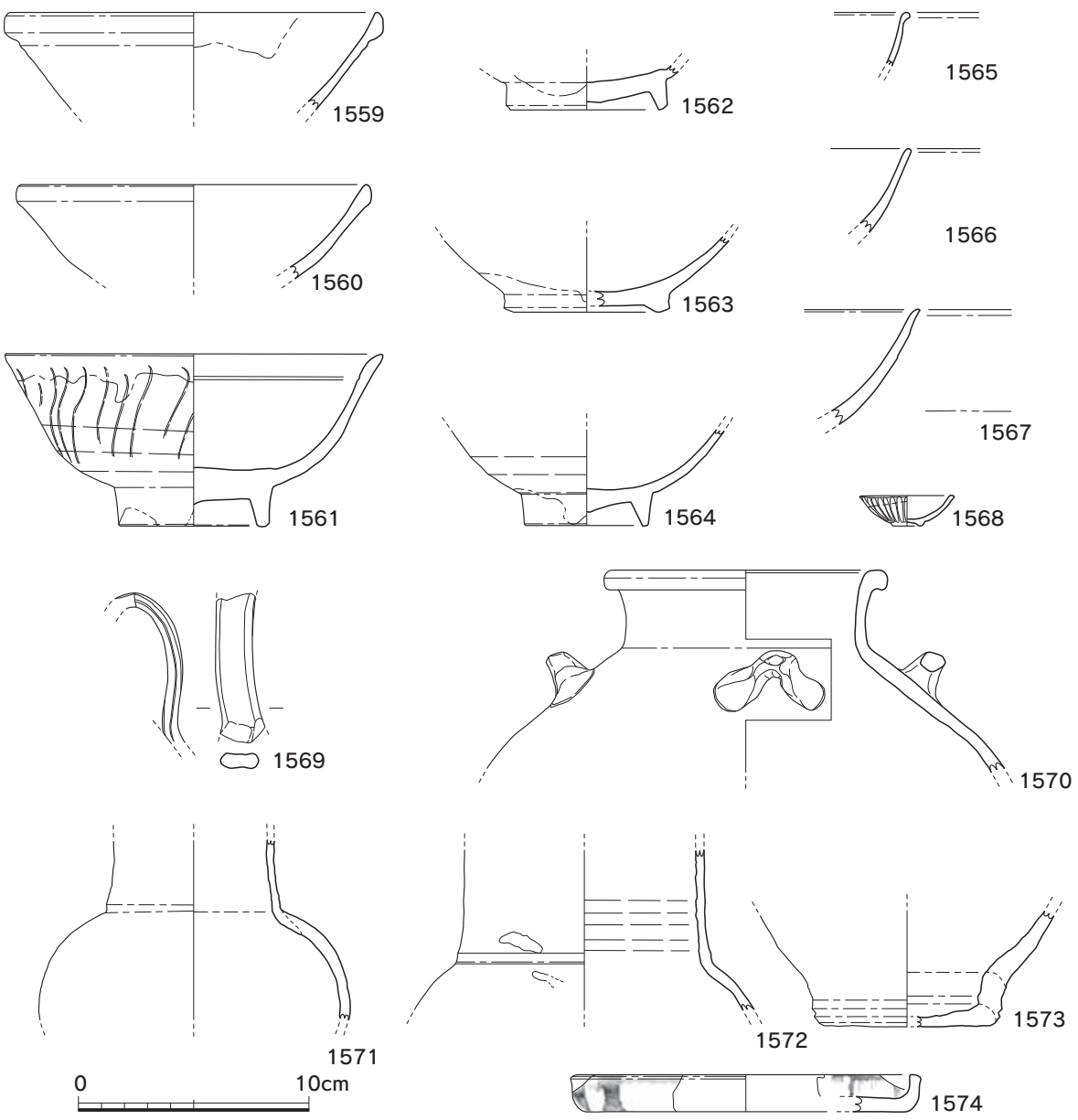
E・F間

1.灰黄褐色土10YR6/2　しまりありかたい。2・3を含み、これは間層となる。陸軍の埋土か？
2.淡橙色土5YR8/3　バイラン土（マサ土）　水平堆積の訳は陸軍の埋土か？
3.灰黄褐色土10YR6/2　2のバイラン土を含む。
4.黄橙色土7.5YR7/8　しまりありかたい。上面に遺構あるが、江戸か？
5.褐灰色土10YR5/1　しまりありかたい。腐植土？
6.黄橙色土7.5YR7/8　しまりありかたい。
7.褐灰色土10YR6/1～にぶい黄橙色土10YR6/3
8.にぶい黄橙色土10YR7/3　粘質土。
9.黄灰色土2.5Y6/1　炭を少量含み、マンガンの沈着あり（樹状）。
10.暗灰黄色土2.5Y5/2　炭を少量含む。
11.灰白色土2.5Y8/2　粘質土。
12.褐灰色土10YR6/1　粘質土。マンガン沈着あり。炭わずかに含む。
13.浅黄橙色土10YR8/4　粘質土。マンガン沈着あり。
14.灰白色土10YR7/1　石。
15.灰白色土2.5Y7/1　炭をわずかに含み、マンガン沈着あり。
16.黒色土2.5Y2/1　粘質土。
17.灰色土N5/　粘質土、灰色粘土を含む。
18.灰黄褐色土10YR6/2　粘質土。
19.黒色土7.5Y2/1　粘質土。褐色砂質土を筋状に含む。
20.灰色土5Y6/1　22をブロック状に含む。
21.灰黄色土2.5Y6/2　砂質土。
22.明青灰色土10BG7/1　しまりありかたい。地山が流れブロック状になったのか？
23.褐灰色土10YR5/1　砂質土。黄灰色粘質土2.5Y5/1を含む。流堆水。

第137図　7次谷部D・E間、E・F間ベルト土層実測図（1／70）



第138図　7次谷部E区1層出土遺物実測図①（1／3）



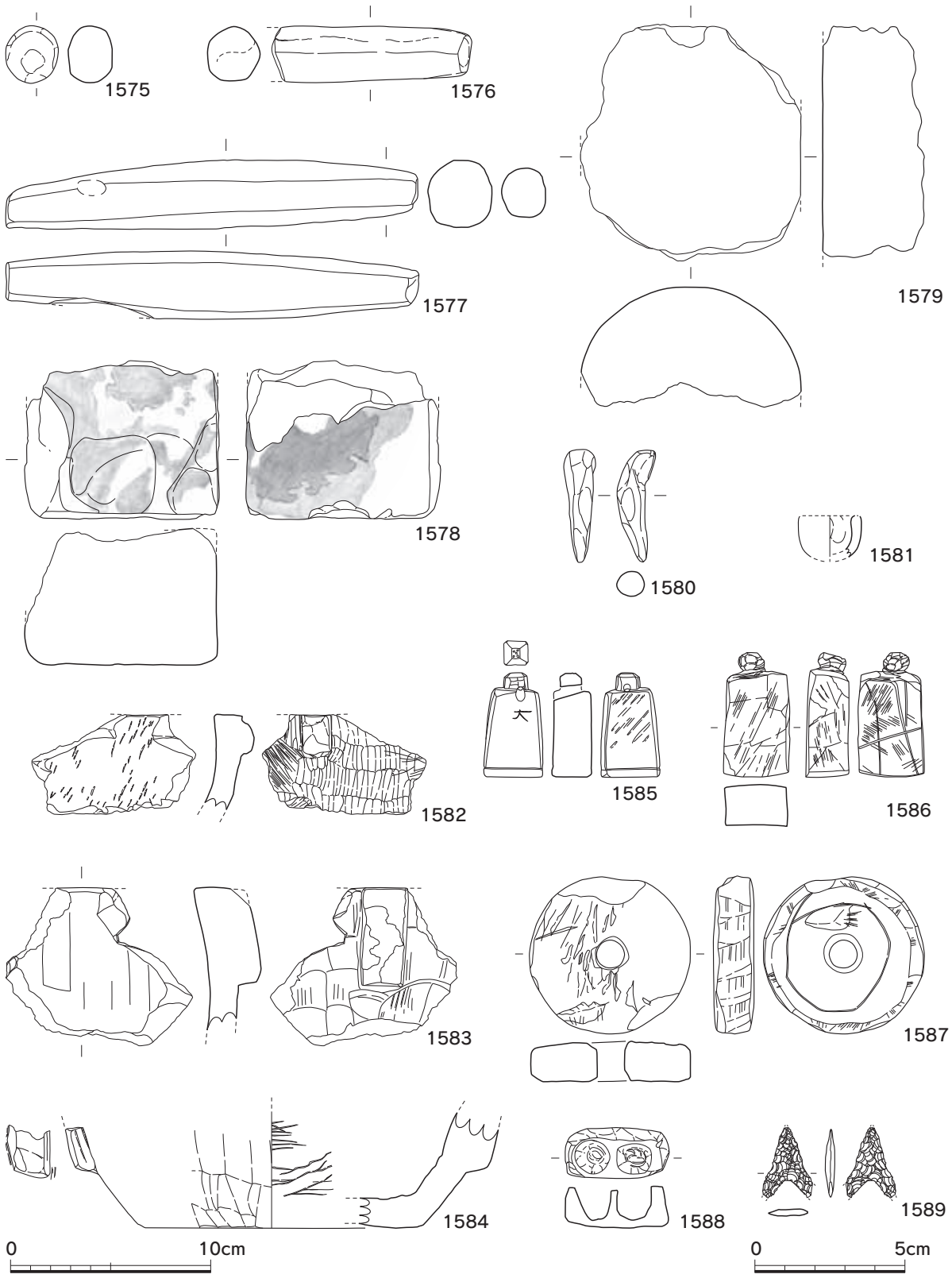
第139図　7次谷部E区1層出土遺物実測図②（1／3）

黒色土器（1553）　B類の椀。内面は口縁部から体部にかけて幅の広いヘラミガキを施している。

瓦器（1554 ～ 1558）　いずれも高台は低い。1554・1557・1558は内外面にヘラミガキを施す。

磁器（1559 ～ 1574）　1559 ～ 1567は白磁椀。1559は肉厚な玉縁口縁をもつ。1559・1560は太宰府分類椀Ⅳ類。1561は体部外面に箆書き縦線がめぐる。太宰府分類椀Ⅴ類か。高台は高く直立し、底部は厚い。1563は高台低く削りだす。1564は高台が高く直立し、断面が三角形である。1565 ～ 1567は口縁部小片で、1565は口縁を小さく外反する。1568は紅皿で、細い蓮弁が全体に施される。

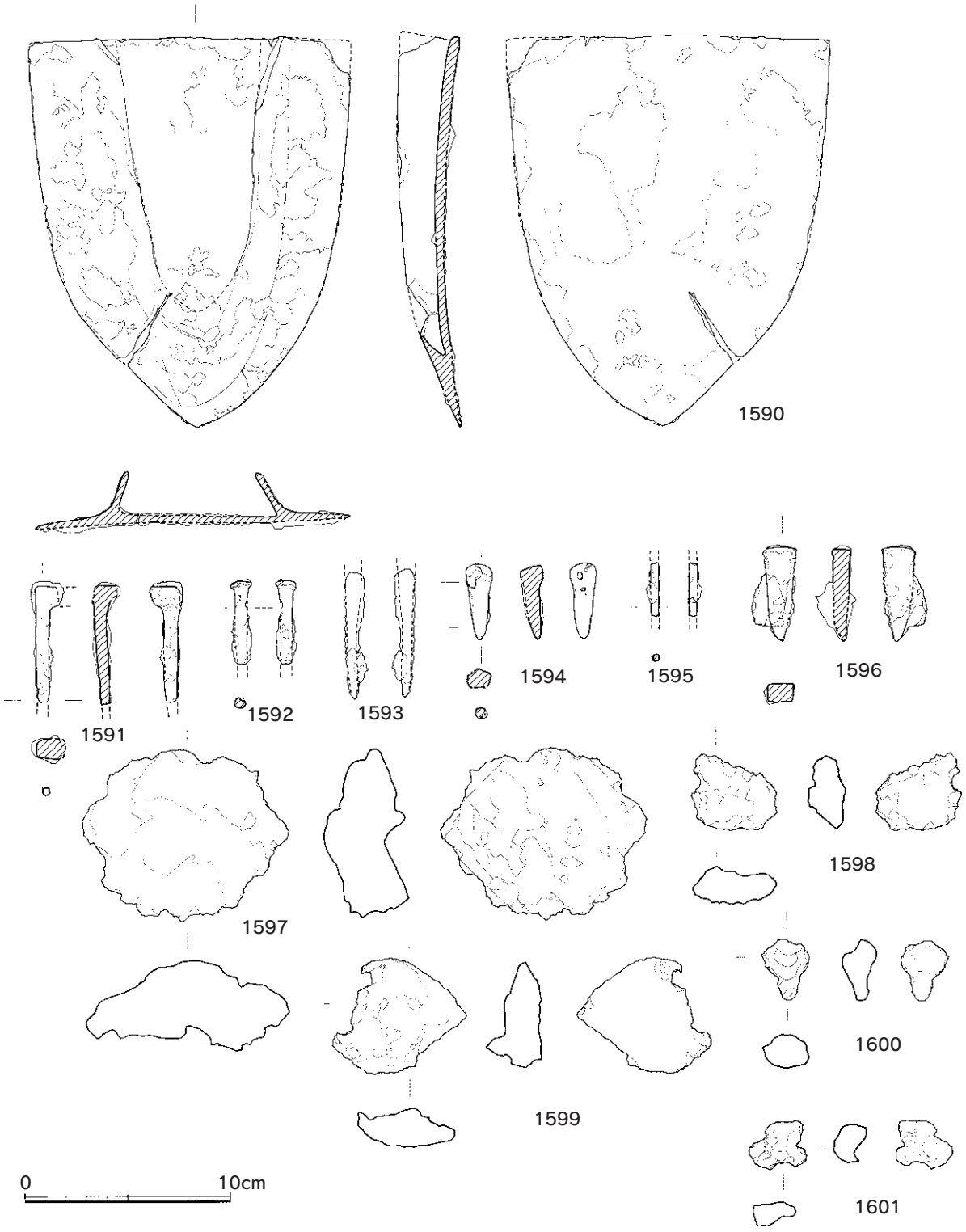
陶器（1569 ～ 1574）　1569は水注の把手。1570は耳壺。太宰府分類壺Ⅳ－１類。口縁部は折り曲げて玉縁状にする。1571 ～ 1573は中国産耳壺。無釉。太宰府分類Ⅸ類に近い。1571 は体部が丸く、頸部はまっすぐ伸びる。1572は肩に張りがない。1574は皿。体部は浅く立ち上がり、



第140図　7次谷部E区1層出土遺物実測図③（1589は1／2、他は1／3）

口唇部は平らである。

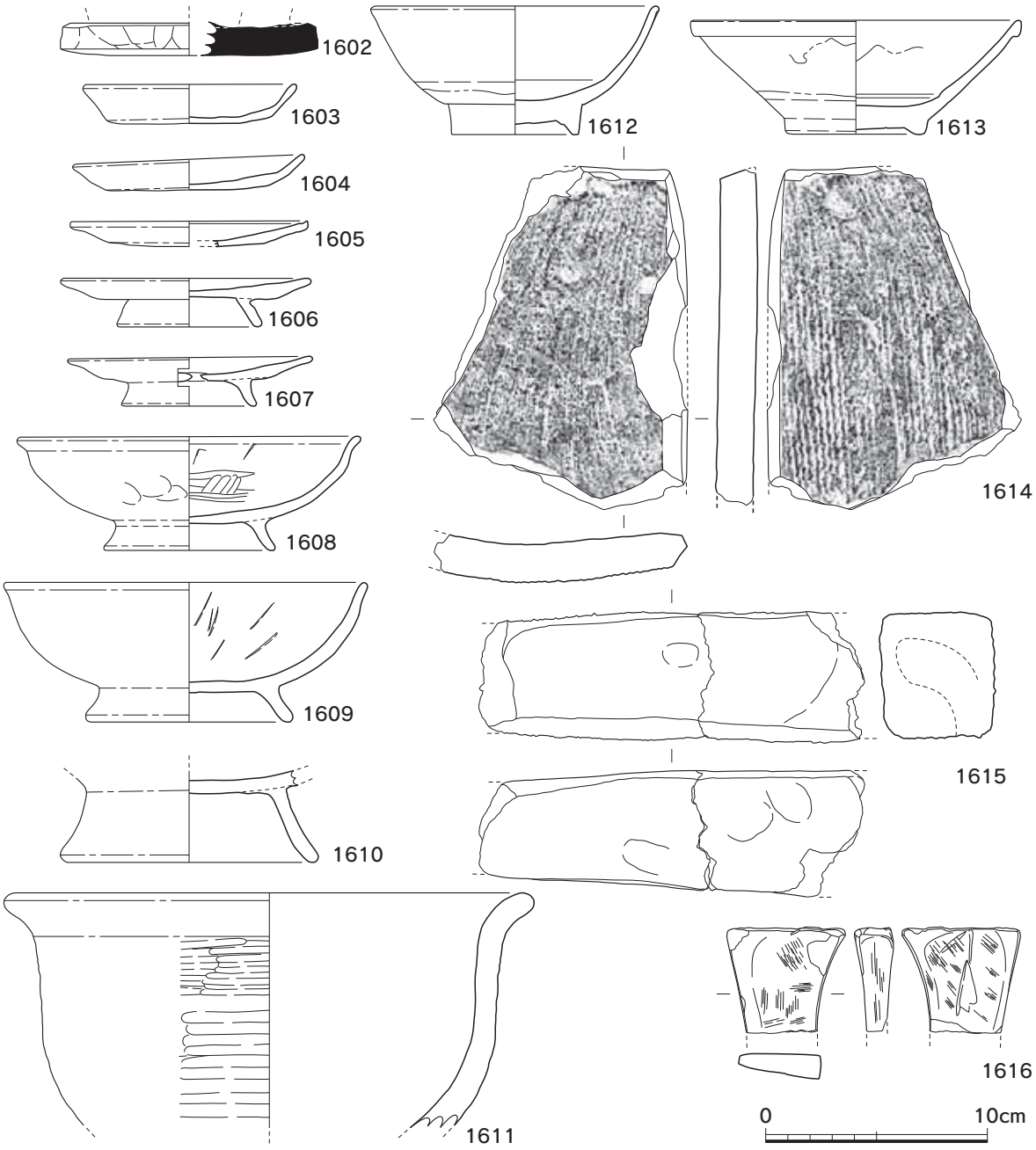
土製品（1575～1581）　1575は瓦玉。削りで整形し、穿孔する。摩滅が著しい。1576・1577は棒状製品。1578・1579は用途不明品。1578は塼のように方形で、煤が付着している。1580は土師質で、脚部か把手と思われるが、判然としない。1581は手づくね土器。



第141図　7次谷部E区1層出土遺物実測図④（1／3）

石製品（1582～1589）　1582～1588は滑石製品。1582～1584は石鍋。1582・1583は口縁部片である。1582は縦方向の細かい鑿痕がみられる。1584は鍔から底部が残る。いずれも縦耳をもつ。1585・1586は権。1585は表面に「大」と刻まれる。つまみは方形で丁寧に作り出され、付根部分に小孔が穿たれる。1586は丸いつまみを作り出している。1587は紡錘車。1588は臼。方形状の台に径約1㎝の孔を連結している。1589は黒曜石製石鏃。凹基式。

鉄器（1590～1596）　1590は鋤先。刃部にゆがみがあり、僅かに反っている。1591～1595は鉄釘。1591は頭部は折り曲げられ、1592の頭頂部は平坦である。1594は楔状鉄製品。頂部が



第142図　7次谷部E区2層出土遺物実測図①（1／3）

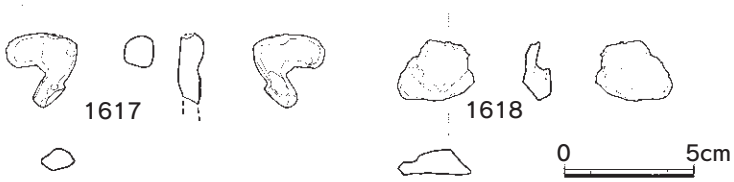
やや押しつぶされている。

鉄滓（1597 ～ 1601）　1597は炭が僅かに付着する。すべて着磁がみられるが、1597・1599は僅かである。1598・1599は炉底滓である。

谷部E区2層出土遺物（第142・143図・図版88）

須恵器（1602）　すり鉢の底部である。側面はヘラケズリを行う。

土師器（1603 ～ 1611）　1603 ～ 1605は小皿。1605は外反し、口縁部内面で小さな段を持ち、「て」の字状口縁に近い。1606・1607は高台付小皿。いずれも高台がハの字に広がる。1607は底部に穿孔する。1608 ～ 1610は椀。1608は口縁部が外反し、体部内面にヘラミガキを施す。1611は鉢。体部外面ヘラミガキを行うが、上部と下部ではヘラの幅が異なる。



第143図　7次谷部E区2層出土遺物実測図②（1 ／ 3）

磁器（1612・1613） 白磁椀。1612は高台が直立し、内側は斜めに削りだす。口縁は直口縁である。1613は肉厚な玉縁口縁をもち、内面見込みに一条の沈線がみられる。底部は厚く、太宰府分類椀Ⅳ類と思われる。

瓦（1614） 平瓦。凹面は布目痕、凸面は縄目タタキを行う。

土製品（1615） 棒状土製品である。成形時の粘土巻きつけ痕が断面に残る。

石製品（1616） 砂岩製砥石である。4面使用している。

鉄滓（1617･1618） 1617は一部破断している。また、炭化物の付着がみられる。1618は一部欠損する。いずれも着磁は認められない。

谷部E区3層出土遺物（第144 ～ 146図・図版89）

須恵器（1619 ～ 1642） 1619・1620は杯Ｂ蓋。扁平なつまみを持ち、口縁部の折り曲げは小さい。1621 ～ 1628は杯Ｂ身。すべて高台が低く、底端部につく。1627は底部外面に墨書がみられるが、不明瞭である。1628は内外面に煤が付着する。1629 ～ 1633は皿。1629は口縁部が外反する。1633は高台付皿で、高台は底部端につく。体部は外方に伸びる。1634 ～ 1636は高杯。1634は杯部に2条の沈線があり、下部に回転ヘラケズリを行う。脚部は2条の沈線があり、これより上部にカキメが施される。1635は杯部の体部はまっすぐ立ち上がり、口唇部が平らである。焼き歪んでいる。1636は裾端部が短く立ち上がる。1637・1638は短頸壺蓋。擬宝珠つまみを持ち、口唇部は平ら。1638は天井部がやや凹む。1639は短頸壺。口縁部は外に広がるように立ち上がる。1640は壺。口縁部は直立し、口唇部は平らである。体部最大径は上位にある。1641は水瓶。口縁部は屈曲し、つまみ上げている。1642は甕。頸部内外面にヘラ記号を施す。外面に擬格子タキ後カキメ、内面に同心円文当て具痕がつく。

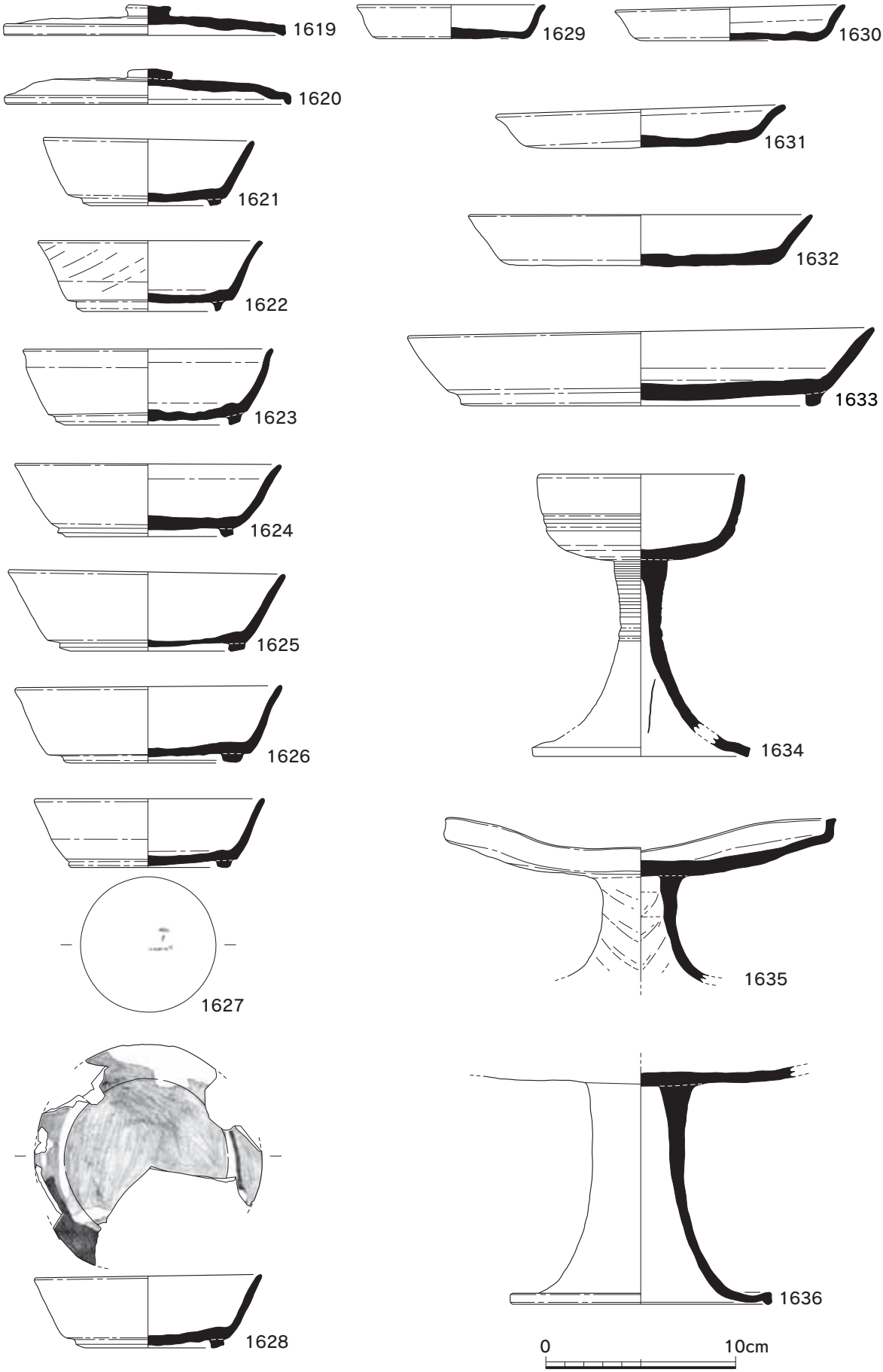
瓦（1643・1644） どちらも平瓦。1643は凸面に平行タタキを行い、凹面は糸切り痕がみられる。1644は凸面に縄目タタキ、凹面に布目痕がついている。

土製品（1645 ～ 1647） 1645は土鈴で、鈴部は欠損している。1646は棒状土製品で、ナデを行う。粘土の巻きつけ痕が残る。1647は鞴羽口である。

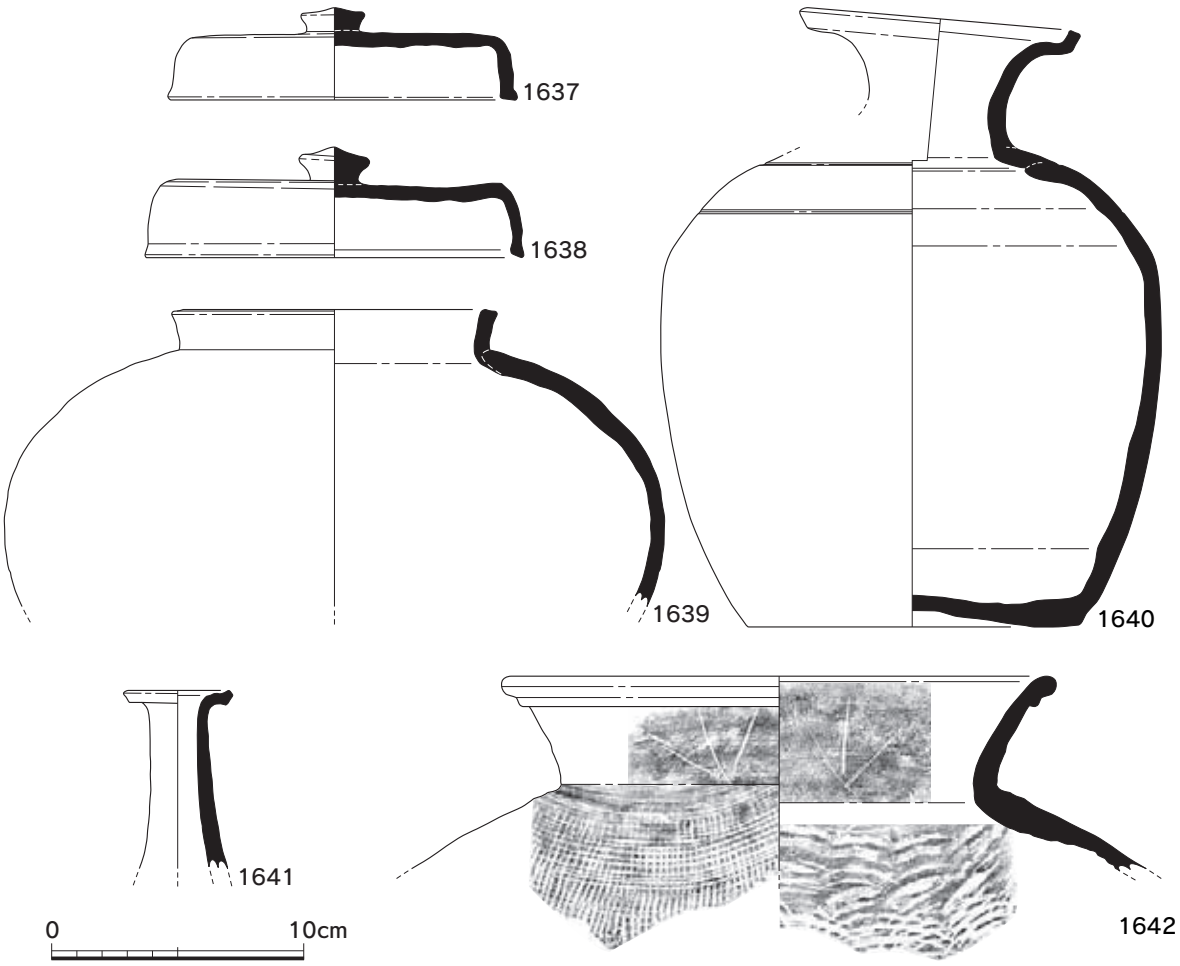
石製品（1648･1649） どちらも砥石。1648は１面欠損しているが、残部の３面は使用している。1649は2面使用する。

谷部E区4層出土遺物（第147 ～ 149図・図版89 ～ 91）

須恵器（1650 ～ 1669） 1650 ～ 1653は杯Ｂ蓋。1652はつまみが中心からずれる。1653は転用硯で、外面一部と内面に墨痕が残る。1654 ～ 1657は杯身。1654・1655は杯Ｈ身。いずれも底部外面回転ヘラケズリを行い、外面にヘラ記号を施す。1656・1657は杯Ｂ身。いずれ



第144図　7次谷部E区3層出土遺物実測図①（1／3）



第145図　7次谷部E区3層出土遺物実測図②（1／3）

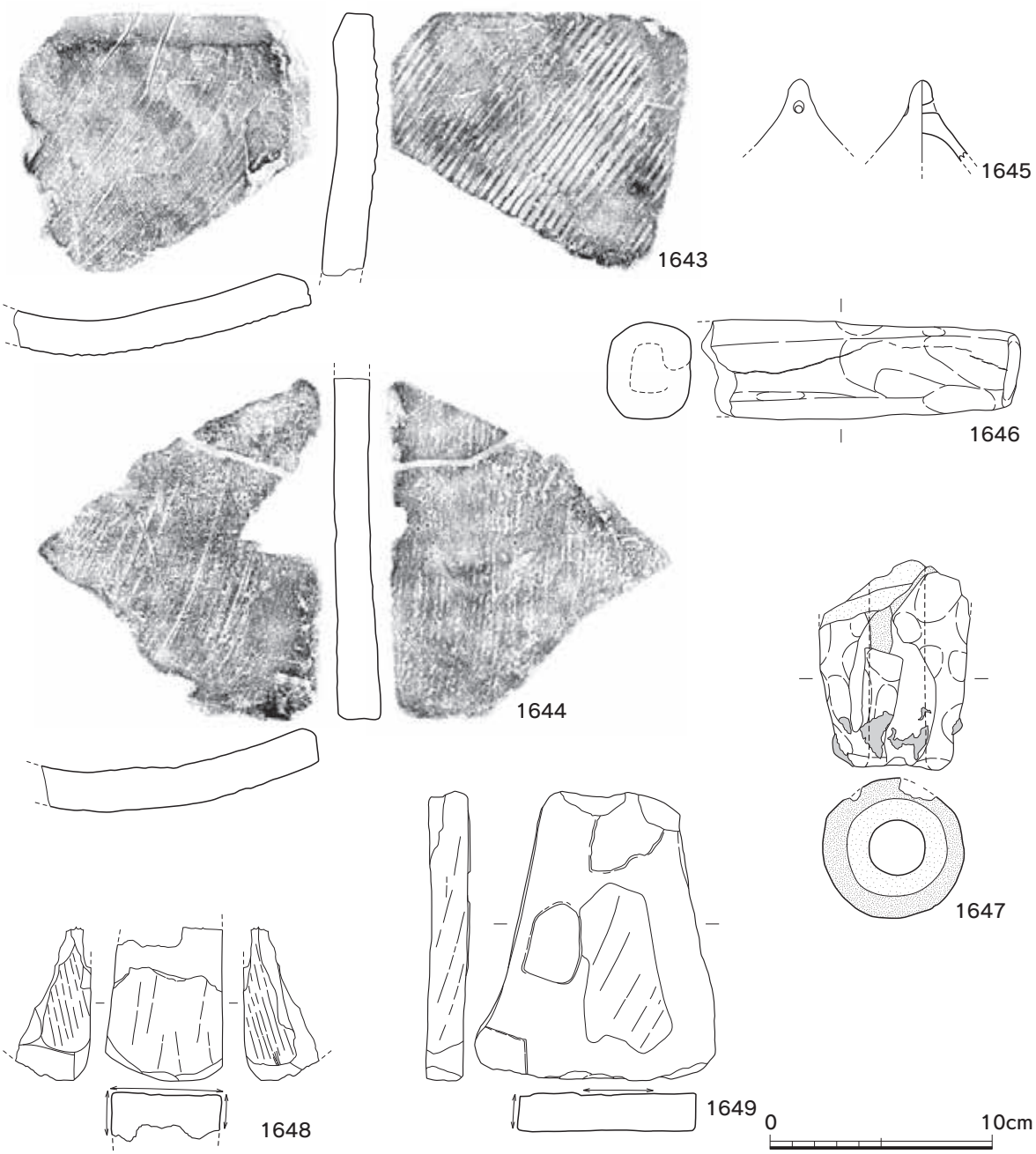
も高台は低く、底部端につく。1656は底部外面に墨書を記しているが、判読できない。1658は杯。底部と体部の境に丸みがあり、器壁が厚い。底部が平らなため杯としたが、杯Hであろうか。1659は皿。口縁部が外反する。1660は鉢。体部外面に下部から底部にかけて回転ヘラケズリを行う。1661は短頸壺蓋。天井部外面回転ヘラケズリ、ヘラ記号を施す。1662・1663は短頸壺。1662は体部最大径が上位にあり、ハの字に開く高台をもつ。1664は四耳壺。耳は体部上位および中位に段違いにつく。1665は鼈の注口か。1666は平瓶。高台は底部端につく。肩は張りがあり、体部外面中央から回転ヘラケズリを行う。1667は甕である。外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕がつく。1668は多孔式の甑。外面は平行タタキ、内面は同心円文当て具痕の後に穿孔する。1669は器台か。上部は浅く、裾は下方で広がる。

土師器（1670～1673）　1670は蓋か。口縁部は短く立ち上がる。環状のつまみをもつが身の可能性もある。1671は鉢。口縁部は内外面ともにナデ、口縁部は短く外反する。1672は甕。口縁部は短く外反する。1673は土鈴。上端のみ残存する。

瓦（1674）　平瓦である。凸面は平行タタキを行い、凹面は布目痕がつく。

土製品（1675）　紡錘車。表面が部分的に剥落する。

石製品（1676）　滑石製。合子か。底部に脚が3本みられるが、欠損している。

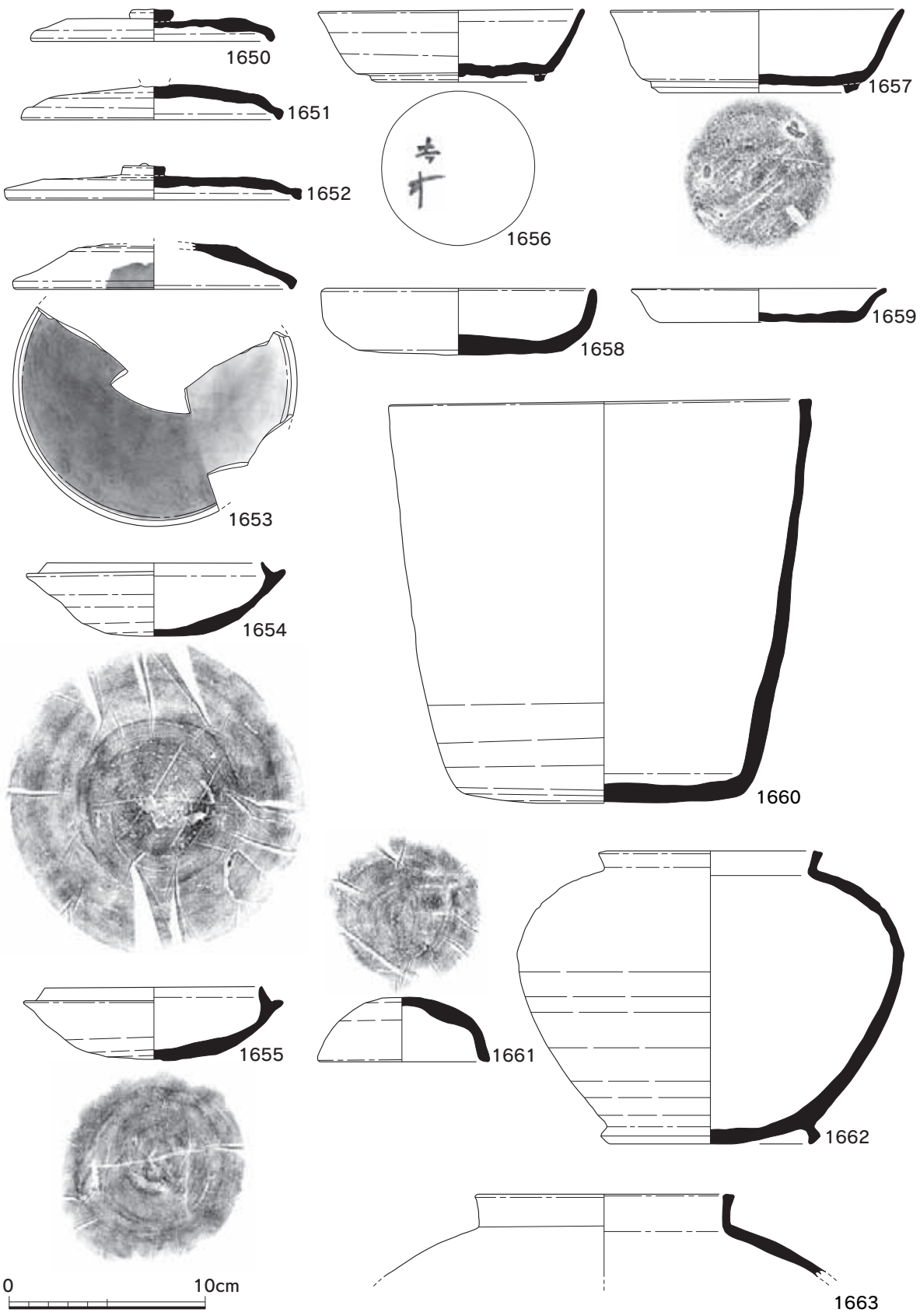


第146図　7次谷部E区3層出土遺物実測図③(1 ／ 3)

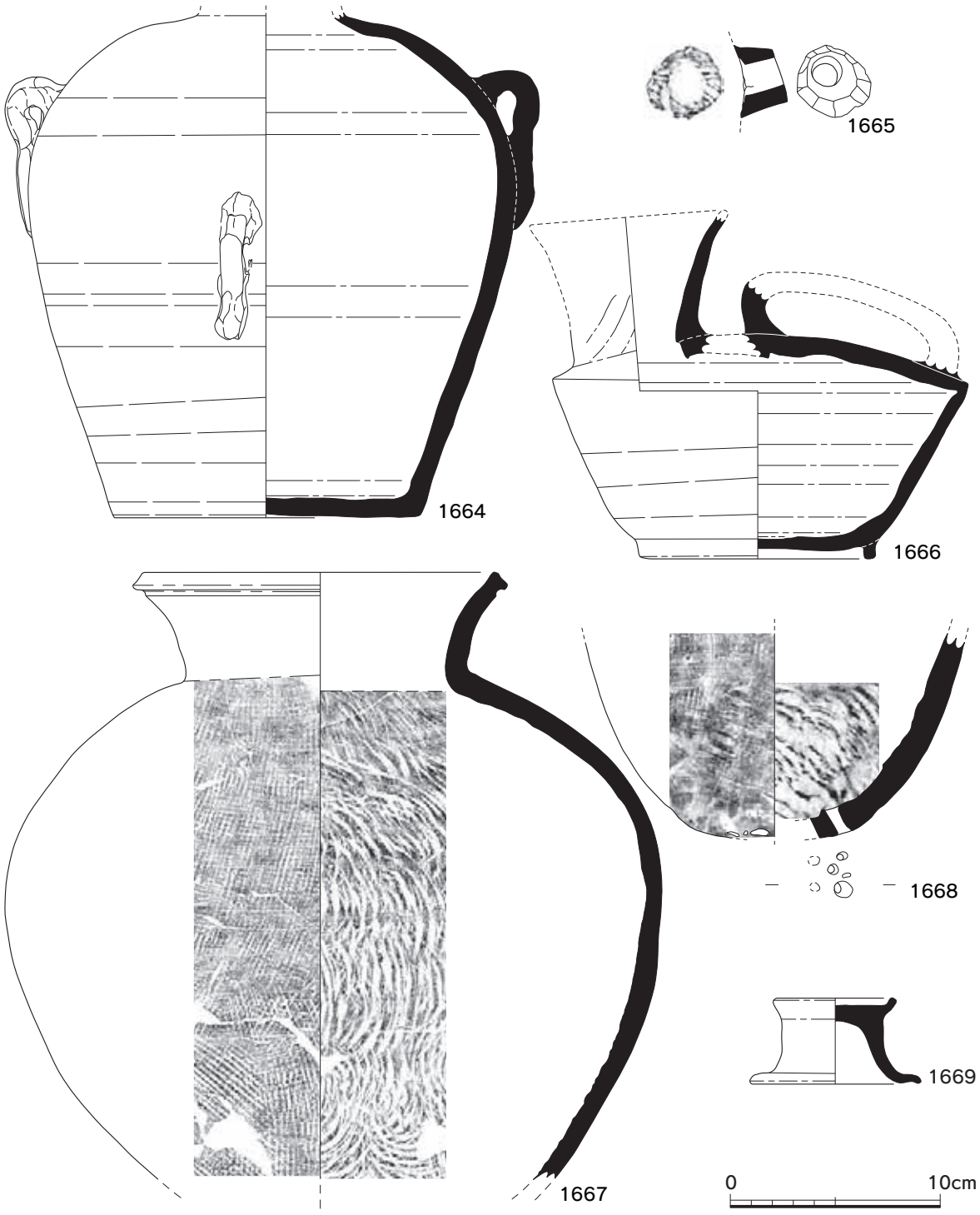
木製品（1677 ～ 1679） 1677は2つの穿孔がある板材である。1678は折敷か。表面ケズリ、一箇所穿孔を持つ。1679は一部が炭化している。用途不明。

谷部Ｅ区5層出土遺物（第150・151図・図版92）

須恵器（1680 ～ 1697） 1680・1681は杯Ｈ蓋。いずれも天井部外面にヘラ記号を施す。1682は杯G蓋か壺蓋か。かえりは長い。1683 ～ 1690は杯H身。1683・1685・1687 ～ 1690は外面底部にヘラ記を施している。1691は高杯。杯部をひっくりかえしたような杯部がつき、体部外面2条の沈線があり、この下部は回転ヘラケズリを行う。1692は平瓶。外面は頸部から下方までカキメを施し、肩部には連続刺突文を施す。底部付近は回転ヘラケズリを行う。1693は横瓶。体部は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具がつく。口縁は屈曲する。1694 ～ 1696は甕。



第147図　7次谷部E区4層出土遺物実測図①（1／3）

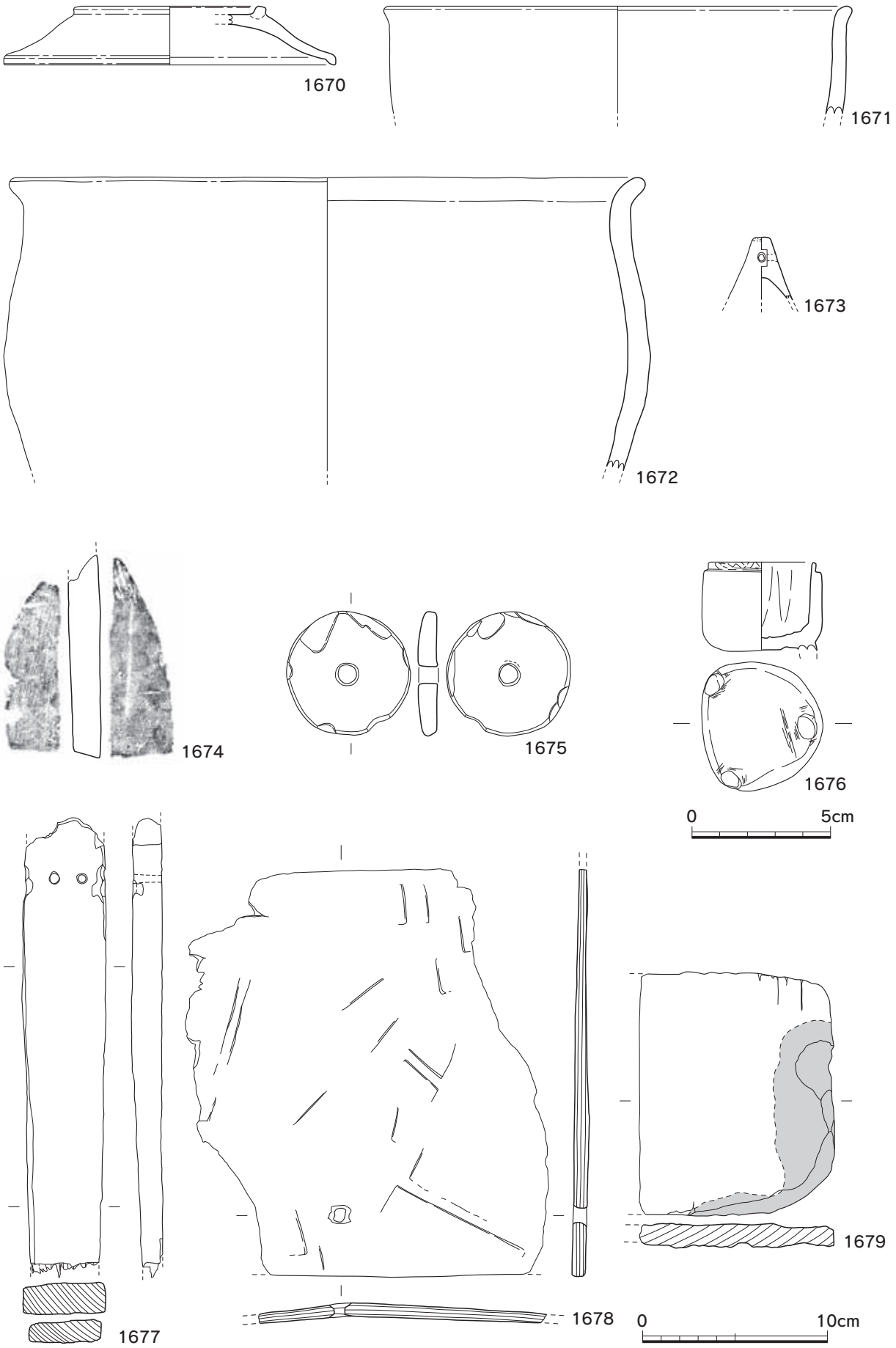


第148図　7次谷部E区4層出土遺物実測図②（1／3）

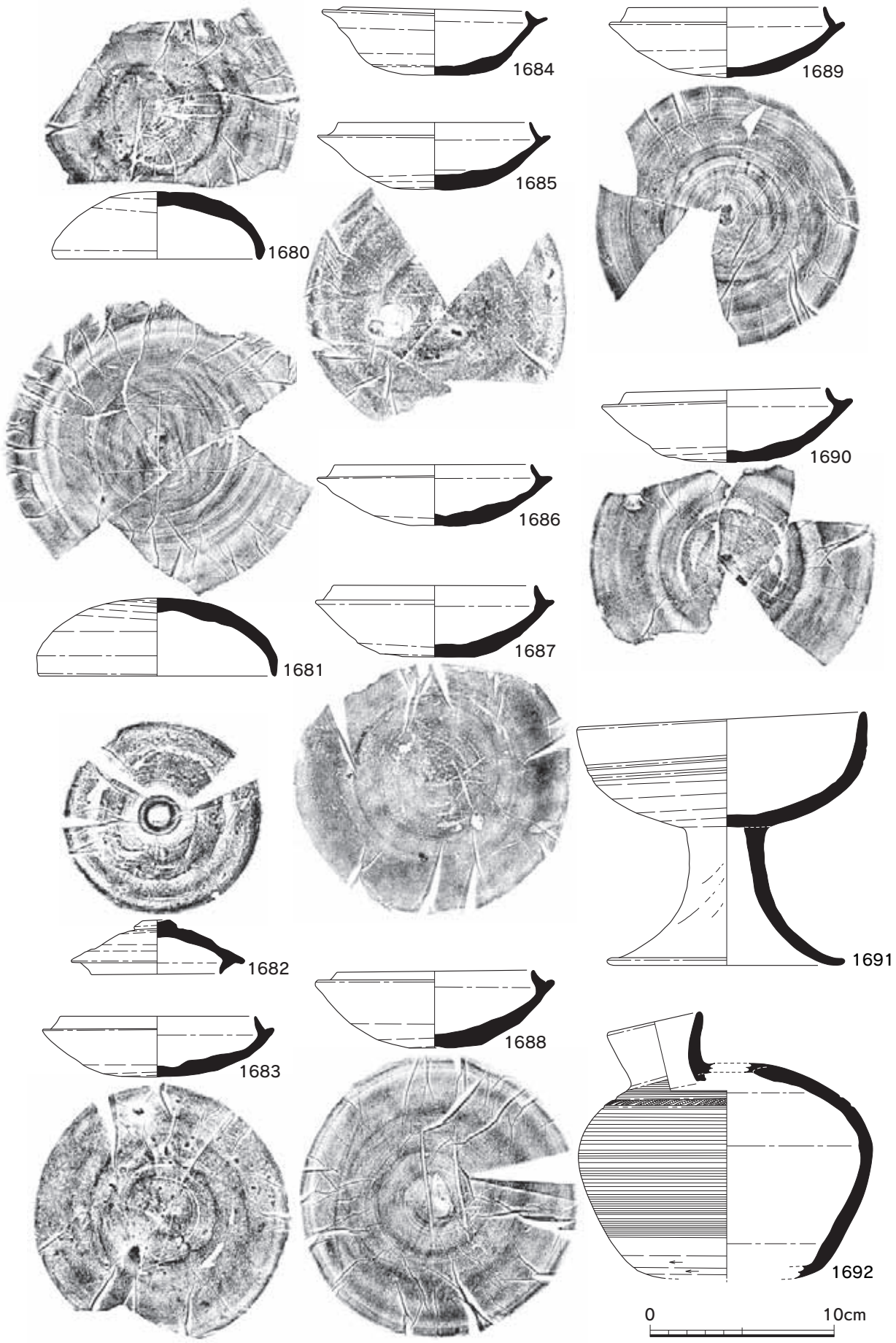
1694は頸部３カ所にヘラ記号を施す。また、体部外面は擬格子タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具がつく。口縁部は折り返して玉縁状にする。1695は口縁部に段を持ち、頸部外面はカキメ後に斜線文を施す。1696は口縁部外面下に波状文を施す。外面には擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕がつく。1697は甕作成時の切削物である。

層位不明出土遺物（第151図）

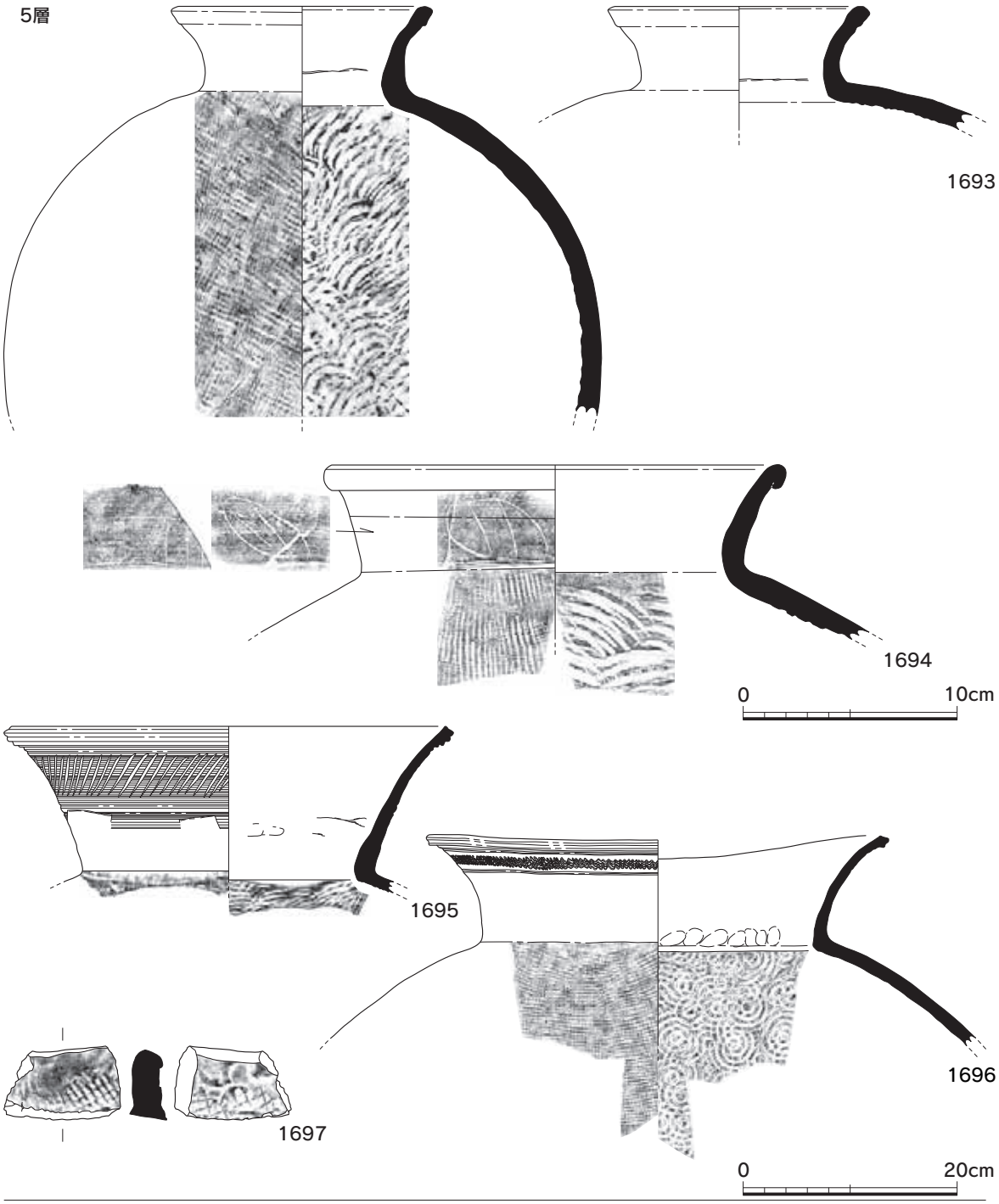
瓦（1698）　凸面は平行タタキ、凹面は布目痕がつく。側面はヘラ切り。



第149図　7次谷部E区4層出土遺物実測図③（1676は1／2、他は1／3）



第150図　7次谷部E区5層出土遺物実測図①（1／3）

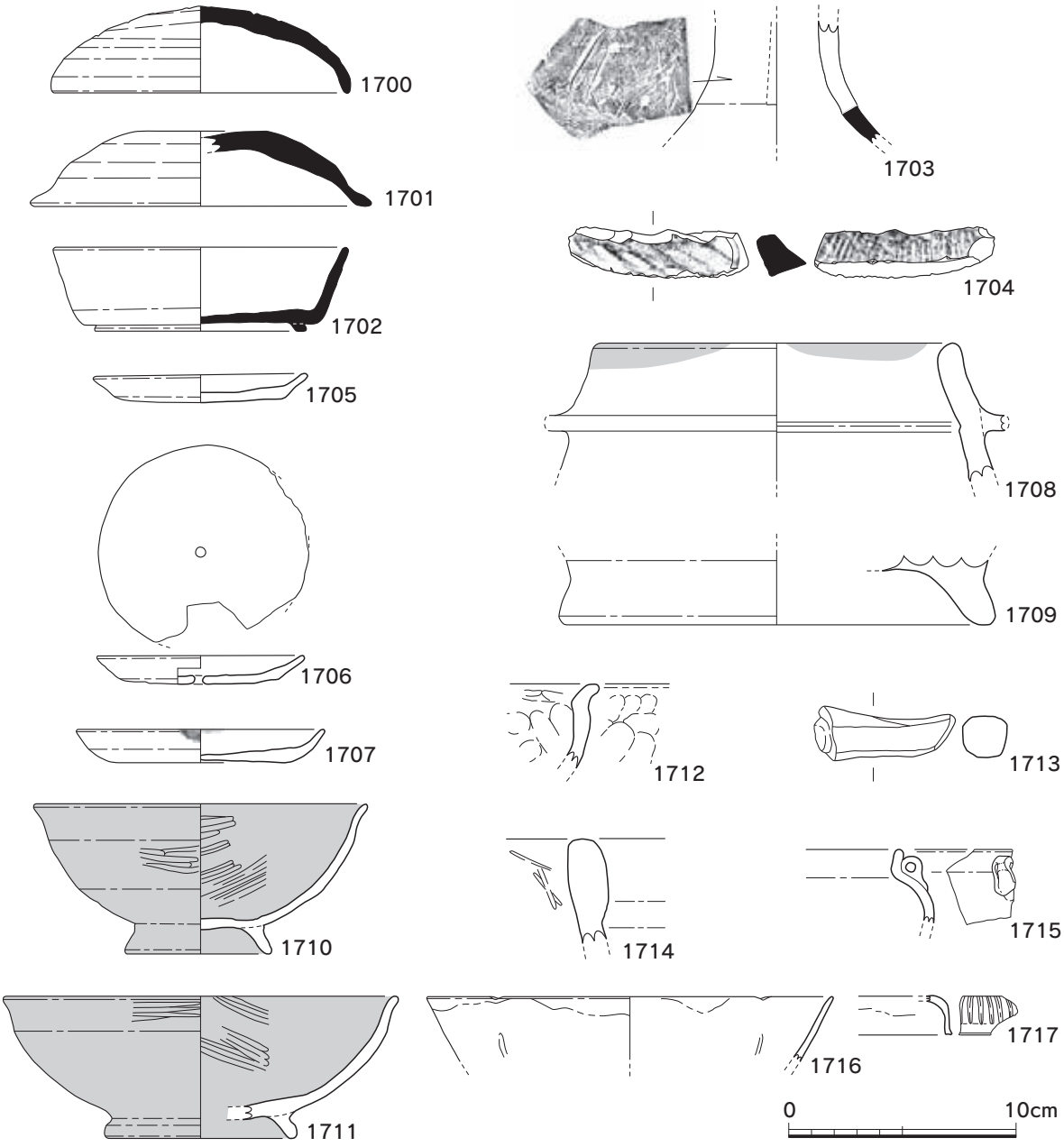


第151図　7次谷部E区5層出土遺物実測図②･層位不明出土遺物実測図（1695･1696は1／6、他は1／3）

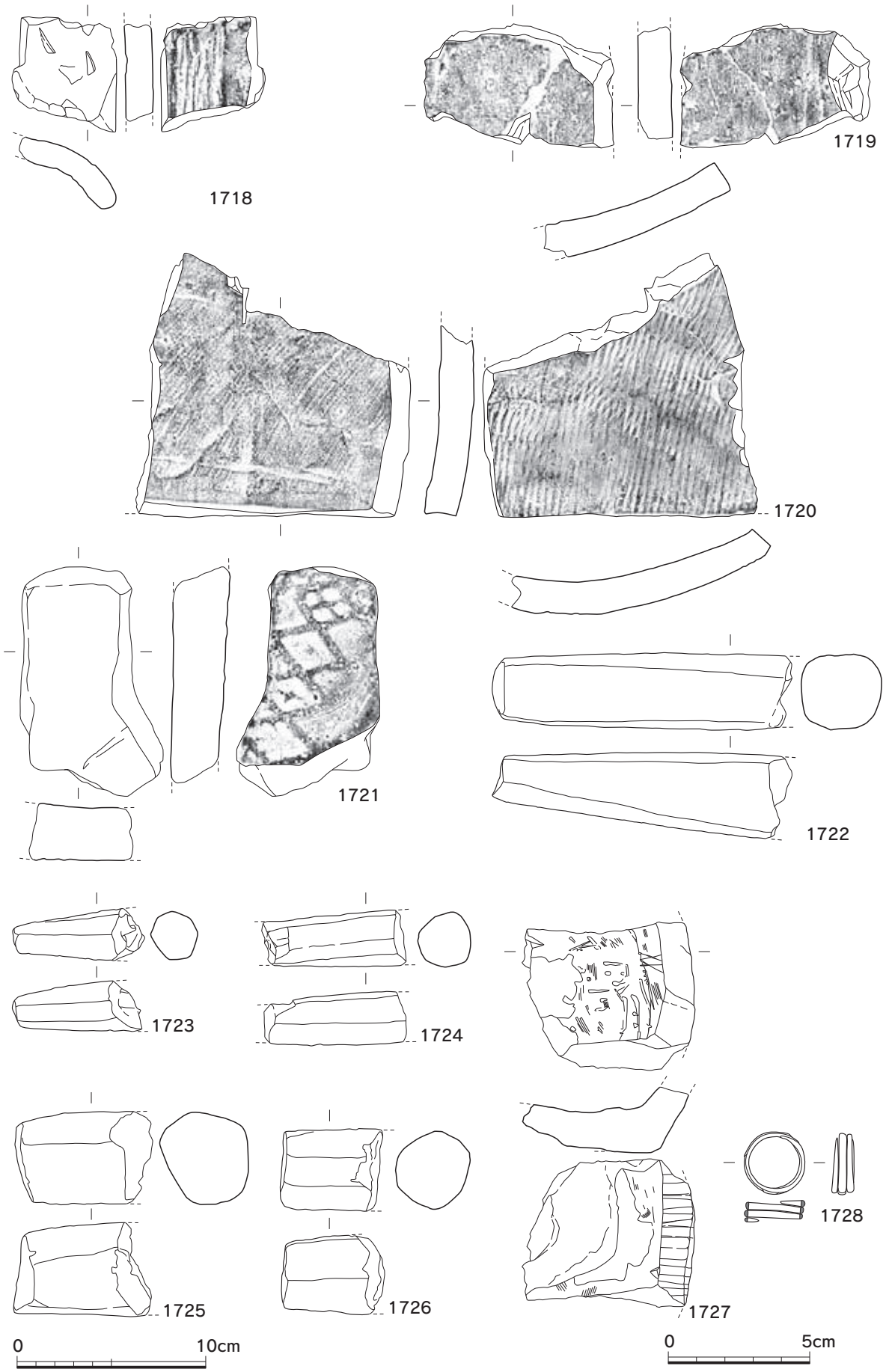
磁器（1699） 青白磁皿。口縁端部に輪花、体部に白堆線を持つ。口縁部は屈曲し、口唇部は平らである。底部外面に黒色の付着物が見られる。（大里）

谷部Ｆ区

谷部Ｆ区は、Ｅ区と同様に１層とした黄褐色土が厚く堆積する。東に隣接する本堂遺跡１次調査谷部の土層断面をみても同様であり、Ａ～Ｄ区で２層とされた粘質土は存在しない。谷部斜面は北側で段状に掘られているが、同様の傾斜変換は本堂１次谷部でも確認されている。また北側斜面上の平坦面では遺構が存在するが、ほとんどが東側に位置していることはここが緩傾斜面にあたり、西側へむかって上がる地形であったと考えられる。また、谷底にはＳＸ12とした井戸が谷部埋土の途中から掘られているが、確認できなかった。層位・出土遺物の内容はＥ区と同じである。（石木）



第152図　7次谷部F区1層出土遺物実測図①（1／3）



第153図　7次谷部F区1層出土遺物実測図②（1728は1／2、他は1／3）

谷部Ｆ区1層出土遺物（第152 ～ 154図・図版92）

須恵器（1700 ～ 1704） 1700は杯Ｈ蓋。天井部外面回転ヘラケズリ。1701は小片のために傾きに難がある。体部外面回転ヘラケズリを行う。口縁部は外反している。1702は杯Ｂ身。高台は低く、底部端につく。1703は高杯の脚部である。スカシを有し、外面にヘラ記号、波状文を施している。あるいは器台片か。1704は甕の切削物。

土師器（1705 ～ 1709） 1705 ～ 1707は小皿。1706は底部0.4㎝程度の穿孔がみられる。1707は灯明具で、口縁部に煤が付着する。1708は鍔がついており、口縁部に煤が付着する。1709は鉢の高台と思われるが、残存がわずかであるため判然としない。

黒色土器（1710・1711） どちらもＢ類の椀で、内外面にヘラミガキを施し、口縁部は外反する。1710の体部は丸みがある。

手捏ね土器（1712・1713） 1712は口縁部は外反する。椀もしくは鉢か。1713は把手か。土師質。先端が僅かに上向きだが、ほぼ直線的である。

陶器（1714・1715） 1714は甕。口縁は僅かに玉縁状を呈する。備前か？ 1715は越州系耳壺。内外施釉。

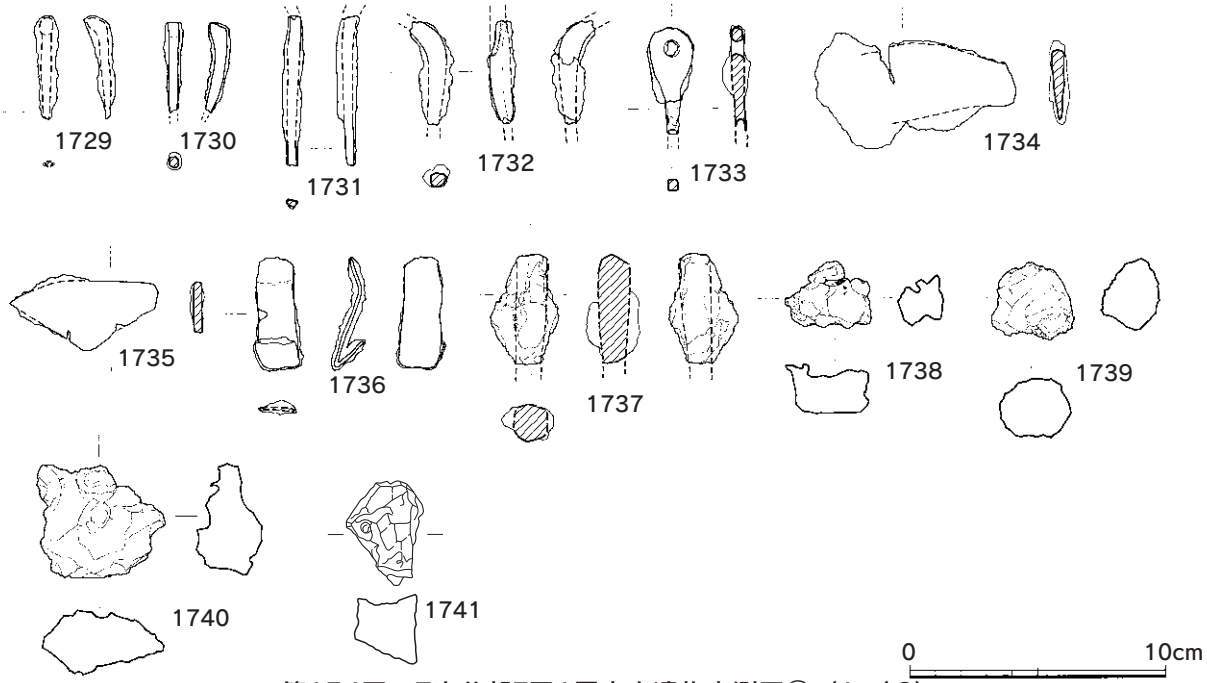
磁器（1716・1717） 1716は椀である。輪花を持ち、部分的に隆線がみられる。1717は青白磁の合子蓋である。

瓦（1718 ～ 1721） 1718は丸瓦で凹面は模骨痕がつくか。側面はヘラ切りである。1718・1719は平瓦。凹面は布目痕がつく。1720は凸面に平行タタキが行われる。1721は平瓦。凸面に格子目タタキを施す。焼成不良。

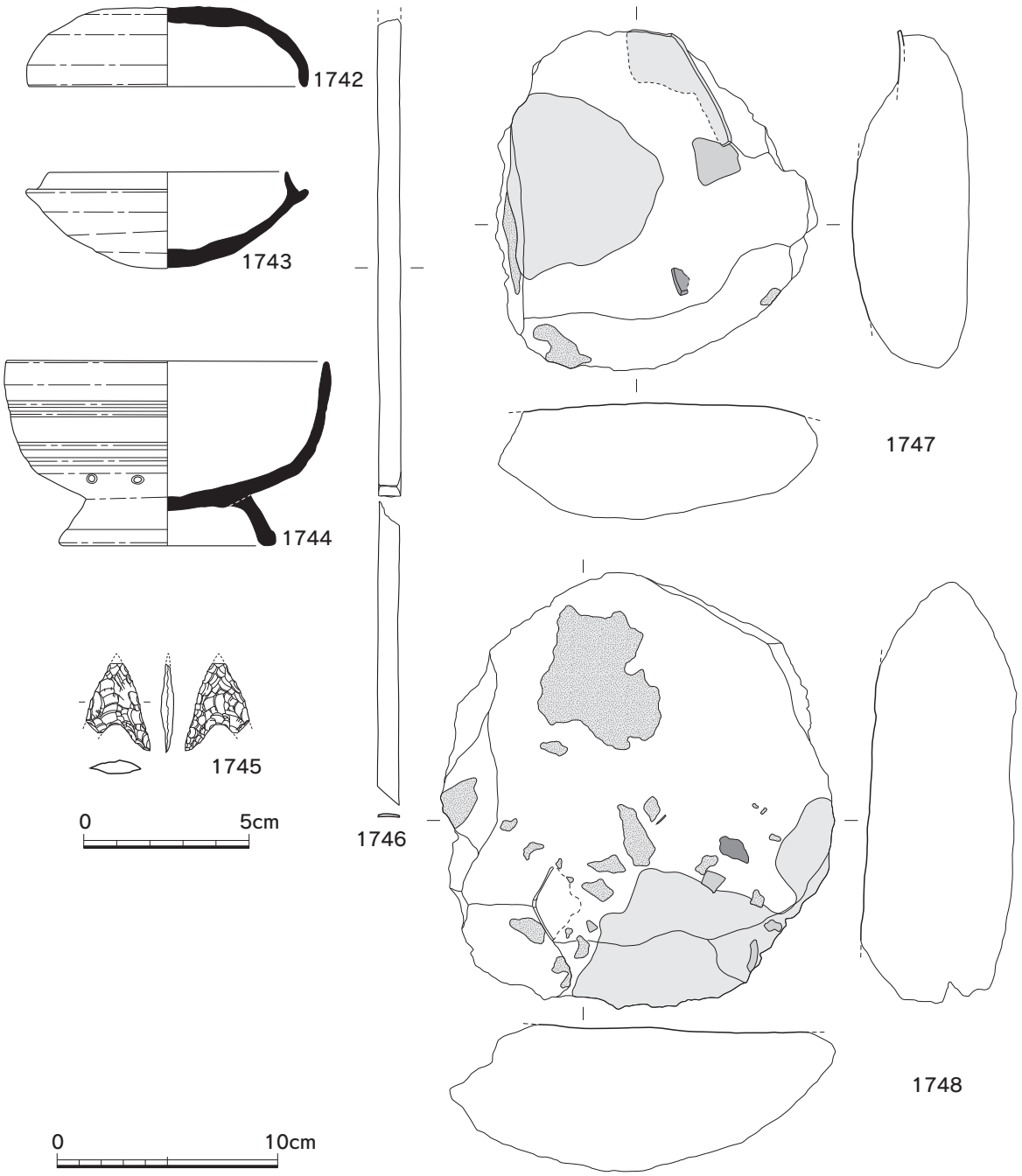
土製品（1722 ～ 1726） いずれも棒状製品である。一端を細くするものと、太いものがある。

石製品（1727） 滑石製石鍋の底部片で、内面に煤が付着している。

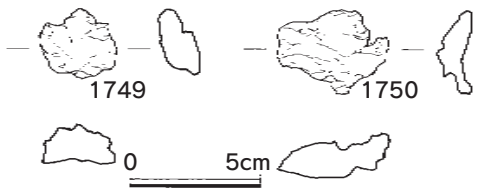
銅製品（1728） 指輪である。径2.1㎝、高さ0.7㎝を測る。三連に巻き付けている。



第154図　7次谷部F区1層出土遺物実測図③（1 ／ 3）



第155図　7次谷部F区2層出土遺物実測図①（1745・1746は1／2、他は1／3）



第156図　7次谷部F区2層出土遺物実測図②(1／3)

鉄製品（1729～1737）　1729～1731は鉄釘。1730は先端を僅かに欠く。1731は頭部を欠損している。1732は用途不明である。表面に砂粒が付着する。1733は用途不明である。茎部は断面方形を呈し、上部で径0.5㎝程度の輪を作る。1734は刀子と思われる。砂粒混じりの錆が厚く付着する。1735は板状鉄片である。1736は板状の不明製品である。一端を折り曲げる。1737は頂端が山形を呈する。一部剥落するが、ほぼ全体に厚い錆が付着する。

鉄滓（1738 ～ 1741） 1739以外は着磁が認められる。1741は炉底滓である。

谷部Ｆ区2層出土遺物（第155・156図・図版92）

須恵器（1742 ～ 1744） 1742は杯Ｈ蓋。内外面ともに回転ナデを行う。1743は杯Ｈ身。立ち上がり部が高く、丸底で深い。1744は台付椀。杯部には沈線を4条、体部下方に竹管文を施している。

石製品（1745） 凹基式の石鏃。基部と先端部を欠損している。

竹製品（1746） 用途不明品。厚さ約1㎜。

土製品（1747・1748） 焼土塊である。1747は胎土中に土器片等を含んでいる。

鉄滓（1749・1750） いずれも着磁がみられるが、1749は僅かである。

谷部F区3層出土遺物（第157 ～ 160図・図版93）

須恵器（1751 ～ 1780） 1751 ～ 1757は杯蓋である。1751 ～ 1754は杯Ｈ蓋。すべて外面にヘラ記号が施されるが、1752は竹管文がみられる。1755 ～ 1757は杯Ｂ蓋。1755はつまみが扁平で、ヘラ切りを行う。1758は蓋。口縁部は外反し、端部は平坦になる。1759 ～ 1768は杯身。1759・1760は杯Ｈ身。外面にヘラ記号を施す。底部外面は回転ヘラケズリを行い、ヘラ記号を施す。1761は杯Ｇ身。体部外面に螺旋状に沈線を巡らす。1762 ～ 1768は杯Ｂ身。いずれも高台が低く、底端部につく。1762は内面、1765は外面に重ね焼きの痕跡がみられる。1764は高台が中心からずれて貼り付けられる。1769・1770は杯。1770は器壁が薄く、底部はヘラ切りを行う。1771は皿。底部外面は回転ヘラケズリを行い、口縁部はわずかに外反する。1772は高台付皿。底部は中央へ下がる。1773は脚付の壺。脚部に方形の透かしが入る。杯部はカキメを施す。1774は高杯蓋。天井部は回転ヘラケズリを行い、つまみ上部は凹む。1775は鼈。焼成不良のため軟質。肩部には刺突文、下部はカキメが見られる。1776は平瓶の口縁部。2条の沈線下からカキメを施す。1777は短頸壺。最大径が上位にあり、体部は回転ヘラケズリを行う。1778は水瓶。口縁部は屈曲した後に短く立ち上がる。体部中央から肩部までは回転ヘラケズリ。1779・1780は甕。1779は体部外面に擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕があり、頸部外面にはヘラ記号を施す。1780は体部外面に格子タタキ後カキメ、内面には同心円文当て具痕がみられる。口縁部は屈曲させる。

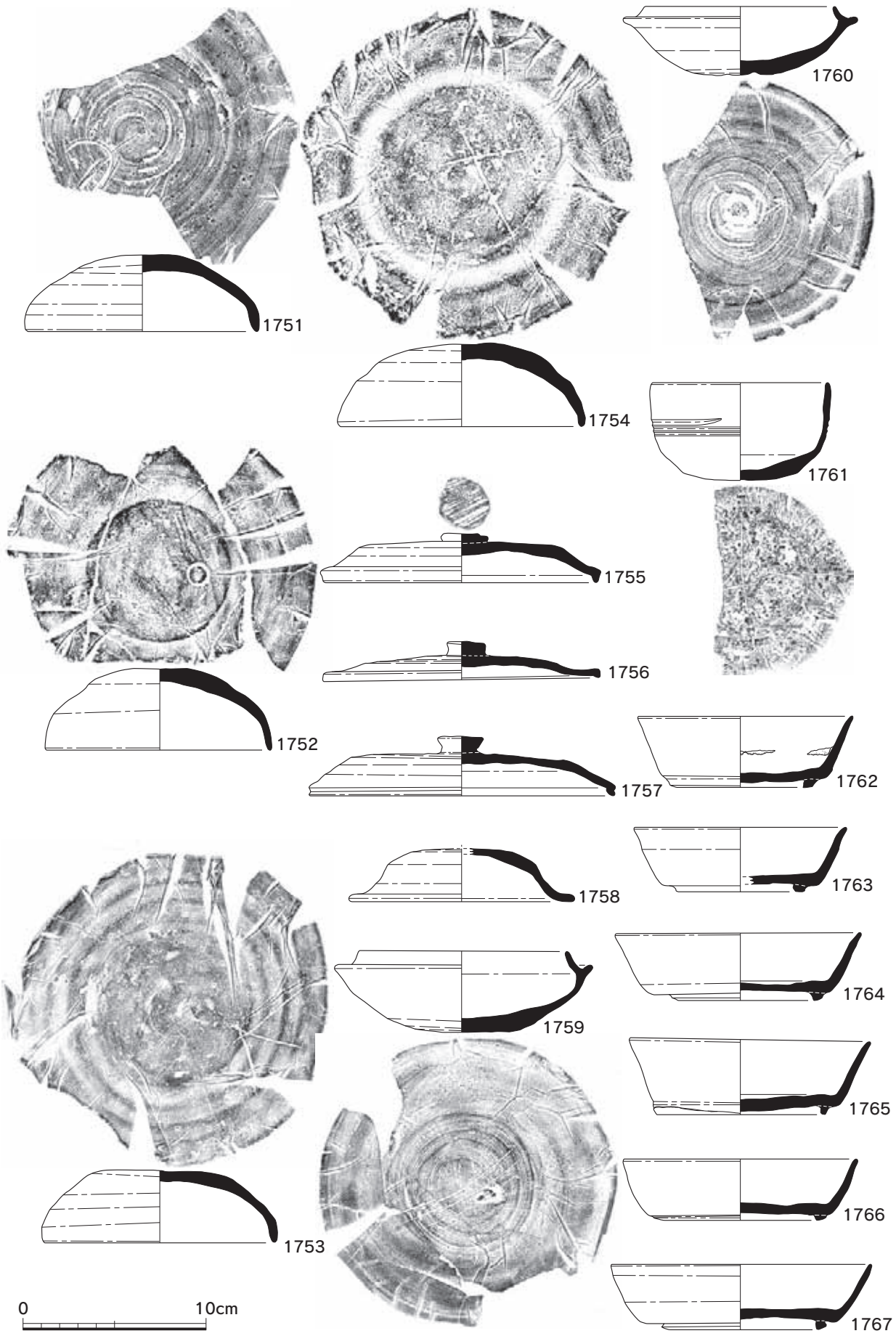
土師器（1781 ～ 1783） 1781・1782は甑。1781は把手。1782は小型。外面にハケメを施し、体部内面はヘラケズリを行う。口縁部は外反する。1783は鉢か。摩滅のため調整不明である。

瓦（1784・1785） どちらも平瓦である。1785は凸面に縄目タタキ、凹面に布目痕がみられる。

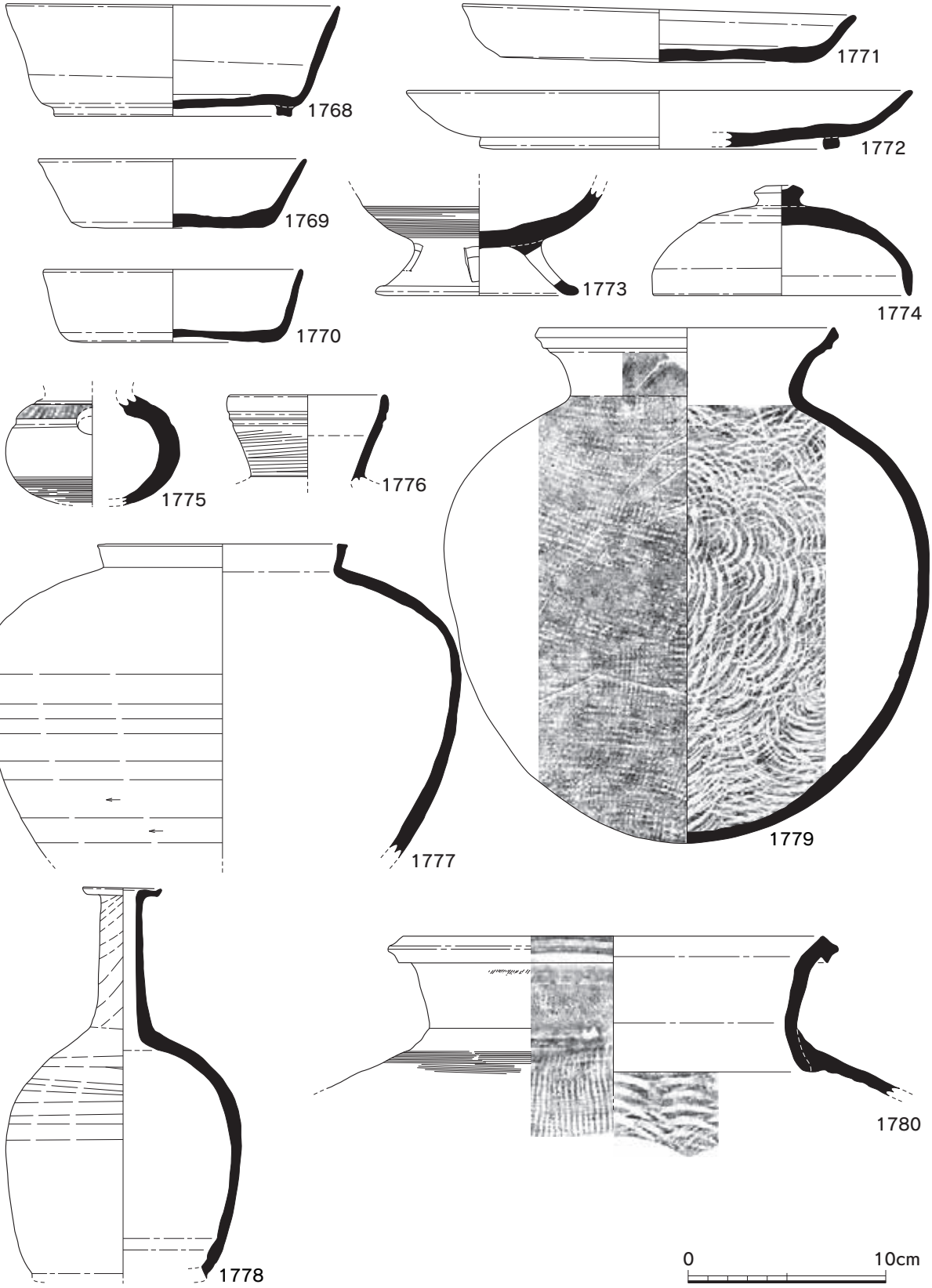
磁器（1786） 白磁椀である。直口縁を持ち、体部は薄い。

石製品（1787） 滑石製品である。表面は線状の傷が無数にあり、3つの穿孔がある。1つのみ貫通しない。

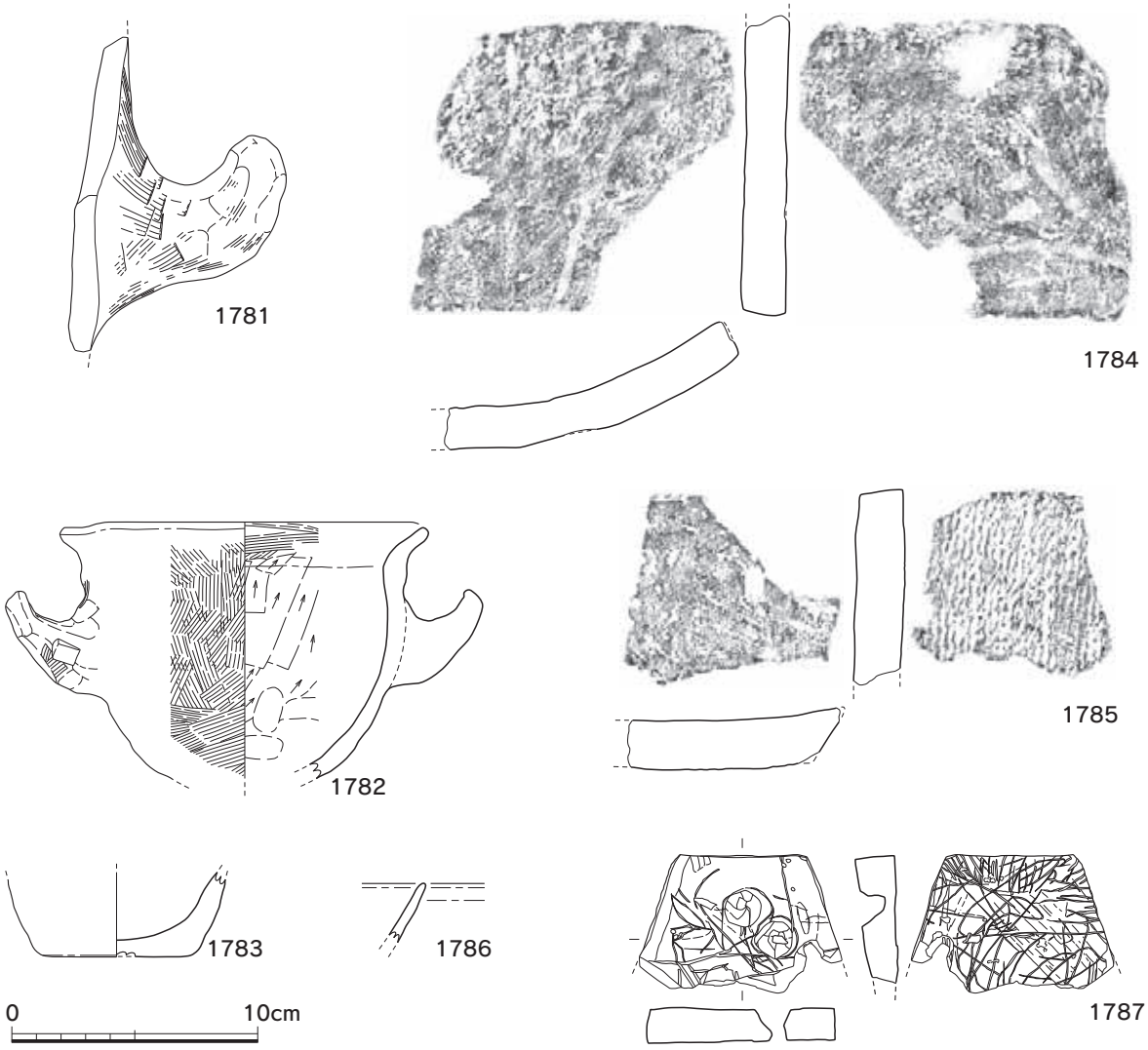
鉄滓（1788 ～ 1793） 1788・1789・1791は炉底滓か。僅かに着磁がみられる。1789・1790は炭化物が付着する。1792は部分的に着磁度が異なる。椀形滓か。1793の表面はもろく、一部炭化物の付着がみられる。ごく僅かに着磁がみられる。



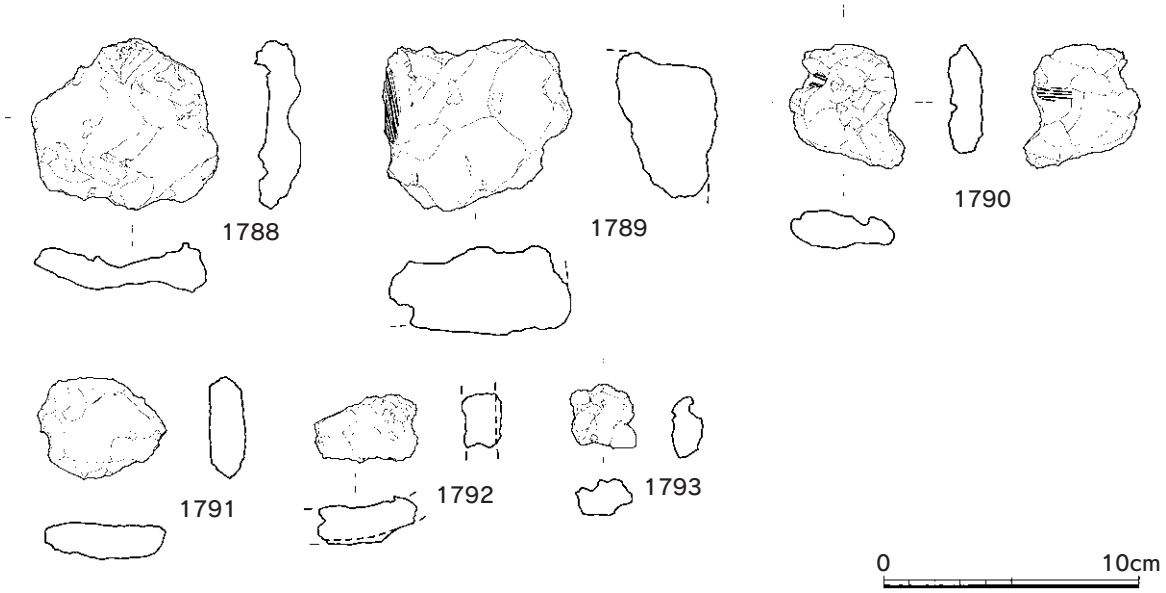
第157図　7次谷部F区3層出土遺物実測図①（1／3）



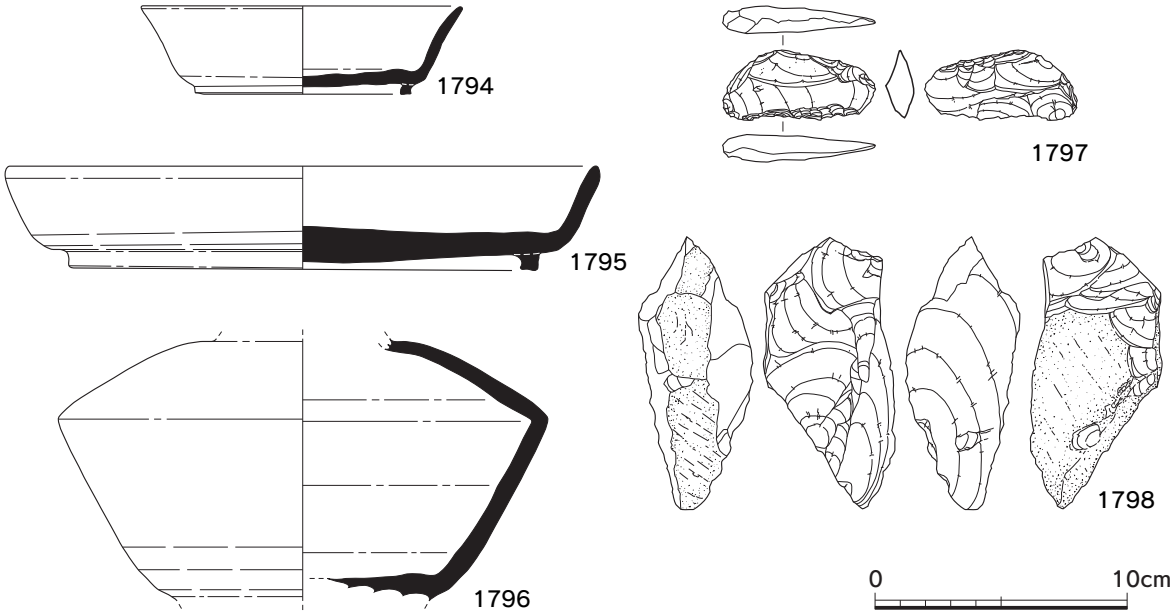
第158図　7次谷部F区3層出土遺物実測図②（1／3）



第159図　7次谷部F区3層出土遺物実測図③（1／3）



第160図　7次谷部F区3層出土遺物実測図④（1／3）



第161図　7次谷部F区4層出土遺物実測図（1 ／ 3）

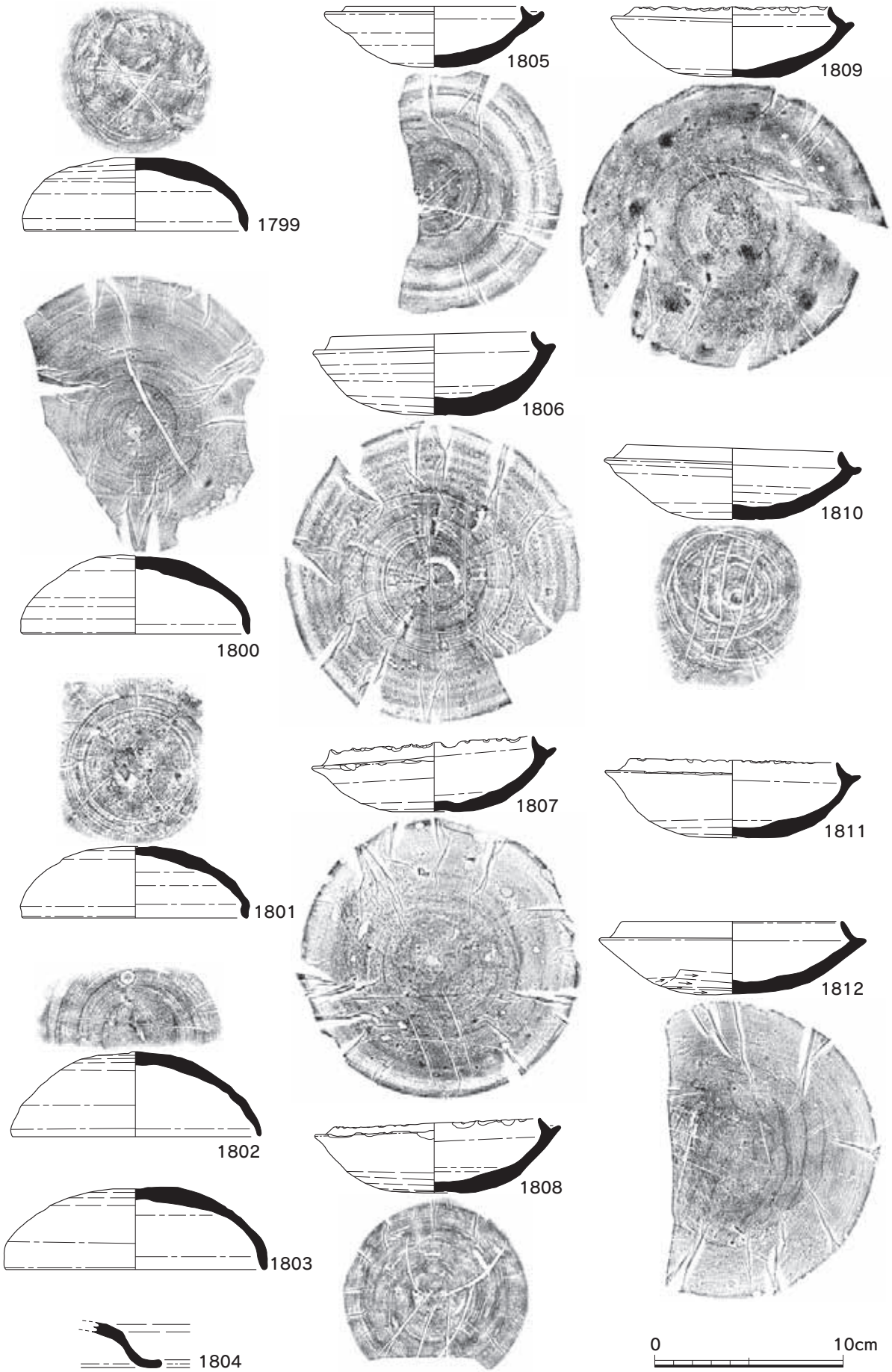
谷部F区4層出土遺物（第161図）

須恵器（1794 ～ 1796）　1794は杯Ｂ身。高台は底部端にあり、体部は外方にのびる。1795は高台付皿。体部下部から回転ヘラケズリを行い、底部中央は厚い。1796は長頸壺。胴部は張りがある。

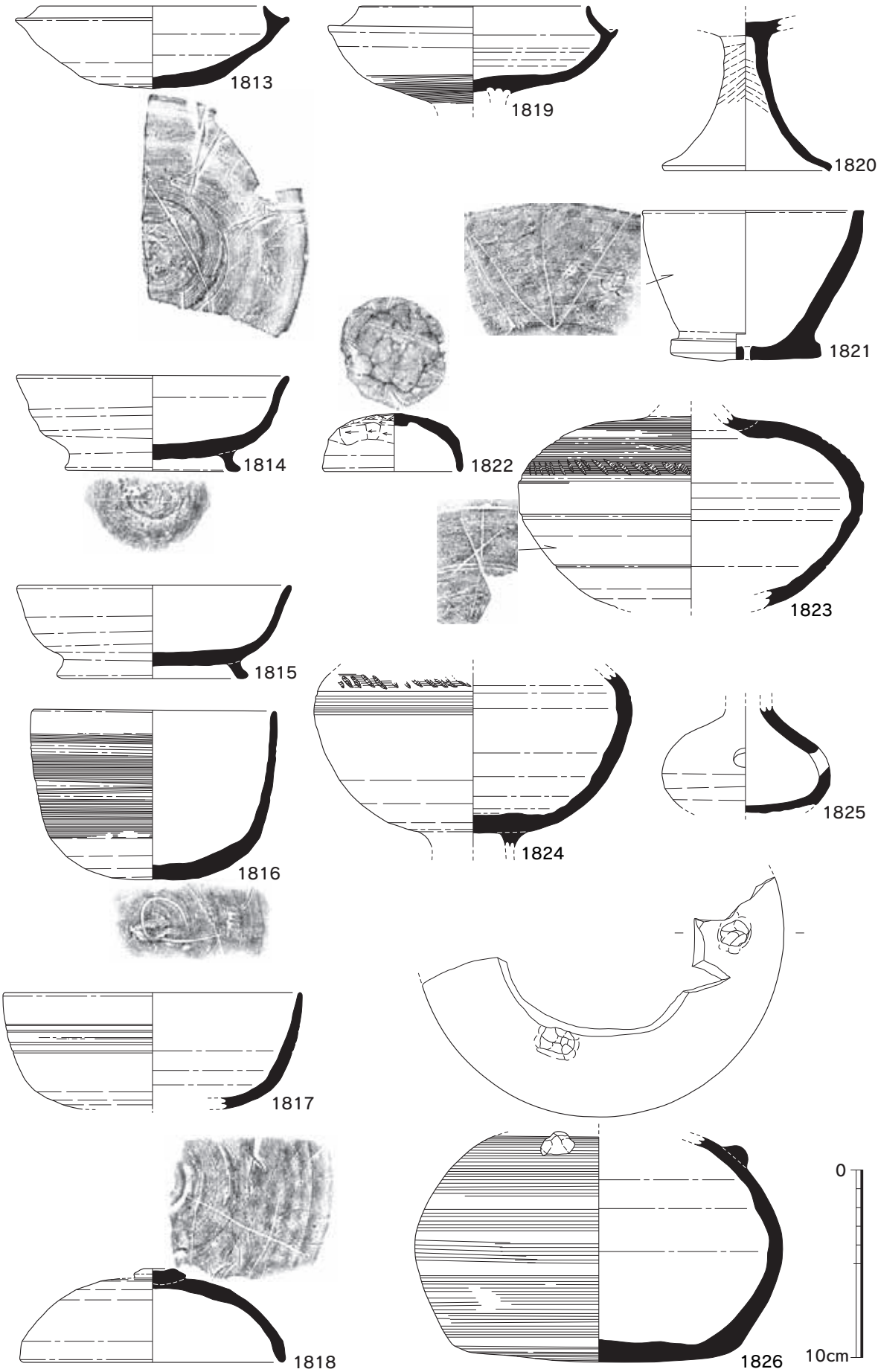
石製品（1797・1798）　1797はサイドスクレイパーである。素材に大まかな剥離を行い、両側縁に細かい調整を加える。1798は剥片。

谷部F区5層出土遺物（第162 ～ 165図・図版93・94）

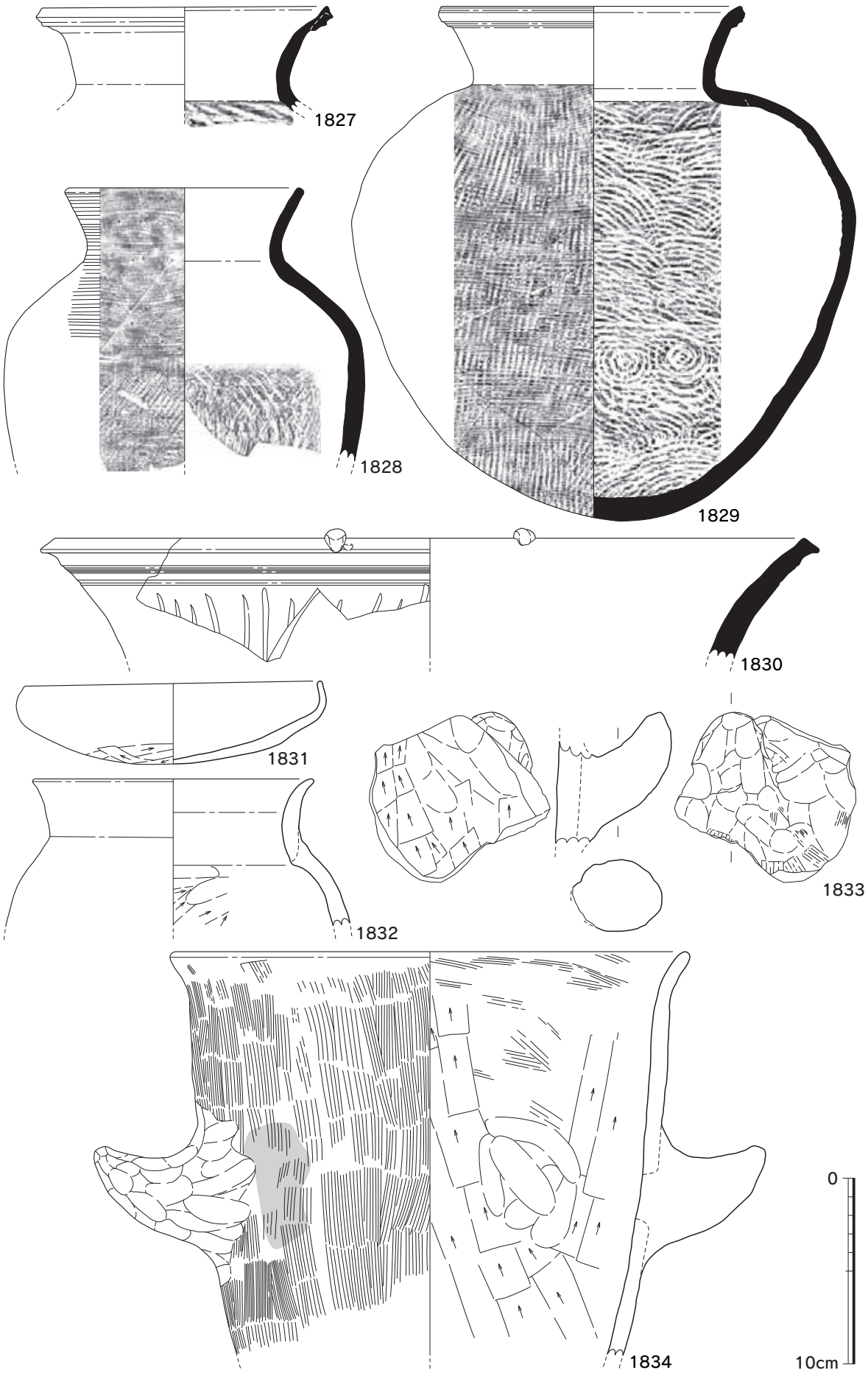
須恵器（1799 ～ 1830）　1799 ～ 1803は杯蓋。いずれも天井部外面から回転ヘラケズリを行う。1802には竹管文が見られる。1804は蓋。口縁部は外反し、端部で平坦面をつくる。上部は回転ヘラケズリ。1805 ～ 1815は杯身である。多くにヘラ記号を施す。1805 ～ 1813は杯Ｈ身。1806は器壁が厚く、返りが短い。1807・1808は口縁部と受部、1809は口縁部に剥離痕がみられる。1812は底部外面に手持ちヘラケズリを行う。1814・1815は杯Ｂ身。ハの字に広がる高台をもち、1814は口縁部が外反している。1816・1817は椀である。1816は体部にカキメを施し、底部外面にヘラ記号を施す。1817は体部下半に回転ヘラケズリをおこなう。1818 ～ 1820は高杯。1818は蓋である。外面にヘラ記号を施す。1819は立ち上がりが高く、受部は短い。杯部下部から脚部にかけてカキメを施す。1820は脚端部が僅かに下方に曲げる。1821はすり鉢である。口唇部は平らで、体部外面にヘラ記号を施す。1822は短頸壺蓋である。体部中央から天井部は手持ちヘラケズリを行い、ヘラ記号を施す。1823は長頸壺か。頸部は細く、肩部に張りがあり、体部上部はカキメ後に刺突文、体部外面下部にヘラ記号を施す。1824は脚付壺である。体部最大径が上位にあり、その上にカキメ後刺突文を施す。1825は甕である。体部中央から回転ヘラケズリを施す。1826は平瓶。外面全体にカキメを施す。肩部にボタン状の突起をつける。1827 ～ 1830は甕である。1828は体部最大径が上位にあり、下方へほぼまっすぐ伸びる。1829は外面



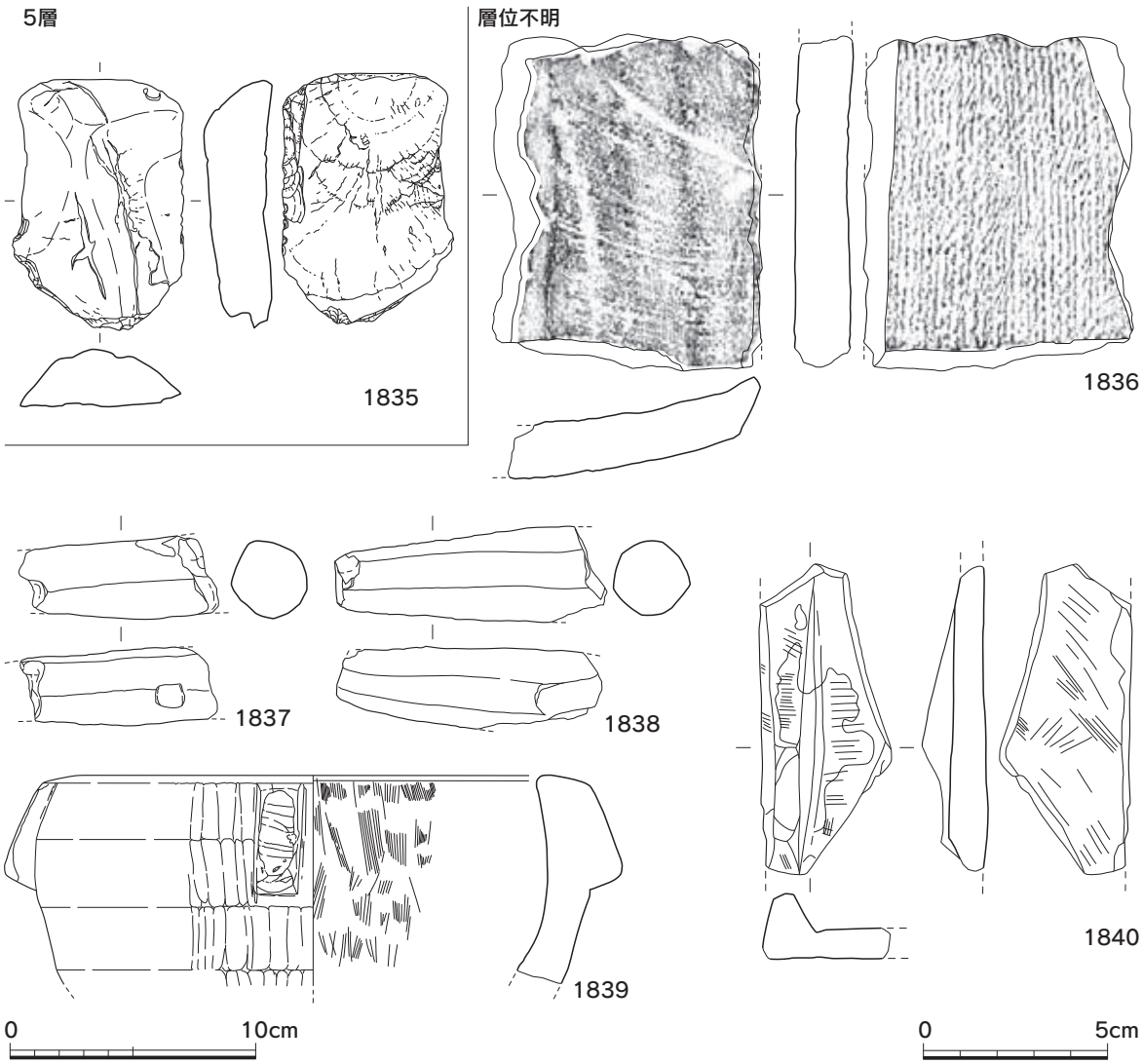
第162図　7次谷部F区5層出土遺物実測図①（1／3）



第163図　7次谷部F区5層出土遺物実測図②（1／3）



第164図　7次谷部F区5層出土遺物実測図③（1／3）



第165図　7次谷部F区5層出土遺物実測図④、層位不明遺物実測図①（1840は1／2、他は1／3）

に擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕がみられる。1830は大甕である。口縁部下に斜線文を施し、口唇部にボタン状突起をつける。

土師器（1831 ～ 1834）　1831は皿、在地系か。底部外面は手持ちヘラケズリをおこない、丸底である。1832は甕。体部に張りがなく、口縁は外反する。1833・1834は甑。1833は把手。体部のハケメとヘラケズリが一部見られる。1834は口縁部が外反する。把手は差込式。外面はハケメ、内面はヘラケズリを行う。

石製品（1835）　安山岩の剥片である。側縁に調整を加える。

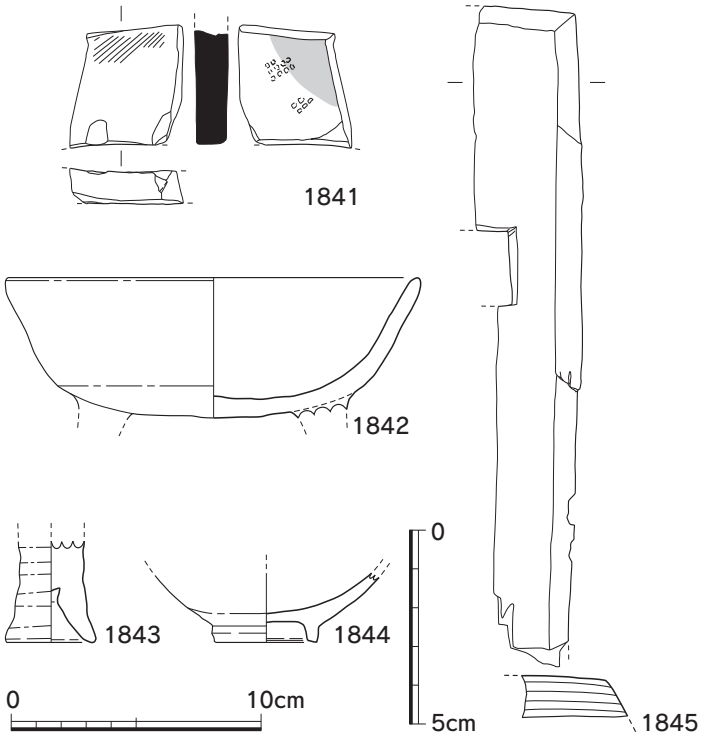
谷部F区層位不明出土遺物（第165・166図・図版94）

瓦（1836）　平瓦である。凸面縄目タタキを行い、凹面は布目痕がみられる。

土製品（1837・1838）　棒状土製品である。どちらも断面は大雑把な六角形を呈する。

石製品（1839・1840）　1839は滑石製石鍋である。四方に縦耳がつく。1840は硯か。表面は平らで、全体を研磨している。

須恵器（1841）　調整は格子タタキおよびハケメと思われる。一部墨痕が見られる。転用硯か。



第166図　7次谷部F区層位不明出土遺物実測図
（1845は1/2、他は1/3）

土師器（1842）　脚付鉢である。脚部欠損。

陶磁器（1843・1844）　1843は青磁の燭台である。1844は陶器の椀である。高台外面はやや丸みがある。

木製品（1845）　側面は斜めに削りだし、枘穴をつくる。用途は不明である。

（大里）

（3）試掘調査出土遺物について

上大利北土地区画整理地内では、39ヶ所で試掘調査をおこなった。田畑などごく一部はトレンチ調査をおこなったが、開発がおこなわれず雑木林がそのまま残る場所を除いてはすべて全面表土剥ぎをおこなっている。試掘調査時の出土遺物としては、パンケース10箱分が保管されている。本来、各調査区の整理作業時に合わせて報告をおこなうべきであったが、調整がうまくゆかなかった。このため、以下で出土遺物の報告をおこなうが、時間の都合上、器形的に特殊なものを中心に絞った形で報告せざるをえないことをお断りしておく。

8次試掘調査（本堂遺跡5次）

須恵器（1847～1849）　1847は台付椀。杯部は稜をもち、高台はハの字に開き、内端部で接地する。体部外面ヘラ記号。1848は壺。頸部は直立して長くのび、体部下半は外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。1849は蓋。体部は長くのび、外面はカキメを施す。つまみは中央部がくぼみ、端部を面取りする。

29次試掘調査（梅頭遺跡３次）

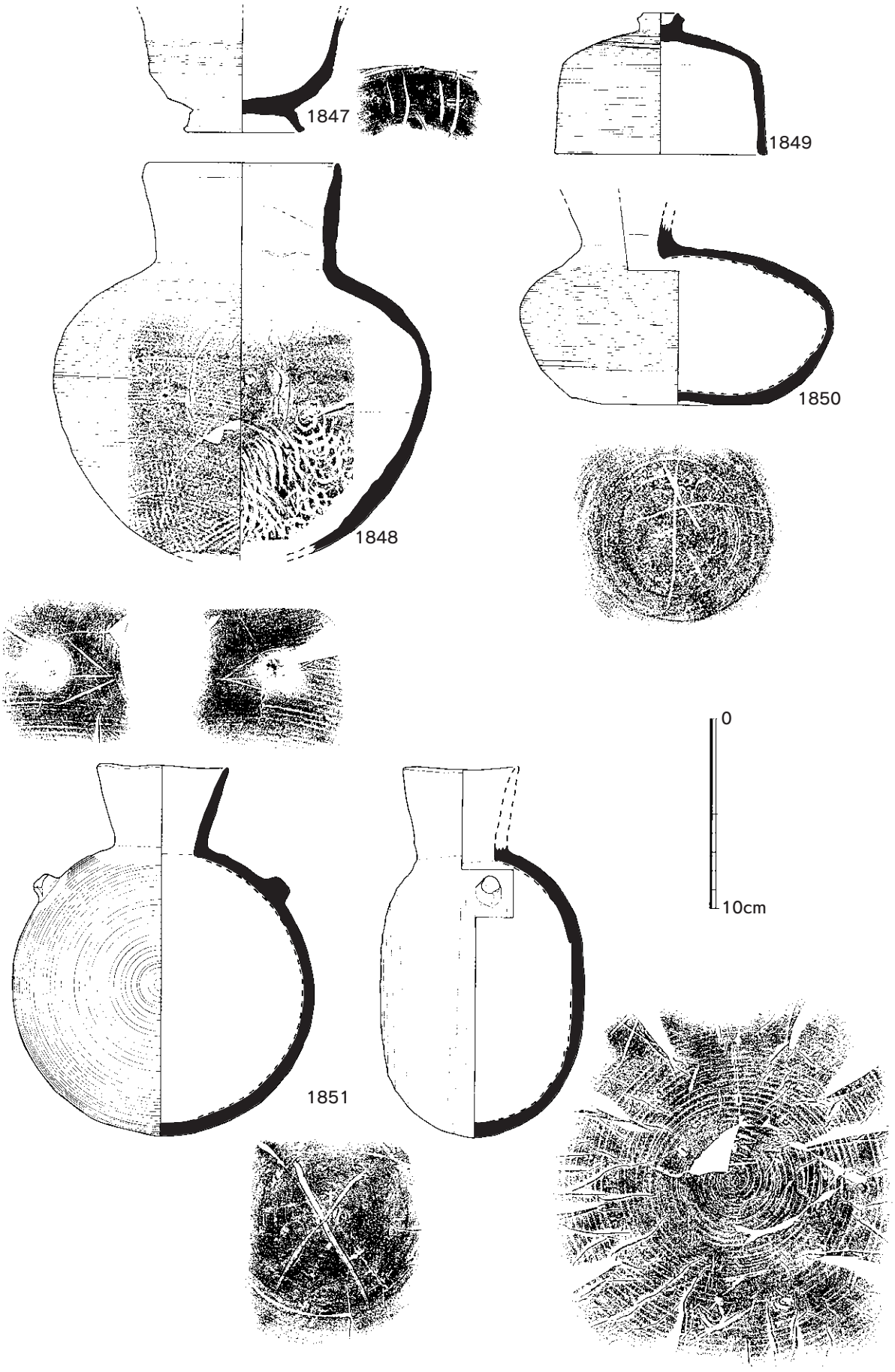
須恵器（1850）　２号窯跡検出中に出土。平瓶。体部外面カキメ、底部まで回転ヘラケズリ。ヘラ記号を施す。

5次試掘調査（梅頭遺跡１次）

須恵器（1851）　１号窯跡灰原出土。提瓶。肩部にボタン状のつまみを付す。ヘラ記号が両方のつまみの上と底部側面に施される。

（石木）

註１　７次調査出土木簡については、すでに木簡学会編『木簡研究』第27号（2005）に報告しているので、参考にされたい。
註２　墨書土器・木簡の釈読については、九州大学坂上康俊教授に多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。



第167図　上大利北土地区画整理地内試掘調査出土遺物実測図（1 ／ 3）

表 1　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表1

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1	須恵器	杯身	SP19掘方内	②3.9+α	外面2/3を回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	焼き歪みにより傾き不確実。 外面ヘラ記号。 回転方向右。
2	土師器	丸底杯	SP08柱痕 SP05	①(15.4) ②2.85	体部下位～底部外面回転ヘラ切り。内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の砂粒、赤褐色粒を微量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR8/4。	内面煤か?
3	鉄製品	釘	SP18柱痕	残存長9.1　残存幅1.8 残存厚1.35　重量15.2			
4	須恵器	杯蓋	SP26掘方内	①(16.4) ②1.85+α	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の砂粒を含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内灰N5/。	
5	須恵器	杯身	SP25掘方内	②3.25+α	口縁部～底部回転ナデ。	A：微細な砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内灰N6/。	外面口縁付近に降灰。
6	土師器	小皿	SP38 SP①-64	①(11.8) ②1.85+α	摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の砂粒、雲母を多量に含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4、内黄灰2.5Y5/1～浅黄橙10YR8/4。	板状圧痕。
7	須恵器	杯身	SC01-2遺構検出時	①11.7 ②3.9 受部径13.5	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の砂粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外浅黄2.5Y7/3～にぶい橙5YR6/4、内橙5YR7/6。	体部外面にヘラ記号。回転方向右。
8	須恵器	杯身	SC01-2遺構検出時	①(13.8) ②5.35 受部径(16.4)	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～4㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外青灰10BG5/1、内青灰10BG5/1。	底部外面にヘラ記号。
9	須恵器	高杯蓋	SC01-2遺構検出時	①(12.9) ②4.1 つまみ径2.3	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N4/。	外面降灰。外面にヘラ記号。焼き歪む。
10	石器	石鏃	SC01-1	長2.3 幅1.9 厚0.45 重量1.4	全体に細部調整。三角形を呈す。		
11	石製品	砥石	SP14	長4.25+α 幅2.6 厚1.9　重量36.8			4面使用。
12	鉄滓		SD01-3	長1.5 幅2.6 厚1.1 重量3.8			
13	鉄滓		SD01-3	長1.1 幅1.5 厚0.7 重量1.0			
14	土師器	小皿	SD02-2 1・2間ベルト	①(8.6) ②1.1 ③(7.0)	底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒、1～1.5㎜の黒色粒、1㎜ほどの赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙7.5YR8/4～明青灰10BG7/1～明黄褐2.5Y7/6、内浅黄橙7.5YR8/4。	板状圧痕。
15	土師器	丸底杯	SD02-1	①(15.4) ②2.95	摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外底部付近のみ灰7.5Y5/1～灰7.5Y4/1、他浅黄橙10YR8/3～浅黄橙7.5YR8/4。	
16	土師器	丸底杯	SD02-2 2・3間ベルト2層下層	①15.5 ②3.55	摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜の砂粒を含み、雲母を多量に含む。B：不良。C：外橙7.5YR7/6(赤彩?)～明赤褐2.5YR5/6、内橙7.5YR7/6(赤彩?)～明赤褐2.5YR5/6。	
17	土師器	鉢	SD02-1	①(21.9) ②8.55 ③(12.0)	体部下位～底部内面ヨコナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の砂粒を含む。微細な雲母を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/4。	内面煤付着。
18	瓦器	椀	SD02-1	②1.5+α ④6.6	摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～暗灰N3/、内暗灰N3/～灰N4/。	板状圧痕。
19	白磁	椀	SD02-1	①(15.6) ②3.5+α	残存部全面施釉。口縁端部釉剥ぎ。	A：灰白2.5Y8/2。精良。B：良好。C：明オリーブ灰2.5GY7/1。薄く施釉。	太宰府分類Ⅴ-3a。 全面に貫入が入る。
20	白磁	椀	SD02-3	②2.8+α ④7.6	内面見込みに浅い沈線。高台削り出し。体部外面～高台まで施釉。	A：精良。B：良好。C：内外灰白5Y7/2。断面灰白5Y8/1。	目跡の内側から高台内側は若干橙色を帯びている。 高台内に目跡。
21	土製品	棒状土製品	SD02-1	長10.1+α　幅3.9 厚3.2	ナデ。厚さ0.9㎝ほどの粘土板を短軸側に巻き、方形に成形。	A：微細～2㎜の白色砂粒、礫を多量に含む。B：良好。C：灰5Y6/1～にぶい黄橙10YR7/3。	
22	瓦質土器	火鉢	SD03-1	②4.4+α	摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。	口縁部外面突帯間に花印。
23	陶器	擂鉢	SD03-4	②4.2+α	残存部施釉。内面に擂目。	A：にぶい橙7.5YR7/4。微細な砂粒、赤色粒を微量含む。B：良好。C：灰褐5YR4/2。	肥前系。
24	白磁	紅皿	SD03-5	①(6.0) ②1.4 ④2.2	型押し成形。	A：灰白5Y8/1。精良。B：良好。C：灰白N8/～灰白5Y8/1。	蛸唐草。
25	土製品	羽口	SD03-5	長6.9+α	端部にスラグ付着。	A：0.5～4㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外面付近灰白5Y7/1、内面付近浅黄橙10YR8/3～明赤褐2.5YR5/6。	
26	白磁	紅皿	SD04-2 SD03-1間ベルト中	①(4.6) ②1.2+α ④(1.5)	型押し成形。	A：精良。灰白5Y8/1。B：良好。C：灰白N8/。	
27	土師器	小皿	SD05谷部E区南側斜面	①(10.0) ②1.1 ③(6.6)	摩滅のため調整不明。 口縁部内面沈線状に面取り。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	
28	土師器	小皿	SD05谷部E区南側斜面	①(9.8) ②0.7 ③(7.8)	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、2～5㎜の砂礫をわずかに含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4、内黄橙10YR8/6～灰黄2.5Y6/2。	

表 2　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表2

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
29	土師器	丸底杯	SD05谷部E区南側斜面	①(15.6) ②(4.2)	摩滅のため調整不明。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母、赤褐色粒をわずかに含む。B：やや良好。C：外淡黄橙10YR8/4～橙5YR6/8、内淡黄2.5Y8/3～淡黄橙10YR8/4。	板状圧痕?
30	土師器	丸底杯	SD05谷部E区南側斜面	①15.7 ②3.75	体部下位～底部外面ヘラ切り。体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外黄橙10YR8/6～橙7.5YR6/8、内黄橙10YR8/6～橙7.5YR6/6、断面灰黄2.5Y7/2。	
31	土師器	鉢	SD05谷部E区南側斜面	①(17.6) ②7.7+α	体部下位外面回転ヘラケズリ。内面ヨコナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～1.5㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR7/6、内にぶい橙7.5YR7/6。	内面煤付着。
32	土師質土器	片口鉢	SD05	①(33.7) ②10.1+α	口縁部～体部中位外面ヨコナデ、下位回転ヘラケズリ。体部内面ハケメ後ヨコナデ。指頭圧痕・ナデによる片口部成形。	A：微細～2㎜の砂粒、赤褐色粒を多量に含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3。	外面に煤付着。 回転方向左。
33	土師器	鉢か壺	SD05谷部E区南側斜面	②8.7+α ④(25.2)	底部内面指頭圧痕、後不定方向ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒、赤褐色粒、礫を多量に含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3。	内面赤彩か?高台端部に煤か?
34	石製品	砥石	SD05谷部E区南側斜面	長6.5+α 幅5.3 厚3.5 重量180.8			4面使用。
35	土師器	甕	SD07-0間ベルト	②6.3+α	口縁部外面ヨコナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
36	青磁	香炉か火入れ	SD07 1・2間ベルト	①(8.5) ②5.2+α	残存部全面施釉。口縁端部が内面に突出。	A：灰白5Y8/1。精良。B：良好。C：外明オリーブ灰2.5GY7/1、内明オリーブ灰2.5GY7/1～明緑灰7.5GY7/1。	龍泉窯系。
37	染付磁器	皿	SD07-3	②2.7+α ④(19.4)	残存部全面施釉。高台端部釉剥ぎ。	A：灰白5Y7/1。精良。B：良好。C：外灰白5Y8/1、内明オリーブ灰5GY7/1。	内面見込染付。
38	鉄滓		SD07-4	長3.9+α 幅2.75+α 厚1.7 重量6.2			メタルなし。
39	鉄滓		SD07-4	長5.2+α 幅6.0+α 厚3.9 重量84.2			メタルなし。
40	鉄滓		SD07-4	長5.5+α 幅7.7+α 厚3.8 重量72.4			メタルなし。
41	銅製品	銅銭	SD07-5	径2.2 厚0.15 重量2.4	風化が著しい。		
42	石製品	砥石	SD07-4	長13.3+α 幅4.8 厚5.3 重量358.0			2面使用。
43	石器	剥片	SD07-5	長2.25 幅1.6 厚0.5 重量1.4	二次加工のある剥片。		未成品?
44	須恵器	杯身	SD08-3 SD07-0間ベルト	②6.2+α	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰白N7/。	回転方向右。
45	須恵器	杯身	SD08-3	①11.3 ②4.35 受部径13.3	外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N5/。	底部外面にヘラ記号。内面にシッタ痕。
46	土師器	甑	SD08-3	②13.7+α 把手幅2.3 把手厚2.2	把手部指頭圧痕、後ナデ。体部外面ハケメ、内面縦方向のケズリ後ヨコナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：外灰白5Y7/2、内灰白5Y7/2。	把手の断面形方形。
47	土師器	甑	SD08-3	②7.3+α 把手最大幅4.8 厚3.7	把手部指頭圧痕、後ナデ。体部内面縦方向のヘラケズリ。	A：微細～2㎜の砂粒を多量に、赤褐色粒を含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/6、内にぶい橙7.5YR6/4。	把手。
48	瓦質土器	火鉢(脚部)	SX02	②3.3+α	脚部外面ヨコナデ、内面指頭圧痕。端部は摩滅。表面には文様あり。	A：微細～2㎜の石英を多量に、角閃石を少量含む。B：不良。C：黄灰2.5Y4/1。	
49	土師器	小皿	SX04谷部E区南斜面	①(10.1) ②1.3 ③6.6	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を少量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y7/2。	内面に黒斑。
50	土師器	小皿	SX05谷部E区南斜面	①(10.5) ②1.1 ③7.7	底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒、雲母片を多量に含む。B：不良。C：外灰5Y6/1～灰白5Y8/1、内灰5Y6/1～灰白5Y8/1。	板状圧痕。
51	土師器	小皿	SX05谷部E区南斜面	①(11.0) ②1.2 ③(8.6)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒および微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～灰黄褐10YR6/2、内灰白10YR8/2～淡赤橙2.5YR7/3～にぶい橙7.5YR5/4～褐灰7.5YR6/1。	板状圧痕。
52	土師器	椀	SX05谷部E区南斜面	①14.5 ②5.25 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。口縁部・高台貼付の回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～3㎜の砂粒を多量に含む。雲母、赤褐粒を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～灰白2.5Y8/2、内黄灰2.5Y6/1～灰白2.5Y8/2。	
53	土師器	椀	SX05谷部E区南斜面	①(14.6) ②5.15 ③7.0	口縁部・高台回転ナデ。底部外面ナデ。体部から底部内面ヘラミガキ後不定方向ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～3㎜の砂粒をやや多量含み、雲母を含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3～灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/3～灰白2.5Y8/2。	
54	黒色土器A類	椀	SX05谷部E区南斜面	①15.4 ②5.3+α	口縁部～体部内面ミガキ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～3㎜の砂粒をやや多量含む。微細な角閃石、雲母を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y4/1、内黄灰2.5Y4/1。	
55	黒色土器A類	椀	SX05谷部E区南斜面	①(14.8) ②6.0 ③7.0	口縁部外面・高台回転ナデ。内面回転ナデ後ミガキ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒、雲母片を多量に含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2～暗灰N3/、内暗灰N3/。	
56	土師器	小皿	SX09-2	①10.35 ②0.8～1.45 ③7.75	体部～底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1～2.5㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～明黄褐10YR7/6～灰白N7/、内灰白10YR8/2～明黄褐10YR7/6～灰黄2.5Y7/2～灰7.5Y5/1。	板状圧痕。 底部内面に黒斑。
57	土師器	脚部	SX09	②2.6+α 幅2.6	指頭圧痕、後ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：浅黄橙10YR8/4。	

表 3　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表3

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
58	土師器	脚部	SX09-2	②3.1+α　幅2.0	指頭圧痕、後ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒を多量に、微細な角閃石、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：浅黄橙10YR8/4～黄灰2.5Y5/1～灰N4/。	
59	鉄製品	刀子	SX09-2	残存長10.6 残存幅1.75 厚0.85 重量22.4			
60	土師器	小皿	SX10北側平坦部	①(10.2) ②1.45 ③(3.8)	摩滅のため調整不明。	A：微細～3㎜の石英、赤褐色粒子を多量に含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～黄灰2.5Y5/1～オリーブ黒5Y3/1。	底部内外面黒斑。
61	土師器	高台付皿	SX10北側平坦部	①(10.4)②3.25 ④6.35	口縁部外面～高台回転ナデ。底部外面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒、赤褐色粒を多量に含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1、内灰白10YR8/2。	
62	土師器	丸底杯	SX10北側平坦部	①15.8 ②4.0	摩滅のため調整不明。	A：微細～4㎜の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を多量に含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4。	板状圧痕。
63	石製品?	不明	うね②	長6.1+α　幅8.2 厚0.7 重量37.4		A：微細～3㎜程の白色砂粒、黒色砂粒を多量に含む。B：良好。C：灰白N8/。	黒色の付着物。
64	石器	石鏃	うね②	長2.6+α　幅2.9+α 厚0.35 重量1.0	全体に細部調整。		黒曜石。
65	木製品	井戸枠	SX12井戸枠板(東板)	縦19.0 横137.2 厚4.8	全体粗い削り。		
66	木製品	井戸枠	SX12井戸枠板(西板)	縦16.2 横134.6 厚6.0	全体粗い削り。		
67	木製品	井戸枠	SX12井戸枠板(北板)	縦16.2 横133.6 厚5.4	全体粗い削り。		
68	木製品	井戸枠	SX12井戸枠板(南板)	縦8.3 横127.6 厚4.6	全体粗い削り。		
69	木製品	杭	SX12下層(E・F間ベルト5層)	縦25.4 横4.4 厚4.3	先端部削り。		
70	須恵器	皿	谷部E・F間ベルトSX12内埋土 谷部E・F間ベルトSX13裏込め埋土	①14.85 ②2.9 ③12.8	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の砂粒を少量、微細な雲母を多量含む。B：不良。C：外灰白5Y8/1、内灰白2.5Y8/1。	外面に煤付着。
71	土師器	丸底杯	SX12谷部E・F間ベルトSX13裏込め埋土	①(14.4) ②3.25 ③7.7	摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の砂粒、微細な雲母を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	
72	木製品	井戸枠木材	SX13井戸底木材	長15.3 幅15.0 厚5.6	削り。側面に枘穴?		
73	須恵器	杯身	SX13谷部E・F間ベルトSX13内埋土	①(13.2) ②3.75 ③8.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰白N8/～灰N6/、内灰白N7/。	
74	須恵器	杯蓋	灰原1・1区上層	①(12.2) ②2.8+α 受部径(14.8)	回転ナデ成形後天井部内面不定方向ナデ。外面2/3回転ヘラケズリ。つまみ貼付。	A：0.5～2.5㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
75	須恵器	杯蓋	灰原1・1区上層	②1.6+α つまみ径(7.0)	輪状つまみがつく。外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1.5㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰N5/。	回転方向右。
76	須恵器	杯身	灰原1・1区上層	①(11.8) ②3.9 ④7.9	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/、内黄灰2.5Y6/1。	板状圧痕。 外面に降灰。
77	須恵器	杯	灰原1・1区上層	①13.2 ②3.7 ③8.0	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1.5㎜の白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y7/1。	内外面に煤付着。
78	須恵器	皿	灰原1・1区上層	①14.2 ②1.35～1.6 ③9.7	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量、雲母片を微量含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。	板状圧痕。
79	須恵器	高杯	灰原1・1区上層	②3.6+α	体部～脚部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	杯部内外面にヘラ記号。
80	須恵器	高杯	灰原1・3区上層	②14.2+α 脚裾部径14.2	脚部上位～中位外面カキメ。他は回転ナデ。脚部内面シボリ痕。	A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3～灰7.5Y6/1、内灰N6/～暗灰N3/。	外面に降灰。 内外面にヘラ記号。
81	須恵器	壺	灰原1・1区上層	②7.7+α ③5.4 ⑤7.6 頸部径2.2	体部下位外面回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：やや良好。C：外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1、内灰N6/、外面底部灰白7.5Y8/1。	
82	須恵器	壺	灰原1・1区上層	②9.5+α ③6.5 ⑤9.6 頸部径1.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1、内灰N6/。	回転方向右。
83	須恵器	壺	灰原1・1区上層	②11.4+α ③(11.8)	体部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1。	
84	須恵器	多孔瓶	灰原1・1区上層出土状況写真 灰原1・1区上層	②21.4+α ③14.65	体部外面回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。注口部成形・貼付のナデ。注口部穿孔に伴うケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒をやや多量含む。微細な雲母片を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～明褐7.5YR5/6。	
85	須恵器	大甕	灰原1・1区上層	①(18.7) ②10.9+α	体部内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面にカキメ後4条沈線、波状文。	A：微細な白色砂粒、礫を多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	頸部外面に波状文。
86	須恵器	紡錘車	灰原1・1区上層	長5.65 幅5.65 厚0.65 孔径0.85 重量27.8	ヘラケズリ。側縁はナデ。	A：0.5㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	陶製。
87	須恵器	脚	灰原1・3区上層	②3.5+α	ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N5/～暗灰N3/、断面灰N5/。	外面に降灰。 線刻。
88	須恵器	土馬	灰原1・3区上層	②4.0+α	摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白5Y7/2。	脚部のみ。

表 4　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表4

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
89	須恵器	土馬	灰原1・1区上層	②7.2+α	底面一定方向ナデ。他は指頭圧痕、後ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：灰白5Y7/1。	
90	須恵器	中空硯	灰原1・1区上層	②3.0+α 長8.3+α　幅4.1+α	ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/～灰N5/。	把手。
91	須恵器	切削物	灰原1・1区上層	長2.95　幅5.3+α 断面厚1.65	外面擬格子タタキ後ナデ。内面同心円文当て具痕。側面ヘラ切り。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰赤2.5YR4/2。	甕製作時の切り落とし片。
92	須恵器	切削物	灰原1・1区南側上層(青灰色土)	長7.0　幅2.8　厚1.65	外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。側面ヘラ切り。	A：微細～1㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
93	須恵器	切削物	灰原1・3区上層	長5.5　幅1.8　厚1.3	外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。両側縁をヘラ切り。	A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1～灰オリーブ5Y6/2。	甕製作時の切り落とし片。
94	須恵器	切削物	灰原1・3区上層	長7.3　幅1.4　厚1.7	外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕。両側縁をヘラ切り。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N5/。	甕製作時の切り落とし片。
95	須恵器	切削物	灰原1・3区上層	長8.7　幅1.6　厚1.7	外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。両側縁をヘラ切り。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰7.5Y5/1～灰N5/。	甕製作時の切り落とし片。
96	土師器	小皿	灰原1・1区上層	①9.5　②1.7	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量、雲母、赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
97	土師器	小皿	灰原1-1区(褐色流入土)	①9.65　②1.4～1.7 ③7.25	摩滅のため調整不明。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～明黄褐10YR7/6～褐灰10YR6/1、内灰白2.5Y8/1～黄橙10YR8/6～灰黄褐10YR6/2。	
98	土師器	小皿	灰原1・1区上層	①(8.4)　②1.1 ③(5.6)	底部外面調整不明、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3。	板状圧痕。 内外面に墨痕。
99	土師器	小皿	灰原1・1区上層	①9.2　②1.25 ③6.8	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。内底屈曲部に方形のナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～淡橙5YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/3～灰白10YR8/2。	外面3ヶ所、内面1ヶ所に煤付着。
100	土師器	小皿 (灯明)	灰原1・1区(褐色流入土)	①(9.8)　②1.3 ③(6.7)	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄褐10YR5/3。	内外面に煤付着。
101	土師器	杯	灰原1・1区(褐色流入土)	①(13.4)　②3.3 ③6.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量、微細な雲母を多量含む。B：やや不良。C：内外明褐7.5YR5/8。	回転方向左。
102	土師器	杯 (灯明)	灰原1・1区上層	①(12.8)　②3.4 ③(4.8)	体部下位外面回転ヘラケズリ。底部外面ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外橙5YR6/6。	口縁に煤付着。
103	土師器	杯	灰原1・1区上層	①13.35　②4.25 ③8.4	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に、微細～1㎜程の雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	
104	土師器	杯	灰原1・1区上層	①13.55　②3.8 ③7.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調製不明。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に、微細な雲母、赤褐色粒を微量含む。3～5㎜ほどの礫を含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR7/3。	回転方向右。
105	土師器	杯	灰原1・1区(褐色流入土)	①(14.8)　②4.1 ③(8.0)	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒をやや多量含む。微細な赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外橙5YR6/8～橙7.5YR7/6。	回転方向左。
106	土師器	杯	灰原1・1区上層	①14.8　②3.9 ③9.1	体部下位～底部1/2外面回転ヘラケズリ。底部中央部外面ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/4、内明褐7.5YR5/6～にぶい黄橙10YR6/4。	底部外面にヘラ記号?回転方向右。
107	土師器	杯	灰原1・1区上層	①14.9　②4.25 ③7.7	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、雲母を少量、微細な赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：外橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
108	土師器	杯	灰原1・1区上層	①(15.4)　②3.8 ③7.8	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒、石英、雲母を多量に含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4～にぶい黄橙10YR7/3。	
109	土師器	杯	灰原1・1区上層	①16.2　②3.5 ③9.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/3。	
110	土師器	丸底杯	灰原1・1区上層	①(16.2)　②3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ミガキ?。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母を少量、5㎜程の礫を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
111	土師器	丸底杯	灰原1・1区上層	①15.6　②3.5	体部下位外面指頭圧痕、後体部下位～底部外面回転ナデ。その後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量、雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1、内灰白10YR8/2。	底部外面に黒斑。
112	土師器	蓋 (香炉)	灰原1・1区上層	②3.8+α つまみ径1.8	内外面ヘラミガキ。穿孔あり。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内暗灰N3/。	内面に煤付着。
113	土師器	蓋	灰原1・1区上層	①16.2　②2.05	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を多量、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4～橙5YR7/6。	
114	土師器	蓋	灰原1・1区上層	①(20.6)　②2.6+α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：0.5～3.5㎜の白色砂粒を多量、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/4～橙2.5YR6/6、内にぶい橙7.5YR7/4。	

表 5　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表5

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
115	土師器	脚付椀	灰原1・1区上層	②4.35+α　④(10.2)	高台成形・貼付の回転ナデ。底部内面ナデ。	A：白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4～明黄褐10YR7/6、内明黄褐10YR7/6。	
116	土師器	脚部	灰原1・1区上層	②3.1+α	ナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
117	土師器	皿	灰原1・1区上層	①16.8　②2.5 ③13.0	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～2.5㎜の白色砂粒を多量、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外淡橙5YR8/3～橙5YR7/6。	
118	土師器	高台付皿	灰原1・1区(褐色流入土)	①(22.8)　②2.9 ③(14.9)	摩滅のため調整不明。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量、0.5～1㎜の赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外橙5YR6/8～褐灰7.5YR5/2。	
119	土師器	椀	灰原1・1区上層	①(25.2)　②5.8+α	体部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を少量、微細な茶色粒を少量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1。	120と同一個体と思われる。
120	土師器	椀	灰原1・1区上層	②5.6+α　④(13.0)	体部外面回転ナデ。高台回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒を少量、微細な茶色粒を少量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1。	119と同一個体と思われる。
121	土師器	鉢	灰原1・1区上層	②8.8+α	体部～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。把手貼付のナデ。他は回転ナデ。	A：3㎜程の白色砂粒を多量含む。雲母、赤褐色粒を多量に含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3～灰黄褐10YR5/2。	
122	土師器	鉢	灰原1・1区上層	①(14.4)　②8.2 ③10.0	底部内外面不定方向ナデ。体部下位内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：底部淡黄2.5Y8/3、口縁部～体部橙7.5YR7/6、内橙7.5YR7/6。	
123	土師器	鉢	灰原1・1区上層	①(16.2)　②7.6+α	体部下位外面回転ヘラケズリ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜程の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
124	土師器	鉢	灰原1・3区上層	①(20.9)　②6.2+α	摩滅のため調整不明。	A：微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：内外明黄褐10YR7/6。	
125	土師器	大皿?	灰原1・1区上層	①(29.0)　②4.1 ③(11.0)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1.5㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄橙10YR8/3。	
126	土師器	鉢	灰原1・1区上層	②8.1+α　④(11.7)	体部下位～底部1/2回転ヘラケズリ。底部1/2外面ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外明赤褐5YR5/8～にぶい黄橙10YR7/4、内明赤褐5YR5/6～にぶい黄橙10YR7/4。	板状圧痕。
127	土師器	鉢	灰原1・1区上層	②6.0+α　③15.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4㎜の白色砂粒を多量、雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR6/2。	
128	土師器	甕	灰原1・1区上層	①(25.0)　②7.0+α	口縁部ヨコナデ後内面横方向のハケメ。体部外面縦方向のハケメ、内面縦方向のヘラケズリ。口縁部に穿孔。	A：白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外黒2.5Y2/1、内にぶい黄橙10YR6/4～褐灰10YR4/1。	外面に煤付着。 内面に黒斑。
129	土師器	甕	灰原1・1区上層	①(31.2)　②8.7+α	口縁端部ヨコナデ。口縁部内面・口縁部～体部外面ハケメ。体部内面ヘラケズリ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR7/3。	外面に煤付着。
130	土師器	甕	灰原1・1区上層	①(24.4)　②11.6+α	口縁部回転ナデ。体部外面縦方向ナデ、内面指頭圧痕、後回転ナデ・不定方向ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y4/1～灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y7/3～暗灰黄2.5Y5/2。	
131	須恵器	甑	灰原1・1区上層	②6.8+α	一部格子タタキあり。指頭圧痕、後ナデ。接合面にハケメと指頭圧痕あり。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR6/2～灰白2.5Y8/2、内浅黄2.5Y7/3。	把手。
132	土師器	鉢	灰原1・3区上層	②4.6+α	ヨコナデ。把手貼付のナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外橙5YR6/8。	
133	土師器	壺	灰原1・1区上層	②5.6+α　③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母を多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰黄2.5Y7/2、内暗灰N3/。	内外面に黒斑。
134	青磁	小甕	灰原1・1区(褐色流入土)	①(6.4)　②7.55+α	体部上位外面・口縁部内外面・体部内面回転ナデ。体部中位～下位外面回転ヘラケズリ?残存部全面施釉。体部外面に1条沈線。	A：黄灰2.5Y6/1。微細な白色、黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：ブロンズ5Y4.0/5.5。	光沢あり。 半透明釉。
135	陶器	壺	灰原1・1区上層	②8.6+α　③8.0	底部外面はナデ。他は回転ナデ。体部上位外面に施釉。	A：灰白2.5Y7/1。微細な黒色粒をやや多量、微細な白色粒を少量含む。B：良好。C：ブロンズ5Y4.0/5.5。	不透明釉。 光沢は少ない。
136	瓦	丸瓦	灰原1・3区上層	長7.0+α　幅8.8 高5.9　厚1.4	凹面シボリ痕?外面平行タタキ。側縁をヘラ切り。	A：微細～1㎜程度の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：凹黄灰2.5Y6/1～にぶい黄橙10YR7/4、凸明黄褐10YR7/6～黄灰2.5Y6/1。	
137	瓦	平瓦	灰原1・1区上層	長9.9+α　幅7.2+α 厚1.4	凹面摸骨痕・布目痕。凸面擬格子タタキ。	A：1㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：凹褐灰10YR5/1、凸暗赤灰10R4/1～灰N4/。	

表 6　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表6

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
138	瓦	平瓦	灰原1・1区上層	長5.5 幅9.8 厚1.6	凹面布目痕、凸面平行タタキ。側縁部ヘラ切り。	A：微細～1㎜の白色砂粒、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：凹凸灰5Y6/1～灰N4/。	
139	瓦	平瓦	灰原1・1区上層	長14.0+α 幅17.1+α 断面厚2.1	凹面布目痕一部ヘラケズリ、凸面平行タタキ。側縁ヘラ切り。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。須恵質。C：凹灰N5/～灰白N8/、凸灰N4/～暗灰N3/。	二次焼成をうける。
140	瓦	平瓦	灰原1・1区上層	長9.9 幅12.3 厚1.9	凹面布目痕、凸面縄目タタキ。側縁部ヘラ切り。	A：微細～4㎜程の白色砂粒やや多量含む。B：良好。C：凹凸黒10YR2/1。	
141	瓦	平瓦	灰原1・1区上層	長14.9+α 幅12.9+α 厚2.1	凹面は糸切り痕・布目痕あり。凸面縄目タタキ。	A：微細～3㎜の白色砂粒をやや多量に、雲母を微量含む。B：やや不良。C：凹灰N4/、凸灰N5/～灰白2.5Y8/2。	
142	石製品	石鍋 (転用品)	灰原1・1区(褐色流入土)	縦5.9 横5.95 厚2.9　重量87.7	ケズリ。把手部分に穿孔あり。		滑石製。
143	石製品	砥石	灰原1・1区上層	長6.1+α 幅10.3 厚2.2 重量183.8			4面使用。
144	木製品	用途 不明品	灰原1・1区上層	縦7.8 横3.7 厚0.8	ケズリ。		板材。
145	木製品	用途 不明品	灰原1・1区上層	縦11.1 横4.1 厚0.4	穿孔２ヶ所あり。		板材。
146	木製品	用途 不明品	灰原1・1区上層	縦22.3 横4.9 厚0.5	穿孔２ヶ所あり。端部斜方向に削り出し。		板材。
147	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①(11.4) ②3.75	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1～橙5YR6/6、内灰白2.5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。
148	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①10.45 ②3.65+α	ヘラ切り。外面3/4～内面2/3回転ナデ。内面1/3ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	天井部外面にヘラ記号。
149	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層黒色	①(12.0) ②4.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：1～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を含む。B：やや良好。C：外橙5YR7/8、内橙5YR7/8～浅黄橙10YR8/3。	天井部外面にヘラ記号。
150	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①10.7 ②3.05	外面2/3ヘラ切り後不定方向ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C：外灰N6/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
151	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①11.95 ②3.6	外面1/2ヘラ切り後回転ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1㎜程の砂粒を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
152	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①(13.6)②4.5	外面1/2を回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/～灰赤2.5YR4/2、内暗灰N3/。	
153	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①(13.6) ②4.55	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
154	須恵器	杯蓋	灰原1・3区間横ベルト3層	①9.35 ②3.7 受部径11.45 つまみ径1.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母を多量に含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。	
155	須恵器	杯蓋	灰原1・1区中層	①9.0 ②2.25 受部径11.05	外面2/3手持ちヘラケズリ後不定方向ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：3～5㎜程の石英やや多量含む。B：やや良好。C：外灰N6/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。焼き歪む。
156	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①8.3 ②2.55+α 受部径10.4	底部外面ヘラ切り。外面3/4～内面1/2回転ナデ。内面1/2ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y7/1。	
157	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①(9.25) ②3.2 受部径(11.6)	底部外面ヘラ切り。外面1/2～内面1/3回転ナデ。内面2/3不定方向ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N4/。	
158	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①8.8 ②3.45 受部径11.35	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～暗灰N3/、内灰N5/。	外面に降灰。
159	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①9.8 ②3.5 受部径11.6	外面1/2ヘラ切り後ナデ、1/2回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A：0.5㎜程の白色砂粒を含む。B：不良。C：外橙7.5YR6/6、内褐灰10YR5/1。	外面ヘラ記号。回転方向右。
160	須恵器	杯身	灰原1・3区間横ベルト3層	①(9.5) ②2.8 受部径11.7	外面1/2ヘラ切り後不定方向ナデ。内面1/3摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1㎜前後の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を多量に含む。B：不良。C：外橙5YR6/6～黒褐2.5Y3/1、内橙5YR6/6～浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y5/1。	
161	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①9.55 ②3.25 受部径11.5	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰黄褐10YR5/2、内灰N5/。	体部外面にヘラ記号。
162	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①9.8 ②3.2 受部径11.7	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母、微細な白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外灰白10YR8/2～にぶい褐7.5YR5/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	底部外面にヘラ記号。
163	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①9.85 ②3.4 受部径11.9	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1。	底部にヘラ記号。
164	須恵器	杯身	灰原1・1区中層	①10.0 ②3.3 受部径12.3	外面1/2手持ちヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：白色砂粒と赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3。	底部外面にヘラ記号。
165	須恵器	杯	灰原1・1区中層	①(10.65) ②3.5 ③7.0	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量、雲母をやや多量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3～黄灰2.5Y5/1、内にぶい橙7.5YR6/4。	外面にヘラ記号。
166	須恵器	杯	灰原1・1区中層	①12.3 ②3.95 ③7.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1～灰N5/、内灰7.5Y5/1～灰N5/。	
167	須恵器	杯	灰原1・1区中層	①(12.8) ②3.45 ③7.8	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1。	板状圧痕。

表 7　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表7

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
168	須恵器	高杯	灰原1・1区中層	①(10.2) ②4.7+α	杯部底部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微粒～1mm程の白色砂粒、茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰褐5YR5/2～灰褐5YR6/2、内褐灰5YR6/1～灰褐5YR4/2。	回転方向右。
169	須恵器	高杯	灰原1・1区中層	②3.15+α 裾部径6.0	回転ナデ。外面上位らせん状の4条沈線。	A：0.5mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1～灰N6/、内灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1～灰N6/。	脚部内面にヘラ記号。
170	須恵器	高杯	灰原1・1区中層	②5.3+α 脚裾部径9.0	回転ナデ。外面上位らせん状の4条沈線。	A：0.5～1.5mmの白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	外面に降灰。
171	須恵器	鉢	灰原1・1区中層	①(19.0) ②6.3+α	外面平行タタキ後ナデ後体部下位手持ちヘラケズリ。内面同心円文当て具痕。口縁ヨコナデ。	A：0.5～2mm程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR6/4、内灰黄2.5Y7/2。	
172	須恵器	壺	灰原1・1区中層	②11.3+α ③10.75	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1mm程の白色砂粒を含む。B：良好。C：内外灰N5/。	回転方向右。
173	須恵器	横瓶	灰原1・1区中層	①13.3～13.4 ②10.15+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内暗灰N3/～灰N6/。	口縁部～頸部にヘラ記号。
174	須恵器	平瓶	灰原1・1区中層	①8.0 ②19.5 ③13.8	体部外面回転ナデ後カキメ。円盤閉塞後、ヨコナデにより口縁部接合。他は回転ナデ。肩部2ヶ所に1条・2条沈線。頸部接合部に穿孔。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～灰N6/(口縁部～頸部)、内灰白2.5Y7/1。	頸部外面にヘラ記号。
175	須恵器	甕	灰原1・1区中層	②6.5+α	口縁部内面回転ナデ。外面カキメ後2ヶ所に2条沈線施文後斜線文施文。	A：0.5mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N3/～暗オリーブ灰2.5GY4/1。	沈線間に斜線文施文後ボタン状突起を装飾。
176	須恵器	大甕	灰原1・1区中層	①(44.5) ②12.75+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面斜線文施文後2ヶ所に2条沈線。	A：礫を含む。B：不良。C：外赤褐5YR4/8～褐灰10YR4/1、内淡橙5YR8/4～明赤褐5YR5/8。	焼け歪み。 沈線間に斜線文。
177	須恵器	用途不明品	灰原1・1区中層	縦5.6 横5.4 最大厚3.4 重量78.1	調整不明。穿孔あり。	C：にぶい橙7.5YR6/4～橙2.5YR6/6。	一部が赤変。
178	土師器	杯	灰原1・1区中層	①(12.8) ②3.4 ③(7.25)	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～1mm程の白色砂粒と雲母を含む。B：良好。C：内外明赤褐5YR5/6～にぶい赤褐5YR4/3。	内面二次被熱。 外面煤か? 回転方向右。
179	土師器	蓋	灰原1・1区中層	①(19.8) ②2.5	外面2/3回転ヘラケズリ後1/3回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/5、内橙7.5YR7/5。	天井部に同心円文状のキザミ。
180	土師器	蓋	灰原1・1区中層	①17.2 ②2.9 つまみ径(2.1)	外面1/3回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。つまみ部回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～1mm程の白色砂粒、雲母を少量、赤褐色粒を微量含む。B:良好。C：外橙5YR6/6、内橙5YR6/6。	
181	土師器	皿	灰原1・1区中層	①16.55 ②2.0 ③12.85	底部2/3外面回転ヘラケズリ、1/3はヘラ切り。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～1mm程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C：外橙5YR6/6～浅黄橙10YR8/3、内橙5YR6/6～にぶい橙7.5YR7/3。	
182	土師器	皿	灰原1・1区中層	①16.7 ②1.8 ③14.0	底部外面粗い回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～1mm程の白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外橙5YR6/8、内橙5YR6/8～にぶい黄橙10YR7/2。	
183	土師器	鉢	灰原1・1区中層	①(21.0) ②9.7	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ、内面放射状のナデ。把手貼付のナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい橙7.5YR6/4。	
184	土師器	鉢	灰原1・1区中層	①(26.2) ②8.4+α	口縁端部ヨコナデ。体部内面横方向のヘラケズリ。他はハケメ。	A：0.5～2mm程の白色砂粒と赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外暗褐10YR3/3、内にぶい黄橙10YR6/4～暗褐10YR3/3。	外面に煤付着。
185	土師器	鉢	灰原1・1区中層	①(24.85) ②10.6 ④12.45	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ後体部下位回転ヘラミガキ。底部内面不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5mm程の白色砂粒と雲母を含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい橙7.5YR6/4。	内面黒色。
186	土師器	甑	灰原1・1区中層	②7.7+α	差込式の把手。指頭痕を残すナデ。	A：礫を多量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい黄橙10YR7/3、接合面褐灰10YR5/1。	把手。
187	土師器	甕	灰原1・1区中層	①(32.4) ②14.0+α	口縁端部ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。他はハケメ。	A：微細～2mm程の白色砂粒、雲母を少量、4mm程の礫を含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～明赤褐5YR5/6、内淡黄2.5Y7/3。	外面に煤付着。 外面黒斑。
188	須恵器	杯蓋	灰原1・1区5層	①(13.6)②4.1 つまみ径2.1	内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3mm程の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	回転方向右。
189	須恵器	杯身	灰原1・1区5層	①8.8 ②2.5 受部径11.0	外面1/3ヘラ切り後ナデ、1/3手持ちヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3mm程の白色砂粒、1mm程の黒色粒と微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	蓋か?底部内面にヘラ記号。回転方向右。
190	須恵器	杯身	灰原1・1区5層	①(12.7) ②(4.35～4.95) ④9.1	底部外面はヘラ切り後一定方向ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2mm程の白色砂粒と1mm程の黒色粒を含む。B：良好。C：外灰N4/～暗灰N3/、内灰N4/。	体部と底部の外面にヘラ記号。
191	須恵器	杯身	灰原1・1区5層	①(17.7) ②7.15 ④(10.3)	体部下位～底部外面を回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2mm程の白色砂粒と黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/、内灰N4/～灰N5/。	底部外面にヘラ記号・重ね焼の痕跡。内面に火襷。回転方向右。
192	須恵器	不明	灰原1・3区間横ベルト5層	②1.7+α 孔径1.0	回転ナデ後、底部中央に穿孔。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1、内灰白5Y7/1。	

表 8　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表8

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
193	土師器	杯	灰原1・1区5層	①13.2　②3.4 ③6.9	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜程の白色砂粒、4～5㎜の礫、1㎜程の黒色粒、赤褐色粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外橙5YR7/6～浅黄橙7.5YR8/6、内にぶい橙7.5YR7/4～橙5YR7/6。	口縁部に煤付着。
194	土師器	丸底杯	灰原1・1区5層	①(15.0)　②3.7	内面コテ当て。底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1～2㎜程の白色砂粒、黒色粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
195	土師器	鉢	灰原1・1区5層	②6.1+α　③(15.2)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面を不定方向ナデ。把手貼付の指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：0.5～1㎜程の白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい赤褐2.5YR5/4、内にぶい橙7.5YR6/4～にぶい褐7.5YR5/3。	外面に煤付着。
196	須恵器	杯身	灰原1・1区出土状況1-5	①(12.5)　②3.75 ④(7.2)	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。	回転方向右。
197	須恵器	皿 (転用硯)	灰原1・1区出土状況1-1	①(15.0)　②1.75+α ③(10.4)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰白N8/、内灰7.5Y6/1～灰白N8/。	底部内面に墨痕。
198	須恵器	壺	灰原1・1区出土状況1-23	①3.15　②8.15 ③5.85　⑤9.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。外面にシボリ痕あり。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N5/。	回転方向右。
199	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-16	①13.35　②3.2 ③7.8	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒、赤褐色砂粒を含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	
200	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-17	①13.5　②3.3 ③7.3	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1㎜の白色砂粒、微細な赤褐色粒、雲母を少量含み、2～5㎜の礫を微量含む。B：良好。C：外淡黄2.5Y8/3～灰白2.5Y8/1～にぶい橙7.5YR7/4、内灰黄2.5Y7/2～灰白2.5Y8/2。	
201	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-24	①13.2　②3.25 ③7.05	底部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～1㎜の白色砂粒、微細な雲母を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3。	回転方向右。
202	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-27	①13.6　②3.2 ③6.9	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～2㎜の白色砂粒、赤褐色粒、微細な雲母を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
203	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-14	①13.55　②3.25 ③8.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒、雲母片を少量含む。B：良好。C：外橙5YR6/6～にぶい橙7.5YR7/4、内浅黄橙10YR8/4。	回転方向右。
204	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-28	①15.5　②3.3 ③9.5	回転ナデ成形後、底部外面～体部1/4を回転ヘラケズリ。内面全面を回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒と赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR6/6、内にぶい黄橙10YR7/2～橙5YR6/6。	回転方向右。
205	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-4 灰原1・1区出土状況1-16 灰原1・1区出土状況1-35	①15.25　②3.75 ③7.85	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/3。	板状圧痕。
206	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-5	①15.4　②4.0 ③8.3	体部下位～底部外面を回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、雲母を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	回転方向右。
207	土師器	杯	灰原1・1区出土状況1-10	①15.3　②3.6 ③8.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3、内浅黄橙10YR8/3～浅黄橙7.5YR8/3。	板状圧痕。
208	土師器	杯 (灯明)	灰原1・1区出土状況1-33 灰原1・1区出土状況1-26	①13.4　②3.4 ③6.6	底部外面を回転ヘラケズリ。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を含み、雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4～橙5YR7/6、内にぶい橙7.5YR7/3～橙5YR6/6。	内面5ヶ所に煤付着。回転方向右。
209	土師器	杯 (灯明)	灰原1・1区出土状況1-21	①12.8　②3.1 ③7.5	底部外面回転ヘラケズリ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、3～4㎜の白色粒を少量含む。B：良好。C：外橙7.5Y7/6～灰白10YR8/2、内浅黄橙10YR8/3～にぶい橙5YR7/4。	口縁部に煤付着。
210	土師器	蓋	灰原1・1区出土状況1-10	①16.2　②2.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を含み、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4～灰白10YR8/1、内浅黄橙10YR8/3～灰白10YR8/1。	
211	土師器	椀	灰原1・1区出土状況1-8	①18.6　②7.35 ④9.1	体部下位回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
212	土師器	皿	灰原1・1区出土状況1-28	①15.2　②2.05 ③11.5	底部3/4外面回転ヘラケズリ、1/4ヘラ切り後ナデ。底部内面不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～1㎜の白色砂粒、黒色粒、茶褐色粒を含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3～浅黄橙10YR8/2～にぶい橙5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙5YR7/4。	回転方向右。
213	土師器	皿	灰原1・1区出土状況1-9	①15.9　②2.0 ③12.45	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～1㎜の白色砂粒、褐色砂粒を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR6/1。	
214	土師器	皿	灰原1・1区出土状況1-19	①15.25　②1.9 ③11.0	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/2。	
215	土師器	皿	灰原1・1区出土状況1-7 灰原1・1区出土状況1-8 灰原1・1区出土状況1-23	①15.95　②2.15 ③12.1	底部外面ヘラ切り後回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～浅黄橙7.5YR8/3、内淡橙5YR8/4～灰白10YR8/2。	
216	土師器	皿	灰原1・1区出土状況1-26	①16.0　②1.8 ③13.0	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒、微細な雲母と赤褐色粒を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。

表 9　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表9

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
217	土師器	鉢 (把手付)	灰原1・1区出土状況1-22	①(23.2)②9.4+α	体部中位回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1㎜の白色砂粒、微細な雲母粒を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3。	
218	土師器	丸底杯	灰原1区検出中	①14.1 ②2.7	底部外面調整不明。体部外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下赤褐色粒と1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～橙2.5YR7/6～にぶい赤橙10YR6/3～灰N6/、内灰白2.5Y8/2～にぶい橙7.5YR6/4、断面灰白2.5Y8/2～橙2.5YR7/6～灰N7/～オリーブ黒7.5Y3/1。	底部外面に黒斑・焼きムラ。板状圧痕。
219	土師器	丸底杯	灰原1区検出中	①15.4 ②3.4	体部下位～底部外面ヘラ切り。体部外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外共浅黄橙10YR8/3～黄橙7.5YR7/8。	板状圧痕。
220	土師器	丸底杯	灰原1区検出中	①16.0 ②3.45	体部下位～底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4～明黄褐10YR7/6。	板状圧痕。
221	白磁	椀	灰原1区検出中	①(14.6) ②4.15+α	口縁部下位～体部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。玉縁口縁。残存部全面に施釉。	A：灰白7.5Y8/1。微細な黒色、白色粒をやや多量含む。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0。	半透明釉、光沢あり、釉膜は薄い。
222	白磁	椀	灰原1区検出中	①15.1 ②7.15 ④6.4	口縁部下位～体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面回転ナデ、見込みに段を持つ。内面～体部外面に施釉。一部貫入が入る。	A：浅黄2.5Y8/3。微細な白色、黒褐色粒を少量含む。B：良好。C：灰白2.5Y8/1～8/2、明褐灰7.5Y7/2～にぶい褐7.5Y6/3。	やわらかな光沢あり。
223	青磁	椀	灰原1区検出中	②5.3+α ④(8.4)	外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面回転ナデ。体部外面・内面に施釉。	A：浅黄2.5Y7/3。微細な黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：ブロンズ5Y4.0/5.5。一部ストレートグリーン3G4.0/2.0に変色。	内面3ヶ所に目跡。透明釉、光沢あり。釉膜薄い。
224	染付	椀	灰原1区検出中	②2.3+α ④(3.6)	全面施釉後高台畳付の釉をかき取る。体部外面、内面見込みに文様。貫入が入る。	A：灰白5Y8/1。微細な茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：藍白5B8.5/2.0。半透明釉、光沢あり。文様紺青GPB2.5/9.5。	
225	陶器	甕	灰原1区検出中	①(27.0) ②8.6+α	口縁部～体部回転ナデ後、褐釉を薄く施釉。	A：灰5Y5/1。0.5～1㎜の白色砂粒を多量、0.5㎜程の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外黒褐5YR3/1、内にぶい赤褐5YR4/3。	内面に光沢があるが、外面にはなし。
226	須恵器	杯蓋	灰原2・1区	①(12.9) ②3.7	外面1/2不定方向ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3～黄褐10YR5/8、内灰黄2.5Y7/2～明褐7.5YR5/6。	
227	土師器	小皿	灰原2・1区	①9.6 ②1.5	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/4。	板状圧痕。
228	土師器	小皿	灰原2・4区上層	①9.95 ②1.3 ③7.3	底部外面ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～8㎜の白色砂粒と1㎜ほどの雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
229	土師器	小皿	灰原2・4区上層	①10.4 ②1.05～1.8 ③8.45	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒、微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/4、内灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/2。	板状圧痕。
230	土師器	杯 (穿孔)	灰原2・4区下層	①(13.5) ②3.1 ③6.1	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向のナデ。他は回転ナデ。底部中央に焼成後穿孔。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄2.5Y6/3～褐10YR4/4。	
231	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①(14.8) ②3.3	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁部内面コテ当て。他は回転ナデ。口縁端部沈線状に成形。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4～浅黄2.5Y7/3、内浅黄橙10YR8/4。	
232	土師器	丸底杯	灰原2・4区上層	①15.4 ②3.1	体部外面ナデ。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。体部～底部内面不定方向ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～にぶい黄橙10YR6/4～橙5YR6/6、内浅黄2.5Y7/3。	
233	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①(15.6) ②3.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4、内灰白2.5Y8/2～にぶい黄橙10YR7/3～褐7.5YR4/6。	
234	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①15.4 ②3.8	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y5/1、内浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
235	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①15.4 ②3.4	底部外面はヘラ切り後不定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。口縁端部沈線状に成形。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/4～にぶい黄橙10YR7/4、内黄灰2.5Y6/1～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
236	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①16.0 ②3.9	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒をやや多量に含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4～明黄橙10YR7/6～灰5Y4/1、内浅黄橙10YR8/4～明黄橙10YR7/6～灰5Y4/1。	板状圧痕。
237	土師器	丸底杯	灰原2・1区	①15.6 ②3.7	底部外面はヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。体部内面回転ナデ後縦方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、雲母をやや多量に含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/4。	板状圧痕。

表 10　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表10

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
238	土師器	椀	灰原2・1区	①15.5 ②6.0 ④6.6	高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4～浅黄橙7.5YR8/4～褐7.5YR4/6～明褐7.5YR5/6、内浅黄橙10YR8/4～浅黄橙7.5YR8/4～7.5YR4/6～明褐7.5YR5/6。	板状圧痕。
239	土師器	脚付杯か椀	灰原2・4区上層	②4.0+α　幅2.3+α	ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～灰N6/、内灰白2.5Y8/2。	
240	土師器	脚付椀か杯	灰原2区左側遺構上層	②4.7+α	脚部ナデ。底部内面ヘラミガキか?	A：微細な白色砂粒、雲母を多量に含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内にぶい黄橙10YR7/4。	
241	土師器	椀	灰原2・4区上層	②6.0+α　④(10.2)	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。体部内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を多量に含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR6/4～褐10YR4/4、内にぶい黄橙10YR6/4～褐10YR4/4。	
242	土師器	壺	灰原2・1区	②9.5+α　③11.9	底部1/6外面回転ヘラケズリ。底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2、内灰白2.5Y8/2。	
243	白磁	椀	灰原2区左側遺構上層	①(17.4) ②4.4+α	残存部全面施釉。玉縁口縁。	A：灰白5Y8/1。黒色粒を微量含む。B：良好。C：灰白5Y8/2。	透明釉。細かい貫入が全面に入る。
244	黒色土器A類	椀	灰原2・4区上層	①(16.0) ②4.9	体部外面指頭圧痕。底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ。内面ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、雲母をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰黄2.5Y5/2～黄灰2.5Y5/1～浅黄2.5Y7/3、内黒N2/～灰5Y4/1。	
245	鉄滓		灰原3区1層(キカイ掘)	長2.8 幅3.95 厚2.1 重量27.0			
246	鉄滓		灰原3区1層(キカイ掘)	長3.8 幅4.4 厚3.15 重量41.2			
247	鉄滓		灰原1区1層(キカイ掘)	長3.15 幅2.65 厚2.0 重量15.7			
248	鉄滓		灰原3区1層(キカイ掘)	残存長3.1 残存幅1.85 厚1.0 重量5.2			
249	土師器	椀	谷部A-1区(青灰色土)	①(15.6) ②4.7 ④6.85	内面摩滅のため調整不明。高台～底部外面回転ナデ。他は回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白7.5YR8/1。	
250	須恵器	杯蓋	谷部A-4区2層(黒色土)	①(12.0) ②3.3	天井部外面ヘラ切り。外面1/2～内面2/3回転ナデ。他はナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～暗青灰5PB4/1、内暗青灰5PB4/1。	天井部外面にヘラ記号。
251	須恵器	杯蓋	谷部A-4区2層(黒色土)	①(10.3) ②2.4 ⑤(12.6)	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/3ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外暗青灰5PB4/1。	天井部外面にヘラ記号。
252	須恵器	杯身	谷部A-4区2層(黒色土)	①12.2 ②3.9 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1～灰N5/、内灰N5/～灰N3/。	
253	須恵器	壺	谷部A-3区北斜面2層	②8.3+α　③(9.4)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。	底部にヘラ記号。焼き歪む。
254	須恵器	切削物	谷部A-2区2層(黒色土)	長3.4 幅6.1 厚1.4	外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。側縁はちぎったようになる。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：不良。C：外灰白5Y8/1～オリーブ黒7.5Y3/1、内灰白5Y8/1。	甕製作時の切り落とし片。
255	須恵器	切削物	谷部A-2区2層(黒色土)	長1.8 幅4.8 厚1.0	外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。側縁はヘラ切り。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内暗灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
256	土師器	小皿	谷部A-2区2層	①(9.5) ②1.45 ③7.15	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母ならびに1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/1～褐10YR4/6。	板状圧痕。
257	土師器	小皿	谷部A区灰原2周辺2層(黒色土)	①(9.8) ②1.6 ③(7.3)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：4㎜ほどの白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/1～灰赤2.5YR4/2～明赤褐2.5YR5/8。	口縁部～体部外面に焼きムラ。板状圧痕。
258	土師器	小皿	谷部A-2区2層(黒色土)	①9.95 ②1.55 ③7.1	底部外面調整不明、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR7/8、内灰白2.5Y8/2～灰白2.5Y8/1。	板状圧痕。
259	土師器	小皿	谷部A-3区2層	①9.9 ②1.85 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～黄橙10YR7/8、内にぶい黄橙10YR7/3～10YR7/4。	板状圧痕。
260	土師器	小皿	谷部A-4区2層(黒色土)	①10.25 ②1.6 ③7.75	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、石英と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/1～灰N5/～灰白5Y7/1～灰白2.5Y8/2、内灰白10YR8/1～灰白10YR7/1～灰N7/。	板状圧痕。
261	土師器	小皿	谷部A区灰原2周辺2層(黒色土)	①9.35 ②0.95～1.6 ③7.15	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外共灰白2.5Y8/1～にぶい褐7.5YR5/4。	板状圧痕。
262	土師器	小皿	谷部A-2区2層(黒色土)	①9.3 ②1.1 ③7.3	底部外面ヘラ切り、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/2。	板状圧痕。
263	土師器	小皿	谷部A-2区2層	①9.7 ②1.3 ③7.2	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む。2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/4～灰黄褐10YR4/2、内灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3。	口縁部に煤付着。板状圧痕。
264	土師器	小皿	谷部A-2区2層(黒色土)	①10.65 ②1.1～1.6 ③7.9	底部外面調整不明、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒と微細な雲母、赤色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～浅黄橙7.5YR8/4～浅黄橙7.5YR8/6～橙2.5YR7/6、内灰白10YR8/2～浅黄橙7.5YR8/4～橙7.5YR6/8。	板状圧痕。

表 11　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表11

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
265	土師器	小皿	谷部A-2区2層(黒色土)	①(9.4) ②1.05 ③7.0	底部外面ヘラ切り、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい黄橙10YR7/2～灰白2.5Y8/2～橙5YR6/6、内灰黄2.5Y7/2～灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
266	土師器	小皿	谷部A-2区2層(黒色土)	①(10.0) ②1.2 ③(8.1)	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：1～4㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1～灰白5Y8/1。	板状圧痕。
267	土師器	小皿	谷部A-4区2層(黒色土)	①9.5 ②0.95 ③7.3	底部外面ヘラ切り、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y8/1～明赤灰7.5YR7/1。	
268	土師器	小皿	谷部A-4区２層(黒色土)	①(9.15) ②1.15 ③(7.55)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、1㎜ほどの灰色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰白2.5Y8/1～灰白7.5Y8/1。	板状圧痕。
269	土師器	小皿 (畿内産)	谷部A-2区2層	①(10.0) ②1.2 ③(7.6)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～灰白2.5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y7/2～黄褐2.5Y5/6。	
270	土師器	小皿 (都城系)	谷部A-4区2層(黒色土)	①(10.2) ②1.05+α	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面不定方向ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/2～褐灰10YR5/1、内にぶい黄橙10YR6/2～黒N2/。	
271	土師器	小皿 (灯明)	谷部A-4区2層(黒色土)	①(9.8) ②1.2 ③7.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4、中心部黒褐10YR3/1。	底部内面に煤付着。
272	土師器	小皿	谷部A-2区2層	①(10.4) ②1.3 ④(8.7)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに0.5㎜以下の雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR5/2、内にぶい黄橙10YR7/2～にぶい橙5YR6/4。	内面に煤付着。板状圧痕。
273	土師器	小皿	谷部A-2区2層	①(10.0) ②0.9 ③(7.65)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を少量含む。2㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR6/2～にぶい黄褐10YR4/3～黒10YR2/1。	底部内面に煤付着。板状圧痕。
274	土師器	杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①12.4 ②3.6 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外橙5YR7/6。	
275	土師器	杯	谷部A区(灰原2周辺)2層	①12.8 ②3.6 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：外橙2.5YR6/6～橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR7/6。	
276	土師器	杯	谷部A-3区北側斜面2層	①13.6 ②4.2 ③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデか?他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR6/2。	
277	土師器	杯	谷部A区北側斜面2層	①(13.7) ②3.2 ③7.75	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/2～にぶい黄橙10YR6/4。	
278	土師器	杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(12.2) ②2.8 ③8.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外明黄褐10YR7/6。	
279	土師器	杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①13.2 ②3.6 ③6.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR5/2～にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい黄橙10YR6/3～灰黄褐10YR5/2。	
280	土師器	杯	谷部A-2区北側斜面2層	①(15.6) ②3.9 ③8.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。赤褐色粒をごく少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4、外底部付近一部明赤褐2.5YR5/6。	
281	土師器	杯	谷部A-3区2層	①(16.0) ②3.8 ③(8.5)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/2～にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
282	土師器	杯	谷部A-3区2層	①16.6 ②4.0 ③8.3	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部一部打ち欠き。焼き歪み。
283	土師器	杯	谷部A-2区2層	①(11.3) ②2.05 ③(8.3)	底部外面調整不明。体部～底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～褐10YR4/4、内にぶい黄橙10YR7/2～にぶい黄褐10YR5/4。	内面に煤付着。板状圧痕。
284	土師器	丸底杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(10.8) ②2.45	外面1/3ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む(混入物はほとんどない)。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～浅黄橙7.5YR8/4～淡赤橙2.5YR7/4。	底部外面に墨痕(方形か?)。
285	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①12.35 ②2.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕・ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、0.5㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～にぶい黄2.5Y6/3。	板状圧痕。
286	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(13.3) ②3.0	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/2。	
287	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(14.9) ②3.1	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	底部外面に黒斑。
288	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①15.2 ②3.0	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
289	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①(14.6) ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～2.5Y6/2。	板状圧痕。

表 12　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表12

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
290	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①14.8 ②3.0+α	体部～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/2。	内外面に黒斑。 板状圧痕。
291	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①14.45 ②3.4	体部～底部外面ヘラ切り。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
292	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①15.2 ②3.0+α	体部～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	
293	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①15.25 ②3.4	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y8/2。	
294	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①(15.2) ②3.55	底部外面ヘラ切り。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。 内面に黒斑。
295	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①15.1 ②3.85	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を微量含む、1㎜以下の雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y7/2。	
296	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層 谷部A-3区2層	①15.0 ②3.7	体部～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、1㎜以下の金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/3。	板状圧痕。
297	土師器	丸底杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①15.1 ②3.55	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ、指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	
298	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(14.9) ②3.25	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む、0.5㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y6/1。	板状圧痕。
299	土師器	丸底杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(14.9) ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、1㎜以下の雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
300	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①14.9 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒と1㎜以下の金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰白2.5Y7/1、内淡黄2.5Y8/3。	
301	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層	①15.5 ②3.4	体部下位外面指頭圧痕。体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3。	
302	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①15.9 ②3.2	底部外面ヘラ切り。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～4㎜の白色砂粒をやや多く含む、0.5㎜以下の金雲母を少量含む、1㎜程の赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
303	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①15.8 ②3.6	体部下位～底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。体部下位外面指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：0.5～4㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	内面に黒斑。 板状圧痕。
304	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層	①(15.35) ②3.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。体部下位外面指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	
305	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(15.65) ②3.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y6/2、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
306	土師器	丸底杯	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(15.5) ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
307	土師器	丸底杯	谷部A-2区2層(黒色土)	①(15.9) ②3.5+α	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3。	
308	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①16.05 ②3.7	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外淡黄2.5Y8/3～灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
309	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(15.8) ②3.75	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
310	土師器	丸底杯	谷部A-4区2層(黒色土)	①(15.8) ②3.65	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕・ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	
311	土師器	丸底杯	谷部A-3区2層	①(15.5) ②3.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。口縁部～体部内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	底部内面に墨痕か?
312	土師器	蓋	谷部A-2区2層(黒色土)	②1.5+α	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	内面に煤付着。
313	土師器	椀	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②6.2	体部外面～内面回転ナデ後手持ちヘラミガキ。体部外面1/2指頭圧痕。高台貼付の回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
314	土師器	椀	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②2.5+α ④9.0	外面回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A：細砂をやや多量含む雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～にぶい橙7.5YR6/4、内灰白2.5Y8/2。	
315	土師器	椀	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②2.9+α ④10.7	底部外面ヘラ切り後回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：やや良好。C：内外浅黄2.5Y7/3。	

表 13　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表13

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
316	土師器	椀	谷部A-2区2層	②2.3+α　④7.1	内面不定方向ナデ。外面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。微細な黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
317	土師器	皿	谷部A-4区2層(黒色土)	①(16.0) ②1.9 ③(12.8)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR5/2。	
318	土師器	皿	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(17.1) ②1.9 ③13.2	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR5/2～にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。
319	土師器	皿	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①(17.6) ②1.65 ③14.6	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
320	土師器	鉢	谷部A-2区2層	①(16.2) ②3.0+α	内面回転ヘラミガキ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR6/2。	
321	土師器	甕	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②3.7+α	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面下位ハケメ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部外面煤付着。
322	土師器	甕	谷部A-2区2層(黒色土)	②8.1+α	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部下位外面指頭圧痕。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外黒N2/～黒褐10YR3/1、内灰黄褐10YR5/2。	口縁部内外面に煤付着。
323	土師質土器	鉢	谷部A-4区2層(黒色土)	②4.55+α	内外面回転ナデ。内面回転ヘラミガキか?	A：細砂・粗砂を多量含む。B：やや良好。C：外灰白10YR8/1、内褐灰10YR6/1～褐灰10YR4/1。	
324	土師器	甑	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②6.7+α	把手部指ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。茶褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：外にぶい橙7.5YR7/4～にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/4。	把手。
325	土師器	甑	谷部A-3区北側斜面2層	②4.0+α	把手部指ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR5/1。	差込式把手。
326	土師器	壺	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	②4.5+α　③(12.2)	体部外面回転ナデ、内面は指ナデ。底部外面不定方向ナデ、端部回転ヘラケズリ、内面は指ナデ。	A：粗砂を微量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～浅黄橙7.5YR8/3、内灰白2.5Y8/2。	
327	黒色土器A類	椀	谷部A区(灰原2周辺)2層(黒色土)	①15.0 ②5.6 ④5.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。体部外面下位指頭圧痕。口縁部～体部内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内灰黄2.5Y6/2。	板状圧痕。
328	黒色土器A類	椀	谷部A-2区2層	②1.55+α　④6.4	底部外面ナデ、内面手持ちヘラミガキ。高台貼付の回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：内外灰白10YR8/1。	
329	黒色土器B類	椀	谷部A-2区北側斜面2層	①(16.0) ②6.2 ④7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後手持ちヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外黒褐2.5Y3/1～黒N2/。	板状圧痕。
330	黒色土器B類	椀	谷部A-3区2層	①(15.2) ②4.5+α	体部外面指頭圧痕、後ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3～黒N2/、内黄灰2.5Y5/1～黒N2/。	
331	黒色土器B類	椀	谷部A-4区2層(黒色土)	①(14.6) ②4.1+α	内外面手持ちヘラミガキ。体部外面下位指頭圧痕。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：内外黒N2/。	
332	黒色土器B類	椀	谷部A-2区2層(黒色土)	②4.0+α	内外面手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外黒7.5Y2/1。	
333	黒色土器B類	椀	谷部A-2区2層(黒色土)	②1.8+α　④(7.4)	内面手持ちヘラミガキ。外面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外黒7.5Y2/1。	
334	黒色土器B類	椀	谷部A-2区2層	②1.8+α　④6.55	内面手持ちヘラミガキ。外面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR5/2～黒N2/、内黒N2/。	
335	黒色土器B類	椀	谷部A-2区2層(黒色土)	②1.7+α　④(6.9)	内面手持ちヘラミガキ。外面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外黒7.5Y2/1。	
336	黒色土器B類	椀	谷部A-2区2層(黒色土)	②2.8+α　④7.1	内外面手持ちヘラミガキ。体部下位～底部外面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外黒7.5YR2/1～高台一部にぶい黄橙10YR7/3、内黒7.5YR2/1。	
337	瓦器	椀	谷部A-2区2層(黒色土)	①(15.2) ②4.8+α	体部下位外面指頭圧痕、後ミガキ。他はミガキ。	A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰5Y6/～5Y4/1、内灰5Y4/1。	
338	瓦	平瓦	谷部A-4区2層(黒色土)	縦5.5 横7.5 厚2.2	凸面平行タタキ。凹面布目痕、平行タタキ。側面ヘラ切り。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y7/1。	
339	石製品	砥石	谷部A-4区2層(黒色土)	縦4.0 横2.7 厚2.0	4面使用、両端を欠損。		砂岩
340	石製品	不明	谷部A-2区2層	縦5.5 横2.9 厚1.8～2.7 重量62.2	中央部に窪みあり。(使用痕か?)	C：赤褐色と白茶灰色のマーブル状。使用面と思われる部分は赤褐色。	
341	石製品	石鍋	谷部A-3区2層	②2.8+α　③19.2	内外面削り。		底部外面に煤付着。滑石製。
342	土製品	不明	灰原1・3区上層 谷部A-2区2層(黒色土)	縦8.2 横12.8 高3.7	指頭圧痕、後ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。一部環元。C：外にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR5/2～灰N4/～黄灰2.5Y6/1、内にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR5/2～灰N4/～黄灰2.5Y6/1。	
343	木製品	用途不明品	谷部A-3区2層	縦4.8 横38.0 厚0.4	表面に薄い刻み目。		
344	木製品	用途不明品	谷部A-2区2層(黒色土)	縦1.8　横5.3 最大厚0.2	表面に薄い刻み目。		
345	木製品	刀子の柄	谷部A-2区2層(黒色土)	縦2.0 横12.6 厚0.65	木釘2ヶ所あり、裏まで貫通。表面削り。		
346	木製品	曲物側板	谷部A-3区2層	縦5.2 横19.2 厚0.4	穿孔1ヶ所あり。		
347	須恵器	杯身	谷部A-2区3層	①(12.5) ②4.1 ③(8.4)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/、口縁部内面及び体部外面一部暗灰N3/に黒変。	
348	須恵器	壺	谷部A・B間ベルト5層	①(4.0) ②8.35 ③(7.3)	底部外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。肩部内面シボリ痕あり。	A：細砂を少量含む。微細な黒色粒をごく少量含む。B：良好。C：外灰N6/～オリーブ黒10Y3/1(釉部)、内灰N4/。	
349	木製品	杭	谷部A-3区3層	縦19.3 横2.2 厚2.0	先端部削り。		
350	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層	①10.7 ②3.6	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。	

表 14　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表14

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
351	須恵器	杯蓋	谷部A-3区4層	①11.1 ②3.3+α	内面1/2ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色・黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N8/。	天井部に破裂痕。
352	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層 谷部A-3区2層	①11.2 ②3.2	天井部外面ヘラ切り。外面2/3～内面1/3回転ナデ。他は回転ナデ後一定方向ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰10Y5/1、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
353	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層 谷部A-4区2層 谷部A・B間ベルト10層	①(12.0) ②4.1	天井部外面ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後不定方向ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外白～灰N7/(マーブル状)、内灰N7/。	焼き歪む。
354	須恵器	杯蓋	谷部A-3区4層	①11.5 ②3.5	外面1/3回転ヘラケズリ。天頂部未調整。内面1/2一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。
355	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層 谷部A-3区2層 谷部A-3区4層 谷部A-4区2層	①11.7 ②3.1	天井部外面ヘラ切り。外面1/3～内面1/2回転ナデ。他は回転ナデ後不定方向ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N4/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
356	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層(青灰色土)	①11.4 ②3.4	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～暗灰N3/、内暗灰N3/。	天井部外面ヘラ記号。外面降灰。(口縁から天井部へ垂れる)
357	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層	①(13.4) ②3.6	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。天井部中央部に穿孔。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
358	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層(青灰色土)	①8.7 ②3.0 受部径10.65 つまみ径1.2	内面1/4回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外青灰5B5/1。	天井部外面にヘラ記号。
359	須恵器	杯蓋	谷部A-3区4層	①(8.5) ②2.4+α 受部径(10.8)	外面1/2ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗青灰5B4/1、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
360	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層	①16.1 ②2.1	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色細粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/～黒N2/、内灰白N8/～灰N6/～暗灰N3/。	内外面重ね焼きの痕跡。
361	須恵器	杯身	谷部A・B間ベルト10層 谷部A-4区4層	①(10.7) ②3.5 受部径(13.0)	外面ヘラ切り。内面2/3摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2～にぶい褐7.5YR6/3、内灰白2.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
362	須恵器	杯身	谷部A-4区4層	①(9.6) ②3.5 受部径12.4	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰N5/～灰N6/、内灰N4/、断面赤灰5R5/1。	底部外面にヘラ記号。外面降灰。
363	須恵器	杯身	谷部A-4区4層 谷部A・B間ベルト2層	①(18.4) ②5.8 ④11.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y8/1～灰5Y4/1、内灰白5Y8/1。	板状圧痕。
364	須恵器	杯	谷部A-4区4層	①12.8 ②3.7 ③7.4	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰白N7/～暗灰N3/、内灰白N8/～灰白N7/。	外面に重ね焼きの痕跡。板状圧痕。
365	須恵器	杯	谷部A-4区4層	①12.9 ②3.4 ③7.8	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～青灰5B5/1、内灰白N7/～青灰5B5/1。	底部外面に墨書「口」。
366	須恵器	高杯	谷部A-3区4層	①10.4 ②3.7+α 受部径12.7	底部外面回転ヘラケズリ後脚部貼付の回転ナデ・工具ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N4/。	焼き歪む。 杯部外面に降灰。
367	土師器	杯	谷部A-4区4層	①12.8 ②3.5 ③6.4	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR4/1～明赤褐5YR5/6、内にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR4/1。	回転方向右。
368	土師器	杯	谷部A-4区4層	①12.8 ②3.5 ③5.6	体部～底部外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。微細な赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	回転方向右。
369	土師器	杯	谷部A-4区4層	①(13.2) ②3.65 ③7.1	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3～黒褐2.5Y3/1、内にぶい黄2.5Y6/3～にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。
370	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.2 ②3.3 ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面1/4回転ヘラミガキ、3/4布目?。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR6/6。	体部下位から底部内面に当て布の痕跡。
371	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.0 ②3.2+α ③7.1	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
372	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.35 ②3.4 ③6.2	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3～にぶい褐7.5YR5/3。	回転方向右。
373	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.3 ②3.1 ③7.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。赤褐色粒を微量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙7.5YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/3、断面橙7.5YR6/6。	回転方向右。
374	土師器	杯	谷部A・B間ベルト10層 谷部A・B間ベルト2層	①14.2 ②3.2 ③8.65	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外橙5YR6/6。	回転方向右。
375	土師器	杯	谷部A・B間ベルト8層	①(13.8) ②3.3 ③6.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面ナデ。他は回転ヘラミガキ。	A：粗砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/4。	
376	土師器	杯	谷部A-4区4層	①(13.8) ②3.6 ③7.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6。	回転方向右。
377	土師器	杯	谷部A-4区4層	①14.45 ②3.8 ③9.0	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位～底部1/4外面回転ヘラケズリ。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。

表 15　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表15

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
378	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.0 ②3.6 ③8.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。雲母を微量含む。微細な赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
379	土師器	杯	谷部A-4区4層	①(13.0) ②3.6 ③6.3	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂をやや多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/3～橙5YR7/6。	回転方向右。
380	土師器	杯	谷部A-4区4層	①(13.0) ②3.8 ③(7.0)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	
381	土師器	杯	谷部A-4区4層	①13.2 ②3.3 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外橙7.5YR6/8。	
382	土師器	杯	谷部A-4区4層	①(12.6) ②3.0 ③7.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/3。	内外面に墨痕。 板状圧痕。
383	土師器	蓋	谷部A-4区4層	①(17.4) ②3.4+α	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
384	土師器	蓋	谷部A-3区4層	①(16.6) ②2.0	外面2/3回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
385	土師器	香炉蓋	谷部A区(石垣側4区)4層 谷部A区(B区ベルト側)2層最下層 谷部A-4区4層	①17.2 ②5.9	通気部貼付のナデ。口縁部外面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4。	内面煤付着。
386	土師器	椀	谷部A-4区4層(青灰色土) 谷部A-3区2層	①16.8 ②5.2 ④(7.8)	底部外面ナデ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後ヘラミガキ。	A：精良で粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白N8/。	
387	土師器	皿	谷部A-4区4層	①15.0 ②1.5 ③12.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6～にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部一部焼き歪む。 板状圧痕。
388	土師器	皿	谷部A-4区4層	①15.0 ②1.5 ③11.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6～にぶい黄橙10YR7/3。	
389	土師器	皿	谷部A-4区4層	①15.0 ②2.0 ③11.8	底部外面回転ヘラケズリ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR5/1～にぶい黄橙10YR7/3、内褐灰7.5YR5/1～にぶい黄橙10YR7/2～にぶい褐7.5YR5/4。	回転方向左。
390	土師器	皿	谷部A-4区4層(青灰色土)	①15.4 ②2.25 ③11.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
391	土師器	皿	谷部A-4区4層	①16.1 ②2.3 ③12.4	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～黒2.5Y2/1。	回転方向右。
392	土師器	皿	谷部A-4区4層	①16.4 ②1.6 ③13.1	底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。
393	土師器	皿	谷部A-4区4層	①15.4 ②1.9 ③12.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4～橙5YR6/6。	板状圧痕。
394	土師器	皿	谷部A-4区4層	①16.6 ②1.7 ③12.9	体部～底部外面1/3回転ヘラケズリ。内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
395	土師器	皿	谷部A-4区4層	①16.0 ②1.9 ③12.3	体部～底部外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。微細な赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄褐10YR5/3～にぶい黄橙10YR7/3。	外面にヘラ記号。 回転方向右。
396	土師器	甕	谷部A-4区4層	①(17.6) ②8.2+α	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦方向ハケメ、内面は縦方向ヘラケズリ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、断面黄灰2.5Y5/1。	
397	土師器	甕	谷部A-3区4層	①(19.6) ②11.4+α	口縁部外面指頭圧痕、後内外面ヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ。	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR6/1。	体部外面上位に煤付着。
398	土師器	甕	谷部A-4区4層	②7.9+α	口縁部ヨコナデ。体部外面縦方向ハケメ?(摩滅)、内面縦方向のヘラケズリ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
399	土師器	甕	谷部A-4区4層	②4.0+α	口縁部ヨコナデ後内面横方向ハケメ、外面縦方向ハケメ。	A：細砂・粗砂を少量含む。赤褐色粒を微量含む。B：やや良好。C：内外灰白10YR8/2。	
400	土師器	甑	谷部A-4区4層(青灰色土)	②5.3+α	口縁部～体部外面縦方向ハケメ。口縁部内面横方向ハケメ。体部内面斜方向のヘラケズリ。	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y5/1。	
401	土師器	甑	谷部A-4区4層	②8.8+α	外面縦方向ハケメ、内面上・下方向ヘラケズリ。端部ヨコナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外褐灰10YR5/1、内褐灰10YR6/1。	
402	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層)	①10.2 ②3.5	外面1/4回転ヘラケズリ。天頂部未調整。内面2/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰N5/～黒N2/～灰白N8/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。焼き歪む。
403	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①10.2 ②3.6	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂・礫をやや多量含む。B：やや良好。C：外灰白N8/～灰白7.5Y7/1、内灰白N8/。	天井部外面にヘラ記号。
404	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16層)	①(10.2) ②3.2	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
405	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①(10.5) ②3.2	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後不定方向ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰5Y6/1、内灰白N8/。	天井部外面にヘラ記号。

表 16　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表16

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
406	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①10.6 ②4.0	外面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。	天井部外面にヘラ記号。
407	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①10.9 ②3.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
408	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層)	①11.2 ②3.55	天井部外面ヘラ切り。外面1/4～内面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外暗灰N3/・灰白N8/、内暗灰N3/。	天井部外面にヘラ記号。焼き歪む。別個体釉着。
409	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①11.0 ②3.1	外面1/2ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外暗オリーブ灰2.5GY4/1～オリーブ黒10Y3/1～灰白N7/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
410	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(11.6) ②2.4+α	内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。天井部に焼成後の打ち欠き。	A：細砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
411	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層) 谷部A-3区5層(青灰色砂層) 谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①(12.2) ②3.65+α	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：やや良好。C：内外灰5Y6/。	
412	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層) 谷部A-3区5層(16・17層) 谷部A-3区5層(青灰色砂層)	①(11.8) ②3.6+α	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内褐灰7.5Y5/1～にぶい橙7.5YR6/4。	
413	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①(12.2) ②3.8	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰白N7/、内灰白N7/～灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
414	須恵器	杯蓋	谷部A-1区5層最下層(黒褐色粘土)	①(11.9) ②4.1+α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外暗青灰5PB4/1。	焼き歪む。
415	須恵器	杯身	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①12.75 ②4.4	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。微細な黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～灰N6、内灰白2.5Y7/1～灰N6/。	底部外面にヘラ記号。
416	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16層)	①(13.8) ②4.0	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～暗青灰5PB4/1、内暗青灰5PB3/1。	天井部外面にヘラ記号。
417	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層)	①(13.8) ②4.7	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色・黒褐色粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰N6/、内灰白2.5Y7/1。	
418	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①13.6 ②4.7	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。微細な黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR7/1～灰N5/、内灰白10YR7/1。	天井部外面にヘラ記号。
419	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(14.4) ②4.4	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。雲母をやや多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～暗灰N3/、内灰白2.5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。
420	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(14.6) ②4.5	外面1/2回転ヘラケズリ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
421	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(16・17層)	②3.7+α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3同心円文当て具痕。他は回転ナデ。外面に1条沈線。	A：粗砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N5/～N4/、内灰N5/。	
422	須恵器	杯蓋 杯身	谷部A-4区5層(16・17層)	杯蓋：①10.1 杯身：受部径11.0	杯蓋外面1/3ヘラ切り後ナデ、2/3回転ナデ。杯身外面1/2ヘラ切り後ナデ、1/2回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外(蓋身共)青灰5PB5/1。	杯蓋天井部外面・杯身底部外面にヘラ記号。
423	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①7.8 ②3.7 受部径10.5 つまみ径1.0	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：不良。C：内外灰白N8/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
424	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層(16・17層)	①9.2 ②3.4 受部径11.0	外面1/3カキメ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	
425	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(8.9) ②2.0 受部径11.2	ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後不定方向ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～にぶい赤褐2.5YR5/4(天井部)、内にぶい黄橙10YR7/2。	
426	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①8.6 ②2.2 受部径10.6	外面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
427	須恵器	杯蓋	谷部A-3区4層 谷部A-3区5層	①(9.3) ②2.3 受部径11.3	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。	
428	須恵器	杯蓋	谷部A-1区5層最下層(黒褐色粘土)	①9.1 ②1.6 受部径(11.3)	内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ。外面降灰のため調整不明。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N7/～黄灰2.5Y4/1、内暗青灰5PB4/1。	
429	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(9.8) ②2.2 受部径(12.2)	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～灰5Y6/1、内灰白N7/。	
430	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層(青灰色砂層)	①9.4 ②1.7 受部径11.5	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外紫灰5P5/1～灰N6/、内紫灰5P5/1～暗灰N3/。	天井部外面にヘラ記号。
431	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①9.7 ②1.3 受部径11.2	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N8/～紫灰5P5/1～灰N5/、内灰N5/。	焼き歪む。
432	須恵器	杯蓋	谷部A-4区5層(17層)	①(12.2) ②2.7+α 受部径(14.8)	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	
433	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-4区5層(15層)	①(12.4) ②2.1+α 受部径(14.8)	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白N8/～灰N6/～灰N4/。	回転方向左。 受部・体部外面に別個体釉着。
434	須恵器	杯蓋	谷部A-4区4層 谷部A-3区4層 谷部A-4区5層(黒色土)	①(20.5) ②3.7+α つまみ径2.7	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：やや良好。C：外灰白N8/～灰白N7/、内灰白N8/。	外面重ね焼きの痕跡。

表 17　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表17

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
435	須恵器	杯身	谷部A・B間ベルト8層	①(8.4) ②2.65 受部径(10.2)	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～黒10Y2/1、内黒褐7.5YR3/1。	
436	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①9.2 ②3.4 受部径11.2	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	底部外面にヘラ記号。
437	須恵器	杯身	谷部A-2区5層最下層(黒褐色粘土)	①9.3 ②4.1	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～にぶい橙7/5YR7/4、内黒褐10YR3/1～にぶい赤褐2.5Y4/4～にぶい橙7.5YR7/4。	底部外面にヘラ記号。焼きムラあり。
438	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(16・17層)	①(10.3) ②3.0+α 受部径(12.1)	外面1/3ヘラ切り後不定方向ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内暗灰N3/。	
439	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①9.8 ②3.6 受部径12.0	内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。外面1/2降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰黄2.5Y6/2、内青灰5PB6/1。	外面に降灰。 別個体釉着。
440	須恵器	杯身	谷部A-2区5層(青灰色砂層)	①10.3 ③6.2 受部径12.5	底部外面ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外緑灰10GY5/1～にぶい赤褐5YR5/3。	底部外面にヘラ記号。
441	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(16・17層)	①10.8 ②4.55 受部径12.6	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
442	須恵器	杯身	谷部A-3区5層(16・17層)	①10.5 ②3.4 受部径12.7	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外灰N6/～灰N3/、内N4/。	底部外面に降灰、ヘラ記号。
443	須恵器	杯身	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-4区5層最下層	①11.2 ②3.9 受部径13.0	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後ナデ他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。微細な黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	底部外面にヘラ記号。
444	須恵器	杯蓋	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-4区5層(16・17層)	①11.3 ②3.4 受部径13.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。	口縁部端部の欠損が著しい。
445	須恵器	杯身	谷部A-1区5層最下層(黒褐色粘土)	①(11.4) ②3.7 受部径(13.1)	外面1/2回転ヘラケズリ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N6/。	
446	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(15層) 谷部A-3区5層(青灰色砂層) 谷部A-4区5層最下層	①11.4 ②4.3	外面1/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰赤2.5YR4/2。	底部外面にヘラ記号。
447	須恵器	杯身	谷部A-3区5層(青灰色砂層) 谷部A-2区5層(青灰色砂層) 谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①11.1 ②3.6 ③5.9 受部径13.3	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4～にぶい赤褐5YR5/4、内浅黄橙10YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4。	底部外面にヘラ記号。
448	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①(12.3) ②2.8+α 受部径14.5	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：やや不良。C：外暗灰N3/に灰N6/が斑点状に入る、内暗灰N3/。	
449	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①12.0 ②4.3 受部径14.1	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～黄灰2.5Y5/1、内灰白N7/。	底部外面にヘラ記号。
450	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(14層)	①12.6 ②4.5 受部径14.4	底部外面降灰のため不明。内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含み、黒色粒を多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N5/。	体部外面にヘラ記号。
451	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①(13.0) ②3.9 受部径15.0	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：やや良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰10Y5/1。	
452	須恵器	杯身	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①(8.7) ②2.7 ③(5.1) 受部径(10.8)	外面1/4ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。底部に穿孔。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。微細な黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。	
453	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(16・17層)	①(9.8) ②2.5+α 受部径11.8	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含む。B：不良。C：内外黄灰2.5Y5/1。	天井つまみ部を焼成後に打ち欠いている。
454	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(16・17層)	①9.0 ②3.4 ③6.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外暗灰白N3/。	焼き歪む。
455	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(16層)	①(9.6) ②2.6+α	内外面回転ナデ。外面に1条沈線。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰10Y5/1、一部灰N5/、内灰7.5Y6/1。	
456	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①10.4 ②3.5 ③8.2	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～オリーブ黒5Y3/1～にぶい赤褐5YR5/4、内灰5Y5/1。	底部外面にヘラ記号。
457	須恵器	杯身	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①10.2 ②4.2 ③(5.0)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：微細な白色・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	
458	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①10.5 ②3.9 ③5.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に4条沈線。	A：細砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内灰5Y6/1。	底部外面にヘラ記号。
459	須恵器	杯身	谷部A-3区5層(青灰色砂層)	①(10.3) ②3.7 ③6.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面は摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。雲母を微量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	底部外面付近に黒斑・ヘラ記号。
460	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①(11.0) ②3.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面に2条沈線。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR4/1(天井部)～黒N1.5/(口縁)、内褐灰10YR4/1。	
461	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①11.7 ②3.8	内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰白5Y7/1、内灰白N8/。	
462	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①12.0 ②3.3 ③6.8	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面に1条沈線。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰10Y6/1、内灰N4/。	底部外面にヘラ記号。
463	須恵器	杯身	谷部A-4区5層(17層)	①(14.2) ②4.9 ④(9.2)	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	
464	須恵器	杯身	谷部A-2区5層(青灰色砂層)	②3.0+α ④7.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰白N8/、内紫灰5P6/1。	外面に降灰。

表 18　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表18

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
465	須恵器	杯身	谷部A-4区5層	①17.0 ②5.3 ④9.95	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色・黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰白N7/、内黄灰2.5Y6/1～灰白N7/～灰N5/、高台付近黄褐2.5Y5/3。	
466	須恵器	皿	谷部A-4区5層(黒色土)	①(15.8) ②1.65 ③(11.5)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	底部内面に重ね焼きの痕跡。
467	須恵器	椀	谷部A-4区5層(16・17層)	①(12.2) ②7.4+α	内外面回転ナデ。外面に1条・3条沈線。底部外面付近摩滅のため調整不明。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N6/。	
468	須恵器	椀	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	②5.4+α	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：細砂を少量含む。黒色粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰N6/、内灰白N8/。	外面にヘラ記号。 回転方向右。
469	須恵器?	台付椀	谷部A-4区5層(14層)	①(14.0) ②8.0+α	体部下位～底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量、微細な茶色粒をごく少量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～灰黄褐10YR5/2、内灰白10YR7/1～灰黄褐10YR6/2。	
470	須恵器	台付椀	谷部A-4区5層(17層)	①(14.1) ②7.2 ④8.45	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面2条沈線。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰10YR4/1～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄褐10YR5/3。	
471	須恵器	高杯	谷部A-4区5層(16・17層) 谷部A-4区5層最下層(黒褐色粘土)	②2.9	底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。外面に1条沈線。	A：細砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
472	須恵器	高杯	谷部A-4区13層	②3.6+α　裾部径6.8	脚部内外面回転ナデ、シボリ痕あり。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	脚部のみ残存。
473	須恵器	盤	谷部A-4区5層(17層) 谷部A-4区5層(14・15層)木直上	①26.5 ②3.6 ③21.9	底部外面指頭圧痕、後手持ちヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N3/～暗青灰5B4/1。	
474	須恵器	甕	谷部A-3区5層(最下層) 谷部A-4区5層(最下層)	②8.9 ⑤(17.8)	肩部内面指頭圧痕。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線、穿孔。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	肩部外面にヘラ記号。
475	須恵器	甕?	谷部A-2区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-2区5層(青灰色砂層) 谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B区全区7・8層(34層) 谷部B-3区10層灰層(33層) 谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘) 谷部C-3区6層下層 谷部C-1区7・8層 谷部C-1区10層 谷部D-1区7・8層	②14.4+α ③(15.3)	肩部外面回転ナデ。体部回転ナデ後カキメ、内面は回転ナデ。体部外面の2条沈線、沈線間に斜線文。注口部貼付。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白N8/～灰N4/、内灰N5/。	沈線間に斜線文。
476	須恵器	平瓶	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①(6.8) ②(17.0) ③(14.8)	口縁～体部回転ナデ後体部外面カキメ。頸部と体部はナデ接合。底部内面不定方向のナデ。底部外面回転ナデ。体部下位回転ヘラケズリ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N4/～明紫灰5P7/1、内暗灰N3/～灰白N8/(口縁)。	
477	須恵器	平瓶	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土)	①7.6 ②19.45 ③14.4	口縁内外面回転ナデ、外面に2条沈線。体部～底部外面タタキ後カキメ。内面回転ナデ。底部内面指頭圧痕、後ナデ。円盤閉塞のナデ。	A：微細な白色・黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外黒N2/～灰白N7/、内暗灰N3/。	
478	須恵器	平瓶	谷部A-4区5層(16・17層) 谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-3区5層(青灰色砂層) 谷部谷底清掃時	①8.0 ②18.6+α	体部外面上位カキメ、下位回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。円盤閉塞に伴うナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	頸部に1ヶ所、胴部中位に1ヶ所、胴部下位～底部にかけて1ヶ所ヘラ記号。
479	須恵器	平瓶	谷部A-4区5層(17層)	①12.1 ②13.2+α	口縁部内外面回転ナデ。頸部に接合のナデ。体部外面カキメ後1条沈線。内面回転ナデ、肩部シボリ痕。円盤閉塞。	A：細砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～N4/、内灰N5/(口縁部)、暗灰N3/(胴部)。	
480	須恵器	平瓶	谷部A-4区5層(17層)	②11.2 ③9.5	底部外面指頭圧痕、後ナデ。体部下位擬格子タタキ後手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N8/～灰N5/。	外面にヘラ記号。
481	須恵器	環状堤瓶	谷部A-4区5層(16・17層)	①6.3 ②17.9	口縁部内外面回転ナデ、外面に2条沈線。頸部接合のナデ。体部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。環状部外面工具によるナデ。	A：粗砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	
482	須恵器	横瓶	谷部A-3区北斜面2層 谷部A-4区北斜面2層 谷部A-2区5層 谷部A-4区2層(黒色土)	①12.1 ②5.9+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量、4㎜程の礫を含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N6/、内暗灰N3/～灰白N7/。	外面に降灰。
483	須恵器	横瓶	谷部A-4区5層(15層)	①13.1 ②19.2+α	口縁部内外面回転ナデ。肩部外面擬格子タタキで内面同心円文当て具痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：黄褐6/2～灰5Y4/1、内灰黄褐10YR4/1～灰N4/。	
484	須恵器	横瓶	谷部A-3区5層 谷部A-4区5層(12層) 谷部A-4区5層(11・12層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層 谷部A-4区4層 谷部A-4区5層(11層) 谷部B-1区5層 谷部A-4区5層(15層) 谷部B-2区2層(黒色土) 谷部A-4区5層(17層) 谷部B-1区5層灰層	①(12.9) ②30.45+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。体部円盤閉塞。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4～橙2.5YR6/8～黒褐2.5Y3/1、内橙5YR6/6、橙2.5YR6/8～灰褐5YR4/2。	

表 19　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表19

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
485	須恵器	壺	谷部A・B間ベルト11層	①(6.9) ②14.0 ⑤11.75	体部下位～底部外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。肩部外面シボリ痕。	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/～暗灰N3/、内口縁部灰N4/。	
486	須恵器	大甕	谷部A-4区5層(17層)	①36.0 ②15.3+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁回転ナデ成形。口縁部中位内外面指頭圧痕、2条沈線。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外明赤褐5YR5/6～浅黄橙10YR8/3、内明赤褐5YR5/6～にぶい黄橙10YR7/3。	
487	須恵器	大甕	谷部A-3区5層(青灰色砂層) 谷部A-3区5層最下層 谷部A-3区5層(16・17層) 谷部A-4区5層(16・17層)	①35.0 ②34.1+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面斜線文施文後2ヶ所に3条・2条沈線。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2～橙7.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR7/2～橙7.5YR7/6。	沈線間に斜線文。
488	須恵器	大甕	谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-1区5層(16・17層) 谷部B-1区5層(風倒木直上) 谷部A-4区5層(16・17層) 谷部A-4区5層(17層) 谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-1区5層	①43.6 ②85.2 ⑤74.7	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量、0.5～1㎜の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰10Y5/1～灰N4/、内灰10Y5/1、断面灰N6/・灰白7.5Y8/1のマーブル状。	体部歪みが著しい。
489	土師器	杯	谷部A-3区5層 谷部A-4区5層	①(12.2) ②2.9 ③8.2	内外面回転ナデ後回転ヘラミガキ。底部外面回転ヘラケズリ。	A：粗砂・雲母を多量含む。B：良好。C：内外にぶい赤褐5YR5/4～にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向左。
490	土師器	杯	谷部A-2区5層(黒色土)	①(12.9) ②3.0 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	内外面に煤付着。 板状圧痕。
491	土師器	杯	谷部A-2区5層(黒色土)	①13.3 ②3.5 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3、断面橙5YR6/8。	
492	須恵器	杯	谷部A-3区4層 谷部A-4区5層	①(13.35) ②3.8 ③6.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は摩滅のため調整不明。	A：細砂を少量含む。褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～橙5YR6/6。	
493	土師器	杯	谷部A-4区5層(11層)	①12.9 ②3.5 ③6.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
494	土師器	杯 (灯明)	谷部A-4区5層(13層)	②2.7+α	口縁部～体部回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/2～にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部内外面に煤付着。
495	土師器	丸底杯	谷部A-4区5層(12層)	①16.0 ②3.8～4.7 ③8.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや良好。C：外にぶい黄橙10YR6/2、内にぶい黄橙10YR6/2～明赤褐2.5YR5/6。	焼き歪む。
496	土師器	蓋	谷部A-4区4層 谷部A-4区5層(12層)	①(16.2) ②2.2	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	回転方向右。
497	土師器	皿	谷部A-4区5層	①(16.8) ②1.8 ③(12.8)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/2。	内面に墨痕。
498	土師器	鉢	谷部A-4区5層	①(17.2) ②5.6+α	外面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外明褐灰7.5YR7/1。	
499	土師器	鉢	谷部A-4区4層 谷部A-4区13層	②6.1+α	体部～底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。雲母を多量含む。B：良好。C：外黒N2/～にぶい黄橙10YR6/3、内黒N2/、断面にぶい褐7.5YR5/4。	内外面に黒色(煤か?)。
500	土師器	鉢	谷部A-1区5層最下層(黒褐色粘土)	②5.1+α	内外面ヨコナデ後ミガキ。口縁部内面の一部ヨコ方向ハケメ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外赤褐5YR4/6～にぶい褐7.5YR5/4。	
501	土師器	甕	谷部A-4区5層(16・17層)	①(12.4) ②4.3+α	口縁部ヨコナデ。体部外面縦方向ハケメ、内面ヘラケズリ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2～黒褐2.5Y3/1。	
502	土師器	甕	谷部A-4区5層	②2.3+α	体部内面指頭圧痕、後内外面ヨコナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
503	木製品	杭	谷部A-1区5層最下層(黒褐色粘土)	縦22.6 横58.4 最大厚3.8	全体粗い削り。上面は細かい面取り調整。		
504	木製品	板材	谷部A区(石垣側4区)5層(16・17層)	長41.0 幅7.5 厚1.5	削り。		
505	須恵器	杯蓋	谷部B-1区0層	②2.4+α つまみ径3.0	外面3/4回転ヘラケズリ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：やや不良。C：内外褐7.5YR4/4～にぶい赤褐2.5Y4/3。	天井部に穿孔。
506	須恵器	杯身	谷部B-2区0層	①10.2 ②4.2 ④11.95	底部外面1/3ヘラ切り後ナデ、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：やや不良。C：外灰白7.5Y8/1～灰N6/、内灰白2.5Y7/1。	回転方向右。
507	須恵器	鉢	谷部B-2区0層	①(14.0) ②6.4	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面に2条沈線。	A：細砂を含む。B：やや不良。C：外灰黄5Y7/2、内灰白5Y8/1。	回転方向右。
508	土師器	不明	谷部B-4区1層	②0.6+α	底部外面ナデ、内面一定方向のナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	内面に墨書か? 板状圧痕。
509	土師器	甑	谷部B-2区0層	②6.45+α	外面指ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A：粗砂を含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/1。	把手。
510	土師器	甑	谷部B区1層(青灰色土・黄色土)	②7.0+α	指ナデ。体部内面接合部ハケメ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	把手。
511	土師器	甕	谷部B-2区0層	②9.95+α	口縁部内外面ヨコナデ、ナデ。体部外面指頭圧痕・ハケメ後ナデ、内面ヘラケズリ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR6/1、内黄灰2.5Y4/1～黄褐2.5Y6/1。	焼き歪む。
512	土師器	壺	谷部B区1層(青灰色土・黄色土)	②8.9+α ③(7.1)	底部外面ナデ。他は回転ナデ。頸部内面シボリ痕か?	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/2。	底部に穿孔。
513	瓦	丸瓦	谷部B-2区0層	長5.2+α 幅6.3+α 厚1.7	凹面摩滅のため調整不明。凸面平行タタキか?	A：細砂をやや多量含む。B：不良。C：凹凸浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR5/2。	
514	木製品	曲物底板	谷部B区1層(青灰色土・黄色土)	縦24.1 横12.6 厚1.0	残存状況が不良で調整不明。５ヶ所に穿孔あり。側面丁寧な面取り加工。		

表 20　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表20

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
515	須恵器	杯蓋	谷部B-3区2層	①9.1 ②3.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
516	須恵器	杯蓋	谷部B-3区2層上層	①10.85 ②3.7	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：やや不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/4～にぶい褐7.5YR6/3。	天井部外面にヘラ記号。
517	須恵器	杯蓋	谷部B-2区2-1層	①12.3 ②3.85	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外暗緑灰7.5GY4/1～暗灰N3/、内緑灰10GY5/1。	回転方向右。
518	須恵器	杯蓋	谷部B-1区2層	①(12.9) ②2.9 受部径(15.9) つまみ径2.6	外面1/4回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内暗青灰5B3/1。	焼き歪む。外面に降灰。回転方向右。
519	須恵器	杯蓋	谷部B-3区2層下層	①(14.0) ②1.0	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1～灰N5/。	回転方向右。
520	須恵器	杯身	谷部B-3区2層上層	①8.5 ②3.2 ⑤11.1	ヘラ切り。外面2/3～内面3/4回転ナデ。他は回転ナデ後一定方向ナデ。	A：粗砂を含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白N7/、内灰N4/。	底部外面にヘラ記号。重ね焼きの痕跡。回転方向右。
521	須恵器	鉢	谷部B区B-3区2層下層	①(7.9) ②5.0 ③(6.0)	底部外面はヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外暗灰N3/～灰白N7/、内暗灰N3/。	全体に歪んでいる。外面に降灰。
522	須恵器	高杯	谷部B-2区2層(黒色土)	②3.9+α 脚据部径6.4	脚部内外面回転ナデ、シボリ痕。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰N5/。	回転方向右。
523	須恵器	横瓶	谷部B区(B区ベルト側)2層(黒色土)	①(13.4) ②6.95+α	頸部内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/1～オリーブ黒7.5Y3/1、内黒5Y2/1。	
524	須恵器	脚部?	谷部B-1区2層	②4.1+α	外面1/3ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2～灰黄2.5Y6/2。	穿孔あり。
525	須恵器	切削物	谷部B-2区2層上(黒色土)	縦2.25　横11.15 厚1.45	外面タタキ。内面ナデ。側縁ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
526	土師器	小皿	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	①(10.0) ②1.2 ③(8.0)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
527	土師器	小皿	谷部B区(B区ベルト側)2層(黒色土)	①10.15 ②0.85～1.55 ③8.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、1～3.5㎜の石英、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外共浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
528	土師器	小皿	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	①10.4 ②1.3 ③8.2	底部外面ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白5Y8/1～明黄褐10YR6/6～黒褐2.5Y3/2。	板状圧痕。
529	土師器	小皿	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	①10.3 ②1.4 ③7.8	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
530	土師器	小皿	谷部B-2区2-1層	①(10.0) ②1.8 ③(7.15)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5YR7/2、内灰白2.5Y8/2～黄褐10YR5/6。	板状圧痕。
531	土師器	小皿(灯明)	谷部B区(ベルト側)2層(黒色土)	①10.6 ②1.75 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/3、内灰黄褐10YR5/2～にぶい黄橙10YR7/2。	底部内面に煤付着。
532	土師器	小皿(灯明)	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	②1.55+α	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1。	底部外面黒斑か?内面煤付着。
533	土師器	杯	谷部B-3区土坑埋土(9層)	①13.9 ②3.05 ③6.9	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ、後底部ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	体部～底部外面に黒斑。
534	土師器	杯	谷部B区(B区ベルト側)2層(黒色土)	①13.2 ②3.55 ③8.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。角閃石・雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	
535	土師器	杯	谷部B-3区2層下層	①(13.85) ②3.8 ③7.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	底部外面に黒斑。板状圧痕。
536	土師器	丸底杯	谷部B-3区2層	①(14.8) ②3.8	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	
537	土師器	丸底杯	谷部B-2区2層上(黒色土)	①14.75 ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
538	土師器	丸底杯	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	①(15.4) ②3.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
539	土師器	丸底杯	谷部B-1区1号木筒出土地点周辺2層(黒色土)	①(16.0) ②3.45	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2～暗灰黄2.5Y5/2。	格子状の板状圧痕。
540	土師器	椀	谷部B-3区2層上層	①(14.0) ②5.6 ④7.6	底部外面ヘラ切り。体部外面1/2ナデ。内面ヘラナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、内褐灰10YR5/1。	
541	土師器	椀	谷部B-2区2層(黒色土)	①14.9 ②5.15 ④6.4	体部外面下位指頭圧痕、ミガキ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂と雲母を含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2～黄灰2.5Y4/1。	体部に接合痕。
542	土師器	鉢?	谷部B-2区2層(黒色土)	①(14.0) ②5.2+α	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ後ミガキ、内面ミガキ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄橙10YR8/3。	底部内外面に黒斑。焼き歪む。
543	土師器	椀	谷部B-2区2-1層	②2.85+α ④6.6	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y6/1。	板状圧痕。
544	土師器	椀	谷部B-1区2層	②2.15+α ④7.4	底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	

表 21　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表21

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
545	土師器	椀	谷部B区(B区ベルト側)2層(黒色土)	②3.05+α　④6.9	体部外面ミガキ。内面不定方向ミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y7/2～にぶい黄橙10YR6/4。	
546	土師器	椀	谷部B-1区2層(黒色土)	②2.2+α　④7.2	内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	畳付に板状圧痕。
547	土師器	椀	谷部B-2区2層上(黒色土)	②1.35+α　④5.9	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	
548	土師器	甕	谷部B-3区2層上層	①(20.5)　②9.0+α	体部外面1/3煤付着のため調整不明、内面1/3はケズリ。他はヨコナデ。	A：粗砂・雲母を多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/3～6/3。	口縁部外面に煤付着。
549	黒色土器A類	椀	谷部B-3区2層上層	①14.7　②5.9　④(8.2)	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂と雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄褐10YR5/3～灰黄褐10YR6/2、内褐灰10YR5/1。	
550	黒色土器A類	椀	谷部B-3区2層上層	①14.5　②5.0～5.7 ④8.1	底部外面ヘラ切り。内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～灰黄褐10YR5/2、内黒N2/、一部灰黄褐10YR5/2。	焼き歪む。
551	白磁	椀	谷部B-3区2層	②4.5+α	残存部全面施釉。	A：黒色粒を微量含む。B：良好。C：内外パールホワイトN8.5～アイボリホワイト5Y9.0/1.0。	玉縁口縁。
552	瓦	平瓦	谷部B-1区2層	長8.0+α　幅14.8 厚2.2～2.7	凸面格子タタキ後ナデ。凹面布目痕後ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：凹凸灰白2.5Y7/1。	
553	土師器	不明	谷部B-3区2層	縦8.1+α　横6.0+α 厚0.5～0.8	指頭圧痕・ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：黄灰2.5Y6/1。	
554	石製品	円盤状石製品	谷部B-3区2層上層	長5.2 幅5.45 厚1.8 重量76.8	打ち欠き後円盤状に整形。		
555	石製品	砥石	谷部B-3区2層	長(4.55) 幅5.15 厚2.0　重量67.6			3面使用。
556	木製品	木簡	谷部A区(石垣側)2層(黒色土)	全長11.7 幅5.4 厚0.5			呪符木簡。
557	木製品	木簡	谷部A区(石垣側)2層(黒色土)	全長11.3 幅4.75 厚6.5	直角に刃を入れたキリオリ。		呪符木簡。
558	木製品	木簡	谷部B区(A区ベルト側)2層(黒色土)	全長19.4 最大幅1.55 最大厚0.6	切込みを入れた後にキリオリ。		559と接合。
559	木製品	木簡	谷部B区中央2層(黒色土)	全長15.9 幅1.5 厚0.6	切込みを入れた後にキリオリ。		558と接合。
560	須恵器	杯蓋	谷部B-2区3層(黒色土)	①9.2 ②2.85 受部径11.5	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：不良。C：外灰白10YR7/1～にぶい橙5YR6/4、内灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR6/3。	天井部外面にヘラ記号。
561	須恵器	杯蓋	谷部B-3区3層(灰原側)	①8.2 ②2.7 受部径10.35	外面1/2ヘラ切り後不定方向ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰10Y5/1～灰白10Y8/1。	天井部外面にヘラ記号。
562	須恵器	杯蓋	谷部B-3区3層(灰原側)	①(17.8) ②3.1 つまみ径2.35	内外面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	つまみが中央部よりずれている。
563	須恵器	皿	谷部B-3区3層(灰原側)	①15.4 ②1.7 ③12.6	底部外面ヘラ切り、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1。	板状圧痕。
564	須恵器	甕	谷部B-1区3層(黒色土)	②6.65+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～灰4/。	内外面墨書。
565	土師器	小皿	谷部B-2区3層(黒色土)	①9.1 ②1.35 ③6.2	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：微細な雲母を多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～焼ムラ灰白7.5Y8/1～灰7.5Y4/1。	板状圧痕。
566	土師器	蓋	谷部B-2区3層(黒色土)	②3.05+α つまみ径7.7	輪状つまみがつく。外面2/3回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。内面2/3回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄2.5Y6/2。	
567	土師器	椀	谷部B-2区3層(黒色土)	①(14.35) ②5.3 ④6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR4/2。	板状圧痕。
568	土師器	椀	谷部B-1区2層 谷部B-2区3層(黒色土)	①(20.4) ②6.95+α	底部中央外面ナデ。体部外面下位回転ヘラケズリ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	
569	土師器	皿	谷部B-2区3層(黒色土)	①(15.0) ②2.2 ③(11.6)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y5/1。	
570	土師器	皿	谷部B-3区3層(灰原側)	①16.8 ②1.6 ③13.35	体部～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。雲母と赤褐色粒を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部内面煤付着。
571	土師器	高杯	谷部B-2区3層(灰原側)	②17.5+α 脚据部径14.3	脚部内外面回転ナデ。杯部内外面ミガキ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	
572	土師器	甑	谷部B-3区3層(灰原側)	②6.2+α　断面厚3.0	外面指ナデ。内面ケズリ。	A：粗砂・礫を多量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～明黄橙10YR6/6。	割面に接合痕が見られる。把手。
573	土師器	蓋	谷部B区中央(東側斜面)3層上層(黒色土)	②6.7+α	つまみ部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外橙5YR6/6～にぶい橙7.5YR7/3。	
574	瓦	平瓦	谷部B-3区3層(灰原側)	長14.6+α　幅10.3+α 厚1.5～1.75	凸面平行タタキ後ナデ。凹面布目痕後ナデ(弓切り痕)。側面ヘラ切り、ヘラケズリ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：凹凸灰N6/。	
575	須恵器	杯蓋	谷部B・C間ベルト13層	①(11.0) ②3.6	外面2/3手持ちヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外黄灰N6/～灰白N7/、内灰白N7/。	天井部外面にヘラ記号。
576	須恵器	杯蓋	谷部B-3区4層	①(8.6) ②2.45 ④10.5	天井部外面ヘラ切り。外面2/3～内面3/4回転ナデ。他はナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2～にぶい黄橙10YR7/3、内浅黄橙10YR8/3。	天井部に穿孔。
577	須恵器	杯蓋	谷部B-3区4層(9・16・19層)	①(8.9) ②2.4+α ⑤(11.0)	天井部外面ヘラ切り。外面1/2～内面回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。	
578	須恵器	杯蓋(転用硯)	谷部B-3区4層(18層・5層灰層直上)	①(18.9) ②3.1+α	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜程の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1～灰N5/、内灰N5/。	内面に墨痕。
579	須恵器	杯身	谷部B-3区4層	①12.45 ②4.3 ④7.35	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰白N7/、内灰白N7/。	回転方向右。

表 22　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表22

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
580	須恵器	杯身	谷部B-3区4層	①9.6 ②3.4 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N5/・紫灰5P5/、内灰N5/。	底部外面にヘラ記号。
581	須恵器	皿	谷部B-3区4層	①15.65 ②1.8 ③12.6	底部外面回転ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/～暗灰N3/。	口縁部に重ね焼きの痕跡。板状圧痕。回転方向右。
582	須恵器	壺	谷部B-3区4層	②8.15+α ③7.8	底部外面ヘラ切り。体部外面下位手持ちヘラケズリ。頸部外面ヨコナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	板状圧痕か?
583	須恵器	甕	谷部B-2区4層(青灰色土)・灰層互層	①(12.6) ②3.55+α	肩部カキメ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/～灰N5/。	焼き歪む。
584	土師器	円盤状土製品	谷部B-1区4層	①(6.9) ②0.6 ③(5.8)	先端部・中央部外面回転ナデ。中央部内面ナデ、粘土巻き上げ痕。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	中央部外面に煤付着。
585	土師器	杯	谷部B-3区4層	①13.1 ②2.9～4.0 ③7.0	体部下位～底部1/2外面回転ヘラケズリ。底部外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR6/3。	口唇部に煤付着。
586	土師器	杯	谷部B-3区4層	①13.2 ②3.0 ③8.1	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
587	土師器	杯	谷部B-3区4層(12・14・18・20層)	①13.75 ②3.3 ③6.9	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4、灰褐7.5YR4/2	
588	土師器	杯	谷部B-3区4層	①13.8 ②4.1 ③6.7	体部下位～底部2/3外面回転ヘラケズリ。底部外面1/3ヘラ切り。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3。	
589	土師器	杯	谷部B-3区4層	①13.8 ②4.0 ③6.4	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～7.5YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/4～灰白2.5Y8/2。	
590	土師器	杯	谷部B-3区4層	①14.65 ②3.8 ③7.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を含む。B：良好。C：外にぶい黄2.5Y6/3、内淡黄2.5Y7/3～暗灰黄2.5Y5/2。	
591	土師器	杯	谷部B-3区4層	①(15.8) ②3.4	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄褐10YR5/3～にぶい黄橙10YR6/3。	
592	土師器	杯	谷部B-3区4層(18層・5層灰層直上)	①16.5 ②3.8 ③7.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂と雲母を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。
593	土師器	杯	谷部B-3区4層(18層・5層灰層直上)	①(15.0) ②3.0+α	口縁部～体部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙7.5YR7/3。	内面に墨痕。
594	土師器	杯	谷部B-3区4層 (9・13～16・19～21層)	①(13.4) ②3.55 ③8.15 孔径1.5～1.7	底部外面ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外にぶい褐7.5YR5/4。	底部焼成後の穿孔。
595	土師器	杯	谷部B-3区4層 (9・13～16・19～21層)	①(12.7) ②4.5 ③10.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
596	土師器	杯	谷部B-1区4層	①16.2 ②5.5～6.3 ③9.0	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄2.5Y6/2。	口縁・体部外面に黒斑。板状圧痕。
597	土師器	蓋	谷部B-3区4層	①(16.0) ②2.5	外面2/3回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内にぶい黄2.5Y6/3。	回転方向右。口縁部外面に煤付着。
598	土師器	蓋	谷部B-3区4層	①18.8 ②2.3 ③12.3	外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部粘土巻上げ痕。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・礫・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR6/6。	
599	土師器	皿	谷部B・C間ベルト14層とその上	①17.1 ②2.0 ③12.4	底部外面回転ヘラケズリ後ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂と赤褐色粒・雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR6/3～明赤褐2.5YR5/8、内にぶい褐7.5YR6/3。	
600	土師器	皿	谷部B-3区4層	①(17.0) ②1.8 ③(13.0)	底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：0.5～1mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	底部外面に墨書。
601	土師器	鉢	谷部B-3区4層(9・13～16・19～21層)	①(24.8) ②8.2+α	内外面回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂・雲母を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
602	土師器	鉢	谷部B-3区4層(18層・5層灰層直上)	②8.6+α ④12.2	底部外面ヘラ切り後回転ナデ、体部外面上位回転ナデ。体部外面下位回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。内面は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	
603	土師器	鉢?	谷部B-3区4層(12・14・18・20層)	②5.5+α	体部上位外面・体部内面回転ナデ、下位回転ヘラケズリ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄褐10YR6/6。	体部外面に墨書「飯□」。
604	石製品	砥石	谷部B-3区4層	長20.4 幅7.7～10.6			3面使用。欠損後に煤付着。
605	鉄製品	不明	谷部B-2区2-1層	長5.8 幅3.2 厚0.4 重量7.6			
606	鉄滓		谷部B-2区4層	長4.2 幅4.5 厚2.0 重量25.2			
607	須恵器	杯蓋	谷部B区(大木の下)最下層砂層 (B・C間ベルト34層A・B間ベルト16・17層)	①(12.6) ②3.5+α	外面1/3回転ヘラケズリ。内面の一部に同心円文当て具痕。他は回転ナデ。外面に1条沈線。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/～N5/、内灰N6/。	回転方向右。
608	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①(13.4) ②4.0+α	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面に1条沈線。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。
609	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①10.35 ②3.3	ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後ナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰5/、内灰白N8/。	天井部外面にヘラ記号。
610	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①10.45 ②3.4	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N6/～黒N2/、内灰白N7/～灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。外面に降灰。回転方向右。

表 23　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表23

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
611	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①10.2 ②3.0	天井部外面ヘラ切り。外面1/2～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後一定方向ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～灰10Y4/1、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
612	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①10.6 ②3.5	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～7/、内灰白5Y8/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
613	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①10.8 ②3.3	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂と黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	底部外面にヘラ記号。
614	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①10.95 ②3.25	外面1/3ヘラ切り。他は摩滅のため調整不明。	A：粗砂・赤褐色粒・礫・雲母を含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4～橙2.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR7/3。	還元していない須恵器か?
615	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①10.8 ②3.75	外面1/3回転ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰白N7/。	天井部外面にヘラ記号。
616	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①10.35 ②3.5	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内暗灰N3/。	天井部外面にヘラ記号。
617	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①10.8 ②3.55	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや良好。C：外灰白N7/、内灰N5/～灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
618	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①11.2 ②3.4	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁端部外面工具痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y6/1～灰N5/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
619	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①11.05 ②3.6	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
620	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①10.8 ②3.4	外面1/3回転ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰N6/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
621	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①11.1 ②3.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：不良。C：内外灰白7.5Y7/。	天井部外面にヘラ記号。
622	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①11.4 ②3.65	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。 回転方向右。
623	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①11.8 ②3.45	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰白N7/、内灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
624	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層(16・17層)	①(11.7) ②3.4	外面1/2ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
625	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①11.8 ②3.9	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
626	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(12.25) ②3.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
627	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(13.2) ②3.55	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外暗青灰5B4/1～青灰5B5/1、内暗青灰5B3/1。	天井部外面にヘラ記号。 回転方向右。 内面にシッタ痕。
628	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(13.3) ②4.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～灰N5/、内灰白N7/～灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
629	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①14.1 ②5.55	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～N5/、内灰白N7/。	回転方向右。
630	須恵器	杯蓋	谷部B区(大木の下)最下層砂層 (B・C間ベルト34層A・B間ベルト16・17層)	①13.4 ②5.0	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：やや良好。C：外にぶい赤褐2.5YR4/3～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい赤褐2.5YR5/4～にぶい橙2.5YR6/3。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
631	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(24層)	①13.8 ②3.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面強い回転ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒を多量含む。B：良好。C：外灰N3/、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
632	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①13.9 ②5.6	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/～N4/～N5/、内灰N6/。	
633	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①14.3 ②3.95	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外灰N4/、N5/、内灰N4/。	回転方向右。
634	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①8.65 ②3.3 受部径10.5 つまみ径0.85	外面1/3ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～黄灰2.5Y6/1、内灰N5/～暗灰N3/。	内面ヘラ記号。外面降灰。
635	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①8.9 ②3.3 受部径10.7 つまみ径1.8	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂と雲母を含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～オリーブ褐2.5Y4/4。	回転方向右。
636	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①9.1 ②2.65 受部径11.1	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をごく少量含む。B：やや不良。C：内外灰N7/。	天井部外面にヘラ記号。
637	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層灰層(26層)	①9.1 ②2.5 受部径10.9	ヘラ切り。外面1/2～内面1/2回転ナデ。他は回転ナデ後一定方向ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	天井部外面にヘラ記号。
638	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①10.7 ②2.4 受部径12.8	ヘラ切り。外面2/3～内面回転ナデ。	A：粗砂と黒色粒を含む。B：良好。C：外緑黒5G1.7/1～灰白N7/、内暗青灰5PB3/1。	口縁部に杯身破片釉着。外面に降灰。

表 24　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表24

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
639	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①8.5 ②2.8 受部径10.3	天井部外面ヘラ切り。外面1/2～内面回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。	
640	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①8.4 ②3.4 受部径(10.4) つまみ径2.0	外面1/2降灰のため調整不明。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	641が釉着。
641	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①9.6 ②4.55	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面に2条沈線あり。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N5/。	体部一部に降灰。 640が釉着。回転方向右。
642	須恵器	杯蓋 杯身	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	杯身:①(9.2) ②2.4～3.7 ③5.6 杯蓋:受部径10.0	杯蓋外面1/2ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。杯身外面1/4ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：暗灰N3/。	杯蓋・杯身が釉着。
643	須恵器	杯蓋	谷部B-1区5層	①(12.4) ②2.9 受部径14.9 つまみ径2.6	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/4～にぶい赤褐5YR4/4、内浅黄橙7.5YR8/4～橙7.5YR7/6。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
644	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①(12.45) ②2.5+α 受部径(15.0)	外面1/5回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒・赤褐色粒を含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内灰黄2.5Y7/2。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
645	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①11.8 ②3.0 受部径14.6	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：茶褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	天井部外面にヘラ記号。
646	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(12.65) ②2.3 受部径(15.0) つまみ径(2.35)	外面降灰のため調整不明。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。	外面全面と受部に降灰。
647	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①(13.4) ②3.7 受部径(16.0) つまみ径2.7	外面1/4回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：やや不良。C：外にぶい褐7.5YR6/3、内灰5Y6/1・にぶい褐7.5YR6/3。	天井部外面にヘラ記号。
648	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①12.9 ②3.8 受部径15.7 つまみ径3.0	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と雲母を含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内浅黄橙7.5YR8/4～にぶい橙5YR7/4。	天井部外面にヘラ記号。
649	須恵器	杯蓋	谷部B-3区5層灰層	①19.3 ②2.9 つまみ径2.5	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外オリーブ灰2.5GY6/1～灰N4/、内オリーブ灰2.5GY6/1。	
650	須恵器	杯蓋 (転用硯)	谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区4層	①19.6 ②3.85 つまみ径2.5	天頂部ヘラ切り後未調整。外面1/4回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。	内面に墨痕。
651	須恵器	杯蓋 (転用硯)	谷部B-3区5層灰層(24層)	①(19.6) ②2.2 つまみ径(6.6)	輪状つまみがつく。外面3/4回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	内面墨痕か? 回転方向右。
652	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①9.5 ②2.75 受部径11.5	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：やや良好。C：外灰7.5Y6/1、内灰7.5Y5/1。	
653	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26・27層)	①9.6 ②3.45 受部径11.6	外面1/2ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と黒色粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
654	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①9.5 ②3.1 受部径11.4	底部外面ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後不定方向ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白N7/～灰N6/～にぶい黄褐10YR5/4、内褐灰7.5YR4/1。	外面に降灰。
655	須恵器	杯身	谷部B-1区5層	①8.9 ②2.75 受部径11.2	底部外面ヘラ切り。外面2/3～内面2/3回転ナデ。他は回転ナデ後ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	底部外面にヘラ記号。体部外面に線刻。
656	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①9.0 ②3.45 受部径11.4	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
657	須恵器	杯身	谷部B-1区5層(16・17層)	①4.8 ②3.1 受部径11.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂と雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1～灰オリーブ5Y6/2、内灰白5Y8/1～灰オリーブ5Y6/2。	底部外面にヘラ記号。
658	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①9.45 ②3.2 受部径11.6	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：内外灰7.5Y6/1。	底部外面にヘラ記号。
659	須恵器	杯身	谷部B-1区5層(16・17層)	①10.2 ②3.5 受部径12.2	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・赤褐色粒を含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～黄灰2.5Y6/1、内灰白N8/。	底部外面にヘラ記号。
660	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①9.7 ②3.25 受部径12.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：不良。C：内外灰白7.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
661	須恵器	杯身	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①9.35 ②3.3 受部径11.7	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：外灰白10YR8/1～褐灰10YR5/1、内灰白7.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
662	須恵器	杯身	谷部B-1区5層	①10.1 ②3.5+α 受部径12.3	外面1/3回転ヘラケズリ。底部中央部未調整。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白N8/、内灰N5/。	底部外面にヘラ記号。外面降灰。
663	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①9.8 ②4.1 受部径12.25	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。黒色粒を含む。B：良好。C：外褐灰5YR5/1～暗灰N3/～灰白10YR7/1、内褐灰5YR5/1。	外面に降灰、底部外面にヘラ記号。
664	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①10.3 ②3.8 受部径12.5	外面1/3回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外暗青灰5PB4/1～5PB5/1、内暗青灰5PB4/1。	底部外面にヘラ記号。
665	須恵器	杯身	谷部B-1区5層	①10.3 ②3.9 受部径12.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白N8/、内灰N4/。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
666	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①11.1 ②3.8 受部径13.0	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫をやや多量含む。黒色粒を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/、内暗灰N3/。	底部外面にヘラ記号。内面にシッタ痕。
667	須恵器	杯身	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①10.7 ②4.0 受部径13.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内柴灰5P5/1。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。

表 25　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表25

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
668	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①12.1 ②3.5 受部径14.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫をやや多量含む。B：良好。C：外暗紫灰5P4/1～紫灰5P6/1～明紫灰5P7/1、内青灰5PB5/1。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
669	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(12.0) ②4.8 受部径(14.1)	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外灰N6/、暗灰N3/、内灰N4/。	底部外面にヘラ記号。外面に降灰。
670	須恵器	杯身	谷部B区(大木の下)最下層砂層 (B・C間ベルト34層A・B間ベルト16・17層)	①12.25 ②4.25 受部径14.3	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：やや良好。C：内外灰N5/。	底部外面にヘラ記号。口縁端部使用痕か?回転方向右。
671	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(11.9) ②3.75 受部径(14.0)	外面1/3手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：不良。C：外灰白5Y7/1～灰白5Y6/1、内灰白5Y7/2～灰黄2.5Y6/2。	底部中央に穿孔。
672	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①11.6 ②4.4 受部径13.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～オリーブ灰5GY5/1、内暗灰N3/。	底部中央に穿孔。 底部外面にヘラ記号。
673	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①9.2 ②3.3 ③5.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。礫を微量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	焼き歪む。 外面にヘラ記号。
674	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①(9.8) ②3.45	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	底部外面にヘラ記号。
675	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①(9.5) ②3.7 ③6.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	口縁・体部外面に降灰。
676	須恵器	杯身	谷部B-1区5層(16・17層)	①6.9～10.7 ②3.2 ③7.3	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/～N5/。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
677	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①(10.0) ②3.0 ③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N5/。	
678	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①(9.7) ②4.35	底部外面回転ヘラケズリ。外面に2条沈線。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N5/。	体部外面に降灰。
679	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①(9.8) ②4.8	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/～N6/、内暗灰N3/～灰N5/。	
680	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層	①(10.0) ②4.1	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	底部外面にヘラ記号。
681	須恵器	杯身	谷部B-1区5層(16・17層)	①11.0 ②4.5③6.3	底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を含む。B：不良。C：外浅黄2.5Y7/3～暗灰黄2.5Y5/2、内暗灰黄2.5Y5/2。	
682	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①13.1 ②4.2 ④8.2	底部外面不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。体部2/3外面削り。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白N7/、内灰N4/。	
683	須恵器	杯身	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(12.35) ②4.9 受部径(8.8)	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：内外灰5Y6/1。	回転方向右。
684	須恵器	杯身	谷部B-1区5層(16・17層)	①14.3 ②4.9 ④10.2	内外面回転ナデ後底部内面不定方向ナデ。高台貼付の回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。	A：粗砂・礫・黒色粒・雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/1、内灰白N8/。	回転方向右。
685	須恵器	杯身	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①(14.7) ②4.7 ④9.25	底部外面ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1～にぶい黄橙10YR6/4、内灰白10YR7/1～褐灰10YR6/1。	底部外面ヘラ記号。
686	須恵器	椀	谷部B-3区5層灰層(26層)	①(10.1) ②7.8 ③5.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR8/4～明黄褐10YR6/6。	外面にヘラ記号。
687	須恵器	鉢	谷部B-3区5層灰層(26層)	①13.4 ②5.15	体部外面回転ヘラケズリ。体部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N6/～N4/～灰白2.5GY8/1、内灰N6/～N4/。	外面にヘラ記号。
688	須恵器	蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①10.8 ②3.9 ③7.4	底部外面ヘラ切り後粗いナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を含む。B：不良。C：外灰白N8/～にぶい黄橙10YR7/2、内灰N8/。	外面にヘラ記号。
689	須恵器	脚(椀?)	谷部B-1区5層(16・17層)	②1.95+α ④9.65	脚部内外面回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1。	
690	須恵器	高杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①13.0 ②4.5 つまみ径2.1	外面1/3カキメ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外青灰5B5/1～灰黄2.5Y7/2、内青灰5B5/1。	外面にヘラ記号。
691	須恵器	高杯蓋	谷部B-3区5層灰層(26層)	①12.55 ②4.6 つまみ径2.55	外面1/4カキメ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：内外灰N4/。	焼き歪む。回転方向右。
692	須恵器	高杯	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①(10.2) ②9.0 裾部径(8.3)	杯底部内面一定方向ナデ。脚部内面1/3未調整。他は回転ナデ。杯部外面に1条沈線。脚部内外面にシボリ痕。	A：細砂・茶褐色粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	
693	須恵器	高杯	谷部B-1区5層	①(9.4) ②7.7 ⑤(7.4)	脚部内面接合のナデ。底部内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/～灰N6/。	
694	須恵器	高杯	谷部B-3区北斜面窯体灰原下ピット中(灰層)	長7.2+α 脚据部径8.5	脚部回転ナデ、内外面にシボリ痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1～灰N4/～灰白5Y7/1、内青灰5PB5/1～灰白N8/。	脚部内面にヘラ記号。
695	須恵器	高杯	谷部B-3区5層灰層(26層)	②3.7+α 脚裾部径(7.5)	降灰のため調整不明。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～灰N6/～暗灰N3/。	全体に降灰。
696	須恵器	高杯	谷部B-3区5層灰層(26層)	②4.15+α 脚裾部径(10.4)	杯底部下位外面ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂と黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	回転方向右。
697	須恵器	高杯	谷部B-3区5層灰層(26・27層)	②3.7+α	杯底部外面降灰のため調整不明、内面ハケメ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	杯底部外面・脚部内面に降灰。
698	須恵器	高杯	谷部B-1区5層(16・17層)	①8.9 ②5.45+α	杯底部外面カキメ。他は回転ナデ。外面に2条沈線。	A：粗砂と黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N7/、内灰白N7/。	回転方向右。

表 26　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表26

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
699	須恵器	高杯	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①(12.4) ②14.9 脚裾部径(10.8)	杯底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。杯部外面に1条沈線、脚部外面に2条沈線。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	外面に降灰。
700	土師器	高杯	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	②10.7+α 脚裾部径(12.7)	杯底部内面ナデ。他は回転ナデ。脚部内面にシボリ痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	回転方向右。
701	須恵器	盤	谷部B-3区5層灰層	①(23.0) ②4.15+α	底部外面ミガキ?、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1。	外面にヘラ記号。
702	須恵器	盤	谷部B-3区5層灰層(26・27層) 灰原1・1区上層	①(24.8) ②3.9 ③(17.8)	底部外面手持ちヘラケズリ、内面降灰のため調整不明。体部下位外面ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内灰N6/～暗灰N3/。	底部外面にヘラ記号。
703	須恵器	盤	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-1区2層 谷部C-1区4層	①29.5 ②4.7 ③23.0	底部外面手持ちヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、一部同心円文当て具痕。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N6/、内暗灰N3/。	焼き歪む。
704	須恵器	鉢	谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-1区5層灰層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(22・23層)	①(18.7) ②9.1 ③10.05	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。体部外面下位回転ヘラケズリ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、3～5㎜程の礫を多量に含む。B：不良。C：外褐灰7.5YR4/1～にぶい赤褐5YR5/4、内黄灰色2.5Y4/1。	底部外面にヘラ記号。
705	須恵器	鉢	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①(17.1) ②8.7	底部外面1/2回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。底部外面1/2降灰のため調整不明。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内暗灰N3/。	底部外面にヘラ記号。焼き歪む。回転方向右。
706	須恵器	短頸壺	谷部B-1区5層灰層(26層)	①5.0 ②5.7+α ⑤胴部(9.9)	底部外面付近回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：黒色粒を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。	
707	須恵器	短頸壺	谷部B-1区5層	①(4.8) ②6.3 ③(7.1)	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。肩部内面シボリ痕あり。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N6/。	外面にヘラ記号。
708	須恵器	短頸壺	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	②4.15+α ③4.4	体部外面摩滅により調整不明。底部外面ナデか?、内面強い回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内にぶい褐7.5YR5/3。	甕製作時の切り落とし片。
709	須恵器	平瓶	谷部B-1区5層灰層(26層)	①8.0 ②6.2+α	頸部内面ナデ。他は回転ナデ。外面に1条沈線。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/2～2.5Y7/1。	
710	須恵器	平瓶	谷部B区(大木の下)(A・B間ベルト16・17層)5層下層	①7.5 ②14.0+α	体部外面回転ナデ後カキメ。肩部外面カキメ後ハケメ。円盤閉塞後、回転ナデによる口縁部接合。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N5/。	頸部内外面にヘラ記号。
711	須恵器	平瓶	谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(24・26層一部) 谷部B-3区5層灰層(26層)	①7.0 ②16.6 ③(12.1)	体部回転ナデ後、体部下位回転ヘラケズリ。上面を円盤閉塞して口縁部接合。外面に2条沈線。	A：微細～1㎜程の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外明青灰5PB7/1。	
712	須恵器	平瓶	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	①8.0 ②18.8	口縁部・体部外面2/3カキメ。体部中位回転ナデ後ナデ、下位手持ちヘラケズリ。絞り切り閉塞後、口縁部接合。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰白N/7。	体部外面に5条沈線。
713	須恵器	平瓶	谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-1区5層灰層 谷部B区風倒木下5層	①11.1 ②21.3+α	回転ナデ成形。体部外面中位～底部に格子タタキあり。閉塞方法不明。	A：0.5～1㎜程の白色砂粒と黒色粒を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/、内灰N4/。	
714	須恵器	平瓶	谷部B-3区5層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(25層) 谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部C-3区5層灰層 谷部C-3区6層	①11.1 ②20.0 ③(13.1)	口縁部内外面回転ナデ。肩部外面回転ナデ、1条沈線が巡る。体部外面擬格子タタキ後ナデ、部分的にヘラケズリ。内面回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外青灰10BG5/1。	肩部外面にヘラ記号。
715	須恵器	平瓶	谷部B-1区5層灰層	①12.2 ②5.5+α	口縁部内外面回転ナデ。肩部外面回転ナデ後ナデ、2条沈線、内面ナデ、回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～N4/、内灰N6/。	頸部内面に指頭圧痕。
716	須恵器	横瓶	谷部B-3区5層灰層(26層)最下層	①13.2 ②5.2+α	口縁部内外面回転ナデ。頸部内面指頭圧痕。肩部外面擬格子タタキ、内面同心円文状当て具痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～N6/、内暗灰N3/～灰N5/。	
717	須恵器	横瓶	谷部B-1区5層(16・17層)	①15.6 ②7.3+α	口縁・頸部内外面回転ナデ。肩部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A：粗砂多量含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰N6/。	頸部外面にヘラ記号。
718	須恵器	横瓶	谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-1区5層(16・17層) 谷部B-3区5層灰層	①13.7～13.8 ②25.4+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。体部円盤閉塞。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、赤褐色粒、黒色粒を少量含む。B：不良。C：外明赤褐2.5YR5/6～淡黄2.5Y8/3、内淡黄2.5Y8/3。	
719	須恵器	甕	谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部A-3区5層青灰色砂層	①15.5 ②30.1 ⑤28.55	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰白N7/～灰N4/。	
720	須恵器	甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①(19.6) ②7.0+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	
721	須恵器	甕	谷部B-3区5層灰層	①18.7 ②7.6+α	口縁部内外面回転ナデ。体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰N6/～暗灰N3/。	口縁部内外面・体部外面降灰。
722	須恵器	甕	谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-2区0層	①19.7 ②9.2+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁回転ナデ成形。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内青灰5PB5/1～灰N5/。	
723	須恵器	甕	谷部B-2区5層灰層 谷部B-1区5層灰層 谷部B-1区2層 谷部B-3区0層	①23.5 ②8.3+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。礫を微量含む。B：やや良好。C：内外にぶい橙5YR6/3～灰N6/。	頸部3ヶ所にヘラ記号。
724	須恵器	甕	谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-1区5層灰層 谷部B-2区5層灰層 谷部B-1区2層	①22.9 ②8.7+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外灰5Y4/1～にぶい褐7.5YR5/4、内浅黄橙10YR8/3～灰5Y4/。	頸部2ヶ所にヘラ記号。

表 27　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表27

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
725	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-3区5層灰層(25層) 灰原1・1・3区間横ベルト3層	①(52.9) ②20.5+α	体部外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後波状文施文後3ヶ所に1条沈線。	A：微細～2mm程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y7/2。	沈線間に波状文。
726	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B区風倒木下5層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルト24層に対応)	①(47.1) ②14.3+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に1条沈線、沈線間2ヶ所に波状文。	A：微細～2mm程の白色砂粒、やや多量に含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8～明赤褐2.5YR5/8。	沈線間2ヶ所に波状文。
727	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区(中央)5層灰層(26層)	①39.6 ②17.2+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に2条沈線、沈線間に波状文。	A：微細～2mmの白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外黒褐10YR3/1、内灰N4/～灰褐5YR4/2。	沈線間に波状文。
728	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)	①47.0 ②15.0+α	体部内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面波状文施文後2ヶ所に5条・1ヶ所に2条沈線。	A：微細～2mm程の白色砂粒をやや多量含む。B：やや不良。C：内外明褐灰7.5YR7/1。	沈線間に波状文。
729	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(25層)	①42.75 ②14.9+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に1条沈線、沈線間に波状文。	A：粗砂を多量、礫を少量含む。B：やや不良。C：外灰褐7.5YR4/2～灰N5/、内灰褐10YR4/2～オリーブ黒7.5Y3/1。	焼き歪む。 外面降灰。 沈線間に波状文。
730	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(24層)	①(41.8) ②12.8	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2条沈線施文後斜線文。	A：2～4mm程の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N4/、内灰N4/～灰白N7/（降灰）。	焼き歪む。 口縁部外面に斜線文。
731	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルト2層に対応) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区4層	①(41.2) ②19.4+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に2条沈線。	A：微細～5mm程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/～褐灰10YR4/1～にぶい黄橙10YR7/3、内灰N4/～褐灰5YR4/2～にぶい橙7.5YR7/3、断面にぶい黄橙10YR6/4、断面芯褐灰7.5YR5/1。	沈線間に斜線文。
732	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(灰層の下) 谷部B-1区5層(16・17層) 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部A-4区北側斜面2層	①57.9 ②17.7+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後3ヶ所に2条沈線。	A：微細～2mmの白色砂粒をやや多量、0.5～1mmの黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～暗灰N3/。	沈線間2ヶ所に斜線文。
733	須恵器	大甕	谷部B-1区5層灰層 谷部E-1区4層下層	①(37.8) ②13.6+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面にカキメ後2ヶ所に1条・2条沈線、沈線間に斜線文。	A：細砂を少量、礫を含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白N7/、内灰N5/～灰N6/。	焼き歪み。 沈線間に斜線文。
734	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区4層	①(53.45) ②14.0+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後斜線文施文後2ヶ所に3条・2条沈線。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/3。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。
735	須恵器	大甕	谷部B-1区5層 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-3区4層 谷部A-3区5層(青灰色砂層)	①52.0 ②15.1+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後1ヶ所に1条・2ヶ所に2条沈線施文後斜線文。	A：微細～2mmの白色砂粒をやや多量、0.5～1mmの黒色粒を少量含む。B：良好。C：口縁部外灰5Y4/1～灰N4/、内灰5Y4/1～灰N4/、体部外灰N6/、内灰N6/。	沈線間に斜線文。
736	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層	①(53.6) ②19.2+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後2ヶ所に2条沈線施文後沈線間に斜線文。	A：微粒白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N6/、内暗灰N3/～灰白N7/（降灰）。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。
737	須恵器	大甕	灰原1-1区上層 灰原1-1区中層 谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルト24層に対応) 谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①(55.8) ②17.5+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面斜線文施文後2ヶ所に1条・2条沈線。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/3。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。
738	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24層・26層一部) 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①43.4 ②41.4+α	体部外面格子タタキ。内面同心円文当て具後、平行当て具。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後2ヶ所に3条・2条沈線施文後斜線文。	A：微細～2mm程の白色砂粒をやや多量に、微細～1mm程の赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外明褐灰7.5YR7/2～にぶい橙7.5YR6/4～橙7.5YR6/6。	沈線間に斜線文。
739	須恵器	大甕	谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-1区5層灰層 谷部B-1区5層(風倒木直上) 谷部B区風倒木下5層 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(26・27層) 谷部B-3区5層灰層上層 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(25層) 谷部B・C間ベルト上にあり位置不明 谷部B-1区7・8層(34層) 谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-3区4層 谷部A-4区5層17層 谷部B-3区(中央)5層灰層(26層) 谷部B-1区5・6層	①59.5 ②38.0+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に3条沈線、沈線間に斜線文。	A：微細～5mm程の白色砂粒をやや多量含み、0.5mm程の黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい赤褐5YR4/4、断面芯灰10Y4/1。	沈線間に斜線文。

表 28　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表28

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
740	須恵器	大甕	谷部B-1区5層灰層 谷部B区大木の下5層(A・B間ベルト14・15層) 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(24層・26層一部) 谷部B-3区5層灰層(24層)	①47.4 ②60.6+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に2条沈線、沈線間に斜線文。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰褐5YR4/1、内黒褐2.5Y3/1、断面芯暗灰N3/。	沈線間に斜線文。
741	須恵器	大甕	谷部D-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層下層(赤褐色土混) 谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①39.5 ②26.7+α	体部外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面2ヶ所に2条沈線。	A：粗砂を少量、微細な茶色粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3～にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい黄橙10YR7/3～暗赤褐5YR3/6。	頸部外面にヘラ記号。
742	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(灰層の下) 谷部B-1区5層(16・17層) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層)	①45.7 ②35.7+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面2ヶ所に2条沈線。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量、0.5～1㎜の黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：口縁部内外暗灰黄2.5Y5/2、体部内外灰白5Y7/1。	
743	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-1区5層 谷部B-1区5層(16・17層)	①(53.8) ②15.3+α	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y8/1。	
744	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(25層) 谷部B-3区5層灰層(24・25層) 谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルト24層に対応) 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区6層(灰色砂質土) 灰原1-1区中層 谷部B-1区5層	①35.0 ②88.7	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面に2条沈線。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外明赤褐5YR5/6～にぶい黄橙10YR6/4～黒褐7.5YR3/1、内にぶい赤褐2.5YR4/4～赤灰2.5YR4/1。	焼き歪む。
745	須恵器	中空硯	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 灰原1・1区上層	①(6.6) ②3.1 ③6.4 ⑤(11.2)	体部外面回転ヘラケズリ。底部外面摩滅のため調整不明。天井部ナデ。他は回転ナデ。円盤閉塞。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1。	
746	須恵器	鳥形中空硯	谷部B-1区清掃中(木の直上)5層	②2.6+α	先端部ケズリ。他はナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	上面に穿孔。
747	須恵器	土馬	谷部B-1区清掃中(木の直上)5層	高8.5+α　厚3.3	脚部先端ケズリ。他はナデ、一部ケズリ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：灰白5Y7/1～灰5Y6/1。	
748	須恵器	土馬	谷部B-3区5層灰層 谷部C-1区5層灰層 谷部B区B-3区5層灰層(24・26層)	縦10.2+α　横21.6+α 高9.5+α	ナデ。胴部中央、後部に穿孔、側面に細かい刺突痕多数あり。上面に2ヶ所鞍?の剥離あり。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：灰白N7/～灰N4/。	
749	須恵器	土馬	谷部B-1区5・6層 谷部D区SK01側(7・8層) 谷部A-3区5層最下層(黒褐色粘土) 谷部B-3区5層灰層 谷部C-1区5層灰層	縦10.5+α　横14.3+α 幅10.5+α	指ナデ。胴体部分に線刻。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：灰白5Y7/1～灰5Y6/1。	
750	須恵器	土管状製品	谷部B-3区0層 谷部B-2区大木の下9層(BC間ベルト30層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部C-1区5層灰層 谷部C-3区2層 谷部D-3区4層上層 谷部D-3区4層中層(11層)(黄灰色土) 谷部D-3区10層 谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘) 谷部D-3区2層下層 谷部D区SK01側4層下層(12層) 谷部D区SK01側7・8層 谷部D・E間ベルト2層 谷部E-3区1層(キカイ掘) 灰原1・1区中層 灰原1・1区上層	①10.7 ②55.4 ③14.5	粘土帯を輪積み後不定方向のナデ。その後、内面同心円文当て具痕、外面平行タタキ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰白N7/～黒N2/。	
751	須恵器	土錘	谷部B-3区5層灰層	縦5.8 横1.6 厚1.5	側面指ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N7/。	
752	須恵器	棒状製品	谷部B-3区5層灰層(24層)	縦6.7 横2.0 厚2.0	ケズリ。	A：細砂をやや多量含む。黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：灰N3/～灰白5Y7/1。	
753	須恵器	釣鐘状製品	谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部C区写真前清掃中 谷部C-1区5層灰層	②9.4 ③9.1 上部径(2.6)	ヨコナデおよびナデ。	A：0.5～1.5㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：灰N6/～灰N5/～にぶい赤褐5YR5/4～褐灰5YR5/1。	底面にヘラ記号。
754	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24層)	縦6.2 横2.6 厚1.1	外面格子タタキ。内面ナデ。ヘラ切り。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。

表 29　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表29

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
755	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦5.2 横1.75 厚1.2	外面平行タタキ、ナデ。内面同心円文の当て具痕。ヘラ切り。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：暗灰N3/、にぶい赤褐2.5Y5/3。	甕製作時の切り落とし片。
756	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦6.4 横1.4 厚2.3	外面格子タタキ。内面ナデ。ヘラ切り。	A：細砂を多量含む。B：やや不良。C：灰N5/。	甕製作時の切り落とし片。
757	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦6.5 横2.6 厚1.8	外面格子タタキ。内面ナデ後同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
758	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦5.0 横2.3 厚1.6	外面平行タタキ後キザミ、ナデ。内面同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：暗青灰5B4/1。	甕製作時の切り落とし片。
759	須恵器	切削物	谷部B-2区5層灰層	縦3.0 横7.65 厚1.75	外面平行タタキ。内面ナデ。ヘラ切り。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	甕製作時の切り落とし片。
760	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦8.6 横2.6 厚1.7	外面平行タタキか?後ナデ後キザミ。内面同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：暗灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
761	須恵器	切削物	谷部B-3区5層灰層(24層)	縦11.2 横4.6 厚1.3	外面格子タタキ。内面ナデ。ヘラ切り。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N3/。	甕製作時の切り落とし片。
762	土製品	粘土塊	谷部B-3区5層灰層(26層)	最大長15.4 最大幅8.3 最大高11.3	一部ナデ、布目の圧痕が見られる。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：灰白10YR7/1～灰N5/。	須恵質。
763	土師器	杯	谷部B-1区5層	①(13.1) ②3.4 ③6.4	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：外明赤褐5YR5/6～にぶい黄橙10YR6/4、内にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部内外面に煤付着。回転方向右。
764	土師器	杯	谷部B-3区5層灰層(24層)	①13.2 ②3.4～4.0 ③6.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外明褐灰7.5YR7/2、内にぶい橙5YR6/4。	回転方向右。
765	土師器	杯	谷部B-3区5層灰層(24層)	①(13.3) ②3.2 ③8.1	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内明褐灰7.5YR7/2。	回転方向右。
766	土師器	杯	谷部B-1区5層	①13.0 ②3.65 ③7.35	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内明黄褐10YR6/6。	
767	土師器	杯	谷部B-1区5層	①(12.7) ②3.4 ③6.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外明赤褐2.5YR5/8、にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	口縁部内面に煤付着。回転方向右。
768	土師器	杯	谷部B-1区5層	①(14.6) ②3.8 ③8.95	底部外面2/3ヘラ切り後ナデ、1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外黄褐2.5Y5/3。	回転方向右。
769	土師器	杯	谷部B-1区5層	①15.7 ②3.65 ③7.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
770	土師器	杯	谷部B-1区5層	①(13.35) ②3.1 ③8.4	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
771	土師器	杯	谷部B-1区5層	②1.25+α ③(11.4)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外明褐灰7.5YR7/1。	底部内面墨痕。
772	土師器	蓋	谷部B-3区5層灰層(24層)	①(22.0) ②3.3+α	外面3/4回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。口縁部外面回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂をやや多量含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外褐灰7.5YR4/1。	内外面に煤付着。
773	須恵器	蓋?	谷部B-3区5層灰層	②2.4+α	輪状つまみがつく。天井部外面ナデ。つまみ貼付の回転ナデ。他はミガキか?	A：粗砂を含む。B：良好。C：外橙5YR6/6、内橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/2。	
774	土師器	椀	谷部B-3区5層灰層(24層)	①(19.6) ②6.65 ④10.7	底部3/4外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。体部下位～底部1/4外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ、ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を多量含む。B：やや良好。C：外褐灰10YR6/1、内灰黄褐10YR6/2。	回転方向右。
775	土師器	椀	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(26層)	①19.9 ②8.4 ④9.85	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ後回転ヘラミガキ。体部下位外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量含む。微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4～にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい橙7.5YR7/4。	
776	土師器	甕	谷部E-1区4層下層	①25.6 ②7.2+α	口縁部ヨコナデ。体部外面縦方向ハケメ、内面横方向のヘラケズリ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を多量、雲母を少量、0.5～1㎜程の茶色粒をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～にぶい黄褐10YR5/3。	内外面に煤付着。
777	須恵器	甑	谷部B-3区5層下層(灰層の下)	②4.5+α	把手部指ナデ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：にぶい褐7.5YR6/3。	把手。
778	瓦	丸瓦	谷部B区(風倒木下)5層 谷部A-4区2層(黒色土)	長30.3 幅15.8 高8.0	凸面平行タタキ、凹面布目痕。側面ヘラ切り。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：不良。C：凹凸褐灰10YR5/1～橙7.5YR7/6。	
779	瓦	丸瓦	谷部B-3区北斜面窯体灰原下ピット中(灰層)	長8.4+α 幅6.1+α 高6.2+α 最大厚1.5	凹面布目、凸面平行タタキ後ナデか?	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：凸褐灰7.5YR4/1～灰褐5YR5/2、凹褐灰7.5YR5/1、断面にぶい赤褐5YR5/3～赤灰2.5YR6/1。	778と同一個体か?(接合不可)
780	瓦	平瓦	谷部B-3区4層(9・16・19層) 谷部B区北側斜面1号窯跡前庭部構成土埋土中 谷部B-1区5層灰層 谷部B-2区5層灰層(26層)	長27.0+α 最大幅39.0 断面厚2.3	凹面布目後半円状の圧痕あり。凸面平行タタキ。側縁部ヘラ切り。	A：砂粒をほとんど含まない。B：やや不良。C：凹凸灰白5Y8/1～灰白5Y7/1。	
781	瓦	平瓦	谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部C-3区6層下層	長21.6+α 幅16.9+α 断面厚1.9	凹面布目及び半円状の圧痕あり。凸面平行タタキ。側縁部ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：凹凸灰黄2.5Y7/2～灰N4/。	
782	瓦	平瓦	谷部B-1区4層 谷部B-1区5層 谷部C-3区2層 灰原1・1区上層	長22.3+α 幅18.1+α 厚1.9	凸面平行タタキ、凹面布目痕後一部ナデ、円形圧痕。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：凹凸灰黄2.5Y7/2～灰N4/。	

表 30　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表30

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
783	須恵器	転用硯(甕胴部片)	谷部B-1区5層	縦12.4 横11.3 厚1.6	内面同心円文状の当て具痕後ハケメ、外面擬格子のタタキ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：外暗オリーブ灰N3/、内灰N6/。	内外面煤付着。
784	土製品	不明	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦8.6+α　厚2.0	ナデ。接合痕が見られる。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR6/3～黒褐2.5Y3/1。	
785	石製品	砥石	谷部B-3区5層灰層(24・26層)	縦11.9 横8.9 厚4.5			3面使用。
786	石製品	砥石	谷部B-1区5層	長21.15 幅10.85+α 厚4.3+α			1面使用。
787	石製品	砥石	谷部B-1区5層	長22.0+α 幅13.4+α 厚3.1+α			2面使用。
788	須恵器	杯蓋	谷部B-1区6層(黒褐色土)	①10.4 ②3.3	外面1/3ヘラ切り後ナデか?内面2/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/～灰白2.5Y7/1、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
789	須恵器	杯蓋	谷部B-1区6層(黒褐色土)	①8.4 ②2.4 ⑤10.8	外面2/3ヘラ切り後ナデか?内面2/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。 外面に薄く降灰。
790	須恵器	杯身	谷部B-1区6層(黒褐色土)	①9.9 ②3.3 ⑤12.0	外面1/2ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：外灰N7/、内灰白10YR8/1。	底部外面にヘラ記号。
791	須恵器	盤	谷部B-1区6層(黒褐色土)	②2.8+α ③(21.7)	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	内面重ね焼きの痕跡。 外面にヘラ記号。 板状圧痕。
792	須恵器	すり鉢	谷部B-1区5層(16・17層) 谷部B-1区6層(黒褐色土)	①16.5 ②12.2 ③9.7	底部外面は手持ちヘラケズリ、内面ハケメ後ナデ。他は回転ナデ。底面に刺突痕あり。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～明褐灰5YR7/1、内灰N6/～灰5Y5/1。	内面のハケは擬格子の可能性。体部外面にヘラ記号。
793	須恵器	短頸壺	谷部B-1区6層(黒褐色土)	②4.1+α ⑤7.5(胴部)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外2.5Y6/1。	外面にヘラ記号。 回転方向右。
794	須恵器	大甕	谷部B-1区5層 谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-3区5層灰層(24～26層) 谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層)	①39.2 ②12.7+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面波状文施文後2ヶ所に2条沈線。	A：粗砂をやや多量に含む。B：良好。C：露胎部灰白N8/、降灰部暗灰N3/。	内外面相反した部分に降灰。 沈線間に波状文。
795	須恵器	大甕	谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(24層)	①(54.8) ②13.2+α	体部内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面2ヶ所に2条沈線、沈線間に斜線文。	A：礫をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N5/。	沈線間に斜線文。
796	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-1区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルトに対応) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区(中央)5層灰層(26層) 谷部B-1区6層(黒褐色土)	①(53.2) ②17.8+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面斜線文施文後2ヶ所に2条沈線。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：不良。C：内外灰白5Y8/1～灰白5Y8/2。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。
797	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部C-1区6層(暗灰色砂質土)	①(49.8) ②21.0+α	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後斜線文施文後1ヶ所に5条・2ヶ所に2条沈線。	A：微粒白色砂粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外橙5YR6/6～黒褐2.5Y3/1、内褐灰10YR5/1。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。
798	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-1区6層(黒褐色土) 谷部B-1区2層	①54.8 ②17.8+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面3ヶ所に1条沈線施文後斜線文。	A：微細～3㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：口縁部外黄灰2.5Y5/1、内黄灰2.5Y5/1、体部外灰5Y5/1、内灰5Y5/1。	沈線間に斜線文。
799	土師器	甑	谷部B-1区6層(黒褐色土)	②6.7+α 孔径0.6	底部外面縦・斜方向ケズリ、内面縦方向ハケメ。端部ヨコナデ。	A：粗砂をやや多量含む。礫を微量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内褐灰10YR6/1。	体部下位に穿孔。
800	須恵器	杯蓋	谷部B-2区大木の下最下層砂層(B・C間ベルト34層)	①12.1 ②4.0	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	甕製作時の切り落とし片。
801	須恵器	杯身	谷部B-2区大木の下最下層砂層(B・C間ベルト34層)	①10.2 ②3.4 ⑤12.2	外面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。黒色粒を多量に含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR5/2～灰白10YR7/1、内灰N5/。	甕製作時の切り落とし片。
802	須恵器	短頸壺	谷部B-3区7・8層(34層)	①5.0 ②6.25+α ⑤9.5(胴部)	底部外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。体部上位外面に2条沈線。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～灰N4/～灰5Y6/1、内灰N5/。	体部外面にヘラ記号。
803	須恵器	短頸壺	谷部B-3区7・8層(34層)	①6.5 ②9.6 ⑤13.1(胴部)	底部外面不定方向ケズリ。体部下位外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。体部上位外面に2条沈線。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	外面にヘラ記号。
804	須恵器	甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B区風倒木下5層 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B区全区7・8層(34層) 谷部C-1区5層灰層 谷部C-3区5層灰層 谷部C-1区7・8層 谷部C-1区10層 谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘) 灰原1・3区上層	②14.3+α ③15.6	体部回転ナデ。体部外面カキメ後2ヶ所に2条・1条沈線。沈線間斜線文施文後穿孔して注口部貼付。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～明緑灰7.5GY7/1～灰白N7/、内灰N5/。	沈線間に斜線文。

表 31　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表31

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
805	須恵器	甕	谷部B-3区5層灰層(24・26層一部) 谷部B-2区5層灰層 谷部B-2区7層(黄褐色土) 谷部B-2区2層 谷部B-2区0層	①20.3 ②8.95+α	体部外面格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：不良。C：外黄灰2.5Y4/1～明赤褐5YR5/6、内灰黄2.5Y7/2～灰褐7.5YR5/2。	頸部に3ヶ所ヘラ記号。
806	須恵器	甕	谷部B-1区7・8層(34層)	①(21.0) ②12.8+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。礫を微量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～黒N2/、内暗灰N3/～黒N2/～青灰5PB6/1。	口縁内外面に降灰。
807	土師器	甑	谷部B-3区7・8層(34層)	①(30.4) ②11.6+α	把手との接合痕あり。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ハケメ。内面縦方向のハケメ後不定方向ナデ後縦方向ケズリ。	A：粗砂・礫を多量含む。赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR5/2。	体部外面に黒斑。
808	石製品	紡錘車	谷部B-3区大木の下最下層砂層 (B・C間ベルト34層)	直径5.0 最大厚0.6 孔径0.7	周縁部削り後、両方向穿孔。		
809	須恵器	杯蓋	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①(10.8) ②4.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR6/3～灰白10YR8/2、内にぶい黄橙10YR7/4。	天井部外面にヘラ記号。
810	須恵器	杯蓋	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①8.3 ②3.3 ⑤10.6	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外黄灰2.5Y6/1～灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/1。	天井部外面に圧痕。
811	須恵器	杯身	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①9.2 ②2.9 ⑤11.4	外面ヘラ切り。内面2/3回転ナデ後一定方向ナデ。体部外面波状文施文後手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。 体部外面に波状文。
812	須恵器	杯身	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①(12.2) ②4.2 ⑤(14.2)	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～明紫灰5P7/1、内青灰5PB5/1。	
813	須恵器	無蓋高杯	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①(9.0) ②6.6 脚裾部径7.5	杯底部1/2外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。杯部外面に3条沈線。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰5Y6/1～灰N5/、内灰N5/。	杯底部内面ヘラ記号。
814	須恵器	杯	谷部B-2区大木の下9層 (B・C間ベルト30層)	①12.7 ②4.5 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。体部下位外面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y5/1～灰黄2.5Y7/2、内黄灰2.5Y5/1～灰黄褐10YR6/2～灰黄2.5Y7/2。	内面に火襷。板状圧痕。
815	須恵器	大甕	谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-1区5層灰層 谷部B-1区5層灰層(26層) 谷部B区風倒木下5層 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層 谷部B-3区5層下層(灰層の下) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-3区5層 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区9層(30・31層)	①48.8 ②92.9+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面2ヶ所に2条沈線。	A：0.5～2㎜程の白色砂粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y4/1～オリーブ黒10Y3/1、内暗青灰5B3/1、断面にぶい黄褐10YR5/4。	
816	須恵器	杯蓋	谷部B-3区10層灰層	①11.6 ②4.2	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1、内紫灰5RP5/1～紫灰5P5/1。	天井部外面にヘラ記号。
817	須恵器	杯身	谷部B-3区10層灰層(33層)	①11.0 ②4.1 ⑤13.0	外面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を少量、黒色粒を多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内紫灰5RP5/1。	底部外面に降灰。
818	須恵器	杯身	谷部B-3区10層灰層	①(13.5) ②4.9 ⑤(16.2)	外面1/2ヘラ切り後回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰7.5Y4/1～灰黄2.5Y6/2、内灰7.5Y5/1。	底部外面にヘラ記号。
819	須恵器	短頸壺蓋	谷部B-3区10層灰層(33層)	①8.8 ②3.2	外面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量、黒色粒を多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内紫灰5RP5/1。	
820	須恵器	甕	谷部B-3区10層灰層(33層)	①(21.4) ②9.9+α	体部外面擬格子タタキ後一部カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。礫を微量含む。B：良好。C：内外灰5N/。	頸部にヘラ記号。 口縁部焼き歪む。
821	須恵器	大甕	谷部B-3区10層灰層(33層) 谷部B-3区5層灰層 谷部B-2区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部C-3区6層下層 谷部C-1区7・8層 谷部C-1区10層 谷部B-3区5層灰層(26層)(最下層) 谷部B-2区(大木の下)9層(30層)	①51.8～54.5 ②24.4+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後3ヶ所に1条・3条・2条沈線施文後斜線文。	A：微粒な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	焼き歪む。 沈線間に斜線文。

表 32　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表32

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
822	須恵器	大甕	谷部C-1区5層灰層 谷部B-3区5層灰層(26層最下層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層一部) 谷部B-3区5層灰層(24層) 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・25層) 谷部B-3区5層灰層(B・C間ベルト24層に対応) 谷部B-3区5層 谷部B-3区5層灰層(25層) 谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区9層 谷部C-1区10層 谷部C-1区4層 (特殊土器出土地点周辺)	①(48.0) ②96.8+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ後、口縁部外面2ヶ所に1条・2条沈線。	A：0.5～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N7/～灰N3/～にぶい赤褐5YR5/3～黄灰2.5Y6/1、内口縁部暗灰N3/～暗灰N4/、体部灰赤2.5YR4/2～にぶい赤褐2.5YR4/3～明赤褐2.5YR3/3、断面芯が暗灰色に変色。	
823	須恵器	横瓶切抜円盤	谷部B-3区10層灰層(33層)	直径9.7～8.6 最大厚1.1	外面擬格子タタキ後ナデ。内面指頭圧痕、同心円文当て具痕。側面切り取り。	A：細砂を少量含む。B：やや良好。C：外灰7.5Y6/1、内灰白5Y7/1。	横瓶製作時の切り落とし片。
824	土師器	小皿	谷部C・D間ベルト1層(キカイ掘)	①9.2 ②1.5 ③6.85	底部外面ヘラ切り、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～橙2.5YR7/6、内灰白2.5Y8/2～浅黄橙10YR8/4。	
825	石製品	不明	谷部C・D間ベルト1層(キカイ掘)	縦3.7 横2.0 厚1.5	面取り、削り。		滑石製。横耳部分の転用品。
826	須恵器	杯蓋	谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘)	①9.0 ②3.2 受部径11.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	焼き歪む。
827	須恵器	杯蓋	谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘)	①8.4 ②2.0 受部径10.6	外面2/3ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰白N8/、内淡黄7.5Y8/3。	天井部外面にヘラ記号。
828	須恵器	杯蓋	谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘)	①8.7 ②2.0+α 受部径10.7	外面1/2カキメ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。	外面に降灰。
829	須恵器	杯蓋	谷部C-1区2層最下層	①20.4 ②2.5+α	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・茶色粒をやや多量含む。B：やや良好。C：外灰白10YR8/1、内灰黄褐10YR6/2。	内外面煤付着。
830	須恵器	杯	谷部C-3区2層	①12.4 ②3.7 ③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7.1～灰N6/、内黄灰2.5Y6/1。	
831	須恵器	壺	谷部C-3区2層(キカイ掘)	②7.5+α ③6.7 ⑤8.5	底部外面回転ナデ後不定方向ナデ。体部外面縦方向ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量、黒色粒を少量含む。B:良好。C：外暗青灰5B4/1～灰N5/、一部黒N2/、内灰5Y4/1。	
832	須恵器	切削物	谷部C・D間ベルト4層(キカイ掘)	長7.4 幅2.7 高3.7	平行タタキ、ナデ。同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。	甕製作時の切り落とし片。外面２ヶ所にコテ当て痕。
833	土師器	小皿	谷部C-3区2層(キカイ掘)	①8.95 ②1.4 ③5.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～にぶい黄橙10YR6/3～灰5Y6/1、内灰白10YR8/1～褐灰10YR6/1。	板状圧痕。
834	土師器	小皿	谷部C-3区2層(キカイ掘)	①10.2 ②1.25 ③7.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁部内面ヨコナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～淡橙5YR8/3。	板状圧痕。
835	土師器	小皿	谷部C-3区2層(キカイ掘)	①10.6 ②1.3 ③8.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を少量含む、1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～灰黄褐10YR6/2。	板状圧痕。
836	土師器	小皿 (都城系)	谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘)	①9.7 ②1.0 ③6.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：精良。細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：灰白10YR8/1。	回転方向左。
837	土師器	小皿 (灯明)	谷部C-3区2層(キカイ掘)	①9.9 ②1.3 ③6.3	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～褐灰10YR5/1、内灰黄褐10YR6/2。	内外面に煤付着。
838	土師器	小皿	谷部C-3区2層(キカイ掘)	①9.6 ②1.7 ③7.4	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y8/2。	内面に煤付着。
839	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①13.4 ②3.4 ③5.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい黄橙10YR6/3。	回転方向右。
840	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①13.15 ②3.4 ③7.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂・礫を多量、茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4～灰白7.5YR8/1、内にぶい橙5YR6/4。	
841	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区2層最下層	①13.0 ②3.4 ③7.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量、茶褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/4～にぶい橙7.5YR6/4。	内面に煤付着。
842	土師器	杯	谷部C-3区2層	①13.7 ②3.55 ③8.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	
843	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①13.9 ②3.7 ③8.35	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量、茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～灰白10YR7/1。	
844	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①15.5 ②7.6 ③8.5	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量、褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
845	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①15.0 ②3.9 ③6.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向右。

表 33　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表33

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
846	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①15.2 ②3.45 ③9.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量、褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/3、内にぶい褐7.5YR6/3。	
847	土師器	杯	谷部C・D間ベルト5層(キカイ掘)	①13.0 ②3.9 ③7.1	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/4、一部にぶい黄橙10YR7/2。	板状圧痕。
848	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区2層最下層	①13.35 ②3.2 ③7.6	体部～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向右。 内外面共に煤付着。
849	土師器	椀	谷部C-1区2層最下層	①(19.6) ②9.1 ④10.0	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。体部下位外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量含む。赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	底部に穿孔。
850	土師器	皿	谷部C-1区2層最下層	①15.2 ②2.1 ③11.7	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	回転方向右。
851	土師器	皿	谷部C-1区2層最下層	①16.1 ②2.1 ③13.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	内面煤付着。
852	土師器	皿	谷部C-1区2層最下層	①16.0 ②1.9～2.45 ③12.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
853	土師器	杯	谷部C-1区2層最下層	①21.0 ②4.0	体部～底部1/3外面・内面回転ヘラミガキ。底部～2/3外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量、赤褐色粒・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	内面煤付着。
854	土師器	鉢	谷部C-1区2層最下層	①17.2 ②7.4 ③5.9	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。体部上位外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	回転方向右。
855	土師器	器台	谷部C-3区2層(キカイ掘)	②12.1+α	外面指頭圧痕、後ナデ。杯底部・裾部内面不定方向ナデ。	A：細砂・黒茶色粒を少量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/2。	
856	土師器	甕	谷部C-1区2層最下層	①19.1 ②14.5	口縁部内面・体部～底部外面ハケメ。体部上位内面ケズリ。体部下位～底部内面指頭圧痕・ナデ。	A：粗砂を多量、茶色粒をやや多量含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1～赤褐2.5YR5/6(底部)、内にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR5/2。	外面に煤付着。
857	黒色土器 A類	杯	谷部C-3区2層(北斜面側)	①(13.4) ②2.9 ③(6.5)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面手持ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR5/4～にぶい黄橙10YR6/4、内黒N2/。	
858	黒色土器 A類	椀	谷部C-3区2層	②2.3+α ④6.65	底部外面ナデ。内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1～灰5Y4/1～暗灰N3/、内褐灰10YR5/1。	
859	黒色土器 B類	椀	谷部C-3区2層	②3.1+α ④6.3	内面・体部上位外面手持ちヘラミガキ。高台ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：内外暗灰N3/。	外面にヘラ記号。
860	黒色土器 B類	托上椀	谷部C・D間ベルト2層(キカイ掘)	②2.95+α ④(4.4)	体部下位～底部外面回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外暗褐N3/、内黒N2/。	
861	土製品	脚	谷部C-3区2層	②14.4	脚部指ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰褐7.5YR6/2、一部黒N2/。	脚部の端部に黒斑。
862	土製品	棒状 土製品	谷部C-3区2層(キカイ掘)	長(11.9) 幅4.7 厚3.9	側面指ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/3～にぶい黄橙10YR6/3。	
863	石製品	砥石	谷部C-3区2層(キカイ掘)	縦5.1 横5.7 厚2.6			4面使用。
864	石製品	砥石	谷部C-3区2層	縦4.1 横3.7 厚1.9			2面使用。表裏面中央部に削りによる窪みあり。
865	木製品	皿 (刳物)	谷部C-1区2層最下層	縦14.2 横15.9 最大厚0.5	内外とも腐食のため調整不明。		外底の形から本来は円形のものだったと思われる。
866	木製品	ヘラ状 斎串	谷部C・D区ベルト2層（キカイ掘）	長19.8 幅3.5 厚0.4～0.5	削り。		
867	須恵器	杯蓋	谷部C-3区4層	①8.3 ②1.8 ⑤10.4	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、一部にぶい赤褐5YR4/3、内灰7.5YR6/1。	焼き歪む。
868	須恵器	杯蓋	谷部C-1区4層	①(18.4) ②3.6	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2擦痕。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。	内面墨痕あり。
869	須恵器	杯身	谷部C-1区4層	①12.2 ②4.55 ④8.2	底部外面不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N4/、内灰N6/～口縁部灰N5/。	
870	須恵器	杯身	谷部C-3区4層	①(15.1) ②5.5 ④(8.2)	底部外面不定方向ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ（体部外面は強い回転ナデ）。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	
871	須恵器	杯 (転用硯)	谷部C-1区4層	①12.1 ②3.7 ③8.6	底部外面ナデ、内面擦痕?口縁端部～体部内面回転ナデ。他は回転ヘラケズリ後回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：灰N6/、底部内面黒N1.5/。	内面に墨痕。
872	須恵器	杯 (転用硯)	谷部C-1区4層	①12.8 ②3.7 ③7.3	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白N8/～灰白N7/、内灰白N7/、底部内面黒N1.5/。	内面に墨痕。 重ね焼きの痕跡。 板状圧痕。
873	須恵器	盤	谷部C-3区4層	①20.8 ②3.2 ③17.9	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰白7.5YR8/1、内浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
874	須恵器	皿 (転用硯)	谷部C-1区4層	①15.7 ②1.9 ③12.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y4/1。	底部内面滑らか。 内面に墨痕。 外面墨書か?
875	須恵器	壺	谷部C-1区4層	②3.0+α ③9.0	外面回転ヘラケズリ。底部外面指頭圧痕。内面回転ナデ、シボリ痕か?	A：粗砂を微量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	回転方向右。

表 34　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表34

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
876	須恵器	大甕	谷部C-1区4層 灰原1・1区中層	①49.7 ②15.7+α	口縁～頸部回転ナデ後外面に3条沈線、沈線間に波状文。体部外面は横方向のハケメ後擬格子タタキ。体部内面は同心円文当て具痕、一部格子タタキ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	沈線間に波状文。
877	須恵器	不明	谷部C-1区4層 (特殊土器出土地点周辺)	高2.3 幅2.8	ケズリ。穿孔あり。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：灰白7.5Y8/1。	
878	須恵器	切削物	谷部C-3区4層	長7.1 幅2.6 厚1.3	ナデ(指頭圧痕あり)。平行タタキ。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰白N8/。	甕製作時の切り落とし片。
879	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①12.5 ②3.2 ③6.8	体部～底部1/3外面回転ヘラケズリ。底部2/3ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄2.5Y6/3～灰黄2.5Y6/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
880	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①13.1 ②3.6 ③7.5	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
881	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①12.8 ②3.3 ③6.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/4～7/4。	回転方向右。
882	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①13.4 ②3.5 ③6.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
883	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①13.6 ②3.0～4.1 ③6.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：雲母・細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内灰黄褐10YR5/3。	回転方向右。
884	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①13.5 ②3.3 ③7.7	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
885	土師器	杯	谷部C-1区4層	①13.7 ②3.4 ③7.7	底部外面回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。他は回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～黄灰2.5Y5/1、にぶい黄橙10YR6/3～黄灰2.5Y5/1。	
886	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①(13.4) ②3.6 ③7.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3～10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/2。	
887	土師器	杯	谷部C-1区4層	①13.8 ②3.4～2.85 ③8.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。口縁端部回転ナデ。他は回転ヘラミガキ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向右。
888	土師器	杯	谷部C-1区4層	①15.1 ②3.5 ③9.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外橙7.5YR6/6～明赤褐7.5YR7/2。	
889	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①15.0 ②3.6 ③7.8	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR6/1、内灰黄褐10YR6/2～灰黄褐10YR5/2。	回転方向右。
890	土師器	杯	谷部C-1区4層	①15.0 ②4.1 ③9.0	底部外面ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：不良。C：内外浅黄橙10YR8/3～にぶい橙5YR7/4。	板状圧痕。
891	土師器	杯	谷部C-1区4層	①15.5 ②4.3 ③7.45	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。口縁端部回転ナデ。他は回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を多量、微細な褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR6/3、内にぶい橙7.5YR6/4。	
892	土師器	杯	谷部C-1区4層	①15.8 ②4.2 ③7.8	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂・礫を多量、雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向右。
893	土師器	杯	谷部C-1区4層	①16.1 ②4.4+α ③(8.4)	体部下位外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
894	土師器	杯	谷部C-1区4層	①16.4 ②4.5 ③8.3	体部下位外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：雲母を少量、細砂を微量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
895	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区4層	①(12.6) ②3.3 ③(4.0)	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁・体部内面回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外橙5YR6/6。	口縁部内面に煤付着。
896	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区4層上層	①(13.6) ②3.5 ③7.8	底部内面ナデ、外面は摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	内外面煤付着。
897	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区4層	①14.1 ②3.4 ③7.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。口縁端部回転ナデ。他は回転ヘラケズリ後回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/6、内にぶい橙7.5YR7/4。	内面に煤付着。 回転方向右。
898	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区4層	①15.6 ②3.8 ③8.4	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰褐7.5YR5/2。	口縁端部内外面煤付着。
899	土師器	杯	谷部C-1区4層	②2.3+α ③8.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内橙7.5YR6/6。	底部外面に墨書。
900	土師器	杯	谷部C-1区4層	②0.7+α	摩滅のため調整不明。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙7.5YR7/4。	内外面に墨書。 外面は墨画か?
901	土師器	蓋	谷部C-1区4層	①(15.8) ②1.3	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外灰白7.5YR8/2、内灰白7.5YR8/1。	回転方向右。
902	土師器	蓋	谷部C-1区4層上層	①18.7 ②2.9	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	天井部に穿孔。

表 35　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表35

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
903	土師器	蓋	谷部C-1区4層	①18.6 ②2.4	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母・褐色粒を含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4、内灰白10YR8/1、口縁内面一部浅黄橙7.5YR8/4。	
904	土師器	椀	谷部C-1区4層	①(16.2) ②6.2 ④8.3	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
905	土師器	杯	谷部C-1区4層上層	①(16.2) ②5.7 ④(8.4)	底部下位外面ナデ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4～にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR6/4。	
906	土師器	椀	谷部C-1区4層	①18.35 ②7.5 ④(10.75)	高台～底部外面・口縁端部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量、赤褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：外橙5YR6/6、内にぶい橙5YR6/4。	
907	土師器	椀	谷部C-1区4層	①19.2 ②8.1 ④10.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台・口縁端部回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂を多量、黒色粒を少量、雲母をやや多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内にぶい褐7.5YR5/3。	回転方向右。
908	土師器	椀	谷部C-1区4層上層	①19.0 ②8.5 ④9.9	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母を少量、細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR6/3～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい褐7.5YR6/3。	回転方向右。
909	土師器	椀	谷部C-1区4層上層	①20.7 ②8.9 ④10.6	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。底部内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4～10YR8/4、内浅黄橙10YR8/4。	回転方向右。
910	土師器	鉢	谷部C-3区4層	②5.8+α	体部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	口縁部外面煤付着。
911	土師器	鉢	谷部C-3区4層	②6.2+α	体部下位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量、雲母を微量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	回転方向左。 全体に黒ずむ。
912	土師器	皿	谷部C-1区4層	①15.0 ②2.0 ③11.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3、内灰白7.5YR8/2。	
913	土師器	皿	谷部C-1区4層	①15.0 ②1.8 ③11.4	底部1/3回転ヘラケズリ、2/3ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂・雲母を少量含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/6、内にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向左。
914	土師器	皿	谷部C-1区4層	①16.1 ②2.1 ③10.2	底部外面回転ヘラケズリ。体部下位外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/1。	回転方向右。
915	土師器	皿	谷部C-1区4層	①16.0 ②2.2 ③12.0	体部～底部2/3回転ヘラケズリ。底部1/3外面ナデ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：雲母・細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR1/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR6/3。	
916	土師器	皿	谷部C-1区4層上層	①16.6 ②2.5 ③13.1	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/4～6/4、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
917	土師器	皿	谷部C-1区4層上層	①16.3 ②1.4 ③13.9	底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2。	回転方向右。
918	土師器	皿 (灯明)	谷部C-1区4層最下層 (青灰色・黄灰色砂質土互層)	①(14.2) ②2.1 ③(10.0)	体部下位～底部1/5外面回転ヘラケズリ。底部4/5外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外灰白7.5YR8/1～一部浅黄橙7.5YR8/4、内灰白10YR8/2。	口縁部内外面に煤付着。
919	土師器	皿	谷部C-1区4層最下層	①16.2 ②1.9 ③12.8	底部外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR6/4。	底部外面に墨書「川上」。 回転方向右。
920	土製品	皿	谷部C-1区4層	①(16.9) ②1.5 ③(13.2)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒を少量、雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	内外面に墨書。 回転方向右。
921	土師器	高台付皿	谷部C-1区4層上層	①(15.2) ②3.6 ④7.6	体部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4、内底部にぶい橙7.5YR7/3。	
922	土師器	高台付皿	谷部C-1区4層	①(16.6) ②4.0 ④10.8	底部下位外面ヘラケズリ。高台～底部2/3回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を含む。B：良好。C：内外灰白7.5YR8/2。	
923	土師器	高台付皿	谷部C-1区4層	①(21.2) ②2.9+α	体部1/4～底部外面回転ヘラケズリ。口縁端部・高台回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を含む。B：良好。C：外面にぶい橙7.5YR7/3(天井部)～灰褐7.5YR5/2(体部)、内にぶい褐7.5YR5/3。	
924	土師器	高台付皿	谷部C-1区4層	②5.7+α ③(13.4)	脚部内外面回転ナデ。	A：細砂・雲母を多量含む。B：やや良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3に橙7.5YR6/6が混じる。	
925	土師器	鉢	谷部C-1区4層	①(23.6) ②10.4 ③8.4	体部～底部外面回転ヘラケズリ。体部下位～底部内面ナデ。他は回転ナデ。把手部ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	
926	土師器	鉢	谷部C-1区4層上層	①23.4 ②10.9	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。体部下位～底部内面ナデ。把手部ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	
927	土師器	鉢	谷部C-1区4層	①24.2 ②9.5～10.3 ④12.1	底部外面・口縁部回転ナデ。体部下位外面回転ヘラケズリ。底部内面摩滅のため調整不明。他は回転ヘラミガキ。	A：粗砂を多量、黒色粒・雲母を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4。	
928	土師器	鉢	谷部C-3区4層	②2.8+7.2+α ④(12.4)	体部下位外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4、内黒5Y2/1。	

表 36　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表36

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
929	土師器	鉢	谷部C-1区4層	①(19.8) ②9.7 ④(11.0)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付の回転ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/3～10YR7/4。	回転方向右。
930	土師器	鉢	谷部C-1区4層	①22.2 ②9.0 ④10.7	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。口縁部～体部上位・高台回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。口縁部内面に1条沈線。	A：粗砂・礫を少量含む。B：良好。C：外明灰褐7.5YR7/2～灰白10YR7/1、内明灰褐7.5YR7/2。	口縁部一部に黒斑。内面に黒色処理か?
931	土師器	鉢	谷部BC間ベルト15層 (倒置状態にて出る)	②9.9+α ④(11.6)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3～灰黄褐10YR5/2。	
932	土師器	鉢	谷部C-1区4層	②3.9+α ③10.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：橙色5YR6/6と明褐灰色7.5YR7/2の2種類の粘土使用(マーブル状に混ざる)。粗砂を少量含み、1.0㎜程の褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰褐7.5YR5/2、内にぶい橙7.5YR7/4～にぶい褐7.5YR6/3。	外面に煤付着。底部外面にうず巻き状の条痕。
933	土師器	鉢	谷部C-1区4層	②4.8+α	回転ナデ。内面黒色。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内褐灰10YR4/1。	外面に墨書。
934	土師器	甕	谷部C-1区4層	①(31.0) ②15.3+α	口縁部内外面ハケメ後ヨコナデ。胴部外面縦方向ハケメ。胴部内面縦方向ケズリ後縦方向ハケメ。	A：粗砂を多量、雲母を少量含む。B：良好。C：外褐黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/2。	胴部外面煤付着。
935	土師器	甑	谷部C-3区4層	長7.2　幅4.4	把手部指ナデ。	A：粗砂・雲母を少量含む。B：良好。C：橙7.5YR7/6～灰白7.5YR8/2。	把手。
936	木製品	斎串?	谷部C-1区4層	縦18.0　横2.4 最大厚0.7	先端部削り。		
937	木製品	斎串?	谷部C区(B区ベルト側)4層	長26.9　幅0.5 厚0.6	削り。		一方の先端部炭化。
938	木製品	斎串?	谷部C区(B区ベルト側)4層	長19.35　幅1.1 厚1.1	削り。		一方の先端部炭化。
939	木製品	斎串?	谷部C区(B区ベルト側)4層	長20.65　幅1.3 厚0.65	削り。		一方の先端部炭化。
940	木製品	斎串?	谷部C区(B区ベルト側)4層	長20.4 幅1.55 厚1.3	削り。		一方の先端部炭化。
941	木製品	火鑽臼	谷部C-1区4層	縦2.1 横5.0 厚1.6	明瞭な工具痕等は見られないが、削り加工と思われる。		
942	須恵器	杯 (転用硯)	谷部C区土器溜り(117)	①12.6 ②3.6 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～灰白N7/。	内面に墨痕。 外面に墨書「千万」。 板状圧痕。
943	須恵器	皿 (転用硯)	谷部C区土器溜り(110)(142)	①15.9 ②2.4 ③10.9	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外明オリーブ灰2.5GY7/1。	内面に墨痕。 板状圧痕。
944	土師器	杯	谷部C区土器溜り(127)	①11.4 ②3.4 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ?他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。	板状圧痕。
945	土師器	杯	谷部C区土器溜り(188)の下	①12.8 ②3.6 ③6.8	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。精良好。B：良好。C：内外灰白10YR8/2、断面橙5YR6/6。	底部中央部剥落。
946	土師器	杯	谷部C区土器溜り(122)	①13.4 ②3.4 ③7.4	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2～黒N2/、内にぶい黄橙10YR7/3。	
947	土師器	杯	谷部C区土器溜り(133)	①12.9 ②3.6 ③6.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	回転方向右。
948	土師器	杯	谷部C区土器溜り	①12.8 ②3.4 ③6.5	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/6。	回転方向右。
949	土師器	杯	谷部C区土器溜り(119)	①13.6 ②3.6 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～黄灰2.5Y6/1、内浅黄橙10YR8/3。	
950	土師器	杯	谷部C区土器溜り(189)	①13.4 ②3.5 ③6.7	底部外面回転ヘラケズリ(摩滅)か?他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/3、口唇部にぶい橙5YR7/4。	
951	土師器	杯	谷部C区土器溜り(170)	①13.5 ②3.6 ③8.6	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ(摩滅)。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。赤褐色粒・雲母を微量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3～橙5YR6/6～灰黄褐10YR5/2、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい黄褐10YR5/3。	
952	土師器	杯	谷部C区土器溜り(228)	①13.6 ②3.4 ③6.2	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・赤褐色粒を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい黄橙10YR6/3、内にぶい黄橙10YR6/3。	
953	土師器	杯	谷部C区土器溜り(126)	①13.6 ②3.6 ③8.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	外面2ヶ所に補修痕か?
954	土師器	杯	谷部C区土器溜り(186)	①13.5 ②3.3 ③7.5	底部外面ヘラ切り後回転ヘラケズリ、内面ナデ?他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
955	土師器	杯	谷部C区土器溜り(185)(163)	①13.8 ②3.3 ③7.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ(摩滅)。口縁部～体部外面回転ナデ後回転ヘラミガキ?他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
956	土師器	杯	谷部C区土器溜り(118)	①13.6 ②3.7 ③6.7	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ?	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3、外一部にぶい橙5YR6/4。	
957	土師器	杯	谷部C区土器溜り(184)	①13.5 ②3.4 ③6.7	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	
958	土師器	杯	谷部C区土器溜り(239)	①14.8 ②3.9 ③7.7	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	回転方向右。
959	土師器	杯	谷部C区土器溜り(155)	①16.0 ②4.2 ③8.8	底部外面ヘラ切り後回転ナデ、内面ナデ?口縁部～体部外面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：外橙5YR6/6～黒N2/、内にぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR4/1。	

表 37　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表37

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
960	土師器	杯	谷部C区土器溜り(223)(188)の下	①13.0 ②2.9 ③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
961	土師器	杯 (灯明)	谷部C区土器溜り(196)	①14.2 ②3.0 ③7.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	内面に煤付着。 口縁部焼き歪む。
962	土師器	杯 (穿孔杯)	谷部C区土器溜り(212)	①13.4 ②3.1 ③8.3 孔径0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。底部中央に穿孔。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/3。	外面に黒斑。
963	土師器	蓋	谷部C区土器溜り(156)(157)(154)	①19.6 ②3.6	外面2/3ヘラ切り後回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。口縁部内面に1条沈線。	A：細砂・雲母を少量、赤褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/4～灰白10YR8/2、内にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
964	土師器	椀	谷部C区土器溜り(245)	①17.3 ②7.7 ④(8.5)	体部下位外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。	
965	土師器	皿	谷部C区土器溜り(187)	①13.7 ②2.1～1.3 ③10.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデか?他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	口縁・体部外面、内面全面摩滅が著しい。
966	土師器	皿	谷部C区土器溜り(226)	①15.2 ②2.0 ③10.8	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR4/1、内にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
967	土師器	皿	谷部C区土器溜り(188)	①15.5 ②2.0 ③12.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ(摩滅)。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2～にぶい黄橙10YR7/3。	
968	土師器	皿	谷部C区土器溜り(227)	①15.2 ②2.0 ③11.0	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4～赤褐5YR4/6～褐灰10YR4/1、内にぶい橙7.5YR6/4～褐灰10YR4/1。	
969	土師器	皿	谷部C区土器溜り(225)	①15.3 ②2.1 ③11.3	底部外面ヘラ切り後2/3回転ヘラケズリ、1/3ナデ。底部内面ナデ。口縁・体部内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
970	土師器	皿	谷部C区土器溜り(254)	①16.1 ②2.5 ③13.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。雲母を多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	板状圧痕。
971	土師器	皿	谷部C区土器溜り(135)(118)	①15.9 ②1.9 ③11.6	底部外面ヘラ切り後ナデ後体部～底部1/2外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	回転方向右。
972	土師器	皿	谷部C区土器溜り(121) 谷部C区土器溜り	①15.3 ②2.2 ③11.7	底部外面回転ヘラケズリ後ハケ状工具による不定方向ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂・赤褐色粒を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。	回転方向右。
973	土師器	高台付皿	谷部C区土器溜り(174)	①13.8 ②2.2 ④7.7	体部下位外面回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外橙5YR6/6～浅黄橙7.5YR8/3。	
974	土師器	高台付皿	谷部C区土器溜り(165)	①14.1 ②4.9～4.2 ④8.0	体部下位外面回転ヘラケズリ。高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR5/4。	回転方向右。
975	土師器	高台付皿	谷部C区土器溜り(256)	①19.2 ②5.1 ④12.5	底部外面ヘラ切り、内面摩滅。体部下位外面回転ヘラケズリ。口縁部～体部内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	口縁部内面、高台内～底部外面煤付着。 回転方向右。
976	土師器	耳皿	谷部C区土器溜り(257)	①(9.7) ②2.3+α ④5.0	内外面・高台回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい橙7.5YR7/4。	
977	土師器	耳皿	谷部C区土器溜り(231)	②3.1+α ④5.4	内外面・高台回転ナデ。	A：細砂を少量含む。礫・雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	高台湾曲。
978	土師器	鉢	谷部C区土器溜り (134)(145)(148)(159)	①17.8 ②8.45 ③6.0	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外にぶい橙10YR8/3。	
979	黒色土器 A類	椀	谷部C区土器溜り(213)	①20.5 ②8.5 ④10.2	底部外面ヘラ切り後体部下位～底部1/2回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母細片を少量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR5/4、内黒7.5YR2/1～にぶい褐7.5YR5/4。	
980	土師器	蓋	谷部C区(B区ベルト側)	①16.6②4.2 つまみ高2.0	外面1/3回転ナデ、他は回転ヘラミガキ。内面回転ヘラミガキ。	A:石英粒やや多く含む。微粒の長石多く含む。B:良好。C:内外面にぶい橙7.5YR6/4～橙7.5YR6/6。	内外面に墨画。
981	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①12.2 ②3.2+α	外面1/3回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：礫を少量含む。黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	
982	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①13.5 ②3.7	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗青灰5PB4/1。	体部外面にヘラ記号。
983	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①(14.2) ②4.2	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：礫・黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外一部暗灰N3/、内外灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。
984	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①(9.1) 受部径(11.2) つまみ径1.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫・黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N8/、内灰N6/。	受部に杯身口縁部釉着。外面に降灰。天井部外面にヘラ記号。
985	須恵器	杯蓋	谷部C-3区5層灰層	①8.5 ②2.6 受部径10.3	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を微量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰N6/。	天井部外面にヘラ記号。
986	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①8.4 ②2.6 受部径10.2	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫(10㎜前後の大きなものも微量)をやや多量含む。B：良好。C：外灰赤10R4/2、内赤灰10R5/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。

表 38　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表38

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
987	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①9.3 ②2.4 ⑤11.9	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N8/1。	天井部外面にヘラ記号。受部内面に黒斑。
988	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①(11.8) ②3.7 ⑤14.6	外面1/5回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：不良。C：外灰白7.5YR8/2、内にぶい橙7.5YR7/4。	回転方向右。
989	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①12.4 ②3.85 受部径15.2 つまみ径3.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含み、雲母を含む。B：不良。C：外にぶい赤褐5YR5/3～淡黄2.5Y8/3、内淡黄2.5Y8/3(天井部)～明褐灰7.5YR7/2(受部)、断面淡黄2.5Y8/3～明褐灰7.5YR7/2。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。
990	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①(17.1) ②2.1+α 受部径(19.6)	外面降灰のため調整不明。内面回転ナデ。	A：細砂・礫を多量含む。B：良好。C：外面降灰により不明、内灰N4/、断面灰N4/・暗灰10R4/1。	外面全面厚く降灰。
991	須恵器	杯蓋	谷部C-1区5層灰層	①14.6 ②1.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：礫を微量含む。B：良好。C：内外青灰5PB6/1。	焼き歪みで体部にヒビがはいる。
992	須恵器	杯蓋	谷部C-3区5層灰層	①14.6 ②2.6+α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1、内灰N4/～青灰5B6/1(口縁)。	回転方向右。
993	須恵器	杯身	谷部C-1区5層灰層	①10.6 ②3.6	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外オリーブ灰5GY5/1。	底部外面にヘラ記号。
994	須恵器	杯身	谷部C-1区5層灰層	①12.2 ②4.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に1条沈線、体部外面に粗雑な波状文。	A：細砂を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。体部外面に粗雑な波状文。
995	須恵器	盤	谷部C-1区5層灰層	①(18.6) ②3.3	底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外体部灰N6/、底部灰白N7/、内灰N5/。	
996	須恵器	椀	谷部C-1区5層灰層	①(12.4) ②6.5+α	底部外面回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁部～体部外面カキメ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：細砂・赤色粒を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/3。	体部内面にヘラ記号。
997	須恵器	椀	谷部C-3区5層灰層	①(14.0) ②7.7+α	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい赤褐2.5YR4/4。	体部外面にヘラ記号。高杯の可能性あり。
998	須恵器	脚(椀?)	谷部C-1区5層灰層	②1.9+α 脚裾部径7.7	脚部内外面回転ナデ。脚部外面シボリ痕あり。	A：細砂・礫を少量含む。B：良好。C：灰N4/、裾端部暗灰N3/。	杯部と脚部の接合面が残る。
999	須恵器	脚(椀?)	谷部C-1区5層灰層	②2.2+α ④7.5	脚部内外面回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内暗灰N3/、断面灰白10YR7/1。	外面に降灰。脚部の接合面が見られる。
1000	須恵器	平瓶	谷部C-1区5層灰層	①7.9 ②11.9+α	口縁部・体部内面回転ナデ。頸部内面指頭圧痕。肩・体部外面上位回転ナデ後カキメ、下位回転ヘラケズリ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外赤灰5R5/1、内青灰5PB6/1。	
1001	須恵器	平瓶	谷部C-1区5層灰層	②14.2+α ③(12.4)	肩部外面回転ナデ。体部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ後カキメ調整。体部外面中位回転ナデ後カキメ調整。体部外面下位回転ナデ後斜方ケズリ。底部外面回転ナデ。内面全面回転ナデ。	A：粗砂を微量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1。	胴部下位内面に接合痕。底部外面に黒変。
1002	須恵器	壺	谷部C-1区5層灰層	①(9.7) ②9.4+α	体部外面回転ナデ後カキメ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：細砂・礫をやや多量含む。B：良好。C：灰N6/。	回転方向右。
1003	須恵器	大甕	谷部C-1区5層灰層	①43.1 ②32.7+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後2ヶ所に3条沈線、沈線間に斜線文。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	頸部にヘラ記号。沈線間に斜線文。口縁部焼き歪む。
1004	須恵器	大甕	谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区4層 (特殊土器出土地点周辺) 谷部C-1区10層 谷部C-1区10層灰層 谷部C-1区5層灰層(7～9層か?) 谷部B-2区7層黄褐色土 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(25層)	①41.8 ②44.5+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に5条・2条沈線、沈線間に斜線文。	A：微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y4/1。	口縁部焼き歪む。沈線間に斜線文。
1005	須恵器	大甕	谷部C-1区5層灰層 谷部C-3区5層灰層 谷部C-1区4層 (特殊土器出土地点周辺) 谷部C-1区6層 谷部B-3区5層灰層(26層) 谷部B-3区5層灰層(24・26層) 灰原1-1区中層 谷部B-3区5層灰層(24・26層一部) 谷部C-1区6層暗灰色砂質土 谷部B区(大木の下)5層 (AB間ベルト16・17層)	①42.6 ②79.8+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰褐5YR4/2～褐灰5YR5/1～灰N6/、内にぶい赤褐5YR4/3～黒褐5YR3/1～赤灰2.5YR4/1、断面灰N5/。	粘土帯での変色が内面で見られる。
1006	須恵器	甑	谷部C-1区5層灰層	厚3.2	指頭圧痕、後指ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	把手。
1007	須恵器	円盤状土製品	谷部C-1区5層灰層	①(8.0) ②1.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を微量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y8/1、内灰白N8/。	底部中央に穿孔。
1008	須恵器	円盤状土製品	谷部C-1区5層灰層	①(8.0) ②1.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：不良。C：外明褐灰5YR7/2、内灰褐7.5YR6/2。	外面にヘラ記号。

表 39　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表39

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1009	須恵器	土錘	谷部C-1区5層灰層	長6.0 幅1.4 孔径0.3	側面指ナデ。	A：細砂を微量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y8/1。	
1010	須恵器	切削物	谷部C-1区5層灰層	長6.7 幅1.7 高1.5	タタキ後ナデ、指おさえ。同心円文当て具痕あり。ヘラ切り。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	甕製作時の切り落とし片。
1011	須恵器	切削物	谷部C-1区5層灰層	長8.5 幅3.0 厚2.6	ナデ、擬格子タタキ痕。ヘラ切り。	A：粗砂・礫を微量、黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3、内明褐7.5YR5/6。	甕製作時の切り落とし片。
1012	土師器	杯	谷部C-1区5層灰層	①(15.7) ②3.8 ③8.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂・雲母を含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/3、断面にぶい黄橙10YR7/3。	口縁・体部外面に煤付着。回転方向右。
1013	土師器	杯 (灯明)	谷部C-1区5層灰層	①13.2 ②4.1 ③8.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母・細砂を含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰白10YR8/2、内灰白N8/(体部)～黄橙10YR8/2(内底)、断面灰白N8/～灰白10YR8/2。	口縁部内面に煤付着。板状圧痕。
1014	土師器	杯	谷部C-1区5層灰層	①13.6 ②3.3 ③7.2	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含み、雲母を含む。B：良好。C：外淡黄2.5Y8/3～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3、断面にぶい橙7.5YR6/4～にぶい黄橙10YR7/2。	底部外面にヘラ記号?内外面煤付着。回転方向右。
1015	土師器	蓋	谷部C-1区5層灰層	①16.0 ②1.7	外面3/4回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含み、雲母を含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～にぶい橙7.5YR7/4、内浅黄橙10YR8/3、断面にぶい橙7.5YR7/4～灰白2.5Y7/1	回転方向右。
1016	土師器	蓋	谷部C-1区5層灰層	①19.3 ②3.6+α	外面2/3回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。内面2/3不定方向ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい褐7.5YR6/3。	
1017	土師器	蓋	谷部C-1区5層灰層	①(19.8) ②2.3+α	外面1/2回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：雲母を多量、細砂を微量含む。B：良好。C：外褐灰10YR5/1、内灰黄褐10YR6/2、断面にぶい橙7.5YR6/4。	
1018	土師器	蓋	谷部C-1区5層灰層	①(21.2) ②3.9 つまみ径(1.9)	外面3/4回転ヘラケズリ後回転ヘラミガキ。内面1/5ナデ、3/5回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。	天井部外面に墨書。回転方向右。
1019	土師器	椀	谷部C-1区5層灰層	①(17.4) ②6.2 ④10.1	体部から底部外面回転ヘラケズリ後体部回転ヘラミガキ。内面回転ナデ後底部不定方向ナデ。その後回転ヘラミガキ。高台貼付の回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	底部外面に墨書「山門」。 回転方向右。
1020	土師器	皿	谷部C-1区5層灰層	①(16.6) ②2.0 ③(13.0)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を微量、雲母を多量含む。B：良好。C：外にぶい橙7.5YR6/4～灰黄褐10YR5/2、内にぶい橙7.5YR6/4、断面灰白5Y7/1～にぶい橙7.5YR6/4。	回転方向右。
1021	土師器	鉢	谷部C-1区5層灰層	①(24.4) ②8.3 ③7.95	体部中位～底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4。	口縁部内外面に黒斑。
1022	土師器	鉢	谷部C-3区北斜面4層・5層	①(25.0) ②10.8 ④12.4	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。口縁端部・底部内面・高台回転ナデ。口縁部～体部上位外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ後回転ヘラ摩き。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6。	回転方向右。
1023	土師器	甕	谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区4層	①26.7 ②20.5+α	口唇部・口縁部外面ヨコナデ。体部外面縦方向のハケメ。口縁部内面ヨコ方向のハケメ。体部内面指頭圧痕・ヨコ方向の板状工具によるナデ。	A：礫を多量含む。細砂・雲母を含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1、内褐灰10YR6/1～にぶい黄橙10YR7/3、断面褐灰10YR6/1～灰白10YR7/1。	外面に煤付着。
1024	土師器	円盤状土製品	谷部C-1区5層灰層	①7.0 ②0.9	外面1/2、内面1/3ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含み、雲母を含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/4、断面にぶい橙7.5YR6/4。	
1025	木製品	糸巻き?	谷部C-1区5層灰層	縦10.3 横1.9 厚0.7～0.4 孔径0.6	穿孔2ヶ所あり。凹み部削り。		
1026	須恵器	大甕	谷部C-1区5層灰層 谷部C-15層灰層 谷部C・D間ベルト(キカイ掘)5層 谷部C・D間ベルト(キカイ掘)崩落土中 灰原1・1区上層 灰原1・1区中層	①(46・7) 残存高12.3	口縁部内外面回転ナデ。体部内面同心円文当て具痕。外面2条沈線間に連続斜線文。体部外面擬格子タタキ。	A:密。B:良好。C:内外暗灰N3/～黒N2/。	屈曲部に『大神部見乃官』とヘラ書き。外面自然釉。
1027	須恵器	杯蓋	谷部C-3区6層	①(13.5) ②4.0	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1。	回転方向右。
1028	須恵器	杯蓋	谷部C-3区6層	①13.5 ②3.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1、内灰N6/。	回転方向右。 天井部自然釉状になる。
1029	須恵器	杯蓋	谷部C-3区6層	①12.5 ②3.9 受部径10.0	外面1/3ナデ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内明褐灰7.5YR7/2。	天井部に沈線状のものが見られる。
1030	須恵器	杯身	谷部C-3区6層	①10.6 ②3.7 受部径13.1	外面1/3ヘラ切り。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・微細な黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。	底部焼成前穿孔。
1031	須恵器	杯	谷部C-3区6層	①(14.4) ②3.5+α	底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	外面にヘラ記号。 回転方向右。
1032	須恵器	高杯	谷部C-3区6層	②13.0+α 脚裾部径8.6	杯底部内外面不定方向ナデ。脚部下半部回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。杯体部外面・脚部外面に2条沈線。	A：粗砂・礫をやや多量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1。	脚部内面にヘラ記号。
1033	須恵器	すり鉢	谷部C-3区6層下層	②3.7+α ③12.4	底部底面指頭圧痕、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：灰N6/。	底部外面に穿孔があるが、貫通していない。

表 40　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表40

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1034	須恵器	すり鉢	谷部C-3区6層	②4.7+α　③14.9	底部底面・内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	焼成前穿孔。
1035	須恵器	長頸壺	谷部C-3区6層下層	②9.5+α	体部外面回転ナデ後カキメ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N8/。	
1036	須恵器	大甕	谷部C-1区6層 谷部C-1区6層(暗灰色砂質土)	①47.8 ②20.3+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。口縁部外面2ヶ所に1条沈線、1ヶ所に2条沈線、沈線間に波状文。	A：微細～5㎜程の白色砂粒をやや多量に、微細な黒色粒、赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6～明赤褐5YR5/6～にぶい赤褐5YR4/4。	沈線間に波状文。
1037	須恵器	甕	谷部C-3区6層下層 灰原1・1区中層 灰原1・1区下層2	②4.5+α	底部外面ケズリ、内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/～灰白5Y8/1～灰N4/。	外面にヘラ記号。
1038	須恵器	蓋	谷部C-3区6層	①(11.2) ②1.3+α	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。雲母を少量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/1。	天井部につまみが付いてた可能性あり。
1039	須恵器	横瓶切抜円盤	谷部C-3区6層(灰色砂)	長4.9 幅4.6 厚1.0	擬格子タタキ。同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：暗灰N5/。	横瓶製作時の切り落とし片。
1040	須恵器	杯蓋	谷部C-1区7・8層	①13.3 ②3.8	外面2/3ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～青灰5PB6/1、内青灰5PB5/1。	体部外面に薄く降灰。
1041	須恵器	杯蓋	谷部C-1区7・8層	①13.7 ②4.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。
1042	須恵器	杯身	谷部C-1区7・8層	①11.2 ②4.5 ③5.7 ⑤13.8	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を含む。B：不良。C：外灰白5Y7/1～灰N6/～にぶい黄橙10YR6/3、内灰白2.5Y8/1。	
1043	須恵器	壺	谷部C-1区7・8層	①(16.6) ②6.8+α	口縁部内外面回転ナデ。頸・肩部外面格子目文タタキ、内面同心円文当て具痕。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N5/～灰N6/。	口縁部外面にヘラ記号。
1044	弥生土器	壺	谷部C-3区8層	②3.4+α	外面ナデ。口唇部・内面ヨコナデ。	A：粗砂を多量含む。雲母を含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2、口縁内面赤彩赤褐10R4/3。	口縁部内面赤彩。
1045	弥生土器	ひさご形壺	谷部C-3区8層	②3.7+α	突帯外面ナデ。体部内面摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。雲母を含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2、外面赤彩明赤褐2.5YR5/6。	
1046	須恵器	杯身	谷部C-1区9層(灰色粘質土)	①(11.6) ②4.0 ③5.3 ⑤13.6	外面降灰のため調整不明。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。	
1047	須恵器	高杯	谷部C-1区9層	①11.8 ②4.6+α	杯底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰N6/。	杯と脚の接合面に線刻。
1048	須恵器	杯身	谷部C-1区10層灰層	①11.6 ②4.65 ③(7.3) ⑤14.2	外面1/3ヘラ切り後ナデか?他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～灰N6/、内灰白5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
1049	須恵器	壺	谷部C-1区10層	①(8.1) ②11.9+α ⑤13.9(胴部)	内外面回転ナデ。体部外面に2条沈線。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N7/、内灰N4/～灰N6/。	外面に降灰。 口縁部内面にヘラ記号。
1050	須恵器	平瓶	谷部C-1区5層灰層 谷部C-1区9層 谷部C-1区10層灰層 谷部C-3区6層(暗灰色砂) 谷部C-1区7・8層 谷部C-3区6層	②18.3+α　③(13.2)	口縁・頸部外面回転ナデ後カキメ、内面指頭圧痕、後ナデ。肩部カキメ、ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰10Y6/1、内灰白10Y8/1～灰10Y6/1。	頸部内面にヘラ記号。
1051	須恵器	横瓶	谷部C-1区10層 谷部C-1区5層灰層	①13.3 ②7.3+α	口縁部内外面回転ナデ。体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/～灰N6/～暗灰3/。	口縁部外面にヘラ記号。
1052	須恵器	蓋	谷部C-1区10層	①(12.0) ②3.8	ヘラ切り。外面2/3～内面回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2～灰褐7.5YR6/2、内灰黄2.5Y7/2。	天井部に焼成前穿孔。
1053	石器	剥片	谷部C-1区10層	長8.4 幅5.6 最大厚1.4 重量42.6	表面に複数の剥離面。		
1054	須恵器	杯蓋	谷部C・D間ベルト(キカイ掘後カベ出し)	①12.6 ②4.3	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：礫を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。	重ね焼きの痕跡。 天井部外面にヘラ記号。
1055	須恵器	高杯蓋	谷部C-1区暗灰色砂質土	①(11.4) ②5.5 つまみ径3.0	外面1/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外褐7.5YR4/2、内褐灰10YR6/1。	回転方向右。
1056	須恵器	壺	谷部C・D間ベルト(北斜面側)	①(4.1) ②9.6 ③6.25 ⑤10.7(胴部)	底部外面不定方向ナデ。内面調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を多量、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～青灰5B5/1。	
1057	須恵器	壺	谷部C・D間ベルト(キカイ掘崩落土中)	②10.0+α　③6.4 ⑤9.2(胴部)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面調整不明。他は回転ナデ。		
1058	須恵器	平瓶	谷部C・D間ベルト(キカイ掘崩落土中)	②7.1+α　③13.0 ⑤18.0	体部下位～底部外面手持ちヘラケズリ。体部上位外面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや良好。C：外面灰N6/～灰N5/、内灰N4/。	頸部・底部は粘土帯の接合面で欠損している。
1059	石器	剥片	谷部C・D間ベルト(キカイ掘後カベ出し)	縦11.5 横4.1 厚1.2	表面に複数の剥離面がみられ、自然面を残す。		安山岩
1060	須恵器	杯蓋 (転用硯)	谷部D区南側谷部下1層	②2.6+α	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：内外灰白N8/～灰N6/。	内面に墨痕。
1061	須恵器	甕	谷部D・E間ベルト7層明青灰色土	①18.6 ②6.4+α	口縁部～体部内外面回転ナデ。口縁部内面の一部刷毛状圧痕。	A：黒色粒・細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	
1062	須恵器	平瓶	谷部D区南側谷部下1層	②6.0+α	把手部ヘラケズリ、ナデ。体部回転ナデ。		
1063	土師器	小皿	谷部D-1区1層	①8.85 ②1.25 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～橙5YR7/6。	板状圧痕。

表 41　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表41

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1064	土師器	小皿	谷部D区南側谷部下1層	①9.0 ②1.25 ③6.8	底部外面ヘラ切り。他は摩滅のため調整不明。	A：1～3㎜の石英、微細な白色砂粒･雲母･赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2～橙7.5YR7/6～淡赤橙2.5YR7/4。	板状圧痕。
1065	土師器	小皿	谷部D-1区1層	①9.2 ②1.6 ③6.85	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい橙10YR7/4、内浅黄橙10YR8/3～淡橙5YR8/3。	板状圧痕。
1066	土師器	小皿	谷部D区1層	①9.2 ②0.85 ③6.15	摩滅のため調整不明。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く、微細な雲母をわずかに含む。B：不良。C：内外浅黄橙10YR8/4～黄橙7.5YR7/8.断面灰5Y5/1。	
1067	土師器	小皿	谷部D区南側谷部下1層	①9.2 ②1.15 ③7.15	口縁部～体部外面回転ナデ。他は摩滅・付着物のため調整不明。	A：1㎜ほどの白色砂粒、微細な雲母と1～3㎜の赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～淡赤橙2.5Y7/4、内淡赤橙2.5Y7/4～褐灰5YR6/1～にぶい黄橙10YR7/2。	
1068	土師器	小皿	谷部D区1層	①8.95 ②1.05 ③6.95	底部外面調整不明、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～明褐7.5YR5/8～明褐灰7.5YR7/1、内灰白10YR8/1～褐7.5YR4/6～褐灰7.5YR6/1。	板状圧痕。
1069	土師器	小皿 (灯明)	谷部D区南側谷部下1層	①(9.6) ②1.2 ③(6.2)	底部外面ヘラ切り、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/4。	内外面にタール状の煤が付着。
1070	土師器	小皿	谷部D区南側谷部下1層	①9.8 ②1.25 ③6.8	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒、1～2㎜の石英、微細な雲母・赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2～黄橙10YR8/6、内灰白10YR8/2～黄橙10YR8/6～橙5YR6/8。	板状圧痕。
1071	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①9.2 ②1.65 ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1072	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①9.6 ②1.5 ③7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1.5ミリの白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1073	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①9.4 ②1.4 ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/2。	板状圧痕。
1074	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①11.6 ②1.5 ③6.75	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1075	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①10.0 ②1.5 ③7.05	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1076	土師器	皿 (灯明)	谷部D-1区1層(粘質土)	①(9.0) ②1.5 ③7.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3、内灰白10YR8/2、断面にぶい黄橙10YR7/2～浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
1077	土師器	高台付小皿	谷部D-3区1層(キカイ掘)	①(9.6) ②1.7 ④5.8	底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2、内灰白10YR8/1、断面灰白10YR8/2。	畳付に板状圧痕。
1078	土師器	高台付小皿	谷部D-3区1層	①(14.0) ②1.2+α	摩滅のため調整不明。	A：細砂を微量含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内灰白10YR8/2、断面浅黄2.5Y7/3。	口縁部に穿孔。
1079	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部下1層	①14.3 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り。他は摩滅のため調整不明。	A：3㎜以下の白色砂粒、赤褐色粒と微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4～明黄褐10YR7/6。	
1080	土師器	丸底杯	谷部D区1層	①14.8 ②2.9	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y6/2。	板状圧痕。
1081	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト７層(明青灰色土)	①15.3 ②3.35	底部外面調整不明。口縁部～体部外面回転ナデ後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：5㎜以下の白色砂粒と3㎜以下の石英をやや多く含む、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～10YR8/2～5Y7/1、内灰白2.5Y8/1～10YR8/2。	板状圧痕。
1082	土師器	丸底杯	谷部D-1区1層	①15.2 ②3.6	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て?他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、1㎜以下の金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～暗灰黄2.5Y4/2、内にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR6/2。	底部外面に黒斑。 板状圧痕。
1083	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①(14.8) ②3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～明褐7.5YR5/6。	
1084	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部下1層	①15.2 ②3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位～底部外面指頭圧痕。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y8/3。	板状圧痕。
1085	土師器	丸底杯	谷部D-1区1層	①15.3 ②3.4	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～灰7.5Y5/1、内灰白2.5Y8/2～灰白2.5Y7/1。	外面に黒斑。 板状圧痕。
1086	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部下1層	①15.6 ②3.2	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1087	土師器	丸底杯	谷部D区1層	①15.3 ②3.6	摩滅のため調整不明。	A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：不良。C：外明黄褐10YR6/8、内浅黄橙10YR8/4。	

表 42　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表42

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1088	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部下1層	①15.7 ②3.6	体部下位～底部外面ヘラ切り後、内面コテ当て。他は調整不明。	A：3㎜以下の白色砂粒と1～2㎜の赤褐色粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/6～浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/4。	内面に黒斑。
1089	土師器	丸底杯	谷部D-1区1層下層粘質土	①15.6 ②3.2	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母、赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外淡黄2.5Y8/3～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1090	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部下1層	①15.3 ②3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、1㎜以下の金雲母を微量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/4。	板状圧痕。
1091	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部溝1層	①(14.8) ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	内外面に墨書。 板状圧痕。
1092	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト７層(明青灰色土)	①15.95 ②2.9	内外面回転ナデ後、内面コテ当て。底部外面ナデ調整。	A：6㎜以下の白色砂粒と1㎜程の赤褐色粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR6/2～褐灰10YR6/1。	内外面に煤付着。 板状圧痕。
1093	土師器	椀	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①15.5 ②4.4 ④6.25	摩滅のため調整不明。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白10YR8/2。	
1094	土師器	椀	谷部D-1区1層	①(15.0) ②5.4 ④(6.6)	摩滅のため調整不明。	A：細砂を少量含む。赤褐色粒・礫を微量含む。雲母を含む。B：不良。C：外浅黄橙7.5YR8/4～10YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/4、断面浅黄橙10YR8/3。	
1095	土師器	椀	谷部D-1区1層	①15.2 ②5.5 ④(7.2)	摩滅のため調整不明。	A：細砂を少量含む。礫を微量含む。B：不良。C：外淡黄2.5Y8/3～浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/3、断面浅黄橙10YR8/3。	外面に弾けた痕跡。
1096	土師器	椀	谷部D-1区1層	①15.5 ②5.0～6.0 ④7.4	高台から底部外面回転ナデ。口縁部～体部外面回転ヘラミガキ。内面ミガキか?	A：雲母を含む。粗砂・礫を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/4、断面灰白2.5Y8/2。	畳付に板状圧痕。
1097	土師器	椀	谷部D・E間ベルト3層(灰白色土)	②1.7+α ④7.0	摩滅のため調整不明。底部中央に焼成後穿孔。	A：粗砂・礫をやや多量含む。B：不良。C：外灰白10YR8/2、内褐灰10YR6/1。	
1098	土師器	鉢	谷部D区1層(キカイ掘)	②6.3+α ③(15.8)	底部内外面ナデ。他はヨコナデか?	A：細砂・粗砂・礫を多量含む。B：不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/4～浅黄橙10YR8/4。	
1099	土師器	鉢	谷部D区南側谷部下1層	①(39.4) ②10.7+α	外面ヨコナデ。内面ヨコ方向のナデ、工具痕あり。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～橙7.5YR6/6。	
1100	土師器	器台	谷部D-3区1層	②12.1+α	脚部外面ナデ。	A：赤褐色粒を多量含む。細砂を含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4、内灰白10YR8/2、断面浅黄橙10YR8/3。	
1101	土師器	壺	谷部D・E間ベルト2層	①(5.4) ②3.8+α	摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。B：不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。	
1102	土師器?	壺	谷部D-3区1層	①(7.1) ②12.8 ③8.2	摩滅のため調整不明瞭。頸部内面シボリ痕あり。	A：粗砂を少量含む。細砂を含む。B：不良。C：外黄橙10YR8/6～浅黄橙10YR8/4、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4、断面灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	体部外面黒斑。
1103	土師器	壺	谷部D区南側谷部下1層	①(6.0) ②9.3+α	摩滅のため調整不明。口縁部内面シボリ痕。	A：粗砂・礫を少量含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄2.5Y8/3～灰5Y6/1、断面淡黄2.5Y8/3。	
1104	土師器	壺	谷部D・E間ベルト2層(灰色土) 谷部D-3区2層溝の部分	②13.6+α	外面回転ナデ。内面指頭圧痕、後回転ナデ。内面にシボリ痕。	A：粗砂を多量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2。	
1105	土師器	壺	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土) 谷部D・E間ベルト3層(灰白色土)	②7.75+α	外面回転ナデ。内面斜方向ナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、内灰褐7.5YR5/2。	
1106	土師器	壺	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	②6.9+α	体部外面中位回転ナデ、下位回転ヘラケズリ。底部内面指頭圧痕。体部内面ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR6/1、内にぶい黄橙10YR7/2、断面芯部灰N4/。	粘土紐帯が見られる。
1107	土師器?	壺?	谷部D区1層(キカイ掘)	②8.6+α	摩滅のため調整不明。	A：粗砂・礫を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰N6/、断面灰白2.5Y8/2～灰N6/。	
1108	土師器	壺	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	②1.7+α ③10.9	底部外面ナデ、内面指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内灰白10YR8/2。	
1109	土師器	壺	谷部D区南側谷部下1層	①(16.9) ②21.5+α	内面ケズリか?	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	粘土紐の接合痕が内外面に見られる。
1110	土師器	鉢	谷部D・E間ベルト2層	①(20.0) ②8.3+α	摩滅のため調整不明。	A：粗砂・礫を多量含む。B：不良。C：内浅黄橙10YR8/3、一部にぶい赤褐5YR4/4。	
1111	土師器	甕	谷部D区南側谷部下1層	②6.0+α	摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。茶色粒を少量含む。B：不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/4。	
1112	土師器	鉢	谷部D・E間ベルト2層	②10.7+α	口縁部外面指頭圧痕、後板状工具によるヨコ方向ナデ。他は板状工具によるヨコ方向ナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや良好。C：外灰白10YR8/2、内にぶい橙7.5YR7/3～にぶい橙7.5YR6/4。	
1113	土師器	甕	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	①(31.3) ②3.8+α	口縁部内外面ヨコナデ、外面一部ヨコ方向のハケメ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや良好。C：外灰褐7.5YR5/2、内にぶい橙7.5YR7/3。	外面に煤付着。
1114	黒色土器A類	椀	谷部D区南側谷部下1層	①(14.7) ②5.0 ④7.1	体部下位外面指頭圧痕。内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。茶色粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰白5Y6/1～灰黄褐10YR5/2、内黒2.5Y2/1。	
1115	黒色土器B類	小椀	谷部D-3区1層	②3.5+α ④5.0	体部下位～底部外面回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内黒N2/、断面黒褐2.5Y3/1～黄灰2.5Y4/1。	

表 43　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表43

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1116	黒色土器B類	托上椀	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	②1.8+α ④3.8	外面回転ナデ。内面手持ちヘラミガキ。	A：粗砂を多量含む。B：やや良好。C：外灰5Y5/1、内黒N2/。	
1117	黒色土器B類	椀	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	②6.1+α	内外面手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外黒N2/。	
1118	瓦器	椀	谷部D区南側谷部下1層	①(13.2) ②5.75 ③(6.4)	口縁部～底部回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1～灰N6/、断面灰N6/。	焼き歪む。
1119	土師質土器	鉢	谷部D区南側谷部下1層	②7.2+4.95+α	内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ後すり目。	A：粗砂をやや多量含む。褐色粒を多量含む。B：不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/6～にぶい黄橙10YR6/3。	
1120	白磁	椀	谷部D区南側谷部下1層	②4.1+α	残存部施釉。玉縁口縁。	A：にぶい黄橙10YR7/3。微細な白色砂粒をやや多量含み、やや軟質。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0の半透明釉。	光沢があり、細かい貫入が入る。褐斑を少量含む。釉膜はやや厚い。
1121	白磁	椀	谷部D区南側谷部下1層	②3.6+α	残存部施釉。玉縁口縁。	A：灰白10YR8/1。微細な茶色粒を少量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0の不透明釉。	光沢があり、釉膜は薄い。
1122	白磁	椀	谷部D-3区1層	①(14.6) ②4.0+α	口縁部下位回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。内面から体部下位外面施釉。	A：灰白7.5Y8/1。微細な黒色粒を多量含み、硬質。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0の半透明釉。	光沢があり、釉膜はやや厚い。
1123	白磁	椀	谷部D区1層	①(14.4) ②6.45 ④6.4	口縁部下位～体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面見込みに沈線。体部外面～内面施釉。	A：灰白5Y8/1。精良。B：良好。C：灰白5Y8/2。	
1124	白磁	椀	谷部D・E間ベルト1層	②4.8+α ④6.5	高台削り出し。内面・体部外面に施釉。体部外面下位3条沈線。細かい貫入が入る。	A：灰白10YR8/1。微細な白色、茶色粒を少量含む。B：不良。C：クリームイエロー2Y9.0/6.0の半透明釉。	外面に茶褐色の付着物。やわらかな光沢あり、釉膜は薄い、剥落が著しい。
1125	白磁	椀	谷部D区南側谷部下1層	②2.7+α ④6.2	高台削り出し。内面回転ナデ。内面・体部外面施釉。内面見込みに沈線。	A：灰白7.5Y7/1。微細な黒褐色粒を多量含む。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0。	きめが荒い。半透明釉。光沢があり、釉膜は薄い。
1126	白磁	椀	谷部D区南側谷部下1層	②2.6+α ④6.35	高台削り出し。内面・体部外面に施釉。	A：微細な黒褐色粒を少量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0の不透明釉。やわらかな光沢あり。	底部外面に墨書。
1127	白磁	皿	谷部D・E間ベルト2層・7層混(灰色土・明灰色土)	①(10.15) ②2.6 ③3.6	底部外面ヘラケズリ、内面～体部外面施釉。	A：灰白10Y8/1。硬質。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0の不透明釉。イエローオーカー8YR6.0/6.5が一部に入る。やわらかな光沢あり。	釉膜は薄い。細かい貫入が入る。
1128	白磁	皿	谷部D区1層(キカイ掘1層)	①(11.0) ②2.5+α	体部外面ケズリ後口縁部・体部内外面施釉。	A：精良好。灰色7.5Y8/1を呈す。B：良好。C：光沢のある透明釉を薄く施釉。	
1129	白磁	小椀	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	②2.0+α	残存部全面施釉。口縁部外側に屈曲。	A：茶色味をおびた白灰色を呈し微細な茶色粒を多量含む。B：良好。C：青味をおびた白灰の半透明釉、やわらかな光沢あり。	釉膜は薄い。
1130	白磁	小碗	谷部D・E間ベルト1層	②1.1+α ④(2.6)	体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面施釉。	A：浅黄橙10YR8/3。B：良好。C：油5Y6.0/6.0の半透明釉、光沢あり。	細かい貫入が入り、釉膜は薄い。
1131	青磁	椀	谷部D・E間ベルト1層	②3.0+α	口縁部下位～体部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面に櫛描文。残存部全面施釉。	A：灰白2.5GY8/1。微細の黒色粒を少量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0の透明釉。光沢あり。	同安系。 外面に櫛描文。釉膜は薄い。
1132	陶器	椀	谷部D区南側谷部下1層	②1.6+α ④4.7	内外面施釉後内面蛇の目釉剥ぎ、畳付釉剥ぎ。	A：灰色5Y6/1を呈す。細砂を微量含む。緻密。B：良好。C：黒褐7.5YR2/2を呈す。	光沢のある鉄釉を薄く均一に施釉。
1133	陶器	壺?	谷部D区南側谷部下1層	②5.5+α ③(11.1)	底部底面ナデ。内面回転ナデ後施釉。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。黄灰2.5Y6/1を呈す。B：良好。C：暗オリーブ褐2.5Y3/3。光沢あり。	底部外面に目跡。剥落著しい。
1134	陶器	皿	谷部D区南側谷部下1層	②3.7+α	内外面施釉。内面象嵌。	A：細砂を微量含む。にぶい赤褐色2.5YR5/4を呈す。B：良好。C：灰白10YR8/1の釉を薄く施釉。光沢あり。釉の薄い箇所では褐灰7.5YR6/1に発色。	
1135	陶器	壺	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	①(7.0) ②2.8+α	内外面施釉。口縁部外面に2条沈線。	A：暗赤灰色10YR4/1を呈し細砂を少量含む。B：良好。C：オリーブ黒5Y3/1、灰5Y5/1が混じる不透明釉、やわらかな光沢あり。	釉膜は薄い。
1136	瓦	丸瓦	谷部D区南側谷部下1層	長10.4 幅7.1 厚1.5+α	凸面ナデか?凹面工具痕か?側面ケズリ(摩滅)。	A：粗砂をやや多量含む。B：不良(軟質)。C：凹灰白2.5Y7/1、凸浅黄2.5Y7/3。	
1137	須恵器	瓦塔	谷部D区南側谷部下1層	縦7.7 横7.4 高1.4～2.5	ナデか?	A：粗砂を少量含む。B：不良(軟質)。C：表灰白5Y8/2、裏浅黄2.5Y7/4。	
1138	須恵器	瓦塔	谷部D区南側谷部下1層	縦4.6 横9.1 高1.7	両面摩滅が著しい。片面ナデか?	A：粗砂を少量含む。B：不良(軟質)。C：灰白5Y8/2。	
1139	土師器	羽口	谷部D区南側谷部下1層	長9.3+α	摩滅が著しいがナデか?	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/4～灰白N7/、断面橙5YR6/6～浅黄2.5Y7/4。	
1140	土製品	棒状土製品	谷部D区南側谷部下1層	長6.9+α 幅4.6+α 厚4.5+α	方形に面取している。摩滅が著しいがナデか?	A：粗砂を多量含む。色粒を少量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/4。	
1141	土師器?	不明	谷部D-3区1層	長5.9+α	摩滅のため調整不明。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/1～にぶい黄橙10YR7/2、断面灰白10YR8/1。	
1142	石製品	石鍋(転用品)	谷部D・E間ベルト7層(明青灰色土)	縦10.6 横6.2 厚2.9	削り。		滑石製。煤付着。

表 44　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表44

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1143	石製品	臼	谷部D区1層	長2.4 幅4.3 厚2.0 重量21.8	削り。		滑石製。
1144	石製品	石鍋 (転用品)	谷部D区1層	長1.9 幅3.4 厚1.5 重量18.4	削り。		
1145	石製品	不明	谷部D-3区1層	長4.75+α 幅4.3+α 厚3.4 重量15.3	平滑な面を2面作出。		軽石。
1146	木製品	舟形 木製品	谷部D区1層(キカイ掘)	長4.85 幅1.2 厚0.7	削り。		
1147	木製品	相輪形 木製品	谷部D・E間ベルト7層(明青灰白土)	縦9.8 横4.1 最大厚4.1	削り。		
1148	木製品	箸?	谷部D-1区1層	縦15.8 横0.5 厚0.5	削り。		
1149	木製品	用途 不明品	谷部D区1層(キカイ掘)	縦18.8 横1.9 厚0.6	端部削り。		
1150	木製品	板材	谷部D区(南側谷部下) 1層下層粘質土	長133 幅7.5 厚1.1	表面の残存状況が不良で加工痕跡などは不明。側面面取り、削り。		
1151	鉄製品	釘	谷部D区1層	長4.8 幅1.5(上)・0.8(下) 厚0.7 重量15.7			
1152	鉄製品	釘?	谷部D区南側谷部下1層	長5.4 幅2.2 厚0.5 重量9.1			
1153	鉄製品	釘	谷部D区南側谷部下1層	長5.9 幅1.1 厚0.7 重量7.6			
1154	鉄製品	刀子?	谷部D区南側谷部下1層	長5.5 幅2.7 厚1.2 重量24.5			
1155	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長4.1 幅7.0 厚1.5 重量39.4			
1156	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長8.7 幅9.1 厚5.0 重量302.8			
1157	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長5.1 幅4.7 厚3.3 重量94.2			
1158	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長3.2 幅3.0 厚2.8 重量44.6			
1159	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長4.2 幅2.5 厚1.4 重量19.2			
1160	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長2.6 幅2.2 厚1.6 重量8.4			
1161	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長2.5 幅3.0 厚1.7 重量13.1			
1162	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長2.5 幅3.3 厚2.2 重量19.6			
1163	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長3.1 幅2.2 厚2.0 重量15.9			
1164	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長3.4 幅3.4 厚2.0 重量24.3			
1165	鉄滓		谷部D区南側谷部下1層	長2.9 幅2.9 厚2.2 重量26.6			
1166	鉄滓	炉底滓	谷部D区南側谷部下1層	縦4.9 横5.7 厚2.5 重量71.2	下面は炉壁が剥がれた状態。	A：1～5㎜の白色粒を多量含む。C：表面橙7.5YR6/6～褐7.5YR4/4～オリーブ黒5Y3/1、底部にぶい黄橙10YR6/3～黒10YR2/1。	
1167	須恵器	杯	谷部D-3区2層下層	①(12.8) ②4.0 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白N8/～灰N6/。	底部外面に墨書。 板状圧痕。
1168	須恵器	杯身?	谷部D-1区2層下層	②1.95+α ④(7.9)	体部～底部1/2外面回転ヘラケズリ。高台～底部1/2外面回転ナデ。底部内面ナデ。	A：粗砂を多量含み、黒色･茶色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。	
1169	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.8 ②0.95 ③6.85	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜ほどの白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y6/2～淡赤橙2.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR6/2～淡赤橙2.5YR7/4～褐灰10YR5/1。	板状圧痕。
1170	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.9 ②1.4 ③6.75	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母と白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～にぶい黄褐10YR7/2～褐灰10YR5/1、内灰黄2.5Y7/3～にぶい黄褐10YR5/4～灰白10YR7/1。	底部外面に黒斑。 板状圧痕。
1171	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.9 ②1.3～1.85 ③6.65	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/4～にぶい橙7.5YR7/4、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1172	土師器	小皿	谷部D-1区2層	①8.75 ②1.2 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の石英、白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/4～灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1173	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.65 ②1.2 ③6.4	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の石英と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4～灰白2.5Y8/2～明褐7.5YR5/6～灰黄2.5Y7/1。	板状圧痕。
1174	土師器	小皿	谷部D-3区1・5層	①8.85 ②1.25 ③7.05	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰N5/、内灰白2.5Y8/2～浅黄橙7.5YR8/4～灰N6/。	体部外面に黒斑。 板状圧痕。
1175	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.9 ②1.3 ③6.55	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の石英と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～明褐7.5YR5/6、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/4～橙7.5YR7/6。	板状圧痕。

表 45　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表45

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1176	土師器	小皿	谷部D-1区2層	①8.95 ②1.3 ③6.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR7/6～赤橙10R6/6、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1177	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.95 ②1.1 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y7/1～にぶい黄橙10YR7/2～黄灰2.5Y5/1、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	焼きムラ。 板状圧痕。
1178	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①8.9 ②1.35 ③4.8	底部外面調整不明、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR7/2、内灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1179	土師器	小皿	谷部D-1区2層	①9.05 ②1.2 ③7.45	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～橙5YR7/6、内灰白2.5Y8/1。	板状圧痕。
1180	土師器	小皿	谷部D-1区2層	①9.0 ②1.0 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10Y8/2～橙7.5YR6/6、内灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR7/6。	板状圧痕。
1181	土師器	小皿	谷部D区2層	①9.3 ②1.25～1.7 ③7.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜ほどの白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～にぶい橙7.5YR7/4、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1182	土師器	小皿	谷部D区2層	①9.25 ②1.05 ③6.85	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～橙7.5YR6/8。	板状圧痕。
1183	土師器	小皿	谷部D区2層	①9.45 ②1.15 ⑤7.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜ほどの白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～明褐7.5YR5/8、内灰白10YR8/2～橙7.5YR6/8～灰白N7/。	板状圧痕。
1184	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①9.5 ②1.35 ③7.2	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を少量含む、1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y5/1。	内外面に黒斑。 板状圧痕。
1185	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①9.85 ②1.3 ③7.15	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～灰黄褐10YR6/2、内灰白2.5Y8/1～灰黄褐10YR6/2。	板状圧痕。
1186	土師器	小皿	谷部D区2層	①9.85 ②1.1 ③7.85	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒と雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～灰N6/～灰白7.5YR8/2、内灰黄2.5Y7/2～淡橙5YR8/4～灰N6/～暗灰N3/。	内面に黒斑。 板状圧痕。
1187	土師器	小皿	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①9.9 ②1.45 ③7.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜ほどの白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。	体部外面に黒斑。 板状圧痕。
1188	土師器	小皿	谷部D区2層	①9.85 ②1.15 ③7.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～橙7.5YR7/6～灰白2.5Y7/1。	板状圧痕。
1189	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①10.05 ②1.35 ③7.35	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2。	板状圧痕。
1190	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①9.7 ②1.55 ③5.3	底部外面調整不明、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1191	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①9.8 ②1.7 ③7.05	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁部内面ヨコナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～浅黄橙10YR8/4、内灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1192	土師器	小皿	谷部D-3区東側2層	①10.3 ②1.1 ③7.45	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、1㎜以下の雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/2。	板状圧痕。
1193	土師器	小皿	谷部D-3区2層	①10.4 ②1.7 ③7.75	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～2㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1194	土師器	小皿	谷部D区南側谷部2層	①10.4 ②1.3 ③8.1	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y6/2。	板状圧痕。
1195	土師器	小皿	谷部D区南側谷部下2層	①10.5 ②1.4 ③7.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1196	土師器	小皿	谷部D-3区2層	①10.45 ②1.25 ③7.75	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の白色砂粒、微細な雲母・赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰白5YR8/2、内灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y8/4。	板状圧痕。
1197	土師器	小皿	谷部B-3区2層(黒色土)	①10.45 ②1.35 ③8.05	底部外面調整不明、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～5㎜の白色砂粒を多く含む、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y8/3～にぶい橙7.5YR7/3、内灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1。	板状圧痕。
1198	土師器	小皿	谷部D-3区2層下層	①10.55 ②1.15 ③8.45	底部内外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：1～3.5㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y8/3。	板状圧痕。

表 46　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表46

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1199	土師器	小皿	谷部D-3区2層下層	①10.8 ②1.65 ③8.05	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1～3.5㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～にぶい黄橙10YR6/4、内灰黄2.5Y7/2～にぶい黄橙10YR7/2～明黄褐10YR7/6。	板状圧痕。
1200	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.4 ②1.35 ③7.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1201	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.4 ②1.6 ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1202	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.6 ②1.5 ③7.95	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1203	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.7 ②1.5③6.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母と2㎜程の赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3。	板状圧痕。
1204	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.7 ②1.45 ③6.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1205	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.7 ②1.3 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒を微量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y6/2。	板状圧痕。
1206	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.5 ②1.35 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒と、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～2.5Y8/2。	板状圧痕。
1207	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.9 ②1.4 ③7.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y6/2。	内外面黒斑。 板状圧痕。
1208	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.2 ②1.7 ③7.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：5㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母・黒色粒・赤褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1209	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.2 ②1.1～1.4 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～5.0㎜の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2、外面一部にぶい橙7.5YR6/4。	板状圧痕。
1210	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.15 ②1.5 ③7.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	口縁部に黒斑。 板状圧痕。
1211	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.0 ②1.4 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1212	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.25 ②1.75 ③7.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒を微量含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	底部内外面に黒斑。 板状圧痕。
1213	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.7 ②1.15 ③7.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と1㎜以下の金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1214	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.8 ②1.5 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1215	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.5 ②1.05～1.5 ③7.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～4㎜の白色砂粒を多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1216	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.1 ②1.4 ③7.0	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む、1㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	
1217	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.3 ②1.2 ③8.3	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y6/2。	底部外面に黒斑。
1218	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.4 ②1.55 ③7.35	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y6/2、内灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	底部外面に黒斑。 板状圧痕。
1219	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.0 ②1.1③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、0.5㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～7/1、内浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1220	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.15 ②1.35 ③8.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1～2.5Y8/2。	板状圧痕。
1221	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.5 ②1.3 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰白7.5Y8/2。	外面に黒斑。 板状圧痕。
1222	土師器	小皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.6 ②1.4 ③6.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～4㎜の白色砂粒と微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2～黄灰2.5Y5/1。	内面に黒斑。 板状圧痕。
1223	土師器	小皿	谷部D-1区2層	①8.4 ②1.1 ③6.4	摩滅のため調整不明。底部中央に焼成後穿孔。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4～8/3。	
1224	土師器	小皿 (都城系)	谷部D-3区2層	①10.1 ②0.9 ③7.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～2.5Y8/1、内灰白10YR8/1～8/2。	板状圧痕。
1225	土師器	小皿 (都城系)	谷部D-3区2層	①10.4 ②1.2 ③7.4	底部外面ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。口縁端部内側に屈曲。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。

表 47　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表47

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1226	土師器	小皿 (都城系)	谷部D-1区2層下層	①10.2 ②1.1+α ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1～褐灰10YR6/1、内灰白2.5Y7/1～褐灰10YR5/1。	
1227	土師器	小皿 (都城系)	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①10.6 ②1.2 ③6.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR5/1。	底部に煤付着。
1228	土師器	小皿 (都城系)	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①10.5 ②0.9 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。口縁端部内側に屈曲。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/～灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1229	土師器	小皿 (都城系)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①11.2 ②0.8 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内灰黄褐10YR6/2。	
1230	土師器	小皿	谷部D区2層	①8.95 ②1.1 ③6.95	底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1mm以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1～褐灰10YR6/1、内灰白2.5Y8/1～灰黄褐10YR6/2～褐灰10YR4/1。	内面に煤付着。
1231	土師器	小皿	谷部B-3区2層(黒色土)	①9.75 ②1.45 ③7.45	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：3mm以下の白色砂粒を多く含む、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR4/1～灰N6/～暗灰N3/、内にぶい黄橙10YR7/3～灰N4/～黒褐7.5YR3/1～灰白N7/。	内外面口縁部に黒斑。板状圧痕。
1232	土師器	小皿 (灯明)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.0 ②1.4 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	内面に薄く煤付着。5ヶ所タール状の付着。
1233	土師器	小皿 (灯明)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.2 ②1.65 ③8.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1mm以下の白色砂粒・金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	内面煤付着。外面黒斑。板状圧痕。
1234	土師器	小皿 (灯明)	谷部D区南側谷部2層	①10.3 ②1.4 ③7.3	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1mm以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y8/2～灰黄褐10YR5/2。	内面煤付着。 板状圧痕。
1235	土師器	小皿 (灯明)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①11.0 ②1.3 ③7.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1～にぶい黄橙10YR6/4が混じる。	内外面に煤付着。
1236	土師器	皿 (灯明)	谷部D区2層	①10.3 ②2.1 ③7.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ?他は回転ナデ。	A：雲母を含む。細砂を含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/1～8/2、断面灰白2.5Y7/1。	底部内面に煤付着。底部内面墨痕か? 板状圧痕。
1237	土師器	高台付皿	谷部D区南側谷部2層	①12.1 ②2.2 ④7.4	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。雲母を含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～浅黄橙10Y8/3、内灰白10YR8/2～2.5Y8/1、断面灰白2.5Y8/1。	
1238	土師器	高台付皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①11.9 ②2.6 ④7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/2。	
1239	土師器	高台付皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①12.2 ②2.8 ④7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/2、内にぶい黄橙10YR7/2。	
1240	土師器	高台付皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①12.0 ②2.65 ④7.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	板状圧痕。
1241	土師器	高台付皿	谷部D-3区東側2層	①13.0 ②2.9 ④7.6	内面2/3ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR6/2。	
1242	土師器	脚付皿	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①(14.5) ②3.2	摩滅のため調整不明。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/2。	
1243	土師器	脚付皿	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(12.8) ②1.6+α	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	脚部は3ヶ所あったと考えられる。 板状圧痕。
1244	土師器	小杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①9.1 ②2.1 ③6.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰白10YR7/1、内褐灰10YR6/1。	
1245	土師器	小杯	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①(10.4) ②2.25 ③7.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・褐色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR7/1。	板状圧痕。
1246	土師器	杯	谷部D-1区2層下層	①13.0 ②3.2 ③8.0	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外橙5YR7/6。	板状圧痕。
1247	須恵器	皿	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①(18.4) ②2.9 ③(14.2)	底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/3～灰白10YR8/2。	口縁・体部外面に煤付着。
1248	土師器	高台付皿 (灯明)	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①10.6 ②2.9 ④7.0	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。茶色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～灰白10YR7/1、内褐灰10YR6/1～灰黄褐10YR5/2。	口唇部に煤付着。
1249	土師器	高台付皿	谷部D-3区2層下層	①13.0 ②3.3 ④6.8	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR7/1。	
1250	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①11.8 ②3.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～褐灰7.5YR6/2、内灰白2.5Y7/1～明褐灰5YR7/2。	
1251	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層下層上層(青灰色土)	①12.2 ②2.9 ③9.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR7/6。	
1252	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層	①(12.6) ②2.8 ③8.9	底部外面ヘラ切り後一部ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR6/4～にぶい黄橙10YR7/2。	
1253	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層下層	①13.9～14.8 ②3.3 ③6.3	底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1、内灰黄褐10YR6/2。	口縁部に指おさえによる変形。

表 48　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表48

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1254	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層下層	①12.3 ②3.45	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ミガキ?他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/4。	
1255	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層溝の部分	①12.9 ②3.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を微量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3、断面にぶい黄橙10YR7/3。	内面・体部外面に煤付着。一部タール状になる。
1256	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①13.6　②3.15	体部～底部外面ナデ。体部外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1～6㎜の石英と微細な白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～淡赤橙2.5YR7/3～黄灰2.5Y6/1、内灰白10YR8/2～淡赤橙2.5YR7/3。	板状圧痕。
1257	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層	①14.0 ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をやや多く含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y6/2、内浅黄2.5Y7/3。	内面に黒斑。
1258	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層上下層間層	①14.1 ②3.65	体部下位～底部外面回転ナデ後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～5㎜の白色砂粒をやや多く含む、1㎜以下の金雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～浅黄橙10YR8/3、内灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。	
1259	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①14.7 ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～灰黄2.5Y7/2、内淡黄2.5Y8/3。	
1260	土師器	丸底杯	谷部D-1区2層	①14.6 ②3.0～3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1261	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①14.9 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y6/1、内浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1262	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①15.0 ②3.4	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1263	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.1 ②3.6	体部～底部外面ナデ。底部内面一定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1～5㎜の白色砂粒、石英と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～にぶい黄橙10YR7/3、内淡黄2.5Y8/3～灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1264	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①14.7 ②4.2+α	体部～底部外面ヘラ切り。体部外面ナデ。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2～灰白2.5Y7/1。	底部外面に高台貼り付けの痕跡。
1265	土師器	丸底杯	谷部D-3区東側2層	①15.4 ②3.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3～灰黄褐10YR5/2、内にぶい黄橙10YR6/3。	板状圧痕。
1266	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①14.5 ②3.35	体部～底部外面ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1～2㎜ほどの石英と3㎜以下の白色砂粒、微細な黒色粒、1㎜以下の雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～2.5Y8/2、内灰白5Y8/1～N7/。	
1267	土師器	丸底杯	谷部D区南側谷部2層	①15.7 ②3.6	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面不定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な金雲母と1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3、内浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1268	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.6 ②3.7	体部下位～底部外面ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と1～5㎜の石英と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～2.5Y7/1～暗灰黄2.5Y5/2～黄灰2.5Y4/1～灰N6/、内灰白5Y8/1～灰黄褐10YR6/2。	外面に焼きムラ。
1269	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①15.8 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～2.5Y7/1。	板状圧痕。
1270	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層下層	①15.8 ②3.9	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面調整不明。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3～灰白5Y7/1。	板状圧痕。
1271	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.8 ②2.9～3.4	体部～底部外面ナデ。体部外面指頭圧痕。底部内面一定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒と微細な雲母をやや多く含む、1～6㎜の石英と微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい黄橙10YR7/3 、内にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/2。	
1272	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①15.9 ②3.2	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ミガキ?他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1、内浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
1273	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①16.1 ②4.0	底部外面調整不明。体部外面指頭圧痕・ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：1～3㎜の石英と2㎜以下の白色砂粒、微細な黒色粒、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～7.5Y8/2～2.5Y7/1。	板状圧痕。
1274	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①16.2 ②3.6	体部～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕。底部内面ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒と微細な雲母、黒色粒、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～10YR8/2、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1275	土師器	丸底杯	谷部D-3区2層	①17.45 ②4.6	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	底部外面に黒斑。

表 49　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表49

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1276	土師器	丸底杯 (穿孔)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②2.2+α　孔径0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕、後ナデ。内面丁寧なナデ。底部に穿孔。	A：粗砂・礫を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
1277	土師器	丸底杯 (灯明)	谷部D区2層	①16.6 ②4.2	体部～底部外面ヘラ切り後ナデか?内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～にぶい橙5YR7/4、内灰白10YR8/2、断面灰白5Y7/1。	口縁端部に煤付着。
1278	土師器	丸底杯	谷部D-1区2層	①15.6 ②3.4	底部外面ナデ。口縁部～体部外面回転ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR6/1、内にぶい黄橙10YR7/3。	外面に煤付着。 内面は斑点状である。
1279	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①14.95 ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～暗灰黄2.5Y5/2、内浅黄橙10YR8/4～橙7.5YR6/6。	内外面に煤付着。
1280	土師器	丸底杯 (灯明)	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.8 ②2.7～3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～浅黄橙10YR8/3、内灰白2.5Y8/2。	外面に煤付着。 板状圧痕。
1281	土師器	丸底杯	谷部D区2層	①15.9 ②3.1～3.85	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面調整不明。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：内外浅黄2.5Y7/3～黒褐2.5Y3/1。	内外面に煤付着。 板状圧痕。
1282	土師器	小椀	谷部D-1区2層	①(9.4) ②3.7 ④4.0	高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後手持ちヘラミガキ。	A：雲母を少量含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/6、内にぶい黄10YR7/4。	
1283	土師器	小椀	谷部D-3区2層(黒色土)	①9.3 ②3.2 ④6.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母を少量含む。細砂を含む。B：良好。C：外灰白10YR7/2～にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/2。	
1284	土師器	小椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.2 ②3.5 ④5.8	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	
1285	土師器	小椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①10.3 ②3.6 ④6.5	内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
1286	土師器	小椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①11.4 ②4.0 ④5.9	底部外面ナデ。体部外面指頭圧痕、後回転ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外灰白7.5Y8/1、内黄灰2.5Y6/1。	内面に墨痕。
1287	土師器	椀	谷部D-3区2層下層	①(12.0) ②4.9 ④(7.0)	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4、内灰褐7.5YR6/2。	
1288	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①15.2 ②5.3 ④(8.4)	体部下位指頭圧痕、後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂・雲母をやや多量含む。B：良好。C：灰黄褐10YR6/2。	
1289	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①14.6 ②5.6 ④(7.2)	体部下位指頭圧痕～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後ミガキ?他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を少量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR6/2、内灰白2.5Y7/1。	
1290	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①(14.6) ②5.0 ④7.05	体部下位外面～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。雲母・茶色粒を少量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y8.2～灰白2.5Y7/1。	
1291	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.0 ②5.2 ④7.7	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕、後回転ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
1292	土師器	椀	谷部D区2層	①17.2 ②5.0 ④(9.4)	内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：雲母を含む。粗砂を微量含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/3～灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/4～8/3、断面灰白10YR8/2。	口縁部内面に煤付着。
1293	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.5 ②5.55 ④(7.2)	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
1294	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①15.8 ②5.2 ④7.5	体部外面～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2。	
1295	土師器	椀	谷部D区南側谷部2層	①(15.6) ②5.4 ④7.8	内面コテ当て。体部下位外面指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：雲母・細砂を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
1296	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(15.8) ②5.7 ④6.65	底部外面ナデ。高台貼付の回転ナデ。体部外面指頭圧痕、後手持ちヘラミガキ。他は手持ちヘラミガキ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3～にぶい橙5YR7/3が混じる。	
1297	土師器	椀	谷部D区2層	①16.5 ②5.7 ④7.0	底部下位外面ナデ。内面コテ当て後手持ちヘラミガキ。他は回転ヘラミガキ。	A：雲母・細砂を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1、内灰白2.5Y8/2、断面灰白2.5Y8/2。	
1298	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.1 ②5.5 ④7.2	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部～底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含み、0.5～1.0㎜の茶色粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	
1299	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①15.0 ②5.65 ④7.65	体部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。雲母を少量含む。B：良好。C：灰白10YR8/2。	
1300	土師器	椀	谷部D区2層	①15.2 ②6.0 ④6.8	内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂・雲母を多量含む。赤褐色粒を含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3。	
1301	土師器	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①(15.4) ②5.95 ④7.5	体部下位外面指頭圧痕。底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。	
1302	土師器	椀	谷部D-3区2・4層上下層間層	①(14.8) ②4.9 ④7.4	底部外面ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白10YR8/2。	
1303	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①14.9 ②5.5 ④7.3	底部外面ヘラ切り後回転ナデ。体部下位指頭圧痕、後回転ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
1304	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(18.8) ②7.8 ④9.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～黒2.5Y2/1、内黒10YR1.7/1～黒N2/。	

表 50　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表50

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1305	土師器	椀	谷部D-3区2層下層	②2.9+α　④(8.4)	底部内面ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫をやや多量、茶色粒を少量含む。B：良好。C：外灰2.5Y7/1、内黄灰2.5Y5/1。	
1306	土師器	大椀	谷部D区中央土坑周辺2層下層(黒色土)	②4.3+α　④11.4	体部～底部回転ナデ。	A：細砂・雲母を微量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内灰白7.5Y7/1、断面灰白2.5Y8/1。	板状圧痕。
1307	土師器	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②3.5+α　④7.4	体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。底部中央に焼成後穿孔。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。	
1308	土師器	椀	谷部D-3区2層(キカイ掘)	②0.9+α	底部外面回転ナデ、内面コテ当て。	A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	内面に墨書。
1309	土師器	脚付椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②3.6+α	内面ナデ。脚部貼付のナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
1310	土師器	椀	谷部D-3区2層(キカイ掘)	②2.1+α　③6.2	外面摩滅のため調整不明。内面回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR7/2。	
1311	土師器	杯?	谷部D-1区2層	①(9.4)　②3.5	摩滅のため調整不明。	A：細砂を含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙7.5YR8/6。	
1312	土師器	鉢	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(21.6)　②10.1+α	口縁部内外面、体部外面回転ナデ。体部内面縦方向ナデ後ヨコナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	
1313	土師器	鉢	谷部D-1区2層	①(24.8)　②8.3+α	摩滅のため調整不明。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄褐10YR5/3～5/4、内明黄褐10YR7/6。	外面煤付着。
1314	土師器	鉢	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②7.8+α	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面指頭圧痕、後ヨコナデ。	A：細砂・粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内黄灰2.5Y6/1。	粘土紐が見られる。
1315	土師器	鉢	谷部D区南側谷部2層	②3.8+α　③9.0	底部外面ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：雲母を含む。粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内にぶい黄橙10YR7/3、断面にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1316	土師器	器台?	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②15.65+α	脚部指ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/2、断面芯部灰N4/。	
1317	土師器	壺	谷部D-3区2層(キカイ掘)	①(10.0)　②9.4+α	外面回転ナデ。口縁部内面回転ナデ。頸部内面シボリ痕。肩部内面ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
1318	土師器?	壺	谷部D-3区2層(キカイ掘) 谷部D-3区2層(溝の部分) 谷部D-3区2層	②9.0+α	体部外面上位回転ナデ後ナデ、下位回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面不定方向ナデ。底部との接合面ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR7/1。	外面に黒斑。
1319	土師器	壺	谷部D-3区2層(キカイ掘)	②3.4+α　③13.6	外面摩滅であるが回転ナデか?内面指頭圧痕・ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや不良。C：内外灰白10YR8/2。	底部外面に黒斑。
1320	土師器	甕	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	②5.5+α	口縁部外面ヨコナデ。体部外面縦方向ハケ。他は摩滅のため調整不明。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい橙7.5YR6/4～赤褐5YR4/6が混じる。	
1321	土師器	甕	谷部D-1区2層	①(26.4)　②6.5+α	口縁部内外面ヨコナデ。	A：雲母を少量含む。細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2～7/4。	外面に煤付着。
1322	土師器	移動式竈	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	②6.2+α	外面ナデ。内面ケズリ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：浅黄2.5Y7/3～橙2.5YR6/6。	二次焼成による赤変が一部に見られる。
1323	土師器	移動式竈	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	②7.6+α	ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内明褐灰7.5YR7/2～褐灰7.5YR6/1。	
1324	土師器	移動式竈	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	②11.8+α	外面ナデ。底面ハケメ。内面ケズリ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	
1325	黒色土器A類	椀	谷部D-3区2層	①14.4　②5.7　④6.4	体部下位外面指頭圧後回転ナデ。内面コテ当て後手持ちヘラケズリ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR6/2～暗灰N3/。	
1326	黒色土器A類	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(14.2)　②5.7　④6.6	貼付高台回転ナデ。その他摩滅のため調整不明。	A：粗砂をやや多量含む。B：不良。C：外灰白N7/～黄灰2.5Y5/1、内褐灰10YR5/1～黒10YR2/1。	
1327	黒色土器B類	小椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①7.8　②4.0　④5.2	高台～底部外面回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内黒N2/。	
1328	黒色土器B類	小椀	谷部D-3区2層	①(9.6)　②4.1　④4.8	高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。	
1329	黒色土器B類	椀	谷部D区南側谷部2層	①14.8　②5.7　④7.0	高台～底部外面回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外黒N2/～暗灰N3/、内黒N2/、断面黒N2/～暗灰N3/。	
1330	黒色土器B類	椀	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	①15.8　②6.2　④7.6	体部下位外面ナデ。高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後ミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内黒N2/。	
1331	黒色土器B類	椀	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①15.6　②5.9　④7.6	底部外面ヘラ切り後ナデ。高台貼付の回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～黒N2/、内黒N2/。	
1332	黒色土器B類	椀	谷部D-3区東側2層	②5.3+α	内外面手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外黒褐10YR3/1～灰黄褐10YR6/2、内黒褐10YR3/1。	
1333	瓦器	椀	谷部D-1区2層	①(15.8)　②5.1　④(6.4)	高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後手持ちヘラミガキ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2～灰白2.5Y7/1、内灰黄褐10YR6/2。	
1334	白磁	椀	谷部D-3区1・5層 谷部D-3区2層下層 谷部D区1層(キカイ掘) 谷部D・E間ベルト2層	①(15.2)　②5.8　④6.1	口縁部下位～体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。他は回転ナデ。体部外面～内面施釉。	A：明オリーブ灰2.5GY7/8。微細な茶色粒を多量含み、硬質。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0。	釉は光沢のある半透明釉。玉縁口縁。
1335	白磁	椀	谷部D-3区1層(キカイ掘) 谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(16.0)　②2.4+α	口縁部下位回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。内外面施釉。	A：灰白7.5Y7/1。微細な黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：オイスター5Y7.5/1.0。	やわらかな光沢のある半透明釉。

表 51　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表51

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1336	白磁	皿	谷部D-3区1層 谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	①(9.8) ②2.4 ③(3.9)	口縁部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面見込みに沈線。内面～体部外面施釉。	A：灰白10Y8/1。微細な白色砂粒を多量含む。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0。	釉は透明釉。光沢があり、硬質。細かい貫入が入る。
1337	白磁	皿 (輪花)	谷部D-3区2層溝の部分	②1.55+α	口縁部下位外面回転ヘラケズリ。残存部全面施釉。	A：灰白2.5Y8/1。微細な砂粒を微量含む。B：良好。C：ムーンライトブルー3PB8.0/2.0。	輪花。光沢のある不透明釉。
1338	土製品	羽口	谷部D区南側谷部2層	②12.6+α	ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～灰白N7/、内灰黄褐10YR6/3～にぶい橙5YR7/4。	
1339	土製品	棒状 土製品	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	長6.8+α 幅3.6 厚3.3	摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：にぶい橙5YR7/4。	
1340	土製品	土玉	谷部D-3区2層	長1.5 幅1.7 厚1.5 孔径0.15～0.25	ナデ後、中央に穿孔。	A：微細～2mm程の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：黒褐10YR3/1。	
1341	銅製品	鈴	谷部D・E区ベルト8層(黒色土)	幅2.5～2.7 高3.6 丸:幅0.6 高0.5			一部破損。
1342	石製品	石鍋	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	長10.9 幅6.0 高3.5 厚1.7	削り。		滑石製。底部外面に煤付着。
1343	石製品	石鍋	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	縦9.3 横10.6 厚1.6	外面縦方向削り。内面斜方向削り。		滑石製。
1344	石製品	砥石	谷部D・E間ベルト2層(灰色土)	縦6.3 横3.55 厚1.2			
1345	石製品	砥石	谷部D・E間ベルト2層	縦10.2 横6.55 厚6.2			5面使用。
1346	石製品	砥石	谷部D-3区2層上層下層間層	縦5.5 横5.0 厚1.2			2面使用。
1347	石製品	磨石	谷部D・E間ベルト9層(黒褐色土)	縦6.0 横4.7 厚1.7 重82.3	擦痕か?		
1348	木製品	折敷	谷部D区(南側谷部下)2層	縦34.4 横32.2 厚0.9(底板)・0.8(側板)			
1349	木製品	折敷 (側板)	谷部D区(南側谷部下)2層	縦29.6 横0.9 厚0.5			
1350	木製品	折敷	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	縦33.4 横20.9 厚0.6	側縁は丁寧な面取り。		
1351	木製品	折敷	谷部D-1区2層	縦25.8 横4.5 厚0.5	方形の穿孔１ヶ所あり。		
1352	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦25.7 横0.7 厚0.5	削り。		
1353	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦22.8 横0.5 厚0.6	削り。		
1354	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦17.7 横0.8 厚0.7	削り。		
1355	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦17.2 横0.5 厚0.5	削り。		
1356	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦14.6 横0.7 厚0.5	削り。		
1357	木製品	箸	谷部D-1区2層	縦15.6 横0.5 厚0.5	削り。		
1358	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦5.6 横0.9 厚0.9	上端部ボタン状に作出。		
1359	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦20.2 横1.0 厚0.8	削り。		
1360	木製品	部材	谷部D-3区2層下層	縦40.0 横1.9 厚1.9	先端削り。		
1361	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦15.0 横0.8 厚0.5	上下両端部削り出し。		
1362	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦14.9 横0.6 厚0.3	削り。		
1363	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦16.7 横0.7 厚0.7	削り。		
1364	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦10.2 横2.3 厚0.3	削り。		
1365	木製品	部材	谷部D-1区2層	縦9.5 横2.1 厚0.2	削り。		
1366	木製品	部材	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	縦17.4 横3.5 厚1.8	段の作出。斜方向に穿孔あり。		
1367	木製品	題箋軸	谷部D-1区2層	縦10.7 横1.8 厚0.4	削り。		
1368	木製品	鳴鏑	谷部D-1区2層	縦4.3 横3.5 厚2.0	両側面に方形の穿孔。中を丸く削っている。		
1369	木製品	栓	谷部D-3区2層(キカイ掘)	縦4.0 横1.8 厚1.8	削り。		
1370	木製品	刀子 の柄	谷部D-1区2層	縦1.8 横14.8 厚1.1	面取り。		
1371	木製品	用途 不明品	谷部D-1区2層	縦17.7 横4.0 最大厚0.8	残存状況が不良のため調整不明。		
1372	木製品	用途 不明品	谷部D区(CEベルト側)2層	長5.2 幅5.3 厚1.1～1.65	削り。1ヶ所穿孔か?		
1373	木製品	用途 不明品	谷部D-1区2層	縦6.4 横9.8 厚1.0	削り。		墨痕。
1374	木製品	部材?	谷部D-1区2層	縦10.1 横5.1 厚1.4	面取り。穿孔。		
1375	木製品	曲物底板	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	縦11.3 横10.4 厚1.0	側縁は丁寧な面取り。		
1376	木製品	曲物底板	谷部D・E間ベルト8層(黒色土)	縦7.5 横13.8 厚0.9	側縁2ヶ所が摩滅して斜面になる。転用の痕跡か?木釘痕あり。		
1377	木製品	杭?	谷部D-3区2層	縦8.5 横4.6 厚4.4	先端削り。		
1378	獣骨	馬歯	谷部D・E区ベルト8層(黒色土)	長7.0 幅2.5 厚1.1			
1379	獣骨	馬歯	谷部D・E区ベルト8層(黒色土)	長7.3 幅2.4 厚1.3			
1380	獣骨	馬歯	谷部D・E区ベルト8層(黒色土)	長6.0 幅2.3 厚1.4			
1381	獣骨	馬歯	谷部D・E区ベルト9層(黒褐色土)	長5.7 幅2.7 厚1.1			
1382	獣骨	馬歯	谷部D・E区ベルト8層(黒色土)	長4.3 幅1.7 厚1.0			
1383	鉄滓		谷部D区南側谷部下2層	長4.1 幅7.4 厚2.4 重量62.7			
1384	鉄滓		谷部D区南側谷部下2層	長4.2 幅3.6 厚1.2 重量14.0			

表 52　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表52

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1385	鉄滓		谷部D区南側谷部下2層	長2.4 幅3.5 厚2.2 重量20.1			
1386	土師器	小皿	谷部B-3区2層上下層間層	①10.35 ②1.15 ③7.75	摩滅のため調整不明。	A：1～3㎜の白色砂粒を多く含む、1～4㎜の赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/4、内灰白2.5Y8/2～明褐7.5YR5/6。	
1387	土師器	丸底杯	谷部D-3区2・4層上下層間層	①16.0 ②4.4	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕・ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒と微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y8/2。	
1388	土師器	丸底杯	谷部D-3区2・4層上下層間層	①16.3 ②4.7	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と1㎜以下の赤褐色粒を少量含む、0.5㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。	口縁部内面に煤付着。 板状圧痕。
1389	須恵器	杯蓋	谷部D・E間ベルト11層(黄灰色土)	①12.4 ②2.5 つまみ径1.8	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～暗灰N3/。	
1390	須恵器	杯蓋	谷部D・E間ベルト10層(黄灰色土) 谷部D・E間ベルト11層(黄灰色土)	①18.35 ②3.0 つまみ径2.1	外面1/3ヘラ切り後ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1。	
1391	須恵器	杯蓋	谷部D-3区4層(12層)	①(18.6) ②3.7 つまみ径(7.6)	輪状つまみがつく。外面1/2ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白7.5Y7/1。	重ね焼きの痕跡。
1392	須恵器	杯蓋 (転用品)	谷部D区SK01側4層下層 (13層褐灰色土)	①13.1 ②2.3 つまみ径1.7	内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外灰10Y5/1。	内面に墨痕。 焼き歪む。
1393	須恵器	杯身	谷部D-3区10層	①11.1 ②3.8 ④7.15	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・黒色粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰N6/。	
1394	須恵器	杯身	谷部D・E間ベルト11層(黄灰色土)	①13.4 ②3.9 ④8.4	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/～暗灰N3/。	板状圧痕。
1395	須恵器	杯身	谷部D区SK014層中層(11層)	①19.0 ②6.9～7.5 ④12.9	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂･茶色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰白N7/。	板状圧痕。
1396	須恵器	皿	谷部D・E間ベルト10層(黄灰色土)	①(20.2) ②2.95 ③17.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y6/2。	火襷。
1397	須恵器	鉢	谷部D-3区4層中層(11層黄灰色土) 谷部D区SK014層最下層 谷部D区SK014層下層(12層) 谷部D区SK014層上層(10層黄灰色土) 谷部D-3区10層	①25.0 ②15.3+α	体部下位外面回転ヘラケズリ。体部内面回転ナデ後縦方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰N4/。	
1398	須恵器	壺	谷部D-3区4層中層(11層)(黄灰色土)	②6.4+α	把手部指ナデ。	A：細砂を微量含む。B：不良。C：灰白2.5Y8/2。	把手。
1399	土師器	杯	谷部D区SK014層上層	①13.6 ②3.8 ③(6.6)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/3。	内外面に墨書。
1400	土師器	丸底杯	谷部D・E間ベルト10層(黄灰色土)	①(15.0) ②3.55	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕、後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～にぶい橙7.5YR7/4。	
1401	須恵器	蓋	谷部D区SK014層中層(11層) 谷部D区SK014層下層(12層) 谷部D-3区SK01南側4層上層10層 (黄灰色土)	①17.3 ②2.0+α	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/4～にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR6/4。	
1402	土師器	椀	谷部D・E間ベルト10層(黄灰色土)	①15.8 ②4.7+α	体部下位外面指頭圧痕、後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。礫を微量含む。黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰黄褐10YR6/2～橙7.5YR6/6。	
1403	土師器	皿	谷部D区SK01そば4層上層10層 (黄灰色土)	①15.6 ②2.1 ③12.4	底部外面回転ヘラケズリ後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：細砂を多量含む。B：不良。C：内外橙5YR6/6。	
1404	土師器	皿	谷部D区4層上層10層(黄灰色土)	①16.0 ②2.15 ③12.5	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR6/4～褐灰7.5YR6/1。	口縁部内外面に煤付着。回転方向左。
1405	土師器	把手付甕	谷部D・E間ベルト4層(黒色土粘質)12・13層間層	①34.0 ②30.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケメ。把手ナデ後ハケメ。内面削り。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや良好。C：外灰黄褐10YR6/2～にぶい褐7.5YR5/3、内灰黄褐10YR6/2～にぶい黄褐10YR5/3。	内面煤付着。
1406	土師器	不明	谷部D・E間ベルト11層(黄灰色土)	②3.8+α	底面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
1407	石製品	砥石	谷部D・E間ベルト11層(黄灰色土)	縦4.8 横4.1 厚2.6 重量68.5	5面を使用。		
1408	木製品	板状製品	谷部D・E区ベルト4層（粘質土） 12層・13層間	長39.7 幅2.8 厚1.9	削り。		
1409	須恵器	杯蓋	谷部D区SK01側5層(黒色土)	①12.5 ②3.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰褐5YR4/2、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。
1410	須恵器	杯身	谷部D区SK01側5層	①10.9 ②3.7 受部径12.7	外面2/3降灰のため調整不明。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量、黒色粒を少量含む。B：不良。C：外黄灰2.5Y5/1～灰白2.5Y7/1、内黄灰2.5Y5/1。	
1411	須恵器	杯蓋	谷部D-3区6層	①12.4 ②4.3	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。1黒色粒を含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白N7/、内青灰5P6/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
1412	須恵器	杯蓋	谷部D-3区6層	①13.4 ②3.7	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外青灰5B5/1～青灰5BG6/1、内青灰5BG6/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向左。
1413	須恵器	杯身	谷部D-3区6層	①10.1 ②4.0 受部径11.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y4/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
1414	須恵器	杯身	谷部D-3区6層	①(10.7) ②3.2～3.6 ③7.7	外面1/3回転ヘラケズリ、底部中央未調整。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内褐灰10YR5/1。	口縁端部使用痕か? 底部外面にヘラ記号。回転方向右。

表 53　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表53

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1415	須恵器	杯身	谷部D-3区6層	①11.0 ②3.4 受部径13.5	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外紫灰5P6/1。	口縁端部使用痕か? 底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1416	須恵器	杯身	谷部D-3区6層	①11.1 ②4.5 受部径13.4	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1417	須恵器	高杯蓋	谷部D-3区6層	①15.3 ②6.0 つまみ径2.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N8/～7.5Y8/1、口縁部内外やや暗めの灰白N7/を呈する。	回転方向右。
1418	須恵器	杯?	谷部D-3区6層	①16.2 ②5.5	外面下位回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂・粗砂を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/、内面一部灰N4/。	焼成時の歪みあり。 天井部外面にヘラ記号あり。回転方向右。
1419	須恵器	短頸壺	谷部D区SK01側6層	①7.0 ②7.3+α ⑤13.4	底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。肩部2条沈線、沈線間に竹管文。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N6/～黒N2/、内灰N4/。	肩部に降灰。 沈線間に竹管文。
1420	須恵器	壺	谷部D-3区6層	②11.0+α ⑤13.8(胴部)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。体部外面2条沈線、沈線間に斜線文。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N5/。	沈線間に斜線文。
1421	須恵器	壺	谷部D-3区6層	②8.3+α	口縁・頸部内外面回転ナデ、シボリ痕あり。体部外面カキメ、内面回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～N5/、部分的に焼きムラになる変色あり(灰N4/)、内灰N5/、断面灰褐5YR5/2～灰N5/。	
1422	須恵器	平瓶	谷部D-3区6層 谷部D区SK01　5層	①6.8 ②18.0 ③14.0	口縁部内外面～肩部外面回転ナデ。頸部内面ナデ。体部外面カキメ、内面回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：外青灰5B5/1、内灰N5/～N6/。	体部外面に降灰。 肩部1ヶ所ボタン状に粘土貼付。
1423	土師器	甕	谷部D-3区6層	①(25.5) ②9.9+α	口縁部内面ハケメ後内外面ヨコナデ。体部外面ハケメ、内面縦方向ヘラケズリ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	
1424	須恵器	杯蓋	谷部D-1区7・8層	①10.4 ②3.6	ヘラ切り。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。黒色粒をやや多量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1～灰N5/～灰白5Y8/1、内灰N6/。	
1425	須恵器	杯蓋	谷部D-3区6・7・8層(19層・20層混)	①13.0 ②3.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N4/。	体部天井部外面にヘラ記号。
1426	須恵器	杯蓋	谷部D-3区6層 谷部D-3区6・7・8層(19・20層混)	①12.8 ②3.6	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を微量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N4/、内暗青灰5PB4/1。	回転方向右。 天井部外面2ヶ所ヘラ記号。
1427	須恵器	杯蓋	谷部D-3区6層 谷部D-3区6・7・8層(19・20層混)	①13.7 ②4.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。礫を微量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y8/1～灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。	回転方向右。
1428	須恵器	杯身	谷部D-1区7・8層	①9.5 ②3.0 ③7.4 受部径11.8	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。	底部外面にヘラ記号。
1429	須恵器	杯身	谷部D区SK01側7・8層	①10.1 ②3.6 受部径12.5	外面2/3手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰黄褐10YR5/2、内灰白2.5Y7/1～灰黄褐10YR4/2。	底部外面にヘラ記号。
1430	須恵器	杯身	谷部D区SK01側7・8層	①10.5 ②3.3 受部径12.8	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	底部外面にヘラ記号。
1431	須恵器	杯身	谷部D区SK01側7・8層	①10.7 ②4.8 受部径12.9	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・茶色粒を多量含む。B：やや良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	底部外面にヘラ記号。
1432	須恵器	杯身 (穿孔)	谷部D-3区6層 谷部D-3区6・7・8層(19・20層混)	①11.1 ②3.8 受部径13.3	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：やや不良。C：内外暗灰黄2.5Y5/2。	底部中央に穿孔。 底部外面にヘラ記号。
1433	土師器	把手付甕	谷部D-3区6・7・8層(19・20層) 谷部E-3区5層上・下層 谷部E-3区5層下層 谷部E-1区2層下層3層と4・5層混 谷部E-1区5層上層 谷部EF間ベルト23層(20層混) 谷部D-3区6層 谷部F-3区5層砂質土 谷部E-3区5層	①(25.0) ②22.0 ③5.4	体部下位～底部外面擬格子叩き、内面同心円文当て具痕。把手部ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR5/2、内灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y4/1。	
1434	須恵器	切削物	谷部D区SK01側7・8層	縦4.4 横1.7 厚0.6	タタキ、当て具痕。ヘラ切り。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。	甕製作時の切り落とし片。
1435	土師器	模倣杯	谷部D区SK01側7・8層	①10.8 ②4.85 受部径11.4	体部～底部外面ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を少量、褐色粒をやや多量含む。B：良好。C：内外橙7.5YR7/6。	
1436	土師器	高杯	谷部D区SK01側7・8層	①12.6 ②4.4+α	口縁部外面～内面手持ちヘラミガキ。体部外面指頭圧痕、後ナデ。	A：細砂を多量、褐色粒・黒色粒を少量含む。B：良好。C：外明赤褐2.5YR5/6～にぶい橙7.5YR6/4、内明赤褐2.5YR5/6。	
1437	石器	石鏃	谷部D-3区6・7・8層(19・20層混)	縦2.4 横2.0 厚0.4 重量1.9	全体に細部調整。抉り部分は浅い。		
1438	石器	打製石斧	谷部D区SK01側7・8層	縦16.5 横7.3 厚2.4 重量358.3	側縁・刃部加工。		
1439	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①9.35 ②1.3 ③7.0	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	板状圧痕。
1440	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①8.8 ②1.05 ③6.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	板状圧痕。
1441	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①8.95 ②1.05 ③6.6	底部外面調整不明。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒ならびに0.5㎜以下の雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。

表 54　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表54

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1442	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①9.0 ②1.35 ③7.0	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～にぶい橙7.5YR7/4、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1443	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①9.35 ②1.0 ③7.25	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1.5㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～黄2.5Y8/6、内灰白2.5Y8/2～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1444	土師器	小皿	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①9.3 ②0.95 ③7.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1445	土師器	小皿	谷部D-1区SK011層	①(9.8) ②1.1 ③7.3	底部外面ヘラ切り、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	内面墨痕。
1446	土師器	丸底杯	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①14.3 ②3.5	体部下位～底部外面ナデ。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1447	土師器	丸底杯	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①14.9 ②3.65	体部下位～底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な赤褐色粒をわずかに含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙5YR7/3～橙7.5YR7/6、内浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1448	土師器	丸底杯	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①15.4 ②3.35	底部外面ヘラ切り。体部外面ナデ。他は回転ナデ後ミガキ?	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～褐灰10YR5/1、内にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR4/1。	口縁部内面に黒斑。
1449	土師器	丸底杯	谷部D-1区SK01 1層	①15.2 ②3.2	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：内外淡黄2.5Y8/3～浅黄2.5Y7/3。	底部外面に黒斑。 板状圧痕。
1450	土師器	丸底杯	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①17.15 ②3.7	底部外面ヘラ切り。体部外面ナデ。他は回転ナデ後ミガキ?	A：1㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む、2㎜以下の赤褐色粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～黄橙7.5YR8/8、内灰黄2.5Y7/2～浅黄橙7.5YR8/4。	
1451	土師器	椀	谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	①15.6 ②5.2 ④5.8	体部下位外面回転ヘラケズリ。口縁部内面ミガキ。体部～底部内面ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂をやや多量含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1、内灰黄褐10YR6/2～褐灰10YR4/1。	内外面煤付着。
1452	石製品	石鍋	谷部D-3区SK011層	縦6.8 横9.8 厚1.5	内外面削り。		滑石製。口縁部に穿孔。
1453	木製品	刀子の柄	谷部D区(SK01)1層	縦2.8 横13.5 厚1.7	裏面の大半が欠損。両端部、側面は丁寧な面取り。穿孔２ヶ所。		
1454	木製品	用途不明品	谷部D区(SK01)1層	縦4.3 横11.2 厚2.8	段がある。一面を斜方向に削って斜面を作出。		
1455	木製品	用途不明品	谷部D区(SK01)1層	縦3.4 横12.1 厚2.7	端部を丸く加工。		
1456	須恵器	杯蓋	谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘)	①7.5 ②2.1 受部径9.5	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内暗灰N3/。	焼き歪む。
1457	須恵器	水瓶	谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘)	①4.2 ②9.6+α	口縁部～肩部内外面回転ナデ。頸部内面シボリ痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～黒N2/、内暗灰N3/。	
1458	須恵器	壺	谷部D区SK01(灰白色粘質土) 谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	②15.7+9.5+α ③16.0	頸部内外面回転ナデ。肩部・体部外面平行タタキ後2条沈線、内面平行当て具痕後指頭圧痕、回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ。	A：粗砂を多量含み、茶色粒をやや多量含む。B：良好。C：外口縁付近灰N6/、底部灰N4/、体部灰N5/～暗灰N3/、内底部灰N5/～黒10YR2/1～、体部灰N5/～褐灰7.5YR4/1。	
1459	須恵器	大甕	谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘) 谷部D区SK01下層(黒色土・青灰色砂) 谷部D区SK01下層(底より1m上) 谷部D区SK01最下層(底より40cm上)	①38.2 ②45.0+α	体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転成形。	A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多量、0.5～1.0㎜の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰N4/、内灰10Y6/1。	
1460	土師器	小皿	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①8.35 ②1.1 ③6.55	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～浅黄橙7.5YR8/3、内灰白10YR8/2。	板状圧痕。
1461	土師器	小皿	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①8.65 ②1.3 ③6.7	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を少量含む、2㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1462	土師器	小皿	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①8.8 ②0.95 ③6.15	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/3～黄橙10YR7/8。	板状圧痕。
1463	土師器	小皿	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①8.9 ②1.4 ③6.65	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1464	土師器	小皿	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①9.2 ②1.3 ③6.9	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2。	板状圧痕。
1465	土師器	小皿	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①9.2 ②1.4 ③6.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5㎜以下の白色砂粒ならびに微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～橙5YR6/8～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y8/2。	外面に焼ムラ。 板状圧痕。
1466	土師器	小皿	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①9.2 ②1.2 ③6.6	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母を少量含む、1㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	板状圧痕。

表 55　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表55

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1467	土師器	小皿	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①9.4 ②1.4 ③7.35	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外淡黄2.5Y8/2、内灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3。	板状圧痕。
1468	土師器	小皿	谷部D区SK01下層(黒色土･青灰色土)	①10.3 ②1.5 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を少量含む、微細な雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y5/1、外面一部淡橙5YR8/3。	板状圧痕。
1469	土師器	小皿	谷部D区SK01下層	②0.7+α	底部内面一定方向のナデ。	A：1mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2。	内面に墨痕。 板状圧痕。
1470	土師器	小皿	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①9.3 ②1.4 ③6.3	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR5/2。	内面に煤付着。 板状圧痕。
1471	土師器	高台付小皿	谷部D区SK01(灰色粘土砂質土)	①9.4 ②1.8 ④6.1	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含み、黒褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
1472	土師器	高台付小皿	谷部D区SK01下層(青灰粘質土)	①9.4 ②1.8 ④5.8	底部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：細砂を多量、褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/3。	
1473	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①14.4 ②3.5	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒と微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～浅黄橙7.5YR8/3。	板状圧痕。
1474	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層	①14.9 ②3.35	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：0.5㎜以下の雲母をやや多く含む、2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～浅黄橙7.5YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4、内灰白10YR8/1～浅黄橙7.5YR8/3。	板状圧痕。
1475	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(黒色土・青灰色土)	①15.15 ②3.1	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1～にぶい黄橙10YR6/4～浅黄橙7.5YR8/3、内灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3。	板状圧痕。
1476	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層	①15.3 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR6/6、内灰白2.5Y8/2～にぶい黄橙10YR7/4。	板状圧痕。
1477	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①14.7 ②3.5～4.2	底部外面ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、雲母と2㎜以下の黒色粒、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y8/4～灰N6/。	板状圧痕。
1478	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①(14.9) ②3.2	体部下位～底部外面ヘラ切り。底部内面一定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：5㎜以下の白色砂粒と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1～2.5Y8/2。	板状圧痕。
1479	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.2 ②2.8～3.7	体部下位～底部外面ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/4～灰N5/。	外面に黒斑。
1480	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.25 ②3.3	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の石英と1㎜以下の白色砂粒と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～10YR8/2～灰N6/。	板状圧痕。
1481	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.1 ②3.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面一定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の白色砂粒、石英と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y8/1～淡橙5YR8/3～淡黄2.5Y8/3～灰白N7/、内灰白10YR8/2～7.5YR8/2～浅黄橙10YR8/4～灰白N7/。	板状圧痕。
1482	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.55 ②3.15	体部下位～底部外面ナデ。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒、石英と微細な雲母と黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～明オリーブ灰2.5GY7/1～灰白N7/、内灰白2.5Y8/1～明オリーブ灰2.5GY7/1。	板状圧痕。
1483	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.45 ②3.25	体部下位～底部外面ヘラ切り。体部外面ナデ。底部内面一定方向ナデ。内面ミガキ。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒と微細な雲母、黒色粒、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2～灰白10YR7/1～淡黄橙10YR8/4。	板状圧痕。
1484	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.55 ②2.9～3.5	体部下位～底部外面ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：1～3.5㎜の石英と2㎜以下の白色砂粒と1㎜程の赤褐色粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/3～橙5YR6/6、内灰白10YR8/2～橙7.5YR7/6。	
1485	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.6 ②2.95～3.6	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：微細な雲母と黒色粒、1.5㎜以下の白色砂粒と1～3㎜の石英を少量含む。B：良好。C：外淡黄2.5Y8/3～灰白2.5Y8/1～灰白10YR8/2～灰白5Y7/2、内灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3～橙7.5YR7/6～灰白N8/。	板状圧痕。
1486	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.0 ②3.75	体部下位～底部外面ナデ。体部下位外面指頭圧痕。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の白色砂粒、石英、赤褐色粒と微細な雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/4～淡橙5YR8/3。	板状圧痕。
1487	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①16.55 ②3.1	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。体部下位外面指頭圧痕。底部内面一定方向ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：3㎜以下の石英と1㎜以下の白色砂粒、雲母、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外淡橙5YR8/3～浅黄橙7.5YR8/4、内灰白5YR8/2～灰白10YR8/2。	板状圧痕。
1488	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①17.5 ②3.85	体部下位～底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後ミガキ。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～浅黄橙7.5YR8/3、内灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。

表 56　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表56

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1489	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰色粘土・砂質土)	①17.1 ②3.4	底部外面ヘラ切り。体部外面ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細な雲母をやや多く含む、2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～にぶい黄2.5Y6/3、内にぶい黄橙10YR7/4。	板状圧痕。
1490	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	②3.5+α	内外面指頭圧痕、後外面ナデ、内面ミガキ。	A：細砂・褐色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2、赤彩赤10R5/6。	
1491	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(黒色土) (キカイ掘)	②2.1+α	口縁部回転ナデ後内面コテ当てか?体部外面ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	内面に墨痕。
1492	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰色粘土・砂質土)	①14.15 ②3.3	体部下位～底部外面ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/4、内浅黄2.5Y7/3。	内面に黒斑、煤付着。板状圧痕。
1493	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層	①15.8 ②3.8	体部下位～底部外面ヘラ切り。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～にぶい黄褐10YR6/4～灰黄褐10YR6/2、内灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2～にぶい黄褐10YR4/3。	内面に煤付着か?板状圧痕。
1494	土師器	丸底杯	谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①14.8 ②3.5	底部外面調整不明。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：2㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～黒褐10YR3/2、内灰白2.5Y8/2～黄褐10YR5/8。	口縁部内面・外面に煤付着。 口縁部～体部外面に液だれ状の痕跡。 板状圧痕。
1495	土師器	丸底杯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.2 ②2.95	底部外面調整不明。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：4㎜以下の白色砂粒と微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～黄灰2.5Y6/1～黒褐2.5Y3/1、内灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y7/1。	内外面に煤付着。 板状圧痕。
1496	土師器	小椀	谷部D区SK01下層(青灰粘質土)	①(8.6) ②3.3 ④4.6	内面回転ナデ後手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：粗砂を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙7.5YR8/4。	
1497	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①(15.4) ②4.3 ④8.0	底部外面ナデ、内面回転ナデ後ナデ。体部下位指頭圧痕、後回転ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む、雲母をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	
1498	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰粘質土)	①15.8 ②4.5 ④6.6	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：粗砂・礫をやや多量含み、雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～橙5YR6/6、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい褐7.5YR5/3。	
1499	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.9 ②4.8 ④7.8	高台～底部外面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：細砂・粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外灰白7.5YR8/2～橙2.5YR6/6、内にぶい黄橙10YR7/3。	
1500	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①(18.4) ②5.75 ④9.0	内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外明褐灰7.5YR7/2～褐灰7.5YR6/1。	
1501	土師器	椀	谷部D区SK01下層	①(15.2) ②5.6 ③6.3	高台～底部外面回転ナデ。体部下位外面指頭圧痕、後手持ちヘラケズリ。他は手持ちヘラケズリ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙2.5Y6/4。	
1502	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①15.7 ②6.1 ④6.6	高台～底部外面回転ナデ。体部下位外面指頭圧痕、後回転ヘラミガキ。内面回転ナデ後コテ当て。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂・茶褐色粒・雲母を少量含む。B：やや良好。C：内外浅黄橙10YR8/3～灰白10YR7/1。	
1503	土師器	椀	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	①16.4 ②6.2 ④(5.7)	高台～底部外面回転ナデ。内面・体部下位外面回転ナデ後手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ後回転ヘラミガキ。	A：細砂を少量・茶褐色粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰白2.5Y7/1～にぶい褐7.5YR5/4、内灰黄褐10YR6/2。	
1504	土師器	三脚付椀?	谷部D区SK01最下層(底より40cm上)	②3.9+α	底部内外面ナデ。脚部ケズリ後ナデ。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	
1505	瓦器	片口鉢	谷部D区SK01下層	①(23.2) ②9.8 ③14.8	底部内外面ナデ。片口部指頭圧痕。他は回転ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y8/1。	
1506	土師器	片口鉢	谷部D区SK01(灰白色粘質土) 谷部D区SK01下層 谷部D区SK01(灰色粘土・砂質土)	①26.2 ②12.3+α	口縁部～体部上位外面回転ナデ。体部下位外面ナデか?内面不定方向ナデ。	A：粗砂を多量含み、黒色粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰白10YR8/2。	粘土紐接合帯で底部欠損。
1507	土師器	壺	谷部D区SK01下層(黒色土) (キカイ掘)	②9.4+α	底部内外面ナデ。他は回転ナデ。頸部内面シボリ痕。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内暗灰N3/～にぶい黄橙10YR7/2。	
1508	土師器	壺	谷部D-3区6層 谷部D区SK01下層 (黒色土・青灰色砂)	②9.6+α	体部内面ナデ。頸部内面シボリ痕。他は回転ナデ。	A：細砂を少量含む。雲母を微量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4～灰白10YR8/2、内灰白2.5Y8/1、断面灰白2.5Y8/1～灰N5/。	
1509	黒色土器A類	椀	谷部D区SK01最下層(底より40cm上) 谷部D区SK01下層(底より1m上)	①16.3 ②6.1 ④7.1	高台～底部外面回転ナデ。他は手持ちヘラミガキ。	A：細砂を多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～橙5YR6/6、内黒N2/～褐灰7.5YR6/。	
1510	白磁	椀	谷部D区SK01層(キカイ掘)	①(15.6) ②6.0 ④(6.4)	口縁部下位～底部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面～体部外面施釉。	A：灰白5Y7/1。精良。B：良好。C：灰白5Y8/2。	
1511	白磁	椀	谷部D区SK01下層(青灰粘質土) 谷部D区SK01(灰白色粘質土)	①(15.8) ②6.4 ④6.5	体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面～体部外面施釉。	A：灰白色N8/を呈し粗砂をやや多量含む。B：良好。C：フロスティングレイ367.5/1.0。	光沢があり硬質の半透明釉。貫入がある。
1512	白磁	皿	谷部D区SK01下層(キカイ掘) 谷部D-1区2層	①11.9 ②3.0～3.2 ④4.55	高台削り出し。体部外面～内面に施釉。内面見込みに段。内面櫛描文。	A：灰白7.5Y7/1。精良。B：良好。C：灰白5Y8/2。	内面櫛描文。
1513	青白磁	瓜型水注	谷部D区SK01下層(青灰粘質土) 谷部D区SK01(灰白色粘質土) 谷部D区SK01下層 谷部D区2層 谷部D区SK011層(青灰色粘質土)	②12.8+α ③8.5 ⑤13.3	肩部～体部外面施釉。底部外面ヘラケズリ。内面回転ナデ。	A：灰白色N8/を呈し微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：フロスティングレイ367.5/1.0。	景徳鎮窯。光沢のある透明釉。細かい貫入がある。釉膜は薄い。

表 57　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表57

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1514	瓦	丸瓦 (玉縁)	谷部D区SK01最下層	縦10.9 横8.5 厚2.9	玉縁凸面タタキ後ナデ、凹面布目痕。玉縁端面ヘラ切り。胴部凸面縄目タタキ後ナデ、凹面布目痕。側縁ヘラ切り。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：凸黒N7/～灰N4/、凹灰N5/～灰N4/。	
1515	瓦	平瓦	谷部D区SK01灰色粘土砂質土	縦11.2 横7.6 厚1.7	凹面平行タタキ。凸面ハケ、布目痕あり。	A：粗砂をやや多量含む。B：良好。C：凹凸灰N4/。	
1516	鉄製品	刀子	谷部D区SK01下層(黒色土)(キカイ掘)	長17.8(屈曲部9.0) 幅2.7 厚0.7			柄部に木質残存。
1517	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01(灰白色土)	縦8.6 横0.9 厚1.1	削り。		
1518	木製品	斎串?	谷部D区SK01(灰色粘土・砂質土)	長9.4 幅0.6 厚0.4	削り。		一方の先端部炭化。
1519	木製品	箸	谷部D区SK01	縦22.1 横0.8 最大厚0.8	削り。		
1520	木製品	箸?	谷部D区SK01	縦23.8 横0.9 最大厚0.7	削り。		
1521	木製品	箸	谷部D区SK01	縦22.2 横0.9 最大厚0.6	削り。		
1522	木製品	箸	谷部D区SK01	縦21.7 横0.5 最大厚0.4	削り。		
1523	木製品	箸	谷部D区SK01	縦11.8 横0.6 最大厚0.5	削り。		
1524	木製品	斎串?	谷部D区SK01(灰白色土)	縦30.7 横2.7 厚0.4	斜方向削り。		
1525	木製品	板材	谷部D区SK01下層(青灰色砂)	縦35.0 横1.8 厚0.3	側面は斜方向に削り出す。2ヶ所に刻みを入れ切断か?		
1526	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(黒色土) (キカイ掘)	縦1.6 横6.3 厚0.4	面取り。削り。刻み。		端部に炭化。
1527	木製品	下駄 の歯	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	縦10.6 横18.2 厚2.7	削り。面取り。		
1528	木製品	題箋軸	谷部D区SK01(灰白色粘土)	縦15.3 横3.6 厚0.8	削り。面取り。		炭化している。
1529	木製品	刀子 の柄	谷部D区SK01下層(黒色土) (キカイ掘)	縦3.0 横2.8 最大厚1.8	面取り。削り。		
1530	木製品	鈴形 木製品	谷部D区SK01	縦2.2 横2.0 厚1.8	削り。		墨書。
1531	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	縦3.0 横5.1 厚0.5	面取り。中央に穿孔あり。		表面に墨書。
1532	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(黒色土) (キカイ掘)	縦10.1 横4.8 最大厚2.6	削りにより文様を表現。		
1533	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(青灰色土)	縦12.7 横8.7 厚0.4	端部は斜めに削り出し。		
1534	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層 (黒色土・青灰色砂)	縦22.5 横3.1 厚2.7	削り。		
1535	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(底より1m上)	縦17.0 横3.9 厚2.2	削り。		
1536	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(青灰色土)	縦12.4 横6.4 厚4.7	削り。工具痕あり。		
1537	木製品	用途 不明品	谷部D区SK01下層(青灰色粘質土)	縦8.3 横7.5 厚4.1	段の作出。		
1538	鉄製品	不明	谷部D区SK01下層(底より1m上)	長6.3 幅3.0 厚1.2 重量33.0			
1539	須恵器	壺	谷部E-3区1層	縦5.9 横2.7	削り。把手部に穿孔。	A：粗砂を多量含む、黒色粒を少量含む。B：良好。C：灰N5/～暗灰N3/。	把手。
1540	土師器	小皿	谷部E区1層(キカイ掘)	①8.6 ②0.85～1.4 ③6.35	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を多く含む、微細な金雲母を微量含む、1㎜程の赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙7.5YR8/4。	板状圧痕。
1541	土師器	小皿 (灯明)	谷部E区1層	①(10.6) ②0.9 ③(7.6)	付着物・摩滅のため調整不明。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい黄橙10YR7/2。	内面に煤付着。板状圧痕。
1542	土師器	小皿	谷部E・F間ベルト1・2・3層	②1.45+α ③5.1	底部外面糸切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、雲母片を多量に含む。B：やや良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。	
1543	土師器	丸底杯	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①15.4 ②3.4	摩滅のため調整不明。	A：2㎜以下の白色砂粒ならびに1㎜以下の赤褐色粒をやや多く含む、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：外橙5YR7/6～にぶい橙7.5YR6/3、内橙5YR7/6。	
1544	土師器	丸底杯	谷部E・F間ベルト5層	①15.1 ②2.35～2.9 ③11.45	摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR8/3～暗灰N3/。	底部内外面に黒斑がみられる。
1545	土師器	鉢	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②2.5+α ③18.5	摩滅のため調整不明。	A：粗砂・礫を多量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR7/6。	
1546	土師器	鉢	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①(21.2) ②7.6 ③(16.0)	体部上位内面・体部下位外面指頭圧痕、後内外面ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR6/4～橙2.5YR6/8、内にぶい黄橙10YR6/4。	
1547	土師器	不明	谷部E-1区1層	③4.7+α ④(26.4)	底部内面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：粗砂・礫を多量、茶色粒をやや多量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR8/4。	
1548	土師器	支脚	谷部E-1区1層上層(キカイ掘)	②9.9+α ③10.2	外面指ナデ、指頭圧痕。底面ナデ。	A：粗砂・礫を多量、茶色粒をやや多量含む。B：良好。C：にぶい橙7.5YR6/4。	穿孔。

表 58　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表58

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1549	土師器	器台	谷部E区1層(キカイ掘)	②4.5+α　③(20.7)	摩滅のため調整不明。中央に穿孔あり。	A：微細～0.5㎜程の白色砂粒を多量、1～2㎜の赤褐色粒をやや多量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外橙7.5YR7/6～浅黄2.5Y7/3。	
1550	土師器	不明	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②4.0+α　③(11.6)	摩滅のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。B：やや不良。C：内外灰白10YR8/1～橙5YR6/6。	
1551	土師器	壺	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②5.6　③6.8	体部上位内面シボリ、下位～底部指頭圧痕・ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：細砂をやや多量含む。B：やや良好。C：外灰白2.5Y8/1、内黒N2/。	
1552	土師器	甕	谷部E-3区1層	②10.1+α	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、体部上位内面ヨコ方向ハケメ、下位ナデ。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：外浅黄橙7.5YR8/4～灰褐7.5YR5/2、内浅黄橙10YR8/3～にぶい黄褐10YR5/3。	
1553	黒色土器B類	椀	谷部E-1区1層下層(キカイ掘)	①(16.0)　②5.6　④7.4 高台高1.2	体部外面指頭圧痕。口縁部・高台回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜の白色砂粒をやや多量、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y4/1～黄灰2.5Y6/1、内黄灰2.5Y4/1。	
1554	瓦器	椀	谷部E・F間ベルト5層	①(15.0)　②4.3～5.65 ④6.8	体部外面下位指頭圧痕、後ヘラミガキ。高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後ヘラミガキ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外灰白2.5Y8/1～灰N5/。	
1555	瓦器	椀	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①(16.0)　②5.2　④(7.0)	摩滅のため調整不明。	A：細砂をやや多量含む。B：やや不良。C：内外灰N6/～暗灰N3/。	
1556	瓦器	椀	谷部E・F間ベルト5層	①16.3　②5.2～5.3 ④7.35	体部外面下位指頭圧痕。高台貼付の回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～4㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：内外灰N4/～にぶい黄橙10YR7/3。	板状圧痕。
1557	瓦器	椀	谷部E区1層(キカイ掘)	①(16.0)　②4.5　④6.6	底部外面不定方向ナデ。口縁部・高台回転ナデ。他はヘラミガキ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N6/～灰白7.5Y7/1～灰白5Y7/1、内灰5Y6/1～灰N5/。	
1558	瓦器	椀	谷部E・F間ベルト5層	①(16.4)　②5.5　④6.6	体部外面下位指頭圧痕、後ヘラミガキ。高台～底部外面回転ナデ。他は回転ナデ後ヘラミガキ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/～灰白5Y7/1。	底部外面・畳付に板状圧痕。
1559	白磁	椀	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①(16.4)　②4.2+α	内外面回転ナデ。残存部全面施釉。玉縁口縁。	A：灰白色10Y7/1を呈し微細な茶色粒を多量含む。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0。	口縁部外面釉たれ。光沢のある半透明釉。釉膜は薄い。
1560	白磁	椀	谷部E区南側斜面上1層	①(15.4)　②4.1+α	残存部分前面施釉。玉縁口縁。	A：灰白N8/。精良。B：良好。C：灰白2.5GY8/1。	太宰府分類白磁椀Ⅳ類。透明釉。
1561	白磁	椀	谷部E-3区1層(キカイ掘) 谷部E区1層(キカイ掘)	①16.4　②7.5　④6.5	体部下位外面ヘラケズリ。高台削り出し。他は回転ナデ。内面～高台外面施釉。	A：微細な黒色粒を多量含む、粗砂をやや多量含む。B：やや良好。C：サロー5Y7.5/2.0。	光沢のある半透明釉。気泡が多量入り、釉膜は均等ではない。
1562	白磁	椀	谷部E-1区1層	②1.9+α　④7.0	高台削り出し。底部外面回転ナデ。見込み・体部下位外面施釉。	A：浅黄橙色を呈し0.5～1.0㎜の黒褐色粒を多量含む。B：良好。C：鳥の子5Y9.0/2.0。	やわらかな半透明釉。釉膜は薄い。細かい貫入あり。
1563	白磁	椀	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②3.25+α　④(7.2)	高台削り出し。底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。内面～体部下位外面施釉。	A：灰白色10YR8/1を呈し微細な黒色粒を多量含む。B：良好。C：ミストグリーン3GY7.5/2.0の半透明釉。	光沢あり、気泡を多量含む、釉膜は薄い。
1564	白磁	椀	谷部E-1区1層上層(キカイ掘)	②4.1+α　④5.4	体部下位外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。見込み回転ナデ。内面・体部外面施釉。	A：灰白色N8/を呈し細砂及び褐色粒を少量含む。B：良好。C：オイスター5Y7.5/1.0の半透明釉。	見込みに砂粒が付着。 釉タレが見られる。 光沢あり、釉膜は薄い。
1565	白磁	小椀	谷部E区1層	②2.3+α	内外面回転ナデ。残存部全面施釉。	A：微細な黒色粒を少量含む、硬質。B：良好。C：オイスター5Y7.5/1.0。	硬質で光沢のある透明釉。
1566	白磁	椀	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②3.6+α	内外面回転ナデ。残存部全面施釉。	A：灰白色5Y8/1を呈し微細な茶色粒を多量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.5。	やわらかな光沢のある半透明釉。細かい貫入と気泡が入る。
1567	白磁	椀	谷部E-1区1層	②5.0+α	内外面回転ナデ。残存部全面施釉。	A：灰白色10YR8/2を呈し、微細な黒褐色粒を多量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0。	光沢のある半透明釉。釉膜は薄い。細かい貫入が入る。
1568	白磁	紅皿	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①(4.1)　②1.3　④1.3	型押し成形。残存部全面施釉。	A：灰白色5Y8/1を呈し微細な褐色粒を少量含む。B：良好。C：サロー5Y7.5/2.0。	光沢のある半透明釉。釉膜は薄い。
1569	陶器	水注	谷部E-3区1層	縦6.6　横1.6　厚0.6	ナデ。	A：灰色5Y5/1を呈し細砂を少量含む。B：良好。C：にぶい橙7.5YR6/4。	把手。
1570	陶器	四耳壺	谷部E区1層(キカイ掘)	①(12.4)　②8.8+α	口縁部～体部回転ナデ。耳部ナデ。口縁部内面～体部外面に施釉。	A：灰白N7/。微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C：暗オリーブ5Y4/4。釉たまりオリーブ黒7.5Y3/1。	太宰府分類耳壺Ⅴ類。
1571	陶器	壺	谷部E区南側斜面上1層	②7.8+α 頸部径7.6	口縁部～体部回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外にぶい赤褐5YR5/3～褐灰5YR4/1、内褐灰5YR5/1。	1573と同一個体。
1572	陶器	壺	谷部E-3区1層(キカイ掘)	②7.0+α	口縁部内外面・肩部外面回転ナデ。頸部外面１条沈線。肩部内面ナデ。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：内外褐灰7.5YR4/1。	
1573	陶器	壺	谷部E区南側斜面上1層	②5.0+α　③(7.2)	回転ナデ。底部外面目跡か?	A：1㎜程の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰赤2.5YR5/2～褐灰7.5YR5/1、内灰赤2.5YR5/2。	1571と同一個体。
1574	陶器	皿	谷部E区南側斜面上平坦面水道および近世近代遺構内	①(15.2)　②1.6 ③(13.6)	残存部全面施釉。	A：にぶい黄橙10YR7/2。硬質。微細な黒色粒を微量含む。B：良好。C：暗褐10YR3/4・灰白10YR8/2。	光沢のある不透明釉。

表 59　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表59

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1575	瓦	瓦玉	谷部E-3区1層(キカイ掘)	縦2.9 横2.6 厚2.2	削り。穿孔。	A：粗砂を多量含む。B：不良。C：灰白2.5Y8/1～灰N6/。	
1576	土製品	棒状土製品	谷部E・F間ベルト4層	長10.0+α 幅2.75 高2.6	ナデ。厚約1.5cm幅約6cmの粘土板を短軸側に巻き、成形。	A：微細～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：浅黄橙10YR8/3。	
1577	土製品	棒状土製品	谷部E-3区3・5層(3層混)	長20.6 幅3.5 厚3.1	ナデ。	A：微細～7mm程の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：浅黄橙10YR8/3。	
1578	土製品	不明	谷部E-1区1層	縦7.9 横9.7 厚6.8	煤付着のため調整不明。	A：粗砂を多量含む。B：良好。C：灰白10YR8/2～褐7.5YR4/3。	外面に煤付着。
1579	土製品	不明	谷部E-1区1層	長(11.7) 幅11.0	調整不明。	A：粗砂・礫を多量含む。B：良好。C：橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/2。	
1580	土師器	不明(把手か脚部)	谷部E区1層(キカイ掘)	②2.0+α 長5.6+α 厚1.4	ナデ。	A：微細～1mmの白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：黄灰2.5Y4/1。	
1581	土製品	手づくね土器	谷部E-3区1層(キカイ掘)	①(3.2) ②2.05+α	内外面ナデ。内面指頭圧痕。	A：細砂を少量含む。B：良好。C：内外にぶい橙7.5YR7/3～黒7.5YR2/1。	
1582	石製品	石鍋	谷部E-1区1層	縦9.5 横16.4	削り。		滑石製。縦耳。
1583	石製品	石鍋(転用品)	谷部E区1層(キカイ掘)	②7.9+α	削り。		滑石製。
1584	石製品	鍋	谷部E-3区1層	②5.75+α ③(14.3)	内外面削り。底部外面摩滅のため調整不明。		滑石製。縦耳。底部外面に煤付着。
1585	石製品	権	谷部E-1区1層	縦5.2 横5.0 厚2.0 重量60.9	削り。紐部に穿孔。		線刻文字「大」。
1586	石製品	権	谷部E区1層(キカイ掘)	長6.2 幅3.3 厚2.0	削り。		滑石製。
1587	石製品	不明	谷部E-1区1層	直径8.0 厚2.0 重量222.6	削り。中央部に穿孔。		滑石製。
1588	石製品	臼	谷部E-1区1層上層(キカイ掘)	長7.5 幅5.2 高2.0	削り。		滑石製。
1589	石器	石鏃	谷部E-1区1層	縦(2.4) 横1.7 厚0.3 重量1.1	全体に細部調整。「Ｖ」字状の抉り。逆刺がやや外反する。		
1590	鉄製品	唐鋤	谷部E-3区1層(キカイ掘) 灰原3 1層(キカイ掘)	長18.9 幅15.7 厚3.2 重量601.5			
1591	鉄製品	釘状?鉄製品	谷部E-3区1層(キカイ掘)	残存長5.8 残存幅1.45 厚1.35 重量8.9			
1592	鉄製品	釘	谷部E-3区1層(キカイ掘)	残存長4.1 幅1.0 厚0.6 重量2.8			
1593	鉄製品	釘	谷部E-3区1層(キカイ掘)	残存長6.7 残存幅1.0 厚0.7 重量5.1			
1594	鉄製品	釘	谷部E-3区1層(キカイ掘)	長3.7 幅1.3 厚1.2 重量6.7			
1595	鉄製品	茎部	谷部E-3区1層(キカイ掘)	残存長2.65 残存幅0.7 厚0.35 重量1.4			
1596	鉄製品	楔状鉄製品	谷部E区1層(キカイ掘)	長4.7 幅2.2 厚2.0 重量18.2			
1597	鉄滓		谷部E区1層(キカイ掘)	長8.3 幅10.05 厚4.5 重量381.8			
1598	鉄滓		谷部E区南側斜面1層	長5.7 幅6.6 厚2.8 重量62.9			
1599	鉄滓		谷部E区南側斜面1層	長3.7 幅4.15 厚1.9 重量31.0			
1600	鉄滓		谷部E-3区1層(キカイ掘)	長3.0 幅2.35 厚1.7 重量9.8			
1601	鉄滓		谷部E-3区1層(キカイ掘)	長2.4 幅2.75 厚0.7 重量9.9			
1602	須恵器	すり鉢	谷部EF間ベルト9層	②1.45+α ③(11.6)	底面格子タタキ。底部外面側縁ヘラケズリ、内面ハケメ。	A：微細～1mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/、断面灰N5/。	
1603	土師器	小皿	谷部E-1区2層(キカイ掘)	①9.7 ②1.8 ③7.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：3mm以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1～2.5Y7/1。	板状圧痕。
1604	土師器	小皿	谷部E-1区2層(キカイ掘)	①10.5 ②1.2～1.6 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3mmの白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を微量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1605	土師器	小皿	谷部E-1区2層	①10.8 ②1.1	底部外面不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面沈線状に面取り。	A：微細～2mmの白色砂粒を少量、微細な雲母をやや多量含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3～灰N4/、内灰黄2.5Y7/2～灰7.5Y5/1。	板状圧痕。
1606	土師器	高台付小皿	谷部E-1区2層	①11.4 ②2.2 ④6.6	底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2mm程の白色砂粒をやや多量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	板状圧痕。
1607	土師器	高台付小皿(穿孔)	谷部E-1区2層(キカイ掘)	①(11.1) ②2.2 ④6.1	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。底部中央穿孔。	A：微細～3mm程の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y8/1～灰白5Y7/1。	

表 60　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表60

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1608	土師器	椀	谷部E-1区2層(キカイ掘)	①(15.6) ②5.1 ④7.8	体部外面指頭圧痕、後回転ナデ後ナデ。体部～底部内面手持ちヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y7/2。	
1609	土師器	椀	谷部E-1区2層	①16.5 ②6.3 ④9.4	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ口縁・体部内面コテ当て。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～灰白10YR8/2、内浅黄橙10YR8/3～にぶい橙5YR6/3～灰N5/。	板状圧痕。
1610	土師器	脚付椀?	谷部E-1区2層(キカイ掘)	②4.1+α ④11.6	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。高台～底部外面回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒をやや多量、微細な雲母、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/4～褐灰10YR4/1～灰黄2.5Y7/2、内褐灰10YR4/1～灰黄2.5Y6/2。	
1611	土師器	鉢	谷部E-1区2層(キカイ掘)	①(23.9) ②10.6+α	口縁部回転ナデ。体部外面手持ちのヘラミガキ、内面ナデ。	A：微細～4㎜の白色砂粒を多量、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1～灰黄2.5Y7/2。	
1612	白磁	椀	谷部E-1区2層(キカイ掘) 谷部F区1層(キカイ掘) 谷部D-3区1・5層	①(13.0) ②5.8 ④5.7	高台削り出し。内面～体部外面施釉。	A：灰白7.5Y8/1。精良。B：良好。C：灰白5Y8/2。	
1613	白磁	椀	谷部E-1区2層	①(15.0) ②5.1 ④6.4	体部外面回転ヘラケズリ。高台削り出し。内面～体部下位外面に施釉。	A：灰白5Y7/1。微細な黒色砂粒を少量含む。B：良好。C：灰白7.5Y7/1、釉たまり灰オリーブ5Y6/2。	
1614	瓦	平瓦	谷部E-1区2層	長15.5+α 幅11.4+α 厚1.7	凹面は布目痕、凸面は縄目タタキ。側縁はヘラ切り。	A：微細～0.5㎜程の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：凹凸灰7.5Y6/1。	
1615	土製品	棒状土製品	谷部E-1区2層(キカイ掘)	長17.5+α 幅5.9+α 厚5.7	ナデ。	A：1～6㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：灰白2.5Y8/2。	
1616	石製品	砥石	谷部E-1区2層	長4.8+α 幅5.4+α 厚1.1			砂岩製。4面使用。
1617	鉄滓	流動滓	谷部E-1区2層	残存長2.85 残存幅2.75 厚1.15 重量7.3			炭化物付着。
1618	鉄滓		谷部E-1区2層(キカイ掘)	長2.35 幅3.0 厚1.1 重量6.0			
1619	須恵器	杯蓋	谷部E-3区3層	①14.9 ②1.6 つまみ径2.85	外面2/3・内面1/3回転ナデ。内面2/3不定方向ナデ。外面に粘土巻き上げ痕。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N4/、つまみ灰白N8/。	つまみは灰白色を呈し、鉄分の少ない粘土を使用。
1620	須恵器	杯蓋	谷部E-3区3層	①15.1 ②1.85 つまみ径2.35	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N6/、降灰部分灰7.5Y5/1。	内外面重ね焼きの痕跡。
1621	須恵器	杯身	谷部E-3区3層	①11.1 ②3.4～3.6 ④7.2	底部外面ヘラ切り後板状工具によるナデ?内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、黒色粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	
1622	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト16層	①(11.8) ②3.7 ④7.6	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外底部灰N6/、外灰N6/～灰N4/、内灰N6/。	
1623	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト16層	①13.2 ②4.0 ④9.7	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N4/、内灰N6/。	焼き歪む。
1624	須恵器	杯身	谷部E-3区3層	①14.1 ②3.85 ④9.3	底部外面一定方向ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N5/、一部灰赤2.5YR5/2。	
1625	須恵器	杯身	谷部E-3区3層	①14.6 ②4.1～4.3 ④9.7	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒、黒色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰N5/。	
1626	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト15層	①14.1 ②4.1 ④9.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2～3.5㎜の白色砂粒を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y7/1、内灰白10YR8/1。	
1627	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト16層	①12.15 ②3.6 ④8.5	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1、口縁部一部灰7.5Y5/1。	底面外部に墨書。
1628	須恵器	杯身	谷部E-3区3層	①12.0 ②3.7～3.85 ④7.8	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y7/1。	内外面に煤付着。
1629	須恵器	皿	谷部E・F間ベルト15層	①(9.9) ②1.8 ③(8.2)	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	
1630	須恵器	皿	谷部E-3区3層	①12.1 ②1.6～1.9 ③10.15	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の黒色粒を多量に、0.5～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰N5/～暗灰N3/(降灰)。	内面から体部外面にかけて降灰。
1631	須恵器	皿	谷部E-3区3層	①15.3 ②1.8～2.3 ③12.2	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、微細な黒色粒を多量に含む。B：やや良好。C：内外灰N6/～灰白5Y7/1。	

表 61　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表61

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1632	須恵器	皿	谷部E・F間ベルト16層	①(18.1) ②2.75 ③(14.8)	底部外面ヘラ切り後不定方向ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2～3mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1、口縁端部のみ一部灰5Y5/1。	板状圧痕。
1633	須恵器	高台付皿	谷部E・F間ベルト15層 谷部F-1区3層(灰色砂質土)	①24.6 ②3.7～4.1 ④(19.0)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1.5mmの白色砂粒を多量含む。微細な赤褐色粒を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2～灰白5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1～にぶい黄橙10YR7/3。	皿部の高台貼付部分に4条の沈線状の圧痕。
1634	須恵器	高杯	谷部E-3区3層	①(10.9) ②14.9 脚裾部径(11.5)	杯部底部外面回転ヘラケズリ。体部～底部内面不定方向ナデ。脚部上位カキメ。他は回転ナデ。脚部中位2条沈線。	A：微細～4mm程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：内外暗灰N3/～灰白5Y7/2。	全体に降灰。 脚部内面にヘラ記号。
1635	須恵器	高杯	谷部E・F間ベルト16層	①20.6 ②8.6+α	杯部底部外面1/2回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部内外面に絞り痕。	A：微細～3mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1～灰N6/。	杯部の歪みが大きい。
1636	須恵器	高杯	谷部E-3区3層 谷部E-2区1層	②12.5+α 脚裾部径13.8	杯部底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1mm程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰白N7/、灰N5/(降灰)。	脚部外面に降灰。
1637	須恵器	短頸壺蓋	谷部E-3区3層 谷部E-3区4層下層 谷部E・F間ベルト15層	①13.85 ②3.65 つまみ径2.55	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2mm程の白色砂粒、やや多量に含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内にぶい橙5YR7/3、口縁部外一部にぶい赤褐2.5YR4/3。	
1638	須恵器	短頸壺蓋	谷部E・F間ベルト15層 谷部E・F間ベルト13層	①15.0 ②4.4 つまみ径2.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰N7/。	回転方向右。
1639	須恵器	短頸壺	谷部E-3区3層	①(12.9) ②11.8+α 胴部径(26.1)	口縁部～体部回転ナデ。	A：微細～3mm程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰白5Y7/2～暗灰N3/(降灰)。	
1640	須恵器	壺	谷部E・F間ベルト12層 谷部E・F間ベルト16層 谷部E-3区3層 谷部F区1層(キカイ掘) 谷部F-1区3層下層 谷部F-2区3層 谷部F-3区3層 谷部F-1区3層(灰色砂質土) 谷部F-2区3層下層 谷部F区東側4層下層	①(11.2) ②24.55+α ③13.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。体部円盤閉塞後、口縁接合。他は回転ナデ。体部外面2ヶ所に1条沈線。	A：微細～2mmの白色砂粒を含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N5/。	
1641	須恵器	水瓶	谷部E-3区3層	①4.3 ②7.0+α	口縁部回転ナデ。	A：微細～2mm程の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N6/～暗灰N3/。	
1642	須恵器	甕	谷部E・F間ベルト16層 谷部F区東側ベルト側3層上層	①(22.0) ②7.7+α	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁回転ナデ。	A：1～2mm程の白色砂粒を含む。B：良好。C：内外青灰5PB6/1～暗灰N3/。	頸部内外面にヘラ記号。
1643	瓦	平瓦	谷部E・F間ベルト16層	長11.8+α 幅13.4+α 厚1.65	凹面糸切り痕、凸面平行タタキ。側縁ヘラ切り。	A：3mm程の石英、長石、雲母やや多量含む。B：やや良好。C：凹凸浅黄橙10YR8/3。	
1644	瓦	平瓦	谷部E・F間ベルト16層 谷部E・F間ベルト15層	長15.8+α 幅12.5+α 厚1.8	凹面は布目痕、凸面縄目タタキ。側縁ヘラ切り。	A：3mm程の石英、長石、雲母やや多量含む。B：やや良好。C：凹凸灰白2.5Y8/1～灰7.5Y6/1。	
1645	土製品	土鈴	谷部E・F間ベルト15層	②3.7+α 孔径0.5	ナデ。紐部に穿孔。	A：白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR4/1～浅黄橙10YR5/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	
1646	土製品	棒状土製品	谷部E-3区3層下層	長14.4+α 幅4.4 厚3.8	ナデ。厚さ1.2ｃｍほどの粘土板を短軸側に巻き、方形に成形。	A：微細～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4。	
1647	土製品	羽口	谷部E-3区3層	長9.5+α 最大径7.3 送風口径4.75	指頭圧痕を残すナデ。	A：微細～5mm程の白色砂粒、石英を多量に含む。B：やや不良。C：表灰N6/、胎土外灰白N8/、胎土中央部にぶい橙7.5YR7/4。	
1648	石製品	砥石	谷部E・F間ベルト15層	長6.9　幅5.3 最大厚3.3 重量108.1			3面使用。
1649	石製品	砥石	谷部E・F間ベルト16層	長13.0 最大幅10.8 最大厚1.8　重量384.0			2面使用。
1650	須恵器	杯蓋	谷部E・F間ベルト18層	①12.45 ②1.65 つまみ径2.2	外面1/2ヘラ切り後回転ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰N4/。	内外面に重ね焼きの痕跡。 回転方向右。
1651	須恵器	杯蓋	谷部E・F間ベルト19層	①13.4 ②1.8+α	外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰白5Y7/1～灰白5Y7/2。	焼き歪む。
1652	須恵器	杯蓋	谷部E・F間ベルト17層	①15.2 ②1.85 つまみ径2.2	外面1/3ヘラ切り後不定方向ナデ。内面3/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N6/。	
1653	須恵器	杯蓋(転用硯)	谷部E・F間ベルト18層 谷部E・F間ベルト16層	①14.4 ②2.35+α	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰N6/～暗灰N3/。	内面に墨痕。 回転方向右。
1654	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト19層	①11.0 ②3.7 受部径13.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2～3mm程の石英やや多量含む。B：やや良好。C：内外灰白7.5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。
1655	須恵器	杯身	谷部E-3区4層下・最下層	①11.0 ②3.8 受部径13.2	外面2/3を回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1mmの白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外オリーブ灰2.5GY6/1。	底部外面にヘラ記号。

表 62　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表62

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1656	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト17層 谷部E・F間ベルト15層	①13.6 ②3.6～3.7 ④8.8	底部外面ヘラ切り後一定方向ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	底部外面に墨書。
1657	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト21層	①15.0 ②4.2～4.3 ④10.05	底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰白N7/～灰N5/。	板状圧痕。
1658	須恵器	杯	谷部E-2区4層最下層	①(14.1) ②3.4 ③10.4	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、外面は降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/～灰白N7/、内暗灰N3/～灰N6/。	外面から口縁内面に降灰。
1659	須恵器	皿	谷部E-3区4層下層	①13.0 ②1.7 ③9.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N5/～灰N4/。	
1660	須恵器	鉢	谷部E・F間ベルト15層 谷部E・F間ベルト19層 谷部E-3区3層 谷部E・F間ベルト17層 谷部・F区東側ベルト側3層 谷部・F区東側ベルト側3層上層 谷部F-1区3層下層 谷部F-1区3層(灰色砂質土) 谷部E・F間ベルト19層	①21.55 ②20.6 ③14.3	体部下位～底部回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。体部内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。4㎜程の礫を含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/、内灰N7/。	
1661	須恵器	短頸壺蓋	谷部E-1区4層下層	①8.75 ②3.35	外面2/3回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後回転ヘラミガキ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を多量、微細～1㎜の黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。	外面にヘラ記号。
1662	須恵器	短頸壺	谷部E-1区4層最下層 谷部E-3区2or4上層 谷部E-3区3層 谷部E-2区3層下層 谷部F-3区3層上層	①(11.4) ②14.9 ④(11.2)	体部中位～底部外面回転ヘラケズリ。体部下位～底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒をやや多量、0.5～1㎜の茶色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	
1663	須恵器	短頸壺	谷部E・F間ベルト19層 谷部E・F間ベルト15層 谷部E・F間ベルト16層 谷部F-1区3層下層 谷部F-2区北側斜面下3層下層?(黄灰色土) 谷部F-2区3層(灰色砂質土)	①12.8 ②4.4+α	口縁部～体部回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒、茶褐色粒と黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰白2.5Y8/2～黄白2.5Y6/1、内灰白2.5Y8/1～灰白2.5Y8/2。	
1664	須恵器	四耳壺	谷部E・F間ベルト17層 谷部E・F間ベルト15層 谷部E・F間ベルト16層 谷部F-2区2層 谷部F区東側ベルト側3層 谷部F-1区3層下層 谷部F-3区3層 谷部F-1区3層(灰色砂質土) 谷部F-2区3層(灰色砂質土) 谷部F-1区2層 谷部F区1層(キカイ掘)	②24.1+α ③14.5	体部回転ナデ後外面全面回転ヘラケズリ。耳部3ヶ所残存しており、位置が段違いになっている。	A：0.5～1.5㎜程の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N5/。	
1665	須恵器	甕 注口	谷部E-2区4層最下層	②3.5+α	外面ケズリ。接合面に体部カキメ・刺突文の圧痕。	A：微細な白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	
1666	須恵器	平瓶	谷部E・F間ベルト17層 谷部E・F間ベルト15層 谷部F-1区3層(灰色砂質土)	②16.3+α ④11.2	体部外面回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。絞り切り閉塞後ヨコナデによる口縁部接合。把手貼付のナデ。頸部外面斜方向のナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N7/～灰N6/。	体部外面にヘラ記号。
1667	須恵器	甕	谷部B-2区0層 谷部B-2区2-1層 谷部B-2区4層 谷部B-1区0層 谷部B-1区5層 谷部B-2区5層灰層	①(17.8) ②28.9+α	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具。口縁回転ナデ成形。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	
1668	須恵器	甑	谷部E-1区4層下層にのる層	②9.75+α	体部中位～底部外面平行タタキ後ナデ。体部下位～底部内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。底部に穿孔。	A：微細～1㎜の白色砂粒を多量、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/～暗灰N3/。	
1669	須恵器	不明	谷部E-1区4層下層	②4.1 受部径5.8 裾部径(8.2)	上面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、黒色粒を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	
1670	土師器	蓋?	谷部E-3区4層下層	①(18.0) ②3.2 つまみ径(10.4)	環状つまみがつく。回転ナデ。	A：微細な白色砂粒をやや多量、微細～1㎜程の茶褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/3～黒褐10YR3/1。	
1671	土師器	鉢	谷部E-1区4層下層	①(25.4) ②5.8+α	ヨコナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を多量、0.5～1㎜の茶色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内にぶい黄橙10YR7/3。	外面に煤付着。
1672	土師器	甕	谷部E-1区4層下層	①(34.4) ②15.95+α	体部内面はヘラケズリ?他は摩滅のため調整不明。	A：0.5～4㎜の白色砂粒を多量、0.5～1㎜の茶色粒を少量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR4/2～一部に橙7.5YR6/8、内浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR5/2。	外面に煤付着。
1673	土製品	土鈴	谷部E-1区4層下層	②3.4+α	ナデ。紐部に穿孔。	A：微細な白色砂粒を少量、雲母を微量含む。B：良好。C：内外にぶい黄橙10YR7/2。	

表 63　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表63

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1674	瓦	平瓦	谷部E-3区4層下層	長11.0+α　幅3.7+α 厚1.7	凹面は布目痕、凸面は平行タタキ。	A：微細～3mm程の白色砂粒をやや多量含む。 B：良好。C：凹凸黒褐7.5Y3/1。	
1675	土製品	紡錘車	谷部E・F間ベルト19層	長6.7 厚1.05 孔径1.0 重量52.3	ナデ。中央に穿孔。	A：微細な白色砂粒、雲母をやや多量含む。 B：良好。C：表浅黄2.5Y7/3、裏にぶい黄2.5Y6/3。	
1676	石製品	合子?	谷部E-1区4層(2層混)	①3.9 ②3.2+α	削り。口縁の作りから蓋があると思われる。脚3つあり。		滑石製。形は三角形に近い。
1677	木製品	板状製品	谷部E区（F区ベルト側）4層（下層）最下層	長24.8　幅3.7～4.5 厚1.0～1.75	削り。2ヶ所に穿孔。		
1678	木製品	用途不明品	谷部E・F間ベルト17層	縦22.0 横19.5 厚0.7	穿孔が1ヶ所あり。		
1679	木製品	用途不明品	谷部E・F間ベルト18層	縦13.2 横10.6 厚1.3	腐食のため調整不明。		表面一部に炭化。
1680	須恵器	杯蓋	谷部E-3区5層上・下層	①(11.1) ②3.7	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4mm程の白色砂粒を微量、微細～1mm程の黒色粒をやや多量に含む。B：良好。C：外緑灰10G6/1～暗青灰5B3/1～明紫灰5P7/1、内青灰5PB6/1。	天井部外面にヘラ記号。
1681	須恵器	杯蓋	谷部E-1区5層上層	①12.8 ②4.2	外面3/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～5mm程の白色砂粒を少量、1mm程の黒色粒を微量含む。B：良好。C：外明オリーブ灰5GY7/1～暗赤灰5R4/1～灰赤10R4/2、内灰7.5Y6/1、断面芯にぶい橙5YR6/4。	天井部外面にヘラ記号。天井部火襷。回転方向右。
1682	須恵器	杯蓋	谷部E-3区5層	①7.1 ②3.0 受部径9.4 つまみ径2.3	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4mm程の白色砂粒、微細～2mm程の黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1。	外面ヘラ記号。 回転方向右。
1683	須恵器	杯身	谷部E-1区5層上層 谷部E-3区5層	①10.6 ②3.3 受部径12.5	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外暗青灰5PB4/1～灰5Y6/1、内青灰5PB5/1。	外面降灰。 底部外面にヘラ記号。
1684	須恵器	杯身	谷部E-3区5層	①10.1 ②3.7 受部径12.2	外面降灰のため調整不明。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3mm程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～暗灰5PB3/1、内暗青灰5PB3/1。	外面降灰。 杯蓋口縁部が釉着。
1685	須恵器	杯身	谷部E-1区5層上層 谷部E-2区5層	①10.6 ②4.4 受部径12.6	外面降灰のため調整不明。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～5mm程の白色砂粒を少量、微細～1mm程の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1～灰白N8/～にぶい黄橙10YR7/3～暗紫灰5P3/1、内紫灰5P5/1。	外面全体に降灰。 底部外面にヘラ記号。
1686	須恵器	杯身	谷部E-3区5層上・下層	①10.8 ②3.3 受部径12.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3mm程の白色砂粒を多量、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N6/。	外面に降灰。
1687	須恵器	杯身	谷部E・F間ベルト20層	①(11.2) ②3.9 受部径(13.0)	外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：2～3mm程の石英、長石をやや多量含む。 B：やや良好。C：内外灰白5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。
1688	須恵器	杯身	谷部E-2区5層	①10.8 ②4.2 受部径13.0	外面3/5回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1mmの白色砂粒を少量、微細～1mmの黒色粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰白2.5Y8/1～にぶい黄橙10YR7/4、内灰白2.5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。
1689	須恵器	杯身	谷部E-1区5層上層 谷部E-3区5層下層 谷部E-3区5層上層	①10.7 ②3.8 受部径12.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4mmの白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外赤灰10R5/1～明赤灰10R7/1、内赤褐10R4/4。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1690	須恵器	杯身	谷部E-2区5層上層	①11.1 ②4.1 受部径13.6	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2mm程の白色砂粒を少量、微細な赤褐色粒を微量含む。B：やや良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR7/1、内浅黄橙10YR8/3。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1691	須恵器	高杯	谷部E-1区2層下層3層と4・5層混 谷部F区下南線側5層	①15.7 ②13.8 脚裾部径12.9	杯部底部外面回転ヘラケズリ後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。杯部外面2条沈線。	A：0.5～2mm程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1～灰5Y6/1。	
1692	須恵器	平瓶	谷部E-1区4層下層 谷部E-1区3層 谷部E-3区3層 谷部E-3区3層下層 谷部E-1区5層上層 谷部E・F間ベルト23層(20層混) 谷部F-2区5層上層	①5.3 ②14.5+α ③(10.3)	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。体部外面カキメ後連続刺突文施文後2条沈線。他は回転ナデ。	A：0.5～1mmの白色砂粒と黒色粒を少量含む。 B：良好。C：外暗灰N3/～灰白N7/～灰黄2.5Y7/2、内灰N5/～暗灰N3/。	外面に降灰。沈線間に連続刺突文。
1693	須恵器	横瓶	谷部E-1区4層下層 谷部E区清掃中 谷部E-1区4層にのる層 谷部E-2区3層下層 谷部E・F間ベルト23層(褐灰色土) 谷部E-2区4層下層 谷部E-3区3層 谷部E-1区5層上層	①12.2 ②19.15+α	外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。	
1694	須恵器	甕	谷部E-3区3層下層 谷部E・F間ベルト15層 谷部E・F間ベルト5層?20層(灰色土) 谷部E・F間ベルト20層 谷部F-2区5層最下層	①21.6 ②8.1+α	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：1～3mmの白色砂粒を含む。B：良好。C：内外暗灰N3/～灰N5/。	頸部外面3ヶ所にヘラ記号。

表 64　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表64

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1695	須恵器	大甕	谷部E-1区5層上層	①41.0 ②15.6+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。外面カキメ後2ヵ所に2条沈線施文後斜線文。	A：微細～3㎜の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を多量に含む。B：良好。C：外緑灰10G6/1、内暗緑灰10G4/1、断面青灰5BG6/1。	沈線間に斜線文。
1696	須恵器	大甕	谷部F-3区5層 谷部F区東側ベルト側3層 谷部F-2区5層上層 谷部F-3区3層 谷部E区1層(キカイ掘)	①43.15 ②19.8+α	体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。口縁回転ナデ後口縁部外面2ヵ所に2条・1条沈線、沈線間に波状文。	A：微細～2㎜の白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰10Y5/1～暗灰N3/。	口縁部焼き歪む。沈線間に波状文。
1697	須恵器	切削物	谷部E・F間ベルト23層	縦3.5 横5.4 厚1.6	外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕。ヘラ切り。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。	甕製作時の切り落とし片。
1698	瓦	平瓦	谷部E区泥上げ中	長11.7+α 幅7.9+α 厚2.6	凹面布目、外面平行タタキ。側縁ヘラ切り。	A：微細～4㎜程の白色砂粒を少量、微細な雲母、微細～2㎜程の赤褐色粒を微量含む。B：不良。C：凹凸浅黄橙7.5YR8/3～黄橙7.5YR8/8、断面灰白7.5YR8/1～明褐7.5YR7/2マーブル状。	
1699	白磁	皿 (輪花)	谷部E区泥上げ中	①10.4 ②2.1 ③3.2	型打ち成形後全面施釉。底部外面釉剥ぎ。	A：灰2.5Y8/1～黄橙10YR7/8。硬質。微細な黒色粒を微量含む。B：良好。C：明緑5G7/1。	底部外面に黒色の付着物。透明釉。
1700	須恵器	杯蓋	谷部F区1層(キカイ掘)	①(13.0) ②3.8	外面2/3回転ヘラケズリ後ナデ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を少量含む。微細な黒色粒を多量に含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。	回転方向右。
1701	須恵器	蓋	谷部F区東側1層	①(15.0) ②3.3	外面4/5回転ヘラケズリ。内面3/4摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、微細な黒色粒をやや多量に含む。B：不良。C：内外灰白5Y7/1。	回転方向右。
1702	須恵器	杯身	谷部F区1層(キカイ掘)	①(12.9) ②3.7 ④(8.3)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を微量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1。	
1703	須恵器	高杯 (脚部)	谷部F-1区1層	②5.4+α	脚部内面回転ナデ。脚部外面波状文施文。	A：微細～2㎜程の白色砂粒をやや多量、微細～2㎜程の黒色粒を少量含む。B：やや良好。C：内外明緑灰7.5GY7/1。	脚部外面波状文。透かしは3ヶ所か?
1704	須恵器	切削物	谷部F区1層(キカイ掘)	長8.1 幅2.1 厚1.5	外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。側縁ヘラ切り。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外暗紫灰5P3/1、断面赤灰5R5/1。	甕製作時の切り落とし片。
1705	土師器	小皿	谷部F-1区1層	①9.4 ②1.2 ③7.5	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒をやや多く含む、微細な金雲母を少量含む。B：良好。C：内外浅黄橙10YR8/4。	板状圧痕。
1706	土師器	小皿 (穿孔)	谷部F区1層(キカイ掘)	①9.15 ②1.25	摩滅のため調整不明。底部中央に焼成後穿孔。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：内外黄橙10YR8/6。	板状圧痕。
1707	土師器	小皿 (灯明)	谷部F-2区1層	①(10.8) ②1.4 ③(7.45)	摩滅のため調整不明。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。	口縁に煤付着。
1708	土師器	鍔付円筒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	①(16.4) ②6.05+α	口縁部～体部回転ナデ。	A：微細～3.5㎜程の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：外灰白10YR8/1～黄橙7.5YR7/8、内灰白10YR8/1。	口縁に黒斑。
1709	土師器	鉢か壺	谷部F区1層(キカイ掘)	②3.3+α ④(18.9)	高台回転ナデ。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量、1㎜程の赤褐色粒を微量に含む。B：不良。C：外橙5YR7/6、内灰白10YR8/2。	
1710	黒色土器B類	椀	谷部F-2区南斜面1層	①(14.55) ②6.55 ④6.2	高台貼付の回転ナデ。底部外面ナデ。他は回転ナデ後手持ちヘラミガキ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外黒10YR2/1～黒褐10YR3/1。	
1711	黒色土器B類	椀	谷部F-1区1層	①(17.3) ②6.3 ④(8.1)	高台貼付の回転ナデ。内面回転ナデ後手持ちヘラケズリ。他は摩滅のため調整不明。	A：微細～6㎜程の白色砂粒をやや多量含む。B：不良。C：内外黒10YR2/1～黒褐10YR3/1。	
1712	手捏ね土器	椀か鉢	谷部F区東側1層	②3.7+α	指頭圧痕、後ナデ。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外黒褐7.5YR3/1～褐灰7.5YR4/1、内黒7.5YR2/1。	
1713	土師器	把手	谷部F-1区1層	②2.4+α	ナデ。差込式の把手。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2。	
1714	陶器	甕	谷部F区1層(キカイ掘)	②4.4+α	口縁部回転ナデ。内面に工具痕。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外赤黒5R2/1～明赤灰2.5Y3/1。	
1715	陶器	壺 (耳付)	谷部F区1層(キカイ掘)	②2.2+α	口縁部内外面回転ナデ後施釉。耳貼付。	A：灰10Y6/1。微細な白色砂粒をやや多量含み、硬質。B：良好。C：スレートグリーン3G4.0/2.0。	光沢があまりない不透明釉。釉膜は薄い。
1716	磁器	椀 (輪花)	谷部F-2区1層	①(17.8) ②2.8+α	型打ち成形。残存部全面に施釉。口縁化粧土か?	A：灰黄褐10YR6/2。微細な黒色粒を微量含む。B：良好。C：灰白2.5YR8/2(化粧土?)～暗灰黄2.5YR4/2。	

表 65　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表65

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1717	青白磁	合子蓋	谷部F区1層(キカイ掘)	②1.7+α	内外面施釉。口唇部・内面天井部内面は露胎。外面に文様。	A：灰白N8/。B：良好。C：うす水色5BG8.5/2.0の半透明釉。	外面に文様。光沢あり。貫入が入る。
1718	瓦	丸瓦	谷部F区1層(キカイ掘)	長5.9+α　幅4.8+α 最大厚1.45	凹面布目痕、模骨痕か?凸面摩滅のため調整不明。側縁ヘラ切り。	A：微細～3mm程の白色砂粒、微細な黒色粒をやや多量に含む。B：不良。C：凹凸暗青灰5PB4/1～浅黄橙10YR8/3。	
1719	瓦	平瓦	谷部F区1層(キカイ掘)	長6.25+α　幅10.4+α 最大厚1.8	凹面布目痕、凸面工具によるナデか?側縁ヘラ切り。	A：微細～5mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：凹凸緑灰5G6/1、断面青灰5PB6/1～明青灰5PB7/1マーブル状。	
1720	瓦	平瓦	谷部F区1層(キカイ掘)	長14.0+α　幅13.9+α 最大厚1.85	凹面糸切り痕、布目痕。凸面平行タタキ。側縁ヘラ切り。	A：微細～4mm程の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：凹凸暗青灰5B3/1～青灰5B6/1。	
1721	瓦	平瓦	谷部F区1層(キカイ掘)	長12.2+α　幅7.65+α 最大厚2.9	凹面摩滅のため調整不明。凸面格子タタキ。	A：微細～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：凹にぶい橙7.5YR7/3、凸明褐灰7.5YR7/1。	
1722	土製品	棒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	長15.95+α　幅3.9 厚4.4	摩滅のため調整不明。	A：微細～5mm程の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：浅黄10YR8/4。	
1723	土製品	棒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	長7.0+α　幅2.75 厚2.7	摩滅のため調整不明。	A：微細～3mm程の白色砂粒を少量、1mm程の赤褐色粒を微量含む。B：不良。C：にぶい橙7.5YR7/4。	
1724	土製品	棒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	長7.7+α　幅2.9 厚2.8	摩滅のため調整不明。	A：微細～3mm程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：浅黄10YR8/4。	
1725	土製品	棒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	長7.3+α　幅4.9 厚5.1	摩滅のため調整不明。	A：微細～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：浅黄10YR8/4。	
1726	土製品	棒状土製品	谷部F区1層(キカイ掘)	長5.45+α　幅4.35 厚4.0	摩滅のため調整不明。	A：微細～4mm程の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：浅黄10YR8/4。	
1727	銅製品	指輪	谷部Ｆ区1層(キカイ掘)	径2.1 高0.7　厚0.15			
1728	石製品	石鍋	谷部F区1層(キカイ掘)	②3.5+α　長7.75+α 幅9.0+α	削り。		滑石製。内面に煤付着。
1729	鉄製品	釘	谷部F区1層(キカイ掘)	長4.1 幅1.0 厚0.9 重量3.0			
1730	鉄製品	釘	谷部F区1層(キカイ掘)	長3.6 幅0.8 厚0.7 重量3.1			
1731	鉄製品	釘	谷部F区1層(キカイ掘)	長5.9 幅0.8 厚1.9 重量7.2			
1732	鉄製品	不明	谷部F区1層(キカイ掘)	長4.2 幅1.3 厚1.1 重量5.4			
1733	鉄製品	不明	谷部F区1層(キカイ掘)	長4.2 幅1.0 厚0.4 重量7.6			
1734	鉄製品	刀子?	谷部F区1層(キカイ掘)	長4.1 幅7.9 最大厚1.7 重量51.1			
1735	鉄製品	板状鉄片	谷部F区1層(キカイ掘)	長2.7 幅5.9 厚2.3 重量13.3			
1736	鉄製品	不明	谷部F区1層(キカイ掘)	長4.4 幅1.5 厚0.6 重量5.8			
1737	鉄製品	不明	谷部E・F区ベルト1層(北側)	長4.35 幅2.65 厚1.95 重量26.4			
1738	鉄滓		谷部F-1区1層	長2.8 幅3.4 厚0.4 重量12.58			
1739	鉄滓		谷部F区1層(キカイ掘)	長2.9 幅2.8 厚2.3 重量26.2			
1740	鉄滓		谷部F区1層(キカイ掘)	長4.4 幅4.7 厚2.5 重量65.1			
1741	鉄滓	炉底滓	谷部F区1層(キカイ掘)	縦4.1 横3.05 厚2.8 重量30.5			底面に砂粒付着。
1742	須恵器	杯蓋	谷部F-1区北斜面2層	①(12.6) ②3.6	ヘラ切り。外面2/3・内面1/2回転ナデ。内面1/2不定方向ナデ。	A：微細～3mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。	外面降灰。回転方向右。
1743	須恵器	杯身	谷部F-1区北斜面2層?	①10.9 ②4.25 受部径12.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1mm程の黒色粒、微細～2mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外青灰5B5/1。	外面降灰。回転方向右。
1744	須恵器	台付椀	谷部F-1区北斜面2層?	①(14.6) ②8.35 ④9.6	摩滅のため調整不明。外面2ヶ所に2条沈線。	A：微細～2mm程の白色砂粒を少量含む。微細～1mm程の黒色粒をやや多量に含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	体部下位外面2ヶ所竹管文。
1745	石製品	石鏃	谷部F-1区2層	縦2.6 横1.9 厚0.4 重量1.2	全体に細部調整。		安山岩?
1746	竹製品	用途不明品	谷部F区(東南端土坑内)2層(青灰色粘土)	縦23.6 横0.6 厚0.1	先端部を斜めに切断。		
1747	焼土塊		谷部F-1区北斜面2層焼土	縦15.4 横14.6 最大厚5.3		A：礫を多量含む。B：焼きしまる。C：浅黄橙7.5YR8/4～浅黄橙10YR8/3～にぶい赤褐5YR5/4～にぶい黄橙10YR7/4～灰黄褐10YR6/2～橙5YR6/6。	
1748	焼土塊		谷部F-1区北斜面2層焼土	縦19.8 横17.9 最大厚6.7		A：白色の礫を多量含む。B：焼きしまる。C：橙2.5YR7/8～灰黄褐10YR6/2～黒褐7.5YR3/1～にぶい黄橙10YR5/4。	胎土中に土器片・炭化物を含む。
1749	鉄滓		谷部F-1区2層	長1.3 幅3.0 厚1.4 重量12.9			
1750	鉄滓		谷部F-1区2層	長3.2 幅4.3 厚1.4 重量16.3			
1751	須恵器	杯蓋	谷部F-1区北斜面3層	①(12.6) ②4.2	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～4mm程の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：内外青灰5PB5/1、断面芯赤灰5R5/1。	天井部外面にヘラ記号。
1752	須恵器	杯蓋	谷部F-1区北斜面3層	①(12.4) ②4.5	摩滅のため調整不明。	A：1mm程の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	外面に竹管文。

表 66　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表66

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1753	須恵器	杯蓋	谷部F-2区北斜面下3層?(黄灰色土)	①12.7 ②4.0	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2～明黄褐10YR6/8。	体部天井部外面にヘラ記号。
1754	須恵器	杯蓋	谷部F-2区北斜面3層	①13.3 ②4.6	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面3/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、微細～1㎜程の黒色粒、微細な雲母を多量に含む。B：不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/2。	天井部外面にヘラ記号。
1755	須恵器	杯蓋	谷部F-3区3層	①(15.8) ②2.9 つまみ径2.2	1/2外面ヘラ切り後ナデ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR7/4、内にぶい橙2.5YR6/4。	赤焼?
1756	須恵器	杯蓋	谷部F-1区3層下層	①15.2 ②2.1 つまみ径2.1	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	口縁部外面に重ね焼きの痕跡。
1757	須恵器	杯蓋	谷部F-3区3層 谷部F-2区3層下層	①16.7 ②3.25 つまみ径2.5	外面3/4を回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/～灰N6/～暗灰N3/～灰白N7/、内灰白N7/～灰N5/。	内面に降灰。
1758	須恵器	蓋	谷部F-3区3層	①(12.2) ②3.95 ③(7.8)	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜未満の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰7.5Y6/1～灰10Y6/1、内灰7.5Y6/1。	
1759	須恵器	杯身	谷部F-1区北斜面3層	①11.5 ②4.5 受部径14.1	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	底部外面にヘラ記号。
1760	須恵器	杯身	谷部F-2区北斜面3層	①(10.35) ②3.85 受部径(12.8)	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量含み、微細～1㎜程の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10Y7/1～青灰10BG5/1、内灰白10Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
1761	須恵器	杯身	谷部F-2区3層	①(9.8)②5.35 ③(6.2)	体部下位～底部外面ナデ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に3条沈線。	A：1～4㎜の白色砂粒、礫を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。	外面にヘラ記号。
1762	須恵器	杯身	谷部F-1区3層下層	①(11.8) ②3.9 ④7.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外灰N7/。	体部内面に重ね焼きの痕跡。
1763	須恵器	杯身	谷部F-2区北斜面下3層?(黄灰色土) 谷部F-1区3層下層	①(11.5) ②3.55 ④(7.0)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、微細な黒色粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外青灰10BG5/1。	
1764	須恵器	杯身	谷部F-2区3層	①13.5 ②3.7 ④8.2	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1.5㎜の白色砂粒を含む。B：良好。C：内外灰N6/～灰N5/。	口縁に煤付着。 外面降灰。
1765	須恵器	杯身	谷部F-3区3層	①13.2 ②4.2 ④9.2	底部外面ナデ。内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：1㎜以下の砂粒、白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/(縁のみ)、内灰N6/。	口縁部に重ね焼きの痕跡。
1766	須恵器	杯身	谷部F-1区3層(灰色砂質土)	①(12.8) ②3.35 ④9.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1～灰N6/、内青灰5B6/1。	板状圧痕。
1767	須恵器	杯身	谷部F-2区3層	①14.3 ②3.6 ④9.0	底部中央外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1.5㎜の白色砂粒を含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～灰N6/、内青灰5PB6/1。	口縁部～体部外面に降灰。
1768	須恵器	杯身	谷部F-3区3層	①17.1 ②5.7 ④12.0	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の砂粒を微量含む。B：良好。C：内外灰N5/。	
1769	須恵器	杯	谷部F-1区3層下層	①(13.6) ②3.5 ③(10.2)	底部外面ヘラケズリ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：0.5～1㎜程の白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。	
1770	須恵器	杯	谷部F-3区3層	①(13.2) ②3.7 ③(10.5)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜未満の砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。	
1771	須恵器	皿	谷部F-2区3層 谷部F-1区3層下層	①20.0 ②3.0 ③15.9	底部外面ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ	A：微細～1㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/～灰白5Y7/1。	回転方向右。
1772	須恵器	高台付皿	谷部F-2区3層(灰色砂質土)	①(25.6) ②3.0 ④(18.2)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内青灰5B6/1。	焼き歪む。回転方向右。
1773	須恵器	脚付壺	谷部F-3区3層上層	②5.7+α ③(10.2)	体部外面下位カキメ。高台貼付の回転ナデ。内面・底部中央外面ナデ。	A：微細～1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内青灰5PB5/1。	高台に長方形透かし。6ヶ所か?
1774	須恵器	高杯蓋	谷部F-3区北側斜面3層	①13.2 ②5.65 つまみ径2.6	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰10BG5/1～青灰5BG5/1、内青灰5B6/1。	
1775	須恵器	甕	谷部F-2区3層 谷部F-2区北側斜面下3層下層?(黄灰色土) 谷部F-2区3層(灰色砂質土)	②5.6+α	体部外面下位カキメ。内面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。体部上位外面2条沈線、沈線間に連続刺突文。	A：微細～1㎜の白色砂粒をやや多量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。	沈線間に連続刺突文。
1776	須恵器	平瓶	谷部F区3層上層谷部F区3層	①(8.0) ②4.4+α	口縁部～頸部回転ナデ後外面カキメ。口縁部外面に2条沈線。	A：2㎜程の砂礫を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～灰N5/、内青灰5PB6/1。	内面に降灰。

表 67　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表67

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1777	須恵器	短頸壺	谷部F-1区3層下層	①(12.6) ②15.9+α	体部中位～下位外面回転ヘラケズリ。体部下位内面縦方向のナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量、礫を微量含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1～灰N4/、内青灰5PB5/1。	
1778	須恵器	水瓶	谷部F区3層 谷部F-2区北側斜面下3層 谷部F-2区3層下層	①4.0 ②19.8+α	体部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。頸部内外面にシボリ痕あり。	A：1mm程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内灰N6/。	外面に降灰。
1779	須恵器	甕	谷部F-1区北斜面3層 谷部F-3区北側斜面3層 谷部F区東側3層	①(15.3) ②26.1	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：0.5～1mmの白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外暗緑灰7.5GY4/1～暗灰N3/～灰白N7/～オリーブ灰5GY5/1、内灰N4/～暗灰N3/。	頸部外面にヘラ記号。
1780	須恵器	甕	谷部F-2区3層最下層	①(22.8) ②8.1+α	体部外面格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2mmの白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。	
1781	土師器	甑	谷部F-1区北斜面3層	②12.8+α	体部外面縦方向ハケメ、内面縦方向ヘラケズリ。把手は指頭圧痕、後ナデ。	A：微細な白色砂粒を多量、礫を少量含む。B：良好。C：外橙7.5YR7/6、内橙7.5YR7/6。	把手。
1782	土師器	甑	谷部F-3区土坑周辺?3層	①(15.0) ②10.5+α	口縁端部ヨコナデ。口縁部内面・口縁部～体部外面ハケメ。体部内面削り、下位ケズリ後ナデ。	A：微細～2mmの白色砂粒を多量、微細～1mmの雲母を含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y8/2～灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3、内淡黄2.5Y8/3。	外面から口縁内面に黒斑。
1783	土師器	鉢か	谷部F-3区3層	②3.4+α ③(6.0)	摩滅のため調整不明。	A：微細な砂粒微量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。	
1784	瓦	平瓦	谷部F-2区3層下層	長12.0+α 幅11.7+α 最大厚1.8	凹面布目痕、凸面縄目タタキ。	A：微細～1mmの白色砂粒を含む。B：不良。C：凹灰白5Y8/1～灰N4/、凸灰N4/。	
1785	瓦	平瓦	谷部F-1区3層灰色砂質土	長7.8+α 幅8.4+α 最大厚2.1	凹面布目痕後上位をヘラケズリ。凸面縄目タタキ。	A：微細～3mmの砂粒、白色砂粒を含む。B：良好。C：凹灰白7.5Y8/1、凸灰白N8/。	
1786	白磁	椀	谷部F-2区北斜面3層	②2.4+α	残存部全面施釉。	A：淡黄2.5Y8/3。やや粗い。B：良好。C：灰白2.5Y8/2。	透明釉。貫入あり。
1787	石製品	不明品	谷部F-3区3層	長5.75+α 幅8.3+α 厚1.6 重量120.4	削り。穿孔3ヶ所あり。1ヶ所は未貫通。		滑石製。
1788	鉄滓	炉底滓?	谷部F-1区3層下層	長1.6 幅1.2 厚1.0 重量59.9			
1789	鉄滓	炉底滓?	谷部F-2区3層下層	長5.7 幅7.2 厚4.0 重量182.1			炭化物付着。
1790	鉄滓		谷部F-1区3層下層	長4.9 幅4.5 厚1.5 重量35.8			炭化物付着。
1791	鉄滓	炉床滓?	谷部F-1区3層(灰層砂質土)	長4.0 幅5.0 厚1.3 重量32.7			
1792	鉄滓	椀形滓?	谷部F-1区3層(灰層砂質土)	長2.7 幅4.1 厚1.5 重量16.9			
1793	鉄滓		谷部F区東側ベルト側3層上層	長2.5 幅2.5 厚1.4 重量5.2			
1794	須恵器	杯身	谷部F区東側4層下層	①(12.6) ②3.5 ④8.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1mmの白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N6/。	
1795	須恵器	高台付皿	谷部F区3区3層 谷部F区東側?4層下層	①(23.55) ②4.1 ④18.5	底部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2mm程の白色砂粒を含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～灰白N7/、内灰白N7/～橙5YR6/6。	
1796	須恵器	長頸壺	谷部F区東側4層下層 谷部F区3区3層 谷部F区3区3層上層 谷部F-2区2層	②10.9+α	体部下位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒を少量含む。黒色粒と茶褐色粒を含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰N6/。	
1797	石器	スクレイパー	谷部F-3区4層最下層	長2.8 幅6.1 厚1.1 重量17.7	下縁に片面加工でやや急角度の刃部調整。裏面にも連続的な二次加工が見られる。		サヌカイト。
1798	石器	剥片	谷部F-2区4層最下層	長10.7 幅5.2 厚4.6 重量199.1	剥離面は3面。自然面が残存。		サヌカイト。
1799	須恵器	杯蓋	谷部F区南線側	①(11.9) ②3.9	外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3mmの白色砂粒をやや多量含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
1800	須恵器	杯蓋	谷部F-3区5層砂質土層	①(12.2) ②4.2	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2mmの白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白N7/、内灰N4/。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
1801	須恵器	杯蓋	谷部F-1区5層上層	①12.0 ②3.8	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な白色砂粒、礫を少量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1～褐灰7.5YR6/1、内灰N5/。	天井部外面にヘラ記号。外面に降灰。回転方向右。
1802	須恵器	杯蓋	谷部F-1区5層上層	①13.3 ②4.5	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2mmの白色砂粒、礫粒を含む。B：良好。C：外灰白5Y8/2～灰5Y5/1、内灰7.5Y6/1。	天井部外面にヘラ記号。回転方向右。
1803	須恵器	杯蓋	谷部F-1区5層上層	①14.0 ②4.4	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1.5mmの白色砂粒を少量、礫を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰10Y6/1。	回転方向右。
1804	須恵器	蓋	谷部F-2区5層最下層	②2.4+α	外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～1mmの白色砂粒を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1～灰N5/。	
1805	須恵器	杯身	谷部F-2区5層上層	①(9.5) ②3.3 受部径(11.7)	外面1/3ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2mmの砂粒をやや多量含む。B：不良。C：外灰白5Y8/1～灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1806	須恵器	杯身	谷部F-2区5層上層	①10.8 ②4.5 受部径12.9	外面1/2を回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～5mmの白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外灰N5/。	底部は焼き歪む。回転方向右。

表 68　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表68

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1807	須恵器	杯身	谷部F-1区5層上層	①(10.8) ②4.0 受部径13.0	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。	口縁端部、受部端部に使用痕か?体部外面にヘラ記号。外面降灰。回転方向右。
1808	須恵器 (赤焼)	杯身	谷部F-1区5層上層	①11.0 ②3.5～4.0 受部径13.1	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1.5㎜の白色砂粒、砂粒、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外明褐灰7.5YR7/2～灰褐5YR6/2、内にぶい赤褐2.5YR5/3。	口縁端部、受部端部に使用痕か?底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1809	須恵器	杯身	谷部F-2区5層上層	①10.3 ②3.8 受部径12.9	外面1/2を回転ヘラケズリ。内面中央回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/、内紫灰5P6/1。	口縁端部に使用痕か?
1810	須恵器	杯身	谷部F-3区5層砂質土層	①11.5 ②4.0 受部径13.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10Y7/1～灰白7.5Y8/1、内灰N6/。	底部外面ヘラ記号。回転方向左。
1811	須恵器	杯身	谷部F-1区5層上層	①11.1 ②4.2 受部径13.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒、砂粒を含む。B：良好。C：内外灰白N7/。	口縁端部、受部端部に使用痕か?回転方向右。
1812	須恵器	杯身	谷部F-3区5層砂質土層	①(11.7) ②3.95 受部径(14.2)	外面3/5手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰白N7/。	底部外面にヘラ記号。
1813	須恵器	杯身	谷部F-2区5層下層 谷部F-2区5層最下層 谷部F-3区5層 谷部F-3区5層砂質土(木の下)	①(12.1) ②4.4 受部径14.6	外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内明褐灰7.5YR7/1。	底部外面にヘラ記号。回転方向右。
1814	須恵器	杯身	谷部F-3区5層	①14.6 ②5.15 ④(9.4)	底部内外面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白10Y7/1、内灰白5Y7/1。	底部外面にヘラ記号。
1815	須恵器	杯身	谷部F区5層下層	①14.6 ②5.0 ④10.2	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の砂粒を含む。石英を含む。 B：不良。C：内外灰白2.5Y8/1。	
1816	須恵器	椀	谷部F区(下南線側)5層 谷部F-1区5層上層 谷部F-3区5層 谷部F-3区5層最下層	①(13.1) ②8.95～9.1 ③4.7	体部外面カキメ。底部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面2ヶ所に2条沈線。	A：微細～2㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外灰N4/、断面橙 2.5YR6/6。	底部外面にヘラ記号。 回転方向右。
1817	須恵器	椀	谷部F-1区5層上層 谷部F-2区	①(16.0) ②6.2+α	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部外面に4条沈線。	A：微細～1㎜の砂粒微量含む。B：良好。 C：外灰N6/、内灰N5/。	回転方向右。
1818	須恵器	高杯蓋	谷部F-2区5層上層	①(14.2) ②5.0 つまみ径2.8	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～3㎜の白色砂粒をやや多量含む。 B：不良。C：内外灰白5Y8/1。	底部外面にヘラ記号。 回転方向右。
1819	須恵器	有蓋高杯	谷部F区南線側5層	①(12.3) ②5.2+α 受部径(15.5)	杯底部外面カキメ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A：微細な砂粒を少量含む。B：良好。C：外緑灰10GY5/1、内灰N6/。	
1820	須恵器	高杯	谷部F-1区5層上層	②8.1+α ③(9.0)	杯底部内面不定方向ナデ。脚部回転ナデ。内外面にシボリ痕。	A：微細～1㎜以下の砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N5/、内灰N6/～灰N5/。	焼き歪む。
1821	須恵器	すり鉢	谷部F-3区北斜面3層 谷部F-2区5層上層 谷部F-1区5層上層	①11.8 ②8.05 ③7.95	体部下位～底部内面・底面ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を含む。B：良好。 C：外青灰5PB6/1、内紫灰5P5/1。	体部にヘラ記号。底部中央に穿孔。
1822	須恵器	短頸壺蓋	谷部F-1区5層上層	①7.5 ②3.1	外面2/3手持ちヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の砂粒を微量含む。B：良好。 C：外灰N5/、内青灰5B6/1。	外面にヘラ記号。
1823	須恵器	甕	谷部F-1区北斜面2層焼土 谷部EF間ベルト5層 谷部F-2区北側斜面下3層下層(黄灰土) 谷部F-2区3層(灰色砂質土) 谷部F-2区3層下層 谷部F区南線側?5層 谷部F-3区5層最下層	②10.3+α	体部上位外面カキメ。体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。体部外面連続刺突文施文後2ヶ所に2条・3ヶ所に1条沈線。他は回転ナデ。	A：0.5～2㎜程の白色砂粒を含む。B：良好。 C：外灰白N7/、内灰N6/。	外面に降灰。体部下位にヘラ記号。沈線間に連続刺突文。
1824	須恵器	脚付壺	谷部F区下南線側5層	②9.3+α ⑤17.0	体部下位外面回転ヘラケズリ、上位外面カキメ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線、連続刺突文。	A：0.5～2㎜の白色砂粒を多量含む。B：良好。C：外灰白N8/～灰N4/、内灰N6/。	体部外面に連続刺突文。
1825	須恵器	甕	谷部F-3区5層	②5.6+α	体部上位～中位外面回転ナデ、下位回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面調整不明。体部中位に穿孔。	A：微細～1㎜の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を多量に含む。B：良好。C：外青灰 10BG5/1、内不明。	
1826	須恵器	平瓶	谷部E-3区5層 谷部F-3区3層 谷部F区東側4層下層 谷部F-3区4層最下層 谷部F区下南線側5層 谷部F-3区5層 谷部F-1区5層上層 谷部F-2区5層上層 谷部F区5層最下層 谷部F-2区5層最下層 谷部F区東側1層	②12.3+α ③14.0	底部外面ナデ後カキメ、内面不定方向ナデ。体部下位外面回転ヘラケズリ後全面カキメ。体部上面2ヶ所にボタン状の装飾あり。他は回転ナデ。	A：0.5～3㎜の白色砂粒を少量含む。 B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N5/。	

表 69　本堂７次遺跡調査出土遺物観察表69

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1827	須恵器	甕	谷部F-1区3層 谷部F-1区北斜面3層 谷部F-2区北斜面3層 谷部F-1区4層最下層 谷部F-1区5層上層	①16.0 ②5.6+α	体部内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：微細～2㎜程の白色砂粒を含む。 B：良好。C：内外灰白N7/～暗灰N3/。	内外面に降灰。 横瓶か?
1828	須恵器	甕	谷部F-2区5層上層	①(12.8) ②14.7+α	口縁部～体部上位外面タタキ後カキメ、内面回転ナデ。体部中位外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。	A：微細な砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白N7/、内灰N6/～灰N7/。	外面～口縁内面に降灰。
1829	須恵器	甕	谷部F-1区北斜面3層 谷部F-1区3層下層 谷部F-1区5層上層 谷部F-2区5層上層	①(16.5) ②27.7	体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。	A：0.5～1.5㎜程の白色砂粒を含む。 B：良好。C：内外灰N4/。	
1830	須恵器	大甕	谷部F-3区5層 谷部F-2区3層下層 谷部F区3層	①(42.0) ②7.0+α	口縁部回転ナデ後外面に2条沈線、斜線文。口唇部にボタン状の装飾あり。	A：1㎜程の白色砂粒を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/～灰N6/。	口縁部外面に斜線文。
1831	土師器	皿	谷部F区5層最下層	①16.1 ②4.5	底部外面手持ちヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A：微細～1㎜の砂粒を少量、微細な雲母を含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	蓋の可能性あり。
1832	土師器	甕	谷部F-2区5層上層	①(15.1) ②7.9+α	口縁部回転ナデ。体部外面ナデ、内面横方向のヘラケズリ後ヨコナデ。	A：微細～1㎜の白色砂粒、赤褐色粒を含む。 B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙7.5YR7/3。	
1833	土師器	甑	谷部F-1区5層上層	②8.8+α	把手部指頭圧痕、後ナデ。体部内面は縦方向のヘラケズリ。	A：微細～2㎜の白色砂粒、礫を含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/3。	把手。
1834	土師器	甑	谷部F-1区5層上層 谷部F-2区5層最下層 谷部F-2区5層上層	①28.0 ②21.75+α	外面縦方向ハケメ。口縁内面横方向のハケメ、体部縦方向のヘラケズリ。把手は差込式で、指頭痕を残すナデ。	A：微細～3㎜程の白色砂粒、雲母微細片を多量に含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y7/2。	
1835	石器	剥片	谷部F区南線側5層	長10.1 幅7.0 厚2.8 重量223	側縁部に調整剥離。		安山岩。
1836	瓦	平瓦	谷部F区清掃中	長13.85+α 幅10.9+α 最大厚2.3	凹面布目痕、凸面縄目タタキ。側縁はヘラ切り。	A：微細～5㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：凹凸灰7.5Y5/1。	
1837	土製品	棒状 土製品	谷部F区表採	長8.15+α 幅3.3 厚2.8	摩滅のため調整不明。	A：微細～4㎜程の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：灰白10YR8/2～橙5YR7/6。	
1838	土製品	棒状 土製品	谷部F区表採	長11.1+α 幅3.9 厚3.0	ナデ。	A：微細～4㎜程の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：浅黄橙10YR8/3～褐灰10YR4/1。	
1839	石製品	石鍋	谷部F区表採	①(19.9) ②8.5+α	削り。		耳は4ヶ所か?
1840	石製品	硯?	谷部F-1区1層	長8.45+α 幅3.5+α ②1.75	全体を研磨。		墨痕か?
1841	須恵器	転用硯?	南側谷部検出面	長4.65+α 幅4.75+α 厚1.45	表面ハケメ?裏面格子タタキ?	A：微細～1㎜程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：良好。C：明オリーブ灰2.5GY7/1～緑灰5G5/1。	
1842	土師器	脚付鉢	南側斜面表土ハギ表採	①(16.6) ②5.45	摩滅のため調整不明。	A：赤色粒、微細～1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：浅黄橙10YR8/4～橙5YR7/6。	
1843	青磁	燭台	出土遺構不明	②3.9+α ③(3.6)	残存部全面施釉。下端部釉剥ぎ。	A：灰白10Y8/1。精良。B：良好。C：外オリーブ灰10Y6/2、内灰オリーブ7.5Y6/2。	わずかに貫入あり。
1844	陶器	椀	出土遺構不明	②2.7+α ④4.1	高台削り出し。内面と体部外面に施釉。	A：淡黄2.5Y8/3。微細な黒色粒を多量に含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/4～浅黄2.5Y7/3、内浅黄2.5Y7/4。	細かい貫入入る。
1845	木製品	用途 不明品	廃土	縦17.1 横2.8 厚1.1	側面は斜方向に削り出す。		
1846	土師器	鉢	谷部　区・層不明				内面に「罪依」の墨書。

Ⅲ．まとめ

1．遺構の時期

前章で見たとおり、７次調査地からは谷部を中心に大量の遺物が出土しており、特に谷部出土遺物は残存状況が極めてよかった。実測可能遺物であれば、今回報告した遺物総数の倍以上にのぼると思われたため、須恵器・土師器のうち蓋杯や小皿・丸底杯など普遍的な器種については完形品やそれに近いものを中心として取り上げている。また、遺物量が多かったため接合作業が思うに任せず、報告書執筆時に接合関係が明らかになるものもあり、万全を尽くしえなかった面もある。以下では、７次調査で検出された遺構と谷部からの出土遺物の様相を時期ごとに取り上げ、遺跡の性格の把握に努めたい。

旧石器～弥生時代　この時期の遺物は非常に少なく、石鏃が散見される程度で土器片はほとんど見られない。

古墳時代～飛鳥時代　ＳＣ01は削平されており、残存状況は非常に悪いが、出土遺物から６世紀末～７世紀初頭ごろにあたろう。また、ＳＤ08からもこの時期にあたる遺物が含まれる。

谷部では、Ｂ・Ｃ区を中心に確認された５層とした須恵器窯の灰層には、６世紀中頃のものから８世紀後半までの遺物を含んでいる。窯体を失うため確定が難しいが、６世紀末～７世紀前半代の遺物が最も多く焼け歪みも著しく器種も揃うことから、この時期に操業がおこなわれた可能性が高い。また前後の時期については、７世紀後半代は高杯も含まれており窯が存在した可能性があるが、量は少なく大型器種も少ないことから窯体は小型のものであった可能性が高い。６世紀末～７世紀前半代の窯で焼成されたと考えられる遺物には、蓋杯・高杯・盤・短頸壺・平瓶・横瓶・甕・大甕などの他に丸瓦・平瓦を含んでいることから、窯体は大型のもので瓦陶兼業窯とすることができる。その他、この時期にあたると考えられる遺物としては、中空硯・土馬・土錘・土管・鐘状土製品など特殊な遺物が含まれている。これらはいずれも細片化しており、焼き歪みのあるものを含むことから、一応窯で焼成されたものとして取り扱っておく。また、谷部Ｃ区５層から出土した「大神部見乃官」とヘラ書きされた須恵器大甕も焼け歪むことから窯で焼成されたものと考えられる。時期および意義については後述する。

奈良時代　ＳＢ02は、掘方内より８世紀中頃～後半の遺物が出土しており、１次ＳＢ01の年代と矛盾しない。ＳＢ01とＳＢ02は並列することから、同一時期と考えられる。また、ＳＸ12は谷部Ｅ区堆積土を切って作られるが、掘り込み面がどの層からであったかは確認できていない。このため、時期決定に大きな問題があるが、出土遺物は８世紀代のものである。また、ＳＸ12を切るＳＸ13から８世紀後半の遺物が出土しており、おおむね近い時期が考えられるであろう。

谷部からは、８世紀後半の須恵器・土師器が大量に出土した。４層からの出土が多く、砂質土と粘質土が互層となる状況から流滞水の激しい状況がうかがえる。出土した土師器は大宰府分類杯ｄをはじめ、椀・皿・鉢が多く、細かにミガキを施すものが大半を占める。また、その他の遺物とし

ては、香炉蓋・灯明杯・墨書土器・墨画土器・転用硯・畿内系土師器などが出土している。さらに、谷部Ｄ区１層から出土した瓦塔は、本堂遺跡５次２～５号灰原から出土した瓦塔と類似しており、８世紀後半に当たる可能性がつよい。

平安時代以降　谷部を中心に８世紀後半には多数の遺物が出土したが、９世紀に入ると遺構・遺物はまったく確認できなくなる。遺構が確認できるのは10世紀に入ってからで、ＳＸ09は10世紀後半～ 11世紀前半にあたろうか。谷部からもこの時期以降の遺物が急増し、最も多いのは11世紀後半～ 12世紀前半代の遺物で、主に２層を中心に出土する。確認される遺物で最も多いのは、土師器小皿・丸底杯・椀であり、特にＤ区からはおびただしい量が出土している。丸底杯の中には内面に「大日如来」、外面に「医王」（薬師如来）などと書かれた墨書土器や灯明に使われた丸底杯などがある。また、土師器では壺類の出土が目立ち、小皿には「て」の字状口縁をもつ個体が一定量含まれている。その他、同時期にあたる青白磁や、相輪型や鈴型などを呈する木製品や、呪符木簡・馬歯も含まれている。

その後、谷部は１次調査の所見によれば13世紀ごろには埋没するようである。本調査地でも、谷部は大部分が埋没し浅くなっていたようであり、また12世紀以降の遺物がほとんど見られない。ＳＤ03は14 ～ 15世紀ごろの瓦質土器を含むなど、遺物は散見されるが遺構は確認できなくなる。その後、ＳＤ03・04・07は染付や紅皿を含み18 ～ 19世紀ごろと思われるが、調査地の谷部は完全に埋没し、この時期には畑となっている可能性が高い。（石木）

2．ヘラ書き須恵器について

７次調査地からは、ヘラ書き須恵器が２点出土した。１点は大甕の頸基部に「大神部見乃官」と書かれたもの（1026）、もう１点は盤の底部外面にヘラ書きされ、「瓦」かとも思われる（702）がはっきりしない。このため、ここでは「大神部見乃官」のヘラ書き須恵器について取り上げ、取り巻く問題について考察をおこないたい。

遺物の年代　ヘラ書きがおこなわれた大甕の年代について、以下で検討してみたい。法量は、口径46.7㎝（復元値）、頸部高9.1㎝。全体に大きく焼け歪む。頸部は外方へ開き、口縁端部は四角く作り出す。頸部外面は上半に２段沈線を施した後、幅の広い連続斜線文を施す。外面は擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。体部は接合しないため、全形は不明であるが、おおむね器高80㎝程度になろう。

大甕の編年については、『牛頸窯跡群』において変遷の整理が試みられている（註１）。これによれば、７世紀後半以降甕の頸部文様は無文化の方向をたどり、連続斜線文を施すものはⅢＢ期段階から見られⅤ期まで確認できるとされる。また、頸部文様が２段にわたるのは比較的古い要素であり、１段のものはおおむねⅣＡ期以降のものとすることができよう。このように、甕の変遷観からはⅣＡ期～Ⅴ期の間に位置づけられる。次に、ヘラ書き須恵器が出土した谷部Ｃ区５層にはⅣＡ期～Ⅵ期の須恵器と８世紀後半の土師器が含まれている。時期幅を考えると甕が焼成された一点を定めるのは難しいが、大甕は焼け歪んでおり窯での焼成は明らかと考えられ、想定される窯の年代は

第168図　ヘラ書き須恵器筆順図（１／２）

甕の変遷観と矛盾しない。したがって、周辺の窯跡出土資料との比較をおこなうと、近接する梅頭１次１号窯跡（ⅢＢ期新段階～ⅣＡ期古段階）では２段の文様帯をもち、後出する野添７次２号窯跡（ⅣＡ期新段階～ⅣＢ期）が１段のものが主流になる。このことから、ヘラ書きされた大甕は甕の変遷観の中でもやや新しい年代を考え、ⅣＢ期～Ⅴ期（７世紀前半～中頃）に位置づけることができよう。

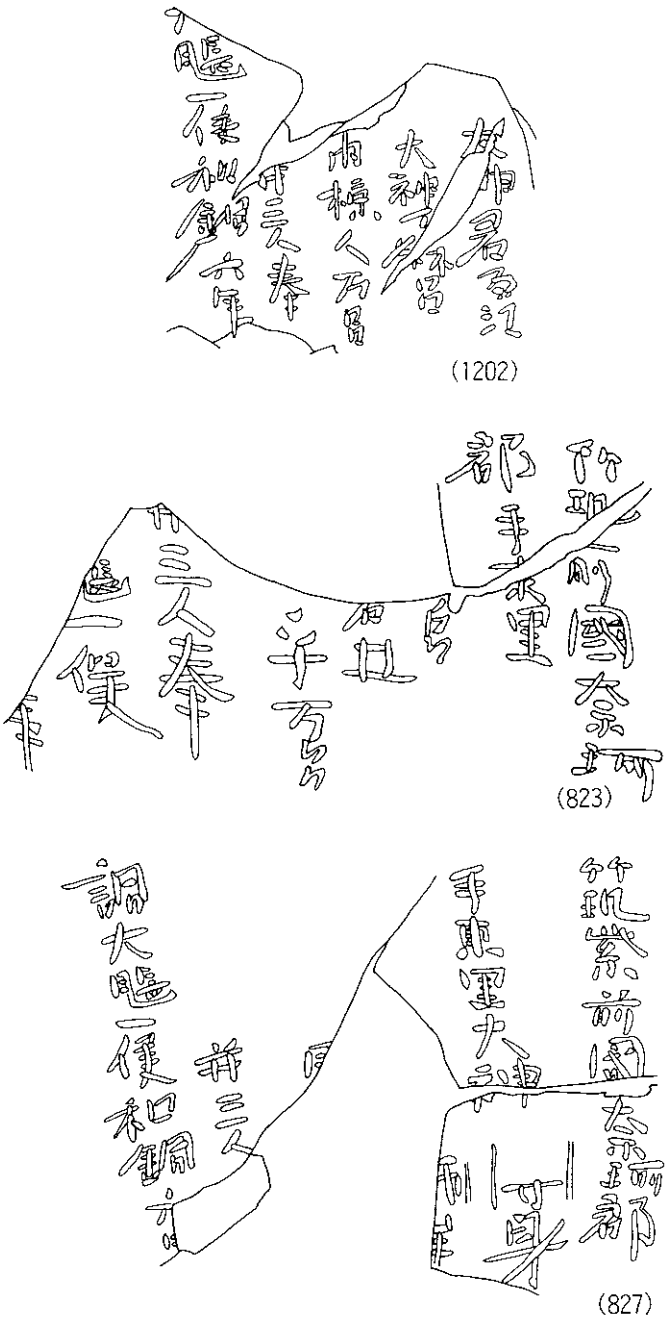
ヘラ書き文字の書風　ヘラ書きは、「大神部見乃官」と楷書体ではっきりと書かれる。書かれる部位は頸基部外面にあたり、書かれた方向から甕を横に寝かせたような状態で、口縁部を左側に向けて頸部を縦方向にとる。このため文字は、甕を正置した状態で右から左の横方向に書かれる。ちなみにこれまで牛頸窯跡群および周辺から出土したヘラ書き須恵器のうち、頸部外面に書かれるものが多数を占めるが、横方向に書かれるものはいずれも右から左へ動いている。また、頸部内面に書かれるものは横方向に書かれるものが多いが、外面と同じく右から左に動いている。これらの共通性が示すことはよく分からないが、作業姿勢・工人の利き手・規制など様々な可能性が想定できる。

次に、各文字の筆跡から筆順を図に示した。これを見て分かるのは、「神」の文字の偏がやや異なるが、他は同じである。筆の運びは書き出しから「神」まではやや弱々しい印象を受けるが、それ以降は軟らかい粘土に書いたとは思えないような筆勢があり、記載者は文字を相当書きなれた人物と考えられる。

大神部見乃官の示すもの　ここで書かれた文字の内容について考えてみたい。まず内容について、書風は７世紀代のものであり、「大神部」は姓とすることができる。また「見乃官」については、

①人名②官職名とする二つの意見が挙げられる。人名とする根拠として、名前の中に「官」の文字が含まれるのは実例に乏しいものの、何らかの官職名を表すとすれば、官職名→人名の順で標記されるのが通例であり、現時点では「大神部見乃官」との人名として捉えるのが妥当とされる。一方官職名とする意見として、「見乃官」はこれまで知られていない官名であるが、７世紀代の資料であるならば８世紀的な在り方ではない可能性を考え、「見乃」という人物に関わる官職名である可能性を指摘される。

このように、「大神部見乃官」を人名とする意見と官職名とする意見をいただいた。その他、「見乃官」については、見乃万呂・見万呂などの誤記の可能性も指摘される（註２）が、正確な筆順と筆致からその可能性は低いと考えられる。以下では、牛頸窯跡群において過去に出土したヘラ書き須恵器や過去の考古学側からの研究を基に、「大神部見乃官」の内容と意味について私見を述べることにしたい。



第169図　牛頸ハセムシ12地区出土ヘラ書き須恵器（１／４）

牛頸窯跡群と大神部　まず「大神部」であるが、牛頸窯跡群の出土資料の白眉ともいえるハセムシ12地区出土のヘラ書き須恵器がある。この資料はあらためて述べるまでもなく、賦役令第二条に見える「凡調皆随近合成絹絁布両頭及位絲綿嚢　具注国郡里戸主姓名年月日」との規定に合致する記載内容であり、律令制の施行を示すとともに同時代資料として具体的な地名・人名が判明する極めて貴重な資料である。この中に「大神部得身」と記され、牛頸窯跡群で調の貢納に関わった人物名が明らかになった。この他、姓名が明らかになるものとしては「大神君百江、大神部麻呂、内椋人万呂」、名前のみ分かるものとして「□□乎麻呂」、氏族名らしきものと

して塚原遺跡群より「押坂□」があり、いずれも８世紀前半代に位置づけられる。他に人名が分かる資料として、８世紀前半～中頃の井手４号窯跡から「大神部□□養？」のヘラ書き須恵器が出土している（註３）。これらの人名について、工人名ではなく、甕は一般平民が調の貢納のため窯場に特注したものとの指摘もある（註４）が、基本的には須恵器工人と理解（註５）できそうである。すると、牛頸窯跡群では８世紀前半～中頃の須恵器工人として７名確認することができ、４名が大神系の氏族名をもつことが確認された。このことと今回出土した７世紀前半～中頃に位置づけた「大神部見乃官」を合わせると、７・８世紀代の牛頸窯跡群では「大神部」が生産に主体的に携わっていたものと考えられる。

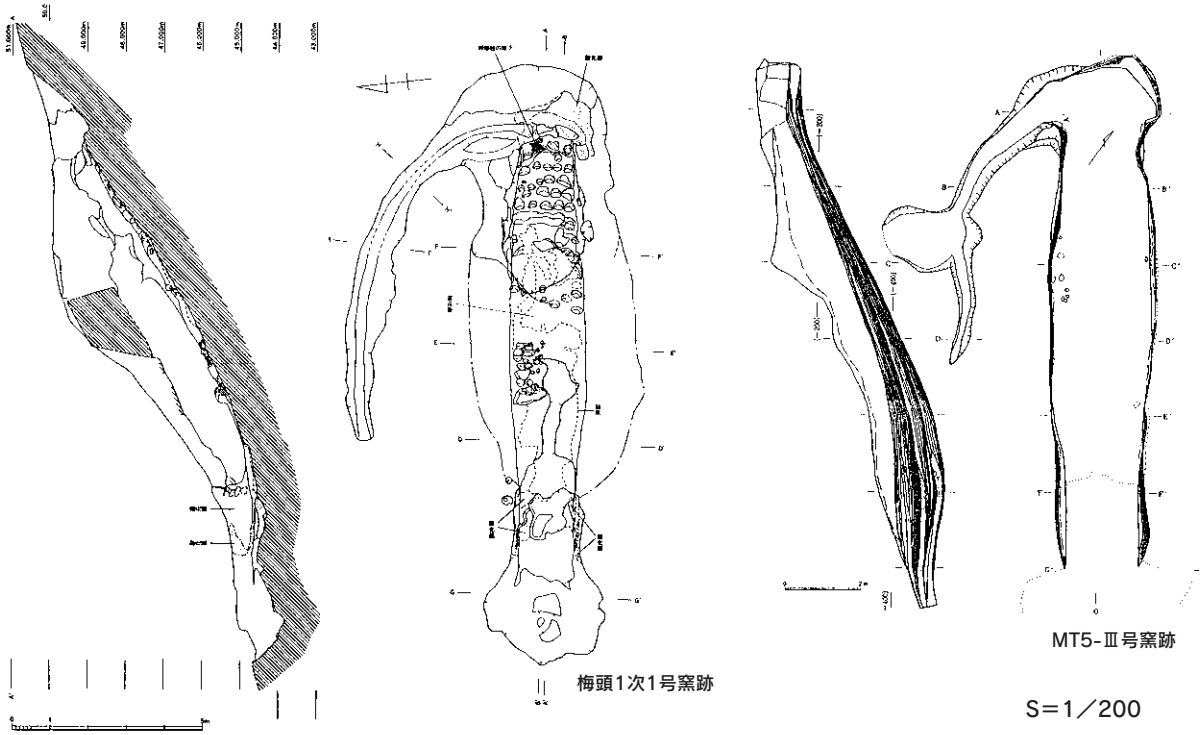
須恵器生産とミワ系氏族　『日本書紀』崇神天皇七年条に大物主命を祭る祭主として大田々根子を探すと、「茅渟県陶邑」で見出した説話があり、『古事記』にも同様の捜索の結果として「河内国美努邑」で見出した説話が残されている。そして、大田々根子は三輪君（日本書紀）、神君･鴨君（古事記）の始祖とされ、大物主命は大神神社の祭神であることから、須恵器生産とミワ系氏族の関連は古くから説かれる所である。中村浩氏によれば、陶邑窯跡群周辺に居住し須恵器生産に関わりのある氏族として大村直・荒田直・大庭造・神直・和田首・池田首・信太首があり、大庭造・神直のいずれかは「陶邑における須恵器生産を管掌していた氏族の一つ」（註６）とされる。なお大庭造は、『和名抄』で「上神」を「ｋａｍｕｔｕｍｉｗａ」と読むことから、「庭:ｎｉｗａ」を「ｍｉｗａ」の転訛とし、「大神造」の可能性を指摘する（註７）。

このように、ミワ系氏族と須恵器生産の関わりが考えられるが、佐々木幹雄氏は奈良県桜井市所在の大神神社所蔵の須恵器を報告し、そこに陶邑系須恵器だけでなく新羅系・伽耶系の陶質土器や千里窯跡群や東海系からの搬入品が存在することを指摘し、三輪山祭祀に陶邑だけではない東海・山陰・朝鮮半島という広範な広がりを想定した（註８）。また、菱田哲郎氏は陶邑系須恵器を生産する地方窯とミワ氏の関わりについての指摘を発展させ、各地方窯の生産者が三輪神を祀るのは、部民制の伴造－部民という擬制的関係の下に広がったと考える（註９）。さらに、高橋照彦氏は考古学的事象より陶邑窯跡群と三輪氏の関係を指摘する（註４）。

以上のように、須恵器生産とミワ系氏族の関わりは様々な面から指摘されている。ただし、全国の須恵器生産地がみなミワ系氏族と関わりを持つわけではないことは、陶邑窯跡群の状況を見ても明らかである。このことは、先に挙げた和銅年間の牛頸窯跡群においても大神部以外に「内椋人」「押坂」が見えることも傍証となろう。しかし、７・８世紀の牛頸窯跡群において「大神部」が主体的に生産をおこなうことと、陶邑窯跡群に同名の氏族が確認できること、また「大神部見乃官」の年代観を合わせると、牛頸窯跡群の須恵器工人は部民制の下に生産をおこない、陶邑窯跡群との関わりは深いものと考えることができる。

陶邑窯跡群との関わり　では、牛頸窯跡群と陶邑窯跡群との関わりを示すものには何があるのであろうか。渡部正気氏は文献資料の立場から、牛頸窯跡群は宣化天皇元年に筑紫に設置される那津官家直属のもので、「陶邑窯跡群の工人を宣化天皇二年（537）、任那救援のため筑紫に派遣された大伴磐と大伴狭手彦兄弟によって、筑紫に移されて開業したもの」とし、その背景として大伴氏による「陶部」の掌握を考えている（註10）。

これに対し、考古学側からは牛頸窯跡群で生産された陶棺を取り上げ、最も古いものは畿内の陶棺に近い特徴を備えるが、次第に在地化していくことを指摘した。また、窯を墓に転用したと考えられる梅頭１次１号窯跡出土の銀象嵌鉄刀から、被葬者を牛頸窯跡群の首長と位置づけ、ヤマト政権との関わりを指摘している（註11）。また埋葬施設の特異性を合わせると、被葬者は在地の人ではない可能性が高い。さらに指摘できるのは、牛頸窯跡群で６世紀後半でも末に近い段階（ⅢＢ新段階）に出現し、７世紀後半まで築窯される多孔式煙道窯と陶邑窯跡群のＭＴ５－Ⅲ号窯跡の類似である。多孔式煙道窯は、焚口から窯尻までほとんど幅の変わらない短冊形に近い平面プランをもち、煙道が一つではなく複数開けられ、窯背部には溝が取り付く、牛頸窯跡群特有の窯構造である（註12）。こうした窯構造は他地域にはないものと考えていたが、窯跡研究会資料により畿内の溝付窯の事例として陶邑窯跡群ＭＴ５－Ⅲ号窯跡があることを知り、以下の検討から多孔式煙道窯であると認識した（註15）。ＭＴ５－Ⅲ号窯跡は、全長約11.6m、焚口幅約1.8m、焼成部最大幅約2.6m、窯尻部幅約2.0mと焼成部中位がややふくらむ平面プランを呈し、窯尻には溝が取り付き窯の左側にのびる。４面の操業面が確認され、順次かさ上げがおこなわれている。また、溝の奥側は被熱を受けており、その範囲から窯尻が絞り込まれていなかったことが確認できる（註16）。こうした窯の平面プラン・縦断面形・被熱範囲の状況は、多孔式煙道窯に通有するものである。また、ＭＴ５－Ⅲ号窯跡の調査によれば窯尻に粘土柱などの構造物は確認できなかったとのことであるが、牛頸窯跡群においては多孔式煙道部の構築にあたって掘り抜きのものと粘土柱を設置するものがある。このうち、粘土柱を設置するものの場合、床面の被熱痕跡から粘土柱の位置を確認できる場合もあるが、残存状況が悪い場合はまったく痕跡が確認できないものもある。したがって、ＭＴ５－Ⅲ号窯跡の場合は煙道部が多孔式となるか確認できないものの、先に挙げた窯構造から多孔



第170図　窯構造の類似（牛頸梅頭1次1号窯跡と陶邑MT5-Ⅲ号窯跡）

式煙道窯である蓋然性が高いものと考える。また、出土遺物は４面合わせて678点の蓋杯が出土しており、杯蓋４類、杯身３類に分類される。このうち図化されているものについて実見させていただいた所（註17)、形態の特徴・法量は梅頭１次１号窯跡焼成部出土遺物Ｂ群と同じであった。このように、窯構造・時期の一致が認められたことからＭＴ５－Ⅲ号窯跡が多孔式煙道窯であることを認識した。前後関係については、ＭＴ５－Ⅲ号窯跡より牛頸窯跡群における多孔式煙道窯の出現が若干早いと考えられ、以後同一窯構造が継続し地域的に偏在することから、地方から中央への技術移動として捉えておきたい。

部民制と屯倉制　以上のように、銀象嵌鉄刀・陶棺・窯構造という考古学的事象とヘラ書き須恵器の内容から牛頸窯跡群と陶邑窯跡群との関わりを確認することができた。このことは、先に受けた文献側からの指摘を補強するものであり、牛頸窯跡群が那津官家と深い関わりをもつことは明らかである。また、「大神部見乃官」のヘラ書き須恵器は牛頸窯跡群の須恵器生産が部民制の下におこなわれていたと言うことが可能であろう。さらに、牛頸窯跡群と同時期の須恵器生産地である宗像窯跡群は在地豪族の宗像氏との関わりが想起され、古墳時代、九州の須恵器生産の管理主体としては王権と在地豪族の二者が考えられることになる。このことは、舘野和己氏の提示されるミヤケの在り方に調和的である（註18)。

また、部民制において部民はヤマト政権・大王一族・中央豪族に労働力・技術を提供し、生産物を貢納するものとされる。今のところ牛頸窯跡群の須恵器が畿内に運ばれたという事実は確認できず、生産物は那津官家へ運ばれるものと考えられるが、陶邑ＭＴ５－Ⅲ号窯跡の在り方は牛頸窯跡群の須恵器工人が王権の窯群へ直接生産に参加した痕跡と考えることができるのではないだろうか。先に挙げた陶棺も製作技法は畿内の陶棺に近いがまったく同一ではなく、工人が直接来て製作したというよりは牛頸窯跡群の工人が技術を持ち帰ったと考えられる。このことは、技術の移動に牛頸窯跡群の工人が主体的に関ったものと考えることができ、須恵器生産も上番・奉仕するような在り方も想定できると考えたい。

大神部見乃官の意義　以上のように、「大神部見乃官」のヘラ書き須恵器から陶邑窯跡群・那津官家との関わりとミヤケ制・部民制の存在を指摘した。このことと坂上氏・酒井氏の指摘を踏まえ、「大神部見乃官」の６文字の解釈について私見を述べておきたい。

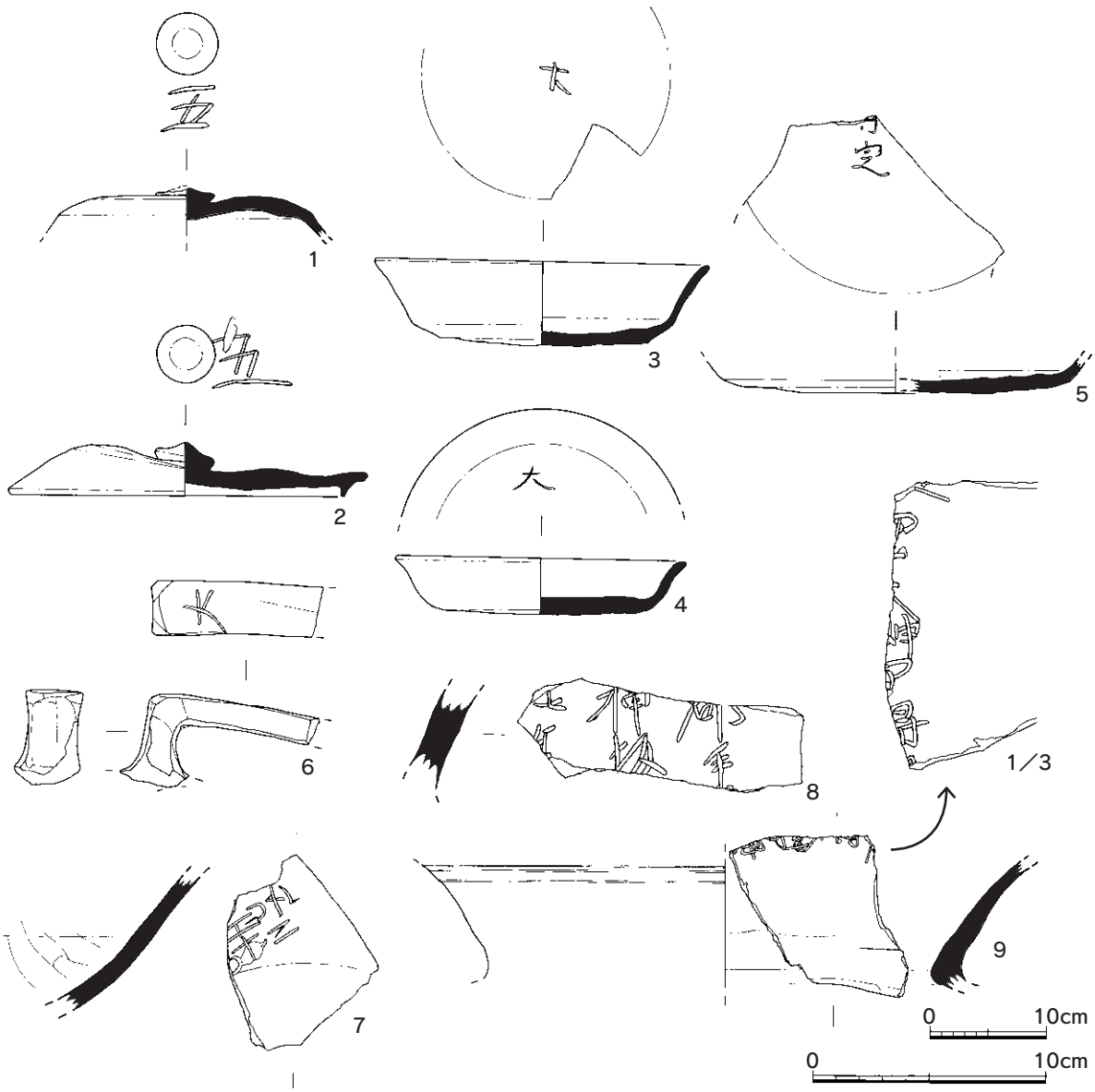
まず６文字のうち、「大神部」は氏族名を表すものとして問題はない。陶邑窯跡群では栂（ＴＧ）地区の生産を担当する可能性があり、６世紀後半～７世紀にかけて先進的な地位を占めるものと考えられている（註９)。問題は「見乃官」であるが、これを「見乃麻呂」などの誤記であった可能性を指摘する意見もある（註２)。しかし、正確な筆致からその可能性は低いものと考える。その上で、注目できることはやはり「官」の文字が使われていることである。「官」には言うまでもなく、役人とか国家機関など管理することの意味を持ち、「見乃官」を一連の人名とは見なし難い。また注目したいのは、「官」の前につく「見乃」の文字である。この「見乃」は、先に挙げた『古事記』に見える「河内国**美努**邑」と同音である。ＭＴ５－Ⅲ号窯跡が含まれる陶器山地区には見野山が所在しており、「見乃」は陶邑窯跡群内の地名と同音を有する人名を表す可能性を考えてみたい。だが、中村氏の研究にもあるとおり陶器山地区は大村郷にあたり、大村直・荒田直が氏族として取り

上げられ、大庭造・神直が管掌する地域とは異なっており注意が必要である。しかし、大化前代に見える官職名が「山官」「鳥官」など具体的な事物を表すのに対し、「見乃」はあまりにも漠然としており「官」の文字とは切り離して人名とした方が妥当と思われる。また、書かれた文字は軟らかい粘土に書かれたものとしては極めて流麗で、筆致も正確なことから、記載者は常に文字を書くような立場にあった人と考えられる。さらに梅頭１次１号窯跡における銀象嵌鉄刀の副葬を合わせると、「大神部見乃官」は在地の人ではなく陶邑窯跡群に居住し生産を管掌する氏族の一人である「大神部見乃（おおみわべみの）」という人物が筑紫に派遣され、牛頸窯跡群の「官」（管理者）となったことを表すと考えてみたい。もちろん、このことは文献には全く素人の筆者の考えであり、ご批判を賜れば幸いである。（石木）

3．牛頸塚原遺跡群出土のヘラ書き須恵器

ここでは、本堂遺跡７次調査出土ヘラ書き須恵器を理解する上で重要な牛頸塚原遺跡群出土のヘラ書き須恵器の図化･報告をおこなう。１～９は牛頸塚原遺跡出土のヘラ書きのある須恵器である。出土地点は報告書に従った（註19）。

１・２は杯蓋で、いずれも低い宝珠形のつまみが付き、焼き歪む。天井部外面の２分の１に回転ヘラケズリ、他は回転ナデ、天井部内面には不定方向のナデを施す。１はSK13出土でつまみ部から体部にかけて３分の１ほどが残存する。つまみ径2.5～2.6cm、つまみ高0.7cm。胎土密、焼成良好。天井部外面には、つまみを天にして「五」とヘラ書きする。２はP776（未報告）出土で口縁部の約半分を欠く。復元口径15.4cm、器高2.3cm、つまみ径2.5cm、つまみ高1.0cm。胎土密、焼成良好。口縁部に短いかえりを有する。外面につまみを左位にして「五」とヘラ書きする。なお、ヘラ書きはつまみ貼付時のナデを切る。３は杯で、SK12出土。体部を約半分欠く。復元口径14.4cm、器高3.7cm、底径9.0cm。胎土密、焼成良好。底部外面にやや雑な回転ヘラ切り、他は回転ナデを施す。体部と底部の境が不明瞭で丸みをもつ。体部は底部から外側へ屈曲して外反気味に立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。内外面に火襷痕がある。底部内面に、中央からやや右寄りに「大」と深くヘラ書きする。４・５は皿。４はSK12出土で体部の約半分を欠く。復元口径12.5cm、器高2.4cm、底径9.0cm。胎土密、焼成良好。底部外面に丁寧な回転ヘラケズリ、他は回転ナデを施す。底部からの立ち上がりは内面の回転ナデが強く丸みをもち、口縁部下ではゆるやかに外反する。底部外面に二重の沈線を施す。底部内面の内縁に中央を地にして「大」と丁寧にヘラ書きする。５はSK09出土。底部のみが３分の１ほど残存する。器高は現存で1.3cm、復元底径17.0cm。底部外面に回転ヘラ切り後板ナデを施し、他は回転ナデ。底部内面ほぼ中央に、現存で「□定」とヘラ書きする。６は平瓶の把手で、SK07出土。幅2.1～2.3cm、厚さ1.1cm、体部からの高さは推定で3.7cm。胎土密、焼成良好。屈曲部をほぼ直角に仕上げる。全面にケズリを施して面取りし、均整な直方体を呈する。また、短辺隅部にはケズリを施して角を取る。体部との接続部側面はナデ。背面にナデを施し、長軸方向に天地をとって端部からおよそ一文字分空けて「大」とヘラ書きする。７は底部に近い部分の体部片で、鉢か。溝03出土。破片のため傾きに難がある



第171図　牛頸塚原遺跡群出土ヘラ書き須恵器実測図（9は1／6，他は1／3）

が、残存高5.4cm。胎土密、焼成良好。残存部上半の内外面に回転ナデ、下半は外面に回転ヘラケズリ後ナデ、内面に下方から上向きにナデを施す。外面にヘラ記号状の複数のヘラ書きがある。８・９は大甕。８は攪乱溝中から出土した甕の頸部と思われる破片。残存高3.5cm。胎土密、焼成良。内外面回転ナデ。外面に現存で縦位3行のヘラ書きがある。右から順に「郡手□」、「押坂」、「七年」で、「七年」は「和銅七年」（714年）であろうか。９は遺物包含層出土。頸部基部から口縁部直下までが残存する。残存高12.0cm、推定頸部径40.8cm。胎土密、焼成良好。頸部は基部が太く、外反気味に立ち上がる。頸部内外面に回転ナデ、わずかに残る体部内面には当て具痕が見られる。外面上方に浅い沈線が３条巡り、その内面に水平方向右方を天にして「□里大神部得□」と力強くヘラ書きする。

時期は１・２が７世紀後半、３・４・８・９が８世紀前半、また、共伴遺物より６が８世紀後半、５が８世紀末～９世紀初頭と考えられる。（遠藤）

４．墨画土器について

谷部Ｃ区より、内外面に文様を施した土師器の杯蓋が出土した。外面は濃淡の異なる墨が用いられ、五弁花と放射線状に伸びた葉が描かれる。内面は流れるように筆が運ばれ、五弁花・葉・雲文が描かれている。このように彩られた土器が出土する例は極めて稀であり、土器の施文過程とその特徴である濃淡のある墨、施文具の筆について以下にまとめ、絵画史における位置づけとこの土器の持つ特徴・要素の理解に努めたい。

①施文過程　外面と内面について、施文されたと思われる順にそれぞれの文様を観察する。

〈外面〉

つまみ・・・・・・つまみの根元を線で囲む。つまみの上部に五弁花が描かれているが、他の文様と接しておらず、施文の前後は判断できない。

中央花弁・・・・・つまみの周りに描かれる花弁である。つまみを起点として描かれ、花弁は五枚配置される。左右上方から筆を始めており、二筆で描いたと思われる。

四葉・・・・・・・中央花弁の周りに描かれる葉である。葉軸とともに、中央の花弁を起点として筆を始めているようである。葉の上段と下段は一筆で描くようにも、分けて描くようにもみえる。

外方花文・・・・・四葉の間に配置される花文である。丸みのある花弁を三枚もち、下半は描かれない。内部は半円を描くものと、山形に描くものがある。

点描五弁花・・・・四葉と外方花文の間に点描された五弁花である。葉と重なるように狭い箇所に描かれるものがあり、外方花文を描いた後に、隙間に配置されたと思われる。

〈内面〉

中央五弁花・・・・中央に描かれる花である。文様はこの五弁花を中心に広がる。中央の直径0.5㎝の円を中心に、花弁を五枚配置する。つまみの上部に描かれたものと類似する。

三葉・・・・・・・三方に伸びた葉である。中央の五弁花を起点としている。右辺上に左辺と葉軸の筆を止めた形跡がある。右辺を描いた後、これを基準として左辺と葉軸を描いたことがわかる。

蔓と点描五弁花・・三葉より伸びている。蔓の先端に点描で五弁花を描く。

雲文　・・・・・・三葉の間に配置する。

②墨　外面には濃い墨と薄い墨がみられるが、ここでは内外面ともに最も濃い墨を濃墨とし、これより薄いものを大まかに薄墨とする。これらがどのように用いられているかを観察する。

〈外面〉

つまみ・・・・・・根元は薄墨、上部の五弁花は濃墨を用いる。

中央花弁・・・・・輪郭に濃墨、内部に薄墨を用いる。薄墨は僅かに濃淡がある。

四葉・・・・・・・輪郭に濃墨、内部に薄墨を用いる。葉軸についても同様である。また、外線の薄墨は、重ねられたように濃淡の異なる箇所がある。

外方花文・・・・・輪郭は濃墨を使用し、そのほかは薄墨を用いている。濃淡がはっきりし、段階的に重ねられるようである。

点描五弁花・・・・濃墨のみを使用する。

〈内面〉

すべて濃墨を用いているようである。一部に薄墨の墨痕がみられるが、文様との関連は考えられず、前後も不明である。

③筆　描かれた線は、太さが異なるものがあり、筆の使い分けや力加減・筆のしなりにより生じたものと思われる。ここでは、大まかに線の太さによって小筆と大筆に分類し、使用箇所をみる。

〈外面〉

中央花弁・・・・・輪郭線は小筆、薄墨は大筆を使用しているようである。輪郭線の書き始めは非常に細く、曲線部はやや太くなる。

四葉・・・・・・・葉軸の輪郭線は、中央花弁同様に小筆を用いる。初めから終わりまで一線で描くようだが、三回筆を接ぐ箇所もある。薄墨は大筆を用いているようだが、一箇所の葉軸のみ小筆を用いている。これに対して葉の外線は、濃墨・薄墨ともに小筆のように細くないため、大筆を使用すると思われる。

外方花文・・・・・この花文の輪郭線は、四葉の輪郭線に比べて細くみえるが、中央花弁や葉軸に比べるとわずかに太い。薄墨も同様であり、すべて大筆を使用すると思われる。

点描五弁花・・・・筆の先端を使って描いたと思われる。観察から、中央花弁の書き出しのような鋭さはなく、穂先は丸みを持つと思われる。このため、小筆とは異なる筆を用いるが、大筆と同一とすることは難しく、大・小筆以外の筆を使用した可能性がある。

〈内面〉

中央五弁花・・・・筆先の細さから、小筆を使用すると思われる。

三葉・・・・・・・筆の始めや、はらいの細さから小筆を使用すると思われる。

蔓と点描五弁花・・蔓は小筆だが、五弁花は外面の点描五弁花より大きく、大筆を使用したと思われる。

雲文・・・・・・・細い線もみられるが、曲線部はやや太いため、内面の点描五弁花と同じ筆を使用したと思われる。

以上に施文過程・墨・筆についてまとめたが、次のことが考えられる。まず施文過程において一番の違いは描線である。内面は流れるように、すばやく運筆している。これに対して、外面の葉軸が三回に分けて引かれていることなどから、ある程度のすばやさはあるものの、内面に比べると慎重に筆を運んだと考えられる。また外面はその墨も特徴であるが、墨は複数回重ねられることにより濃くみえる箇所があるほか、外方花文のように明らかに濃さが異なり、段階的になるものがある。このことより、濃墨と薄墨の中間である中墨の使用が考えられる。墨の違いとともに線の太さにも違いがあり、大筆と小筆の使用が考えられ、小筆は主に輪郭線に用いられることがわかる。また、内面中央五弁花や外面中央花弁・葉軸輪郭線の書き出しの鋭さから、穂の先端が細いものを使

用していたことが考えられる。対して大筆は線の太さに幅があり、小筆に比べて穂先が丸いと思われる。内面では小筆の先端は細いが、外面の小筆のような鋭さはみられないため、外面とは異なる筆を使用したと思われる。また、外面の点描五弁花においては大・小筆以外の使用も考えられるため、作業には複数の筆を用いた可能性がある。

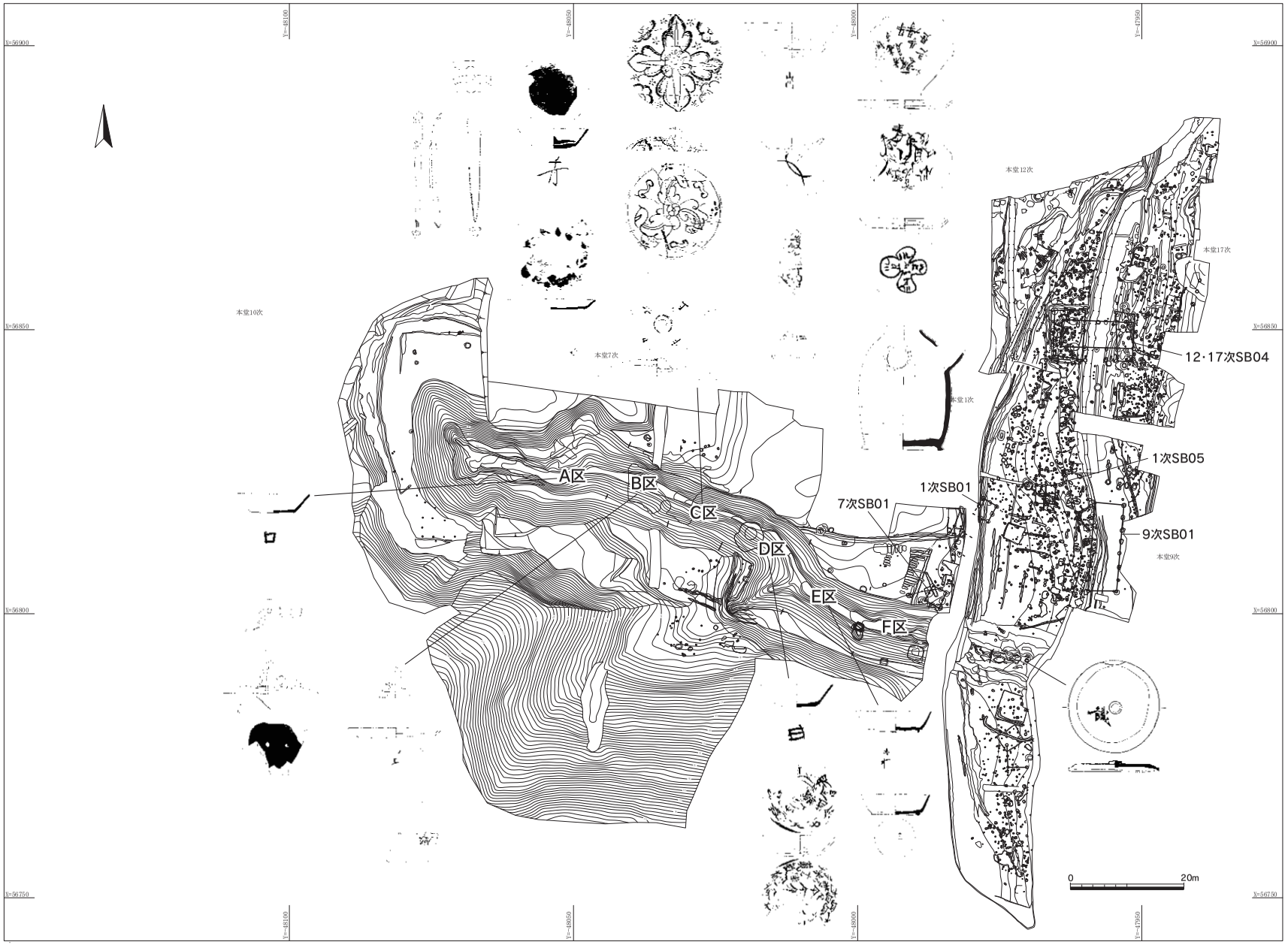
文様は内外面全体に及んでいるが、下絵を行わずに描画されており、特に外面は全体の構図を明確にするため、濃墨で輪郭線を描いた後に、薄墨を内側へ重ねていったと思われる。外面の四葉は、一見すると花の一部であるかのように描かれており、宝相華文のひとつと考えられる（註20）。この宝相華文は、仏教装飾に多く用いられる文様である。また内面には雲文が描かれており、この土器が仏教的要素をもち、寺院等に関係した遺物である可能性が考えられる。

外面は濃淡の異なる墨を段階的に重ねて表しており、これと類似する彩色方法に暈繝と呼ばれる技法がある。例外はあるが、最も淡い色から彩色を始めることを基本とし（註21）、立体感などの表現を目的として二色以上の色を用いて、暈しを用いずに段階的に色を重ねていく方法とされ、宝相華文を始め、仏像・仏具・仏教建築の装飾に多く用いられた。中国より伝わったと考えられており、古くは中宮寺の天寿国繡帳にみられ、法隆寺や正倉院の宝物など奈良・平安時代を中心に取り入れられた（註22）。この土器では濃墨から描画を始め、二色以上の色を用いておらず、先に述べた基本からやや外れている。しかし、暈しを用いずに色を変化させ、段階的に重ねていることから、暈繝技法に基づくものと考えておきたい。当時の仏教装飾における流行の最先端といえる暈繝を用いたこの土器は、文様装飾に精通し、高度な技術をもった画工によるものと考えられ、宗教的施設の存在を示唆するものである。（大里）

５．祭祀遺物とその内容

７次調査地谷部からは、大量の遺物が出土した。その中には、奈良・平安時代の祭祀に使われたと見られる遺物が相当含まれている。ここでは、各時代の祭祀遺物の内容と出土位置を整理し、隣接する遺跡の調査成果を合わせることで、祭祀に使用される遺物の内容と祭祀の場の変化を指摘し、本堂遺跡群の性格について考察してみたい。

奈良時代　まず、各時期の出土遺物の様相を確認したい。奈良時代の遺物は、８世紀後半にほぼ限定できる。須恵器では、杯蓋（環状つまみを含む）・杯身・杯・皿・高台付皿・平瓶・壺・短頸壺・長頸壺・四耳壺・鉢・水瓶・多孔瓶、土師器では、蓋ａ・蓋ｂ・蓋ｃ・香炉蓋・相輪形鈕付蓋・大椀ｃ・杯ａ・杯ｃ・杯ｄ・大杯ｄ・皿ａ・皿ｃ・耳皿・鉢（丸底・高台付・把手付・仏鉢形）（註23）、縄目タタキの瓦が出土している。その他の遺物として、木製品も出土しており斎串と思われるものも含まれるが、全形の分かるものは少なく量も少ない。出土遺物のうち、特に目立つのは土師器の出土量である。完形品も含まれており、杯ｄをはじめ、ロクロ回転を利用したミガキａを施すものが非常に多い。須恵器・土師器の中には内外面に煤が付着するものがあり、灯明に使われたものと思われる。また、転用硯や墨書土器も多い。墨書土器の内容としては、「千万」(942)、「口」(365)、「山門」(1019)、「川上」(919)、「飯□」(603)、「吉□」(1656)、「日？」(1167)、「罪依」



第172図　7次調査谷部出土祭祀遺物と建物群（8世紀後半～末）

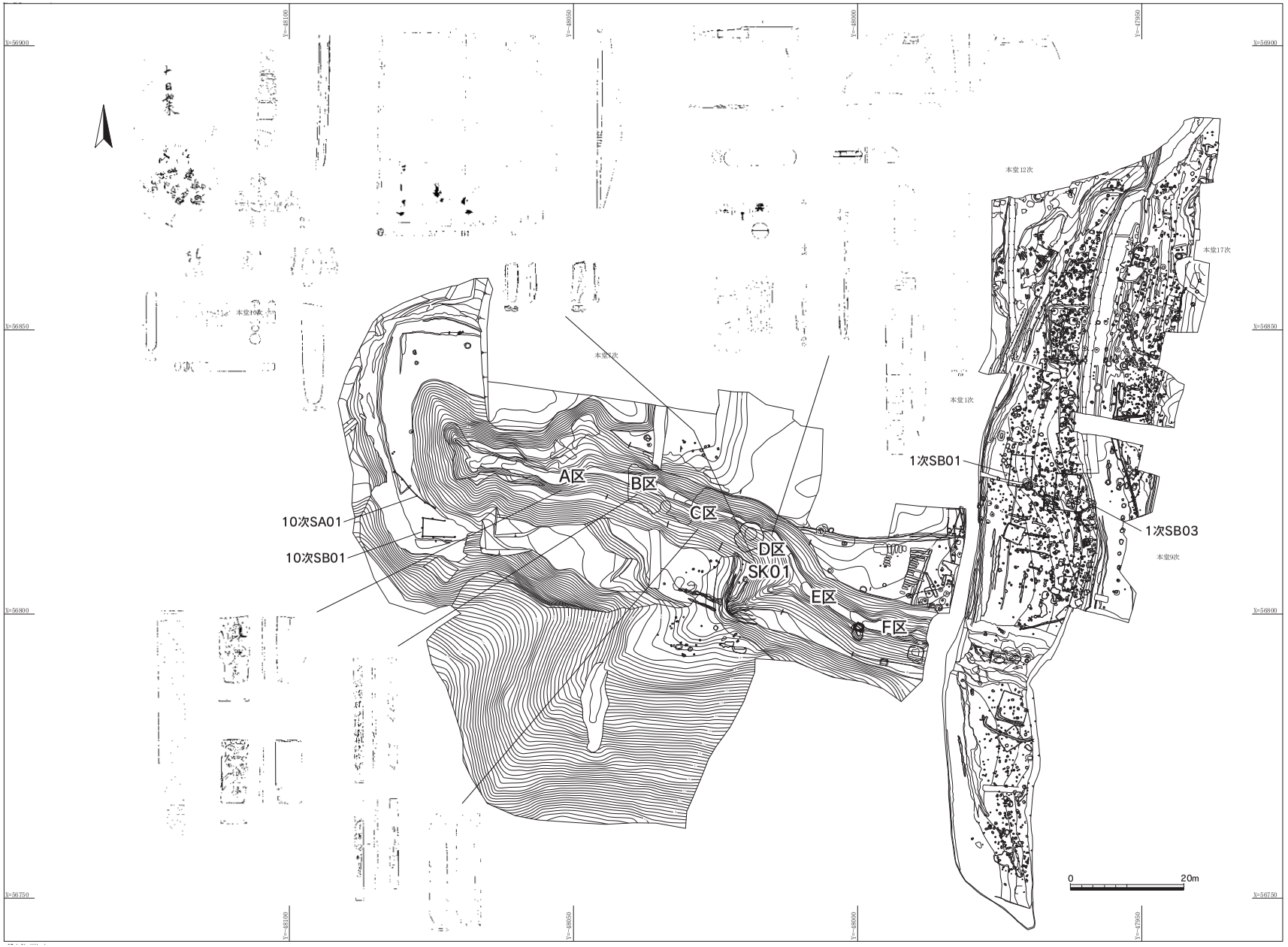
(1846) のように、１～２文字記すものがある。また、1399は外面に「大」「鳥」「有」「観」「教」「者」「凡」「今」「余」、内面に「天」「地？」「料？」「余」「今日」「者」と書かれ、同じ文字が繰り返して書かれることから習書の可能性が高い。同様の習書としては、920は外面に「右」「是」「有」「役」「奉？」、内面に「一」「服」「七？」「早」「月」「者」「得」「是」の文字が確認できる。特殊な遺物としては、香炉蓋（385）・相輪形鈕付蓋（573）・墨画土器（980）がある。香炉蓋はつまみの中央と天井部に穴が開き、内面には煤がべっとりと付着する。相輪形鈕付蓋はつまみのみ残存。墨画土器はほぼ完形であり、文様の詳細・意義については前節のとおりである。

これらの遺物出土状況としては、谷部Ａ～Ｄ区に集中する傾向が見られ大量の土師器が出土するが、Ｅ・Ｆ区では須恵器は出土するものの土師器は極めて少ない。この状況は、隣接する本堂１次谷部においても同様であり、西側に隣接する本堂10次谷部でも８世紀代の遺物は少なく、土師器はほとんど出土していない。また、墨書土器はほとんど谷部Ｃ区に集中する状況が確認できた。

以上、８世紀後半には谷部Ａ～Ｄ区に祭祀遺物が多く出土することが明らかになった。墨書土器の出土から、その中心はＣ区にあったようである。この時期、谷部Ｂ・Ｃ区には７世紀代に操業がおこなわれた須恵器窯跡の灰原が残っていたようであり、一部は谷部を埋めるような状況であったと考えられ、Ｂ区より東側ではこの時期の遺物を含む層は流滞水が著しい様相を見せている。また、土器は谷部へ向かって投棄されたと考えられるが、南側平坦部は戦後に緑地開発がおこなわれた際に削平された可能性が高く、北側からの投棄が考えられる。このことから、谷部Ｃ区を中心とする場所に祭祀の場が存在したと考えられるが、ここには７世紀代の須恵器窯が残っている。窯体は焚口の位置さえつかめないほど削平されていたが、窯が残っていれば今より10ｍほど斜面が残存していた可能性が高い。その場合、祭祀の場所が窯の焚口の周辺なのか、煙道の上方であったのか判断がつかないが、土器の破損状況から見るとさほど高所にあったとは思えない。

出土遺物の内容を見ると、この時期は土器類が中心であり、木製形代や土製品は非常に少ない(註24)。また、墨書土器の内容を見ると、「千万」など吉祥句的文言が多く、官職名や地名、氏名といった文言はまったく見られない。さらに「山門」は『日本史広辞典』によれば、「一山の正門の意味で寺院正面に造られた楼門」の意味がある（註25)。このことと、本堂１次谷部から出土した「識」と墨書された同時期の須恵器杯蓋、また墨画土器の内容と合わせると、８世紀後半におこなわれた祭祀の内容は仏教的な性格が強いものと言えよう。このことは、本堂７次谷部の東側で確認された本堂12・17次ＳＢ04のような大型建物を村落寺院とした先の見解（註26）を裏付けるもので、仏堂と祭祀の場が一体となった在り方が考えられよう。なお、祭祀の場となった谷部斜面上には何らかの施設が存在した可能性があるが、今ではまったく分からない。

平安時代　先にも述べたように、谷部内からは８世紀後半に祭祀遺物を含む須恵器・土師器が大量に出土したが、９世紀に入ると遺物はまったく認められない。次に遺物が確認できるのは10世紀に入ってであり、遺物量が急増するのは11世紀後半～ 12世紀前半である。この時期の遺物には、土師器には小皿ａ・小皿ｃ・三脚付小皿・杯ａ・丸底杯ａ・椀・三脚付椀・器台・鉢・壺、黒色土器はＡ・Ｂ類椀、瓦器は椀、陶磁器では白磁・青白磁・陶器、石製品では石鍋・バレン状製品・臼形・権状製品、鉄製品では刀子、銅製品では鈴、木製品では折敷・刻み目を施した板・箸・刀子の



第173図　7次調査谷部出土祭祀遺物と建物群（11世紀後半～ 12世紀前半）

柄・相輪形・舟形・鳴鏑・砧形・下駄・題箋軸、土製品では棒状土製品・土玉・鞴羽口、その他鉄滓・馬歯・呪符木簡・モモ・クリ・マツの種実など多彩である。このうち、土師器小皿・丸底杯には内外面煤が付着するものが多い。また丸底杯の中には、内面に「大日如来」、外面に「醫王」「黄世」「乳院」「之坏」「いわう」「わう」の文字が書かれるものがある。また、呪符木簡は３点あり、２点はそれぞれ男女の顔を描き「急々如律令」の文言を記し、１点は片面に「壱弐参肆伍陸七柒捌玖拾佰仟仂億斛斗升」、もう一面には「□十□□」と「大天□天」と書かれる（註27）。

このように、11世紀後半～ 12世紀前半の遺物には祭祀遺物が多く含まれる。祭祀遺物の内容は、奈良時代に多かった墨書土器は非常に少なくなり、代わって木製形代が増えている。谷部は第Ⅱ章で述べたように、この時期Ａ～Ｃ区にかけて浅い溜り状を呈し、Ｄ区にはＳＫ01が掘りこまれている。遺物出土状況を見ると、土師器をはじめとする土器類はＡ～Ｄ区に多く、特にＤ区およびＳＫ01に小皿・丸底杯が大量に投棄されている。また、墨書土器「大日如来」や木製形代・馬歯もＤ区に集中する。これらから、谷部Ａ～Ｃ区のように浅く水がたまる場所があり、Ｄ区ＳＫ01へむかって流れ込む状況がうかがえる。土器類や木製形代など祭祀遺物の出土はＤ区に中心があり、斜面上方からの投棄が考えられる。

また、西側に隣接する10次調査では丘陵斜面を造成して平坦面を造り、掘立柱建物（10次ＳＢ01）・柵列を設けており、時期は11世紀後半～ 12世紀前半と考えられる。平坦面は途中で削平されるが、谷部に沿って下るようである。10次ＳＢ01周辺からは土器以外の遺物が出土していないため建物の性格は明らかではないが、斜面下方の谷部内から「大日如来」墨書土器や呪符木簡・木製形代をはじめとする同時期の祭祀遺物が多量に出土することは、建物が祭祀に関わる何らかの施設と考えるのが妥当と思われる。谷部出土の祭祀遺物には呪術性の高いものと仏教的なものが入り混じっており、神仏習合形態をとることは明らかである。このことから、10次ＳＢ01はこうした祭祀を執り行う草堂のような施設であった可能性が高い。谷部Ｃ区上にある柱穴列も同様の施設である可能性を持つ。明治時代の初めに編纂された『福岡県地理全誌』には、上大利村の古蹟として「本堂寺。村ノ西南一町。小山ノ上ニアリ。」（註28）と失われた寺の存在を伝えている。本堂10次ＳＢ01の立地と小字名の一致は、その記述の蓋然性を感じさせるものである。

牛頸窯跡群と村落寺院　本堂遺跡群周辺の遺跡に目を向けると、同様の性格を持つ遺跡として九州大学筑紫キャンパス内遺跡がある。７次調査地からは北西約１ｋｍと至近に位置する。調査地は、第２次大戦後の米軍春日原ベースの建設により完全に旧地形を失っているため遺構は確認されていないが、13Ｌ・Ｍ区ＳＤ701溝からは「寺」などの墨書土器や木簡が出土している。遺物の時期・内容は本堂７次調査とまったく同じであり、地形的にも同様の丘陵部であったと考えられる（註29）。また、本堂遺跡群内では、６次調査で確認されたＳＸ06から須恵器水瓶・仏鉢・稜椀が出土した。遺構は、斜面に不整形の竪穴状の掘り込みが認められるのみで明らかではない。同様の遺構は、１次ＳＸ35でも確認されており、須恵器仏鉢が出土した。このように、本堂遺跡群では12・17次ＳＢ04のような大型建物が出現する以前に、水瓶・仏鉢を含む遺構が確認されており、どのような形態の建物があったか分からないが丘陵裾部に祈りの場所が存在している。しかし一方で、７次調査地谷部の南側で調査された５次調査では、７世紀中頃から９世紀前半にいたるまで連綿と

須恵器窯の操業がおこなわれており、特に８世紀中頃～後半は盛んに操業をおこなっている（註30）。生産された製品には瓦塔も含まれており、あるいは12・17次ＳＢ04のような仏堂に供給する目的であったかもしれない。

このように、牛頸窯跡群では８世紀中頃を境に本堂遺跡群周辺に仏教施設の新設が認められる。それらの施設での活動は、須恵器窯の操業と並行しておこなわれるが、墨画土器に見るように先端の仏教的知識を受容したものであった。８世紀後半には、12・17次ＳＢ04における仏堂と７次谷部のような祭祀の場が機能していたが、その期間はわずかで９世紀以降には継続しないと考えられる。

北部九州の仏教施設について、宮田浩之氏は、仏教関連の遺構・遺物が公的施設・郡司層の居宅とされる集落に検出例が多いことを指摘している（註31）。本堂遺跡群は丘陵部を中心に調査が進められたが、東側に隣接する平地部の上園遺跡の様相は十分に明らかになっていない。ここは牛頸窯跡群開窯の地であり、丘陵部において須恵器窯の操業が連綿と続くことから、長期間にわたる集落の存在が十分想定できる。したがって、現時点では本堂12・17次ＳＢ04を仏堂とする「村落寺院」が存在したと考えておくが、今後、周辺遺跡の調査を進めることで改めて寺院の内容について検討していきたい。（石木）

６．福岡県内における製鉄・鍛冶の様相

はじめに　梅頭・本堂遺跡群では、調査区内から７～８世紀のものと考えられる鉄滓が出土した。当時九州最大の窯業地の集落で鉄・鉄器生産の痕跡が見られたことから、窯業と鉄器生産の共存するあり方がうかがえる。

ここでは牛頸窯跡群に関する鉄生産について概観する前に、福岡県内の鉄滓等、製鉄・鍛冶関連遺物・遺構を集成することで、福岡県内における弥生時代から近世に至るまでの製鉄・鍛冶の様相を見ていくことにしたい。ただし、報告書では鉄滓が出土しても文章のみの記載であったり、報告されないことも多く、集成には課題も多い。

研究略史　福岡県下で遺跡から出土する鉄滓を元にした研究は、鉄生産に関わる問題として県下では福岡平野を中心に行われてきた。それは福岡平野西部域で多くの資料が得られ、鉄の大生産地であったことに起因しよう。和白遺跡の調査を契機とした三島格氏の鉄滓出土遺跡の地名表作成（註32）を経て、1977年の広石古墳群の報告の中で柳沢一男氏が福岡平野周辺の鉄滓供献古墳32例、鉄滓出土遺跡89例の地名表を作成した（註33）。鉄生産・鉄滓供献に主眼を置き、分布の様相・年代についてその傾向をまとめている。1983年には、大澤正巳氏が古墳出土鉄滓に着目し、全国の鉄滓供献古墳を集成し、科学的な分析とあわせて検討した。その中で６世紀中頃を境に古墳へ供献される鉄滓が鍛冶滓から製錬滓へ変わることを指摘する（註34）。2002年には花田勝広氏が、宗像を中心に北部九州の須恵器・鉄器・滑石製玉つくりなどの生産遺跡を取り上げ、倭政権による技術移植の施策を説いている（註35）。近年の研究では、長家伸氏が福岡西部地域の鉄・鉄器生産と渡来人の影響について論及したもの（註36）や、県内の８・９世紀の製鉄炉を集成した研究が

表70　製鉄・鍛冶関連遺跡並行関係表

	糸島～今宿	早良平野	福岡平野北部	福岡平野南部	糟屋	宗像
弥生時代		松木田遺跡3次 西新町遺跡8次 宮の前遺跡E地点	(雀居遺跡？)	赤井手遺跡 仁王手遺跡 須玖磐石遺跡 須玖唐梨遺跡		大井平野遺跡
古墳前期		松木田遺跡3次 西新町遺跡12・17次	博多遺跡群59・65次	松木遺跡		
5世紀	三雲遺跡	次郎丸遺跡 クエゾノ5号墳△ 吉武S一8・27号○ 吉武遺跡群 大又遺跡	樋井川B遺跡	松木遺跡 (原田34地点○△？) カクチガ浦△		(勝浦穴田遺跡？) 在自三本松遺跡 勝浦井ノ口遺跡 野坂一町間遺跡● 須多田ニタ塚○ 久原朧ヶ下遺跡
6世紀	今宿大塚古墳 女原谷ノ上遺跡 鋤崎古墳A群○ 徳永アラタ5号墳○ 相原C-9 号墳○ 桑原石ヶ元古墳群○ (徳永西遺跡)	梅林古墳○△ 金武2号墳○ 吉武S-5・11号○ 吉武L群○ 吉武K-7号○ 吉武G群○ 浦江2号墳○ 浦江SO-001○ 羽根戸E-3号○ 羽根戸南古墳群○ 倉瀬戸古墳群○ 草場古墳群○ 広石Ⅵ群○ 広石Ⅴ-1号○ 広石Ⅲ-1号○ 広石南-2号○ 広石遺跡群C地点 コノリ遺跡■ 野方新池遺跡■ 城田遺跡2次■ 吉武遺跡群 大又遺跡 重留村下遺跡■？ 梅林遺跡 干隈遺跡 有田・小田部遺跡 (大牟田遺跡●？)	三苦遺跡群2・3次 那珂遺跡72次 柏原古墳群○ (柏原M遺跡●？)	カクチガ浦△ 門田2号墳△ 向谷2号墳○ 西浦古墳群○ 春日平田遺跡◆		(勝浦穴田遺跡？) 生家釘ヶ浦遺跡 武丸高田遺跡● 徳重本村遺跡■ 須多田立石1・2号墳○ 相原E-1号○ 百田古墳群○ 朝町山ノ口5・6号△
7世紀	鋤崎古墳A・B群○ 飯氏古墳群○ 相原C-6・21号○ 桑原石ヶ元古墳群○ (鋤崎製鉄A遺跡■？) 藤原遺跡◆ 元岡・桑原遺跡26次 (徳永西遺跡)	飯倉G1次■ 広石遺跡群C地点 広石Ⅵ群○ 影塚1号○ 早苗田D-10 号○ 吉武L-1・3号○ 吉武G群○ 倉瀬戸古墳群○ 金武乙石C・H群○ 羽根戸N群○ 羽根戸南古墳群○ 羽根戸B-5号○ 西山A-1号墳○ 野方古墳群○ 草場古墳群○ 七隈8号○ 駄ヶ原C-3号○ 大谷古墳群○ 三郎丸B群○ 城田遺跡2次■？● (クエゾノ遺跡■？)	柏原古墳群○ (柏原M遺跡●？) 三苦永浦遺跡 那珂遺跡86次	春日平田遺跡◆ 平蔵遺跡 龍頭遺跡 下梶原前遺跡 古水遺跡 (門田遺跡■？) 梅頭遺跡2次 牛頸本堂遺跡 日焼遺跡7次■ 大宰府政庁跡 大宰府条坊跡 池田遺跡■◆ 池田古墳群○ 観音山古墳群○	古野14号墳○ (清水遺跡？)	今川遺跡● 清田ヶ浦古墳群○ 百田古墳群○
8世紀	大原A遺跡■ 元岡・桑原遺跡■●◆ 八熊遺跡■◆ 飯氏遺跡8次■● 蓮輪遺跡 今宿高田遺跡 徳永A遺跡 曲り田遺跡 塚田遺跡● 奈良尾遺跡● (前原西町遺跡●?) (木船・三本松遺跡?) 野方塚原遺跡 (徳永西遺跡)	コノリ遺跡■ (クエゾノ遺跡■？) 浦江谷遺跡1次● 浦江谷遺跡2次■◆ 都地泉水遺跡■ 金武乙石2次■ 下山門遺跡■ 笹栗製鉄遺跡■ 城田遺跡2次■● 内野原田遺跡1次■ 浦江5次● 野方平原遺跡 大坪・大坪南遺跡 四箇遺跡群 (東入部10次●？) (有田遺跡群■？) (有田・小田部遺跡■?)	(柏原M遺跡●？) 吉塚遺跡群 多々良込田遺跡 海の中道遺跡 博多遺跡群 三苦遺跡群1次 吉塚遺跡9次	笹原70号窯◆ 日焼遺跡7次■ 龍頭遺跡 牛頸本堂遺跡 前田遺跡1・4・7・8次 観世音寺 大宰府政庁跡 大宰府条坊 宝満山遺跡群23次■●◆ 京ノ尾遺跡4次	一ノ井手B遺跡● 前田遺跡 (清水遺跡？)	在自下ノ原遺跡 浦谷古墳群H-4号○
9世紀	大原D遺跡■ 塚田遺跡● 曲り田遺跡● 竹戸遺跡● 野方塚原遺跡 波多江遺跡 (徳永西遺跡)	東入部遺跡4次■ (クエゾノ遺跡■？) (有田・小田部遺跡■?) (東入部10次) 大坪・大坪南遺跡 田村遺跡 十郎川遺跡	和白遺跡■● 湯ヶ浦遺跡■ 海の中道遺跡 野多目A遺跡 鴻臚館跡 (三宅廃寺？)	観世音寺	(清水遺跡？)	在自下ノ原遺跡
10世紀	(徳永西遺跡)	(有田・小田部遺跡■?) (東入部10次●？) 田村遺跡 十郎川遺跡	箱崎遺跡 海の中道遺跡	観世音寺		
中世	東真方遺跡■ 今宿遺跡■ 森田遺跡 赤岸遺跡 今山遺跡	田村遺跡5次 安通遺跡 東入部7次(7～8C？) 東入部1・5次 (東入部10次●?) 上広瀬2次◆ 脇山A4次● 下山門乙女田3次 有田・小田部遺跡	博多遺跡群● 日佐遺跡 多々良遺跡 大橋E遺跡 住吉神社遺跡	牛頸石坂E地点◆ 宝満山遺跡群 観世音寺 鉾の浦地区 三笠川南条坊遺跡 馬場遺跡 野藤遺跡 川原遺跡 塔ノ原廃寺	(楠浦・中里遺跡？) 極田・杉ノ木遺跡 戸原麦尾遺跡	練原遺跡● 津丸高平経塚 野坂ホテ田遺跡 冨地原森遺跡 光岡辻ノ園遺跡 冨地原小峰遺跡■
近世		有田・小田部遺跡70・71・105次	博多遺跡群70次●			恋の浦鉄山

（製鉄炉－■　鍛冶炉－●　横口付炭窯・炭窯－◆　鍛冶具副葬－△　供献鉄滓－○　）

遠賀	筑豊	北筑後	南筑後	北九州	京築
					安武・深田遺跡●
		池ノ上6号墳△ 生葉地区遺跡群	藤の尾垣添遺跡 (赤坂1号墳△?)	長野A遺跡 潤崎遺跡(製錬滓)	末下前田遺跡
瀬戸遺跡■ 高丸・友田遺跡 尾崎天神遺跡● 金丸遺跡 (夏井ヶ浜遺跡？) (山鹿田屋遺跡？)	浦松遺跡 (水町A-13横穴○?)	力武内畑遺跡 横隈北田遺跡 花立山横穴墓群△ 鳥毛1号墳△ 妙見古墳群△	大道端遺跡 高野町遺跡	重留遺跡● 三郎丸遺跡 北方遺跡	長者原遺跡 黒峯尾10号墳
瀬戸遺跡■ 尾崎天神遺跡 (夏井ヶ浜遺跡？) (山鹿田屋遺跡？)	(水町A-8横穴○?)	西島遺跡 干潟遺跡 上岩田遺跡 横隈鍋倉遺跡 大板井遺跡 立野遺跡 宮原遺跡 金場遺跡 仁右衛門畑遺跡 堂畑遺跡 須川ノケオ遺跡■ 柿原古墳群○△ 南薫西遺跡		平等寺・新池坂本遺跡 (上清水遺跡Ⅱ区○？)	松丸F遺跡■◆ 菩提遺跡● 赤幡森ヶ坪遺跡●
(山鹿田屋遺跡？)	浦松遺跡	干潟遺跡 西島遺跡 大板井遺跡 塔ノ上遺跡 高原遺跡 柿原遺跡● 江栗遺跡 長田遺跡■ 筑後国府 別当山遺跡 押方A遺跡		片野遺跡 長野尾登遺跡 長野A遺跡	松丸F遺跡■◆ 延永水取遺跡 越路貴船遺跡 船迫小池遺跡 広幡遺跡 菩提遺跡
(山鹿田屋遺跡？)		念仏塚A地点 道蔵遺跡 小板井京塚遺跡 江栗遺跡	(イモジB遺跡◆？)	尾崎遺跡 (丸ヶ谷遺跡◆？)	菩提遺跡 延永水取遺跡 越路貴船遺跡 船迫小池遺跡 広幡遺跡 赤幡森ヶ坪遺跡●
(山鹿田屋遺跡？)		ヘボノ木遺跡65次	(イモジB遺跡◆？)	徳力遺跡	
旧芦屋小学校遺跡 上二貝塚 金屋遺跡	植木平遺跡	小郡野口遺跡 大保西小路遺跡 大崎東柿添遺跡 高樋小道遺跡 二十谷遺跡 畑田遺跡 芝刈小学校遺跡 古賀前遺跡 日渡遺跡 城崎遺跡2次 碇遺跡	(イモジB遺跡◆？) 鍛冶屋遺跡 大間遺跡 上庄秀遺跡 上北島篠島遺跡 鶴田牛ヶ池遺跡 水田下桜町遺跡 江口南村囲遺跡	室町遺跡 黒崎城跡 園田遺跡 小倉城跡 潤崎遺跡第8地点 愛宕遺跡 朽網富宮遺跡 上貫遺跡4区● 井上遺跡Ⅰ区 白岩遺跡 新道時・天疫神社古墳 蒲生寺中遺跡3・4区 馬場山遺跡 辻田遺跡 茶屋ノ原遺跡	徳永川の上遺跡 本庄上ノ屋敷遺跡● 木井馬場井口遺跡 山鹿宮田遺跡 小山田・スルメ田遺跡 カヂヤ遺跡 伝法寺杉ヶ丸遺跡 上唐原稲本屋敷遺跡
金屋遺跡	たたら谷鉄山■◆ 日原鉄山■◆ 須崎町公園遺跡		矢加部町屋敷遺跡	黒崎城跡 小倉城跡 真名子鉄山	長谷川邸遺跡

ある（註37）。また、小嶋篤氏が供献鉄滓古墳の分析結果や木炭山の確保の必要性などから、鉄滓出土古墳の造営者が鉄生産に関わる人々であることを結論づけるとともに鉄生産への公的権力の介在を想定する（註38）。これらの研究は鉄生産や鉄器生産を明らかにする上で重要なものであるが、すべての製鉄・鍛冶関連資料を集成したうえで地域的特性や傾向に論及したものはない。よって今回は県内の製鉄・鍛冶関連遺物の資料集成をし、地名表を作成してからその傾向を見ることにする。

製鉄・鍛冶関連遺物出土遺跡とその傾向　福岡県内出土の製鉄・鍛冶関連遺物を、各報告書・論文をもとに集成した。鉄滓の出土地だけでなく、鍛冶具や鞴羽口・炉壁・炭窯等の出土地も参考として取り上げている。また、鉄滓の出土を記すのみで詳しい出土状況は不明のものも多い。加えてその性格から遺物と共伴しないことも多く時期が不明なものが多数ある。現段階において432遺跡で製鉄・鍛冶関連遺物が確認できた。また鉄滓供献古墳は混入の可能性もあるものも含め148例あるが、出土状況の検討からふるいにかける必要があろう。以下、地域ごとに製鉄・鍛冶・供献鉄滓の様相を見ていく。

糸島・今宿地域　糸島・今宿地域は、本稿では二丈町から長垂山に挟まれた地域を指す。この地域で５世紀と考えられる製鉄・鍛冶関連遺物は三雲遺跡437番地から出土した鍛冶滓がある。６世紀の例として今宿大塚古墳の墳丘内から採取された鉄滓があり、これ以前からの製鉄・鍛冶活動をうかがわせる。この時期の製鉄炉はまだ出土していないが、６世紀後半と考えられる女原上ノ谷製鉄址の土坑から製錬滓が出土している。また、６世紀中頃から古墳への供献例が認められる。この地域では６世紀中頃から７世紀後半にかけて盛行し、鋤崎古墳群A群（８基）・B群（１基）、元岡石ヶ元古墳群（６基）、飯氏古墳群B－14号墳、徳永アラタ５号墳、相原古墳群（４基）の例がある。ただし鉄滓の供献は、古墳築造後のいつの段階で供献したかを決めるのは難しいため、供献の時期については注意を要する。また、鍛冶具を副葬する古墳に元岡石ヶ元12号墳や元岡・桑原A－２・４号墳がある。製鉄関連遺構については、７世紀に製錬炉が確認され始め、８世紀には元岡・桑原地区で極めて大規模な鉄生産を開始する。７世紀と考えられる製鉄関連遺構として福岡市鋤崎製鉄A遺跡の製錬炉・横口付炭窯や志摩町藤原遺跡の横口付炭窯があり、元岡・桑原遺跡群では８世紀中頃～後半にかけて50基近い製鉄炉が検出される。さらに、硯や木簡、帯金具、墨書土器など官衙的な遺物が出土することから官主導の様相が見られる。また、志摩町八熊製鉄遺跡（８C後半）や福岡市飯氏遺跡８次（古代？）、大原A遺跡（８C前半～）で製錬炉が検出されている。この頃の鉄滓出土遺跡は塚田遺跡・蓮輪遺跡・奈良尾遺跡・今宿高田遺跡・徳永A遺跡があり、塚田遺跡や奈良尾遺跡では鍛冶炉が出土している。９世紀になると志摩町竹戸遺跡・曲り田遺跡、前原市波多江遺跡などで鉄滓が出土し、福岡市大原D遺跡（９C前・後半）では製錬炉が、塚田遺跡や曲り田遺跡Ⅲb地点等では鍛冶炉が出土している。10世紀～中世期には志摩町赤岸遺跡の鍛冶炉や前原市東真方遺跡の製錬炉、今山遺跡などがある。当地域での製鉄は８世紀の元岡・桑原遺跡群をピークとし、９世紀の大原D遺跡の頃までつづくが、それ以降衰退する。なお、この地域は柳沢氏の地名表でわかるように、発掘調査は行われていないが鉄滓が採取される遺跡が多く存在し、今後の調査でより具体的な製鉄・鍛冶の様相が明らかになろう。

早良平野地域　福岡県内でも糸島～今宿地域とともに製鉄遺跡の多い地域である。まず西新町遺跡

で、弥生時代中期後半～末と考えられる遺構から鉄塊系遺物が出土する他、松木田遺跡の弥生時代中期後半と考えられる住居から椀形滓や鉄塊系遺物や炉壁が出土し、高度な鍛冶技術の存在が伺える。宮の前E地点では弥生時代後期終末から古墳時代初頭と考えられる鉄滓が出土し、松木田遺跡や西新町遺跡で古墳時代前期の鞴羽口や鍛冶滓を中心に鉄滓が出土する。５世紀代には次郎丸遺跡（５C前）で鞴羽口の出土例がある他、クエゾノ５号墳（５C後）では鍛冶具や鋳造鉄斧が副葬される。また、５世紀後半の吉武S－８号墳やS－27号墳で鉄滓が出土し、現段階で九州の鉄滓供献の最古例である。吉武S群では５・11号墳でも供献鉄滓が認められ、５世紀後半から６世紀中頃の間に鉄滓が供献されたと考えられる。また、吉武S群やL群では鋳造鉄斧を副葬する古墳がある。鋳造鉄斧は鉄鋌に変わる鉄素材として朝鮮半島から輸入されていたと考えられ、鉄生産との強い関連が伺える。さらに、吉武遺跡は５世紀～６世紀前半の北部九州では最も多くの渡来系遺物が出土する遺跡であることも注目される。

続いて６世紀代は製鉄炉や鍛冶炉が確認されるようになる。６世紀後半と考えられるコノリ遺跡（６基）や野方新池遺跡（２基）の製錬炉が知られるが、詳細は不明である。また、吉武遺跡群の住居址・土坑（５C後～６C後）や大又遺跡の住居址（６C前～中）、重留村下遺跡（６C前～７C初）、梅林遺跡（６C中～後）、干隈遺跡（６C～７C ）から鉄滓や炉壁が出土している。大牟田遺跡では7号墳の下から鍛冶炉2基が発見されていることから、７世紀以前の鍛冶活動が想定される。また、供献鉄滓も梅林古墳や吉武S・L群等で引き続き行われるほか、５・６世紀代で鍛冶具を副葬・供献する古墳に東入部0504墳（鉄鉗･鋳造鉄斧）、クエゾノ５号墳（鉄鉗･鉄鎚･鋳造鉄斧）、梅林古墳（鉄鑿？）がある。

６世紀後半から７世紀の間は、早良平野の山沿いの群集墳を中心に鉄滓供献を行う古墳が爆発的に増加する。広石古墳群（２基）、広石南古墳群（１基）、大谷古墳群（４基）、影塚１号墳、早苗田D－10号墳、七隈古墳群（１基）、羽根戸古墳群（２基）、羽根戸南古墳群（11基）、山崎古墳群（４基）、草場古墳群（４基）、三郎丸古墳群（３基）、金武・吉武古墳群（20基）、浦江１号墳、西山古墳群（１基）、野方古墳群（２基）、瀬戸口古墳群（１基？）、干隈A－２号墳、駄ヶ原古墳群（１基）、倉瀬戸古墳群（６基）、大牟田古墳群（５基）などの古墳で鉄滓供献が確認される。こうした状況に対し、早良平野内の古墳出土以外で７世紀代と確認されている製鉄・鍛冶関連遺物・遺構は驚くほど少ない。1977年の集成の段階で７世紀と考えられるものは殆どなかったが、それから31年が経った今も状況に大差はない。この頃の早良平野の製鉄・鍛冶関連遺構は、クエゾノ遺跡の製鉄炉が７～９世紀のどこかに推定されるほか、飯倉G遺跡１次で６世紀末から７世紀初頭かと考えられる製鉄炉が出土し、城田遺跡２次５・６・７区で７世紀後半と考えられる鍛冶炉が出土している。また、未報告であるが城田遺跡２次14区で６世紀後半から７世紀とされる精錬遺構が確認されているらしい。また広石遺跡C地点（６C末～７C）では住居址や土坑から鉄滓が出土し、付近に供献鉄滓のある広石古墳群があることから、その関係が注目される。製鉄・鍛冶遺跡と鉄滓供献古墳との関係を解明したいところであるが、他にこの時期の資料はなく、資料不足は否めない。集落域で少量の鉄滓が散発的に出土する状況でもないことから、未調査地区で７世紀の段階に大規模な製鉄工房を形成し、製鉄～鍛冶一貫して行っていた可能性もある。未調査の鉄滓散布地も多く、

今後の調査が期待される。

８・９世紀代の資料になると製鉄･鍛冶関連遺物･遺構の発見例は急増する。浦江谷遺跡（９C～）や都地泉水遺跡（８C)、金武遺跡３～５区（８C)、コノリ遺跡（８C後？)、東入部遺跡４次（９C)、下山門遺跡（８C～)、笹栗製鉄遺跡（８C)、有田・小田部遺跡（８～ 12C）で製鉄炉が出土している。なお、浦江谷遺跡では横口付炭窯１基も出土している。吉武遺跡群（８～ 11C ）では官衙遺構に伴い、13基の鍛冶炉が出土した。この他製鉄・鍛冶関連遺物が出土した遺跡は野方平方遺跡（８C～)、大坪遺跡（８～９C)、田村遺跡（９～ 10C）などがあげられる。10 ～ 11世紀には十郎川遺跡（９～ 10C) や入部遺跡（11 ～ 12C) で鉄滓や鞴羽口が多く出土する。中世期には有田･小田部遺跡（古墳～中世）や田村遺跡（古代～中世)、羽根戸遺跡（古墳～中世)、東入部遺跡５次（中世？)、樋井川A遺跡（15 ～ 16C)、大橋E遺跡（中世）などあるが、年代の特定しがたいものが多い。また早良平野は時期が下がるに連れ、平野の奥部に立地する遺跡が増加する。

福岡平野北部地域　福岡平野北部地域では、雀居遺跡から弥生時代後期後半と考えられる鞴羽口が出土している。羽口の先端には滓が付着するらしいが、実見していないため鉄か銅か不明。下って、古墳時代初頭の博多遺跡群59・65次では鍛冶関連遺物が出土している。鞴羽口は断面蒲鉾型で特異な形態である。また、鍛造剥片や粒状滓が出土し、鍛冶が行われていたことがわかる。５～６世紀前半の資料として樋井川Ｂ遺跡（５C後）で炉壁が出土し、東部地域では三苫遺跡から出土した鍛冶滓や、那珂遺跡（６C後）の住居址から鍛冶滓の出土例がある。西部地域では柏原古墳群で６世紀中～後半頃から鉄滓供献が認められ、時期は特定できないが柏原M遺跡で古墳～古代にかけてとされる製鉄炉・鍛冶炉が発見されており、古墳群との対応関係が注目される。

７世紀代は三苫永浦遺跡（７C前)、那珂遺跡（７～８C）で鍛冶滓が出土し、８世紀には吉塚遺跡や多々良込田遺跡、海の中道遺跡、博多遺跡群などで鞴羽口や鍛冶滓が出土する。９世紀には和白遺跡や湯ヶ浦遺跡で製鉄炉・鍛冶炉状遺構が確認され、野田目A遺跡、鴻臚館跡などで鉄滓が出土している。10世紀後半～ 11世紀中頃は箱崎遺跡から鞴羽口が出土する。中世期になると博多遺跡群で鋳造・鍛冶関連遺物が多量に出土し、活発な活動が伺える。

福岡平野南部地域　福岡平野南部地域では弥生時代中期末～後期に鍛冶工房が存在し、鋳銅や小鍛冶が行われていた。小鍛冶が行われていた遺跡として仁王手遺跡や赤井手遺跡などが上げられ、切断鉄片や鍛冶炉が出土している。それ以降連続した鍛冶の痕跡は確認されていないが、那珂川町松木遺跡の古墳時代前期の住居址から鍛冶滓が出土している。５世紀になると同じく松木遺跡で５世紀初頭から中頃と考えられる鉄滓が出土するほか、５世紀代とされる筑紫野市原田地区34地点の古墳３基から鉄滓の出土が伝えられる。また、那珂川町カクチガ浦６･10号墳（５C後～６C前）や原田地区34地点21号墳（５C）で鍛冶具が副葬される。６世紀なると春日市門田２号墳（６C前）で鍛冶具副葬が見られ、西浦古墳群２・３号墳（６C後）では鉄滓を供献、７世紀には大宰府市池田１・２号墳（７C前～中)、那珂川町観音山古墳群５・６・13・20号墳（７C前～後）で鉄滓供献が行われる。さて、６・７世紀代の墓域以外からの出土状況を見ると、６世紀代と断定できる鍛冶炉・製鉄炉は確認されていない。春日市門田遺跡辻畑地区で製鉄炉が出土しているが、年代は不明。また、春日平田遺跡で集落の一画から６世紀後半～７世紀初頭と考えられる横口付炭窯１

基が確認されている。７世紀以降になって鉄滓や鞴羽口が出土する遺跡が増加し、那珂川町平蔵遺跡（７C中～後)、龍頭遺跡（７C中～８C前)、下梶原前遺跡（７C後)、春日市古水遺跡（７C後)、門田遺跡（古墳後～中世)、大野城市牛頸本堂遺跡７次（７C後～)、太宰府市日焼遺跡７次（７C後～８C中)、大宰府政庁址（７C後)、大宰府条坊50次（７C前～８C）などがある。太宰府市池田遺跡では製鉄炉１基が出し、横口式炭窯４基が確認されている。年代を決める遺物は出土していないが、他地域の横口付炭窯の例を踏まえると７～８世紀のものか。また、日焼遺跡7次でも炉そのものは確認されていないが、製鉄炉の形状を反映する鉄滓が出土しており、鉄鉱石を原料とした操業がされる。８世紀代になると観世音寺付近や大宰府政庁、大宰府条坊、宝満山遺跡群、前田遺跡１・４・７・８次（８C中）などから製鉄･鍛冶関連遺物が出土する。宝満山遺跡群23次１区（８C初）では大型の製鉄炉と登り窯式木炭窯と鍛冶炉が出土し、工房のあり方が復元される。なお登り窯式木炭窯は本州や東国に多く分布する。中世には大宰府を中心に鋳造･鍛冶関連活動が見られ、宝満山遺跡群（11C末～ 12C中）や観世音寺地区（12C～ 14C ）、鉾ノ浦遺跡（13C後～ 14C初)、で大量の鋳造・鍛冶関連遺物が出土する。宝満山遺跡群では多量の鋳造関連遺物が出土し、観世音寺地区では大量の溶解炉壁、坩堝や取瓶の他、仏具・容器等の鋳型が出土し、鉾ノ浦遺跡では大量の鋳造関連遺物と、鋳型では梵鐘を中心に仏具、鍋などが見られ、活発な活動が伺える（註39)。また那珂川町平蔵遺跡や、春日市野藤遺跡、大野城市川原遺跡など周辺でも少量ではあるが鍛冶滓や鞴羽口が出土し、鍛冶が行われていたことがわかる。

糟屋地域　糟屋地域では現在のところ７世紀以前の製鉄・鍛冶遺構・遺物は発見されていない。７世紀代になると古賀市古野14号墳（７C前）の鉄滓供献例がある。７世紀後半～９世紀と考えられる久山町清水遺跡１号土坑から鍛冶滓や鞴羽口の他、円筒状の甕型土器が出土しているが、甕型土器が鉄生産に関わるものかは不明である。８世紀には同じく久山町一ノ井手B遺跡では鍛冶炉、前田遺跡で鍛冶滓が出土する。中世期には古賀市極田・杉ノ木遺跡から鞴羽口が出土し、製鉄・鍛冶関連の活動が伺える。

宗像地域　宗像地域の５世紀代の製鉄・鍛冶関連遺物は、福津市の勝浦穴田遺跡（５C前半～６C後半）や勝浦井ノ口遺跡（５C前半)、在自三本松遺跡（５C前半～中)、須多田ニタ塚古墳（５C後半)、宗像市野坂一町間遺跡（５C前半)、久原朧ヶ下遺跡（５C）で出土している。福津地域出土のものはすべて鍛冶滓で、須多田ニタ塚古墳の周溝内ピットから鍛冶滓が出土しており、供献品の可能性がある。野坂一町間遺跡では鍛冶炉が出土する。６世紀には福津市生家釘ヶ浦遺跡（６C)、宗像市武丸高田遺跡（６C前)、徳重本村遺跡（６C中？）の例がある。須多田立石１･２号墳（６C後半)、相原E－1号墳（６C)、百田古墳群A－１・B－２号墳（６C後半～７C）では鉄滓供献が行われ、朝町山ノ口５･６号墳では鉄鉗や鉄鎚などが副葬される。武丸高田遺跡では鍛冶炉が出土している。７世紀後半には福津市今川遺跡で、精錬に用いられたと考えられる炉が出土する。この頃も鉄滓供献は続き、清田ヶ浦古墳群や百田古墳群A－11号墳などで確認できる。８世紀になっても鉄滓供献は行われ、浦谷古墳群H－４号墳では鉄滓を須恵器の壺に１個入れて埋納していた。在自下ノ原遺跡でこの頃の鉄滓や鞴羽口が出土しているが様相は明らかでない。中世になるとまた鉄滓や鞴羽口の出土が顕著になり、福津市練原遺跡や宗像市冨地原森遺跡・光岡辻ノ園・武丸小伏遺

跡・三郎丸今井遺跡で出土する。

遠賀地域　遠賀地域は６世紀代に入ってから製鉄・鍛冶が行われる。岡垣町瀬戸遺跡（６C中～７C初）や高丸・友田遺跡（６C中～後）、金丸遺跡（６C中～）で鉄滓が出土し、特に瀬戸遺跡では箱形製錬炉が２基確認されている他、鉱石系製錬滓が出土している。瀬戸遺跡に近い遠賀町尾崎天神遺跡（６C後半～７C後半）でも多量の鉄滓が出土し、大規模な鍛冶活動が行われていたと考えられる。また、鉄鉱石を原料にした製鉄活動が行われていたこともこの地域の特徴であろう。８世紀になると、この地域での製鉄鍛冶活動は衰退するが、９世紀後半頃には尾崎・友田遺跡の住居址から鍛冶炉が検出される。詳細な時期は不明であるが、多量の鉄滓が出土する芦屋町の山鹿田屋遺跡の時期は10世紀頃であろうか。中世になると芦屋は芦屋釜で有名な芦屋鋳物師の拠点となり、金屋遺跡や旧芦屋小学校遺跡からは多くの鋳造関係遺物が出土している。また、詳細は不明であるが遠賀地域では鉄滓が出土する遺跡が多く確認されており、今後の調査でより活発な製鉄・鍛冶・鋳造活動の様相が明らかになるであろう。

筑豊地域　調査があまり及んでいないせいか、製鉄・鍛冶関連遺物が出土した遺跡は少ない。６・７世紀代のものとして香春町浦松遺跡（６C前～中）や直方市水町遺跡群Ａ－13号横穴（６C中～７C）の墓道から出土した鞴羽口、Ａ－8号横穴（７C）墓道出土の鉄滓がある。付近に製鉄・鍛冶遺構も確認されておらず、供献品の可能性が高い。８世紀の資料として香春町の浦松遺跡がある。中世は直方市の植木平遺跡の例があり、鞴羽口や焼土坑が出土している。この付近は近世期に本格的な製鉄が行われるようになり、宮若市に所在する黒田藩営の犬鳴たたら谷鉄山や日原鉄山がある。製錬滓や鍛冶滓が出土している他、製鉄炉や炭窯が確認されている。これら藩営のたたらは石見から技術者を招き、海岸線で取れる砂鉄で製鉄を行っていたらしい。また直方市の須崎町公園遺跡では鍛冶滓が出土している。

北筑後地域　北筑後地域では５世紀の例として朝倉市池ノ上６号墳で鍛冶具（鉄鎚･鉄鉗）が副葬されているほか、５世紀前半と考えられる生葉地区遺跡群ａ･ｂ地区の住居址から鉄滓が出土しているが、製錬滓か鍛冶滓かは不明である。６世紀の鉄滓出土例は現状では少なく、花立山や朝倉地域では６世紀後半頃に鍛冶具の副葬が目立つ。小郡市花立山２・４・６号横穴墓、筑前町鳥毛１号墳、朝倉市妙見古墳群で鉄鉗・鉄鎚・鉄鑿などが副葬される。これに対し、墓域以外での製鉄・鍛冶の痕跡は、横隈北田遺跡の住居址から鞴羽口が出土している程度である。こうした状況から、この時期の製鉄・鍛冶関連遺物が今後増えることが期待されよう。７・８世紀代になると製鉄・鍛冶関連遺物が出土する遺跡は一気に増加する。まず、朝倉市柿原古墳群では７世紀を中心に12基の古墳で鉄滓供献が行われる他、Ｄ－１・11・18・26号墳からは鉄鑿や鞴羽口が出土している。小郡市上岩田遺跡や干潟遺跡群や西島遺跡・横隈鍋倉遺跡・大板井遺跡、朝倉市立野遺跡・宮原遺跡・金場遺跡、うきは市仁右衛門畑遺跡・堂畑遺跡等、集落からの鍛冶滓の出土例が増加する他、朝倉市須川ノケオ遺跡（７C～８C）では砂鉄をもとに操業する製鉄炉が出土している。こうした現象は８世紀代も続き、小郡市干潟遺跡・西島遺跡・大板井遺跡、朝倉市塔ノ上遺跡・高栗原遺跡等で鉄滓や鞴羽口等が出土している他、朝倉市柿原遺跡群では鍛冶炉、江栗遺跡では鍛冶工房が確認され、同市長田遺跡（８C前）では箱形製鉄炉の他、砂鉄貯蔵穴から43kgの砂鉄が出土した。また

この頃から、筑後国府近辺で鉄滓等、鍛冶関連遺物が出土するようになることも注目される。９世紀代になると７～８世紀代に見られた製鉄・鍛冶遺跡が操業しなくなる一方で、三潴郡衙跡とされる道蔵遺跡では小量ながら鉄滓が出土している。また、小郡市小板井京塚遺跡で鉄滓が出土しているほか、朝倉市江栗遺跡でも９世紀後半頃の鍛冶滓が出土している。10世紀代は久留米市ヘボノ木遺跡（10C中頃）の例がある。中世になると、小郡市６遺跡、三井郡１遺跡、朝倉市３遺跡、久留米市４遺跡が確認される。科学分析がなされたものが少ないので製錬・鍛冶の区別はつけがたいが、出土量が少ない点を考慮すると鍛冶が行われていたようである。各地から鉄滓・鞴等が出土するようになることをから、中世期には鍛冶はかなり生活に密着していた様子がうかがえる。

南筑後地域　南筑後地域は５世紀代の例として藤の尾垣添遺跡から鞴羽口が出土している。また、古墳に伴うものかは不明であるが、赤坂１号墳（５C末～６C初）の周溝から鞴羽口が出土している。６世紀代には、みやま市大道端遺跡（６C後半）から製錬滓と鍛冶滓が出土している他、八女市高野町遺跡（６C中～後半）から鞴羽口が出土する。古墳時代の製鉄・鍛冶遺構は発見されていないが、大道端遺跡から製錬滓が出土していることから、６世紀には製錬から鍛冶までの一連の工程が行われていた可能性もある。古代から中世にかけては、山川町イモジB遺跡がある。イモジB遺跡は多量の製錬滓・鍛冶滓が出土し、焼土坑や廃滓坑、炭窯があることから、製鉄～鍛冶までの作業を行っていたことがうかがえる。中世には筑後や大牟田での鍛冶活動は小規模のものが点在する。近世には矢加部町屋敷遺跡で鋳造関係と考えられる遺物が出土している。

北九州地域　北九州地域では、５世紀の製鉄・鍛冶関連遺物が出土した遺跡に長野A遺跡と潤崎遺跡がある。５世紀前半と考えられる長野A遺跡３区３号住居からは鉱石系の可能性がある鍛冶滓が出土している。５世紀後半と考えられる北九州市潤崎遺跡からは、多量の製錬滓が出土している。製鉄遺構は出土していないが、この近辺で製鉄を行っていたのであろう。また、ここから栄山江流域系の陶質土器と考えられる甕が出土しているのも注目されよう。６世紀には重留遺跡第４地点（６C中頃）で鍛冶工房が発見されている。鍛冶炉とともに鞴羽口や鍛造剥片、粒状滓などが出土している。この地域で７世紀代と考えられるものは少ない。平等寺・新池坂本遺跡の住居址から鉄滓が出土している他、上清水遺跡Ⅱ区２号墳の玄室から鉄滓が出土しているが、近隣で古代～中世の鉄滓が出土するため、供献品であるかは不明である。８世紀代は製鉄遺跡と考えられる長野尾登遺跡第３地点や片野遺跡（８C前）がある。長野尾登遺跡の製鉄遺構は上部が削られ詳細不明。鉄滓・鞴羽口が出土している。９世紀代には銅を製錬したとされる尾崎遺跡があり、平安時代と推定される丸ヶ谷遺跡で製錬滓や炭窯が出土している。中世になると製鉄・鍛冶関連遺物が出土する遺跡は増加し、各地で鍛冶を行う様相が見て取れる。また、室町遺跡では小倉鋳物師に関連すると思われる鋳造関連遺物が出土している。近世では、小倉城内や城下、黒崎城下で鋳造関係遺物が多量に出土している。特に黒崎城は築城してすぐに廃城となって宿場町へと代わり、城の築城や城下の建設に関わるものとしても興味深い。

京築地域　京築地域では、築上町の安武・深田遺跡から弥生時代中期末と考えられる鍛冶炉が出土した。鉄片等も出土しており、弥生時代の鍛冶活動を探る上で重要である。古墳時代以降では５世紀前半～中頃と考えられる末江下前田遺跡から鉄滓や高杯の脚部を転用した鞴羽口が出土してい

る。６世紀の資料として行橋市長者原遺跡から出土した鉄滓がある。詳細な時期は決めがたいが、豊前市黒峰尾10号墳の墓道から鞴羽口が出土した。供献品であれば６世紀後半～８世紀の間の所産であろう。７世紀代の製鉄遺跡は、築上町松丸F遺跡がある。ここから箱形製錬炉１基、横口付炭窯６基、砂鉄貯蔵土坑が出土した。この頃の京築地区で出土する鉄滓の多くは鍛冶滓で、みやこ町菩提遺跡、築上町赤幡森ヶ坪遺跡の例があり、赤幡森ヶ坪遺跡からは鍛冶炉が出土した。続く８・９世紀も、現在確認されているのは行橋市延永水取遺跡や、みやこ町菩提遺跡、築上町赤幡森ヶ坪遺跡、広幡遺跡、船迫小池遺跡などがある。鉄滓が出土し、鍛冶炉や鍛冶炉周辺から鍛造剥片や粒状滓も出土した。９世紀の菩提遺跡では寺院に付随して操業し、鋳銅も行い、銅滓のほか鋳型が多く出土する。中世の製鉄・鍛冶関連遺物も多く確認されている。この時期は各地で鍛冶を中心に行っていたらしく、徳永川ノ上遺跡、本庄・上ノ屋敷遺跡、木井馬場井口遺跡、山鹿宮田遺跡、小山田・スルメ田遺跡、カヂヤ遺跡、伝法寺杉ヶ丸遺跡・上唐原稲本屋敷遺跡で鍛冶滓や鍛造剥片・粒状滓等が出土する。

福岡県内の製鉄・鍛冶　福岡県内の製鉄・鍛冶関連遺物を集成し、地域ごとに時期を追って傾向を見た。現状では、弥生時代には限られた地域で鋳銅などと共に鍛冶が行われていたらしく、製錬から鉄器生産を行っていた可能性は低い。鍛冶技術的に革新が見られるのは古墳時代前期の博多遺跡群の例であり、専用羽口や椀形滓が出土すること、鍛造剥片が多く出土することなどから見ると非常に高い温度・技術で操業していたことがわかる。

古墳時代中期以降、製鉄・鍛冶関連遺物の出土例は増加する。６世紀代の活発に鍛冶を行っていた地域として宗像、早良平野、福岡平野南部地域がある。北九州地域や京築地域、糸島～今宿地域でも確認されるが、現状では少ない。この頃から鍛冶具の副葬が見られるようになり、クエゾノ５号墳やカクチガ浦古墳、池ノ上６号墳の例がある。これら地域から渡来系遺物が多く出土する傾向があることから、指摘されるように渡来工人との関係は濃厚である。また、５世紀後半ごろから鉄滓供献が早良平野や宗像で始まる。

６世紀には各地で製錬滓が出土するようになり、製鉄・鍛冶の痕跡も増加する。６世紀後半ごろからコノリ遺跡、野方新池遺跡、重留村下遺跡、東入部遺跡、瀬戸遺跡で箱形製錬炉が発見されている。国内の鉄器生産技術について検討した村上恭通氏によれば、鉄生産は６世紀後半に国内の自立的鉄生産体制に移行するという（註40）。また、鉄滓供献がなされる古墳が増加するのも６世紀後半頃からで、小嶋篤氏は自立的鉄生産と供献鉄滓の風習の連動性を指摘する（註38）。さらに、大澤正巳氏によれば６世紀中頃を境に供献される鉄滓が鍛冶滓から製錬滓へ変化するという（註34）。こうしたことから６世紀後半を一つの画期とできよう。

７世紀代と考えられる製錬炉は瀬戸遺跡（６C中～７C初）、松丸F遺跡（７C初～８C）、須川ノケオ遺跡（７C～８C？）、鋤崎製鉄A遺跡（７C？）、日焼遺跡７次（７C後～８C中）、池田遺跡（７～８C？）などの例がある。鍛冶遺跡として城田遺跡や尾崎天神遺跡、龍頭遺跡、平蔵遺跡、立野遺跡、宮原遺跡、筑後国府などがあげられる。また、７世紀は鉄滓供献が最盛期を迎える時期であり、県内では糸島～今宿地域、早良平野地域、宗像地域、北筑後地域等で確認できる。供献鉄滓が７世紀代に最も盛行する糸島・今宿・早良平野地域であるが、時期別に検討を加えると、早良平野

では７世紀と考えられる製鉄・鍛冶関連遺物の集落からの出土は少なく、実態は不明である。広石C地点と広石Ⅵ群や金武の他にも鉄滓供献古墳群と対応するような鉄滓散布地も存在するが、年代が確定しない以上、安易に関係付けることはできない。この地域は古墳～中世・未調査の製鉄・鍛冶遺跡が集中し、その優位性が強調されることが多い。先述したように未発見の可能性も十分にあり、７世紀代の遺構が現在未発見なのか本来的に少ないのか難しいところである。同じ頃、逆に福岡平野南部や北筑後、京築などの他の地域で製鉄や鍛冶が活発化することも注目される。７世紀には663年の百済復興軍の大敗を機とした専守防衛策への転換から、水城や大野城が築城される。こうした防衛や工事に鉄が必要であることは明白であり、また水城の外は敵の侵攻の危機を常に伴う。推測の域を出ないが、こうした状況から、多数の製鉄･鍛冶工人が集められ、築城や鉄生産力保持・拡大のために水城の内側に移り、活動した可能性も考えておきたい。むろん原料確保などの問題から、糸島・今宿・早良に残る集団もいたことは出土した遺構や供献鉄滓のあり方から明らかである。こうした水城・山城の築城や国防策との関連も考慮する必要があろう。

また７・８世紀以降には官衙を軸に製鉄・鍛冶活動が展開され、大宰府や上岩田遺跡、筑後国府や三潴郡衙、吉武遺跡群などから製鉄・鍛冶関連遺物が出土することからも裏付けられる。また元岡・桑原遺跡群のように、官衙的な遺物が出土する大製鉄遺跡も出現する。

９世紀代の資料はやや少なくなるが、大原Ｄ遺跡や、東入部遺跡４次、和白遺跡や湯ヶ浦遺跡で製鉄炉が確認される。長家氏によるとこの頃から北部九州に竪形炉が導入され始め、これが８世紀と９世紀の鉄生産を画する現象であるとされる（註37)。

中世には博多・芦屋・小倉など鋳物師関連の遺物が多くするほか、大宰府や宝満山遺跡群や観世音寺跡で出土するなど、寺院に付随する活動も活発であることがわかる。また、少量の鉄滓や鞴羽口が各地で散発的に出土し、所謂村方鍛冶や野鍛冶が広まっているようである。

近世の資料は、黒崎城や小倉城等、城下の鋳造・鍛冶工房遺跡のほか、恋の浦鉄山や犬鳴たたら谷鉄山、日原鉄山など黒田藩営の近世たたらの痕跡を見ることができる。

まとめ　今回は福岡県内の製鉄・鍛冶関連遺物を集成した。福岡県内の実態としてどれくらい資料があり、どのような変遷をするのか明らかにすることを目的としたが、まだ十分ではない。課題として浮上したことを以下にあげていく。

鉄鉱石や砂鉄など原料の入手から鉄器に至るまでには、まず製鉄（製錬）という工程があり、生成された鉄塊を精製する作業（精錬鍛冶)、さらに鍛えて素材とし、製品を作る作業（鍛錬鍛冶）がある（註34)。当時の鉄生産において、製鉄から鍛錬鍛冶まで一連の工程を行う地区と、精錬から鍛錬鍛冶まで行う地区、製錬や鍛錬鍛冶のみを行う地区など、様々なケースに分かれていたことが想定される。鉄の流通や鉄器生産の様相を探るために、こうした製鉄・鍛冶の工程と遺跡から得られる情報を合わせることが重要であろう。鉄滓の外見だけでは判断しがたい上、科学分析の力によるところも大きく、この点で大澤氏の研究は重要である。

また、製鉄・鍛冶という作業は多くの木炭を必要とする。窯業や塩業でも多くの薪を必要とし、また人々の生活においても薪は必需品であるから、木炭山の確保は重要な課題となる（註38)。こうしたことを踏まえると、製鉄の契機となるのが公的権力であることは想像に難くない。牛頸の梅

頭４次１号窯跡から出土した木材の分析の結果、様々な種類・太さの木を利用していたことから、手当たりしだいに手近な樹木を利用するあり方が想定された（註41）。製鉄でも同じような森林利用をするならば付近の資源は枯渇することは明確であり、窯業・塩業など他の手工業生産の様相を絡めて製鉄遺跡の位置する場所についても今後検討する必要があろう。

さらに、個別の遺跡・遺構の分析を深化させ、製鉄・鍛冶遺跡相互の関係を明らかにすることや、他地域の様相・技術的な系譜関係の解明も必要であることはいうまでもない。（中島）

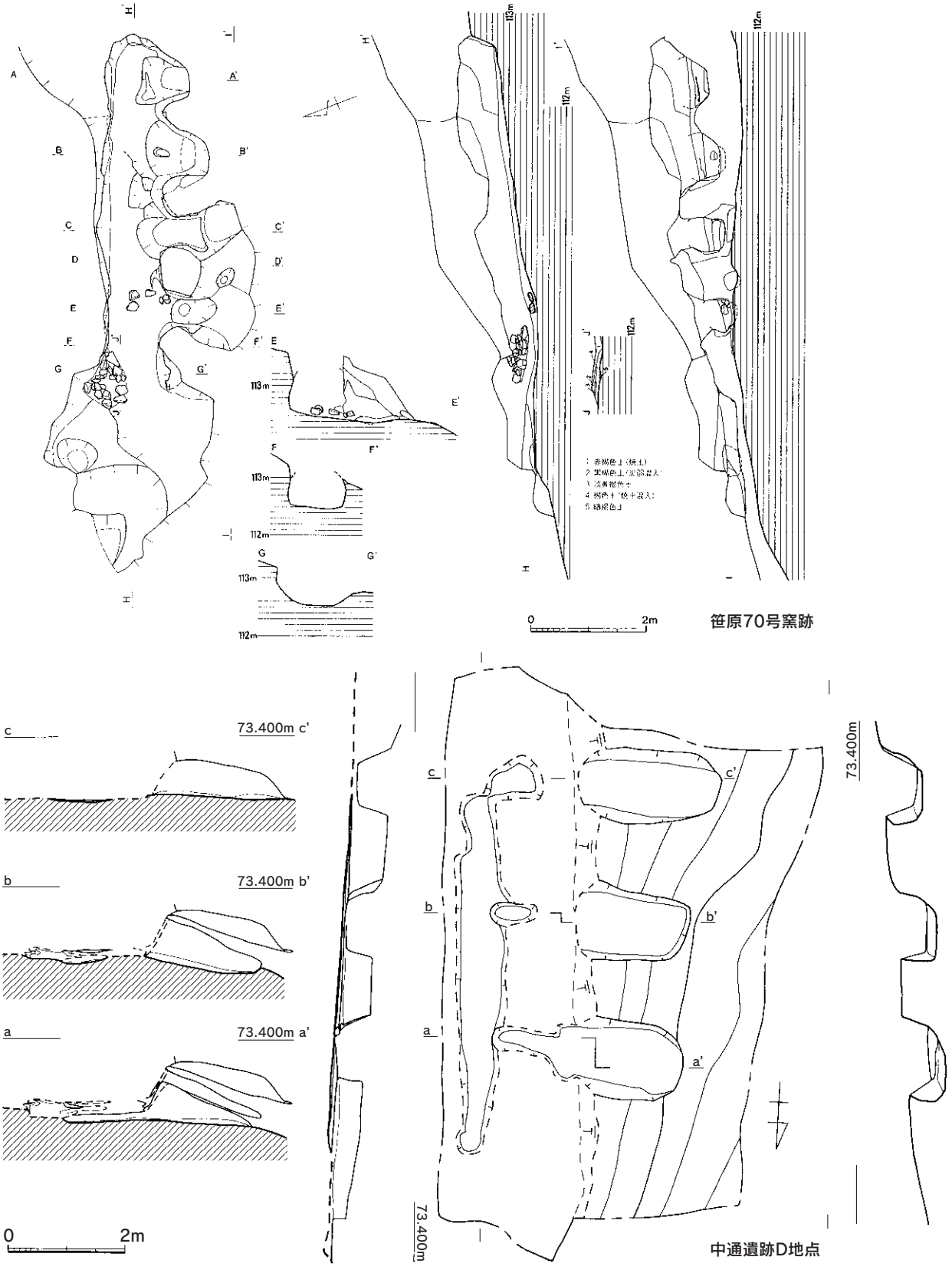
７．牛頸窯跡群と鉄生産

牛頸窯跡群は、九州最大の須恵器生産地である。これまでの調査で、須恵器窯の調査は300基近くおこなわれているが、鉄生産に関しては横口式炭窯が春日市平田遺跡（註42）・大野城市笹原70号窯跡（註43）で確認されている程度で、牛頸窯跡群内は須恵器専焼の窯業地帯として認識されていた。ところが平成15 ～ 16年にかけておこなわれた太宰府市日焼遺跡７次調査において７世紀後半～８世紀中頃に位置づけられる製鉄炉が確認された（註44）。また、上大利北土地区画整理地内の発掘調査でも、梅頭遺跡２・３次、本堂遺跡１・７・９・12・16・17次調査で鉄滓の出土が見られた（註45）。このことから、牛頸窯跡群の北部において鉄生産に関連する遺構・遺物が確認できることとなり、製陶と製鉄という二大手工業が操業地を同じくする可能性が浮かび上がった。

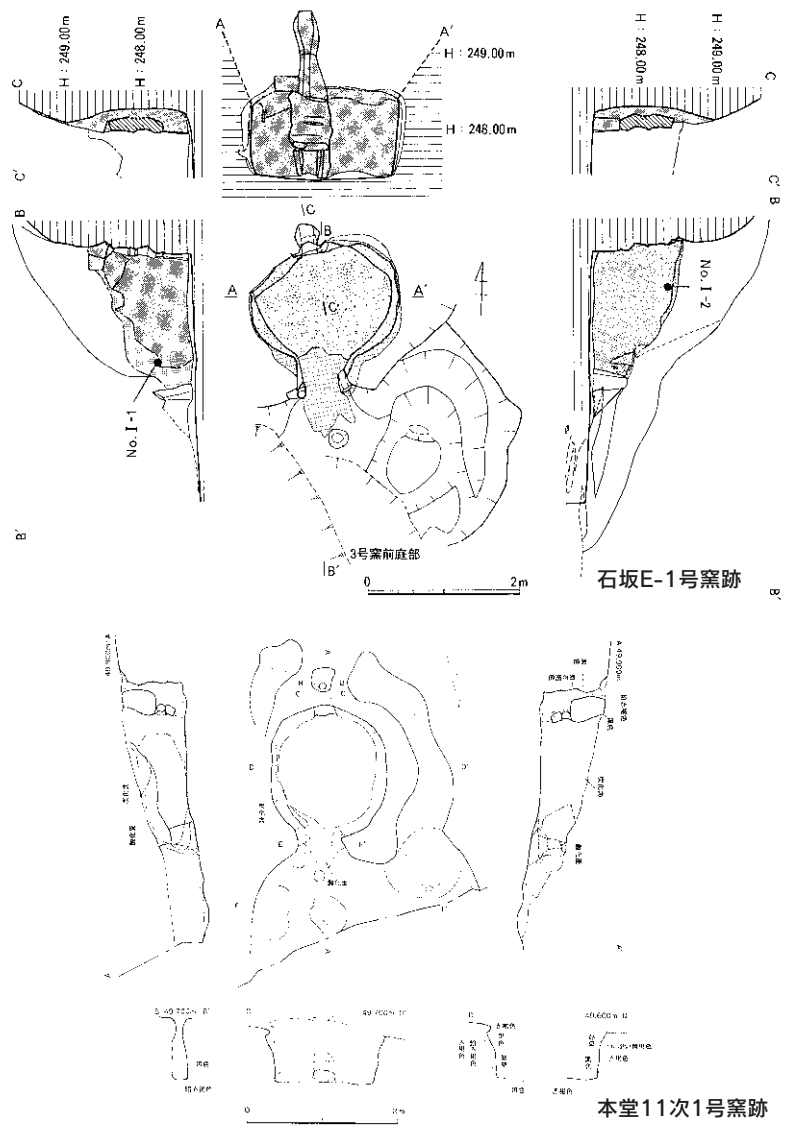
牛頸窯跡群内における森林利用　牛頸窯跡群周辺では、縄文時代以来の遺跡の展開が認められる。遺跡の多くは丘陵周囲の平地部に立地し、生活に要する燃料材あるいは木器製作に必要な木材を丘陵部に自生する森林から得ていたものと想定される。丘陵部に本格的に開発が及ぶのは、この地に須恵器窯の操業が伝えられた後の６世紀中頃以降にあたるが、窯の灰原等から出土した炭化材の分析結果からは周辺がすでに二次林化していたことが指摘されている（註46）。

窯の操業にあたっては、これまで知られている樹種同定の分析結果からは燃料材の選択に偏在性があったことは確認できず、梅頭遺跡４次調査１号窯跡の調査結果からは直径20㎝くらいの大型の燃料材を含み、周辺森林を皆伐するような形で窯焚きがおこなわれた可能性が指摘されている（註47）。ただし、大型の燃料材を使用する状況は６世紀から７世紀中頃に見られる大型の窯（全長10ｍ前後、焚口幅２ｍ程度）の操業では想定できるが、７世紀後半以降増加する小型の窯（全長５ｍ以下、焚口幅１ｍ以下）では径の大きな燃料材の必要性は低下している可能性が高い。したがって、牛頸窯跡群では６世紀～７世紀中頃の大型窯の操業段階にあっては周辺の森林がハゲ山と化すほどの伐採がおこなわれたと考えられるが、７世紀後半以降には径の細い燃料材を選択した可能性が考えられる（註48）。

牛頸窯跡群内での木炭生産　牛頸窯跡群では、少量ながら木炭窯の存在が知られている。木炭窯の種類としては、横口式タイプ（春日平田遺跡・笹原70号窯跡・中通遺跡Ｄ地点（註49））と平窯タイプ（石坂Ｅ－１号窯跡・本堂11次１号窯跡・後田72地点（註50））の２種類がある。時期の分かるものとしては、横口式タイプは春日平田遺跡が６世紀後半～末、笹原70号窯跡は８世紀前半



第174図　牛頸窯跡群内横口式炭窯（1／100）



第175図　牛頸窯跡群平窯タイプ炭窯（1／100）

以前。平窯タイプは、石坂Ｅ－１号窯跡が13世紀第２四半期から第３四半期（註51）、本堂11次１号窯跡は昭和40年代（註52）がある。

以上から見ると、横口式炭窯は牛頸窯跡群が操業中の８世紀以前に操業がおこなわれ、群の操業範囲内に点在することが分かる。平窯タイプの炭窯は牛頸窯跡群操業終了後に出現が確認でき、中世から現代まであまり形態を変えずに操業されるようである。現在でも山中にはこの種の炭窯が点在し、牛頸窯跡群の操業範囲外にも位置するようであるが、分布状況や基数から見ても生産量はそれほど多くなかったと思われる。

牛頸窯跡群内における鉄生産遺跡　牛頸窯跡群内において、製鉄炉が確認されたのは先に挙げた太宰府市日焼遺跡７次調査地があり、鉄滓をはじめ鉄生産に関わる遺物が確認された遺跡としては梅頭遺跡２・３次調査、本堂遺跡１・９次・16次・17次調査、前田遺跡４・７・８次、京ノ尾遺跡４次（註53）を挙げることができる。また周辺に目を移すと、向谷２号墳や西浦・観音山古墳群から供献鉄滓の出土が知られる（註54）。これらの遺跡は現在考えられている牛頸窯跡群の北側の春日・上大利・佐野支群（註55）の一部もしくは縁辺部に位置している。時期的に見ると、向谷２号墳の供献鉄滓が６世紀中頃と最も古く、前田遺跡で確認された鉄滓などは８世紀代まで下がる（註56）ようである。

このように、牛頸窯跡群では操業期間を通じて一部範囲を重複しながら、須恵器・鉄生産が平行しておこなわれている。今のところ、製鉄炉が確認されるのは７世紀後半以降であり、集落からの鉄滓出土が増加するのも７世紀以降のことである。須恵器・鉄生産が同時期・同一丘陵部に重複する佐野支群では、６世紀末頃の神ノ前２号窯跡を契機とし、以後南東側の宮ノ本丘陵へ須

恵器生産の場を移しながら８世紀後半まで生産を続ける。日焼遺跡の製鉄炉と同時期の窯跡を見ると、丘陵上方に位置しており、須恵器生産と鉄生産の場が分かれていた可能性が高い。また、春日・上大利支群では製鉄炉が確認されていないが、春日平田遺跡検出の炭窯は時期的に見ると須恵器窯の分布域とは分けられる可能性が高いと考えられる。

一方で、鉄生産に関わる遺構・遺物は笹原70号窯跡を除き牛頸川支群・平野川支群においては認めることができない。このことはこの地域が須恵器生産の場としての領域設定がなされた結果と見ることが可能であり、春日・上大利・佐野支群で須恵器窯と鉄生産遺跡が分布域も近接するが分けることができることを合わせると、全体に須恵器の生産地としての領域設定が操業開始期より緩やかながら存在したものと考えられる。

牛頸窯跡群は那津官家と関わりが深く、７世紀後半以降は宗像窯跡群が終息へ向かい、一国一窯体制に移る。この時期、群は663年の白村江の戦いをきっかけとする水城・大野城築造・大宰府の成立といった地域社会の変化に対応し、窯が小型化し、供膳具を中心とする生産へ変化している。一方鉄生産は、６世紀以降福岡平野西部の古墳群に対する鉄滓供献行為が取り上げられ、８世紀代にいたるまでの動向として「鉄生産集団の編成は古墳時代後期に形づくられたものが、奈良時代までその多くが継続していった」（註57）とされるが、７世紀代についてまとまった研究を見ない。唐・新羅軍に対する防衛作戦がいかなるものであったか明らかではないが、大規模な防衛ラインは大野城・水城・小水城と考えられ、ラインの内側にある日焼遺跡７次調査での製鉄炉の存在や、先にまとめた福岡県下の鉄生産遺跡動向の成果を踏まえると、７世紀中頃以降の鉄生産体制に変化が生じていることは十分に考えられ、大野城跡北石垣地区城門出土鉄製扉軸受金具の分析をおこなわれた大澤正巳氏の分析結果は注目することができる（註58）。また、北陸地方の須恵器窯跡・製鉄遺跡の研究をまとめた望月精司氏によると、須恵器窯跡と製鉄遺跡の時空間的分布と燃料材を分析した結果、同じ丘陵上に位置する場合でも操業時期が異なっていたり、成長度の異なる材を使用していることを明らかにしている（註59）。九州では須恵器生産と鉄生産を含む手工業生産の在り方について花田勝広氏が概括されているが（註35）、まだ研究が十分に深化しているとは言い難い。今後、牛頸窯跡群の窯をはじめ工房・工人・墳墓などの細部にわたる検討から須恵器生産体制の在り方と変化についてさらに研究を進めたい。そうすることで、他の手工業生産体制との関わりをより詳細に分析することができ、新たな地域・歴史像の描写を可能にするものと考えている。（石木）

註１　岡田裕之2008「Ⅷ．考察　３．甕」『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』大野城市文化財調査報告書第77集

註２　舟山良一2008「Ⅷ．考察　２．ヘラ書き須恵器」『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』大野城市文化財調査報告書第77集
なお文字の内容については、九州大学院教授坂上康俊氏・九州歴史資料館酒井芳司氏にご教示をいただいた。記して、感謝申し上げたい。

註３　倉住靖彦1989「刻書土器」『牛頸窯跡群Ⅱ』福岡県文化財調査報告書第89集

註４　巽淳一郎1999「古代の焼物調納制に関する研究」『瓦衣千年―森郁夫先生還暦記念論文集―』

註５　高橋輝彦2007『須恵器生産における古代から中世への変質過程の研究』（課題番号：15320108）2003～2006年度科学研究費補助金基礎研究（Ｂ）　研究成果報告書

註６　中村浩2001『和泉陶邑窯の歴史的研究』芙蓉書房出版

註７　中村浩1981『和泉陶邑窯の研究』柏書房

註８　佐々木幹雄1979「三輪山出土の須恵器」『古代』66号

註９　菱田哲郎2005「須恵器の生産者」『列島の古代史４人と物の移動』岩波書店

註10　渡辺正気1995「第３章第６節倭国の形成と発展の中で」『春日市史』上巻

註11　石木秀啓2007『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第60集

註12　舟山良一編2008『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』大野城市文化財調査報告書第77集
この窯構造の出現には、韓国の亭岩里瓦窯における複数の煙道を持つ窯構造との関わりを指摘され、背景として初期瓦生産との関連付けを考える意見がある(註13)。亭岩里窯跡群はＡ地区２基、Ｂ地区９基の瓦窯跡が確認され、「560年をさほど前後しない時期」から７世紀前半の間に操業される。このうちＢ地区では煙道が一つの「地下式有段有階登窯」（Ｂ７～９号窯跡）から、煙道を３本もつ「地下式有段有階平窯」（Ｂ５・６号窯跡）への造営順序が考えられている。両者の年代差は明らかにされていないが、牛頸窯跡群の多孔式煙道窯と近接した時期と考えられる（註14)。しかし、亭岩里窯跡群は一部土器も焼成するが基本的に有段構造をもつ瓦窯であり、焚口部を大きく絞り込み、焚口の構築に石材を多用する点は多孔式煙道窯と大きく異なる点である。このことから、多孔式煙道窯と亭岩里窯跡との関係は極めて魅力的ではあるが、ひとまず判断を後日に託しておく。

註13　藤原学1999「須恵器窯の構造と系譜」『窯跡研究会第２回シンポジウム須恵器窯の技術と系譜　発表要旨集』窯跡研究会

註14　清水昭博2008「百済・泗沘時代の瓦生産－扶余・亭岩里窯の検討－」『帝塚山大学考古学研究所研究報告Ⅹ』帝塚山大学考古学研究所

註15　第３回須恵器窯構造検討会総括討論会資料（2007年１月13日開催）

註16　中村浩編1971『陶邑』大阪府文化財調査抄報第１集財団法人大阪文化財センター
井藤徹1979『陶邑Ⅳ』大阪府文化財調査報告書第31輯
中村浩2006『泉北丘陵に広がる須恵器窯　陶邑窯跡群』シリーズ「遺跡を学ぶ」028新泉社

註17　遺物の実見にあたっては、大阪府立泉北考古資料館館長（当時）中井貞夫氏に便宜を図っていただいた。また、ＭＴ５－Ⅲ号窯跡の調査については、大阪大谷大学中村浩教授に多くの教示をいただいた。記して、感謝申し上げたい。

註18　舘野和己2004「ヤマト王権の列島支配」『日本史講座』第１巻歴史学研究会・日本史研究会編東京大学出版会

註19　徳本洋一1995『牛頸塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第44集

註20　小林一雄1986『中国古代美術史－日本美術の源流－』雲南堂

註21　栗田美由紀　1999「暈繝彩色の色彩効果」『奈良大学大学院研究報告』４

註22　栗田美由紀　1999「暈繝彩色の研究―色彩の歴史的変遷―」『奈良大学紀要』27

註23　土師器の分類については、山本信夫編1983『大宰府条坊跡Ⅱ』太宰府市の文化財第７集、山本信夫「北部九州の７～９世紀中頃の土器」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東－』古代の土器研究会を用いた。

註24　谷部Ｂ区5層から土馬が出土しているが、灰層中からの出土であることから須恵器窯での生産を考えておく。

註25　日本史広辞典編集委員会編1997『日本史広辞典』山川出版社

註26　石木秀啓編2008『牛頸本堂遺跡群Ⅵ』大野城市文化財調査報告書第80集
なお、本堂遺跡群の村落寺院・祭祀遺物に関しては、福岡大学名誉教授小田富士雄氏に多大なるご教示を賜った。記して、感謝申し上げたい。

註27　石木秀啓・一瀬智2005「福岡・本堂遺跡」『木簡研究』第27号　木簡学会

註28　東定宣昌・山田秀編1993『福岡県史』近代史料編福岡県地理全誌（５）

註29　西健一郎1994『九州大学埋蔵文化財調査報告－九州大学筑紫地区遺跡群－（第３冊)』九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室

註30　中村浩2005『牛頸本堂遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第64集
中村・石木編2005『牛頸本堂遺跡群Ⅲ』大野城市文化財調査報告書第68集

註31　宮田浩之2005「西国における在地社会と仏教の受容」『古代官衙・集落研究会在地社会と仏教』奈良文化財研究所

註32　三島格1971「福岡平野の製鉄遺跡」『和白遺跡群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第18集

註33　柳沢一男1977「福岡平野を中心とした古代製鉄遺跡について」『広石古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第41集

註34　大澤正巳1983「古墳出土鉄滓から見た古代製鉄」『日本製鉄史論集』　たたら研究会

註35　花田勝広2002「筑紫宗像の生産工房」『田辺昭三先生古希記念論文集』　真陽社

註36　長家伸2005「福岡市西部地域の鉄・鉄器生産と渡来系遺物について」『九州における渡来人の受容と展開』第8回九州前方後円墳研究会

註37　長家伸2004「８～９世紀の鉄生産についての概要」『第7回　西海道古代官衙研究会資料集』

註38　小嶋篤2008「鉄滓出土古墳の研究－九州地域－」『慶南大･漢陽大･福岡大　三大学国際学術交流会』慶南大学校史学科･福岡大学考古学研究室・漢陽大学校文化人類学科

註39　岡寺良2002「製鉄関連工房の様相と歴史的位置付け」『宝満山遺跡群・浦ノ田遺跡Ⅲ』福岡県文化財調査報告書第169集

岡寺良2007「観世音寺境内における金属器生産活動～鋳造・鍛冶関連遺物を元に～」『観世音寺－考察編－』九州歴史資料館

註40　村上恭通　1999『倭人と鉄の考古学』　青木書店

註41　梅頭遺跡４次調査の樹種同定については、小林克也氏（山形県埋蔵文化財センター）に分析を依頼しており、その成果は『牛頸梅頭・本堂遺跡群－自然化学分析編－』大野城市文化財調査報告書第87集に掲載予定である。

註42　丸山康晴1995「第３章古墳時代第５節集落」『春日市史』上巻

註43　池辺元明編1988『牛頸窯跡群Ⅰ』福岡県文化財調査報告書第80集

註44　下山覚・松崎卓郎・平島義孝・小石龍信2005『太宰府・佐野地区遺跡群20』太宰府市の文化財第80集

註45　鉄滓の分析については、㈱九州テクノリサーチに分析を依頼しており、その成果は『牛頸梅頭・本堂遺跡群－自然化学分析編－』大野城市文化財調査報告書第87集に掲載予定である。

註46　株式会社古環境研究所2006「野添６・７次調査における樹種同定」『牛頸野添遺跡群Ⅳ』大野城市文化財調査報告書第70集

註47　註41に同じ。

註48　なお、上大利区画整理地内の樹種同定結果によれば、６～８世紀まで窯で消費される燃料材の樹種構成には変化がなかったことがパリノサーヴェイ㈱の分析により明らかにされている。その成果は『牛頸梅頭・本堂遺跡群－自然化学分析編－』大野城市文化財調査報告書第87集に掲載予定である。

註49　舟山良一氏教示により、実測図を掲載した。1980年10月に重機により窯体中央部を削平された状態で確認されている。削平のため詳細は明らかにできないが、横口部の存在と炭化材の出土から炭窯と判断した。出土遺物は無く、時期不明である。

註50　平成11年発掘調査。未報告。

註51　石木秀啓1997『牛頸石坂窯跡－Ｅ地点－』大野城市文化財調査報告書第49集

註52　石木秀啓・一瀬智・井上愛子2007『牛頸本堂遺跡群Ⅳ』大野城市文化財調査報告書第75集

註53　宮崎亮一編2006『太宰府・佐野地区遺跡群21』太宰府市の文化財第85集

註54　大澤正巳1995「春日市の鉄の歴史」『春日市史』上巻

註55　舟山良一2008「Ⅳ．窯跡の分布」『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』大野城市文化財調査報告書第77集

註56　平島義孝2005「Ⅲ．総括　製鉄関連遺構・竪穴状遺構・掘立柱建物について」『太宰府・佐野地区遺跡群20』太宰府市の文化財第80集

註57　註36に同じ。

註58　大澤正巳2008「大野城跡第46次調査（北石垣地区）Ｃ区城門跡出土の鉄製扉軸受金具の理化学的調査」『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅴ（平成18・19年度)』九州歴史資料館

註59　望月精司2008「北陸地方の古代窯業・製鉄業の森林利用」『古代窯業の森林利用技術－陶人と森との関わり－』東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

註60　註35に同じ。

表71　製鉄・鍛冶関連遺物出土地地名表①

No.	遺跡名	所在地	鉄滓	鉄滓の種類	出土遺構	時期	出土量	製鉄・鍛冶関連遺構・遺物	出典	発行年
糸島郡										
1	塚田遺跡	糸島郡二丈町深江	○	鍛冶滓	1～4号鍛冶遺構	8C?		鍛冶炉・羽口	県・今宿バ7	1982
2	赤岸遺跡	糸島郡二丈町福井	○	鍛冶滓?	鍛冶炉	中世末	多数	羽口	県・今宿バ7	1982
3	裏畑	芦屋村新町裏畑	○	鍛冶滓	採集	?				
4	竹戸遺跡	糸島郡二丈町	○	鉄滓	竪穴遺構(D-1)	9C末～10C初	?	小鍛冶遺構・羽口	二丈町1	1979
5	石崎曲り田遺跡	糸島郡二丈町大字石崎字曲り田	○	鍛冶滓・銅滓	27号住居他	8C	コンテナ1	羽口	県・今宿バ9	1984
			○	鍛冶滓	Ⅲb地点製鉄炉・鍛冶炉	9C前	多量	Ⅲb地点製鉄炉・鍛冶炉	二丈町6	1993
			○	鍛冶滓?	1～3号炉	?	数点	鍛冶炉3・羽口・坩堝?・炉壁	二丈町20	1998
			○	鍛冶滓	炉跡他	9C	?	炉10・炭窯状遺構・羽口・炉壁	二丈町27	2001
6	森田遺跡	糸島郡二丈町大字深江字森田	○	鍛冶滓	2～7号炉	13C?	少量	鍛冶炉6・粒状滓・鍛造剥片	二丈町24	2000
7	木舟の森遺跡	糸島郡二丈町大字深江字木船	△					羽口・鉄・銅不明	二丈町12	1995
8	木舟・三本松遺跡	糸島郡二丈町大字深江字木船	△			奈良時代?		羽口	二丈町15	1997
9	吉井地区遺跡群	糸島郡二丈町大字吉井字中越	△					炭窯状遺構	二丈町30	2003
10	八熊製鉄遺跡	糸島郡志摩町大字西貝塚字八熊	○	鍛冶滓	製鉄炉ほか	8C後	大量	製鉄炉7・鍛冶炉・排滓坑・砂鉄ピット・羽口・炉壁	志摩町2	1982
11	蓮輪遺跡	糸島郡志摩町大字井田原字蓮輪	○	鍛冶滓	焼土坑	8C～	多量	焼土坑	志摩町23	2005
12	御床松原遺跡	糸島郡志摩町	△						志摩町3	1983
13	新町遺跡	糸島郡志摩町大字新町	△					羽口	志摩町7	1987
14	藤原遺跡	糸島郡志摩町大字野北字向畑	△			7C ?		横口付炭窯(補助燃焼孔7)	志摩町9	1988
15	柿添遺跡・千町田遺跡	糸島郡志摩町	△					焼土坑	志摩町20	1998
前原市										
16	奈良尾遺跡	前原市大字多久	○	鍛冶滓	鍛冶炉他	8C前～9C初	大量	鍛冶炉・鍛造剥片・粒状滓	県・今宿バ13	1991
17	波多江遺跡	前原市波多江	○	鍛冶滓	1号竪穴住居	9C末	2	羽口	県・今宿バ6	1982
18	築山古墳付近	前原市三雲	○	鍛冶滓	採集	?			県・今宿バ6	1982
19	ギララ遺跡	前原市ギララ	○	製錬滓	採集	?			福岡市41	1977
20	東真方遺跡	前原市東	○	製錬滓	製鉄炉	鎌倉期?(13C～)	コンテナ1/4	製鉄炉・炉壁・羽口	前原市42	1992
21	三雲・井原遺跡	前原市宮ノ下地区	○	鉄滓・鉄鉱石	包含層	?	報告2点		前原市82	2003
22	前原西町遺跡	前原市西町	○	鉄滓	包含層(1号土壙周辺)	奈良時代	?	鍛冶炉?	前原市84	2003
23	三雲・井原遺跡	前原市三雲・井原	○	鍛冶滓	三雲437番地1号住居	5C前～中?	報告2点		前原市86	2004
24	怡土城跡	前原市大字高祖字末倉	○	鉄滓	大門地区土塁崩壊地点	?	?	羽口	前原市94	2006
福岡市										
25	今宿高田遺跡	福岡市西区今宿高田	○	製錬滓	20号住居・溝2	8C	14Kg・47Kg		県・今宿バ10	1984
26	相原古墳群	福岡市西区青木	●	鉄滓	3号墳石室羨道部入り口	6C後～7C	12個570g	坩堝?	福岡市28	1974
			●	鍛冶滓	C-6(前庭部～墓道) C-9(墳丘) C-21(墓道・墳丘)	6C末～7C前 6C後～末 7C初～7C後	1 ? 3		福岡市351	1993
27	徳永アラタ古墳群	福岡市西区徳永	●	製錬滓	5号墳	6C後	?	焼土坑	福岡市56	1980
28	徳永A遺跡	福岡市西区徳永	○	鍛冶滓	包含層	8C?	1	金床石?	福岡市479	1996
29	徳永遺跡	福岡市西区徳永	○	鉄滓	包含層など	6C後～10C	大量	羽口	福岡市242	1991
30	徳永西遺跡	福岡市西区徳永	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
31	今津遺跡	福岡市西区	○	鉄滓	C区包含層	?	3		福岡市166	1987
32	今山遺跡	福岡市西区	○	鍛冶滓	包含層	中世中頃?	コンテナ1	炉壁	福岡市584	1998
33	鋤崎製鉄A遺跡	福岡市西区今宿青木	○	製錬滓・鍛冶滓	製鉄炉(93・108)	7C？		横口付炭窯2(7C後～8C)・焼土坑・路壁	福岡市506	1997
35	鋤崎古墳群	福岡市西区今宿青木	●	製錬滓・鍛冶滓	A群1号墳羨道・墓道・その他 A群2号墳墳丘 A群7号墳墳丘・墳丘基底面・その他 A群8号墳羨道・墳丘・周溝・その他 A群9号墳墓道 A群10号墳墳丘 A群14号墳その他 A群20号墳墳丘	7C、7C後 7C初～7C前 6C後 6C中～6C後 6C後 7C初～8C 6C後～7C初 7C初 7C初	多量 12・7・11 1 3・2・1 2・2・6・2 19 1 2 1		福岡市506	1997
			●	製錬滓	B群5号墳玄室・羨道部・閉塞石中・墓道・土器群A・周溝	7C前	32		福岡市697	2001
36	大原A遺跡1次	福岡市西区大字今津	○	鍛冶滓	SX1027、1045等	8C前半～9C	大量	製鉄(箱形)炉・鍛冶炉・羽口	福岡市430	1995
			○	製錬滓	SX2006	8C 前半	大量	製鉄炉(箱形)炉・炉壁	福岡市431	1995
37	大原D遺跡群4次	福岡市西区大字今津	○	製錬滓・鍛冶滓	SX06、SX10	9C後	大量	製鉄炉、廃滓坑・羽口・炉壁	福岡市507	1997
	大原D遺跡5・6次	福岡市西区大字今津	○	鍛冶滓	SX100、101、SD05等	9C前	多量	鍛冶炉・焼土坑・羽口	福岡市732	2002
38	女原上ノ谷製鉄址	福岡市西区	○	製錬滓	SK001・005・009	6C後?	多量	路壁	福岡市436	1995
39	飯氏古墳群B群第14号	福岡市西区	●	精錬滓	墓道埋土中層	6C末～7C後	1点(9g)		福岡市615	1999
40	飯氏遺跡群8次	福岡市西区	○	製錬滓・鍛冶滓	SK01・04・05・07	古代?	多量	製鉄炉・鍛冶炉・羽口	福岡市786	2004
41	桑原石ヶ元古墳群	福岡市西区大字桑原字石ヶ元	●	製錬滓・鍛冶滓	桑原石ヶ元1号墳 桑原石ヶ元2号墳 桑原石ヶ元6号墳 桑原石ヶ元11号墳 桑原石ヶ元28号墳 桑原石ヶ元29号墳 桑原石ヶ元12号墳	6C後～8C 6C後～8C 6C後～8C 6C後～8C 6C後～8C 6C後～8C 6C後～		金床・鉄鉗・鉄鎚2	福岡市744	2003
42	元岡・桑原遺跡群2次	福岡市西区元岡・桑原	○	鍛冶滓・鍛冶滓	2区東半下層、3区西半包含層	8C～9C?	多量	鉄床石・炉壁・羽口	福岡市722	2002
	元岡・桑原遺跡群12・15・24次	福岡市西区元岡・桑原	●?	鍛冶滓	12次調査区製鉄関連遺構 15次AB1グリット・CD1・2グリット 24次製鉄関連遺構・住居址 消失墳への供献品?	8C後中～後 6C前～7C前?・ 7C 末～8C	大量 コンテナ1	製鉄炉27・排滓坑・焼土坑・木製送風管 製錬炉8・鍛冶炉3・砂鉄ピット2・羽口・炉壁	福岡市860	2005

表72　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表②

	元岡･桑原遺跡群 22･27･28次	福岡市西区元岡･桑原	○	製錬滓･ 鍛冶滓	22次調査製鉄炉･鍛冶関連遺構1 27次調査区 28次調査区B	8C? ? 古代?	多量 多量	製鉄炉･炉壁輸羽口	福岡市909	2006
	元岡･桑原遺跡群 20次	福岡市西区元岡･桑原	○	鉄滓	製鉄炉･排滓坑･025等	9C	大量	製鉄炉3･鍛冶遺構数基･排滓坑数基	福岡市962	2007
	元岡･桑原遺跡群 26次	福岡市西区元岡･桑原	○	鉄滓	SC1～4、Pit、包含層	7C～8C?	220点	輸羽口	福岡市963	2007
	元岡･桑原遺跡群	福岡市西区元岡･桑原	▲		元岡桑原A-2･4号墳			鍛冶具副葬	福岡市861	2005
43	鎌研遺跡	福岡市西区今宿･新開	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
44	ウソノクチ遺跡	福岡市西区今宿青木･ウソノクチ	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
45	焼山遺跡	福岡市西区今宿上原･焼山	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
46	アツマリ遺跡	福岡市西区今宿上原･アツマリ	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
47	山本氏邸内遺跡	福岡市西区今宿青木･鋤先	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
48	イケベタ遺跡	福岡市西区今宿青木･鋤先	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
49	ショウガ谷遺跡	福岡市西区今宿青木	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
50	堀ノ内遺跡1次	福岡市西区今宿青木	○	製錬滓･ 鍛冶滓	包含層	古墳～中世	少量		福岡市475	1996
51	小葎遺跡	福岡市西区大原･小葎	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
52	瓜尾貝塚	福岡市西区元岡･瓜原尾	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
53	長浜遺跡	福岡市西区今津･長浜	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
54	野々花学園前遺跡	福岡市西区今津･緑町	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
55	鹿ノ脇遺跡	福岡市西区今津･鹿ノ脇	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
56	上町天神社遺跡	福岡市西区今宿･上田	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
57	今宿小学校遺跡	福岡市西区今宿	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
58	大塚東遺跡	福岡市西区今宿･大塚	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
59	カナクソ田遺跡	福岡市西区今宿･大塚	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
60	ヌストウノウ山遺跡	福岡市西区今宿･新開	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
61	新開遺跡	福岡市西区今宿･新開	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
62	シャカノマエ遺跡	福岡市西区今宿上の原	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
63	イヤゾノ遺跡	福岡市西区今宿上の原	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
64	ヨシズミ遺跡	福岡市西区今宿	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
65	脇の前遺跡	福岡市西区今宿	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
66	十瀬池遺跡	福岡市西区今宿	○	鉄滓			多い	製錬跡?	福岡市41	1977
67	今宿大塚古墳	福岡市西区今宿大塚	●	鉄滓	後円部盛土中	～6C前			大澤1983他	
68	野方塚原遺跡	福岡市西区	△		包含層	8～9C?		輸羽口	福岡市490	1996
69	生の松原遺跡	福岡市西区生ノ松	△					輸羽口	福岡市654	2000
70	石丸遺跡	福岡市西区石丸	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
71	石丸古川遺跡	福岡市西区石丸･古川	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
72	コノリ遺跡	福岡市西区拾六町	○	製錬滓･ 鍛冶滓	SX470、SD01･04など	8C後半?	42kg		福岡市728	2002
			○	鉄滓	製錬炉	6C後～		製錬炉	(未報告)	
73	湯納遺跡	福岡市西区西区拾六町湯納	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
74	斜ヶ浦遺跡	福岡市西区拾六町･斜ヶ浦	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
75	城の口遺跡	福岡市西区拾六町･城の口	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
76	大又遺跡	福岡市西区拾六町･大又	○	鉄滓	1･4号住居	5C後～6C初			県･今宿バ1	1970
77	熊野北神社遺跡	福岡市西区拾六町･熊野	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
78	宮の前遺跡	福岡市西区拾六町･宮の前	○	鉄滓	E･F地点	弥生終末～古墳初			県･今宿バ1	1970
79	畑ヶ尾遺跡	福岡市西区拾六町･畑ヶ尾	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
80	高木遺跡	福岡市西区拾六町･金屋	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
81	金屋遺跡	福岡市西区拾六町･金屋	○	鉄滓			多い	製錬炉?	福岡市41	1977
82	野方平原遺跡	福岡市西区	○	鉄滓	1次SX01･02、2次SK02･SD01	8C～	少量	排滓坑?	福岡市729	2002
83	戸切遺跡	福岡市西区野方･戸切	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
84	野方塚原遺跡	福岡市西区野方･塚原	○	鉄滓				製錬炉?	福岡市41	1977
85	野方新池遺跡	福岡市西区野方･新池	○	鉄滓		6C後		製錬･鍛冶炉	福岡市41	1977
86	曲渕団地上遺跡	福岡市西区野方	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
87	後川原遺跡	福岡市西区内野	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
88	仙道遺跡	福岡市西区内野	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
89	牟多田遺跡	福岡市西区野方･牟多田	○	鉄滓	?	?	少量	輸羽口･炉壁	福岡市27	1974
90	千里シビナ遺跡	福岡市西区	○	鉄滓					福岡市88	1982
91	大音遺跡	福岡市西区野方	○	鉄滓		6C末～7C	?	輸羽口	福岡市226	1990
92	名切谷遺跡	福岡市西区野方	○	鉄滓		7C	少量	炉壁	福岡市226	1990
93	広石遺跡群C地点	福岡市西区野方	○	鉄滓	住居址･土壙	6C後～7C	多量?		福岡市226	1990
94	広石古墳群	福岡市西区野方	●	鉄滓	Ⅵ-2号墳前庭部～墓道･墳丘 Ⅵ-3号墳玄室･羨道･閉塞部･墓道･周溝 Ⅵ-4号墳玄室･羨道部･墳丘	6C後～7C中 6C末～7C後 7C初～中	多数･2 11･7･2･ 14･1 6･7･12		福岡市226	1990
			●	鍛冶滓	Ⅴ-1号墳石室	6C末	1		県･81	1988
			●	鍛冶滓	Ⅲ-1号墳玄室･羨道部	6C後～	2･35		福岡市41	1977
			●	鍛冶滓	2号墳羨道･前庭部～墓道･墳丘	6C後～末	3･15･2		福岡市214	1989
95	広石南古墳群	福岡市西区	●	鉄滓	A-4号墳玄室	6C後～7前	1	鍛冶具副葬･焼土坑･鉄滓供献	福岡市617	1999
96	野方古墳群	福岡市西区野方	●	鉄滓	野方1号墳羨道 野方2号墳羨道	7C 7C			大澤1983	
97	草場古墳群	福岡市西区下山門	●	製錬滓? 鍛冶滓?	6号墳玄室･周溝 7号墳羨道･周溝 9号墳玄室･羨道･前庭部～墓道 11号墳玄室	6C後～7C前 6C後 6C後～7C後 6C後～7C前	2･1 1･2 5･11･21 1		福岡市301	1992
98	下山門遺跡	福岡市西区下山門	○	製錬滓	1号炉跡	8C ～	?	製鉄炉	福岡市23	
99	下山門乙女田3次	福岡市西区下山門	○	鉄滓or 炉壁	土壙142	12C～	?		福岡市796	2004
100	下山門遺跡	福岡市西区下山門	○	鉄滓			多い		福岡市41	1977
101	下山門敷町遺跡	福岡市西区下山門･敷町	○	鉄滓			多い		福岡市41	1977
102	壱岐神社遺跡	福岡市西区下山門生の松原	○	鉄滓			多い		福岡市41	1977
103	金屑遺跡	福岡市西区都地･金屑	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
104	大北遺跡	福岡市西区都地･大北	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
105	都地泉水遺跡1次	福岡市西区金武	○	鉄滓	都地泉水遺跡1次･製鉄炉･鍛冶炉･排滓坑	8C	大量	製鉄炉･鍛冶関連遺構･排滓坑	福岡市927	2007
106	都地南遺跡	福岡市西区	△		包含層			輸羽口	福岡市74	1981
107	浦江遺跡5次	福岡市西区金武	●	鉄滓	2号墳石室内	6C前～	2		福岡市792	2004
			○	鍛冶滓	23区精錬炉･鍛冶炉	8C			未報告 (福岡市 874)	2006
108	浦江遺跡4次	福岡市西区金武字浦江	●	製錬滓	SO-001古墳	6C後～	2.49Kg		福岡市614	1999
109	浦江谷遺跡1･2次	福岡市西区金武字浦江谷	○	鍛冶滓	2次3区SX001 1次6区SK-024	平安時代	1.38Kg	鍛冶炉･鍛造剥片 製鉄炉･横口付炭窯 (登り窯式木炭窯？)	福岡市614	1999
110	金武乙石2次	福岡市西区金武	○	鉄滓	5区SX007、012、 18-2･3区SX037、042、 18-4区SX062･070･078等	8C後	大量	製鉄炉･排滓坑･輸羽口･壁体	福岡市874	2006

表73　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表③

111	城田遺跡2次	福岡市西区金武	○	鉄滓	6区SR02･07、7区SR57等	7C後～	多い	鍛冶炉5･羽口	福岡市866	2005
			○	鍛冶滓	5区製鉄関連遺構	7C～8C	?	炉	福岡市927	2007
			○	鍛冶滓	14区精錬遺構 13区鍛冶･製錬炉	6C 後～7C 8C		精錬炉･鍛冶炉	未報告(福岡市874)	2006
112	金武古墳群(吉武G群)	福岡市西区金武	●	製錬滓･鍛冶滓	1号墳羨道～墓道 2号墳玄室･前庭部 3号墳墓道 4号墳周溝内	7C初～7C後 7C初～7C後 6C後～7C後 6C後～7C前	14点 6～、59 126(鍛冶滓3含) 8		福岡市579	1998
113	金武小学校南遺跡	福岡市西区金武	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
114	西山古墳群A－１号	福岡市西区金武字浦江	●	鍛冶滓	墓道	7C前	2.13kg	焼土坑	福岡市614	1999
115	金武乙石古墳群	福岡市西区金武	●	鍛冶滓、製錬滓	乙石C群-3号墳墓道 乙石H群-1号墳羨道･墓道 乙石H群-2号墳墓道	7C初～8C 6C末～7C末 6C後～8C	1 39･16 30ほど		福岡市52	1980
116	吉武古墳群E群	福岡市西区吉武	●	鍛冶滓、製錬滓	吉武E群-3号墳玄室･掘り方 吉武E群-4号墳前庭部～墓道 吉武E群-5号墳玄室	7C後～末 7C後～末 7C中～8C	6･1 15 102		福岡市52	1980
117	吉武塚原古墳群	福岡市西区吉武	●	鍛冶滓、製錬滓	吉武L群-1号墳周溝 吉武L群-2号墳羨道･墓道 吉武L群-3号墳玄室･羨道部 吉武L群-4号墳玄室･周溝 吉武L群-5号墳玄室･墓道･墳丘･周溝 吉武L群-6号墳墳丘･周溝 吉武L群-7号墳墳丘･周溝 吉武L群-8号墳玄室･墳丘･周溝	7C初～8C 6C中～8C 7C初 6C前～7C前 6C中～7C前 6C中～8C 6C前～7前 6C後～7前	1 6･4 2･1･羽口 1 2･29 19･113･6･21 3･羽口5･4 1･12 3･1･6	鋳造鉄斧･鞴羽口	福岡市54	1980
118	吉武K7号墳	福岡市西区	●	鉄滓	吉武K-7号墳前庭部～墓道	6C後～	5	鉄滓供献･装飾古墳	福岡市68	1981
119	吉武古墳群S群	福岡市西区吉武	●	鉄滓	吉武S-5号墳掘り方 吉武S-8号墳玄室 吉武S-11号墳玄室 吉武S-27号墳玄室	6C前～中 5C後～中 6C前～中 5C初～6C中	1 2 1 4	S-9･10･11･27より鋳造鉄斧が出土	福岡市775	2003
120	吉武遺跡群	福岡市西区吉武	○	鉄滓	11次　SD05	?	?		福岡市303	1992
			○	製錬滓･鍛冶滓	4･6･9次　SC14･06･01･24･21	6C前～後	6	鋳造鉄斧(SC420)	福岡市831	2004
			○	鉄滓	9次　SK076･167、SB401･301、SD020･045･441	5C後～6C後	?	炉壁	福岡市864	2005
			○	鉄滓	4･6次				福岡市911	2006
			○	鍛冶滓	6･9次　1～13号炉と周辺	8～11C	コンテナ394	鍛冶炉13･鞴羽口(官衙遺跡)	福岡市965	2007
121	羽根戸遺跡	福岡市西区	○	製錬滓鍛冶滓	炉跡	古墳～中世	多量	製錬炉?	福岡市134	1986
			●	製錬滓	N群1号墳羨道部 N群27号墳 SK06	6C後～7C前 7C前～7C後 7C	?		福岡市180	1988
122	羽根戸古墳群	福岡市西区	●	製錬滓･鍛冶滓	E群3号墳羨道部･墳丘	6C後～	多数･1		福岡市198	1989
			●	鍛冶滓	B群5号墳	7C中～	?	1号土壙(焼土坑)	福岡市347	1993
123	羽根戸南古墳群	福岡市西区	●	製錬滓･鍛冶滓	E-1号墳玄室･前室･閉塞部･前庭部･周溝 E-2号墳玄室･前室･羨道･墓道･墳丘 E-3号墳玄室･羨道部･墓道･墳丘 E-9号墳玄室･前室･墓道･墳丘･周溝 E-10号墳玄室･前室･羨道･墳丘･周溝 F-2号墳墓道･墳丘･表土 G-1号墳羨道部･墓道･周溝 G-4号墳羨道部 G-5号墳墳丘 G-6号墳玄室･墓道 H-2号墳玄室･墓道･墳丘･周溝	7C中～～8C～ 6C後～7C後 7C中～後 7C前～後 6C後～7C後 7C前 6C中～7C前 7C中～ 7C後～ 7C後～	9･4･72･1･6･2 1･1･1･2･2 1･37･34･6 4･2･115･3･13 9･7･8･3･13 3･6･2 7･2･1 1 1 7･23 10･1･7	焼土坑	福岡市661	2001
124	西新町遺跡17次	福岡市早良区西新	○	鉄滓	17次31号住居	古墳前期?	1		県･208	2006
			△		13次･撹乱	?		鞴羽口2	県･178	2003
			?	鉄滓?	12次65号住居	古墳前期	1		県･154	2000
			○	鉄塊系遺物	8次SX40	弥生中期後半～末	3	ガラス容器	福岡市484	1996
			○	鍛冶滓	9次包含層(SK63?)	?	1	板状鉄斧(SC85)	福岡市505	1997
125	十郎川遺跡	福岡市早良区	○	製錬滓	全体	9C～10C	多量	鞴羽口		1982
126	宝台遺跡	福岡市城南区上長尾	○	鉄滓	B地点焼壁Pit34･地点 Pit47	奈良･古墳?				1970
127	影塚第1号墳	福岡市早良区野芥	●	製錬滓	1号墳墳丘	7C前	5		福岡市21	1972
128	早苗田D群10号墳	福岡市早良区	●	製錬滓	玄室･羨道部･閉塞部･墳丘	6C後～7C前	3･7･11･5	鉄滓供献	福岡市67	1981
129	有田遺跡群	福岡市早良区	△		竪穴	8C		球状酸化鉄		1968
			○	鍛冶滓	81次Ⅰ区　SX01～74他	奈良～平安	多量	製鉄炉･砂鉄溜め遺構(SX20)	福岡市129	1986
130	有田･小田部遺跡	福岡市早良区	○	鉄滓	17･23･24次溝、包含層	古墳～中世	二十数点	鞴羽口	福岡市58	1980
			○	鍛冶滓?	31次不明土壙	8～9C	多量	壁体･鞴羽口	福岡市81	1982
			○	鍛冶滓	40次1号溝	古墳～中世?	10		福岡市96	1983
			○	鉄滓	107･133･149次SD01	古墳～中世	?	鞴羽口	福岡市234	1990
			○	鉄滓	70･71･105次包含層･2号井戸･製鉄関連遺構	近世	少量	近世製鉄関連遺構から鞴羽口「博多金新右ェ門」銘	福岡市173	1988
			○	鉄滓	54･68･69･73次SE02、SD02	中世	?	?	福岡市427	1995
			○	鉄滓	188次				福岡市608	1999
			○	鍛冶滓	182･187次SE01、SP20　、SD06	8C	5	壁体	福岡市657	2000
			○	製錬滓･鍛冶滓等	115･168･180次SX01･02･07	奈良～平安	多量	箱形炉･壁体･鞴羽口	福岡市684	2001
			○	鉄滓	124次SP134	?	1	鞴羽口	福岡市725	2002
			○	鍛冶滓?	194次SC02	6C中～後半	1点23.5g	鞴羽口	福岡市784	2004
131	田村遺跡	福岡市早良区	○	鉄滓	1･2地点SC01･02　SK19･21･25･29	中世?	?		福岡市89	1982
			○	鉄滓	3次SX33	?	?	鞴羽口	福岡市167	1987
			○	鉄滓	4次SC03･04･05	11C～	?	鞴羽口	福岡市216	1990
			△		5次	中世		鞴羽口	福岡市192	1988
			○	鍛冶滓	8･11･13次SK006･009	9C後～10C前	?	鞴羽口	福岡市384	1994
132	浦江遺跡	福岡市早良区	○	鉄滓		?			福岡市165	1987
133	城の原遺跡	福岡市早良区脇山	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
134	脇山A遺跡4次	福岡市早良区	○	鉄滓	SX10･12～15	中世	?	鍛冶炉	福岡市311	1992
135	干隈遺跡	福岡市早良区干隈	●?	鉄滓	A-2墳丘	?	?	鞴羽口	調査会	1985
136	干隈池遺跡	福岡市早良区干隈	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977

表74　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表④

137	熊ソイ池遺跡	福岡市早良区干隈	○	鉄滓			多い	製錬跡?	福岡市41	1977
138	飯倉G遺跡1次(干隈遺跡)	福岡市早良区干隈	○	鉄滓	SG01炉跡他	6C末～7C初？	大量	箱形炉･炉壁	福岡市334	1993
139	山崎古墳群	福岡市早良区野芥	●	鍛冶滓	C-1号墳玄室･羨道部･閉塞部･前庭部･墳丘 2号墳羨道 3号墳羨道 4号墳羨道･墓道	6世紀末～7世紀	?	鉄滓供献	福岡市380 福岡市図録2	1994 1977
140	四箇周辺遺跡群	福岡市早良区大字四箇	○	鉄滓					福岡市428	1995
			○	鉄滓					福岡市482	1996
			△		23次	8C～	?		福岡市196	1989
141	内野原田遺跡1次	福岡市早良区西	○	鉄滓	竪形炉	8C後～9C前	多量	竪形製錬炉	福岡市年報	1990
142	上広瀬遺跡2次	福岡市早良区	△			13C初		半地下式円形平	福岡市928	2007
143	東入部遺跡群	福岡市早良区東入部	○	鍛冶滓	4次SK005･006･010･018･024･035･042･057･059	9C	大量	竪形･箱形製鉄炉･羽口	福岡市381	1994
			○	鉄滓	5次SX01･02･03	中世?	少量	鍛冶炉･廃滓坑･羽口	福岡市382	1994
			○	鉄滓	7次製鉄関連遺構	7～8C？ 11～12C?	多量	鍛冶炉･廃滓坑･羽口	福岡市516	1997
			○	鉄滓	10次廃滓坑8･9･12･14･20･21･22･27･36･41～48 鍛冶炉18･19･34-1～34-9･35･37･38-1～2	8～12C	多量	鍛冶炉･廃滓坑･羽口	福岡市485	1996
			○	鉄滓	1次3103他	11～12C?	少量		福岡市577	1998
			▲?		2次0504墳周溝	?		鋳造鉄斧･刀子･鉄鉇(鍛冶具埋納遺構?)	福岡市685	2001
144	安通遺跡	福岡市早良区東入部	○	鉄滓	SX0480、0481、1567、0602～0604	11C～12C	?	羽口	福岡市343	1993
145	松木田遺跡群3次	福岡市早良区	○	鍛冶滓 製錬滓	SC010･015他	4C･弥生中期後半	多量	炉壁	福岡市578	1998
146	大坪遺跡･大坪南遺跡	福岡市早良区内野	○	鉄滓	包含層	8C～9C?	コンテナ3	取鍋･羽口	福岡市619	1999
147	三郎丸古墳群(B群)	福岡市早良区三郎丸	●	鉄滓	8号墳玄室 9号墳玄室･表採 12号墳玄室	7C初～8C 7C 7C	4 1･1 1	2･3･4･6･7･11･13号墳でも鉄滓が出土。	495･大澤1983	1996
148	重留村下遺跡	福岡市早良区重留	○	鉄滓	SC009	?	1		福岡市749	2003
		福岡市早良区重留	○	鉄滓	SC029･034･038･039、SD003	6C前～7C初	?	炉壁(製錬炉？)	福岡市510	1997
149	藤崎遺跡	福岡市早良区藤崎	△			?		羽口	福岡市137	1986
150	次郎丸遺跡	福岡市早良区次郎丸	△			5C前		羽口	福岡市468	1996
151	大牟田遺跡	福岡市早良区柏原大牟田	○	鉄滓	7号墳墳丘下より鍛冶炉2	7C初以前		鍛冶炉2	福岡市41	1977
152	大牟田古墳群	福岡市早良区柏原大牟田	●	製錬滓	大牟田3号墳 大牟田4号墳 大牟田6号墳 大牟田14号墳 大牟田35号墳	7C 7C 7C			福岡市図録2	1977
153	焼尾遺跡	福岡市早良区東入部	○	鉄滓			多い	製錬跡?	福岡市41	1977
154	重留山田遺跡	福岡市早良区重留字山田	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
155	重留辻遺跡	福岡市早良区重留字辻	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
156	クエゾノ遺跡	福岡市城南区	○	製錬滓･鍛冶滓	箱形炉	7C～9C?	多量	箱形炉	福岡市420	1995
157	クエゾノ5号墳	福岡市城南区	▲			5C後		鍛冶具･鋳造鉄斧	福岡市420	1995
158	五箇村池遺跡	福岡市城南区七隈	○	鉄滓			多い	製錬跡?	福岡市41	1977
159	瀬戸口古墳群	福岡市西区東油山･瀬戸口	●	鉄滓	墳丘盛土中	～7C初			大澤1983	
160	駄ヶ原C-3号墳	福岡市城南区梅林字駄ヶ原	●	鉄滓	玄室	7C			大澤1983	
161	倉瀬戸古墳群	福岡市城南区片江倉瀬戸	●	製錬滓	倉瀬戸1号墳墓道 倉瀬戸2号墳玄室 倉瀬戸4号墳 倉瀬戸5号墳玄室 倉瀬戸7号墳	6C末～7C前 7C初～後 7C初～末			大澤1983	
			●	製錬滓	倉瀬戸A-10号墳	6C後～7後			福岡大1	2000
162	梅林古墳	福岡市城南区	● ▲?	製錬滓	前庭部	6C前半	3点	鉄鏃	福岡市240	1991
163	梅林遺跡	福岡市城南区	○	製錬滓･鍛冶滓	2次SX01、SC03	?、6C中～後	少量		福岡市660	2001
		福岡市城南区	○	鉄滓	4次SC02			789集に分析結果	福岡市781	2003
164	七隈古墳群	福岡市城南区七隈	●	鉄滓	七隈8号墳玄室･羨道･前庭部～墓道	7C	?	鉄滓供献	福岡市124	1985
165	大谷古墳群	福岡市城南区梅林	●	鉄滓	4号墳玄室･羨道 5号墳玄室･羨道･前庭部～墓道 6号墳玄室･羨道･前庭部～墓道 7号墳前庭部～墓道	7C後 7C初～7C後 7C後～8C 7C後	15･17 191･20･250 31･3･308 240	炉跡2?	福岡市19	1992
166	飯倉D遺跡	福岡市城南区七隈	○	鍛冶滓など	SX427, SD942, SC074, SC865等	奈良時代後半	121	製鉄関連遺構･羽口	福岡市440	1995
167	笹栗古代製鉄遺跡	福岡市城南区堤	○	鉄滓	1･2号製鉄遺構他	8C	多量	製鉄炉･羽口･炉壁		1969
168	京ノ隈1号経塚	福岡市城南区田島字京ノ隈	○	鉄滓	1号経塚の裏込め	12C			福岡市	1976
169	鴻臚館跡	福岡市中央区	△					製鉄関係については本報告	福岡市270	1991
			○	鉄滓	SK-01	9C	?	羽口･坩堝･砥石	福岡市315	1992
			△					羽口	福岡市733	2002
170	樋井川A遺跡	福岡市南区桧原	○	鍛冶滓	SD137･132･781･SX798･229･136･209 、包含層	15C ～16C		羽口(SX134･209)	福岡市682	2001
171	樋井川B遺跡	福岡市南区桧原	○	鍛冶滓	SC-19･SP-003	5C後･?	2	炉壁付着	福岡市819	2004
172	柏原M遺跡	福岡市南区柏原	○	鉄滓	1～24号炉	古墳～古代	多量	製鉄炉･鍛冶炉･羽口･坩堝･壁体	福岡市191	1988
173	柏原遺跡群	福岡市南区柏原	●	鉄滓･鉄塊	B-2玄室･前庭部～墓道 C-1羨道･前庭部～墓道 C-8羨道 C-9玄室･前庭部～墓道 I-1前庭部～墓道･位置不明 J-1玄室･羨道･前庭部～墓道	6C後～ 6C後～ 6C後～ 6C中～ 6C後～ 6C後～	10･281 ?･? ? 4･? 8･40 21･36･多		福岡市125	1986
174	三宅廃寺	福岡市南区南大橋	○	鉄滓	7号溝･包含層	古代～中世?	30ほど	羽口14	福岡市50	1979
			△		5次			羽口	福岡市827	2004
175	大橋E遺跡	福岡市南区	○	鍛冶滓	7次SD11	中世	1点		福岡市740	2003
176	野多目A遺跡	福岡市南区	○	鍛冶滓など	4次SC13、テラス状遺構	弥生後期、9C	?	羽口など	福岡市527	1997
177	五十川遺跡	福岡市南区	○	鍛冶滓	SD001	?	1		福岡市570	1998
178	日佐遺跡	福岡市南区日佐	○	鍛冶滓	3次SD20･21	12C後･14C末～15C初	210g･120g		福岡市751	2003
179	雑餉隈遺跡	福岡市博多区新和町	○	鉄滓	1次				福岡市276	1992
180	雀居遺跡	福岡市博多区	△	鉄滓?銅滓?	4次C3包10層	弥生後期後半		羽口に付着	福岡市406	1995
181	井相田D遺跡	福岡市博多区	○	鉄滓	SG01	?	?		福岡市610	1999
182	吉塚遺跡	福岡市博多区	○	鍛冶滓	9次SK51	8C?	1		福岡市778	2003

表75　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表⑤

183	那珂遺跡	福岡市博多区	○	鍛冶滓	72次SC01･02	6C後	2	炉壁	福岡市674	2001
			○	鍛冶滓	86次SD021･022	7C～8C	1		福岡市802	2004
			△		26次SD01			(轥羽口)	福岡市409	1995
184	比恵遺跡	福岡市博多区	○	鍛冶滓	79次SE017･SX025	12C	2		福岡市821	2004
185	住吉神社遺跡	福岡市博多区住吉	△			中世？		轥羽口	福岡市884	2006
186	博多28次	福岡市博多区	○	鉄滓	土壙･井戸	中･近世	?	羽口(SK56)	福岡市147	1987
	博多33次	福岡市博多区祇園町	○	滓	SD-004、 SE-001 SK-013 SK-015 SK-017 SK-025 SK-052 SK-066 SK-069 SK-071 SK-091 SK-093など	16C 13C後～14C前 明治初 18C 12C中～13C初 13C前～中 18C 18C～19C 近世 近世 12C後～末 12C後～末			福岡市176	1988
	博多35次	福岡市博多区	○	滓	SF-49、SD-078、SE-057･081、SK-085･091･092	12C後～14C 初	?		福岡市177	1988
	博多40次	福岡市博多区	○	鉄滓	44号土壙	中世	数個		福岡市230	1990
	博多59次	福岡市博多区祇園町	○	鍛冶滓	41号土壙	古墳初頭		鍛造剥片･鉄片･轥羽口	福岡市328	1993
	博多63次	福岡市博多区	○	鉄滓					福岡市286	1992
	博多68次	福岡市博多区	○	鉄滓	土壙･井戸	16C末～17C			福岡市287	1992
	博多65次	福岡市博多区	○	鍛冶滓	706土壙	古墳初頭	多量	轥羽口･鍛造剥片･鍛錬粒状滓	福岡市329	1993
	博多66次	福岡市博多区	○	鉄滓	井戸･土壙	12C～13C	?		福岡市330	1993
	博多75次	福岡市博多区	○	鉄滓	井戸･土壙	16C末～17C	多量		福岡市331	1993
	博多70次	福岡市博多区	○	鉄滓	SX11	近世	?	鍛冶炉	福岡市370	1994
	博多72次	福岡市博多区	○	鉄滓	溝･ピット･土壙	15C後～16C前	?	轥羽口･鋳型･取瓶･坩堝･鉄滓を粘土で包んだものが多量に出土	福岡市371	1994
	博多64次	福岡市博多区	○	鍛冶滓	各遺構面	中世	多量	轥羽口	福岡市396	1995
	博多87次	福岡市博多区	○	?	133、205、281号遺構	15C～16C	?	轥羽口	福岡市443	1996
	博多71次	福岡市博多区	○	鉄滓	SK114	近世	?		福岡市450	1996
	博多110次	福岡市博多区	○	鉄滓	包含層	15C	469．7Kg	轥羽口120	福岡市630	2000
	博多100次	福岡市博多区	○	羽口に付着	溝、001号	中世	2	轥羽口	福岡市707	2002
	博多128次	福岡市博多区	○	鍛冶滓	SB003･SE002	15C中～16C	11		福岡市760	2003
	博多139次	福岡市博多区	○	鍛冶滓･鋳物滓	SE004･0012	12C中～後			福岡市807	2004
	博多159次	福岡市博多区	○	鉄滓	?	中世	?	轥羽口	福岡市946	2007
	博多77次	福岡市博多区	△		482号遺構	7C後～9C初		轥羽口	福岡市394	1995
	博多129次	福岡市博多区	△	銅滓				轥羽口、取瓶、鋳型(鋳銅)	福岡市761	2003
	博多126次	福岡市博多区	△		遺構132			轥羽口3	福岡市847	2005
	博多143次	福岡市博多区	△					轥羽口2	福岡市849	2005
	博多147次	福岡市博多区	△		包含層	古墳		轥羽口･鉄片	福岡市892	2006
	博多148次	福岡市博多区	△					鋳銅遺構･鋳型･坩堝	福岡市893	2006
187	和白遺跡群	福岡市東区和白	○	鉄滓	第1･2遺構	9C?	多量?	製鉄炉･鍛冶炉?･鍛造剥片･轥羽口	福岡市18	1971
188	多々良遺跡	福岡市東区多々良	○	鉄滓	製鉄遺構	中世?	?	轥羽口4	福岡市20	1972
189	多々良込田遺跡	福岡市東区多々良	△			奈良～平安		5号溝から轥羽口	福岡市32	1975
			△			8C～		轥羽口(鉄滓付	福岡市53	1980
			△			奈良～平安		5号溝から轥羽口	福岡市32	1975
190	三苫永浦遺跡	福岡市東区	○	鍛冶滓	SC06	7C前半	十数点		福岡市476	1996
191	三苫遺跡群	福岡市東区	○	鉄滓	1次SK01･SX01･SB01など	8C	少量		福岡市271	1992
			○	鍛冶滓	2･3次SK1062ほか	5C～6C前	2		福岡市477	1996
192	海の中道遺跡	福岡市東区	△					鉄滓･轥羽口出	福岡市878	1982
		福岡市東区	○	鍛冶滓	?	8C～12C	少量		調査会	1993
193	箱崎遺跡	福岡市東区	△		23次	10C後～11C中		轥羽口	福岡市811	2004
		福岡市東区	○	鍛冶滓	22次SE13･SK16･19･27･29･SX05	12C前、13C後～14C		轥羽口	福岡市704	2002
194	湯ヶ浦遺跡	福岡市東区	?			9C前		竪形炉？	長家2004	
195	不動ヶ浦遺跡	福岡市東区	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1977
糟屋郡										
196	戸原麦尾遺跡(Ⅲ)	糟屋郡粕屋町	○	鉄滓	?	13C～14C	?		福岡市217	1990
197	一ノ井手B遺跡	糟屋郡久山町大字久原字一ノ井手	○	鍛冶滓	土壙	8C	?	鍛冶炉1･轥羽口1	久山町3	1995
198	前田遺跡	糟屋郡久山町大字久原字前田	○	鍛冶滓	7号土壙	8C	報告3点	砥石	久山町6	2001
199	清水遺跡	糟屋郡久山町大字久原字清水	○	鍛冶滓他	1号土壙	7C後～9C?	報告4点	轥羽口1･円筒状甕?7	久山町7	2001
200	下山田遺跡群1地点	糟屋郡久山町大字山田字高柳･連田	○	鍛冶滓	包含層	不明	報告4点		久山町8	2002
201	楠浦･中里遺跡	古賀市青柳･楠浦･中里	○	鍛冶滓	D-1･2地区	古代～中世?	少量		古賀市38	2005
202	極田･杉ノ木遺跡	古賀市庄字極田･杉の木	△			13C～14C		轥羽口	古賀市27	2001
			△			中世		轥羽口	古賀市28	2003
203	古野14号墳	古賀市	●		奥壁側周溝底	7C前	2		大澤1983	
福津市										
204	今川遺跡	福津市津屋崎町大字今川	○	鍛冶滓	精錬炉･包含層	7C後?	多量	炉	津屋崎町4	1981
205	在自三本松遺跡	福津市津屋崎町大字在自	○	鍛冶滓	SK-4	5C前～中	1	銅鋳造(6C～9C)	津屋崎町9	1994
206	在自下ノ原遺跡	福津市津屋崎町大字在自	○	鉄滓	溝	8C～9C	?	轥羽口	津屋崎町11	1996
207	勝浦穴田遺跡	福津市津屋崎町大字勝浦	○	鍛冶滓	谷部	5C前～6C後			津屋崎町16	2000
208	奴山番田遺跡Ⅲ区	福津市津屋崎町大字奴山字錬原	○		SK752･1130	?			津屋崎町17	2001
209	勝浦井ノ口遺跡	福津市津屋崎町大字勝浦	○	鍛冶滓	SC-03･08	5C前	3		津屋崎町13	1998
210	牟田池	福津市津屋崎町大字勝浦	○	鍛冶滓	表採	不明			津屋崎町13	1998
211	須多田古墳群	福津市津屋崎町大字須多田字立石	●	鍛冶滓	須多田立石1号墳玄室閉塞石 須多田立石2号墳石室	6C後 6C後	? 約10	鉄滓供献 鉄滓供献	津屋崎町12	1996
212	須多田ニタ塚古墳	福津市津屋崎町大字須多田字ニタ	●	鍛冶滓	須多田ニタ塚古墳周溝内Pit	5C後	1	供献?	津屋崎町12	1996
213	生家釘ヶ浦遺跡	福津市津屋崎町大字生家	○	鉄塊系遺物 鍛冶滓 鍛冶滓	A区P-7 C区 在自下ノ原　溝	6C 19C 8C	1 3 ?		津屋崎町14	1998
214	練原遺跡	福津市津屋崎町大字奴山字錬原	○	鍛冶滓	練原地区 ヒエダ地区1･2号炉 中村地区 長浦地区 奴山番田遺跡	中世		鍛冶炉･粒状滓･剥片等	津屋崎町15	1999
215	清田ヶ浦古墳群	福津市津屋崎町津屋崎	●	鍛冶滓	羨道	7C前	33(1023g)		津屋崎町	1977
216	恋の浦鉄山	福津市津屋崎町大字渡字恋の浦	○	鉱滓	排滓部	近世	?		津屋崎町	1977
217	板取遺跡	福津市津屋崎町大字津屋崎字板取	○	鍛冶滓		?			津屋崎町	1977
218	新川端遺跡	福津市津屋崎町新川端	○	鉄滓		?	?	製錬跡?	福岡市41	1977
219	金町遺跡	福津市津屋崎町金町	○	鉄滓				製錬跡?	福岡市41	1997
220	田原遺跡	福津市津屋崎町四原	○	鉄滓			多い		福岡市41	1997

表76　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表⑥

221	今川河口北岸遺跡	福津市津屋崎町ヒタイ	○	鉄滓					福岡市41	1997
222	神興廃寺	福間町	○	鉄滓					宗像市史	1997
223	津丸高平経塚	福間町	○	鍛冶滓		12C	1		福間町3	1991
宗像市										
224	武丸高田遺跡	宗像市	○	鉄滓	鍛冶炉	6C前	少量	鍛冶炉	宗像市9	1985
225	野坂一町間遺跡	宗像市	○	鉄滓	4～6号住居･鍛冶炉	5C前	少量	鍛冶炉	宗像市9	1985
226	野坂ホテ田遺跡	宗像市大字野坂字ホテ田	○	鉄滓		12C後～13C前	?	羽口	宗像市12	1987
227	朝町山ノ口遺跡	宗像市	▲		5･6号墳	6C 後～		鎚･金鉗	宗像市14･34	1984 1991
228	徳重本村遺跡	宗像市大字徳重	○	鍛冶滓	SK64	6C中?	0.93Kg	製鉄炉?･羽口･炉壁･送風管?状須恵器	宗像市52	2002
229	大井平野遺跡	宗像市大井	○	鉄滓	SC10	2C後～3C前	2点		宗像市56	2004
230	相原古墳群E-1号墳	宗像市	●			6C		鉄滓供献	地域相研究19 花田勝広	1990
231	冨地原森遺跡	宗像市	○			中世		羽口	宗像市40	1995
232	光岡辻ノ園	宗像市	△			中世		羽口	宗像市43	1998
233	武丸小伏遺跡	宗像市	○			古墳～中世			宗像市史	1997
234	冨地原小嶺遺跡	宗像市	○			13～14C		製鉄炉	宗像市史	1997
235	百田古墳群	宗像市大字朝町字百田	●	鍛冶滓	A-1号墳 A-11号墳 B-2号墳	6C後～ 7C中～ 6C末7C初～	1 1 5		大澤1983	
236	浦谷古墳群H-4号墳	宗像市大字朝町字浦谷	●	鍛冶滓	甕に入れて埋納	8C～			宗像市5	1982
237	三郎丸今井城遺跡	宗像市	○	鉄滓		古墳～中世			宗像市史	1997
238	久原朧ヶ下遺跡	宗像市	○	鉄滓		5C			宗像市史	1997
遠賀郡										
239	瀬戸遺跡	遠賀郡岡垣町大字糠塚字瀬戸	○	製錬滓 鍛冶滓	2号炉･住居跡	6C中～7C初	22Kg	箱形炉2基･円形炉1･羽口(鉱石	岡垣町11	1990
240	墓ノ尾遺跡第2地点	遠賀郡岡垣町大字糠塚	○	鉄滓	包含層	?	?		岡垣町19	2000
241	山下遺跡	遠賀郡岡垣町大字山田	○	鉄滓	包含層	?	?		岡垣町19	2000
242	高丸･友田遺跡郡	遠賀郡岡垣町大字糠塚	○	鉄滓		6C中～後?			岡垣町27	2008
243	元松原遺跡	遠賀郡岡垣町	○						宗像市史	1997
244	尾崎天神遺跡	遠賀郡遠賀町大字尾崎字天神	○	鍛冶滓他		6C後～7C	大量	羽口	遠賀町2	1991
		遠賀郡遠賀町大字尾崎字天神	○	製錬滓･鍛冶滓	住居址･谷部	6C後～7C	大量(138Kg)	羽口･柘榴石	遠賀町4	1992
		遠賀郡遠賀町大字尾崎字天神	○	鉄滓	包含層	6C後～	多量	鍛冶炉	遠賀町18	2007
245	尾崎･友田遺跡	遠賀郡遠賀町大字尾崎字友田	○	鉄滓	3号竪穴内炉跡	9C後～	?	焼土坑･羽口	遠賀町11	1999
246	金丸遺跡	遠賀郡遠賀町大字尾崎字金丸	○	鍛冶滓	21号住居	6C中	1		遠賀町12	1999
247	野中遺跡	遠賀郡遠賀町野中	○	鉄滓					北九35	1980
248	丸山遺跡	遠賀郡遠賀町島津	○	鉄滓					北九35	1980
249	小峰遺跡	遠賀郡遠賀町虫生津	○	鉄滓					北九35	1980
250	山鹿田屋遺跡	遠賀郡芦屋町大字山鹿字田屋	○	鍛冶滓	フイゴ神祠周辺	6C後～10C	多量		芦屋町5	1994
251	筑前　金屋遺跡	遠賀郡芦屋町中ノ浜 (旧字　金屋)	○	鍛冶滓 他･銅滓		15～17C	大量	鋳造炉･炉壁･羽口･鋳型･鍛造剥片	芦屋町7	1995
252	旧芦屋小学校遺跡	遠賀郡芦屋町中ノ浜 (旧字　金屋)	○	鍛冶滓		中世	?	炉壁	芦屋町8	1996
253	夏井ヶ浜遺跡	遠賀郡芦屋町夏井ヶ浜	○	鉄滓		古墳後期?			北九35	1980
254	上二貝塚	遠賀郡水巻町二西	△			13C～		鍛冶炉･鍛造剥片	水巻町6	1998
鞍手郡										
255	西ノ浦遺跡	鞍手郡若宮町沼口字西ノ浦	○	鍛冶滓	?	?	少量	鉄片	若宮町12	1993
256	宮ノ下遺跡Ⅲ区	鞍手郡若宮町大字稲光字宮ノ下	△		2号溝			羽口	若宮町20	2004
257	犬鳴たたら谷鉄山	鞍手郡若宮町大字犬鳴字たたら谷	○	製錬滓･鍛冶滓		江戸中期	大量	製鉄炉･羽口･炭窯	県94	1991
258	日原鉄山	鞍手郡若宮町大字犬鳴字金山	○	製錬滓･鍛冶滓		江戸末期	大量	製鉄炉･羽口･炭窯	県94	1991
直方市										
259	須崎町公園遺跡	直方市須崎町	○	鍛冶滓	1号土壙･大溝A区	17C後～18C初	5	羽口	直方市18･21	1995 2000
260	水町遺跡群	直方市大字上境字水町	●	鉄滓	A-8号横穴墓道 A-13号横穴墓道	7C 6C中～7C	1 -	羽口	直方市20	1997
261	植木平遺跡	直方市大字植木	○	鍛冶滓	焼土坑他	中世	?	焼土坑･羽口	直方市25	2003
田川郡										
262	浦松遺跡	田川郡香春町大字中津原字浦松	○	鍛冶滓	SX036･025	6C前～中･8C		羽口	県･211	2007
嘉穂郡										
263	板田遺跡	穂波町大字内野字板田	○	鍛冶滓	SX1ほか	中世～近世	コンテナ2		筑穂町8	2004
筑紫郡										
264	陣ノ内遺跡	筑穂町大字阿恵字陣ノ内	○	鉄滓	溝･井戸	中世	?		筑穂町7	2001
265	龍頭遺跡	筑紫郡那珂川町大字安徳	○	鉄滓	住居址	7C中～8C前	12	羽口	県･123	1996
266	観音山古墳群	筑紫郡那珂川町大字中原字深原	●	製錬滓	中原5号墳羨道入口 中原6号墳墓道 中原13号墳玄室･閉塞部･墓道 中原20号墳玄室	7C前～中 ～7C後 7C前～中 7C前～後			県･山陽新5	1978
267	今光遺跡･地余遺跡	筑紫郡那珂川町大字今光	△					羽口		1980
268	平蔵遺跡	筑紫郡那珂川町下梶原字平蔵	○	鍛冶滓など	SK11･包含層	7C中～後	?	工房?	那珂川町5	1980
269	松木遺跡	筑紫郡那珂川町大字松木	○	鍛冶滓	27号住居 2号住居 12号住居 9号住居 35号住居 祭祀遺構	4C初～前 5C初～前 5C中 5C中 古墳初 5C前	?	羽口	那珂川町11	1984
270	平蔵遺跡	筑紫郡那珂川町上梶原字平蔵	○	鍛冶滓	鍛冶炉･溝･土壙	中世?	11475g	鍛冶炉･羽口	那珂川町22	1990
271	カクチガ浦遺跡群	筑紫郡那珂川町大字松木字カクチガ	▲		6･10号墳	5C後～6C前		鉄鏃副葬	那珂川町23	1990
272	下梶原前遺跡	筑紫郡那珂川町	○	鉄滓	住居址･土壙	7C後	多量	羽口･坩堝	那珂川町26	1990
春日市										
273	門田遺跡	春日市大字上白水字門田	○	製錬滓･鍛冶滓	門田地区包含層	古墳後～中世	36	羽口	県･山陽新3	1977
274	門田遺跡辻畑地区	春日市大字上白水字門田	○	製錬滓	製鉄炉	?	多量	製錬炉	県･山陽新7	1978
275	門田2号墳	春日市大字上白水字門田	▲			6C前		鉄槌1	県･山陽新1	1976
276	春日平田遺跡	春日市平田台	△			6C 末～7C前		横口付炭窯	春日市史上	1995
277	赤井手遺跡	春日市大字小倉	△		33号住居、5号土坑他	弥生中期末		鍛冶炉、鉄片、鑿状鉄斧	春日市6	1980
278	仁王手遺跡A地点	春日市春日市小倉	△		1号竪穴住居跡	弥生中期末～後期初頭		切断鉄片、素材、石鎚、炉壁？鍛冶	春日市37	2004
279	須玖唐梨遺跡	春日市大字須玖	△			弥生後期後半		鉄片	春日市19	1988
280	須玖磐石遺跡	春日市岡本	△		住居址他	弥生中期後半～後期初頭		鉄片	春日市29	2001
281	須玖タカウタ遺跡	春日市	○	鍛冶滓?	溝6	?	1		春日市41	2005
282	野藤遺跡	春日市	○	鉄滓	溝2	?			春日市42	2005
		春日市	○	鉄滓	溝1･2	中世?	4	羽口･取瓶	春日市44	2005
283	古水遺跡	春日市	○	鉄滓	3号土壙	7C後～	1		春日市47	2006
284	向谷2号墳	春日市春日向谷	●	鍛冶滓		6C 中	1		春日市17 春日市史上	1987 1995

表77　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表⑦

285	西浦古墳群	春日市大字上白水	●	鍛冶滓	西浦2号墳墓道 西浦3号墳石室･閉塞部	6C後 6C後			大澤1983	
大野城市										
286	川原遺跡	大野城市仲畑	○	鍛冶滓	SK01	11～14C	1		大野城市78	2008
287	笹原窯跡群	大野城市大字牛頸	△		70号窯跡	～8C前		横口付炭窯	県89	1989
288	牛頸石坂E地点	大野城市大字牛頸	△		1号窯	中世		炭窯	大野城市49	1997
289	梅頭遺跡2次	大野城市	○	鉄滓	SX07･21･25･27	7C前～中	少量			
290	牛頸本堂遺跡	大野城市上大利	○	鉄滓	1次SC01 1次SX24 1次谷部	8C前 7C後 8C後～12C	少量			
			○	鉄滓	17次SB06	8C前～8C後	少量			
			○	鉄滓	12次SD01	8C 中～後･12C	少量			
			○	鍛冶滓他	7次谷部	11C後～12C前	少量		大野城市81	2008
			△		11次1号窯	現代		炭窯	大野城市75	2007
太宰府市										
291	観世音寺	太宰府市観世音寺	○	鉄滓 銅滓	講堂地区(126次) 南面回廊地区(130次) 南辺域西地区(16･39･109･111･115･154次) 南辺域東地区(5･23･28･39･117･122･130次) 東辺域(45･119･121次) 僧房･北辺域(43･70･120次)	8C～14C	大量 コンテナ65	粒状滓･鍛造剥片･送風管･轆羽口･取瓶･坩堝･鋳型･溶解炉	九歴 観世音寺遺物編2 考察編他	2007
292	大宰府政庁跡	太宰府市観世音寺	○	鉄滓 銅滓	政庁跡	7C後？		轆羽口･取瓶･坩堝(鋳銅関連遺物)	九歴 大宰府政庁跡	2002
293	大宰府史跡170次	太宰府市観世音寺	○	鍛冶滓	調査土壙･Pit	8C前～	多量	轆羽口･取瓶･鋳型･炉壁	太宰府市36	1997
294	大宰府条坊跡(6AYQ･6AYM)	太宰府市	△		暗褐色土層	中世		轆羽口･坩堝	太宰府市7	1983
	大宰府条坊跡19･24･26･27次	太宰府市	△		土坑･溝			轆羽口･坩堝 鋳型他(鋳銅)	太宰府市8	1984
	大宰府条坊跡81次	太宰府市大字通古賀	○	鉄滓	SX153･154	中世	?		太宰府市28	1995
	大宰府条坊跡50次	太宰府市	○	鍛冶滓	SX500上層	7C前～8C	2	轆羽口･取瓶	太宰府市42	1999
	大宰府条坊跡149次	太宰府市	○	鍛冶滓	SD015	?	1	轆羽口･坩堝	太宰府市43	1999
	大宰府条坊跡154次	太宰府市	△		溝	8C		轆羽口	太宰府市48	2000
	大宰府条坊跡204次	太宰府市	○	鉄滓･銅滓	鉾の浦鋳造関係遺構	13C後～14C初	コンテナ76	鋳型･炉壁	太宰府市52	2001
	大宰府条坊跡158次	太宰府市	△		s-120			炉壁?	太宰府市61	2002
	大宰府条坊跡168次	太宰府市	△					坩堝	太宰府市69	2004
	大宰府条坊跡135次	太宰府市朱雀	○	鍛冶滓	SE038	中世	5		太宰府市71	2004
	大宰府条坊跡239･240･241次	太宰府市朱雀	○	鍛冶滓	茶褐色土層他	8C	?	轆羽口･炉壁	太宰府市82	2005
	大宰府条坊跡233次	太宰府市五条	○	鉄滓	SD005	13C後～14C前	1	轆羽口	太宰府市89	2006
295	鉾ノ浦遺跡(条坊47次)	太宰府市	○	鉄滓･銅滓	鉾の浦鋳造関係遺構	13C後～14C初	多量	鋳型･炉壁･轆羽口	太宰府市53	2001
296	浦の田遺跡3次	太宰府市宰府四丁目	○	鍛冶滓?		?	1		県･169	2002
297	三笠川南条坊遺跡	太宰府市大宰府字泉水	○	鉄滓･銅滓	3･4次	13C前～中	?	轆羽口･取瓶	県･福岡南バ2	1976
298	フケ遺跡2次	太宰府市	○	鉄滓	S92	?	?	轆羽口	太宰府市35	1997
299	前田遺跡1次	太宰府市大字向佐野字前田	○	鉄滓	土壙･溝	8C～	少量		太宰府市56	2001
	前田遺跡8次		○	鍛冶滓	溝	8C		轆羽口	太宰府市44	1999
	前田遺跡7次		○	鉄滓	SK105他	8C		轆羽口･取瓶	太宰府市39	1998
	前田遺跡4次		○	鉄滓	官道の溝	8C	多数		太宰府市39･64	1998 2002
300	連歌屋遺跡8次	太宰府市宰府	○	鉄滓･鍛造剥片	SK025他	?	?	轆羽口11	太宰府市68	2003
301	日焼遺跡7次	太宰府市大字向佐野	○	製錬滓		7C後～8C中	多量	製鉄関連遺構･炉壁･鉄鉱石	太宰府市80	2005
302	京ノ尾遺跡4･7次	太宰府市大字大佐野	○	鉄滓	SK175･SD183･188	8C	少量		太宰府市85	2006
303	宝満山遺跡群	太宰府市大字内山字野田･平田	○	製錬滓･鍛冶滓	23次Ⅰ区･Ⅱ区	8C前	大量	製鉄炉･鍛冶炉･木炭窯･焼土坑･轆羽口･炉壁･粒状滓	県･169	2002
		太宰府市大字内山字野田･平田	○	鉄滓	23次Ⅲ区･Ⅳ区	11C末～12C中	大量	鋳造土壙･焼土坑 轆羽口･鋳型･坩堝	県･169	2002
		太宰府市大字内山	○	鍛冶滓他	19･24･27･29次	中世	?	鍛冶炉･坩堝･取瓶･鍛造剥片･粒状滓･銅塊	太宰府市84	2006
		太宰府市	○	鉄滓	21次5Tr S-2 黄色土	中世	?		太宰府市55	2001
		太宰府市内山･北谷･南谷	○	鉄滓	8～29次(11･14･16･18･21･23次除く) 土坑他	中世	少量	轆羽口･炉壁	太宰府市79	2004
304	馬場遺跡4次	太宰府市	△	(鉱滓)					太宰府市41	1999
305	馬場遺跡8次	太宰府市宰府	○	鉄滓	鋳造土壙	12C中～13C後	多量	炉跡･炉壁･轆羽口･鋳型	太宰府市87	2006
306	池田遺跡	太宰府市大字太宰府字池田	○	鉄滓	製鉄炉	7C?	多量	製鉄炉･横口付炭窯4	県･福岡南バ1	1970
307	池田古墳群	大宰府市大宰府池田	●	鉄滓	池田1号墳 池田2号墳	7C前～中 7C前～中			県･福岡南バ1	1970
筑紫野市										
308	塔ノ原遺跡	筑紫野市塔ノ原	○	鉄滓	1号ピット他	7C後	多量	轆羽口(竈の支脚に転用)	県･縦Ⅳ	1974
309	原田地区34地点	筑紫野市	● ▲	鉄滓	3･16･23号墳 21号墳	5C 5C	?	鉄鑿	小郡市147	2000
310	貝元遺跡	筑紫野市大字古賀字ヘボノ木	○	鉄滓	住居址	弥生後期･古墳前期･5C後･6C･7C前	?		県･筑紫野I. C	1999
朝倉郡										
311	鳥毛1号墳	筑前町	▲			6C後		鉄鉗･鑿(鍛冶具副葬)	夜須町50	2000
小郡市										
312	干潟遺跡	小郡市干潟	○	鉄滓	42号住居	7C初～前	1		県･87	1989
			○	鉄滓	住居址･土壙･溝	7C中～8C前	34	轆羽口2	小郡市102	1995
			○	鉄滓	住居址･土壙･溝	7C中～8C前	430	轆羽口63	小郡市90	1994
			○	鉄滓	竪穴状遺構	中世	176	轆羽口3	小郡市154	2001
313	前伏遺跡	小郡市大字小郡	○	鉄滓	3･7･10号住居址	7C前～後		轆羽口	県･横11	1987
314	上岩田遺跡	小郡市上岩田	○	鉄滓	C区	7世紀中頃～後	多量	轆羽口	小郡市201	2005
315	横隈鍋倉遺跡	小郡市	○	鉄滓	住居址	7世紀後半	多量			
316	横隈北田遺跡	小郡市	○?	鉄滓?	18号住居	6C中～	?	轆羽口	小郡市48	1988
317	津古生掛遺跡	小郡市	○	鉄滓	土壙	古墳	?		小郡市50	1989
318	小郡野口遺跡	小郡市	△			中世		轆羽口	小郡市73	1991
319	大保西小路遺跡	小郡市大保字西小路	○	鉄滓	土壙･溝	14C中～15C	多量	轆羽口･鉄･銅製品	小郡市99	1995
320	大崎東柿添遺跡	小郡市大崎字東柿添	○	鉄滓	溝	14C	多量		小郡市116	1997
321	西島遺跡	小郡市三沢字井手の上	○	鉄滓	2号溝･ピット	8C前	少量	轆羽口	小郡市118	1997
322	小板井屋敷遺跡	小郡市	△			中世		轆羽口	小郡市139	1999

表78　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表⑧

323	花立山古墳群	小郡市大字干潟字城山	▲		2号横穴墓 4号横穴墓 6号横穴墓	6C後 6C後 6C後		鉄鉗 鑿 鉄鎚･金砧･砥石	小郡市147	2000
324	力武内畑遺跡	小郡市力武字内畑	△		C-6	6C前		轡羽口1	小郡市174	2003
325	大板井遺跡	小郡市大板井	○	鉄滓	D1	8C前?	1		小郡市192	2004
326	小板井京塚遺跡	小郡市小板井	○	鉄滓	SC-2	9C前	3	鉄製品･鋸	小郡市201	2005
三井郡										
327	高樋小道遺跡	三井郡大刀洗町大字高樋	○	鉄滓	SK17･20、井戸他	中世	?	轡羽口	大刀洗町29	2005
朝倉市										
328	柿原古墳群	甘木市大字柿原	●	鉄滓	EF-3号墳玄室 EF-4号墳玄室 EF-6号墳玄室 EF-14号墳閉塞部 EF-15号墳玄室	7C前 7C 7C 7C後～8C 6C後～7C後	4 3 1 1 1		県･横12	1987
					D-1号墳玄室･前室 D-6号墳玄室 D-11号墳前庭部 D-18号墳周溝(10号墳から転?) D-20号墳周溝(18号墳から転?) D-22号墳周溝 D-26号墳周溝	7C～8C中 7C後 7C～8C前? 7C後～8C前 7C後 7C中～後 7C後～8C初	2 1 4 2 1 1	鉄鑿2 鉄鑿1･轡羽口2 轡羽口1 轡羽口2	県･横19	1990
329	柿原遺跡群	甘木市大字柿原	○	鍛冶滓?	L-4住居内土壙	8C中	多数 (1903g)	鍛冶炉･轡羽口	県･横41	1996
330	立野遺跡	甘木市大字下浦	○	鉄滓	住居址他	7C前～	少量		県･横8	1986
331	塔ノ上遺跡	甘木市大字牛鶴	○	鉄滓	住居址他	8C中～後	少量	轡羽口	県･横9	1987
332	池ノ上墳墓群	甘木市大字堤字池の上	△		6号墳	5C前		鉄鎚･鉄鉗	甘木市5	1979
333	長田遺跡	朝倉町大字山田字長田	○	製錬滓	製鉄炉他	8C前	多量	製鉄炉･砂鉄貯蔵穴43kg	県･横30	1994
334	宮原遺跡	甘木市大字下浦	○	鉄滓	住居址他	7C前～後	少量	轡羽口	県･横17	1990
335	高原遺跡	甘木市大字屋永	○	鉄滓	住居址他	8C中～後	多数	轡羽口	県･横31	1994
336	須川ノケオ遺跡	朝倉郡朝倉町大字須川	○	製錬滓	製鉄炉･排滓坑	7C～8C?	多量	製鉄炉1基･排滓坑4･炉壁	朝倉町8	1999
337	上須川1号窯跡	朝倉市朝倉町	○	鉄滓	製鉄関連遺構？	?	?	?	中村勝 福岡考古13	1986
338	江栗遺跡	朝倉郡朝倉町大字志波	○	鍛冶滓	1･2号工房跡と周辺	8C末～9C初、9C後	多量	工房跡･轡羽口	県･横45	1997
339	二十谷遺跡	朝倉郡杷木町大字林田	○	鍛冶滓	18号土壙他	中世	少量	鍛冶炉?･轡羽口	県･横49	1998
340	原の東遺跡Ⅰ区	朝倉郡大字菱野	○	鍛冶滓	包含層	中世	1		県･横50	1998
341	金場遺跡	朝倉郡朝倉町大字山田字金場	○	鉄滓	住居址	7C後?	少量	轡羽口	県･横54	1999
342	垣添遺跡	朝倉郡朝倉町大字宮野	△			?		轡羽口	朝倉町11	2006
343	妙見古墳群	朝倉郡朝倉町	▲			6C		鉄鎚･鉄鉗･砥石	朝倉高校	1972
344	畑田遺跡	朝倉郡杷木町大字池田字畑田	○	鉄滓	?	中世	?	?	県･横56	1999
うきは市										
345	仁右衛門畑遺跡	うきは市吉井町大字新治所字仁右衛門畑	○	鍛冶滓他	35･75･89･90住居･溝他	7C後	少量		県･浮羽バ12	2000
346	堂畑遺跡	うきは市吉井町大字新治字堂畑	○	鉄滓	2区98･109･120･128･133住居他	7C前～後?	少量		県･浮羽バ23	2005
347	生葉地区遺跡群a･b	浮羽郡吉井町大字生葉字浅引	○	鉄滓	2･5･6号住居	5C前	少量		吉井町11	1999
久留米市										
348	大的遺跡	浮羽郡田主丸町大字田主丸	○	鉄滓	遺構面	?	1		県･浮羽バ19	2003
349	日詰遺跡	浮羽郡田主丸町大字田主丸	○	鉄滓	遺構面	?	2		県･浮羽バ19	2003
350	芝刈小学校遺跡1次	久留米市田主丸町八幡	○	鉄滓	SD343	中世	?		久留米市241	2006
351	別当山遺跡	久留米市山川町南追分	△		SK11	8C～9C		轡羽口	久留米市219	2006
352	茶臼山･東光寺遺跡	久留米市山川町字茶臼山	○	鍛冶滓	鍛冶炉		4	鍛冶炉･轡羽口	久留米市9	1974
353	下見遺跡	久留米市東合川町	△		SK315	8C		轡羽口	久留米市43	1985
354	筑後国府跡	久留米市合川町三反野･風祭	○	鉄滓	筑後国府跡87･88･89次	7C～8C	?	轡羽口･坩堝	久留米市62	1990
		久留米市合川町字立石	△		筑後国府跡189次	8C～		轡羽口	久留米市200	2004
355	押方A遺跡	久留米市安武本字押方	○	鉄滓	土壙	8C～9C	2		久留米市69	1991
356	念仏塚遺跡A地点	久留米市安武本字念仏塚	○	鉄滓	SK7	9C	1	轡羽口･鍛冶炉	久留米市114	1996
357	念仏塚B遺跡	久留米市安武本字念仏塚	?	?		?		鍛冶炉出土?	久留米市72	1992
358	古賀前遺跡	久留米市上津町字古賀ノ前	○	鉄滓	B地点SD9上層	中世	1		久留米市80	1993
359	日渡遺跡	久留米市国分町日渡	○	鉄滓	SK7	中世	1		久留米市85	1993
360	城崎遺跡2次	久留米市安武本字屋敷	△			14C～15C		轡羽口	久留米市118	1996
361	筑後国三潴郡衙跡道蔵遺跡	久留米市大善寺町中津	○	鉄滓	道蔵遺跡14次	9C	?	轡羽口	久留米市192	2003
		久留米市大善寺町中津	○	鉄滓	道蔵遺跡15･16次	9C?	1		久留米市212	2005
362	碇遺跡	久留米市安武町住吉	○	鉄滓	SD01	中世	1	轡羽口	久留米市196	2003
363	へボノキ遺跡65次	久留米市東合川町三丁目	○	鉄滓		10C中	1		久留米市205	2005
364	南薫西遺跡	久留米市南薫西町	○	鍛冶滓	Sl1	7C末～8C初	1		久留米市245	2007
八女郡										
365	正恵大坪遺跡	八女郡広川町大字久保字大坪	○	鉄滓		古墳～奈良	?		広川町23	2004
八女市										
366	高野町遺跡	八女市大字祈祷院字高野町	△		26号住居	6C中～後		轡羽口	八女市33	1994
筑後市										
367	上北島篠島遺跡	筑後市大字上北島字篠島	△		SD001	中世		轡羽口1	筑後市39	2002
368	鶴田牛ヶ池遺跡	筑後市大字鶴田字牛ヶ池			SX074･092･099	中世?		断面四角形で溶解鉱物が付着する土製品	筑後市36	2001
369	水田下桜町遺跡	筑後市大字水田字下桜町	○	鉄滓	SX27･29･32	中世	3		筑後市33	2001
370	江口南村囲遺跡	筑後市大字江口字南村囲	△			中近世		轡羽口･坩堝	筑後市66	2005
柳川市										
371	矢加部町屋敷遺跡	柳川市大字矢加部字町屋敷	△		2･3次調査	近世		轡羽口･坩堝･不明土製品	県･有明3	2007
みやま市										
372	赤坂古墳群	山門郡山川町河原内	▲?		1号墳周溝	5C末～6C 初		轡羽口	県･164	2001
373	イモジB遺跡	山門郡山川町大字原町	○	製錬滓･鍛冶滓	排滓坑･焼土遺構	平安末～鎌倉	多量	焼土遺構･排滓坑･炭窯･轡羽口･炉壁	山川町3	1999
374	大道端遺跡	山門郡瀬高町大字大草字大道端	○	製錬滓･鍛冶滓	住居址他	6C後	?	轡羽口	県･縦ⅩⅣ	1977
375	上庄秀遺跡	瀬高町大字上庄	○	鍛冶滓		12C～13C	1	轡羽口	県･203	2005
376	藤の尾垣添遺跡	山門郡瀬高町大字山門字藤の尾	△		6号住居	5C		轡羽口1	瀬高町5	1989
大牟田市										
377	鍛冶屋遺跡	大牟田市大字上内字鍛冶屋	○	鍛冶滓		中世	?	鍛冶炉･土壙	大牟田市43	1993

表79　製鉄･鍛冶関連遺物出土地地名表⑨

378	大間遺跡	大牟田市大字三池	○	鉄滓	SK10	中世	?	羽口･被火熱石材	大牟田市51	1999
北九州市										
379	新道寺･天疫神社前遺跡	北九州市小倉南区新道寺	○	鍛冶滓	土壙	13C中～後	13(883g)		北九11	1982
380	徳力遺跡　第2地点	北九州市小倉南区大字徳力	○	鍛冶滓･銅滓	溝	10C中	?		北九30	1884
381	平等寺･新池坂本遺跡	北九州市小倉南区大字横代	○	鉄滓	1号住居	7C前	1		北九63	1987
382	長野A遺跡	北九州市小倉南区大字長野	○	鍛冶滓	住居址･溝他	5C前～6C末、～平安	?		北九55	1987
383	潤崎遺跡	北九州市小倉南区大字貫字潤崎	○	製錬滓	2号土壙(祭祀土壙)	5C後半	コンテナ4		北九49	1986
384	井上遺跡Ⅰ区	北九州市小倉南区大字沼	○	鍛冶滓	20号土壙(鍛冶炉)	13C後～14C前	多数	羽口･炉壁･鉄片･粒状滓	北九162	1995
385	上清水遺跡Ⅲ区	北九州市小倉南区大字横代	△		8層上層	古墳後期～		羽口14	北九160	1995
386	座敷遺跡	北九州市小倉南区長野本町	○	鉄滓	Ⅲ層淡灰色粘質土層	古墳～中世	1		北九126	1992
387	尾崎遺跡	北九州市小倉南区大字隠蓑	○	鍛冶滓･銅滓	1号石組み炉他	9C	銅滓中心	鋳銅関係･石組炉･坩堝	北九118	1992
388	上清水遺跡Ⅱ区	北九州市小倉南区大字横代	●?	鍛冶滓	住居址･包含層他 Ⅱ区2号墳石室床面	古墳･中世 7C～	1	鍛冶炉 (供献?混入?)	北九100	1991
389	上貫遺跡4(C)区	北九州市小倉南区	○	鍛冶滓	鍛冶炉他	14C前	多量	鍛冶炉14･羽口･炉壁	北九264	2001
390	北方遺跡7次	北九州市小倉南区北方	○	製錬滓･鍛冶滓	包含層	6C後	?	羽口	北九251	2000
391	重留遺跡第4地点	北九州市小倉南区重住	○	鍛冶滓	鍛冶工房跡	6C中	多量	鍛冶炉･羽口･鍛造剥片･粒状滓	北九303	2003
392	長野尾登遺跡3地点	北九州市小倉南区長野	○	鉄滓	製鉄遺構(38号･46号土壙)	8C	?	羽口	北九322	2004
393	朽網富宮遺跡	北九州市小倉南区朽網東	○	鉄滓	4層	12C	1		北九354	2006
394	潤崎遺跡第8地点	北九州市小倉南区東貫	○	鍛冶滓他	包含層他	13C後～14C	多量 47.683Kg	羽口･炉壁	北九214	1998
395	蒲生寺中遺跡3･4区	北九州市小倉南区蒲生	○	鍛冶滓	3･4区	14C～	多数	羽口･鋳型･坩堝･炉壁	北九274･307	2002
396	愛宕遺跡	北九州市小倉北区菜園場	△		包含層	11～12C?		羽口	北九60	1987
397	室町遺跡	北九州市小倉北区室町	○	鉄滓	鋳造関連遺構(小倉鋳物師関連)	14C～	多量	溶解炉･鋳型･坩堝･羽口	北九95	1990
398	小倉城ⅢA区	北九州市小倉北区城内	○	鍛冶滓	3層下層	中世～近世	少量	炉壁	北九197	1997
	小倉城Ⅰ･Ⅱ区	北九州市小倉北区城内	○	鍛冶滓(鉄･銅)		中世～近世	多量	鋳造関係(坩堝･鋳型･羽口など)	北九196	1996
	小倉城第2地点	北九州市小倉北区城内	○	鍛冶滓･銅滓	6号集積遺構･11号土壙	16C末～17C	?		北九228	1999
	小倉城米御蔵跡	北九州市小倉北区城内	○	鉄滓	御普請所跡1号礎石建物炉跡	18C～19C	?	羽口･鍛造剥片	北九313	2004
	小倉城桜町口門跡	北九州市小倉北区	○	鍛冶滓他	A～C区	近世	多量	鋳型･炉壁･粒状滓	北九370	2007
	小倉城二ノ丸家老屋敷跡1	北九州市小倉北区室町	○	鉄滓	鋳造関連遺構	近世	多量	溶解炉･鋳型など	北九教110	2006
399	片野遺跡	北九州市小倉北区片野	△			8C前		羽口2(一つは銅付着)	北九240	2000
400	三郎丸遺跡2地点	北九州市小倉北区三郎丸	△		10号住居	6C後		羽口	北九304	2003
401	黒崎城跡Ⅰ･3	北九州市八幡西区田町	○	鉄滓	6～8、12～14号土壙、5a区整地層4層	17C～18C	大量	羽口･炉壁･坩堝･鍛造剥片等	北九336･375	2005 2007
402	馬場山	北九州市八幡西区馬場山	○	鍛冶滓		中世	?		北九教35	1980
403	辻田遺跡	北九州市八幡西区馬場山	○	鍛冶滓	ピット他	中世	?		北九教35	1980
404	茶屋ノ原遺跡	北九州市八幡西区馬場山	○	鍛冶滓	土壙	中世	?		北九教35	1980
405	丸ヶ谷遺跡	北九州市八幡西区大字永犬丸	○	製錬滓	炉他	平安	?	炭窯	北九教16	1976
406	園田遺跡	北九州市八幡西区大字永犬丸	○	鉄滓	Ⅰ～Ⅳ区	中世	少量		北九183	1996
407	真名子鉄山	北九州市八幡西区大字楠橋	○	製錬滓		江戸末期		藩営たたら	北九州郷土史研究会	1968
408	白岩遺跡	北九州市八幡西区大字香月	○	鍛冶滓		鎌倉時代	7		北九3	1980
行橋市										
409	延永水取遺跡	行橋市大字野延水	○	鉄滓	溝	8C	20	羽口	県･159	2001
410	長者原遺跡	行橋市南泉	○	鍛冶滓	J-1内撹乱	6C後	1	取瓶(8C～中世)	県･146	2000
京都郡										
411	菩提遺跡	京都郡みやこ町大字松田	○	鉄滓･銅滓		8C～9C	多量	羽口･坩堝･	県･仲哀1	2003
		京都郡みやこ町勝山松田	○	鍛冶滓	土壙･ピット	7C～8C?	2	焼土坑･羽口･炉壁	みやこ町1	2006
412	末江畑田遺跡	京都郡みやこ町犀川末江	○	鉄滓		?	1		みやこ町3	2008
413	末江園田屋敷遺跡	京都郡みやこ町犀川末江	○	鉄滓		?	?		みやこ町3	2008
414	末江下前田遺跡	京都郡みやこ町犀川末江	○	鉄滓		5C前～中		高杯転用羽口	みやこ町3	2008
415	徳永川ノ上遺跡	京都郡豊津町大字徳永	○	鍛冶滓	包含層	中世	大量	羽口	県･椎田道9	1997
416	木井馬場井口遺跡	京都郡犀川町大字木井馬場字井口	○	鍛冶滓	土壙等	中世	多数	鍛造剥片･粒状滓	県･183	2003
417	山鹿宮田遺跡	京都郡犀川町大字山鹿	○	鍛冶滓他	土壙他	12C前～13C初	多量	炉壁･羽口･鋳型	犀川町9	2005
豊前市										
418	黒峯尾10号墳	豊前市大字松江字灰の木	▲		墓道左側	6C後～8C前		羽口供献?	県･椎田道8	1996
築上郡										
419	赤幡森ヶ坪遺跡	築上郡築上町大字赤幡字森ヶ坪	○	鍛冶滓	1号鍛冶炉 2号鍛冶炉 住居址他	9C後 7C後	多数 多数	鍛冶炉･羽口	県･椎田バ8	1992
420	安武･深田遺跡	築上郡築上町大字安武	○	鉄滓	50号住居	弥生中期末	?	鍛冶炉･鉄片	県･椎田バ4	1991
421	広幡遺跡	築上郡椎田町水原	○	鍛冶滓	10号住居･包含層	7C末～8C	2･約100	羽口	県･椎田バ9	1992
422	越路貴船遺跡	築上町大字越路字貴船	○	鍛冶滓	1号鍛冶遺構他	8C前	少量	鍛冶炉･羽口	県･161	2001
423	松丸F遺跡	築上郡築城町	○	製錬滓	製鉄関連遺構	(6C末?～) 7C初～8C	大量	製鉄炉1･砂鉄ピット･横口付炭窯6･羽口など	築城町2	1992
424	長谷川邸遺跡	築上郡築城町大字伝法寺		鍛冶滓		明治初頭	?		築城町3	1996
425	小山田･スルメ田遺	築上郡築城町大字小山田	○	鉄滓	土壙	12C中～13C前	?	羽口	築城町9	2003
426	寒田･櫻遺跡	築上郡築城町大字寒田	○	鉄滓	?	?	1		築城町10	2004
427	本庄･上ノ屋敷遺跡	築上町大字本庄字上ノ屋敷	○	鍛冶滓	鍛冶関連遺構	15C	少量	鍛冶炉･焼土坑･鍛造剥片･粒状滓	築上町1	2006
428	カヂヤ遺跡	築上町大字本庄	○	鍛冶滓	1～4号土壙	14C前	多量	羽口･金床石･粒状滓･鍛造剥片	築上町2	2007
429	伝法寺杉ヶ丸遺跡	築上町大字伝法寺	○	鍛冶滓	鍛冶関連遺構	12C後～13C前	少量		築上町3	2008
430	船迫小池遺跡	築上町大字船迫	○	鍛冶滓	包含層	8C前～8C後	少量	粒状滓･鍛造剥片	築上町3	2008
431	上唐原稲本屋敷遺	築上郡大平村大字上唐原字稲本屋	○	鉄滓	Ⅰ･Ⅱ区溝	中世～近世?	少量		県･山国川1	1997
432	土佐井遺跡	築上郡大平村大字土佐井	○	鍛冶滓	1･2号土壙	13C後半	?	鍛冶炉	太平村6	1990

※鉄滓出土の有無について、鉄滓の出土が認められた遺跡は「○」、鉄滓出土の記載はないが羽口等、製鉄･鍛冶関連遺物･遺構が出土した遺跡は「△」、古墳から出土したものについては「●」、鍛冶具の副葬古墳は「▲」で表記した。また、鉄滓の種類については大きく製錬滓と鍛冶滓に分け、不明なものについては鉄滓とした。
※できる限り製鉄･鍛冶関連遺物を集成したが、鉄鋌など鉄素材や中近世の炭窯などが集成から外れている。
※出典については各自治体の報告書や、柳沢氏、大澤氏の地名表を元にした。

図　　版

（1）7次調査地調査前（上空より）（平成11年撮影）

（2）調査後の現況（南東から）

図版2

（1）調査地全景（北西から）

（2）調査地全景（上空から）

（1）SB01全景（北西から）

（2）SB01（SP20）遺物出土状況（南東から）

（3）SB01（SP08）土層（南西から）

（4）SB01（SP20）土層（南から）

（5）SB01（SP32）土層（南から）

図版4

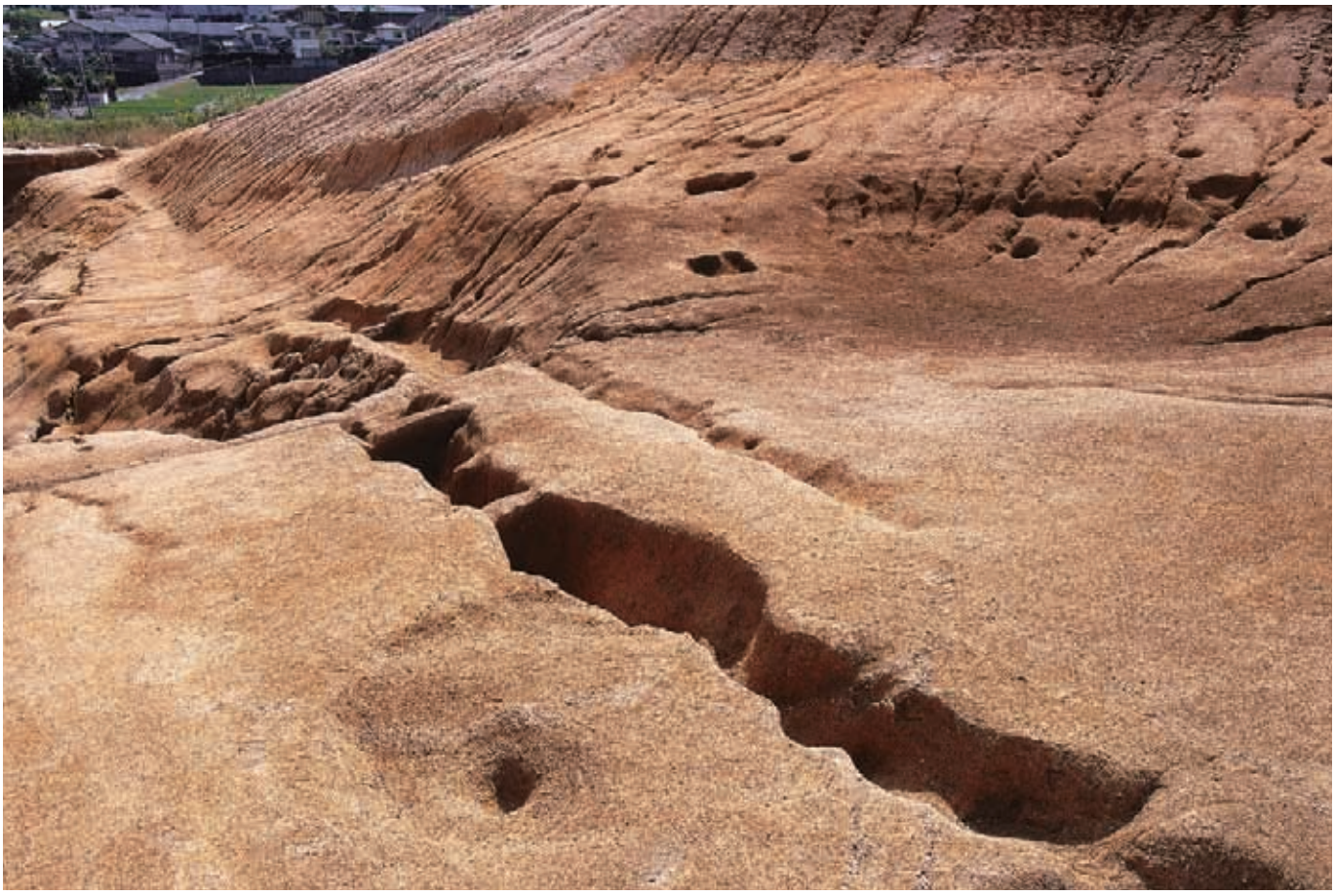
（1）SB02全景（南から）

（2）SB02（SP25）土層（南西から）

（3）SB02（SP26）土層（南西から）

（4）SB02（SP38）土層（南東から）

（1）SC01全景（南東から）



（2）SD01・02全景（北西から）

図版6

（1）SD03・04全景（北東から）

（2）SD06・09全景（北西から）

（1）SX01土層
（北から）

（2）SX06土層
（東から）

（3）SX09土層
（西から）

図版8

（1）SX10土層
（北西から）

（2）SX11全景
（北東から）

（3）SX11土層
（北から）

（1）SX12全景（北東から）

（2）SX12北東小口部側板組合せ状況（北東から）

（3）SX12北西小口部側板組合せ状況（北西から）

（4）SX15遺物出土状況（北東から）

（5）SX15土層（南東から）

図版10

（1）SX17全景
（北東から）

（2）SX18全景
（北東から）

（3）柱穴列全景
（東から）

（1）灰原1検出状況
（南西から）

（2）灰原1横断面土層
（南から）

（3）灰原2検出状況
（南から）

図版12

（1）谷部A・B区間土層（東から）

（2）谷部B・C区間土層（東から）

（1）谷部C・D区間土層（東から）

（1）谷部D・E区間土層（東から）

図版14

（1）谷部E・F区間土層（西から）

（2）谷部2層完掘状況（西から）

（1）谷部2層完掘状況（東から）

（2）谷部A・B区2層完掘状況（北東から）

図版16

（1）谷部D区SK01完掘状況（北から）

（2）同上

（1）谷部D区完掘状況（北西から）

（2）谷部E・F区完掘状況（西から）

図版18

（1）灰原1多孔瓶出土状況
（東から）

（2）灰原1土師器等一括出土状況
（南東から）

（3）谷部A区えぶり出土状況
（東から）

（1）谷部B区伐採木出土状況
（北東から）

（2）谷部C区墨画土器出土状況
（北東から）

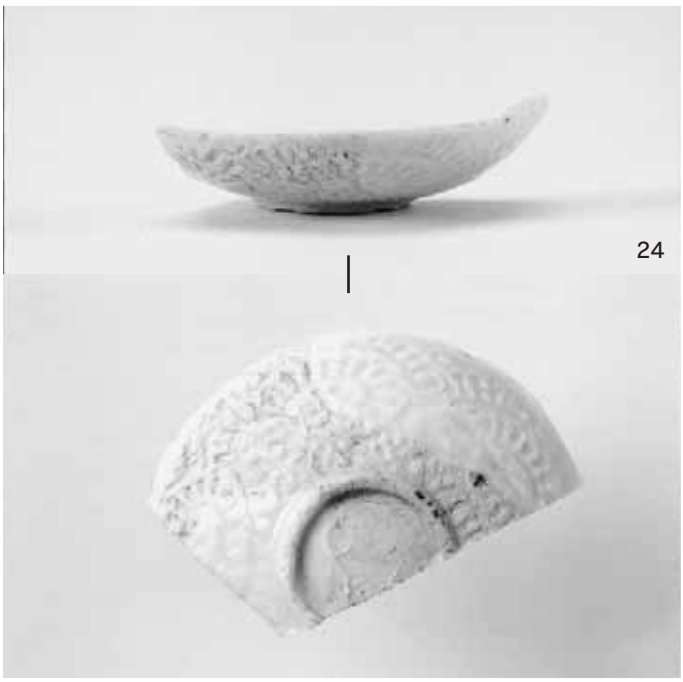
（3）谷部D・E区ベルト銅製鈴
出土状況
（東から）

図版20

（1）谷部出土大甕（729）
口縁部補修状況

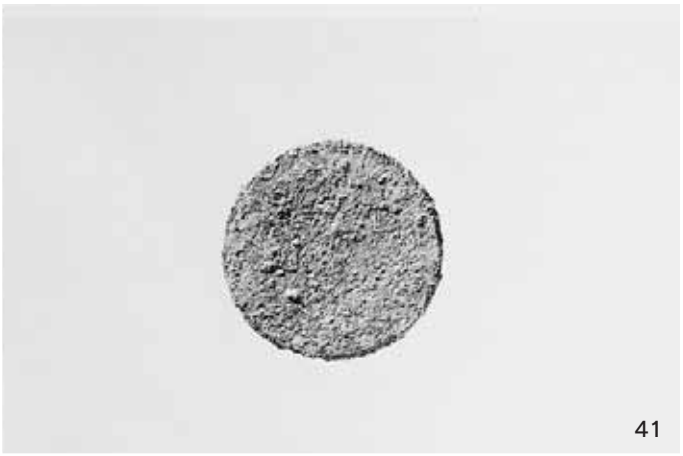
（2）谷部出土大甕（1005）
粘土帯積上げ状況

10


24

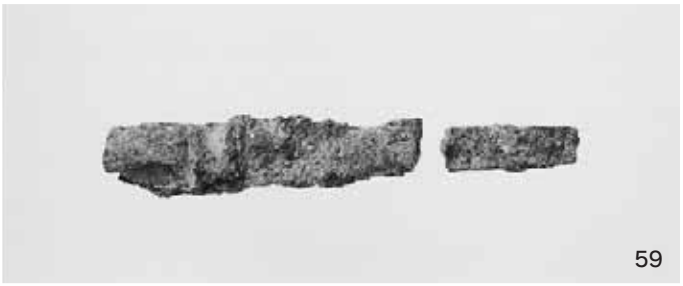
39

40


41

45

52


59

64

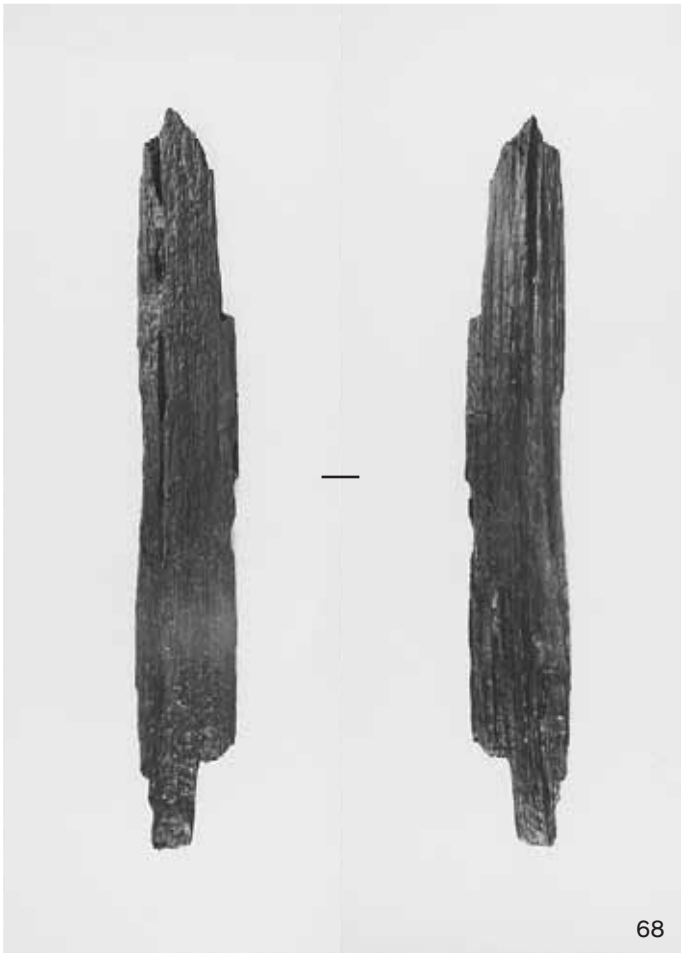
SC・SD・SX出土遺物

図版22

65

66

67


68

SX12出土遺物①

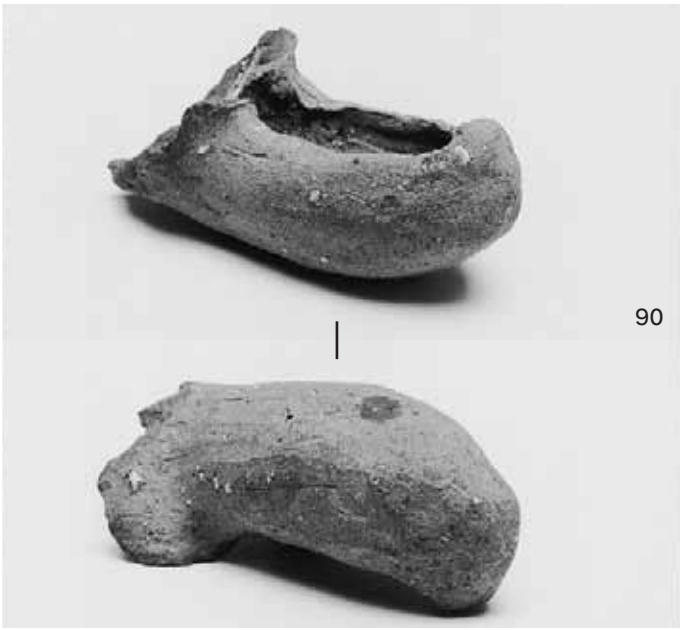
69

84

81

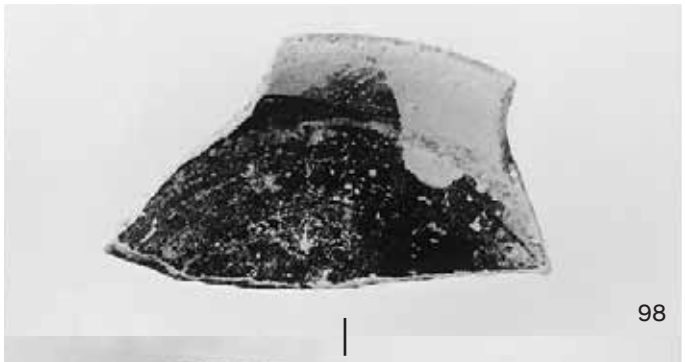
87

82


90

SX12出土遺物②、灰原1上層出土遺物①

図版24


98

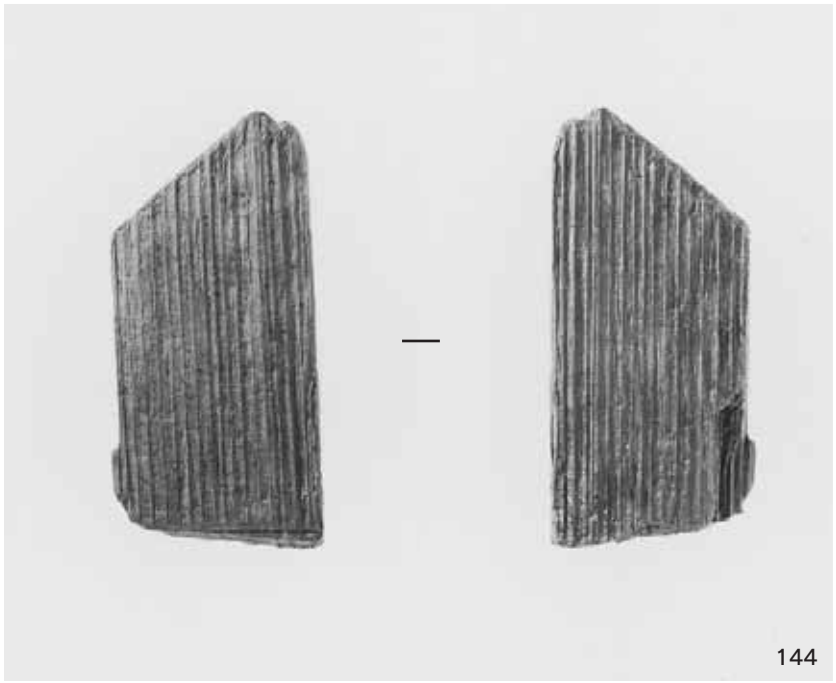
103

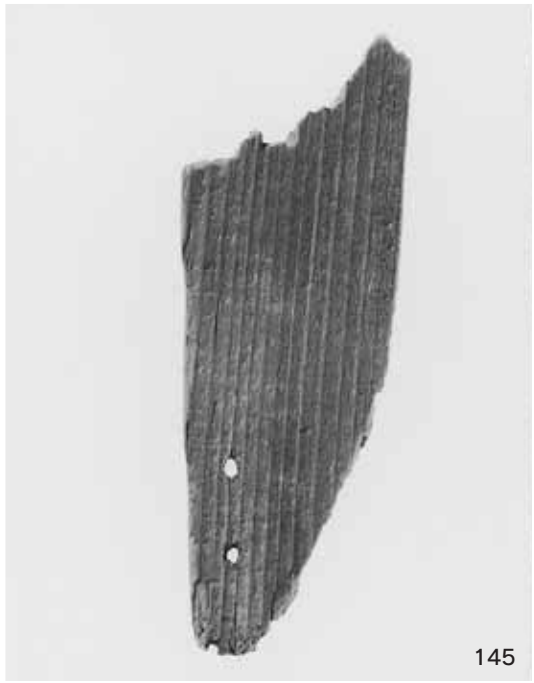
109

134

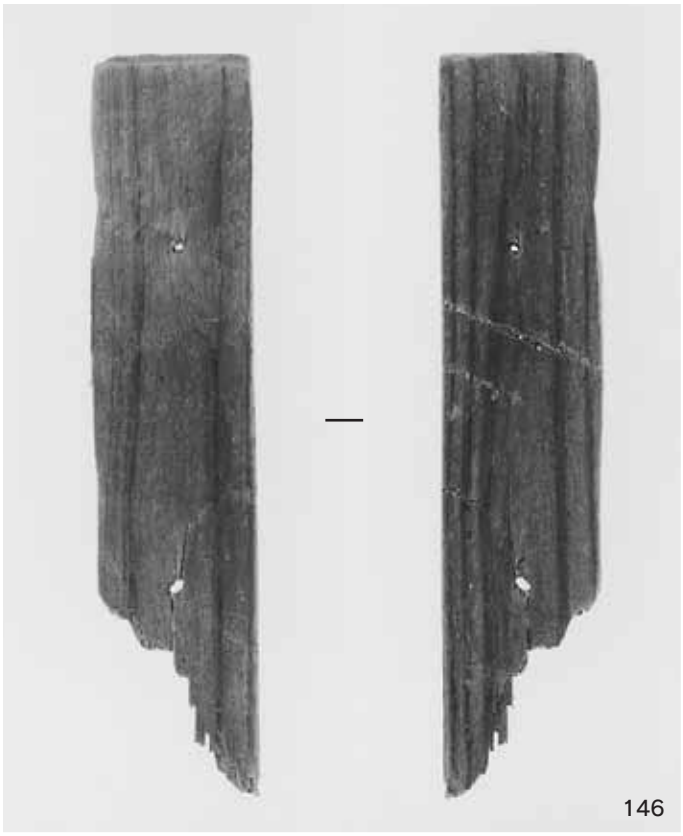
135

142


144


145

灰原1上層出土遺物②


146

163

174

154

174

155

159

176

161

180

灰原1中層出土遺物①

189

197

198

207

208

209

212

213

214

灰原1下層出土遺物、灰原1出土一括遺物

222

234

236

274

275

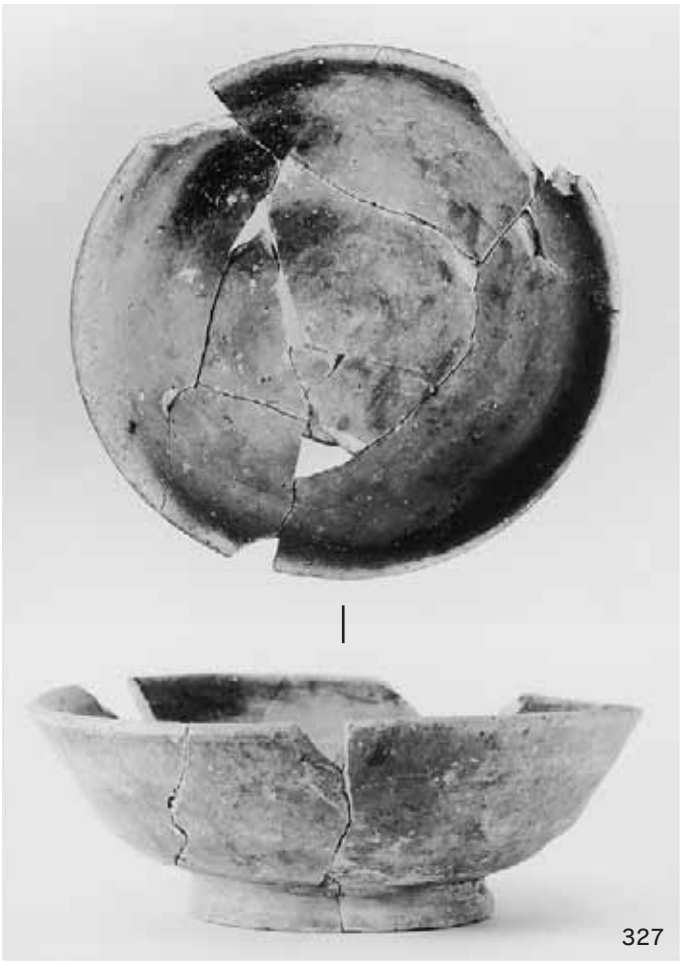
277

283

284

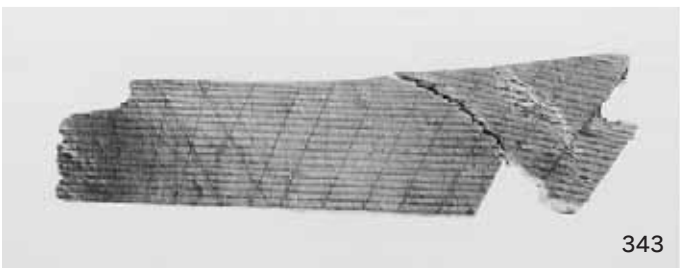
灰原2出土遺物、谷部A区出土遺物①（1層・2層）

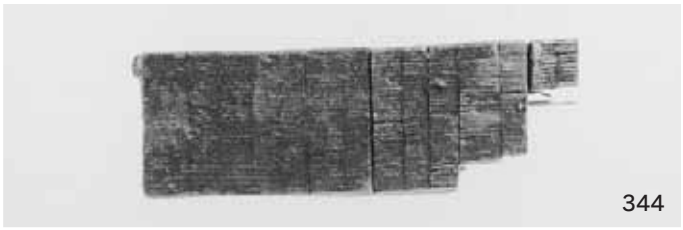
図版28

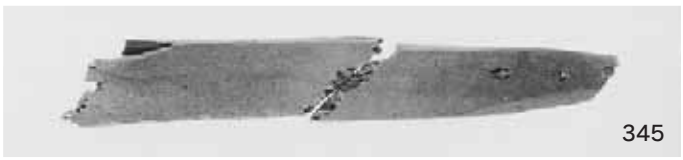

327

329

340


343


344


345

346

348

349

谷部A区出土遺物②（2層・3層）

352

354

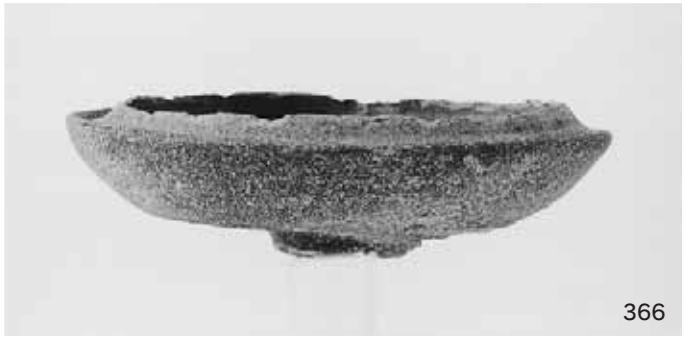
356

358

360

363

365


366

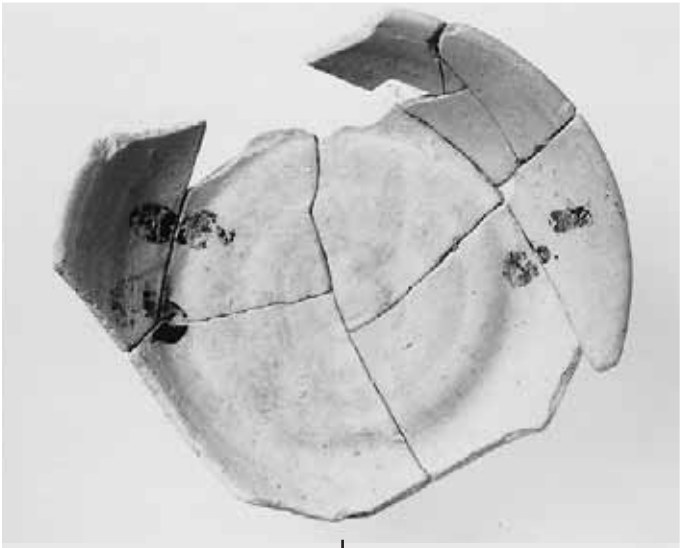
370

378

谷部A区出土遺物③（4層）

図版30

381


382

385

386

391

392

402

403

406

407

谷部A区出土遺物④（4層・5層）

408

409

415

418

422

423

424

426

430

431

434

436

谷部A区出土遺物⑤（5層）

440

461

441

462

443

463

449

465

454

466

456

470

谷部A区出土遺物⑥（5層）

473

474

475

477

478

478

谷部A区出土遺物⑦（5層）

図版34

481

485

486

483

487

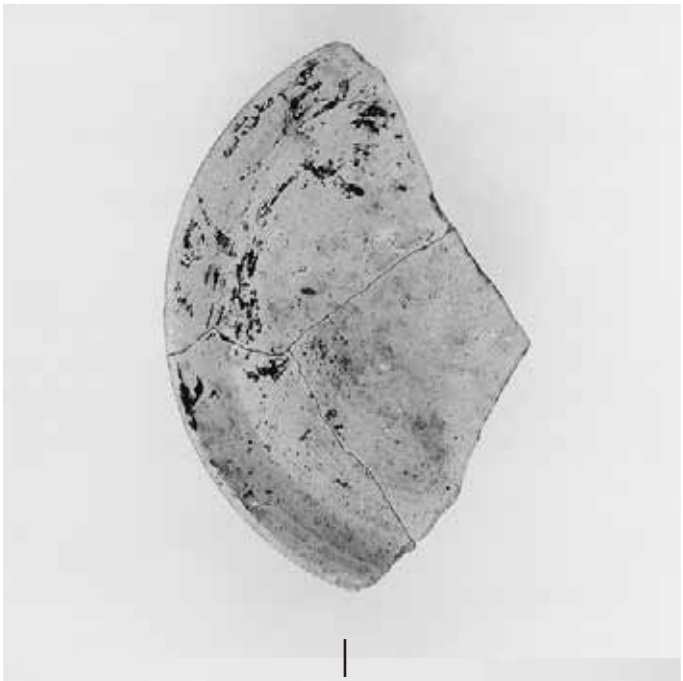
484

488

谷部A区出土遺物⑧（5層）

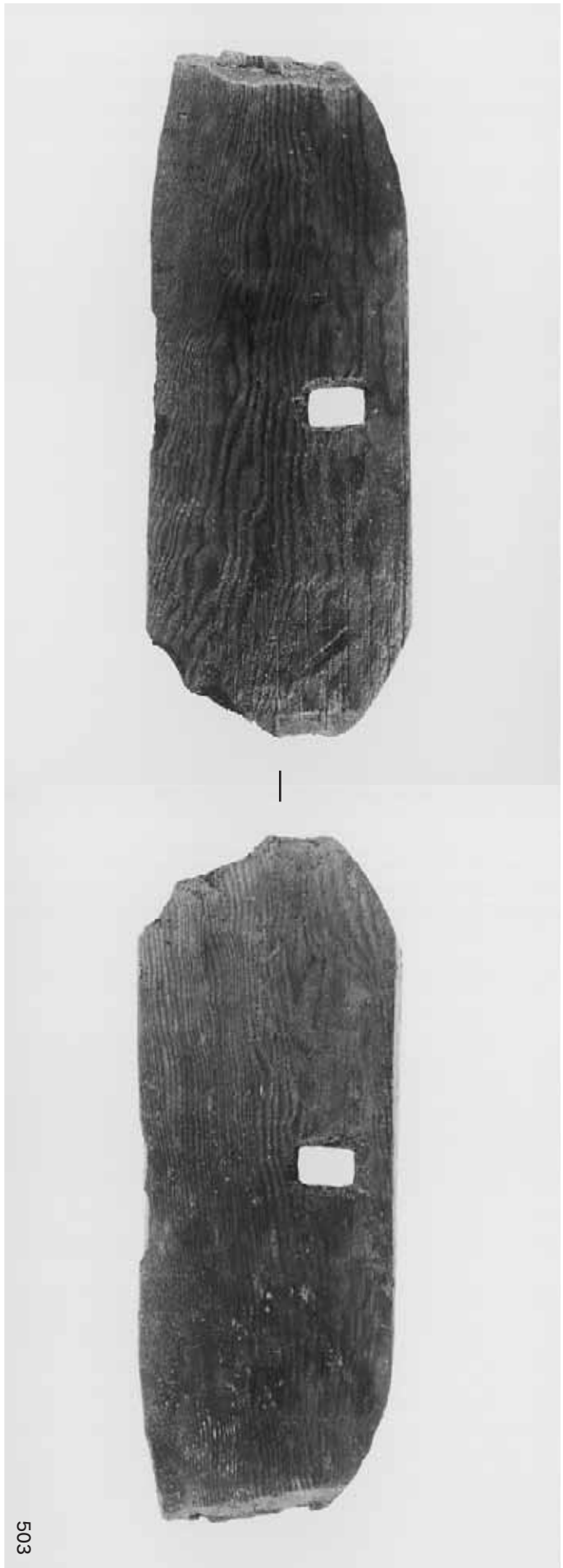
493

495

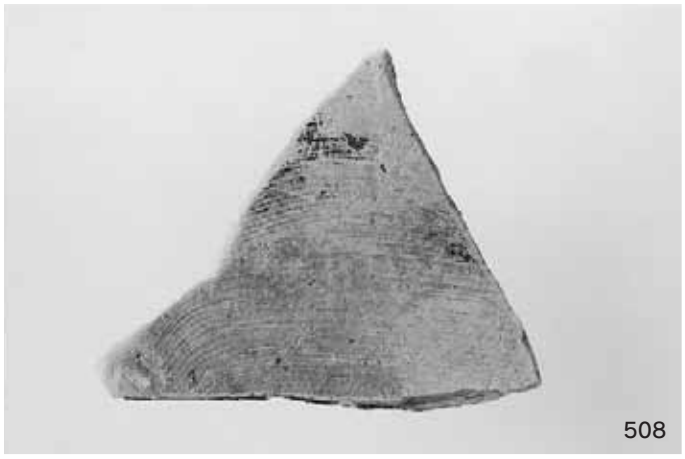


497

499


503

谷部A区出土遺物⑨（5層）


508

514

515

516

531

533

534

541

谷部B区出土遺物①（1層・2層）

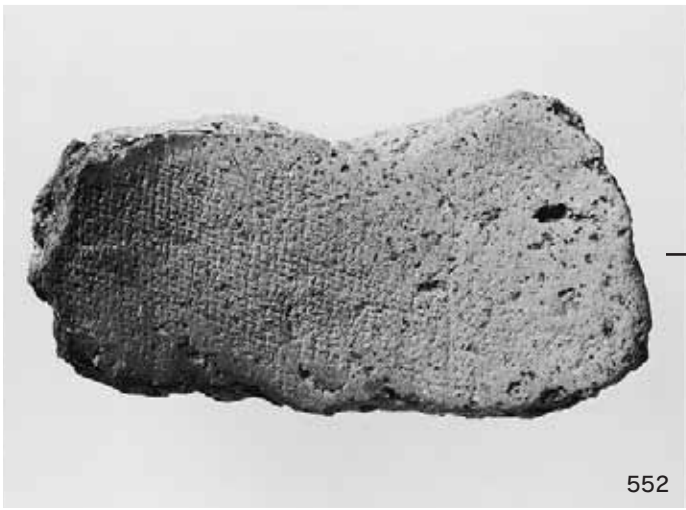
542

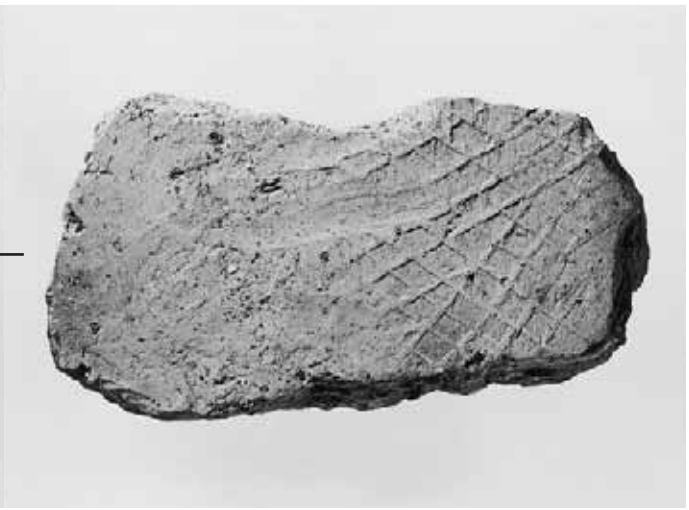
548

550

554

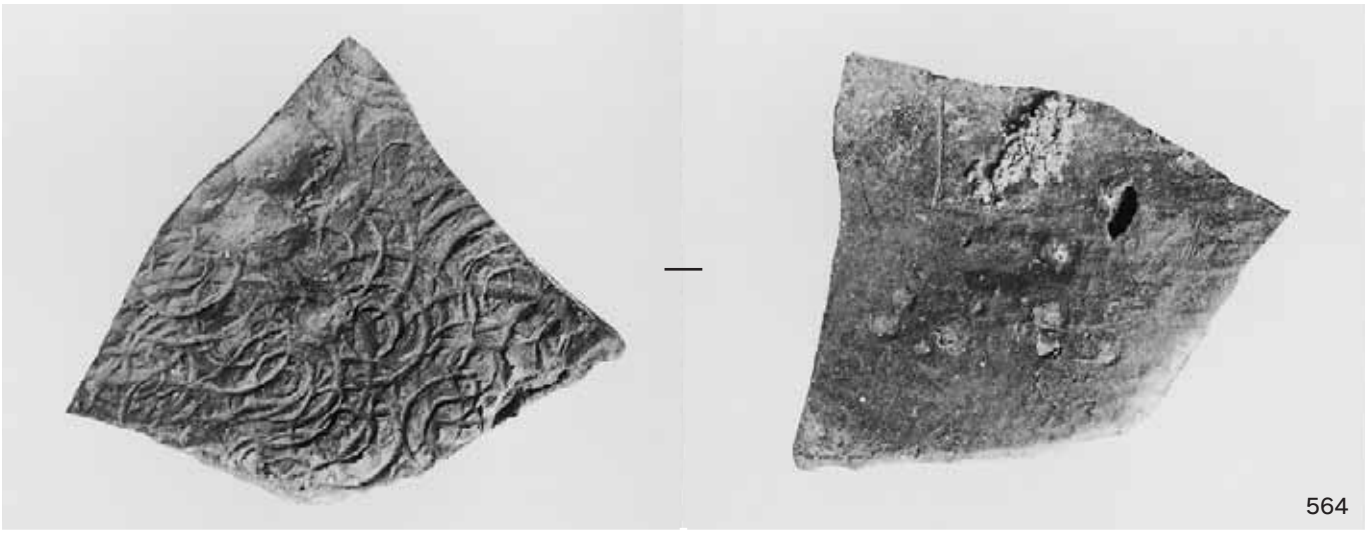
560


552



谷部B区出土遺物②（2層・3層）

図版38



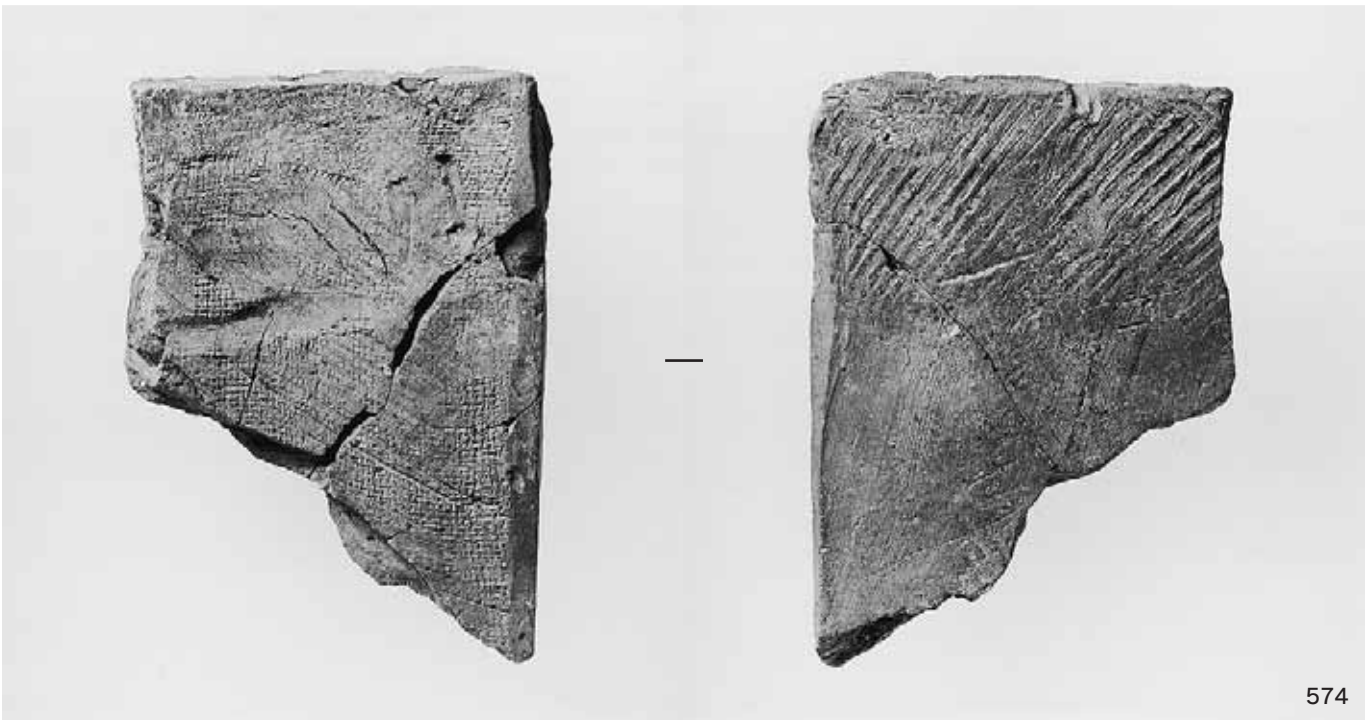
564

566

568

567

573



574

谷部B区出土遺物③（3層）

580

589

596

598

600

603

609

610

611

612

谷部B区出土遺物④（4層・5層）

613

623

615

625

616

626

617

629

618

630

621

631

谷部B区出土遺物⑤（5層）

632

642

634

648

635

649

636

650

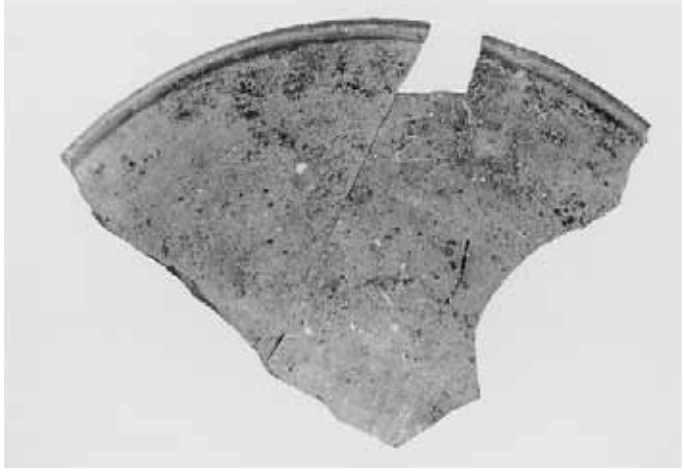
639

640

谷部B区出土遺物⑥（5層）

図版42

651



652

664

670

672

673

676

681

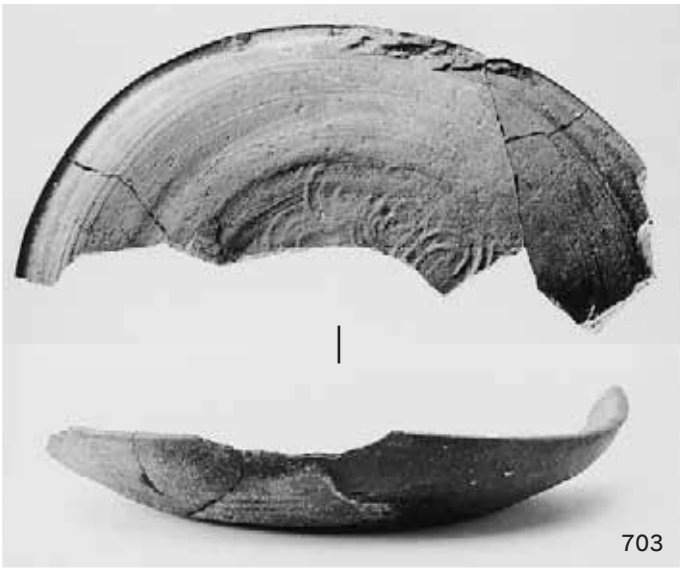
684

687

688

谷部B区出土遺物⑦（5層）

699

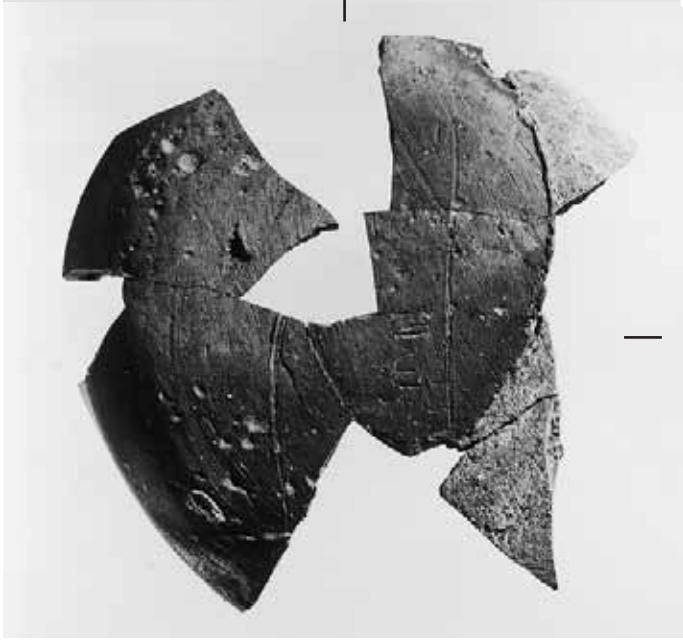

703

700

704

702

705



谷部B区出土遺物⑧（5層）

図版44

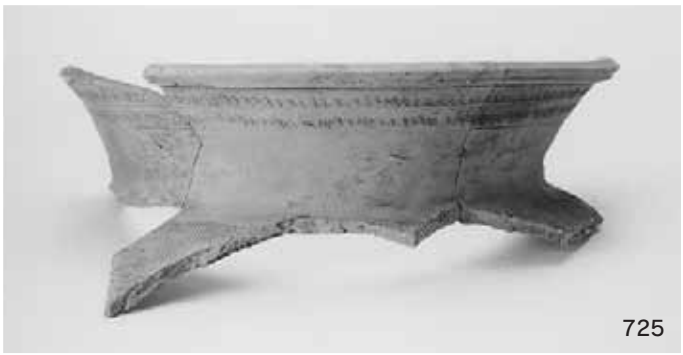
708

714

714

719

721

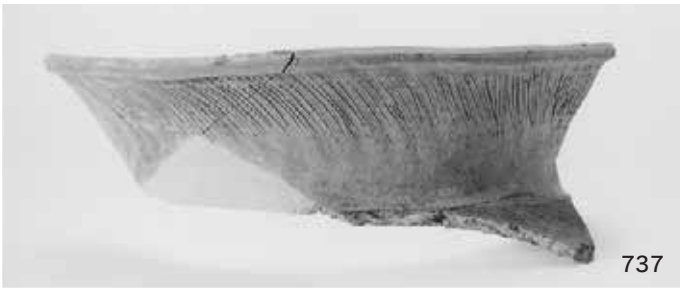

725

726

727

谷部B区出土遺物⑨（5層）

728


737

729

738

739

732

734

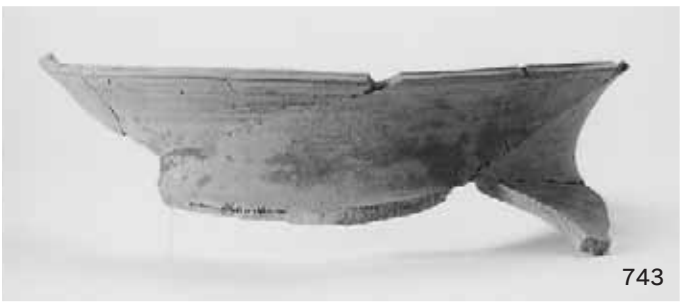
735

740

谷部B区出土遺物⑩（5層）

741

742


743

744

745

746

747

748

谷部B区出土遺物⑪（5層）

749

750

762

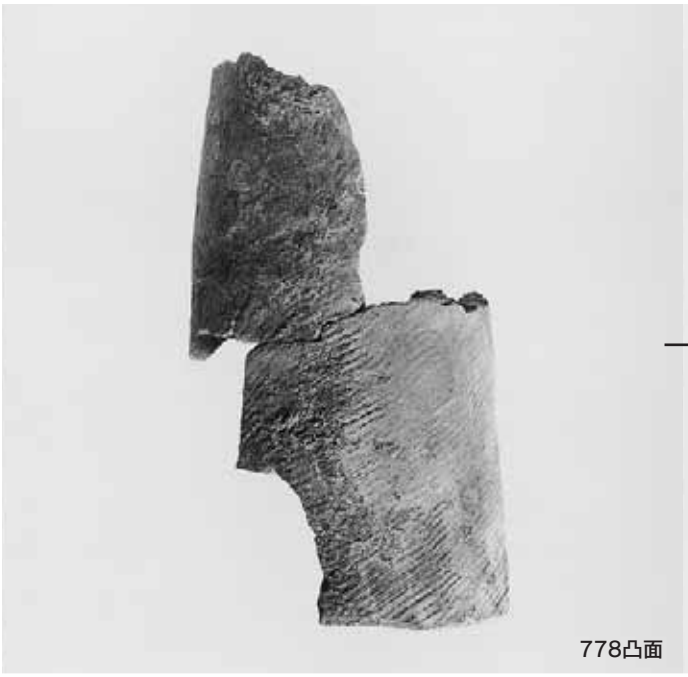
753

769

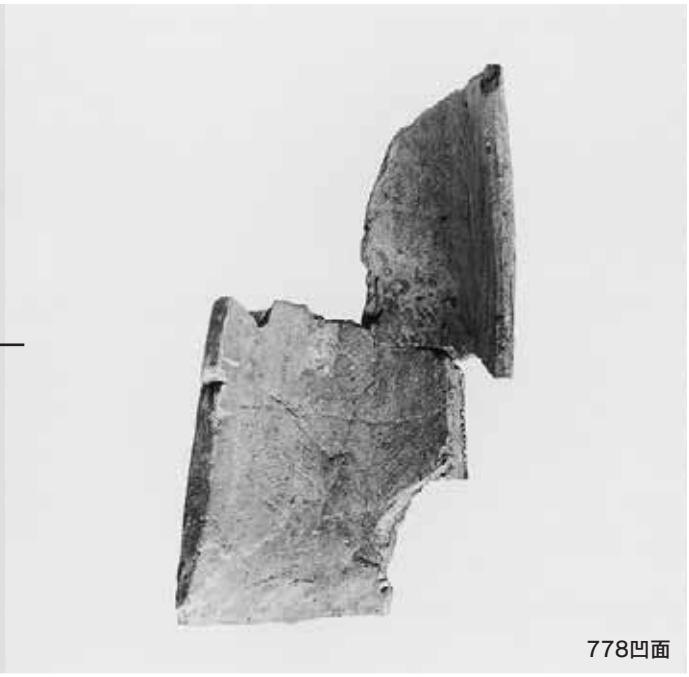
775

谷部B区出土遺物⑫（5層）

図版48

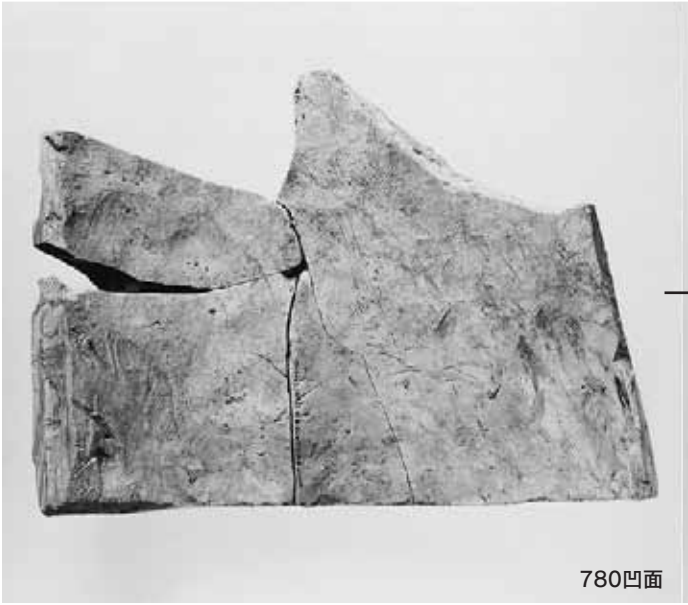


778凸面

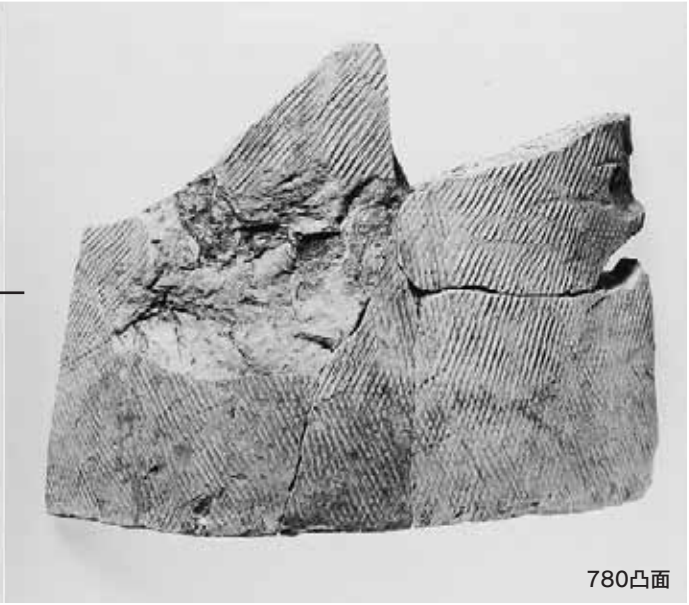


778凹面

778窯砂付着状況

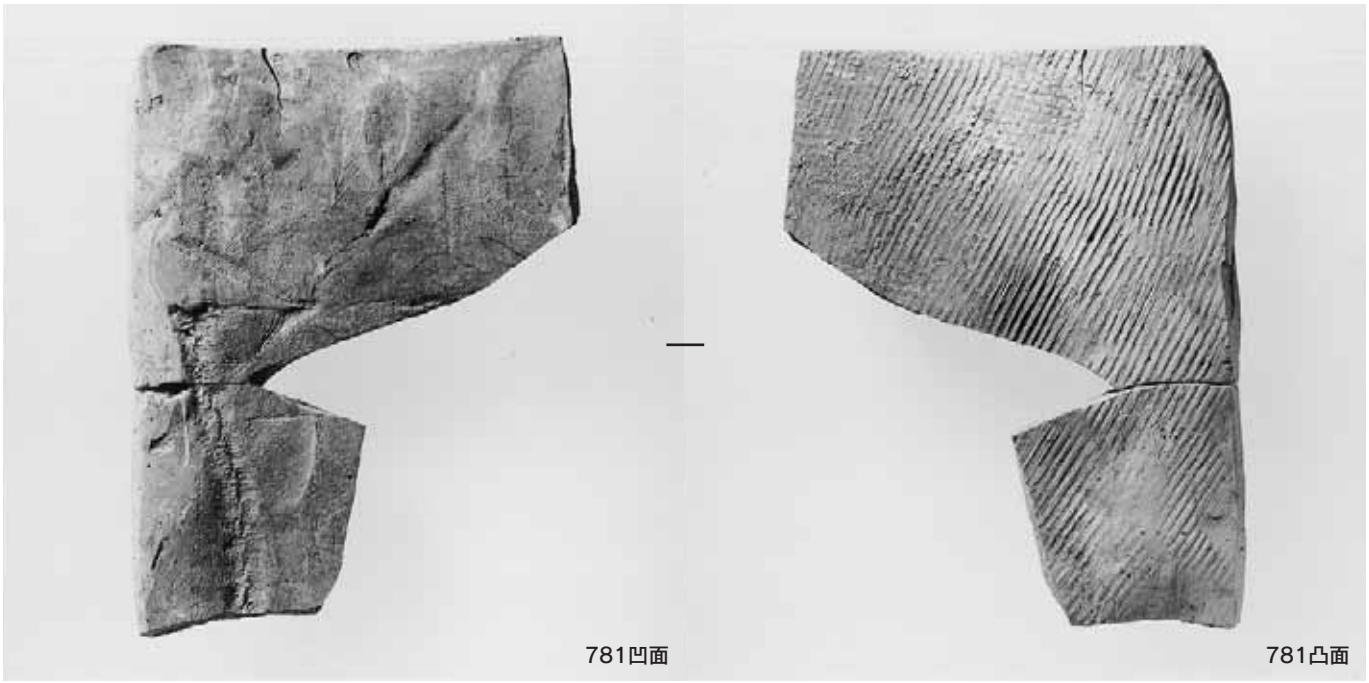


780凹面

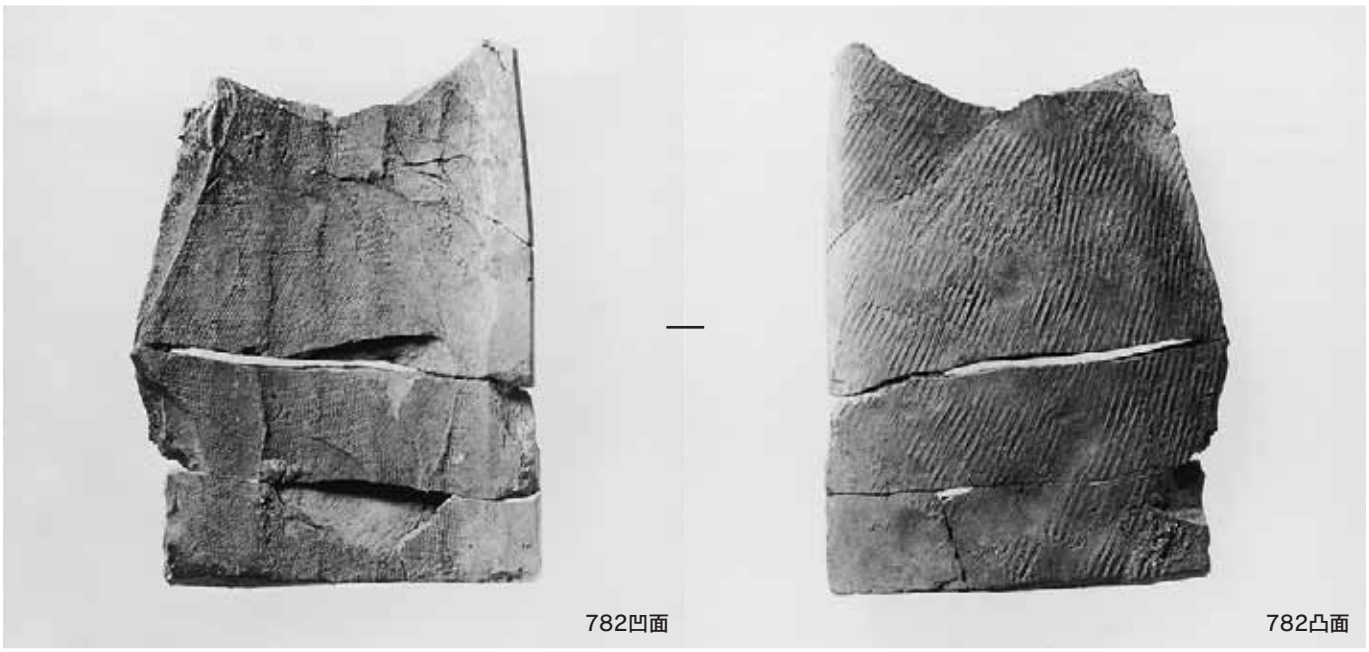


780凸面

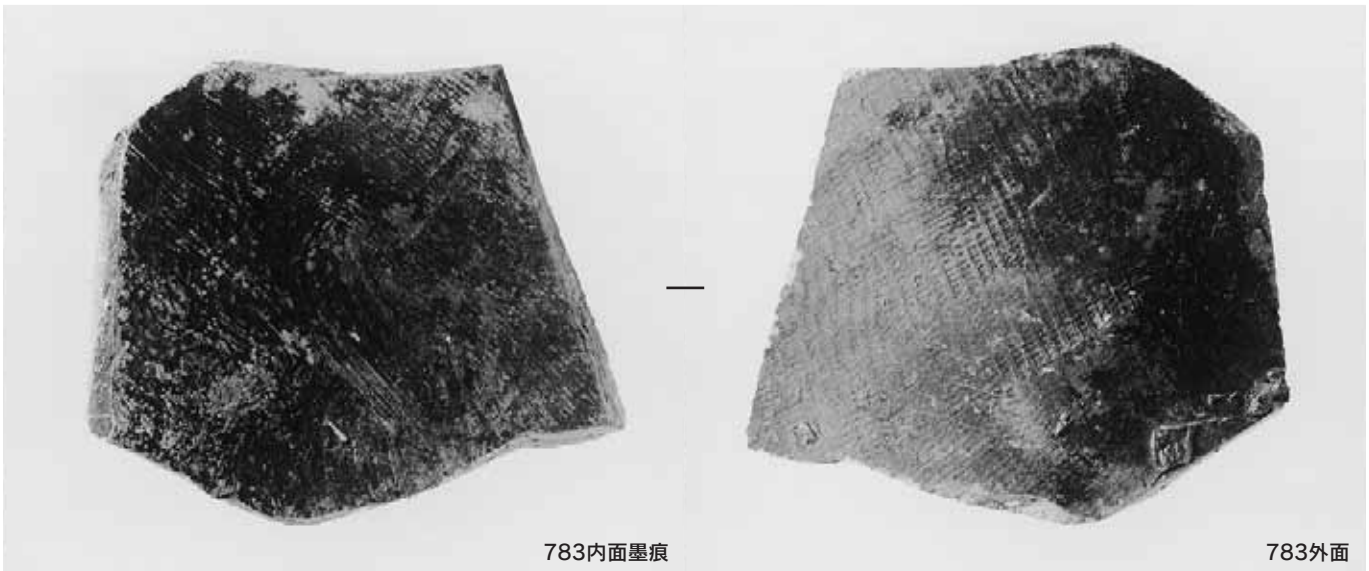
谷部B区出土遺物⑬（5層）



781凹面　781凸面



782凹面　782凸面



783内面墨痕　783外面

谷部B区出土遺物⑭（5層）

789

790

792

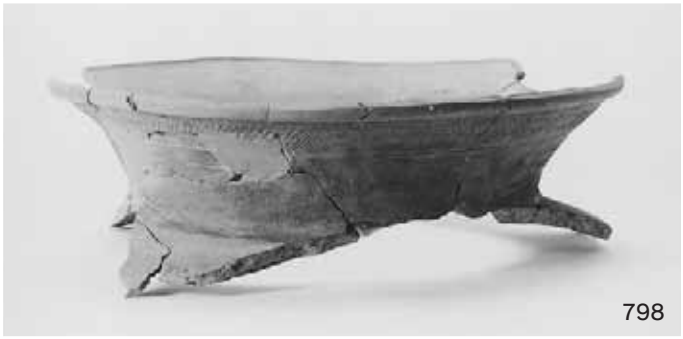
793

794

795

796

797


798

800

谷部B区出土遺物⑮（6層、7・8層）

801

802

803

804

808

810

811

814

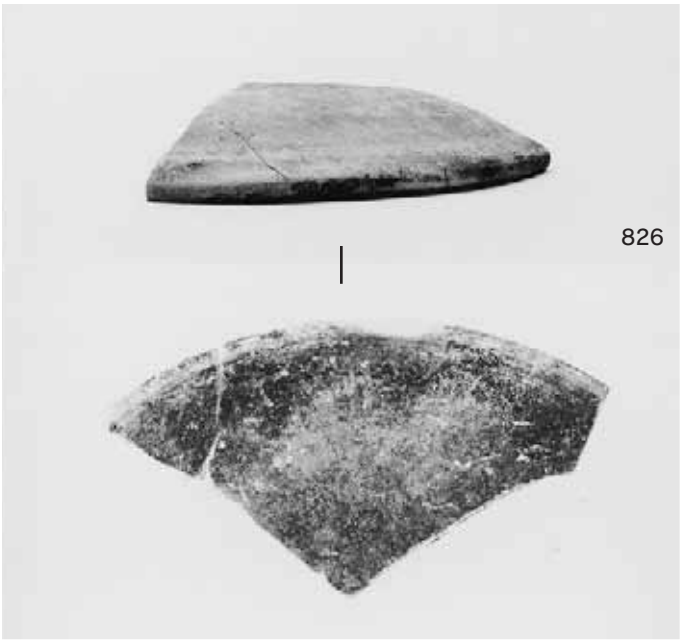
815

821

谷部B区出土遺物⑯（7・8層、9層、10層）

図版52

822


826

827

830

836

836内面

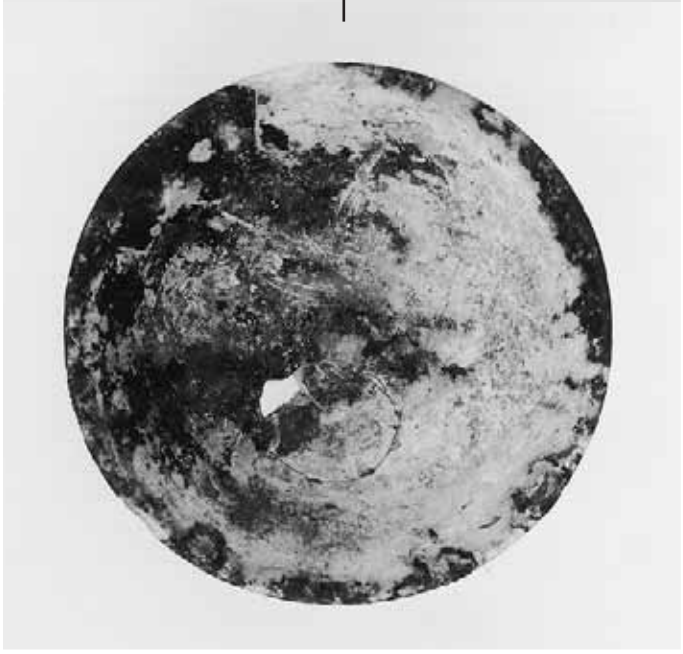
837

837外面

839

谷部B区出土遺物⑰（10層）、谷部C区出土遺物①（2層）

846



848

849

851

853

854

855

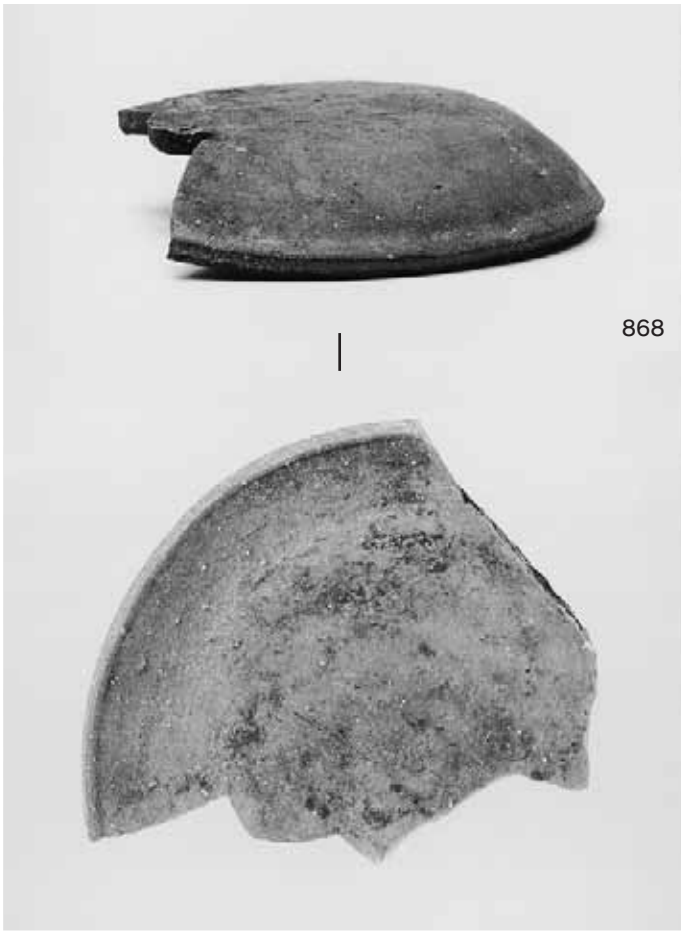
谷部C区出土遺物②（2層）

図版54

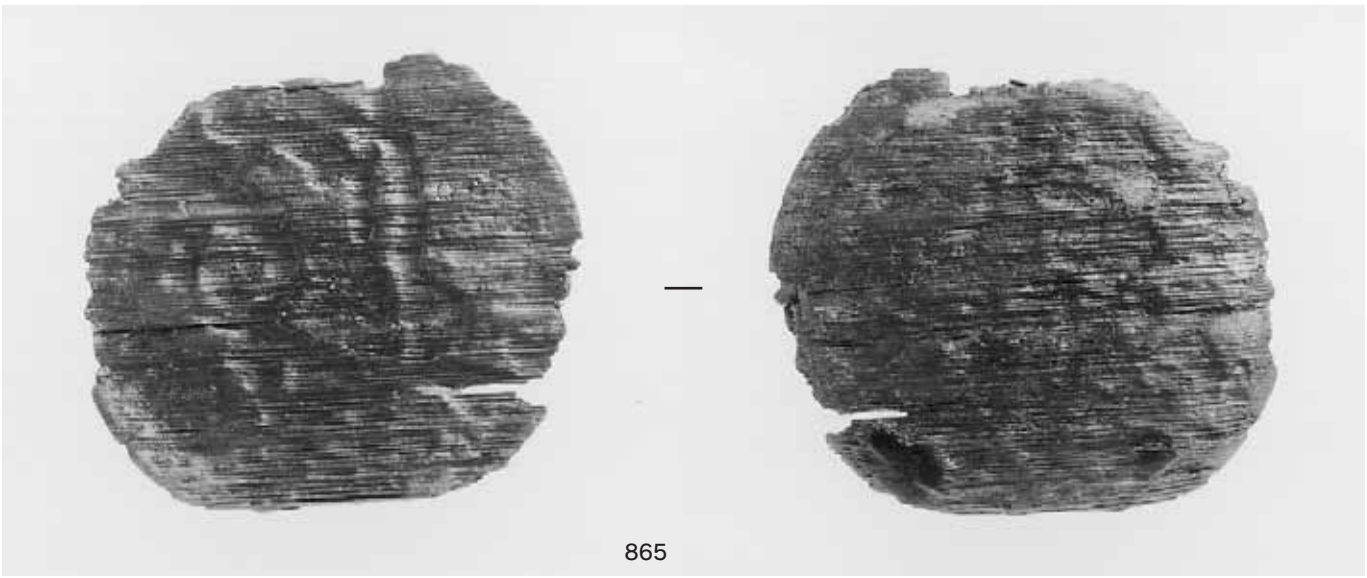
856

861

864


868

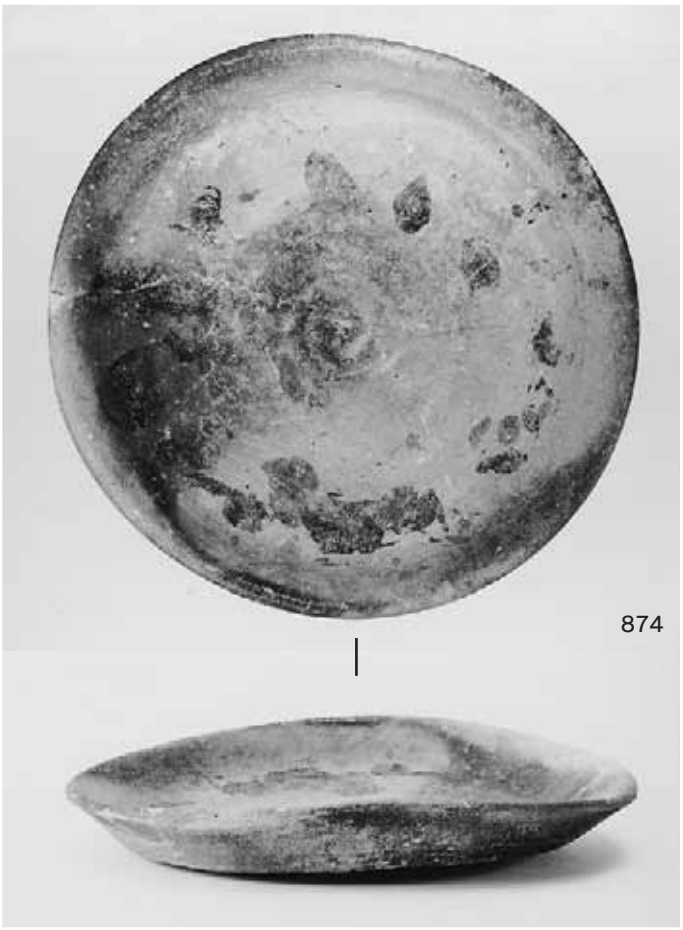
869


865

谷部C区出土遺物③（2層・4層）

871

873


874

872

876

877

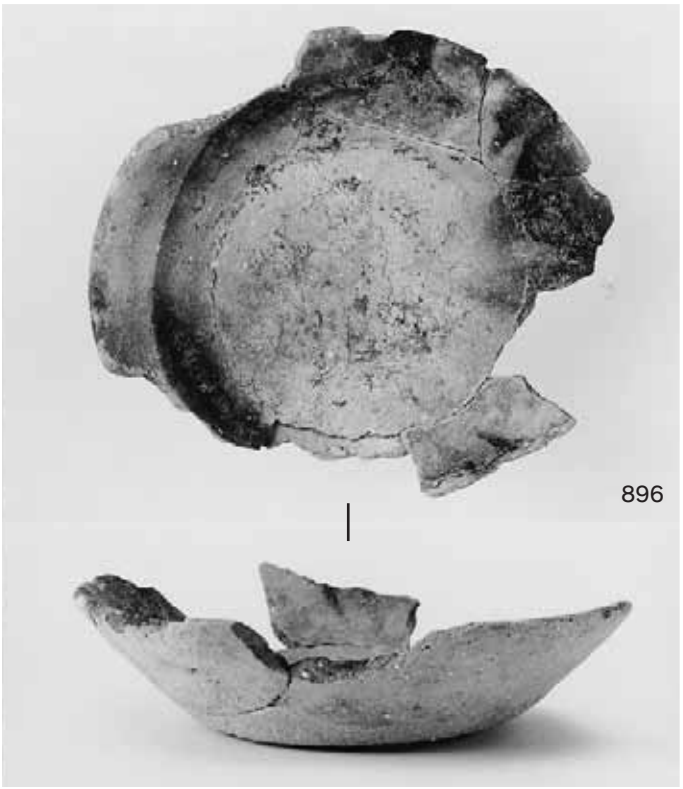
谷部C区出土遺物④（4層）

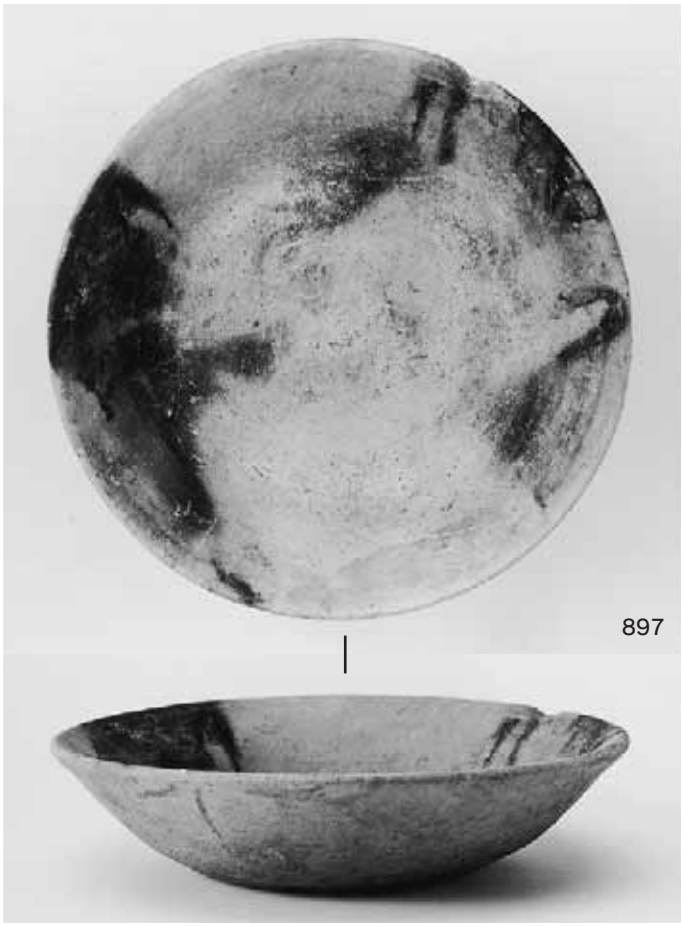
図版56

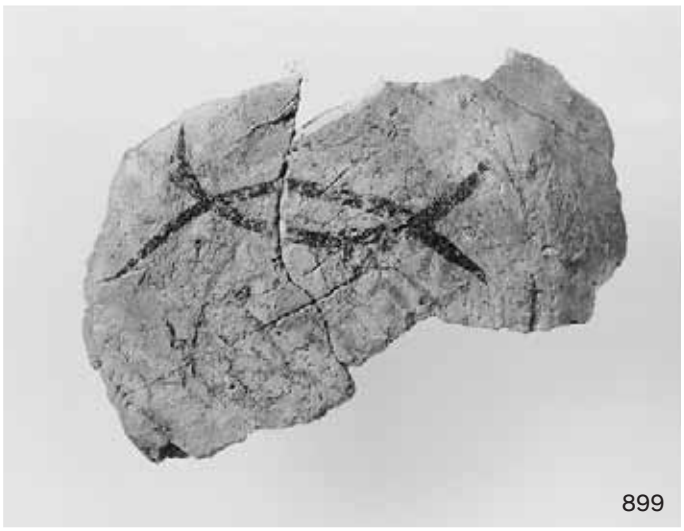
885

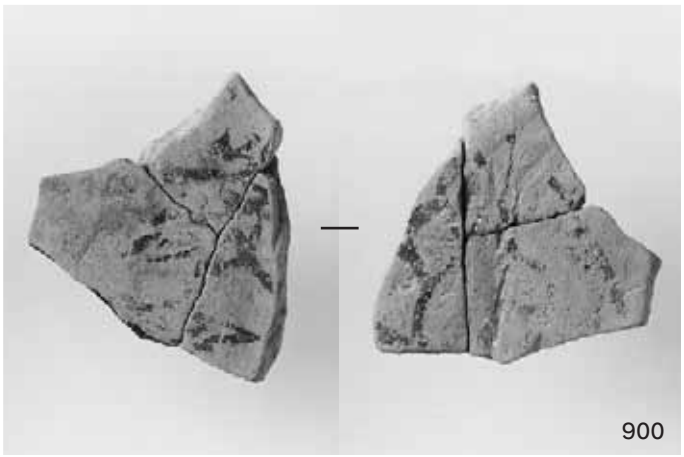
887

895


896


897


899


900

谷部C区出土遺物⑤（4層）

903

907

908

909

914

916

918

919

谷部C区出土遺物⑥（4層）

図版58

920内面

920

920外面

922

923

925

926

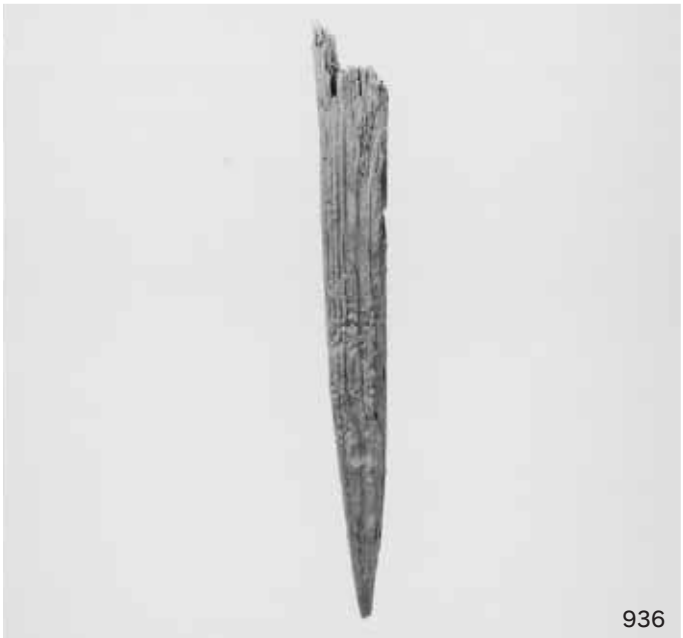
谷部C区出土遺物⑦（4層）

927

929

930

932


936

944

942内面

942

942外面

谷部C区出土遺物⑧（4層）

947

950

951

953

954

959内面

959

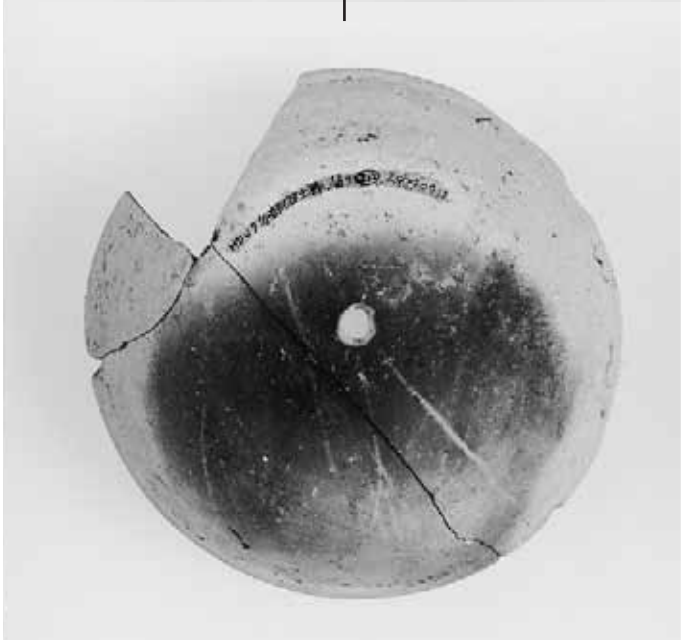
959外面

960

谷部C区出土遺物⑨（4層）

961

962



963

979

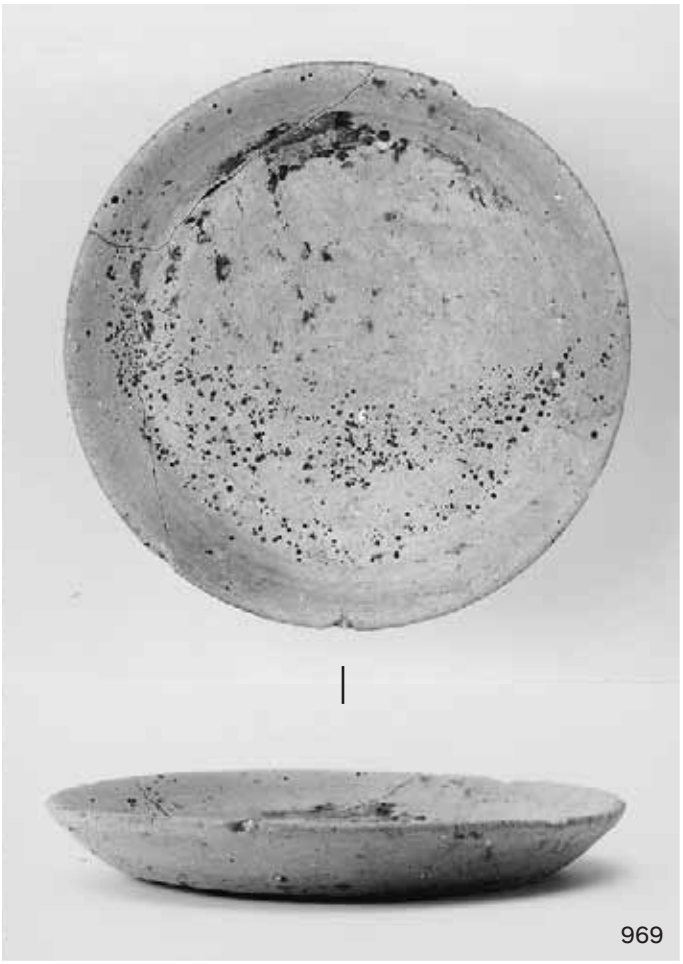
964

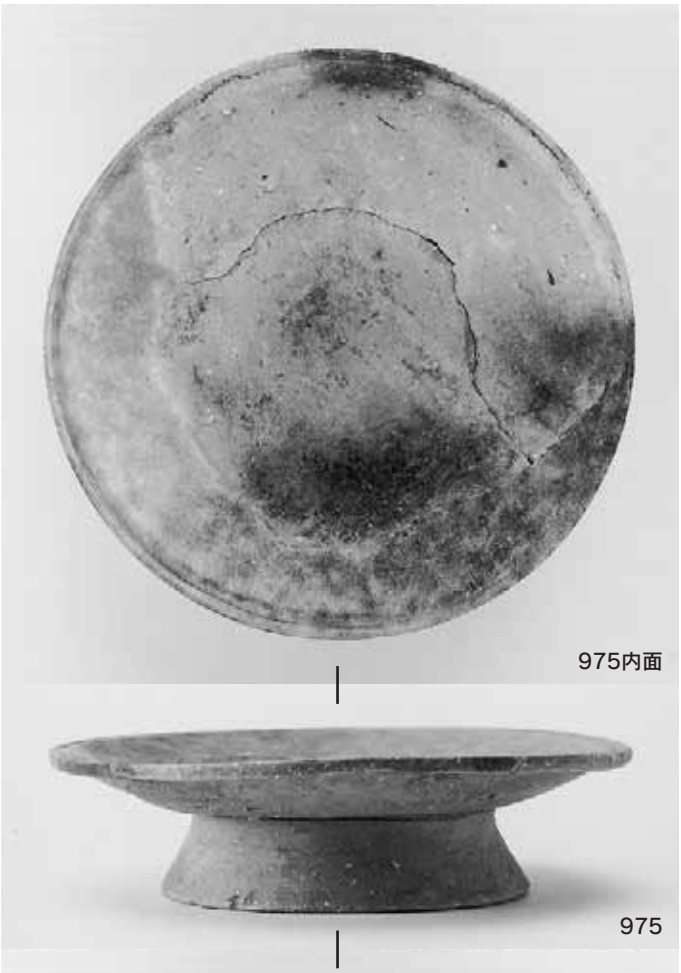
965

967

968

谷部C区出土遺物⑩（4層）


969


975内面

975

973

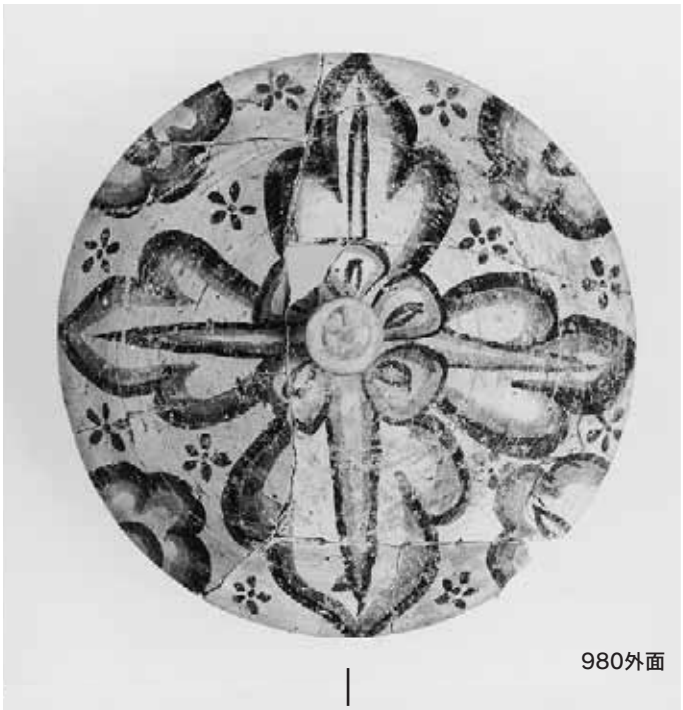
974

975外面

976

977

谷部C区出土遺物⑪（4層）



980外面

980

980内面

978

985

986

987

989

991

994

谷部C区出土遺物⑫（4層・5層）

図版64

1003

1004

1009

1005

1019

1005内面

1019墨書

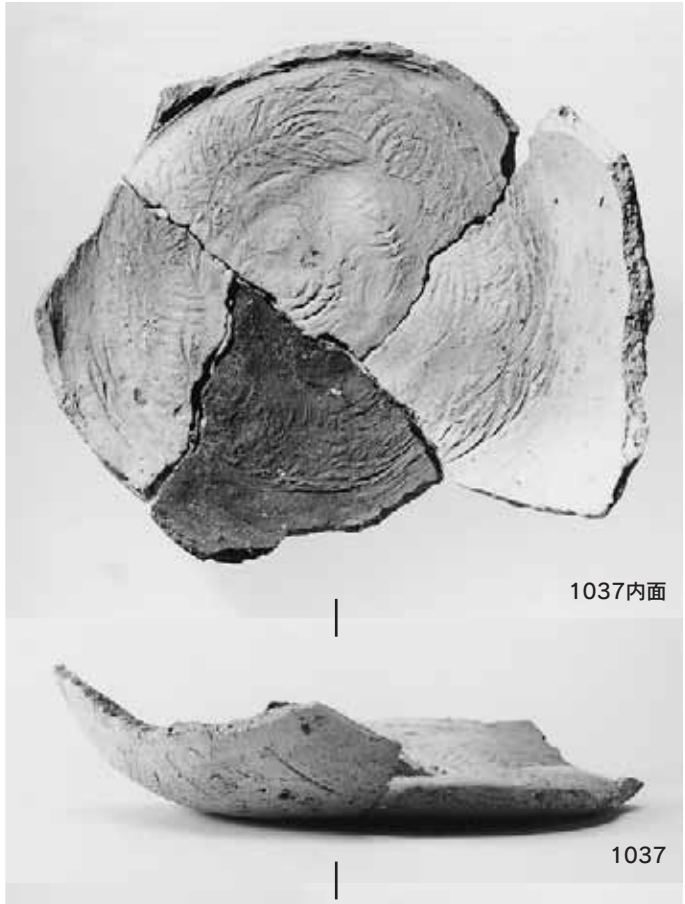
1022

谷部C区出土遺物⑬（5層）

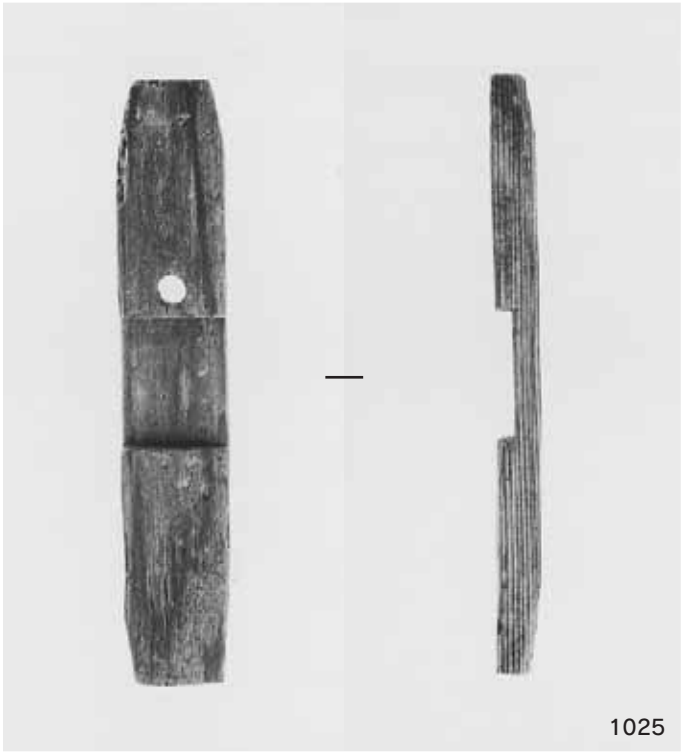
1023

1031

1024


1037内面

1037


1025

1037外面

1029

谷部C区出土遺物⑭（5層・6層）

図版66

1036

1039

1041

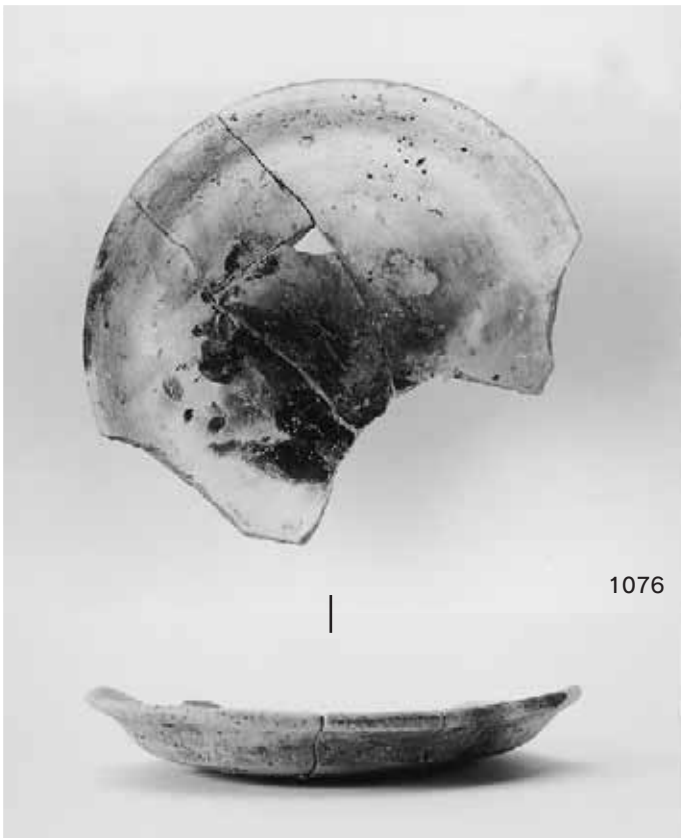
1042

1049

1049ヘラ記号

1056

1058


1076

谷部C区出土遺物⑮（6層、7・8層、10層、層位不明）、谷部D区出土遺物①（1層）

1091内面

1091

1091外面

1095

1099

1102

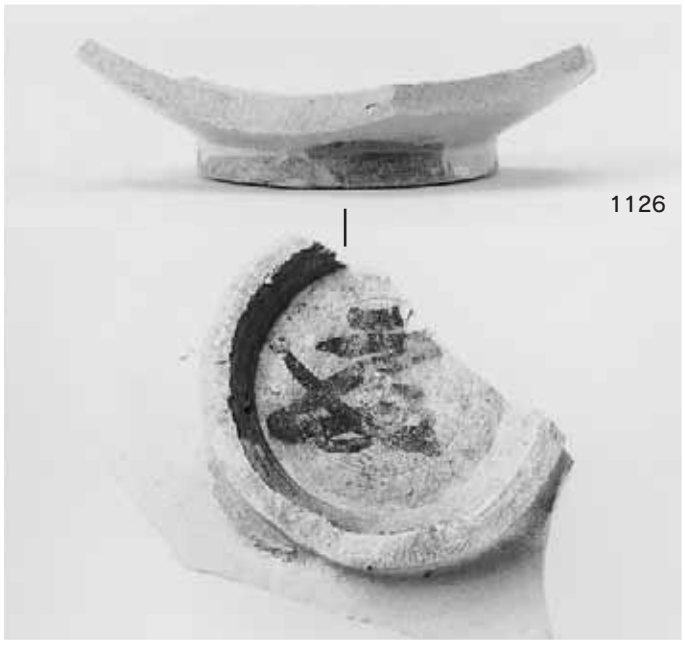
1103

1109

谷部D区出土遺物②（1層）

図版68

1123


1126

1137

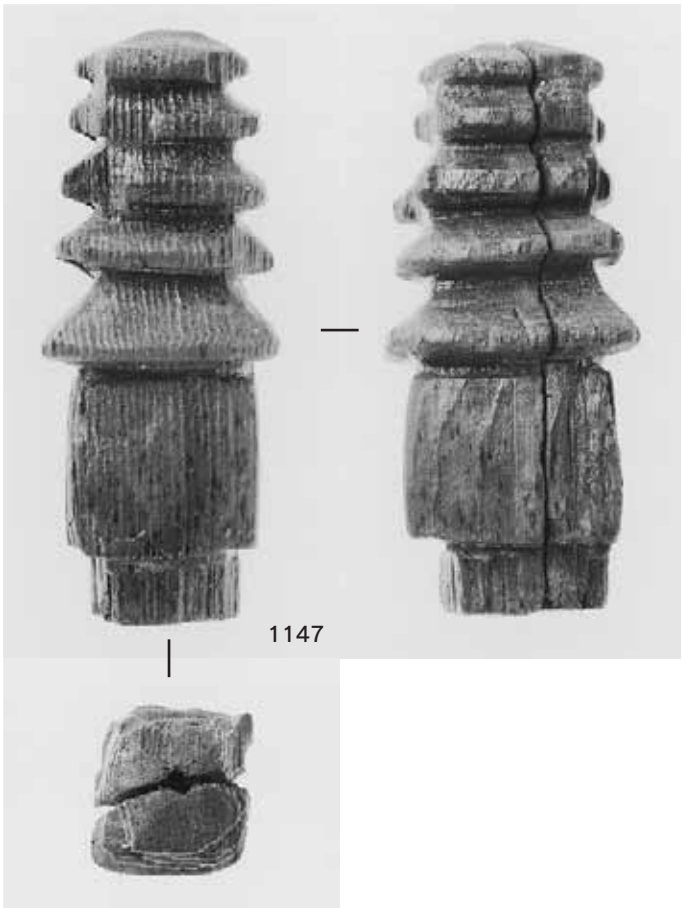
1138

1139

1141

1142

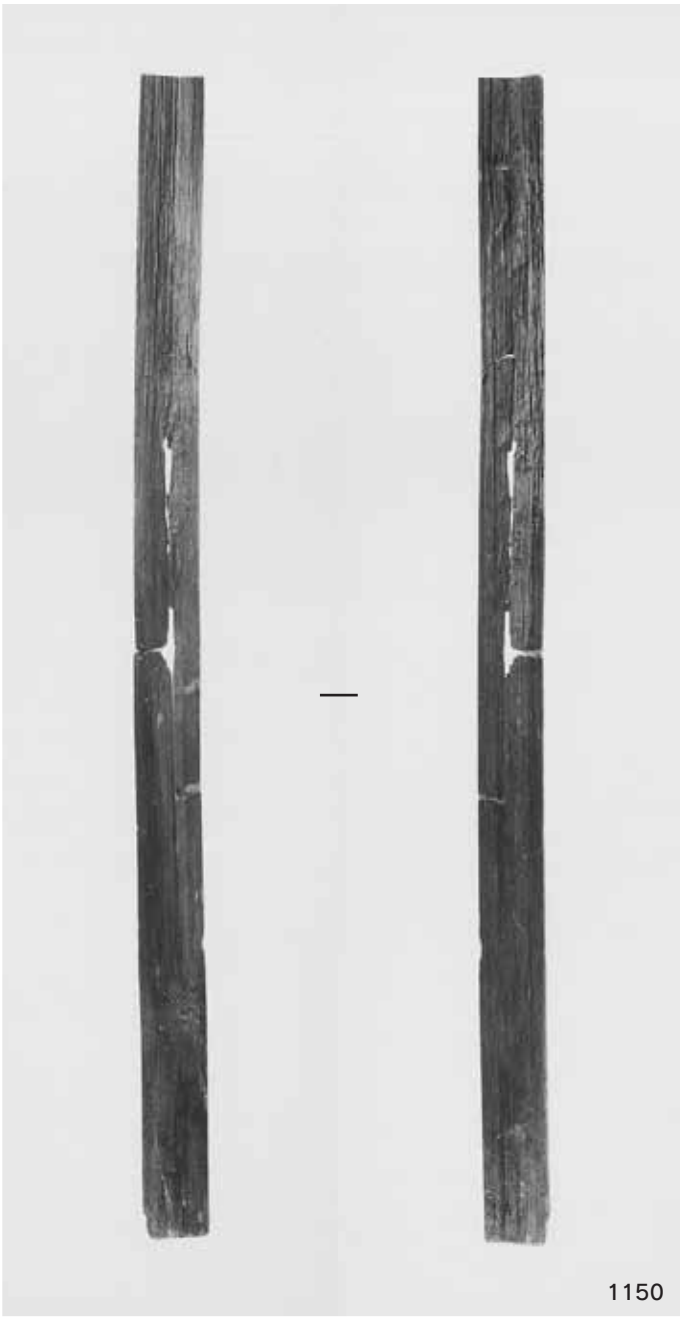
1143


1147

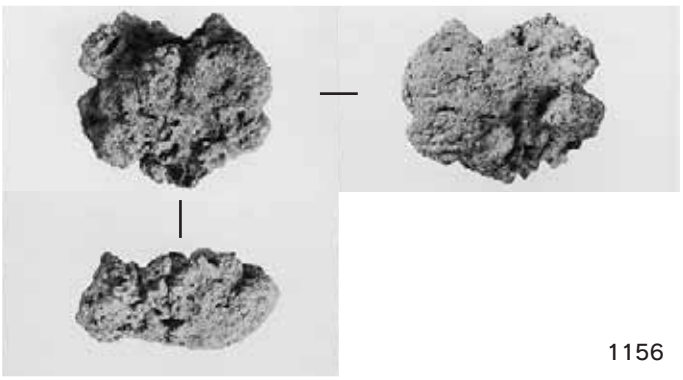
谷部D区出土遺物③（1層）

1148

1149


1150

1167


1156

1228

谷部D区出土遺物④（1層・2層）

図版70

1231内面

1231

1231外面

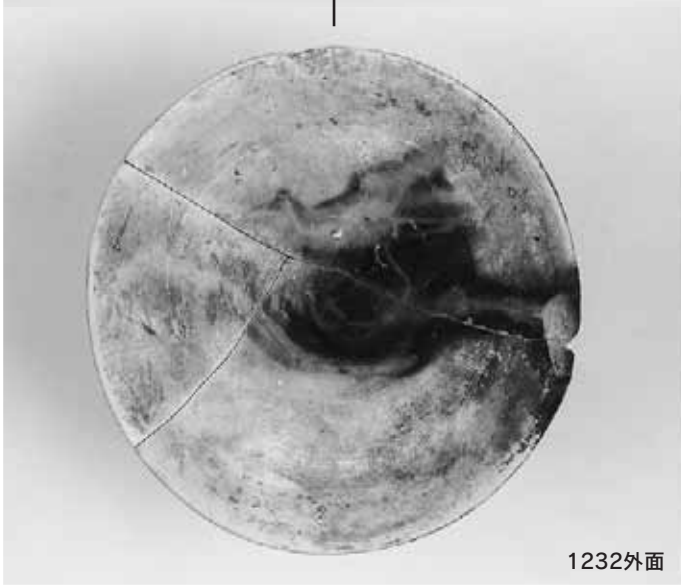
1235

1238

1239

1232内面

1232


1232外面

1239

1240

谷部D区出土遺物⑤（2層）

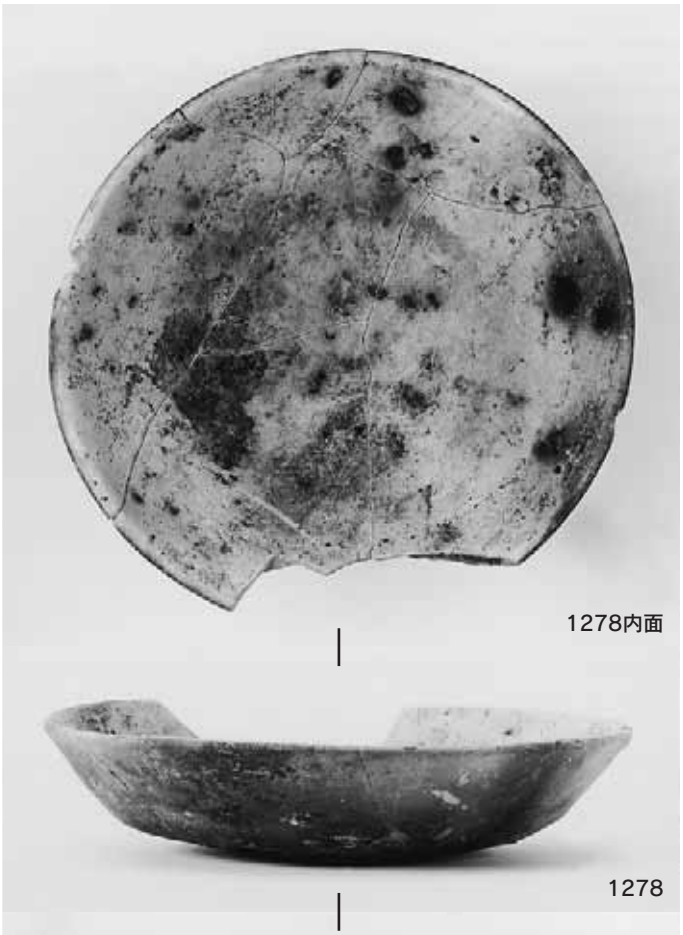
1242

1244

1248

1255

1277


1278内面

1278

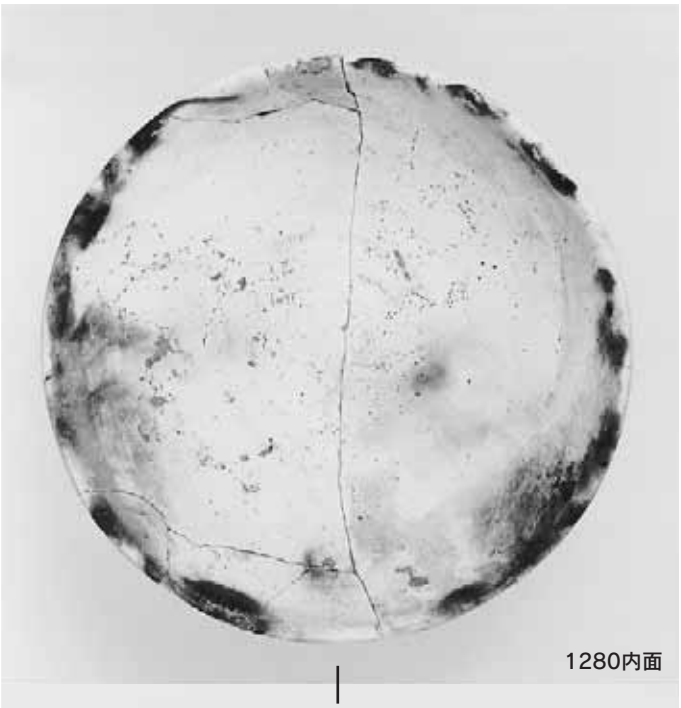
1278外面

谷部D区出土遺物⑥（2層）

1279内面

1279

1279外面



1280内面

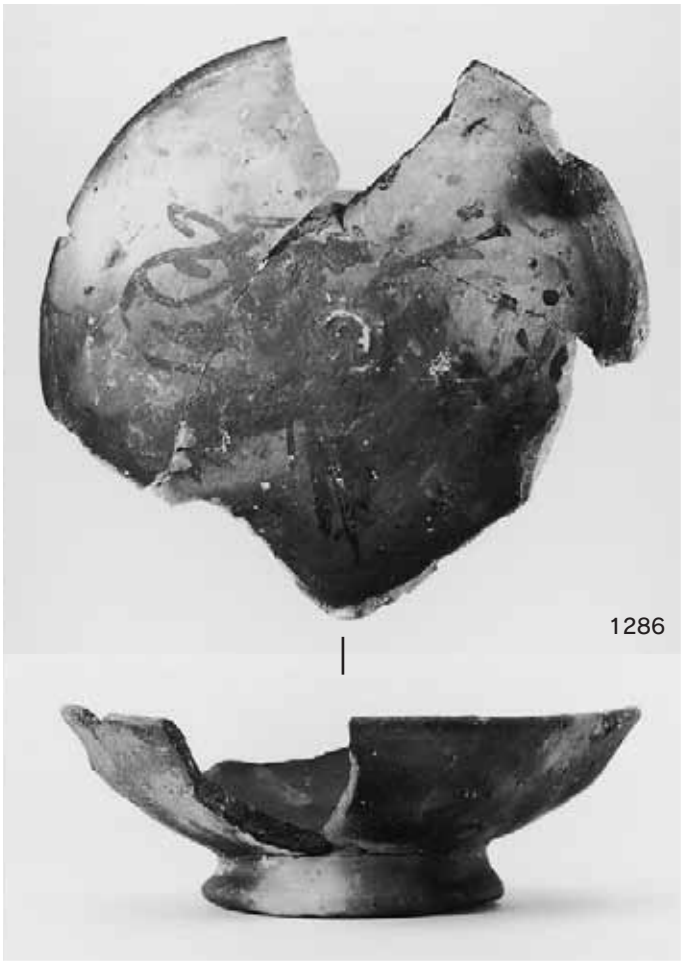
1280

1280外面

1281

1283

谷部D区出土遺物⑦（2層）


1286

1285

1291

1292

1289

1293

1294

1297

谷部D区出土遺物⑧（2層）

図版74

1299

1300

1303

1304

1329

1331

1308

1333内面

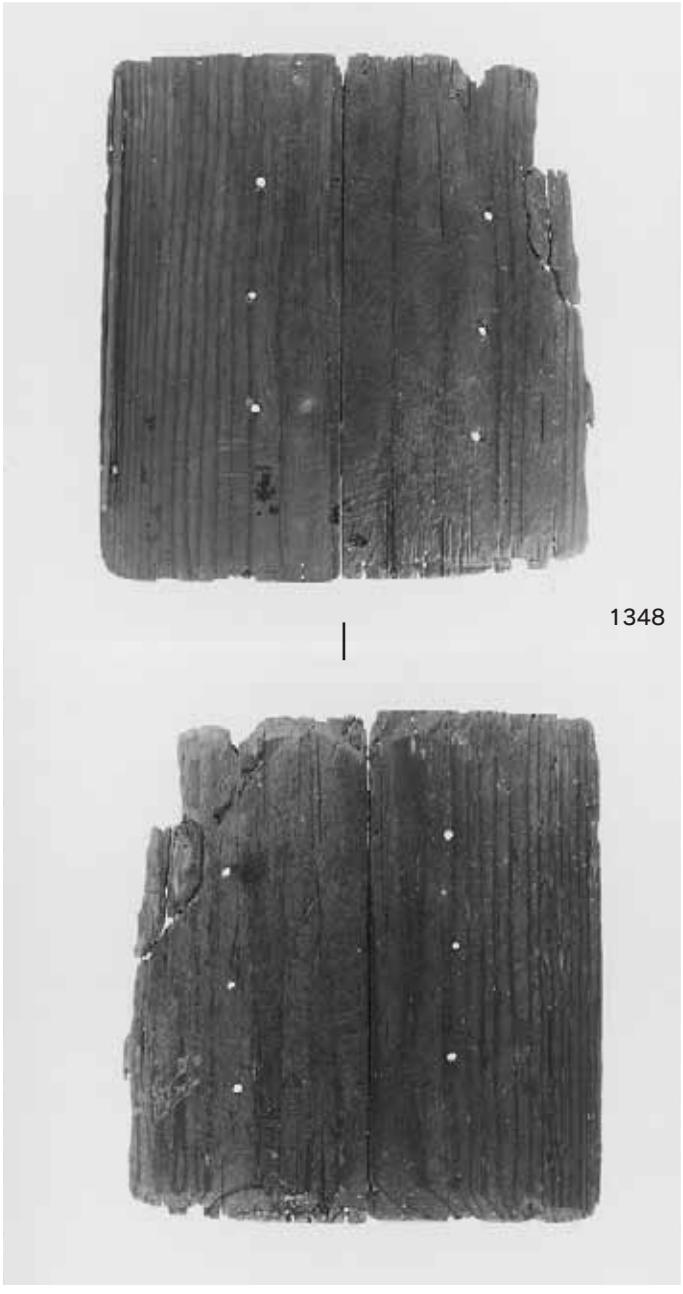
1333

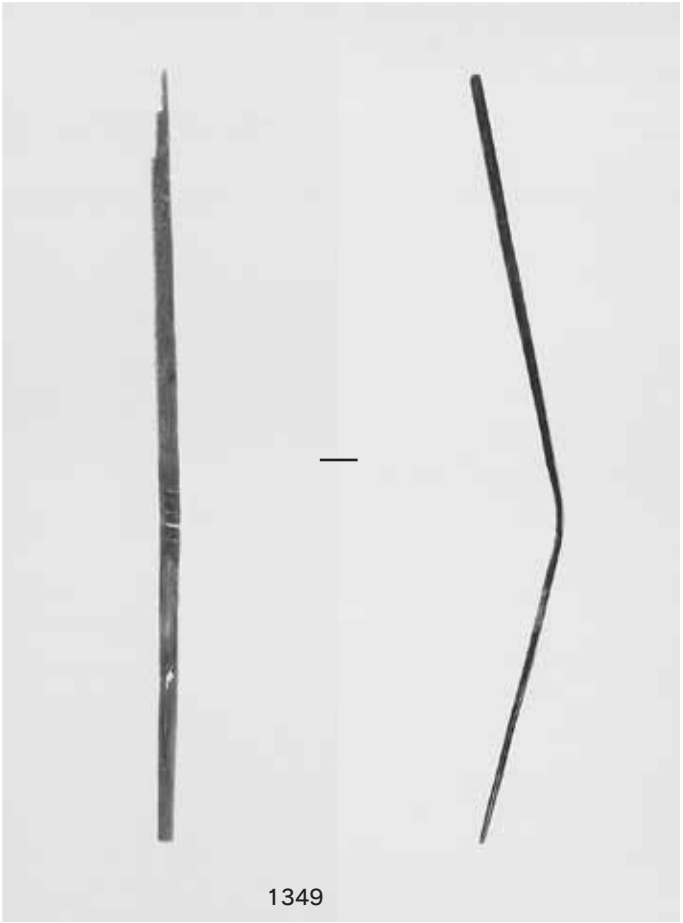
1333外面

谷部D区出土遺物⑨（2層）

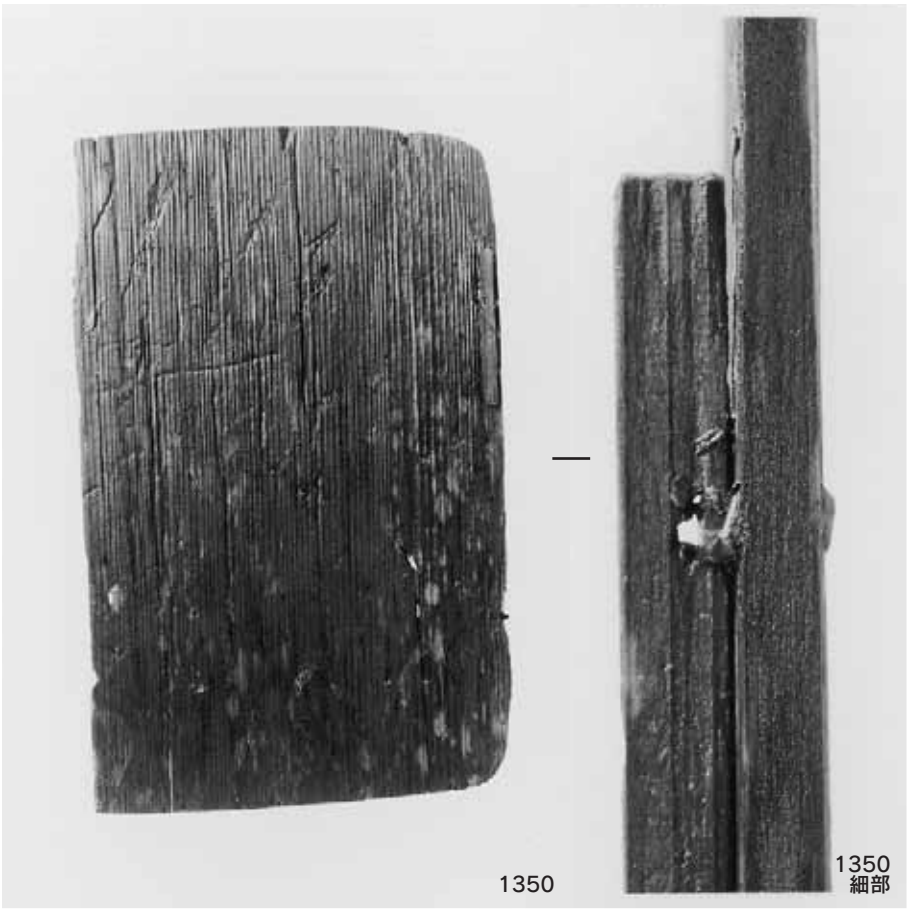
1338

1341

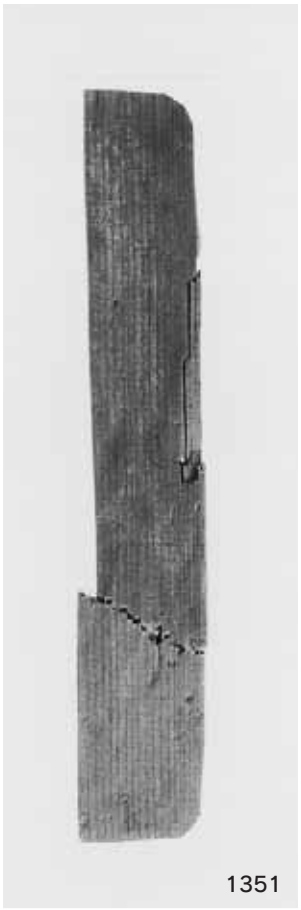

1348


1349

谷部D区出土遺物⑩（2層）

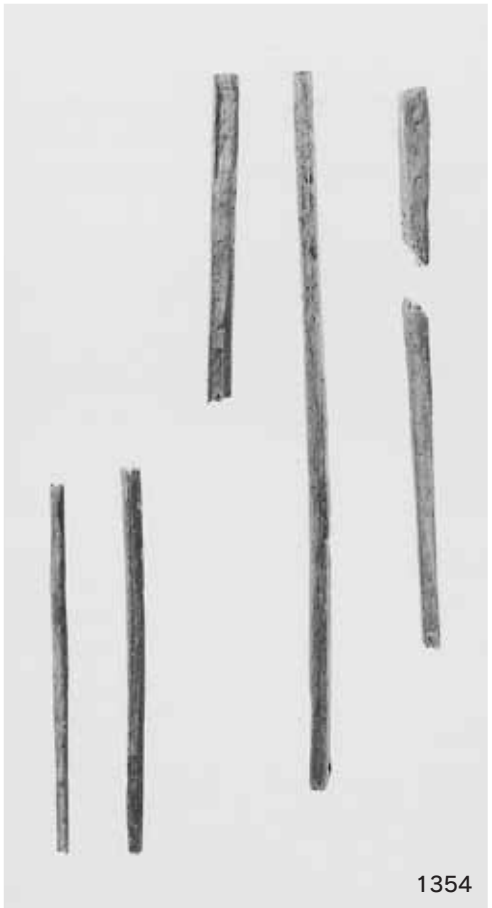

1350

1350
細部


1351

1352

1353

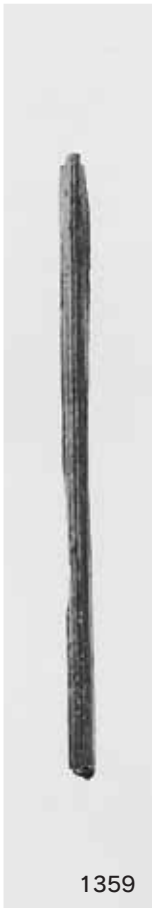

1354

1355

1356

1357

1358


1359

谷部D区出土遺物⑪（2層）

1360

1361

1362

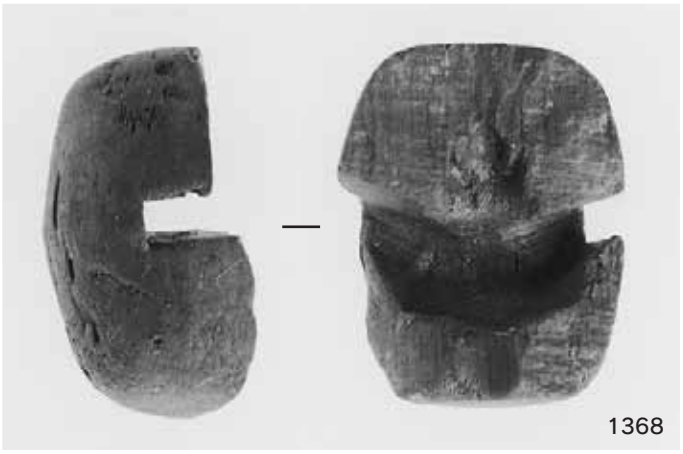
1363

1364

1365

1366

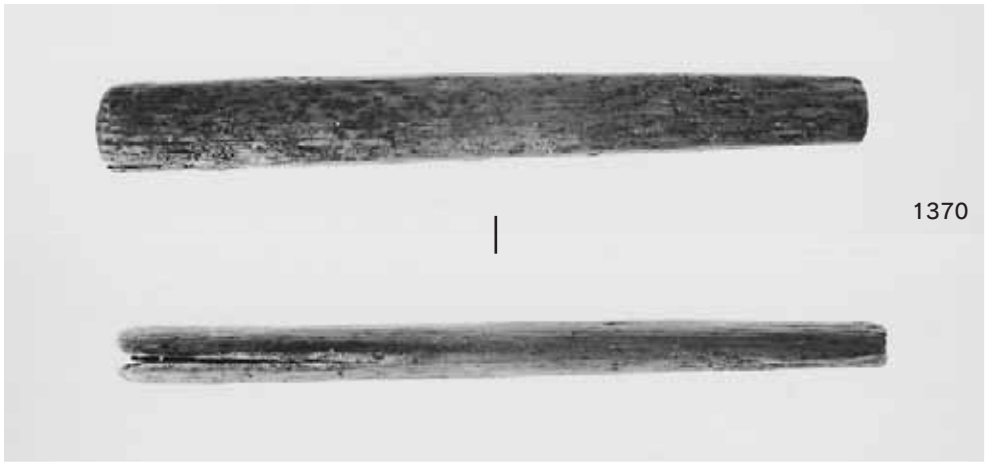
1367


1368

1369

谷部D区出土遺物⑫（2層）

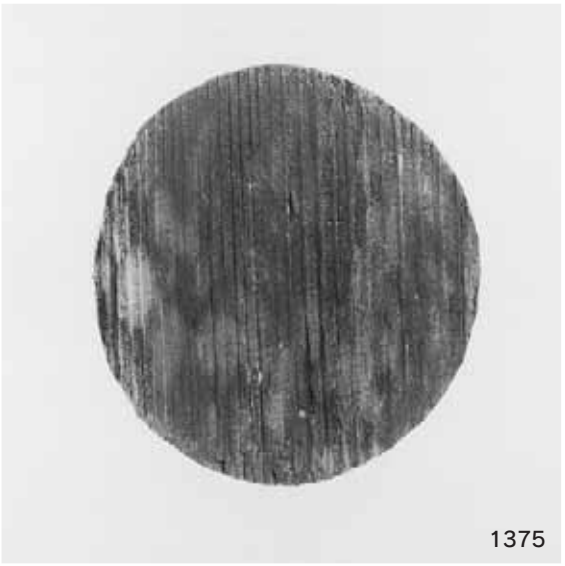
図版78

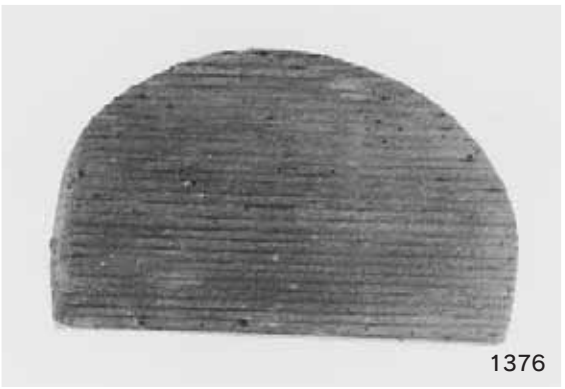

1370

1371

1373

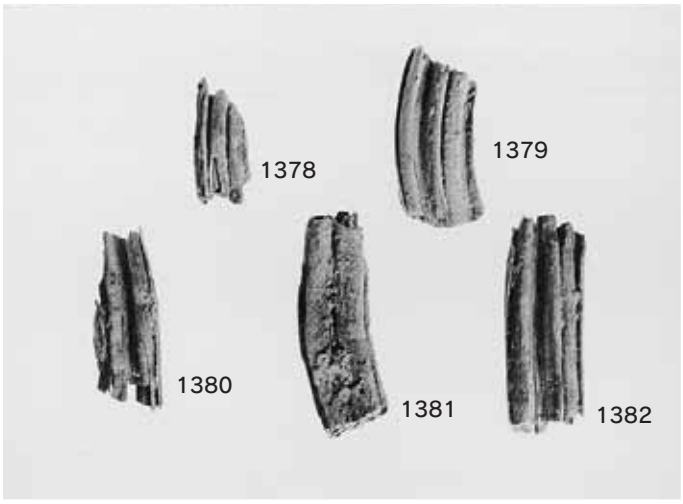
1374

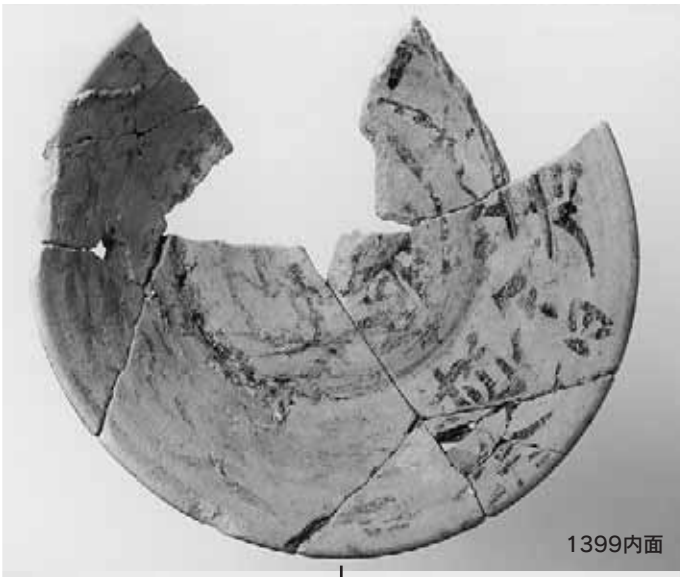

1375


1376

1377

谷部D区出土遺物⑬（2層）





谷部D区出土遺物⑭（2層・4層）

1405

1417

1412

1419

1413

1415

1422

1416

1418

1425

谷部D区出土遺物⑮（4層・6層・7層）

1426

1427

1429

1430

1432

1433

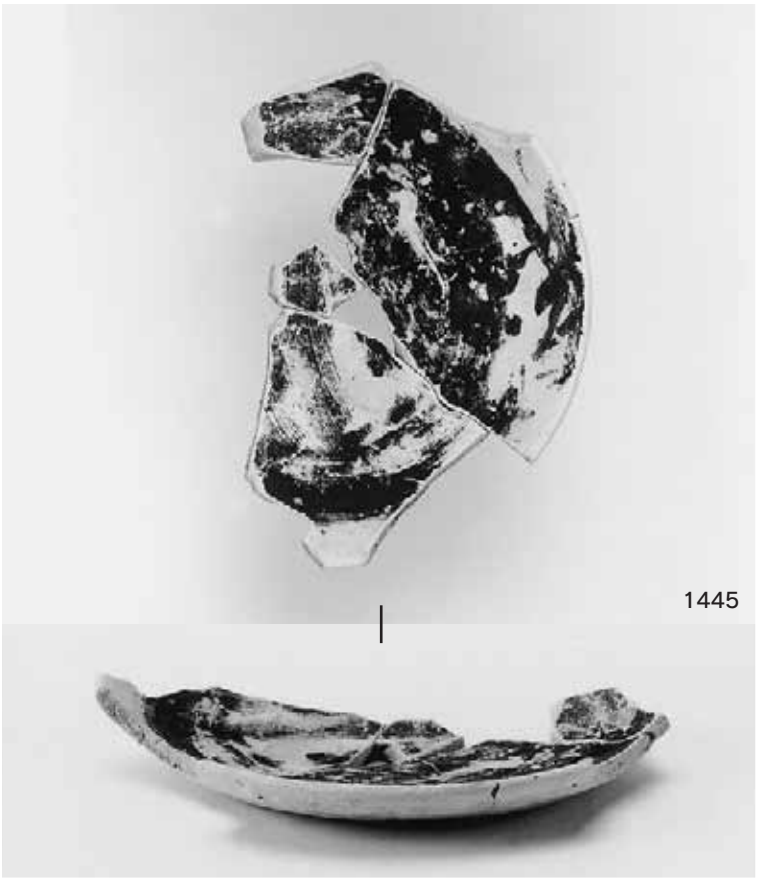
1435

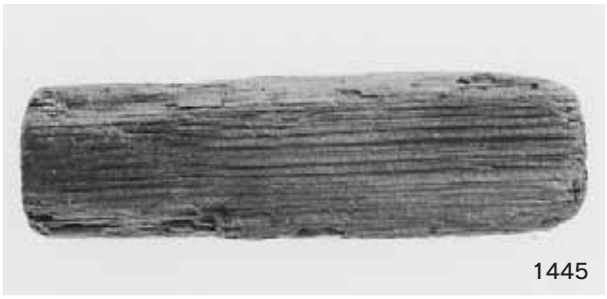
1437

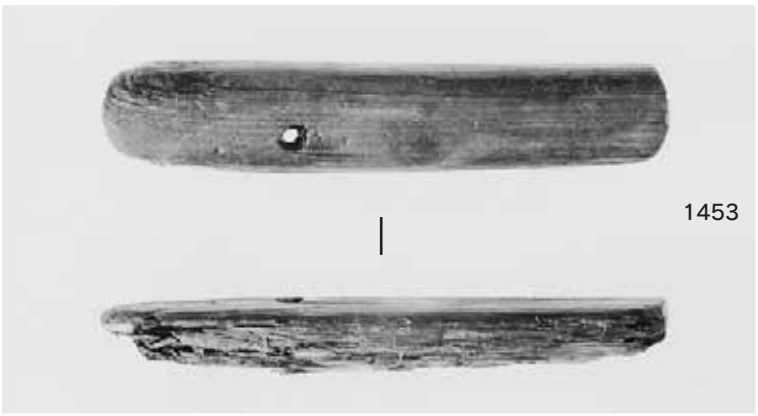
1438

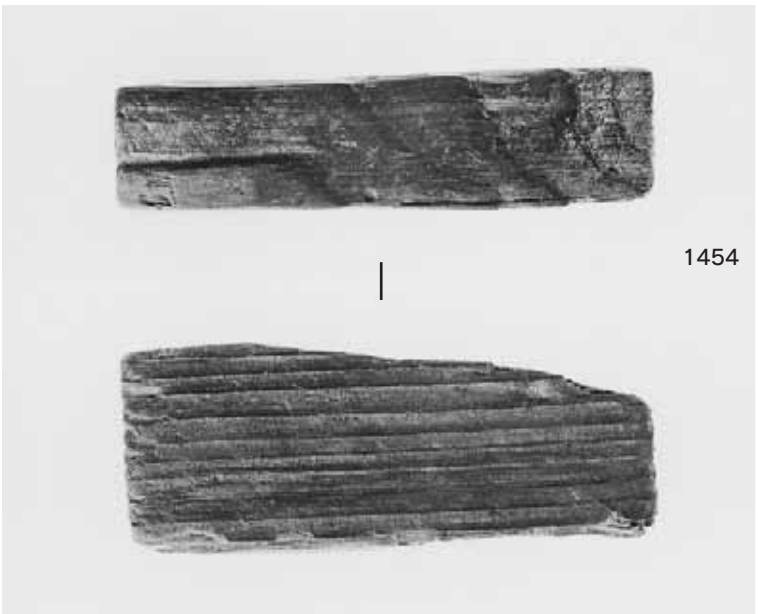
谷部D区出土遺物⑯（7・8層）

図版82









谷部D区SK01出土遺物①

1472

1506

1490

1512

1491

1500

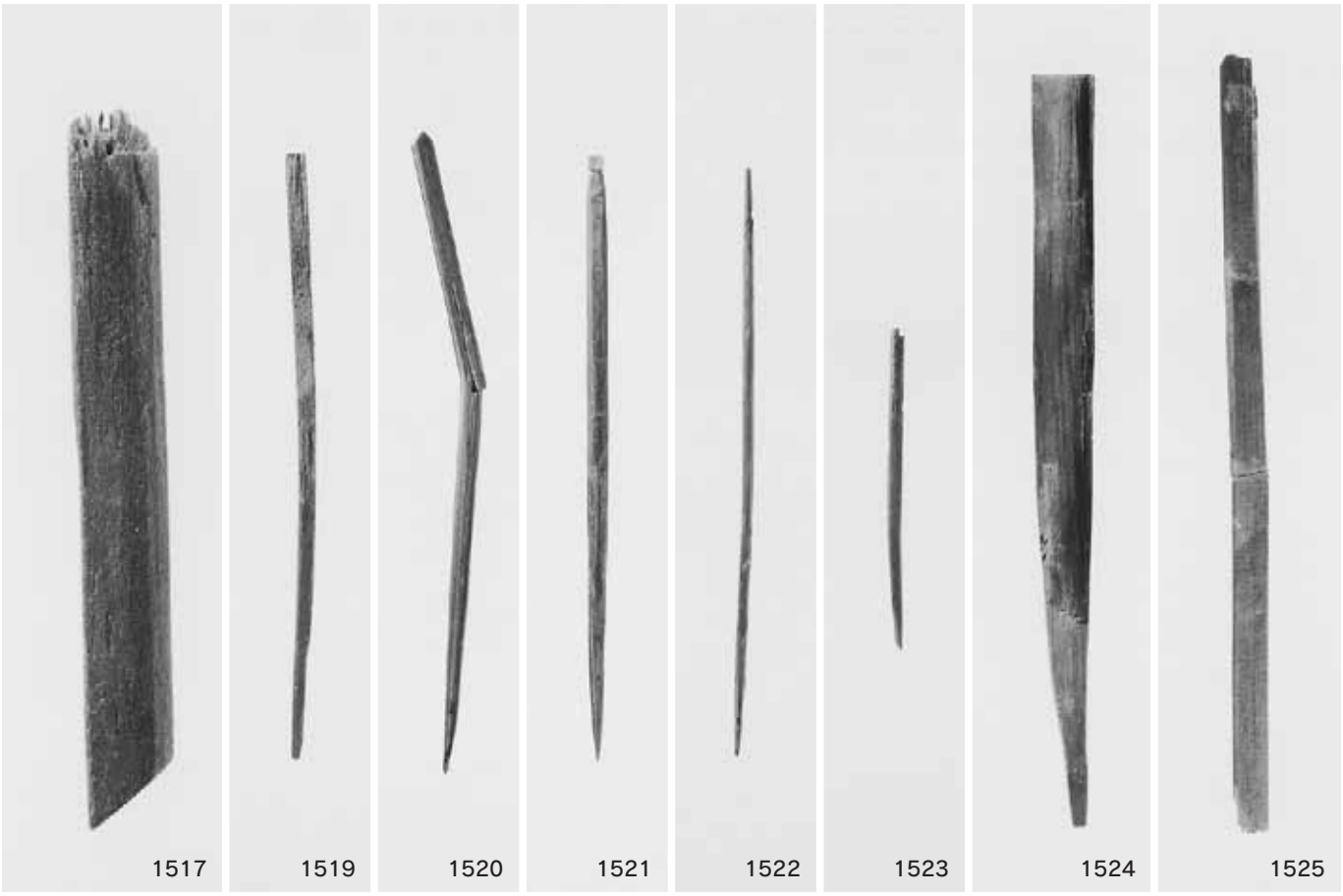
1513

1505

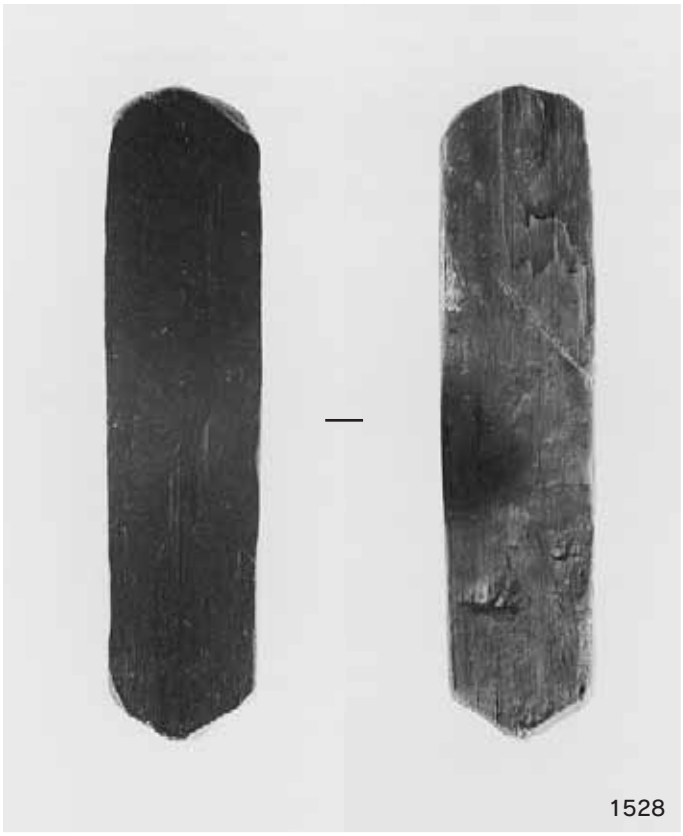
1516

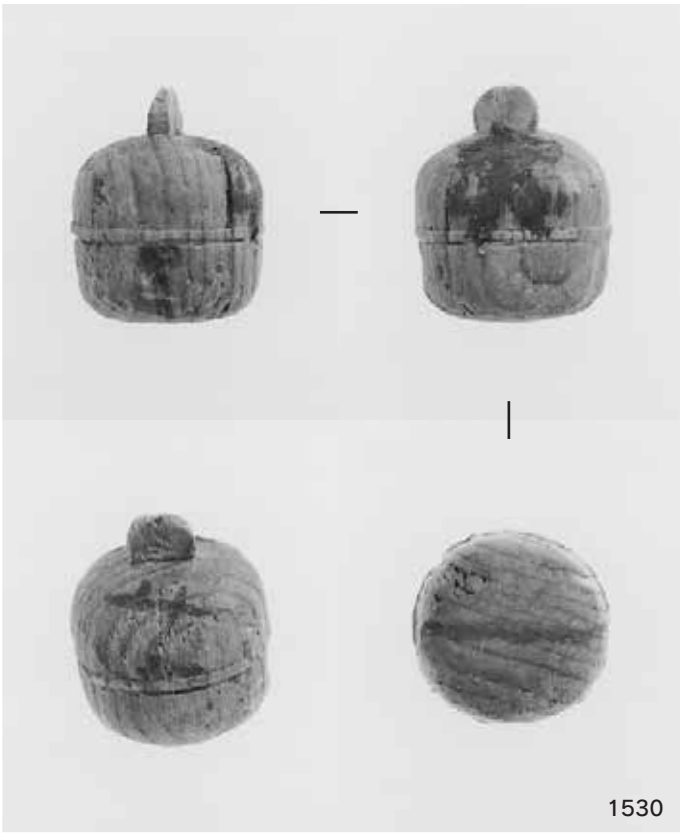
谷部D区SK01出土遺物②

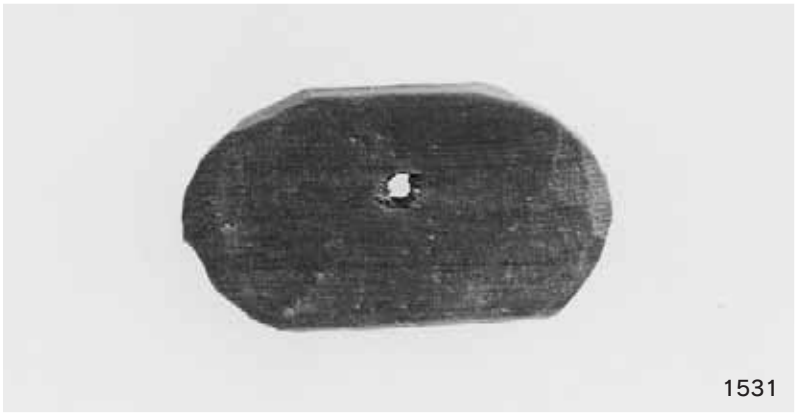
図版84



谷部D区SK01出土遺物③


1528


1530


1531

1532

1533

谷部D区SK01出土遺物④

図版86

1534

1535

1536

1537

1544

1551

1556

1561

1570

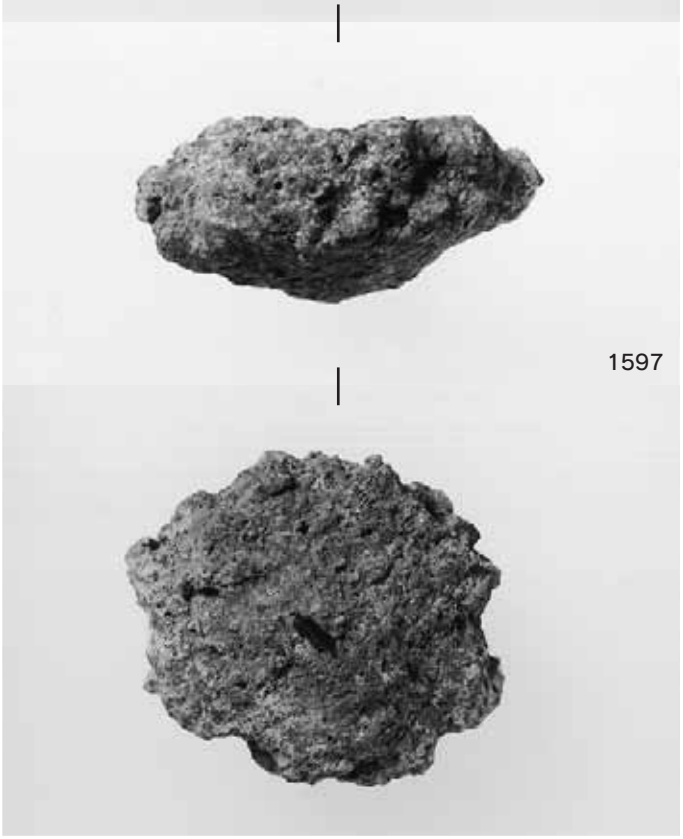
1577

谷部D区SK01出土遺物⑤、谷部E区出土遺物①（1層）

1585

1586

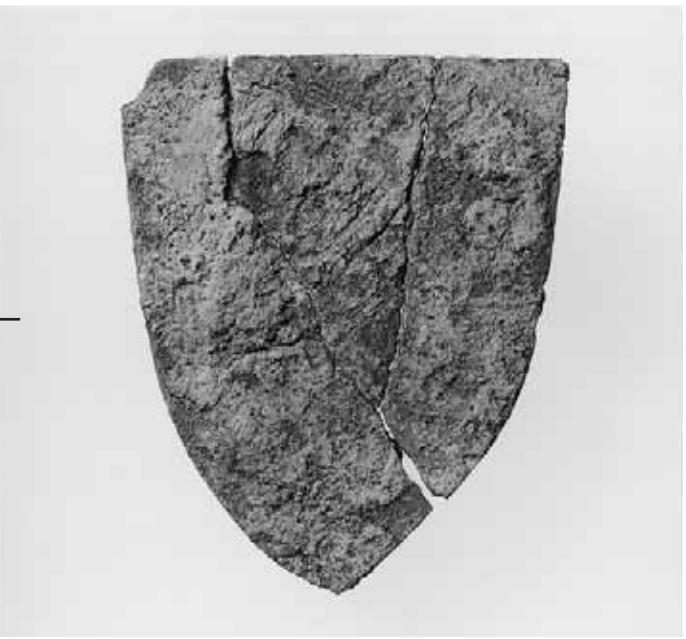
1587


1597

1588

1589

1590



谷部E区出土遺物②（1層）

1615

1625

1624

1627

1630

1631

1637

1628内面

1628

1628外面

1640

谷部E区出土遺物③（2層・3層）

1647

1656

1650

1656

1652

1660

1654

1655

1661

谷部E区出土遺物④（3層・4層）

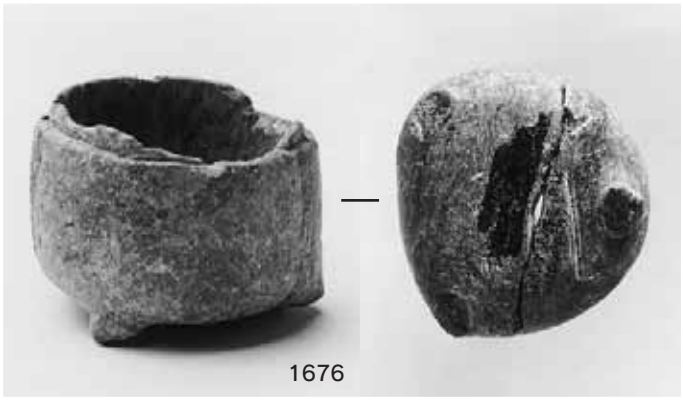
図版90

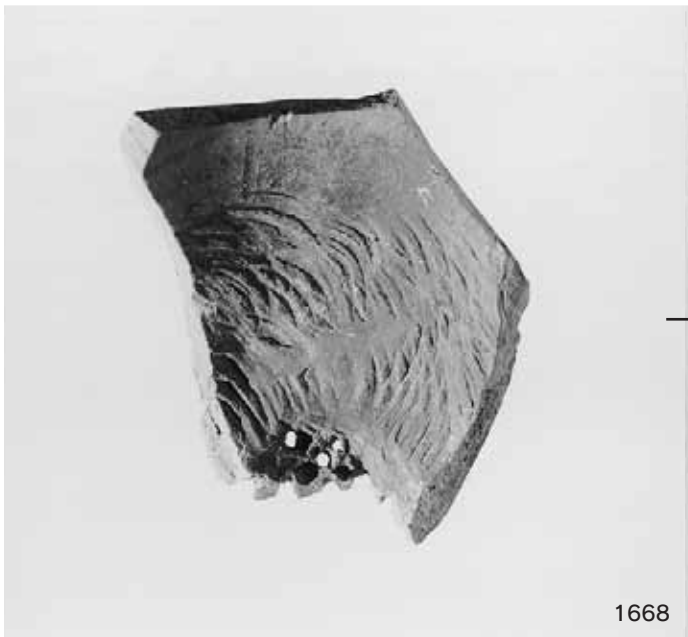
1664

1669

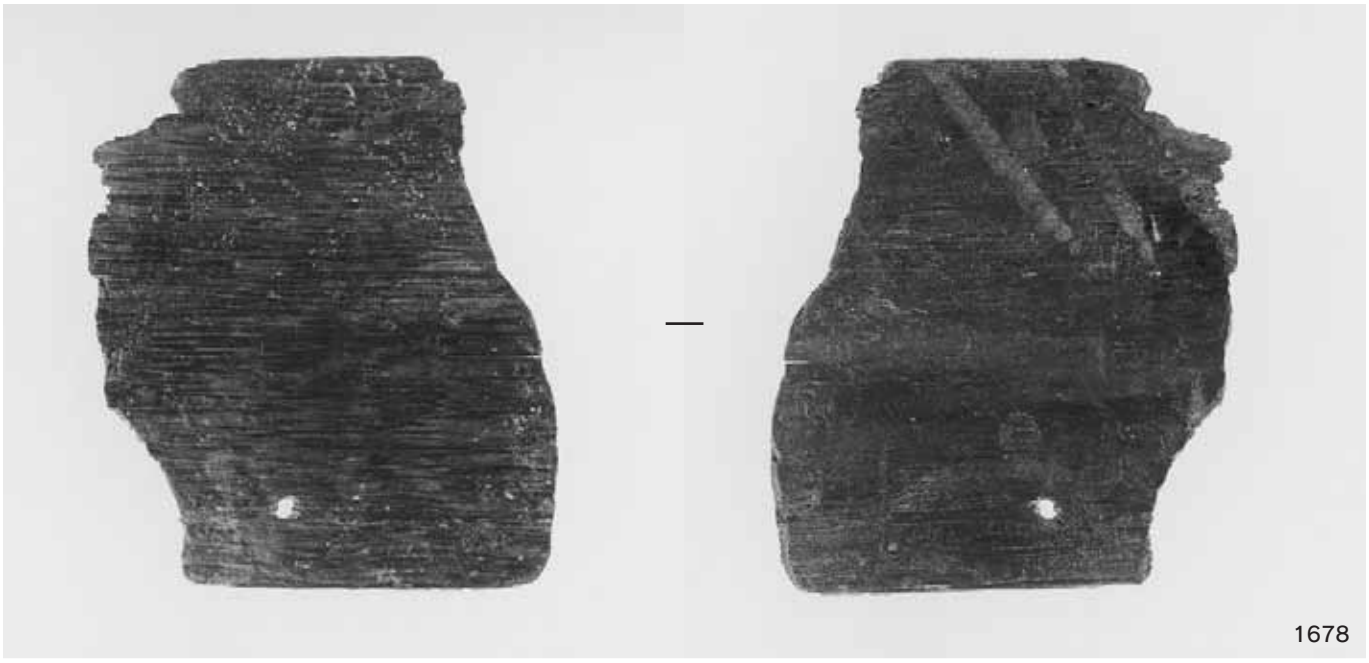
1675

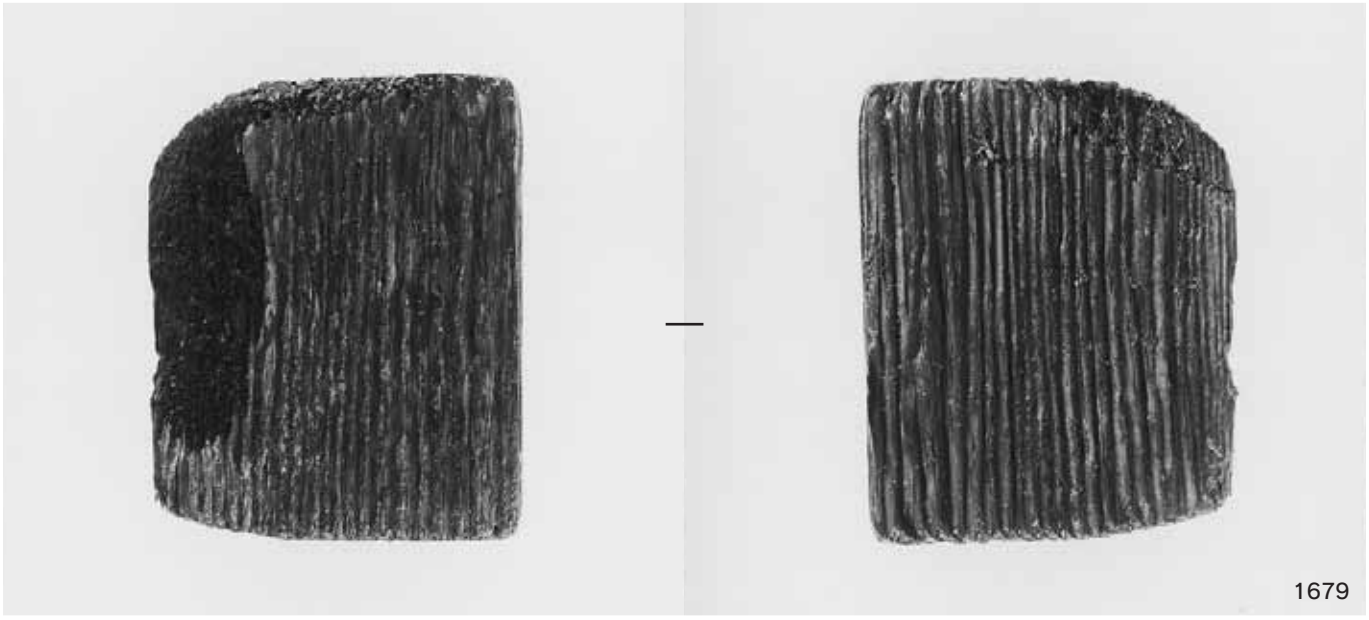
1666


1676


1668

谷部E区出土遺物⑤（4層）


1678


1679

1682

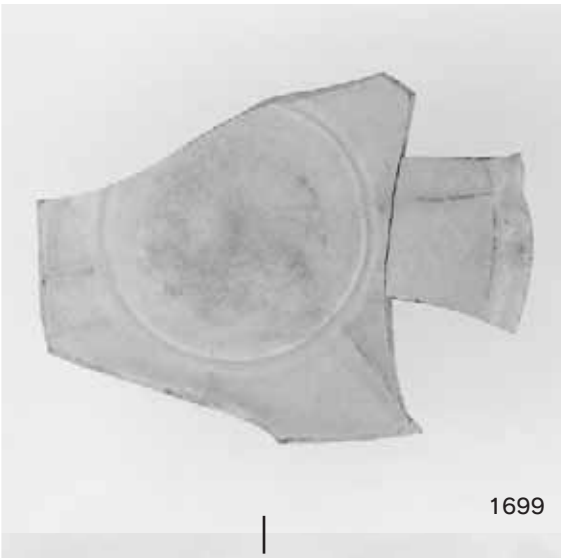
1691

1688

谷部E区出土遺物⑥（4層・5層）

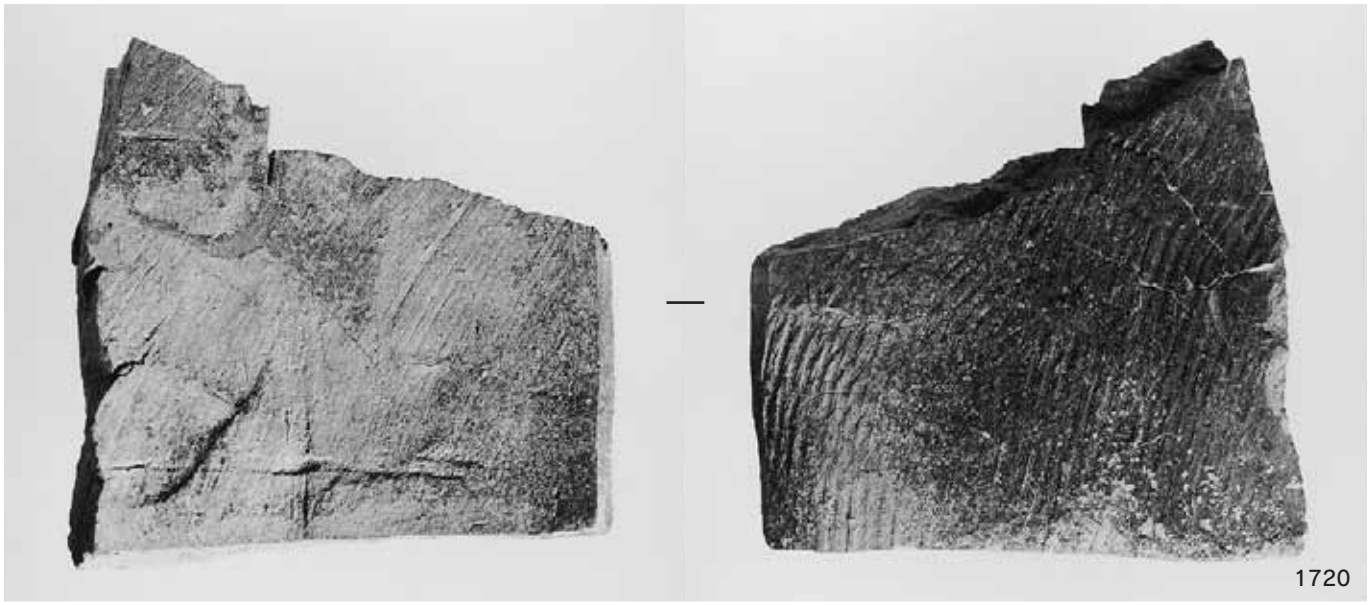
図版92

1696


1699

1746

1728


1720

1747

1753

谷部E区出土遺物⑦（5層、層位不明）、谷部F区出土遺物①（1 ～ 3層）

1764

1774

1778

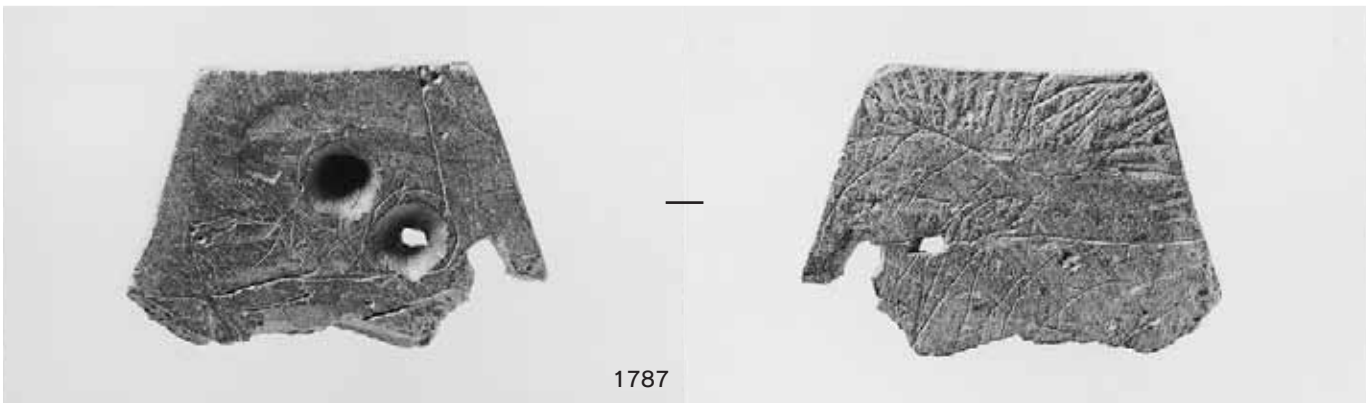
1802

1807

1809

1810

1811


1787

谷部F区出土遺物②（3層・5層）

図版94

1815

1831

1821

1839

1845

1825

1846

谷部F区出土遺物③（5層、層位不明）、谷部層位不明出土遺物

44

155

159

161

163

189

352

354

356

358

402

403

ヘラ記号①

図版96

406

407

408

409

415

418

422

422

423

426

430

436

ヘラ記号②

441

443

449

456

462

515

516

556

609

580

610

612

ヘラ記号③

図版98

615

616

617

619

621

623

625

626

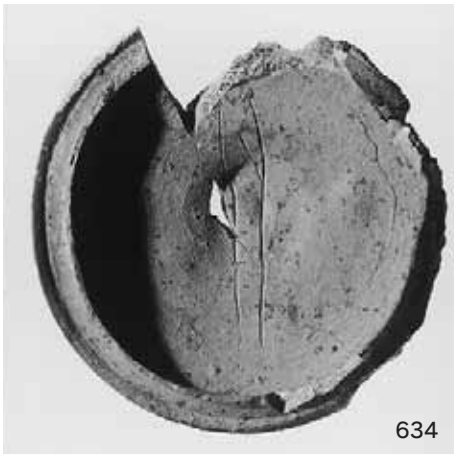
630

631

636

652

ヘラ記号④


634

648

664

670

672

431

676

687

688

704

789

790

ヘラ記号⑤

793

800

811

827

985

986

987

989

989

994

1041

1042

ヘラ記号⑥

1412

1413

1415

1416

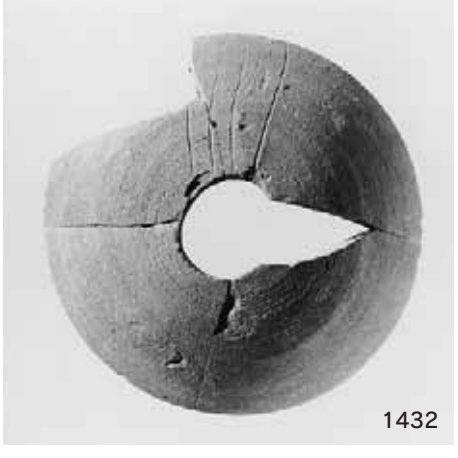
1418

1425

1426

1429

1430


1432

1654

1655

ヘラ記号⑦

図版102

1661

1682

1688

1756

1802

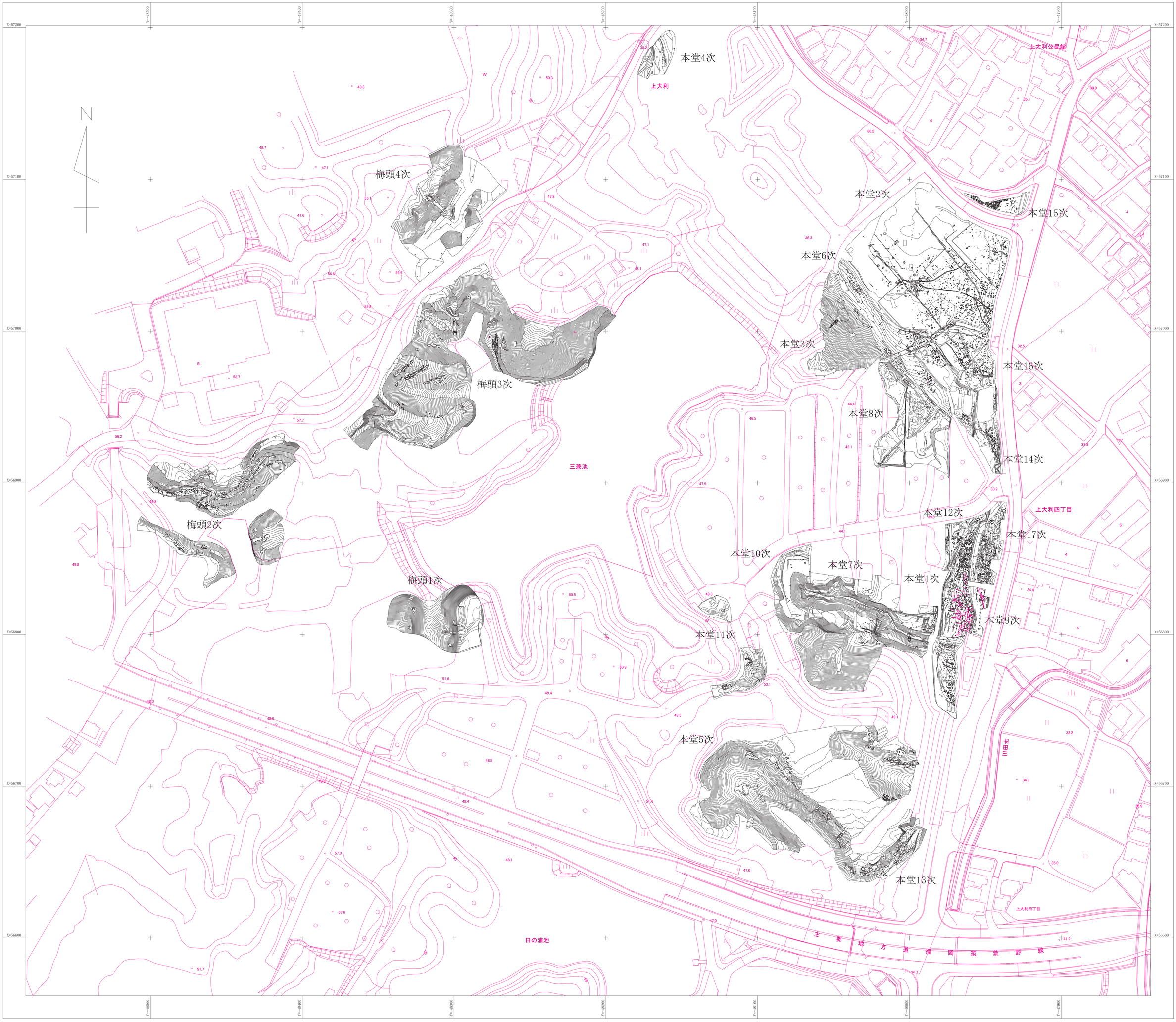
1807

1809

1810

ヘラ記号⑧

Y=-48050
Y=-48000
X=56850
X=56800
X=56750
谷部
A区
B区
C区
D区
E区
F区
灰原1
灰原2
柱穴列
洞窟壁?
SX01
SX02
SX06
SX09
SX10
SX11
SX12
SX13
SX14
SX15
SX17
SX18
SD01
SD02
SD03
SD04
SD06
SD07
SD08
SD09
SB01
SB02
SC01
畝状遺構
付図1　本堂遺跡7次調査地遺構配置図(1／200)



付図2　梅頭・本堂遺跡群全体図（1／1000）

報 告 書 抄 録

ふりがな	うしくびほんどういせきぐん　なな
書　　名	牛頸本堂遺跡群Ⅶ
副 書 名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅷ
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第81集
編 著 者 名	石木　秀啓・大里　弥生・中島　圭・遠藤　茜
編 集 機 関	大野城市教育委員会
所 在 地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話092(501)2211
発行年月日	2008年9月30日

ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第７次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利651 －１他			33° 30′ 50″	130° 28′ 40″	2004.2.17 ～11.16	5,000	区画整理

所有遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第７次調査	生産遺跡・集落	古墳～鎌倉	掘立柱建物・竪穴住居跡・溝・土坑・井戸・灰原・谷部堆積層	須恵器・土師器・黒色土器・墨書土器・陶磁器・石器・鉄器・鉄滓・木器・木簡	

要　　約

調査地では、東西方向にのびる谷部と斜面上に掘立柱建物２棟と竪穴住居跡１軒などが確認された。集落遺構は丘陵緩斜面に位置しており、掘立柱建物は主軸方向を揃えている。また、建物は隣接する１次調査地ＳＢ01とも軒を連ねており、３棟が並ぶものと考えられる。時期は８世紀中頃～後半代に位置づけられる。谷部は、窯体は失われているが斜面上に灰原が残され、谷底にまで灰層がのびている。灰層の重なりから、複数の窯跡が存在した可能性もあるが明らかにできない。窯跡の時期は６世紀末から７世紀前半代と考えられ、平瓦・丸瓦片を含むことから瓦陶兼業窯であったことが判明した。遺物には、土馬・土錘・土管状製品など牛頸窯跡群では例の少ない遺物が多量に出土した。また、大甕の頸基部に「大神部見乃官」とヘラ書きがされており、７世紀代の須恵器工人の氏族名が明らかになり、部民制の下に生産をおこなったものと考えられる。灰層は谷部を埋めるようにのび、谷部は流滞水の激しい状態にあったようであるが、この層中から８世紀後半代の遺物が出土する。遺物には、吉祥句や「山門」と書かれた墨書土器や蓋の内外面に墨で濃淡をつけた宝相華文を描いた墨画土器など仏教的な意味合いが強い遺物が多数出土している。その後９世紀になると、遺構・遺物がまったく見られなくなり、10世紀以降の遺物が出土する。遺物の量が最も多いのは11世紀後半～12世紀代のものであり、土師器小皿・丸底杯の大量投棄が見られた。土師器には灯明杯と考えられるものや、内面に「大日如来」、外面に「醫王」と墨書された丸底杯や、人面や数字を書いた呪符木簡・相輪を模した木製品など仏教的な遺物のほかに、青白磁などの高級食器も出土する。この時期の谷の上部では、本堂遺跡10次調査で確認された掘立柱建物があり、ここを拝所とする施設が存在したと考えられ、奈良時代以降仏教施設としての性格が続くことが確認できる。

大野城市文化財調査報告書　第81集

牛頸本堂遺跡群Ⅶ

平成20年９月30日

発 行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町２－２－１

印 刷　大道印刷株式会社
春日市日の出町6丁目23番地